

日本古典作者事典 い 1100 ; [目次にもどる](#)

- 意(い・奥村) → 意語(いご・奥村、伝記作者) B 1 1 0 0
- 夷(い・松下) → 筑陰(ちくいん・松下、儒者) C 2 8 5 1
- 韋(い・長井) → 旌峨(せいが・長井/永井なかい、詩文) H 2 4 6 8
- 緯(い・稲津/梁川) → 星巖(せいがん・梁川やながわ、詩人) 2 4 0 5
- 緯(い・村山) → 芝塙(しゅう・村山むらやま、藩士/儒者) B 2 1 2 3
- 維(い・熊谷) → 竹堂(ちくどう・熊谷くまがい、儒者/詩人) D 2 8 5 7
- 頤(い・青山/田中) → 履堂(りどう・田中たなか/青山、儒/講説) C 4 9 3 2
- 頤(い・春日) → 載陽(さいよう・春日かすが、医者/儒者) O 2 0 2 8
- 彝(い・元田) → 竹溪(ちくけい・元田もとた、藩儒/詩) C 2 8 8 7
- 彝(い・杉谷) → 彝倫(つねのり・杉谷、国学者) E 2 9 8 1
- 彝(い・芳野) → 南山(なんざん・芳野よしの、医者/詩) J 3 2 1 0
- 彝(い・南部) → 伯民(はくみん・南部なんぶ、医者) D 3 6 9 5
- 彝(い・黒川) → 亦夢(えきむ・六平斎、黒川、俳人) 1 3 5 6
- 彝(い・工藤) → 艷文(えんぶん・工藤どう、儒者) F 1 3 3 4
- 彝(い・中村) → 確堂(かくどう・中村なかむら、藩士/儒者) H 1 5 3 6
- 彝(い・高階) → 暘谷(ようこく・高階/高/渡辺、詩人) 4 7 8 2
- 彝(い・小島) → 蕉園(しょうえん・小島こじま、医者) F 2 2 5 2
- 彝(い・神岡) → 竹嶼(ちくしょ・神岡、医者/詩) D 2 8 1 9
- 彝(い・石野) → 雲嶺(うんれい・石野、儒者) E 1 2 1 5
- 懿(い・西川) → 桃源(とうげん・西川、儒者/詩) D 3 1 4 8
- 懿(い・黒田) → 橘樹園(きつじゅえん・早苗さなえ、歌/狂歌) L 1 6 4 6
- 懿(い・庄原) → 篁墩(こうとん・庄原しょうばら、儒者/詩) K 1 9 8 4
- 懿(い・杉山) → 随翁(ずいおう・杉山すぎやま、儒者) E 2 3 2 3
- 韞(い・草場) → 佩川(はいせん・草場、儒者/詩歌) B 3 6 7 0
- 韞(い・小原/中川) → 漁村(ぎよそん・中川ながわ、藩士/儒者) P 1 6 7 8
- 輝(い→あきら・林) → 復斎(ふくさい・林はやし、幕臣/儒者) B 3 8 5 4
- 漪(い・櫛田) → 可懶(からん・櫛田くしだ、儒者/詩) H 1 5 5 5
- 為(い/いそし・恩田) → 仰岳(ぎょうがく・恩田おんだ、藩士/漢学者) N 1 6 4 8
- K1195 為阿(いあ;法名) ? - ? 鎌倉南北期;沙弥、
歌;1334(建武元)度会朝棟亭八月十五夜歌会参加(3首)、
[住吉の神の恵も長き夜に澄む月とてやくもらざるらん](朝棟亭歌会;121)、
[そむく世も猶古郷の秋風にとはれつる身の袖ぞ露けき](同;123)
- 遺愛堂(いあいどう) → 顯成(けんじょう・三蔭みかげ、真宗僧/歌) J 1 8 9 0
- 1100 伊安(いあん) ? - ? 俳人、1672元隣編「諸国独吟集」入
- E1172 意安(いあん・小泉こいずみ、黄陽庵) 1662-1724 63歳 陸前仙台藩医;伊達綱村の侍医、
「三焦弁相」「火弁」著
- E1173 意安(いあん:通称・三宅みやけ、名;恂、号;屯倉子) ?-? 江中期医者:民間伝承灸治法を調査、
和方医の研究、
1758「灸炳ぜの塩土伝」/69「医療衆方規矩大成」、「延寿和方彙函」「延寿和方続編」著
- K1167 頤庵(いあん・前野まえの、藤塚知明3男) 1769-1838 70 陸奥塩竈神社社家の生/医者、和学者、
豊前中津藩医前野良沢(1723-1803)の養嗣子;豊前中津藩主の江戸藩邸侍医、
知機(図書しよ)・知周の弟/知能ともよしの兄、松崎慊堂と交流、
[頤庵(;通称)の名/字]名;俣ひろし(音はグ)、字;君敬
父 → 知明(ともあき・藤塚ふじつか、漁師/神職) P 3 1 1 0
弟 → 知能(ともよし・藤塚ふじつか、元吉/神職) Q 3 1 9 4
君敬(くんけい・前野) → 頤庵(いあん・前野まえの/藤塚、医者) K 1 1 6 7
意安(意庵いあん・吉田) → 宗桂(そうけい・吉田よしだ、医者/侍医) G 2 5 8 9

- 意安(意庵いあん・吉田) → 宗恂(そうじゅん・吉田、宗桂男/秀吉家康の医者) H 2 5 9 2
 意安(いあん・吉田) → 宗達(そうたつ・吉田、宗恂男/幕府医官) I 2 5 3 8
 意安(いあん・吉田) → 宗恪(そうかく・吉田よしだ、幕府医官) G 2 5 5 7
 意庵(いあん・有馬) → 友仙(ゆうせん・有馬ありま、医者/俳人) D 4 6 1 8
 畏庵(いあん・若槻) → 幾斎(きさい・若槻、儒者) I 1 6 5 3
 韋庵(いあん・岡本) → 監輔(けんすけ・岡本、儒/北辺防備主張) K 1 8 3 7
 以安(いあん;道号) → 智察(ちさつ;法諱・以安、臨濟僧) E 2 8 2 4
 位庵(いあん・鈴木) → 金魚(きんぎょ・田螺たにし、医者/洒落本) D 1 6 9 1
 為安(いあん・中村) → 深斎(しんさい・4代中村宗哲、千家塗師) U 2 2 4 7
 維安(いあん・蟹) → 養斎(ようさい・蟹かに、儒者) 4 7 9 2
 惟安(いあん・富永) → 惟安(これやす・富永とみなが、儒者) G 1 9 1 2
 慰安斎(いあんさい・服部暮閑) → 身愛(ただちか・観世かんぜ、能楽大夫) F 2 6 2 6
 葦菴叟(いあんそう;号) → 元養(げんよう;法諱・百拙;道号、黄檗僧/詩/画) E 1 8 5 7
 E1174 依々(い;法諱、僧) ? - ? 江前期元禄1688-1704頃江戸の僧、
 深川連衆の俳人;蕉門、1694野坡ら「炭俵」4句入/杉風「冬かつら」入、
 [秋風に蝶やあぶなき池の上](炭俵;下)
 E1175 為以(い・荒井) ? - ? 江中期和算家・兼庭門、1764「明玄算法」著
 猗々庵(いあん) → 東陽(とうよう、俳人) H 3 1 8 4
 意々橋(いいきつ・矢田部) → 弘岡(ひろおか・矢田部やたべ、神職/国学) I 3 7 3 6
 猗々居(いいきよ) → 元賛(げんいん/げんびん・陳、儒者/製陶/拳) B 1 8 2 7
 猗々斎(いはい) → 兼恵(けんけい・猪苗代いなわしろ、連歌師) B 1 8 6 4
 飯顆山人(いいたのさんじん) → 鬼武(おにたけ・感和亭、戯作者) 1 4 2 3
 D1130 為一(いち/いつ;号・中村なかむら、通称;安八郎) ?-? 江後期江戸昌平坂学問所勤番組頭、
 儒/詩;古賀精里/野村篁園門、勝田半斎/野沢酔石らの詩会に参加、1823「声応集」編
 E1100 為一(いち/いつ・結句庵) ? - ? 江後期禅僧?、俳人;雑俳、
 1824「結句一口集」、「俳諧詞曲結句古則」著
 惟一(いち→うい;道号) → 道実(どうじつ;法諱・惟一うい、黄檗僧) 3 1 8 0
 惟一(いち;道号・成允) → 成允(じょういん;法諱・惟一いち、曹洞僧) G 2 2 8 9
 惟一(いち・手島) → 毅庵(きあん・手島てしま、心学者) J 1 6 5 3
 惟一(いち・桃沢) → 惟一(これかず・桃沢ももさわ/戸枝、藩士) R 1 9 4 1
 惟一(いち・滝川) → 惟一(これかず・滝川/滝ろう/佐久間、幕臣) O 1 9 1 8
 惟一(いち・河本) → 正安(まさやす・河本/川本、医者詩文) I 4 0 1 4
 惟一(いち・森脇) → 惟一(これかず・森脇もりわき、神道/歌人) R 1 9 2 4
 惟一(いち・日高) → 涼台(りょうだい・日高ひだか、蘭医者/詩) I 4 9 8 0
 惟一(いち・賀集) → 惟一(これかず・賀集かお、製陶/国学) Q 1 9 6 1
 惟一(いち・平川) → 惟一(のぶかず・平川ひらかわ、藩士/民権) J 3 5 8 5
 為一(いち・日高) → 為一(ためかず・日高ひだか、藩士/右筆/歌) Z 2 6 1 5
 為一(いち・前北斎・不染居・錦袋舎) → 北斎(ほくさい・葛飾、絵師/葛飾派祖) 3 9 6 2
 為一(いち・松川) → 力丸(りきまる・鬼拉亭きらくてい/鬼粒亭、大阪狂歌師) 4 9 5 7
 為一(いち・小室) → 元貞(げんてい・小室こむろ、医者/俳人) L 1 8 6 0
 為一(いち・中村) → 樸斎(ちようさい・6代中村宗哲、塗師) L 2 8 4 8
 為一(いち・片桐) → 源一(げんいち・片桐かたぎり、歌人) H 1 8 7 0
 意一(いち・河瀬) → 河瀬検校(かわせけんぎょう、平曲家) S 1 5 5 6
 伊一郎(いちろう・猪熊) → 可広(よしひろ・猪熊いのくま、国学者) P 4 7 7 5
 伊市郎(いちろう・鵜沼) → 北涯(ほくがい・鵜沼うぬま、儒者/詩人) C 3 9 9 6
 維一郎(いちろう・佐々) → 豊水(とよみ・佐々さき/源、藩士/国学) V 3 1 2 7
 猪一郎(いちろう・鈴木/足立) → 茂穂(しげほ・足立あだち/鈴木、国学) N 2 1 0 5
 以一(いつ・高橋) → 以一(ゆきかず・いつ・高橋、商家/俳人) E 4 6 3 9
 以一(いつ・森井) → 月艇(げつてい・森井もりい、医者/詩人) H 1 8 2 7
 飯沼の性信(いぬまのしょうしん) → 性信(しょうしん;法諱、真宗僧;親鸞門) J 2 2 9 3

- 1101 **飯麿**(いまる・紀朝臣きのあそん、古麻呂男)?-762 奈良期廷臣;740広嗣乱に征討副將軍、749大倭守/大宰大貳、大蔵卿/758參議紫微大弼兼左大弁/三位、万葉集中人物;十九4257題;自邸で宴(家持ら参加)
 飯室座主(いむろのざしゅ) → 尋禪(んぜん;法諱・慈忍;号、天台座主) 2 2 4 6
 飯室僧正(いむろのそうじょう) → 良快(りょうかい;法諱、天台大僧正) G 4 9 7 0
 飯室入道(いむろのにゅうどう) → 義懷(よしちか/よしかね・藤原、中納言/歌) E 4 7 4 5
 飯盛(いもり・六樹園、読本作家) → 雅望(まさもち・石川) 4 0 2 1
 威胤(いん・国分) → 威胤(たけたね・国分こくぶ、藩士/儒/詩人) O 2 6 4 3
 惟寅(いん・浅井) → 凶南(となん・浅井、医者/詩) O 3 1 5 6
 惟寅(いん・加藤) → 蘭山(らんざん・加藤かとう、藩士/儒者) C 4 8 2 8
 惟寅(いん・富小路) → 任筋(にんせつ・富小路、坊官/勤王家) G 3 3 6 0
 惟寅(いん/これとら・男谷/勝) → 夢酔(むすい・勝かつ/男谷、幕臣) 4 2 7 7
 惟寅(いん・田中) → 惟寅(これぶ・田中たなか、国学者) Q 1 9 9 5
 惟允(いん・山本) → 恭庭(きょうてい・山本やまもと、医者) O 1 6 3 4
 惟允(いん・尾形) → 乾山(けんざん・尾形おがた、陶工/絵師) B 1 8 9 3
 為尹(いん・冷泉) → 為尹(ためまさ・ためただ・冷泉、廷臣/歌人) H 2 6 4 3
 為員(いん) → 為員(ためかず・藤原?、廷臣/歌人) S 2 6 3 7
 為員(いん・大島) → 為員(ためさだ・大島おおしま/平、藩士/歌) W 2 6 1 3
 為胤(いん・砂沢) → 為胤(ためたね・砂沢すなざわ、藩士/国学) W 2 6 1 9
 為胤(いん・根本) → 為胤(ためたね・根本ねもと/平、神職) Y 2 6 8 7
 意宇麿(いまる・熊野) → 意宇麿(おうまる・熊野くまの、神職/歌人) D 1 4 7 9
- E1176 **惟雲**(いうん・山田やまだ、名;俊明/俊、字;子英/元章/通称;伍兵衛) 1712-80 肥後河尻町の豪商/儒;秋山玉山門、書籍蒐集;蔵書数千卷、「別々怡雲散人遺稿」著
- E1177 **怡雲**(いうん・杉野すぎの) ? - ? 江後期備後福山の文筆家、中島棕隠と交流、1821「芳野行日記」著
 怡雲(いうん;号) → 方秀(ほうしゅう;法諱・岐陽ぎょう、臨濟僧) 3 9 5 5
 為運(いうん・松下) → 為運(ためゆき・松下まつした、藩士/和学) Z 2 6 5 6
- K1162 **家明**(いえあき・藤ふじ) ? - ? 江中後期:撰津西成郡の神職;加島稻荷神社祠官、国学・俳諧;上田秋成(1734-1809)門
 家明(いえあき・中村/桜木) → 蛙井(あせい・桜木さくらぎ、随筆家) E 1 0 4 9
 家明(いえあき・為田) → 只青(しせい・為田ためだ/小林、書/俳人) Z 2 1 0 3
 家詮(いえあき・藤原) → 宗詮(むねあきら・藤原、廷臣/連歌) B 4 2 0 1
- E1165 **家明**(いえあきら・藤原ふじわら;顕季流、中納言家成[1107-54]2男) 1128-7245 母;加賀守高階宗章女、平安後期廷臣;1134主殿権助/35蔵人/37越後守/38左兵衛権佐/41左近少将/44美濃守、1152備後守、56(保元元)内蔵頭/60(永暦元)播磨権守、62(応保2)従三位/非參議、1168(仁安3)出家/1172(承安2)没、歌人;1149父の右衛門督家成歌合3首入(少将名)、1165清輔[続詞花集]入(家明卿名)、隆季(権外納言)の弟 家光の父、隆季(権外納言)の弟成親(権大納言)・家教(美濃守)・盛頼(右中将)・師光・実教の兄、[晴れわたるみどりの空の清ければくもりなく見ゆ秋の夜の月](家成歌合;五番左)[(父)中納言家成 住吉に詣でて人々に歌よませけるに、君がため千代のためしにさせとてやなみもをるらんすみよしの松](続詞花;賀350)
- E1178 **家厚**(いえあつ・花山院かざんいん、法号;寛恭院、愛徳あいく男/本姓藤原) 1789-186678 母;家女房、養母;蜂須賀重隆女、江後期廷臣;1798従三位/1847内大臣、59右大臣/従一位/62致仕、1810「新嘗祭小忌上卿要」、「四方拝並吉書御覽留」著、家理の父
 惟永(いへい/これなが・阿蘇) → 玄与(げんよ・阿蘇あそ/宇治、武将/歌人) D 1 8 2 3
 惟永(いへい・郡司) → 惟永(これなが・郡司ぐんじ、歌人) Q 1 9 1 0
 惟英(いへい・西島) → 柳谷(りゅうこく・西島/西嶋、儒;講説) D 4 9 9 4
 惟盈(いへい・緒方) → 惟盈(これみつ・緒方がた/大神、神職) Q 1 9 4 7
 惟影(いへい・羽栗) → 春望(はるもち・羽栗はぐり/和栗、儒/国学) K 3 6 5 7
 為英(いへい・渡辺) → 為英(ためひで・渡辺わたなべ、商家/国学) 2 7 4 5

- 為榮(いはい・冷泉) → 為榮(ためひで・冷泉れいぜい、歌人) S 2 6 7 2
 為榮(いはい・進藤) → 為榮(ためひで・進藤しんどう、坊官/記録) S 2 6 7 3
 為榮(いはい・五条) → 為榮(ためしげ・五条ごじょう/菅原、廷臣/国学) X 2 6 0 6
- K1187 **家氏**(いえうじ・藤原/大炊御門おおいのみかど氏忠[1302-?]男?)?-? 鎌倉南北期;廷臣/歌人、
 1345刊[藤葉集]入、
 [うき中のつらきへだてとなりけりいもせの山の峰の白雪](藤葉;恋420)
 家氏(いえうじ・浮田) → 秀家(ひでいゑ・浮田/宇喜多、武将) 3 7 0 8
 伊江王子(いゑおうじ) → 朝直(ちようちよく・伊江いゑ、琉球摂政) M 2 8 0 2
- K1138 **舎興**(いゑおき・多々谷たがや、友規ともり男)1668-1752⁸⁵ 陸奥仙台藩士/国学者、
 [舎興(;名)の通称/号]通称;市左衛門/五郎太夫(:父の称)、号;晚翠
 家興(いゑおき・鶴沼) → 北涯(ほくがい・鶴沼うぬま、儒者/詩人) C 3 9 9 6
- E1179 **家理**(いゑおき/いゑのり・花山院かざんいん、家厚2男/本姓;藤原)1839-1902⁶⁴ 廷臣;1857左中将/正三位、
 1858日米条約時に幕府一任に反対/60致仕/63位記返上、66「藤原家理勤王周旋証書」著
- E1180 **舎景**(いゑかげ・平たいら、号;森蔭舎)1723-? 1786存 神道家;「常世の形見草」著
- 1132 **家賢**(いゑかた・花山院かざんいん、妙光寺内大臣、師賢もろかた男)1330-66³⁷ 廷臣/初め北朝;右大将、
 1352権中納言、1363頃南朝の内大臣、歌人;1350為世十三回忌和歌出詠(右大将名)、
 1365[正平廿年三百六十首](住吉行宮)参加、
 勅撰;新続古今179、新葉集53首入(10/42以下)、父母/妻/息子も南朝歌人、
 [めぐりあふけふは弥生のみかは水名に流れたる花の盃](;新続古;春179/曲水宴の心)
 父 → 師賢(もろかた・花山院) H 4 4 1 2
 母 → 家賢母(いゑかたのはは・花山院、家定女) E 1 1 0 1
 妻 → 長親母(ながちかのはは・花山院、長賢/長親の母) E 3 2 2 9
 息子 → 長賢(ながかた・花山院) D 3 2 4 2
 → 耕雲(こううん・花山院長親ながちか) 1 9 0 4
- 家賢家中納言(いゑかたけちゆうなごん)→中納言(ちゆうなごん・妙光寺内大臣家、女房歌人)G 2 8 7 2
- E1101 **家賢母**(いゑかたのはは・花山院かざんいん、花山院家定女、花山院師賢もろかたの室)?-? 妙光寺内大臣家賢母、
 夫師賢の配流後に遺児の養育に専念、歌人;新葉集5首(517/530/869/1344/1380)入、
 [里のあまの塩なれ衣とどめてもながらへばこそかたみとも見め](新葉集;離別517)
 (夫文貞公師賢へ返歌/夫の歌;里のあまの塩なれ衣忍べとてからき別のかたみにぞやる)
- E1181 **家勝**(いゑかつ・加藤かとう/旧姓;奥村おくむら、別名;家唯)?-? 室町末期尾張武士、加藤延隆の養子
 1565玉泉院建立、1583-91上京し紹巴昌叱らと連歌;84/90/91「何船百韻」90「何路百韻」
 為役(いゑき・稲井) → 為役(ためゆき・稲井いない、医者/歌人) 2 7 6 5
 為益(いゑき・冷泉) → 為益(ためます・冷泉、廷臣/歌人) H 2 6 4 4
 為益(いゑき・進藤) → 為益(ためます・進藤しんどう、坊官) S 2 6 8 0
 惟益(いゑき・不破) → 惟益(これます・不破ふわ、神職/神道家) O 1 9 2 9
 維益(いゑき・村山) → 維益(これます・村山むらやま/村上、医者) O 1 9 8 5
- 1133 **家清**(いゑきよ・源みなもと、法名;最智、家長男)?-? 鎌倉期廷臣;右兵衛尉/従五上/出家、
 家棟いゑむねの父、歌人;息子息女・父・姉妹も歌人、
 1232石清水若宮/36遠島歌合、46若宮社歌合参(;最智名)、雲葉集・夫木抄入集、
 勅撰7首;続後撰(277/767/786)新後撰(438)玉葉(761)新拾遺(462)新続古今(966)
 [すてはててあればあるよのならひにもなほ物思ふ秋の夕暮](続後撰集;五秋277)
 父 → 家長(いゑなが・源、新古今以下歌人) 1 1 4 9
 姉妹 → 但馬(たじま・藻壁門院、新勅撰以下撰歌人) E 2 6 6 6
 男 → 家棟(いゑむね・源、歌合歌人) F 1 1 0 2
 女 → 大夫(だいはふ・延明門院[1291-?]女房/続千載歌人) C 2 6 1 2
- 1134 **舎熊**(家熊いゑくま・梶原かじわら/本姓;平、通称;伊豆守、初姓;林)1723-1801⁷⁹ 飛騨高山の神職、
 高山一宮大宮司家の生/信濃下今井村諏訪社神官梶原家の養子、唯一神道;吉川従安門、
 のち神官職を景富に譲る;1778一揆などで改廃された高山一の宮大宮司となる、
 両部神道を改め唯一神道とす、信州訪問の菅江眞澄と交流、
 「大祓奥旨考」「服忌令理義解」著、神号;功秀神霊

- E1102 **家貞** (いへさだ・平たいら、範季(季房)男) 1084-1167 84歳 「顕広王記」入
- 1135 **家定** (いへさだ・花山院かざんいん、家教男/本姓;藤原) 1283-1342 母;藤原雅平女、廷臣;1296従三位、1318右大臣/従一位/23出家、歌人;
勅撰12首;新後撰(96/1131/1160)玉葉(4首963/1565/1724/1765)続千(204/2032)以下、
[尋ねきて見ずはたかねの桜花けふも雲とぞなほ思はまし](新後撰;二春96)、
[家定(;名)の法名] 法名;理円/通称;金光院入道
- E1182 **家定** (いへさだ・木下きのした/羽柴/豊臣/本姓;平、杉原定利[道松]男) 1543-1608 66 武将;秀吉臣、
姫路城主/1600関ヶ原では妹高台院を守護、家康臣;1601備中足守藩主、
母;杉原家利女/同母妹;高台院(秀吉の北政所)、木下長嘯子[勝俊]の父、
「鷲嶺随筆」「鷲嶺漫筆」著、
[家定の通称/号]通称;孫兵衛、出家後;浄英、法号;常光院
家郷(いへさと・岸) → 琴主(ことねし・中山/岸、音曲/八雲琴祖) F 1 9 8 1
- 1136 **家実** (いへさね・藤原ふじわら、別名;資実、若狭守通宗みちむね男) 1162-1223 62 母;文章博士藤原家経女、
平安後期鎌倉期廷臣、従五位下、叔父;通俊(後撰集編纂)、隆源りゅうげんの兄、
歌人;千載集748、
[いそがくれかきはやれどももしほ草たちくる浪にあらはれやせん](千載;恋748)
父 → 通宗(みちむね・藤原、歌人/歌合主催) 4 1 2 0
叔父 → 通俊(みちとし・藤原、歌人/勅撰集編纂) 4 1 1 1
弟 → 隆源(りゅうげん、天台僧/歌学) 4 9 0 8
- C1110 **家実** (いへさね・近衛このえ、摂政基通男/本姓;藤原) 1179-1242 64 平安後期・鎌倉期廷臣;1191従三位、
1199右大臣、1204左大臣/1206以後摂政・関白を22年間/1207従一位/21太政大臣/38准三宮、
1241出家、母;源頼信女の頭子、兼経・兼平の父、
「猪隈関白記」「猪隈禅閣記改元定記」著
[家実(;名)の通称/法名]通称;猪隈殿/猪隈関白、法名;円信
家実(いへさね・藤原) → 資実(すけさね・日野/藤原、廷臣/詩歌) C 2 3 1 8
家成(いへしげ・藤原) → 家成(いへなり・藤原、廷臣/歌) 1 1 5 1
- K1147 **家重室** (いへしげのしつ・徳川とくがわ、名;増子まこ女王) 1711-33 早世 23 京の伏見宮邦永親王4女、
歌人、1731(享保16)江戸の9代将軍家重の世子時代の御簾中(正室)、
1733(享保18)懐妊;早産死/産後肥立ち悪く没、家重は以後正室なし、
[家重室の通称/院号]通称(幼名);比宮なみのみや、院号(諡);證明院しょうめいいん/培子
家重側室安祥院(いへしげのそくしつのおんしょういん・徳川) → 遊子(ゆうこ・松平/三浦、中藺/歌人) B 4 6 5 4
家季(いへすえ・藤原/橘) → 素俊(そしゆん、僧/歌、連歌) D 2 5 8 3
- E1183 **家輔** (いへすけ・花山院かざんいん/本姓;藤原、法号;法雲院、九条尚経男) 1519-80 62 花山院忠輔の養嗣、
母;九条植通女(実母は三条西実隆女の従三位保子)、
廷臣;1542従三位/57正二位右大臣、1578出家、1557「広橋従一位任槐之事是非奏達状」著
- J1190 **家副** (いへすけ・池田いけだ、) 1764-1818 55 信濃佐久郡の里正、歌;清水浜臣門
[家副(;名)の通称] 幸右衛門
- 1102 **家隆** (いへたか/かりゅう・藤原ふいむら、光隆2男) 1158-1237 80 母;藤原実兼女/妻;兄雅隆女、
廷臣;1175従五下/76侍従/80阿波介/83従五上/85越中守/1201和歌所寄人;02新古今集撰者、
1205従四上/06宮内卿/07正四下/16従三位/35参議・従二位/36病で出家;
1237難波の四天王寺移住;没、歌人;俊成門、後鳥羽院歌壇の歌会・歌合で活躍;
1193六百番歌合/99御室五十首/1200正治百首/1201千五百番歌合/05元久詩歌合参加、
1213仙洞三題二十首/14卿雲客妬(;判者)/15内裏名所百首・内裏名所三百首参加、
1216院百首・内裏百番歌合/17冬七題歌合/19内裏百番歌合(;加判)参加、
1220道助法親王五十首参加、1221承久の変後も配所の院と交流、
1229女御入内屏風和歌/36遠島御歌合など多数参加、
家集「壬二みに集」、「和歌口伝」「百番自歌合」「家隆卿家集」「家隆卿百首」外著多数、
勅撰282首;千載(350/536/749/1005)新古今(43首17/37/45/82以下)新勅(43首40/72以下)、
続後撰(18首54/204/250以下)続古(41首22/37/55以下)続拾(16首4/9/73以下)以下、
生涯6万首を詠(井蛙抄)、玄玉・万代・秋風・雲葉(31首)・新和歌集等入集、菟玖波;23首入、

[家隆(；名)の幼名/通称/法名]幼名；雅隆、通称；壬生二品みぶのにほん/坊城、法名；仏性
[風そよぐならの小川の夕暮れはみそぎぞ夏のしるしなりける](新勅撰；192)、
[さえわたる光を霜にまがへてや月にうつろふ白菊の花](千載；秋350)

- E1184 **家孝**(いえたか・大炊御門おおいのみかど、経秀男/本姓藤原)1747-99**53** 母；醍醐冬熙女、
廷臣；1762権大納言、1787内大臣/96右大臣/従一位、法号；瑤台寺融廓愍統、
1781「落栗物語」(原本著)；筆者は松井成教げのり(奥書)
- J1154 **家貴**(いえたか・植村うゑむら、大和高取藩主家長4男)1807-53**47歳** 母；八重、兄の家教の養子、
1848(嘉永元)兄隠居で家督継嗣；第7代高取藩主(植村家11代当主)；従五下美濃守、
駿河守/出羽守、1849外桜田門番/51奏者番、歌人；蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、
[有明の月毛の駒をはやめても遠山桜見にきつるかな](大江戸倭歌；245馬上見花)、
[家貴(；名)の別名/法号]初名；長蔵/刑部、法号；浄雲普光徳現院
家隆(いえたか・藤原、顕綱男)→ 道経(みちつね・藤原、歌人) B 4 1 8 8
家栄(いえたか・賀茂) → 家栄(いよし・賀茂、陰陽家/暦学者) 1 1 3 7
- 1138 **家忠**(いえただ・藤原ふじわら、花山院左大臣、師実男)1062-1136**75** 母；源頼国女的美濃、平安後期廷臣、
1077左中将/82参議、91権大納言/皇后宮大夫/1122右大臣/31左大臣/従一位、
歌人；1078内裏歌合参加/96自邸で権大納言家歌合主催
- 1139 **家忠**(いえただ・松平まつだいら、三河深溝城主伊忠の長男)1555-1600**自刃46** 母；鶴殿長持女、
安桃期1575(天正3)酒井忠次配下の武将として参戦、忠勝の兄/忠利の父、
築城の巧者；江戸城普請/浜松城築造に功績、1590(天正18)武蔵忍藩主/92下総上代城主、
1594(聞録3)小見川初代藩主、1599伏見城番；1600関ヶ原戦に先立ち大坂方の猛攻で自刃、
1577-94「家忠日記」/「源家日記」著、連歌；1594紹巴と何船百韻、
[家忠(；名)の幼名/通称/法号]幼名；又八郎、通称；主殿助、法号；慈雲院
家雅(いえただ・慶徳) → 家雅(いよまさ・慶徳、神職/儒) D 1 1 3 2
家尹(いえただ・月輪/藤原)→ 家尹(いよまさ・月輪つきのみ、歌人/連歌) 1 1 6 2
家唯(いえただ・奥村) → 家勝(いよかつ・加藤/奥村、武士/連歌) E 1 1 8 1
- J1192 **家胤**(いえたね・泉いづみ、)1819-1885**67** 出羽大館の儒者；中田錦江門、易学に通ず、
のち国学を修学、維新後；神職/権小講義、「神道捷徑」「易学私考」著、
[家胤(；名)の初名/通称/号]初名；家寛、通称；静也/佐中、号；達斎
- 1140 **家親**(いえたか・中山なかやま、堀河宰相、基雅男/本姓；藤原)?-? 母；姉小路実世女、鎌倉後期廷臣；
1309参議、14宮内卿/従二位/17伏見院に殉じ出家、京極派歌人；1293内裏御会和歌参加、
1297十五夜歌合参、99伏見院五種/1303三十番/04伏見院歌合参加/15詠法華経和歌出詠、
勅撰16首；玉葉(9首；254/408/906/1686/1717/1788/2199/2566/2601)続千(1533)以下、
[吹き弱る嵐の庭の木のもとに一むらしろく花ぞ残れる](玉葉集；二春254)、
[家親の法名] 覚如/覚安/証信
- K1152 **家親**(いえたか・二宮にのみや、)1825-1912**88** 阿波美馬郡の国学者
家親(いえたか・持明院) → 基規(もとりのり・持明院/藤原、廷臣/放鷹) D 4 4 7 9
- 1141 **以悦**(いえず・和田わだ、別名；宗達、浩悦男)1596-1678**83** 京の儒者；藤原惺窩門、歌；1628松永貞徳門、
貞徳門有力歌人；地下歌人指導者、茶道を嗜む、師没後も月次歌会・追悼会を主催、
「逍遊集」「貞徳家集」編、1677「逍遊軒明心貞徳居士大士忌之辰詠追福千首和歌」編、
静観窩せいかんかの兄、望月長孝・北村季吟と交流、
没後；1722松堅[倭譚五十人一首]入、
[三十文字みそもじのひとの心の花の種神代に植し御代ぞさかゆく]、
(倭譚五十人一首；50/寄神祝かみによるいはひ/ひと；一と人を掛る/歌道が世の繁栄)、
[以悦(；名)の通称/号]通称；多兵衛、号；蝠翁ふくおう/蝠斎/蝠才/宗翁
- E1185 **家次**(いえず・杉原すぎむら、家利男/本姓；平)1531-84**54歳** 尾張の武将/豊臣秀吉の家臣、
播磨三木城代/近江坂本城主/丹波福知山城主、「本能寺記」「藻虫齋(大村由己ゆじ)筆録」著、
[家次(；名)の通称/法号]通称；七郎左衛門、法号；浄庵
- K1110 **家継**(いえず・香川かがわ、春継[宗尤そうゆう]2男)1594-1669**76** 周防岩国の武将；吉川家家臣、家景の弟、
連歌；父門、正矩まさのり(1613-60)の父、
[家継(；名)の通称/号]通称；清介、号；一汀

- 1142 **家綱**(いづな・藤原ふじわら、実範男or章経男)?-? 平安後期廷臣/歌人;金葉529、
[思ひかね今朝は空をやながむらん雲のかよひぢ霞みへだてて](金葉集;九529)、
(蔵人の藤原基清が巡爵して殿上を下りる寂しさを思いやる歌/雲に殿上を掛る)、
実範男の場合;兵庫頭/雅楽頭/正五下、
章経男の場合;雅楽助/従四下
- E1186 **家綱**(いづな・徳川とくがわ、幼名:竹千代、家光男/本姓;源)1641-80⁴⁰ 母;朝倉惣兵衛女のお楽、
1651(11歳)4代將軍、右大臣、幼年病弱のため酒井忠勝/保科正之が権勢をふるう、
連歌:1648家光と何人百韻/昌陸と4度
- 1143 **家綱女**(いづなのむすめ・藤原ふじわら、参議家綱[?-1390没]女)?-? 南北後期歌人:師言の姉妹、
尹綱(頼時;父の弟)の姪、新統古1568(尹綱哀悼)、
[秋といへば手向しことの緒をたちてあらぬうきねに世をやつくさん]、
(新統古今;哀傷1568/藤原尹綱没の翌年7月7日手慣れた琴を弾くももの憂く思い詠)
- 1144 **家経**(いづね・藤原ふじわら、広業男)992or1001?-1058^{67?} 実母;安部信行女、廷臣;1026文章博士、
式部権大輔、正四下/1054(天喜2)出家、漢学/詩歌;1036大嘗会和歌作者/49内裏歌合参加、
高倉一宮草合(祐子内親王[後朱雀天皇皇女/1038-1106]家歌合)参加(統詞花集入)、
新撰朗詠集/別本和漢兼作集/和漢兼作集入集、続文粹入、「家経朝臣集」、
玄々集(木工頭名)・後葉集・続詞花集(2首)入、
勅撰16首;後拾遺(4首;248/291/383/482)金葉(210/318/538/678)詞(3首)新古以下、
[鹿の音ねぞ寝覚めの床にかよふなる小野の草伏くさし露やおくらん](後拾遺;291)、
正家まさい/長済ちようさい/行家ゆきさいの父、経円きようえんの父?
- 1145 **家経**(いづね・一条いちじょう、号;後光明峯寺、実経男/本姓;藤原)1248-93 母;藤原有信女、廷臣;
1257従三位/69左大臣/70従一位/79摂政;氏長者、実家・万秋門院の兄、
内実うちざね・道昭どうしょうの父、歌人;続古今竟宴和歌に出詠、
1275自邸で「摂政家月十首歌合」主催(九月十三夜/真観判)、夫木抄入、
勅撰28首;続古今(189/323)続拾遺(10首316/575/767以下)新後撰(4首)玉葉(2首)以下、
[いつもなほくもらぬ秋のならひさへわきて今宵の長月の空](月十首;冒頭歌/女房名)
- E1187 **舎暉**(いえてる・泉いづみ/本姓;荒木田、本多忠順男)1755-1834⁸⁰ 泉いづみ舎諸の養子;伊勢の神職;
1778内宮権禰宜、正六上、国学;春庭門、詩歌/俳諧/小鼓を嗜む、
1805「松坂勤方引留下書」著、
[舎暉の通称/号]通称;蔵人/大学、号;令翁/雨木
- 家遠(いとお・源) → 淳国(あつくに・源、廷臣/歌人) E 1 0 5 5
- 1146 **家時**(いとし・源みなもと、盛長男)?- ? 1118存 平安後期廷臣;蔵人/1102上野介/正五下、盛家の弟、
歌人;1102堀河院艶書合けそうぶみあわせ参加、後葉集1首入、金葉解64/詞花216、長時・季時の父、
[霜おかぬ人の心はうつろひて面がはりせぬ白菊の花](詞花集;七恋216/後葉集406)、
(かつての恋人[女]がこと人[他の男]に逢っているのを聞き白菊に添えて贈った歌)、
(217;女に代わって大納言藤原公実が反歌;こと人は公実[1053-1107]か、
白菊のかはらぬ色も頼まれずうつろはでやむ秋しなければ/後葉集407)
参照 → 公実(きんざね・藤原、1053-1107/権大納言:権勢) E 1 6 0 5
- E1188 **家時**(いとし・鎌田かまた、通称;勘丞)?-? 江戸初期土佐藩山内康豊の右筆、
1651「治代普頭記」著、「普頭記拔萃」編、「(山内)忠義公青竜寺御仏詣之記」著
- 1147 **家俊**(いとし・源みなもと、権中納言家賢[1048-95]男)?-? 平安後期廷臣;従四下陸奥守、賢智の父、
歌人;続詞花集/万代集/夫木集入、新統古今267
[旅衣いく野の露もほすばかり山時鳥なみだからなん](新統古今;卷三夏歌267)
[鳥羽殿五番歌合に、
時鳥鳴く一声にあくがれてしらぬ雲みに行く心かな](続詞花;夏114)
- K1180 **家俊**(いとし・青山あおやま/本姓;源、?)?-? 江前期;武士/歌人;1688浅井忠能[難波捨草]入、
[朝日影匂ふはこやの山桜神代の花の色もかはらで]、
(難波捨草;春51/菟姑射はこやは仙洞御所)
- E1189 **家友**(いとも・杉村すぎむら、通称;三左衛門、号;畔古、家房男)1704-66⁶³ 伊勢度会の神職/俳:麦林門、
1757「内宮御造當用事控」60「御神楽執行中老頭年中行事式」著

- 家具(いえとも・柳原/岩倉)→ 具選(ともぶ・岩倉/源/柳原、廷臣/詩歌) Q 3 1 2 1
- 1148 **家豊**(いえとよ・山科やましな/初名;教豊、教興男/本姓藤原)?-1431 室町期廷臣;1425右衛門督/27参議、1429改名家豊/土佐権守、歌人;1412後小松天皇月次始御会参/新統古1798、
[けふもまた天の川波たちかへりおなじ交野^{たの}に狩りくらしつつ](新統古今;雑1798)、
(伊勢物語渚院;馬の頭;狩りくらししたなばたつめに宿からむ天の河原に我は来にけり)
- 1150 **家仲**(いえなか・高階たかしな、法橋行全男)?-?1243存 殷富門院[1147-1216]の蔵人/五位、
歌人;1215四十五番歌合参/定家邸に出入、東撰和歌六帖入、新勅撰1101、
[むらくもはまだ過ぎはてぬと山より時雨にきはふ有明の月](新勅撰;十六雑1101)
- 1149 **家長**(いえなが・源みなもと、時長男)1170-123465歳 廷臣;後鳥羽院蔵人/右馬助/但馬守/従四上、
1200後鳥羽院第二度百首/若宮歌合/1201和歌所寄人;新古今集編参加、01千五百番歌合参加、
1205元久詩歌合参加、後鳥羽院の遺臣を集め和歌会催/1217庚申百韻/源氏国名百韻参加、
1232石清水若宮歌合・洞院撰政家百首参加、1197-1208回想録「家長日記」/「五戒歌」著、
御裳濯集・万代・秋風集・雲葉集(4首)等入集、連歌;菟玖波6句入、
勅撰36首;新古(425/741/956)新勅(9首169/511以下)続後撰(7首)続古(2首)続拾(2首)以下、
[けふはまた知らぬ野原にゆきくれぬいづれの山か月は出づらむ](新古今;羈旅956)、
[寂延が許へ五月ばかり消息し侍りけるに、そのかみ太神宮へ詣でて侍りける事の、
しのぼるよしなどいひつかはすとて、
いにしへをこふる涙のをちかへりなくねつきせぬやまほととぎす](御裳濯集;夏225)
妻;後鳥羽院下野(祝部允仲まさなか女)→ 下野(しもつけ、歌人) F 2 1 9 4
男 → 家清(いえきよ・源、廷臣/歌人) 1 1 3 3
女 → 但馬(たじま・藻壁門院、女房/歌人) E 2 6 6 6
- E1190 **家長**(いえなが・高辻たかつじ、通称;勝麻呂、総長男/本姓菅原)1715-7662 廷臣;1793参議/53権大納言、
1765式部大輔/正二位/66出家、「宇野明霞墓碑銘稿」著、
[家長の号] 安楽常院、法名;香海
- E1191 **家長**(いえなが・植村うゑむら、植村家道2男)1754-182875 植村家利の養嗣;大和高取藩主;1785襲封、
兵部少輔/出羽守/駿河守/従五下、1793奏者番/99寺社奉行/1805若年寄、25老中格、
妻;松平忠恕女、詩/蹴鞠;飛鳥井家門、1791「並鄂百絶」/98「植村家御記録并系図」著、
[家長(;)名の通称/号] 通称;熊五郎/熊之助/兵部、号;廷君、法号;顕誠有隣浄徳院
- 1151 **家成**(いえなり/いせいげ・藤原ふじわら、通称;中御門中納言、家保男)1107-5448 母;隆宗女典侍悦子、
廷臣;1137参議、1149正二位中納言/若狭・播磨守/鳥羽院の有力近臣;
権勢を張る[天下の事を挙げて一向家成に帰す](長秋記)、「装束要抄」著、著聞集に逸話、
歌人;1135・36(保延元・2/四度)家成歌合/49(久安5)「右衛門督家成歌合」催など歌合催、
寂超「後葉集」1首入、勅撰3首;詞花(96/143)/続拾(853)、
顕輔の甥/隆季たかすえの父/祖父;顕季/従妹;美福門院びくもんいん得子(鳥羽天皇皇后)、
[春夏はるなつは空やは変はる秋の夜の月しもいかで照りまさるらん](詞花;96/家の歌合)
- E1192 **家業**(いえなり・藤原ふじわら) ? - ? 鎌倉末期/歌人;1321外宮北御門歌合参加、
[偽いつりはなかなかうしと思へども契ればたのむゆふぐれの空](外宮歌合;45番右/待恋)
- 1152 **家齊**(いえなり・徳川とくがわ、幼名豊千代、法号;文恭院、一橋治済男)1773-184169 母;岩本正利女、
1786;11代将軍、太政大臣/1787-93定信の寛政改革、
以後側近政治;政治に無頓着/華奢放漫な生活、
連歌;1833家齊本卦返祈祷奉納何路百韻
- E1103 **家成女**(いえなりのむすめ、藤原忠雅の室)1129-? 兼雅の母、1177出家、兼実「玉葉」入
家主(いえぬし) → 屋主(やぬし・やかぬし・丹比、歌人) D 4 5 9 3
- K1199 **家信**(いえのぶ・藤原ふじわら、忠実[忠家男/鬼大夫]男)?-? 母;大蔵卿藤原長房(1029or30-1099)女、
外祖父長房の養子、伯父に俊忠(俊成の父)、平安後期廷臣;従五上/主殿頭、
歌人;1116(永久4)参議実行歌合の講師(判者顕季)、経能の兄/信房・経憲・師憲・忠房の父
- D1131 **家宣**(いえのぶ・日野ひの/本姓;藤原、資実男)1185-122238 母;八条院女房播磨局、鎌倉前期廷臣;
漢学;1201文章得業生、1220左大弁/21参議;長門権守/22勸学院別当、
詩人;1205元久詩歌合/13内裏詩歌合参加、
[春山斜繞湖三面 夜泊先聞湖一声](元久詩歌合;三十一番左)

- 1153 **家信** (いへのぶ・大炊御門おおいのみかど、法名;空覚、冬氏男/本姓藤原) 1316-? 南北期廷臣、1359大納言、正二位/1366(51歳)出家、歌人;新千載1360、母;吉田経長女、氏忠の異母弟/冬信の実弟、[偽いつはりと思ひもわかぬ心にて更け行くさへぞ知られざりける](新千載:恋1360)
- C1111 **家信** (いへのぶ) ? - ? 戦国期連歌;1558「花千句」参加;宗養・紹巴らと
- 1154 **家宣** (いへのぶ・徳川/初名綱豊、幼名虎松、綱重男/本姓源) 1663-1712 50 母;於保良(田中氏)、江戸幕府6代将軍、1678家督嗣;甲斐府中藩主/叔父綱吉の養嗣子;1709将軍就任、幕政刷新;間部詮房・新井白石を登用、三宅観瀾/室鳩巢らを招聘、新井白石に「藩翰譜」作成を命ず、「家宣公御遺訓」著、正室;近衛熙子(天英院)/側室;お古牟(法心院)・お喜世(月光院)・お須免(蓮浄院)・斎宮(本光院)
- E1193 **屋信** (いへのぶ・羽多野はたの) 1683 - 1742 60歳 筑前遠賀郡黒崎の鷲見権現本宮の大宮司、儒学;貝原益軒門、「筑前神宮考」「筑前神宮考畧」「神書日根鏡」著
- 1155 **家教** (いへのり・花山院かざいん、通雅男/本姓;藤原) 1261-97 37 母;中院(源)通方女、廷臣;1276参議、1288権大納言、右大将/東宮大夫/正二位、歌:1289和歌御会・93伏見天皇永仁内裏御会参加、勅撰8首;続拾遺(391)新後撰(430)玉(5首351/756/881/1460/1583)新千載(966)、宴曲抄の早歌作者(花山院右幕下家)か?、[あらし吹く木の葉に音をさきだてて時雨もやらぬむら雲の空](続拾遺;六冬391)
- E1194 **家規** (いへのり・為田ためだ、号;南北亭) 1676-1755 80歳 伊勢山田歌人、「新世中百首」著
家教 (いへのり・園) → **基氏** (もとうじ・園その/藤原、廷臣/歌人) C 4 4 1 4
家憲 (いへのり・神田/奥山) → **金陵** (きんりょう・奥山おくやま、医者/詩文) S 1 6 1 5
- E1195 **宅彦** (いへのこ・松木まつき、意彦男) 1758-1818 61 伊勢度会郡の神職;外宮権禰宜、和学者/歌人、「北御門社遷宮行事覚書」著、恒彦つねひこの父、[宅彦の通称] 能富蔵/雅楽之助うたのすけ/右京雅楽之助
 ☆[松木外宮禰宜家] 匡彦-盛彦(養子)-満彦 ┌ 直彦-智彦-卓彦-言彦-算彦-品彦(養)-偉彦(養)
 └ 親彦-条彦-意彦-宅彦-恒彦-武彦-偉彦 ↑
- 1156 **家久** (いへのひさ・島津しまづ/本姓惟宗こむね、貴久男) 1547-87 毒殺 41 薩摩武将;1570隈城/串木野領主、日向伊東氏攻略/1579日向佐土原城主、87秀吉軍に敗北;開城拒否/毒殺、1575「家久公上京日記」著、連歌;75紹巴と何路百韻、義久の弟/豊久の父、[家久の通称] 又七郎/中務大輔
- E1196 **家久** (いへのひさ・島津しまづ/賜姓;松平、別名;忠恒、義弘男) 1576-1638 63 武将;陸奥/薩摩/大隅守、父と朝鮮出兵/関原西軍参、1602鹿兒島築城/09琉球出兵/奄美を直轄/17賜姓、歌;智仁としひと親王・樺山玄左/国学;喜入久正門、1630「聖蹟」編、[家久(;名)の通称/法号] 通称;米菊丸/又八郎/陸奥守/薩摩守/大隅守、法号;慈眼院
- E1197 **家久** (いへのひさ・近衛このえ、家熙いへのひろ男/本姓藤原) 1687-1737 51 母;霊元皇女憲子内親王、廷臣、1715右大臣/22左大臣/26関白/氏長者/33太政大臣/37准三宮、法号;如是観院、内前うらさきの父、「家久公記」著、歌人;1729「観象詩歌」35「関白家会始」、「自享保十八廿迄御会始和歌」著
家久 (いへのひさ・長井) → **伴自** (ばんじ・長井ながい、俳人;雑俳点者) 3 6 4 6
家仁親王 (いへのひと・桂宮) → **家仁親王** (やかひとしんのう・桂宮、詩歌) 4 5 4 0
- 1157 **家衡** (いへのひら・藤原ふじわら、号;六条、従三位経家男) 1179-1245 67 母;頼輔女/鎌期廷臣;春宮亮、1210(承元4)非参議/従三位、20(承久2)正三位/恐懼;屢々行幸不参加、25(嘉禄元)出家家方・家季・承快・覚経の兄弟/家清・光衡・師平・家盛・雲経の父、歌人;1200若宮歌合/01十首和歌/新古今竟宴和歌/13内裏詩歌合/15建保名所百首参加、1216・19内裏百番、18中殿御会和歌/道助法親王家五十首和歌参加、雲葉集入、勅撰9首;新古(92/1620)新勅(486/855)続後撰(1256)続古(740)新後撰(1588)新続古(2首)、[厭ひてもなほいととはしき世なりけり吉野の奥の秋の夕暮](新古今集;十七雑1620)
- 1158 **家平** (いへのひら・近衛このえ、関白家基男/本姓;藤原) 1282-1324 43 母;鷹司兼平女、廷臣;左近大将、1292(正応5/11歳)権中納言/95権大納言/1305右大臣/09左大臣/13関白/氏長者/従一位、1224(元亨4)出家;没、1313「岡本関白記」「伏見院御落飾記」著、歌;勅撰8首;新後撰(1177)/玉(960-下4首)/続千(260/774)/新拾(1525)、連歌;新菟2句入、

[つらくともさのみはいかにかから衣うき身をしらで人をうらみむ](新後撰;恋1177)、

[家平(;名)の号/法名] 号:岡本殿/通称;岡本関白、法名;如理、 経忠の父

家平(いえひら・衣笠) → 冬良(ふゆよし・ふゆら・衣笠きぬがさ/藤原、中納言/歌) I 3 8 8 3

- 1159 家熙(いえひろ・近衛このえ、法名;眞覚、関白基熙男)1667-173670 母;常子、1693右大臣/1704左大臣、
1707関白/09撰政/10太政大臣/25准三后;出家、家久の父、書;行成風再興、画/茶/立花/故実、
黄檗に帰依;高泉/百拙門、「家熙詩文集」「阿倍仲麿考」著、口述随筆「槐記」道庵編、
「家熙公記」著、

[家熙の号] 吾楽軒/昭々堂/虚舟子/墨如/青々林/物外楼主人/子楽院眞覚虚舟(出家後)

- E1198 宅弘(いえひろ・金子かねこ、通称;嘉治馬、宅孚男/本姓;平)1815-4733 高知藩士;御船奉行/軍備御用、
国学・篤胤門、藩校教授館御目付;鹿持雅澄/徳永千規を登用、歌;「愚詠百首」著

家寛(いえひろ・泉) → 家胤(いえたね・泉いずみ、易/国学/神職) J 1 1 9 2

- 1160 家房(いえふさ・藤原ふじわら、関白基房男)1167-96早世30 母;内大臣藤原公教女、廷臣;中宮大夫、
1195(29歳)権中納言/従二位、歌人;1193六百番歌合/94中宮任子和歌会参加、
勅撰3首;新古(1131)新続古(1176/1787)、雲葉集入、
[逢ふことはいつと伊吹の峰におふるさしも絶えせぬ思ひなりけり]、

(新古今集;恋1131/撰政太上大臣[藤原良経]家百首歌合、

本歌;かくとだにえやはいぶきのさしも草さしも知らじな燃ゆる思ひを/後拾;実方)

- K1185 家房(いえふさ・一条いちじょう/本姓;藤原ふじわら、撰政関白実経5男)1270-? 母;園基氏女、鎌倉期廷臣、
左少将/1289従三位/非参議/92正三位/94左近中将/96従二位/98正二位/近江権守兼任、
1307陸奥権守/1319左中将解任/1325(正中2)以降消息不明、女(歌人;藤葉集入)、
兄弟;静巖(大僧正)・家経(左大臣/氏長者)・実家(太政大臣)・慈信(大僧正)・
師良(左中将)・慈昭(大僧正)・慈玄(大僧正)・瑠子きよくし(従三位/後二条院尚侍)・
忠輔(左中将)・家房(正二位中将)・道淳(法印)・巖昭(法印権大僧都)・一条内実室

- E1199 家房(いえふさ・清閑寺せいかんじ、資定男/本姓;藤原)1355-142369歳 室町期廷臣;1393参議、
1406権中納言/正二位、連歌;1401「応永八年四月四日・朝何百韻」(;葉室定頭らと)

- K1186 家房女(いえふさのむすめ・一条いちじょう/藤原)?-? 鎌倉南北期;歌人;小倉実教[藤葉とうよう集]2首入、
左近中将正二位一条家房(1270-?)女、
[木間もる夕日のかげもうつろひて松も色づく峰の紅葉ば](藤葉;秋281)

- K1169 宅旧(いえふる・水沢みずさわ、通称;下総)1830-190980 信濃佐久郡碓氷峠の熊野皇大神社禰宜、国学

- 1161 家雅(いえまさ・花山院かざんいん/本姓;藤原、長雅男)1277-130832 母;藤原家持女、鎌倉期廷臣;
1296参議、1302権大納言、歌;京極派、1299伏見院五種/仙洞歌合/1304伏見院歌合参加、
勅撰7首;新後撰(419)玉葉(435/2148)続千載(1344)風雅(3首201/735/1762)、藤葉集入、
[たが里も夜寒はしるを秋風にわがいねがてとうつ衣かな](新後撰;秋419))

- 1162 家尹(いえまさ/いえただ・月輪つきわ、良尹男/本姓藤原)?-1387 廷臣;中将/1382従二位/二条良基側近、
歌人;1366年中行事歌合/67新玉津島社三十首参加、新続古今集395、
連歌;1355文和千句(名;家で第一百韻3句)菟玖波10句入、季尹すえまさの父、
[夕霧も立つ宮城野の秋萩は木の下闇の錦なりけり](新続古;395/新玉津島三十首入)
[草くらき燈としびなれや早百合ばな](菟玖波;発句2101二条関白家千句)

- C1112 家正(いえまさ・井上いのうえ) ? - ? 江戸前期;歴史学者、
1670一竜編「後太平記」(1677刊)の校訂/跋文、「(後太平記)の定稿は多々良一吹)

参考 → 一竜(いちりゅう・多々良、軍記作者) C 1 1 6 3

→ 一吹(いっすい・多々良/滝川吹毛、「後太平記評判」著) C 1 1 8 5

- K1164 宅政(いえまさ・堀ほり、通称;惣右衛門)1654-173178 備前岡山藩士、武術家/和学、
関口新心流武術;三宅角右衛門宅重門/柔術・居合・剣・槍・馬・縄・棒術など伝承

- D1132 家雅(いえまさ/いえただ・慶徳けいとく/初姓;笠井かさい)1724-9168 伊勢度会郡の慶徳武遇の養嗣子;
伊勢山田の神職;御師、儒者、荒木田麗女(武遇女)の夫、歌/俳諧、1790「要書目録」編、
[家雅(;名)の字/通称/号]字;如松、通称;藤蔵/三郎太夫、号;陶斎

妻 → 麗女(れいじょ・荒木田、歌・連歌/物語作者) 5 1 0 2

家雅(いえまさ・花山院) → 定熙(さだひろ・花山院/李/藤原/西園寺、左大臣/連歌) J 2 0 5 4

家雅(いえまさ・広橋) → 昭巖(しょうがん;法諱、真宗木辺派僧) I 2 2 8 8

- F1100 **家躬**(いへみ・藤原ふじわら、家重男)?-? 鎌倉期;後宇多院上北面(父も後宇多院出仕)、
 彈正少弼/從五下、連歌:菟玖波集3句入;611/1166/1930、
 [我頼むやしろの御名もかもの足](菟玖;釈教611/前句;みじか夜なれば祈り明かしつ)
- E1165 **家通**(家道いへみち・藤原ふじわら、顕綱男)1056-111661 母;隆経女/平安後期廷臣;宮内卿/正四下、
 初め加賀守/右少将、歌:1078内裏歌合参加(:越前守名)、顕経・源豪・恵暁の父、
- 1163 **家通**(いへみち・藤原ふじわら、初名;基重、忠基男)1143-118745 母:藤原有広女(師輔養女)、
 藤原重通の猶子、妻:藤原俊成女、廷臣;左衛門督/藏人頭/1166参議/83権中納言/84正二位、
 笛の名手、「角金記」著、歌人;続詞花集入、勅撰4首;千載(743/775)新古今(1224/1488)、
 [逢ふことをさりともとのみ思ふかな伏見の里の名を頼みつつ](千載集;恋743)
 (伏見に臥し身を掛ける)
 ☆息子;定通・時通・敦通(中将)・親通・信家(法印)・重信(権大僧都)・尊能・円家(法眼)
- 1164 **家光**(いへみつ・日野ひの、法名;光寂、資実男/本姓;藤原)1199-123638 母;平棟範女棟子、
 鎌倉期廷臣;文章博士/東宮学士/1225参議/31権中納言/從二位、36出家、「家光卿記」著、
 詩;1213内裏詩歌合参、歌;1232石清水若宮歌合参、続拾761/新後撰1605、資宣^{すけのぶ}の父、
 [神代より祈るまことのしるしにはいはとの山の榊をぞとる](新後撰;賀1605)、
 (嘉禎元年[1235]大嘗会悠紀神楽歌 石戸山)
- 1165 **家光**(いへみつ・徳川とくがわ/松平、秀忠男/本姓源)1604-5148歳 母;浅井長政女お江ごう(崇源院)、
 江戸城の生、1623:三代将軍/実権は父とその側近が掌握、祖父を尊崇し日光東照宮を造営、
 父没後に実権把握、鎖国令布告、「武家諸法度」改訂、
 歌人;1626後水尾天皇二条城歌会(;秀忠と参加)、
 「家光公詠歌」「一人一首」「大猷院殿御詠歌」著、
 連歌;29-35昌琢と1629「山何百員」等3度百韻、
 [家光(;名)の幼名/法号]幼名;竹千代、法号;大猷院、家綱・綱吉の父
- K1123 **家満**(いへみつ・黒田くろだ、)?-?天明1781-89頃没 出雲能義郡の商家;和泉屋、国学者、
 [家満(;名)の通称/号]通称;勘十郎、号;呂琴、屋号;和泉屋
- F1101 **家宗**(いへむね・藤原ふじわら、濱雄男)817-87761歳 母;息長女/廷臣;文章生/648勘解由判官、
 868藏人頭、872参議;勘解由長官/874左大弁/讃岐守/從三位、日野法界寺の創建
- F1102 **家棟**(いへむね・源みなもと、家清男)?-? 鎌倉期廷臣;左近将監/歌;1251影供歌合参加
 姉妹;延明門院大夫(延子内親王家女房歌人)、父/祖父/おばも歌人
 父 → 家清(いへきよ・源、法名;最智/続後撰以下歌人) 1 1 3 3
 姉妹 → 大夫(だいは・延明門院[1291-?]女房/続千載歌人) C 2 6 1 2
 祖父 → 家長(いへなが・源、廷臣/新古今以下歌人) 1 1 4 9
 おば → 但馬(たじま・藻壁門院、新勅撰以下歌人) E 2 6 6 6
- 1166 **家茂**(いへもち・徳川とくがわ、初名慶福よしとみ、昭徳院、斉順男)1846-66早世21歳 初め紀州藩主、
 1858;14代将軍、公武合体のため和宮かづのみやと結婚、征長軍統督/大阪城で第2次統督中病没
- 1167 **家基**(いへもと・近衛このえ、基平男)1261-9636歳 鎌倉期廷臣;1270從三位/75内大臣/81從一位、
 1288右大臣/89関白/氏長者、家平/経平の父、「家基消息」著、歌人:京極風、
 1293永仁元年内裏御会5首参加、没後;小倉実教[藤葉集]3首入(浄妙寺関白前右大臣名)、
 勅撰13首;続拾(348/766/1432)玉(200/802/989/1601)続千(3首)風雅(2首)新拾(1127)、
 [草の原はつ霜まよふ月影を夜寒になして虫や鳴くらん](続拾遺;秋348/内大臣名)、
 [今夜しもながめへだつる雲の上の月吹きおくれ天つ秋風](永仁内裏御会21)、
 [家基(;名)の通称]浄妙寺[院]殿/高山寺殿/後近衛関白
 家職(いへもと・源) → 家職(いへよし・源、歌人) D 1 1 3 4
 家基(いへもと・藤原) → 素覚(そかく;法諱、藤原、廷臣/歌人) D 2 5 4 1
- F1103 **猪右衛門**(いへもん;通称・藤田ふじた)?-? 江前期肥前平戸藩士、
 兵法家:和蘭船長達儀司たつき流山りゅうざん門、水軍達儀司たつき流(南蛮流)を創始、「尊船」編
- F1104 **易右衛門**(いへもん・金こん、名:秀興、秀常の長男)1776-183964 羽後秋田藩士;1791出仕;大番、
 能代奉行/勘定奉行兼銅山奉行/大坂奉行、1826養蚕座を設置;秋田の蚕糸業を振興、
 俳諧を嗜む、1812「道中記」著、
 [易右衛門(;通称)の号]号;古秋園/小野人/一陽

伊右衛門(いえもん・渋井)→ 徳章(のりふみ・渋井しぶい、儒者/伝記) F 3 5 7 2
 伊右衛門(いえもん・藤田)→ 豊高(とよたか・藤田、能楽師/日記) R 3 1 2 1
 伊右衛門(猪右衛門いえもん・長命正次)→ 仁右衛門(にえもん・鷲さぎ、狂言師) 3 3 1 0
 伊右衛門(いえもん・小西)→ 来山(らいざん・小西こにし、俳人) 4 8 0 1
 伊右衛門(いえもん・吉沢/橋村)→ 正竹(まさたけ・橋村/度会、神職/古典) D 4 0 3 2
 伊右衛門(いえもん・渡辺)→ 覚(さとる・渡辺わたなべ、歌人) P 2 0 8 4
 伊右衛門(いえもん・藤田)→ 吉勝(よしかつ・藤田ふじた、和算家) C 4 7 8 5
 伊右衛門(いえもん・榊屋)→ 業言(ぼくげん・寺島/西尾、本陣職/俳人) D 3 9 0 5
 伊右衛門(いえもん・松平)→ 甫昌(やすまさ・松平まつだいら、幕臣/和学) G 4 5 7 0
 伊右衛門(いえもん・宮竹屋)→ 小春(しょうしゅん・亀田、薬種業/俳人) T 2 2 0 2
 伊右衛門(いえもん・宮竹屋)→ 鶴山(かくざん・亀田かめだ、商人/詩人) J 1 5 9 2
 伊右衛門(いえもん・宮竹屋)→ 敦(あつし・亀田、鶴山孫/商家/詩) E 1 0 6 5
 伊右衛門(いえもん・河津/加藤)→ 宇万伎(美樹うまさき・加藤、幕臣/国学) 1 2 8 5
 伊右衛門(いえもん・松葉屋)→ 松翁(しょうおう・布施ふせ、商家/心学者) S 2 2 0 2
 伊右衛門(いえもん・山根/桑原)→ 黙斎(もくさい・桑原/山根、宿場取締/史家) 4 4 8 5
 伊右衛門(いえもん・礪波屋)→ 今道(いまみち・礪波となみ/辻、漆工/国学者) I 1 1 2 8
 伊右衛門(いえもん・三田)→ 葆光(かねみつ・三田さんだ、幕臣/歌人) O 1 5 9 8
 伊右衛門(いえもん・白倉)→ 瓦鬼面(かわらのおにつら、白倉、商家/狂歌) H 1 5 9 1
 伊右衛門(いえもん・富川)→ 玄嶽(げんがく・富川とみがわ、儒者) I 1 8 2 8
 伊右衛門(いえもん・富川)→ 大塊(たいかい・富川/大橋、玄嶽の養子/詩文) J 2 6 4 3
 伊右衛門(いえもん・滝本)→ 柳蔭(りゅういん・滝本たきもと、歌人/儒者) C 4 9 7 6
 伊右衛門(いえもん・富本)→ 竹徳(たけのり・富本とみもと/杉野、神職/歌) Y 2 6 4 3
 伊右衛門(いえもん・飛田)→ 古根(ふるね・飛田、俳人) E 3 8 6 8
 伊右衛門(いえもん・吉川)→ 春朝(春潮しゅんちよう・吉川、商家/俳人) K 2 1 2 6
 伊右衛門(いえもん・松尾屋)→ 吾雀(ごじゃく、大阪妓楼主人/俳人) M 1 9 7 1
 伊右衛門(いえもん・那波/吉川)→ 五明(ごめい・吉川、商家/俳人) D 1 9 9 3
 伊右衛門(いえもん・山内)→ 忠義(ただよし・山内やまのうち、藩主/日記) R 2 6 2 3
 伊右衛門(いえもん・広瀬)→ 巖男(いずお・よしお・広瀬、商家/国学者) F 1 1 7 1
 伊右衛門(いえもん・仙石)→ 釐(おさむ・仙石せんごく、代官/国学者) D 1 4 9 7
 伊右衛門(いえもん・常磐井)→ 守貫(もりつら・常磐井ときわい、神職/歌人) K 4 4 5 0
 伊右衛門(いえもん・平山)→ 満晴(みつはる・平山ひらやま、醸造業/国学) K 4 1 2 7
 伊右衛門(いえもん・山内)→ 豊敷(とよぶ・山内、藩主/学問奨励/歌) R 3 1 4 3
 伊右衛門(いえもん・河野)→ 守弘(もりひろ・河野/越智/石崎、国学/史家) G 4 4 4 1
 伊右衛門(いえもん・田中)→ 利諄(としあつ・田中たなか、歌人) V 3 1 5 1
 伊右衛門(いえもん・中津)→ 光多(みつな・中津なかつ/中村、国学/歌) J 4 1 9 1
 伊右衛門(いえもん・森)→ 光保(みつやす・森もり、国学者・歌人) K 4 1 8 1
 伊右衛門(いえもん・大谷)→ 道輔(みちすけ・大谷おおたに、商家/国学者) I 4 1 3 8
 伊右衛門(いえもん・宮崎)→ 曩宗(ひさむね・宮崎みやざき、国学者) L 3 7 4 4
 伊右衛門(いえもん・村上)→ 義曜(よしあき・村上むらかみ、名主/歌人) P 4 7 5 2
 猪右衛門(いえもん・岸本/木村)→ 調和(ちやうわ・岸本/木村、俳人) 2 8 2 9
 猪右衛門(いえもん・横井)→ 時敏(ときとし・横井よこい、藩士/儒者) J 3 1 4 5
 猪右衛門(いえもん・日置)→ 忠尚(ただひさ・ただなお・日置へき/池田、藩老/画) Z 2 6 4 0

1104 **家康**(いえやす・徳川とくがわ/松平/本姓;源、松平広忠男)1542-1616 75歳 三河岡崎城に生、
 諸大名の覇権争奪の中に成長、1590江戸入府/1600関ヶ原合戦/1603征夷大將軍;
 江戸に幕府を開設;江戸幕府初代將軍;従一位太政大臣、1605將軍引退後も駿府で行政、
 1615「武家諸法度」「禁中並公家諸法度」を制定、古典籍・古記録蒐集、伏見・駿河版の刊行、
 1590「徳川家康軍法書」94「吉野百首」、「家康公消息」「御金言記」「神君教牘」外著多数、
 [人の一生は重荷を負て遠き道をゆくがごとし いそぐべからず](伝家康「東照公遺訓」)
 [家康(;名)の幼名/別名/通称]幼名;竹千代、初名;元信/元康、

通称;次郎三郎/内府/大御所、大神君/前大樹公、諡号;東照大権現
[家康四天王(徳川四天王)] 家康の4人の重臣

本多忠勝 → 忠勝(ただかつ・本多) 1548-1610 P 2 6 3 7
榊原康政 → 康政(やすまさ・榊原) 1548-1606 C 4 5 9 3
井伊直政 → 直政(なおまさ・井伊) 1561-1602 C 3 2 3 4
酒井忠勝 → 忠勝(ただかつ・酒井) 1587-1662 E 2 6 9 3

家泰(いえやす・本郷) → 照覚(昭覚しょうかく;法諱、武家/歌人) F 2 2 8 3

- 1168 家行(いえゆき・渡会わたらい/家名;村松、初名;行家、有行男) 1256-1351⁹⁶ 鎌倉南北期;伊勢の神職;
1306外宮九禰宜/39一禰宜;辞任/41還任/従三位、1349北朝より違勅の科で解任、
度会行忠を継承;度会神道を大成、南朝方に与す;北畠親房/顕信親子を援助、
1343親房を自邸に迎え吉野に送る、伊勢多気郡近津長谷城に籠城し奮戦、
1320「類聚神祇本源」/30「神祇秘鈔」、「瑚漣集」著、1342坂十仏に度会神道を講説、
歌人;1321外宮北門歌合参加、風雅(2117)/新葉(576)、

[神がきの御室のさかきさしそへて君をときはのとなほいのるかな](新葉集;神祇576)

- D1133 家之(いえゆき・浅井あさい/本姓藤原、字;玄中) ?-? 1716-36頃周防三田尻神道家、
「神国芦分草」/1732「神道俗説問答」著
- K1148 舎幸(いえゆき・奈良原ならはら、通称;出雲/清志) 1824-1912⁸⁹ 上野勢多郡の国学者;平田夔胤門、
守得もりの父
- 1137 家栄(いえよし/いえたか・賀茂、道栄男) 1066-1136⁷¹ 平安中期陰陽家/暦博士/陰陽頭/正四下、
「陰陽雑書」「陰陽抄」「雑書」著
- D1134 家職(いえよし/いゑもと・源、筑前七郎) ?-? 平安中期歌人、
1100国信くにぎぬ催「源宰相中将家歌合」入、
[いつとだにまた逢ふことを契りせば日をかぞへてえも慰めてまし]
(源宰相中将家歌合;12番左;遇不逢恋)
- 1103 家良(いえよし・衣笠きぬがさ、通称;衣笠内大臣/衣笠内府、忠良男/本姓;藤原) 1192-1264⁷³ 母;定能女、
廷臣;1211非参議/右中将/24中納言/27権大納言/38大納言/40内大臣/41致仕、
歌:1244「新撰和歌六帖」催、48「万代和歌集」「現存和歌六帖」を真観と共編、48宝治百首参、
1214月卿雲客妬歌合/18中殿御会/51影供歌合/53定家13回忌追善詩歌に歌入、
1261弘長百首参加、1262続古今集撰者;完成前に没、
家集「家良公集」「衣笠内大臣集」「衣笠前内大臣家良公集」、
勅撰119首;新勅撰(7首;38/329/693/796以下)続後撰(14首)続古(26首)続拾遺(17首)以下、
雲葉集入(前内大臣家)、
[たまぼこの道の行くての春風にたが里しらぬ梅むめの香かぞする](新勅;春38)
- K1124 家義(いえよし・慶徳けいとく/本姓;秦、) 1637^{or40}-1718^{82or79} 伊勢度会郡の和学/歌人;冷泉家入門、
[家義(;名)の通称/号]通称;徳三郎/三郎太夫/三二、
号;一翁/砧々園ちんちんえん/啄々園/三寿軒
- J1191 舎栄(いえよし・泉いづみ/土屋/本姓;荒木田、通称;右門) 1734-90⁵⁷ 伊勢度会郡の伊勢内宮祠官、
国学;本居宣長門
- F1106 家慶(いえよし・徳川とくがわ/松平/一橋、家斉男/本姓;源) 1793-1853⁶¹ 母;お楽(押田氏)、
1837;江戸幕府12代将軍、水野忠邦を重用;天保改革/阿倍正弘起用、
連歌;1834「家慶公後厄祈祷二百韻」一座、
[家慶の幼名/法号] 幼名;敏次郎、法号;慎徳院
- K1190 家頼(いえより・藤原ふじわら、資定男?) ?-? 鎌倉期廷臣;歌人;1253-4成立[雲葉集]入、
資定男なら;従五下治部大輔/日野資宣すけのぶ(1224-92/勅撰歌人)の甥、
[岡刈萱といふ事を、
かち人のゆききの岡のかるかやは折れふす方や道となるらん](雲葉;秋427)
- F1107 家順(いえより) ? - ? 戦国期;連歌作者
1537. 5. 22今城能親張行「伊予千句」連衆:周桂・宗牧らと
- K1194 以円(いゑん;釈/法諱) ? - ? 鎌倉南北期;僧、
歌;1334(建武元)[度会朝棟亭八月十五夜歌会]参加(3首)、

[難波潟蘆の葉わたる浦風に更けてさびしき秋の夜の月](朝棟亭歌会;100)

[そむきても同じうき世にすみ染の袖とふ月や命なるらん](同;102)

- C1113 **以円**(いえん;法諱) ? - ? 和泉堺の善通寺住僧/俳人、
1654宗因「平野権現千句」参加、1676西鶴「古今誹諧師手鑑」入、
[三物は新しきよし筆始め](手鑑/三物;元日宗匠門弟集り歳旦の第三句迄を付る)
- F1108 **惟琰**(いえん;法諱・隠山いんざん;道号、号;正灯円照禅師、俗姓杉本) 1753-181765 越前臨濟僧;老山門、
1772諸国行脚/月船禅慧・峨山慈棹門、1808妙心寺住;11鶴棲院中興、「隠山録」「滴翠録」
- F1109 **以燕**(いえん・谷たに、通称;東平/号;竜岡りゅうこう) ?-? 江後期備中曆算家;松岡能一/麻田剛立門、
1805「起術解」22「精要算法築山題起元」、「算法浅題解」「演段諺解」著、「日食校算稿」編
- 惟遠(いえん・平) → 惟遠(これとお・平たいら、連歌) O 1 9 5 6
為遠(いえん・二条) → 為遠(ためとお・二条/御子左、廷臣/歌人) 2 6 6 5
漪園(いえん・前田修) → 梅洞(ばいどう・前田、藩士/儒者/詩人) B 3 6 9 1
威遠(いえん・下曾根[禰]) → 信教(のぶあつ・下曾根、幕臣/砲術) 3 5 9 2
威遠(いえん・若林) → 友之(ともゆき・若林わかばやし、藩士/砲術) Q 3 1 8 3
以遠斎(いえんさい・佐竹) → 義純(よしずみ・佐竹さたけ、藩主/歌) K 4 7 5 2
以遠斎(いえんさい・佐竹) → 義遵(よしゆき・佐竹さたけ、藩士;城代) I 4 7 0 0
- F1110 **愷翁**(いおう・宇井うい、名;雄真/字;文翼、朝鮮人の金作寿の長男) 1702-5958 母;宇井道慶女、
紀州新宮の儒者、上京;伊藤東涯門/帰郷;開塾、「諸物考案」「とはず語」著
- 惟翁(いおう・安藤) → 惟実(これざね・安藤あんどう、詩人) O 1 9 3 6
医王堂(いおうどう) → 李庵(りあん・北山きたやま/橋、医者) 4 9 2 8
医王如来(いおうにょらい) → 忍性(にんしょう、真言律僧/社会事業) G 3 3 5 0
五百枝(いおえ・安間) → 敬長(けいちよう・安間あんな、藩士) G 1 8 3 8
五百枝(いおえ・佐藤) → 一米(いちべい・五大庵、佐藤常範/神職/俳) J 1 1 1 8
五百枝(いおえ・竹矢) → 信昌(のぶまさ・竹矢たけや/田辺、神職/歌) J 3 5 0 3
- 1105 **五百重娘**(いおえのおとめ・藤原夫人ふじわらぶにん/大原大刀自おおはらのおとし、鎌足女) ?-? 氷上ひがみの大刀自の妹、
姉と共に天武天皇の夫人;新田部皇子にいたべのみこの母、
のち天皇没後;異母兄藤原不比等の妻となる;麻呂の母、
万葉二期歌人;2首/二104;天武天皇と相聞/八1465;夏雑歌、
[我が岡の霏おかみに言ひて降らしめし雪の摧げけしそこに散りけむ](万葉;103/天皇へ返歌)、
(霏おかみは水神、天皇の贈;103/我が里に大雪降り大原の古りにし里に降らまくは後の)
- 五百右衛門(いおえもん・大橋) → 得山(とくざん・大橋おおはし、藩士/記録) K 3 1 7 8
- K1176 **五百杵**(いおき・山中やまなか、通称;熊之進) ?-1859 三河吉田藩の陪臣、国学者/歌人、
河合象子さきこ(1838-1909/歌人)の父、歌;[類題三河歌集]入
- K1133 **五百樹**(いおき・城村しむら/じょうむら) 1826-9065 長門萩の春日神社神官、国学;足代弘訓門、
歌;近藤芳樹門、毛利家祖霊社伶人、1887(明治20)長門萩の住吉神社宮司、「神詠弁」著、
中臣光美みつよし編「やまかつら」(歌舞の考証解説書)の解説執筆、
[五百樹(;名)の別名/通称]別名;夏海、通称;又一郎
- K1149 **五百樹**(いおき・中尾なかお、通称;鬼太郎) 1840or42-98or9959or58 江戸の生/国学者;鈴木重胤門、
肥後熊本藩士/維新後;教部省出仕/1879(明治12)肥後熊本菊池神社主典、
皇典講究所監事兼教諭
- 五百木(いおき・岡村) → 義比(よしちか・岡村おかむら、藩士/詩/書) E 4 7 5 1
- J1166 **五百子**(いおこ・真田さなだ) ? - ? 江後期歌人、真田家の室、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[池水にうつれる月の玉ならばむすびて袖のものとなしてん](大江戸倭歌;秋694)
- K1109 **五百子**(いおこ・奥村おくら、了寛女) 1845-190762 肥前唐津の真宗大谷派釜山海高德寺の生、
住職の父の影響で尊攘運動に参加/1862(文久2)男装で長州藩へ密使、
福成寺住職大友法忍と結婚;死別/水戸藩出身の志士鯉淵彦五郎と再婚;離婚、
唐津開港に尽力/1896朝鮮半島光州に実業学校を創設;
浄土真宗布教活動のため半島に来た兄を支援、北清事変後の現地視察;兵士救護を痛感、

1901愛国婦人会創設;全国公演活動

- 五百輔(いおすけ・檜崎) → 景海(かげうみ・檜崎ならさき、藩士/国学/歌) K 1 5 7 9
 五百三(いおぞう・吉原) → 鵬居(ほうきよ・吉原よしわら、俳人) 3 9 4 2
 五百園(いおぞの) → 海一(うみかず・永田ながた、国学/神職) E 1 2 8 1
 庵常(庵恒いおつね・細木) → 瑞枝(みずえ・細木ほそぎ、農政/歌人) 4 1 9 0
 庵主(庵主いおぬし) → 増基(ぞうき;法諱、僧/歌人) 2 5 9 6
 五百部(いおべ・葛城) → 経成(つねなり・竹内たけうち/葛城/日野、藩士/勤王) F 2 9 9 7
 F1111 庵丸(いおまる・山口やまぐち・茅花塘)?-? 江後期撰津住吉狂歌:玉雲齋貞右[混沌軒国丸]門、
 1796「狂歌井の蛙」著
 1169 五百麻呂(いおまる・百鷹ももまるか?・忍海部おしぬみべ)?-? 755防人、下総結城郡出身、万葉廿4391、
 [国々のやしろの神に幣ぬき奉まり我が恋すなむ妹がかなしき](万葉;廿防人歌4391)
 K1107 五百世(いおよ・岡崎おかざき、旧姓;南部) 1817-90 74 備前邑久郡の神前神社祠官、
 国学;業合大枝・藤井高尚・上田及淵・平田篤胤門、
 [五百世(;名)の通称/号]通称;石見、号:○や
 五百代(いおよ・田村) → 保満(やすみつ・田村たむら、藩士/歌人) G 4 5 1 7
 五百代舎(いおよのや) → 長秋(ながあき・中島なかじま、醸造業/国学) N 3 2 9 0
 F1112 伊織(いおり;通称・一尾いちお、名;通尚/号;徹斎/法号;貞観、通春長男) 1599-1689 91 幕臣;御書院番、
 小普請組/1684致仕、茶の湯;津川四郎左衛門門、三斎流一尾派創始、竹の花筒/茶杓作成、
 「一尾流之書」「茶道雑記」「茶方之書三斎老聞書」著
 F1113 伊織(いおり;通称・虎屋とらや)?- ? 江中期大坂高麗橋一丁目の菓子商、
 1785(天明5)「虎屋菓子目録」著
 F1114 伊織(いおり;通称・荒川あらかわ)?- ? 江後期幕臣;1815大坂鉄砲奉行/54御目見以上、
 1856致仕、「徳川家浪華大砲図」著
 F1115 伊織(いおり;通称・山岡やまおか、号;檜山かいざん)?-1857 幕臣;材木石奉行/林奉行、「諸木聞見録」著
 伊織(いおり・寺尾) → 東海(とうかい・寺尾、儒者;音韻) B 3 1 8
 伊織(いおり・山内) → 広通(ひろみち・山内やまのうち/藤原、家老) H 3 7 2 6
 伊織(いおり・依田) → 貞鎮(さだしず・依田よだ/五十嵐、神道家) I 2 0 2 7
 伊織(いおり・杉村) → 直記(なおき・杉村、家老) B 3 2 0 6
 伊織(いおり・大村) → 蘭台(らんだい・大村おおむら、藩主/俳人) C 4 8 9 0
 伊織(いおり・藤堂) → 元甫(もととし・藤堂とうどう、藩士/地誌家) D 4 4 2 9
 伊織(いおり・松井/氷室) → 長翁(ながとし・氷室ひむろ、神職/歌人) E 3 2 8 7
 伊織(いおり・進藤) → 重記(しげり・進藤/菅原、神職/地誌) S 2 1 0 6
 伊織(いおり・西川) → 祐尹(すけただ・西川にしかわ、絵師/絵本) G 2 3 4 0
 伊織(いおり・菅) → 基(もとき・菅すげ、藩士/儒者) C 4 4 4 1
 伊織(いおり・菅/片山) → 周東(しゅうとう・片山かたやま、藩士/俳人) Y 2 1 0 8
 伊織(いおり・堀) → 未塵(みじん・堀ほり、藩士/俳人) 4 1 8 9
 伊織(いおり・伊達) → 村年(むらとし・伊達だて、藩主) D 4 2 8 9
 伊織(いおり・伊達) → 村侯(むらとき・伊達、村年男/藩主/改革/歌) D 4 2 1 7
 伊織(いおり・伊達) → 宗翰(むねもと・伊達だて、藩主/歌) D 4 2 5 2
 伊織(いおり・藤井) → 西洞(さいどう・藤井ふじい、医者/書家) 2 0 9 8
 伊織(いおり・間宮) → 信好(のぶよし・間宮まみや/向坂、幕臣) D 3 5 8 7
 伊織(いおり・青木) → 一貫(いっかん/かづつら・青木、藩主) G 1 1 7 8
 伊織(いおり・橋屋) → 以南(いなん・山本、名主/俳人、良寛父) B 1 1 7 9
 伊織(いおり・鈴木/藤原) → 広視(ひろみ・鈴木/高橋/藤原、神職/歌) H 3 7 1 9
 伊織(いおり・長尾) → 勝明(かつあき・長尾、藩家老/地誌編纂) N 1 5 1 8
 伊織(いおり・松田) → 秋池(しゅうち・松田まつだ、儒者/詩) Y 2 1 0 0
 伊織(いおり・中西) → 弘令(ひろり・中西なかにし、神職/国学) G 3 7 9 3
 伊織(いおり・片岡) → 東親(はるちか・片岡かたおか/秋川、神職/国学) J 3 6 9 2
 伊織(いおり・檜垣) → 貞董(さだのぶ・檜垣/度会、松本、神職) J 2 0 2 0

伊織(いおり・座光寺) → 為壽(ためひさ・座光寺ごうじ/小笠原、領主/歌) X 2 6 2 9
 伊織(いおり・横井) → 豊山(ほうざん・横井、儒者/樺太探検) B 3 9 1 5
 伊織(いおり・桃井) → 左内(さない・橋本、藩士/蘭医/勤王家) K 2 0 6 1
 伊織(いおり・木内) → 保旧(やすひさ・木内きうち、神職/国学) C 4 5 7 4
 伊織(いおり・山本) → 清樹(きよしげ・山本やまもと、歌人) V 2 6 5 8
 伊織(いおり・沢瀉) → 常尚(つねひさ・沢瀉おもだか/岡田/坂/荒木田、神職/国学) F 2 9 5 1
 伊織(いおり・曾我部) → 正興(まさおき・曾我部そがべ、国学/歌人) Q 4 0 4 1
 伊織(いおり・文室) → 康貞(やすさだ・文室ぶんや、神職/国学) G 4 5 5 5
 伊織(廬いおり・五十嵐) → 貞利(さだとし・五十嵐いがらし/田巻、国学) N 2 0 7 6
 伊織(いおり・小笠原) → 貞宣(さだのぶ・小笠原おがさわら、国学/歌/神職) O 2 0 0 3
 伊織(いおり・須田) → 正元(まさもと・須田すだ、神職/国学) Q 4 0 3 1
 伊織(いおり・加須屋) → 利章(としあき・加須屋かすや、藩士/国学) U 3 1 6 3
 廬(いおり・早川) → 忠顕(ただあき・早川はやかわ/源、藩士/国学) Z 2 6 0 1
 廬(いおり・中里) → 常嶽(つねおか・中里なかざと、商家/歌人) B 2 9 7 8
 伊織女(いおりじょ・忠田) → 一尾(かずお・忠田ただた、巫女/国学) V 1 5 0 1
 伊織介(いおりのすけ・高松) → 千尋(ちひろ・高松たかまつ/高塚、神職/国学) M 2 8 8 0
 伊織助(いおりのすけ・横井) → 時安(ときやす・横井よこい、藩士) K 3 1 2 2
 惟温(いおん/これあつ・桜井) → 東門(とうもん・桜井さくらい、藩儒/詩人) H 3 1 4 7
 以恩(いおん;字) → 純雅(じゅんが;法諱・以恩;字、真言僧) M 2 1 5 3

J1109 井賀(いが) ? - ? 江戸の川柳作者;木綿(呉陵軒可有)門、
 [たんゆうは天窗の上に蟠り](1764鶴/前句;ひゞき社こそすれ々々)

為賀(いが・白井) → 為賀(ためよし・白井しらい、易学者) S 2 6 9 1
 伊賀(いが・箕輪) → 重澄(しげすみ・箕輪みのわ、武将/合戦記録) R 2 1 1 3
 伊賀(いが・佐々) → 定隆(さだたか・佐々ささ、藩国老/歌人) O 2 0 4 9
 伊賀(いが・鍋島) → 直条(なおえだ・鍋島、藩主/詩歌) 3 2 7 7
 伊賀(いが・武田/跡部) → 正生(まさなり・武田耕雲斎、藩士/天狗党) 4 0 1 6
 伊賀[守](いが[のかみ]・稲富) → 直家(なおいえ・稲富/大江、砲術家) 3 2 6 9
 伊賀(いが・鍋島) → 直条(なおえだ・鍋島、藩主/詩歌) 3 2 7 7

J1144 以快(いかい・杉本すぎもと) ? - ? 江前期上方の俳人、1678西鶴「物種集」入、
 [詰番の間日まびこそなけれ灸の伽](物種集/前句;もろ肌脱いで八幡大名;
 弓矢八幡はわが大名なり/間日は休日;八専の間日に掛け八専太郎を連想)

F1116 意戒(いかい・法師) ? - ? 江後期讃岐真宗僧/歌、
 1808親鸞550回忌「龍谷雑詠りゅうこくぞうえい」編

惟艾(いがい・梅沢) → 西郊(せいこう・梅沢うめざわ、幕臣/漢学者) B 2 4 4 4

J1112 井がき(いがき;組連) ? - ? 江戸浅草三島の雑俳の組連、
 取次;1763「川柳評万句合」入;

取次例;[梶原はうろのあたりでよい男](63万句合/前句;気を付けにけり々々)
 (梶原平三景時;石橋山敗戦後頼朝が榎の穴に隠れたまでは忠義な家臣;以後注意人物)

C1114 為角(いかく・安井、一円堂)? - ? 京の俳人;普及門、1795俳論「いしずゑ抄」著、
 1798「除元集」「鶏ほめ」編/1802「報恩集」編

維鶴(いかく・土生/河田) → 小竜(しょうりゅう・河田/土生、絵師) B 2 2 9 6
 以学(いがく・神田) → 直文(なおぶみ・神田かんだ、国学者) L 3 2 7 9
 為学(いがく・五条) → 為学(ためざね・五条、廷臣/詩/連歌) S 2 6 4 3
 維岳(いがく・荒木) → 東水(とうすい・荒木、書家) F 3 1 7 4
 維岳(いがく・松前) → 章広(あきひろ・松前まつまえ敷広、藩主) D 1 0 8 4
 維岳(いがく・原田) → 復初(ふくしょ・原田はらだ、儒者) B 3 8 5 7
 維岳(いがく・高/王) → 葛坡(かっぱ・高こう、漢学者) H 1 5 8 3
 維岳(いがく・松原) → 慶輔(けいほ・松原まつばら、医者) G 1 8 6 1
 維嶽(いがく・田中) → 正勝(まさかつ・田中たなか、歌人) C 4 0 1 1
 惟嶽(いがく・武田) → 梅竜(ばいりゅう・武田/篠田、儒者) C 3 6 2 0

- 惟嶽(いがく・野田/橋) → 惟嶽(これたけ・橋たちばな/野田、儒者) O 1 9 4 5
 医学院(いがくいん) → 柳安(りゅうあん・畑はた/安藤、医者/教育) C 4 9 6 5
 維嶽先生(いがくせんせい; 諡号) → 嵩山(すうざん・浅野あさの、藩士/奥医師) F 2 3 2 7
- 1170 伊香(いかに・甘南備真人かんなびのまひと、伊香王) ?-? 奈良期廷臣; 746従五下雅楽頭/749従五上、
 751甘南備真人賜姓/757頃大蔵大輔/761美作守/主税阿山/68越中守/772正五下/777正五上、
 万葉四期歌人/4首廿4489/4502/4513、
 [うちなびく春を近みかぬばたまのこよひの月夜つよ霞みたるらむ](万葉; 廿4489)
- F1117 巖戈(いかにほ・常盤井ときわい、斉藤正直男) 1819-6345 伊予大洲の生、国学・儒学修学、
 1834(天保5/16歳)喜多郡阿蔵村の大洲藩総鎮守の八幡宮社家常盤井守貫養嗣子、
 1838(天保9)家学の橋家神道; 丸山真振より養父守貫相伝の伝授をうける、
 伊予大洲阿蔵八幡宮神主、1852平田篤胤門/復古神道に傾倒、家塾を[古学堂]と命名、
 多数の門弟を教育; 中村俊夫・山本尚徳・武田教孝・武田成章・三瀬諸淵などの師、
 「楓林零葉」「八幡宮由来記」著、
 [巖戈(; 名)の通称/号]通称; 主計助/真言/千矛/守信/仲衡、
 号; 惟神/静窩道人/楓窩道人/顔書斎/青柴垣主人
- J1110 筏(いかにだ; 組連) ? - ? 江中期江戸両国の雑俳の組連/取次; 1748「筑丈評万句合」入、
 取次例; [禪まであんまりむごい湯屋の盗判](前句; はづかしい事はづかしい事)
- F1118 筏竿丸(いかにだのさおまる、本名; 松坂治郎吉) ?-? 江戸浅草の狂歌作者、1863「狂歌千本桜」著
- I1179 筏丸木(いかにだのまるき) ? - ? 狂歌作者; 1787「才蔵集」入; 489、
 [しめ木にもかゝる思ひとなりにけりあぢな縁ゑしの一夜鮎とて](才蔵; 489/寄鮎恋)
- 伊賀入道(いがにゅうどう) → 重澄(しげすみ・箕輪みのわ、武将/合戦記録) R 2 1 1 3
 伊賀守(いがかみ・池田) → 正能(まさよし・池田/藤原、豪族/連歌) I 4 0 4 2
 伊賀守(いがかみ・杉原) → 賢盛(かたもり・杉原、宗伊、幕臣、連歌) 1 5 2 1
 伊賀守(いがかみ・松平) → 忠周(ただちか・松平まつだいら、藩主/歌人) Z 2 6 6 0
 伊賀守(いがかみ・伊藤) → 道保(みちやす・伊藤いとう、神職/国学者) C 4 1 7 3
 伊賀守(いがかみ・高橋) → 清臣(きよおみ・高橋たかはし/穴井、神職/尊攘) U 1 6 6 6
 伊賀守(いがかみ・新見) → 正路(まさみち・新見しんみ/源、幕臣/歌) H 4 0 5 4
 伊賀守(いがかみ・池田) → 長紀(ながのり・池田いけだ/伊木、家老/歌) L 3 2 1 2
 伊賀守(いがかみ・宮崎) → 浪穂(なみほ・宮崎みやざき/安元、神職) K 3 2 9 0
 伊賀守(いがかみ・菅沼) → 定敬(さだゆき・菅沼すがぬま、幕臣/歌人) K 2 0 1 7
 伊賀公(いがかみ) → 頼円(らいえん; 法諱、天台僧/歌人) 4 8 1 9
- 1172 伊賀少将(いがのしょうしょう、藤原頭長女/伊周の孫) ?-? 平安後期1031後朱雀天皇中宮姫子の女房、
 のち祐子内親王(高倉一宮)の乳母、歌人/勅撰4首; 後拾遺(119/946)金葉(462)、
 [なにごとを春のかたみに思はまし今日白河の花見ざりせば](後拾遺集; 春119)
 少将乳母と同一説あり → 少将乳母(しょうしょうのめと、1041師房歌合参加) T 2 2 4 9
- 伊賀僧正(いがのそうじょう) → 範玄(はんげん、法相僧/歌人) H 3 6 5 2
 伊賀入道(いかにゅうどう) → 寂念(じゃくねん; 法諱、大原三寂/歌) G 2 1 3 6
 伊賀入道(いかにゅうどう) → 賢盛(かたもり・杉原、宗伊、幕臣、連歌) 1 5 2 1
 伊賀入道(いかにゅうどう・仁木) → 了任(りょうにん; 法名、医者/連歌) J 4 9 1 7
 伊賀皇子(いがのみこ) → 大友皇子(おおとものみこ、追諡弘文天皇) B 1 4 0 5
- J1111 いかり(; 組連) ? - ? 江戸本所本町松阪町の雑俳の組連、
 取次; 1757「2世収月評万句合」入;
 取次例; [地黄丸ぢわぐわん聾をなぶりに持つて来る](前句; 追ひかけにけり々々)、
 (まだ必要もない若い花婿に無理やり強精強壯薬を持たせるいやがらせ)
- B1140 重石丸(いかりまる/-まる・渡辺わたなべ/国前直、初名; 重任、重蔭2男) 1837-191579 豊前中津藩の神官家、
 藩校進脩館に修学; 藩儒野本白巖門、藩士; 1857藩の国学教授/64(元治元)私塾[道生館]開、
 1867平田鉄胤門(篤胤没後門)、水戸学と国学を融合し独自の神道学を確立、
 のちの敬神党の尊攘思想・西南戦争の薩摩軍の思想の支柱へと続く、
 1869京の皇学所御用掛、教部省出仕、西南戦争後は感觸辞退/香取神宮少宮司、
 福澤諭吉・増田宋太郎の縁戚、重名の孫/重春の弟、

後藤碩田・増田宋太郎・乃木希典・梅谷安良らの師、柳田清堆・物集高世・矢野龍溪と交流、
「訳書読法」「學海針路」「固本策」「鶯栖園小草」著、碓井峠に歌碑、
[四八八三十一十八五二十百万三三千二五十四六一八三千百万四八四] (歌碑)、
(世は闇と人は言ふとも正道まさみちに勤しむ人は道も迷はじ)、
[重石丸(；名)の通称/号]通称；与吉郎/鉄次郎、

号；豊城/鶯栖園隠士/捫虱もんしの庵主/鉄十字

伊賀良居(いがりょうきよ) → 烏村(うそん・熊谷くまがい、庄屋/国学) E 1 2 6 6

斑鳩(いかるが・森谷) → 斑鳩(はんきゅう・森谷、俳人) H 3 6 3 7

斑鳩隠士(いかるがのいんし) → 光平(みつひら・伴林ばんばやし、国学/歌/尊王) 4 1 3 0

1171 以貫(いかん/これつら・穂積ほづみ、初名：為仍、与信とものぶ男) 1692-1769 78 姫路儒者・東涯門、大阪町儒者、
1717「反切捷徑指南」29「旧記和解」31「経学要字箋」40「唐土王代一覽」66「易学啓蒙国字解」著、
竹本座に關係；「難波土産」発端の「虚実皮膜きよじつひにく論」筆？、安章/成章(近松半二)らの父

[以貫の通称/号] 通称；善兵衛/伊助、号；能改斎、諡号；遵古じゆんこ先生

以貫(いかん・内藤) → 閑斎(かんさい・内藤ないとう、儒者) H 1 5 6 1

以貫(いかん・森井) → 月艇(げつてい・森井もりい、医者/詩人) H 1 8 2 7

以貫(いかん・関本) → 理遊(りゆう・松盛斎しょうせいさい、華道家) C 4 9 6 1

以貫(いかん・山田/関本) → 理恩(りおん・松盛斎、理遊の養嗣/華道家) 4 9 4 2

以閑(いかん・山田) → 得閑斎(とつかんさい・山田繁雅、狂歌) O 3 1 4 2

伊恒(いかん・岡本) → 一抱(いっぽう・岡本おかもと、医者/浄作) H 1 1 8 5

惟寛(惟完いかん・頼) → 春水(しゆんすい・頼らい、儒者/藩儒/詩人) 2 1 6 0

惟寛(いかん・西山) → 惟寛(これひろ・西山にしま、藩侍医/国学) R 1 9 1 0

惟幹(いかん・藤原) → 惟幹(これもと・藤原ふじわら、廷臣/歌人) E 1 9 5 5

維翰(いかん・宮瀬) → 竜門(りゅうもん・宮瀬みやせ、劉、儒者) F 4 9 8 0

維翰(いかん・大江) → 藍田(らんてん・大江おおえ、儒者/詩人) D 4 8 0 5

怡顔(いがん・南部) → 怡顔(ときつら・南部、領主/歌人) J 3 1 4 0

怡顔(いがん・山脇) → 有実(ありざね・山脇やまわき、医者/歌人) I 1 0 7 4

怡顔斎(いがんさい) → 玄達(げんたつ・松岡、儒医/本草) C 1 8 6 1

惟寛(いかん・頼) → 春水(しゆんすい・頼らい、儒者) 2 1 6 0

以寛斎(いかんさい) → 重教(しげみち・前田/菅原、藩主) S 2 1 8 0

衣関漫士(いかんまんし) → 大瓠(たいこ・菊池/菊地、藩士/儒者) B 2 6 3 4

K1173 老岐(いき・本居もとおり、村田親次[本居宣長の弟]4女) 1781-1840 60 伊勢の生、国学/歌人/書家、
本居春庭(1763-1828/宣長長男)と結婚；家事・育児と共に1994失明した夫の代筆・代読、
自ら約3千首を詠歌、宣長・春庭の遺稿の出版に尽力、1840(天保11)没

域(いき・長谷川) → 昆溪(こんけい・長谷川はせがわ、藩士/詩人) P 1 9 1 7

伊季(いき・今出川) → 伊季(これすえ・今出川いまでがわ、廷臣/歌) O 1 9 3 9

伊紀(いき・斎部) → 路通(露通/呂通ろつう・斎部いむべ/八十村、俳人) 5 2 0 9

維祺(いき・日比野/林) → 南涯(なんがい・林はやし、藩士/儒者) I 3 2 6 9

惟季(いき→これすえ・浅田) → 義言(よしこと・福島、浅田/乙葉、幕臣/日誌) D 4 7 3 1

惟熙(いき・国枝) → 松宇(しょうう・国枝くにえだ、商家/儒者) G 2 2 9 5

惟祺(いき・秋山) → 惟祺(これよし・秋山あきやま、幕臣；右筆) O 1 9 9 7

惟基(いき/これもと；名) → 尊映親王(そんえいしんのう、日記/画) F 2 5 0 7

惟季(いき・大神) → 惟季(これすえ・大神おおが/山井、楽人；笛) 1 9 4 5

惟基(いき・山岸) → 惟基(これもと・山岸やまぎし、国学者) G 1 9 0 9

惟幾(いき・賀来) → 惟幾(これちか・賀来かく、医者/歌人) Q 1 9 6 0

維幾(いき・中川) → 維幾(これちか・中川なかがわ、酒造/歌人) R 1 9 0 6

維熙(いき・湯谷) → 維熙(これひろ・湯谷ゆや、国学者) R 1 9 4 9

為季(いき・藤原/葉室) → 為季(ためすえ・藤原/葉室、廷臣/歌人) G 2 6 9 0

為季(いき・八条) → 為季(ためすえ・八条・藤原/法性寺、廷臣/歌人) G 2 6 9 1

為起(いき・松本/秦/大山) → 為起(ためおき・大山/秦/松本、神職/国学) S 2 6 3 6

為紀(いき・菅原) → 為紀(ためり・菅原すがわら、廷臣/漢学者) H 2 6 3 0

為槻(いき・辻) → 蘭室(らんしつ・辻つじ/中原/村田、医者/蘭学) C 4 8 4 7
 為基(いき) すべて → 為基(ためもとorためとき)
 壺岐(いき・吉見) → 恒幸(つねゆき・吉見/菅原、神職) E 2 9 1 2
 壺岐(いき・稲次) → 宗雄(むねお・稲次/荻野、武将/藩家老) B 4 2 0 9
 壺岐(いき・稲次) → 盛矩(もりのり・稲次いなつぐ/有馬、家老) J 4 4 3 1
 壺岐(いき・福井) → 末起(すえおき・福井ふくい/度会、神職) F 2 3 3 6
 壺岐(いき・奥村) → 蒙斎(もうか・奥村おくむら、藩士/儒家) 4 4 4 6
 壺岐(いき・古田) → 広計(ひろかず・古田ふるた、藩士/歌人) F 3 7 6 8
 壺岐(いき・大神) → 茂興(しげおき・大神おおが/大三輪、神職) N 2 1 7 3
 壺岐(いき・富田) → 紹実(つぎざね・富田とみた、藩老/国学) G 2 9 0 3
 壺岐(いき・長岡) → 是容(これかた・長岡ながおか、藩老/国学) O 1 9 2 1
 意暉(いき・熊沢) → 鹿野(ろくや・熊沢くまざわ/奥田、藩士/俳) B 5 2 1 6
 以義(いぎ・清水) → 以義(もちよし・清水しみず、神道家) B 4 4 8 0
 為宜(いぎ/ためよし・茅根) → 寒緑(かんりよく・茅根ちのね、藩士/儒者) R 1 5 8 2
 維義(いぎ・源) → 維義(これよし・源みなもと、連歌) O 1 9 9 6
 維義(いぎ/これよし・安藤) → 秋里(しゅうり・安藤あんどう、儒者/書家) Y 2 1 4 9
 惟義(いぎ・蝦) → 惟義(これよし・蝦えび、藩医者) O 1 9 9 8
 惟義(いぎ・丸山) → 惟義(これよし・丸山まるやま、藩士/儒者/歌) R 1 9 3 6
 畏犧(いぎ・牧) → 詩牛(しぎゅう・牧まき、詩人) Q 2 1 1 3
 為己齋(いきさい・野村) → 西巒(せいらん・野村/丹治比、藩儒/香道) D 2 4 0 8
 伊吉(いきち・遊郭名) → 静山(せいざん・松浦まつら、藩主/儒/詩歌) B 2 4 7 6

F1119 生成(いきなり・万年堂まんねんどう、本姓;林)?-1866 江後期江戸青山の糸商、狂歌師;北斗庵一樹門、
 [万年道生成(;号)の通称] 伊勢屋林兵衛

壺岐守(いきのかみ・賀茂) → 経春(つねはる・賀茂/岡本、神職/国学) D 2 9 2 9
 壺岐守(いきのかみ・杉浦) → 比隈満(ひくまろ・杉浦、神職/国学) 3 7 4 9
 壺岐守(いきのかみ・栗田) → 土満(ひじまろ・栗田、神職/国学/歌) 3 7 0 7
 壺岐守(いきのかみ・酒井) → 忠謙(ただなお・酒井さかい、藩主/歌) U 2 6 1 7
 壺岐守(いきのかみ・佐竹) → 義純(よしずみ・佐竹さたけ、藩主/歌) K 4 7 5 2
 壺岐守(いきのかみ・川村) → 修就(ながたか・川村かわむら、幕臣/奉行/歌) F 3 2 0 7
 壺岐守(いきのかみ・淡川) → 孝鑽(たかよし・淡川あわかわ、官人/歌人) V 2 6 3 2
 壺岐守(いきのかみ・小笠原) → 長行(ながみち・小笠原、幕臣/詩歌) F 3 2 9 0
 壺岐守(いきのかみ・大神) → 茂興(しげおき・大神おおが/大三輪、神職) N 2 1 7 3
 壺岐守(いきのかみ・佐野) → 政利(まさとし・佐野さの/長屋、神職/国学) P 4 0 9 2
 壺岐助(いきのすけ・小笠原) → 政登(まさなり・小笠原、幕臣/記録) F 4 0 3 9
 壺岐亮(いきのすけ・八剣) → 勝興(かつおき・八剣やつるぎ、神職/国学) W 1 5 0 0

F1120 意休(いきゅう・吉田) ? - ? 出雲大社祠官、1558頃入明:刺鍼術;杏琢周門、
 7年後帰国;吉田流鍼術、「刺鍼家鑑」「経絡考義」「虫書」著

F1121 以休(いきゅう;号・長森ながもり、名;敬一/通称;伝次郎) 1684-1753 70 肥前佐賀藩儒、儒;林鳳岡門、
 「以休詩文集」著

以久(いきゅう・松下) → 以久(ゆきひさ・松下/賀茂、神職/鞠) F 4 6 3 6
 以久(いきゅう・島津) → 以久(もちひさ/ゆきひさ・島津、藩主) B 4 4 5 7
 已朽(いきゅう・中村) → 克正(かつまさ・中村なかむら、藩士/記録) N 1 5 8 7
 為久(いきゅう・冷泉) → 為久(ためひさ・冷泉[上冷泉]、歌人) 2 6 7 2
 為久(いきゅう・武野) → 宗瓦(そうが・武野/武田、紹鷗男/茶人) G 2 5 4 3
 為久(いきゅう・潮田) → 為久(ためひさ・潮田うしおだ、藩士/歌人) V 2 6 8 4
 為躬(いきゅう・二条) → 為躬(ためみ・二条/御子左、廷臣/歌) H 2 6 4 5
 惟久(いきゅう)多くは → 惟久(これひさ)、島津惟久はただひさ/惟久室(ただひさのしつ) Q 2 6 5 7
 維鳩(いきゅう・岡本) → 貞永(さだなが・岡本おかもと、藩士/国学) O 2 0 2 0
 伊久(いきゅう・藤原) → 伊久(これひさ・藤原ふじわら、縁起記録) E 1 9 4 5

- 為牛(いぎゅう・宇喜多) → 可為(よしため・宇喜多/藤原・豊臣、絵師) L 4 7 7 1
 維鳩庵(いぎゅうあん) → 鳩翁(きゅうおう・柴田しばた、心学者) 1 6 2 6
 以求子(いぎゅうし) → 見隆(けんりゅう・藤井ふじい、医者) M 1 8 8 0
 以旧堂(いぎゅうどう) → 蓼花(りょうか・太田/武市、藩士/俳人) G 4 9 6 7
 惟久室(いぎゅうのしつ・島津) → 惟久室(ただひさのしつ・島津、軍書/武芸) Q 2 6 5 7
 F1124 噫慶(いきょう;法諱、名号;智蔵/寿則) 1641-1718 78 京の真宗大谷派長覚寺住職、本山に学寮設置、
 学寮教授、「浄土論註聞書」「弥陀所帰本仏鈔」「帰命無量寿如来之事」著
 J1152 惟恭(いきょう・これやす?/これただ?・今井いまい、別名;清生;きよなり?)?-? 江中後期;石見浜田藩士、国学、
 歌;本居大平「八十浦の玉」中巻;長歌を含む2首入、
 [ささ波やあれにし志賀の山桜さきくぞ花は咲きにほひける](八十浦;515/名所花)
 J1165 惟恭(いきょう・これやす?/これただ?・香山かやま)?-? 江後期;歌人、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [真柴たくけぶりながらに暮れそめて夕霧深し山もとの里](大江戸倭歌;秋816/遠村霧)
 圀橋(いきょう) → 一茶(いっさ・小林、俳人) 1 1 2 1
 圀橋(いきょう・町原) → 亮(りょう・町原まちはら、国学者/歌人) M 4 9 2 7
 惟杏(いきょう;道号) → 永哲(えいてつ;法諱・惟杏、臨濟僧/聯句) B 1 3 5 3
 惟恭(いきょう・山本) → 東籬(とうり・山本、藩士/儒者) I 3 1 1 0
 惟恭(いきょう・勝島かつしま) → 翼斎(よくさい・勝島、儒者) B 4 7 7 1
 惟恭(いきょう・秋山) → 惟恭(これいよ・秋山あきやま、神職/詩歌) P 1 9 4 2
 惟恭(いきょう・藤本) → 敬(けい・藤本ふじもと、郷土、詩/俳人) D 1 8 3 2
 惟恭(いきょう・勝島) → 翼斎(よくさい・勝島かつしま、儒者) B 4 7 7 1
 惟恭(いきょう・服部) → 愿卿(げんけい・服部/修姓;服、儒者/詩) E 1 8 0 6
 維恭(いきょう・伊藤) → 維恭(これたか・伊藤いとう/亀屋、医者/歌) Q 1 9 3 0
 惟興(いきょう・熊沢) → 惟興(これおき・熊沢くまざわ、儒者/国学) O 1 9 1 5
 惟彊(いきょう/ただたけ・頼) → 春風(しゅんぷう・頼らい、儒者/医者/詩) K 2 1 4 2
 為恭(いきょう・冷泉/岡田) → 為恭(ためちか/ためたか・冷泉/岡田、絵師/歌) H 2 6 0 0
 為教(いきょう・京極) → 為教(ためり・京極きょうごく、京極家祖/歌) 2 6 7 0
 為教(いきょう・藤谷) → 為茂(ためもち・藤谷ふじがやつ/藤原、廷臣) S 2 6 8 3
 為夾(いきょう・池田) → 為夾(ためちか/ためおさ・池田、歌人/雅文) S 2 6 5 0
 維彊(いきょう・頼) → 春風(しゅんぷう・頼らい、医/儒者) K 2 1 4 2
 維恭(いきょう→これただ・窪井) → 鶴汀(かくてい・窪井、藩士/儒者) H 1 5 3 4
 懿恭(いきょう・紀) → 懿恭(よしやす・紀さの、僧/国学/歌) M 4 7 4 3
 F1123 意行(いぎょう;号・館たち、通称;良典)?-? 江前期江戸の俳人;北村季吟門、
 1673「武蔵野」編(;江戸室町の戸嶋惣兵衛彫刻/連歌俳諧名所付合辞書)
 維暁(いぎょう・上田) → 維暁(これあき・上田うえた、医者/歌人) K 1 9 8 9
 為業(ためなり・藤原) → 寂念(じゃくねん;法諱、大原三寂/歌) G 2 1 3 6
 易行庵(いぎょうあん) → 通元(通玄つうげん、真宗大谷派僧) 2 9 3 2
 易行院(いぎょういん) → 法海(ほうかい;法諱、真宗大谷派僧) 3 9 2 6
 易行院(いぎょういん) → 栖城(せいじょう;法諱、真宗学僧) I 2 4 8 3
 意行子(いぎょうし) → 意行(いぎょう・館たち、俳人) F 1 1 2 3
 意教上人(いぎょうしやうにん) → 頼賢(らいけん;法諱・尊円、真言僧) 4 8 3 8
 E1104 惟玉(いぎよく) ? - ? 伊勢山田俳人、1633重頼「犬子えのこ集」298入、
 [月のかほかくす霞やほうかぶり](犬子集;-298)
 夷曲庵(いぎよくあん・一風斎) → 貞風(さだかぜ・橘たちばな、狂歌作者) B 2 0 7 6
 I1188 以金(いきん) ? - ? 安藝厳島の俳人;野坡門、
 1739「伊都岐(厳)島八景」厳島連中共編(以金/胡洞/伴古)
 F1125 郁(いく・筒井つひ、字;景周)?- ? 江中期;明清楽・魏皓門、1780刊「魏氏楽器図」編
 F1126 彘(いく・宮崎みやさき) ? - ? 江後期上総飯野藩主保科氏侍医、
 1796囚人死体を解剖、和田東郭(含章斎)門?、「解剖図」「含章斎方訣」著

K1165 **いく** (・本多ほんだ、) 1836 - 191075 三河碧海郡の生/名古屋藩士の本多俊民の妻、
晩年夫と碧海郡に帰農、歌人; 夫門

或(いく・都築) → 虚堂(きょどう・都築/都筑つぎ、儒者) P 1 6 9 4
昱(いく・亀井) → 昭陽(しょうよう・亀井かめい、名; 昱、南冥男) B 2 2 8 5
焜(いく・古賀) → 侗庵(どうあん・古賀、儒者/詩人) 3 1 0 2
育(いく→やしなう・河尻) → 春之(はるの・河尻かわじり、幕臣) 3 6 3 4
育(いく・芳野) → 金陵(きんりょう・芳野よし、儒者) E 1 6 9 3
育(いく・小代) → 布水(ふすい・小代こしろ、藩士/儒詩) C 3 8 8 2
郁(いく・榎島) → 昭武(あきたけ・榎島まきま、国学/軍記) C 1 0 5 3
郁(いく・小田) → 郁子(いくこ・小田おだ、歌人) F 1 1 2 9
郁(いく・宮崎) → 雲台(うんだい・宮崎みやざき、医者/儒者) D 1 2 9 2
郁(いく・秦) → 蘭汀(らんでい・秦はた、儒者) D 4 8 0 3
幾(いく・大西) → 重女(じゅうじょ・上田うえだ、大西/長沢、歌人) N 2 1 4 9
為矩(いく・渡辺) → 為矩(ためり・渡辺わたなべ/野村、商家/国学) 2 7 4 6
維駒(いく・黒柳) → 維駒(これこま・黒柳くろやなぎ、俳人) E 1 9 1 7
惟具(いく・水谷) → 惟具(これとも・水谷みづたに、商家/国学者) R 1 9 3 7
郁郁斎(いくいさい) → 治脩(はるなが・前田、藩主/日記) G 3 6 6 3
郁々堂(いくいどう) → 蘭台(らんだい、誠心院、真宗僧/俳人) C 4 8 9 2
郁々堂(いくいどう) → 白応(はくおう・郁々堂、俳人) C 3 6 7 3

F1127 **以空**(いくう; 法諱、土岐頼行男) 1636-171984 江戸生; 1656厳島参詣; 真言僧/1659高野山で剃髪、
初め撰津三島郡勝尾寺住; 精進苦行/1662後水尾法皇と女院のため光明真言講ず;
勅題「玉かがみ」、1681(延宝9)山崎に観音寺創建、1682祈祷で干魃に降雨/1710大僧正、
1666「八斎戒要集」「悉曇初心大用鈔」著、1667「光明真言和談鈔」71「窈誓伝」著、
「光明真言鈔玉鏡」「光明真言仮名鈔」著、内外の学に通じ書画・彫刻を嗜む、
[蒲席ほうせきの陸言はしばしの木霊こだまの響に似たり 華容紅顔の装も槿花一日の栄に同じ]、
(「玉かがみ」/蒲席は粗末な敷物)、

[以空の号] 等引金剛/応頂山大木食闇梨

1682風黒「高名集」(発句集)の勝尾寺義空と同一? → 義空(ぎくう; 法諱・勝尾寺) G 1 6 4 8

育英塾(いくえいじゅく) → 熊山(ゆうざん・沢さわ、漢学/教育者) B 4 6 9 9
幾重斎(いくえさい) → 沾圃(せんぼ、宝生/服部、能楽師/俳人) G 2 4 6 0
郁右衛門(いくえもん・木村) → 克敏(かつとし・木村きむら/長野、国学/歌) U 1 5 4 6
幾右衛門(いくえもん・武知) → 方穫(まさかり・武知たけち、藩儒/詩歌人) P 4 0 1 6

C1115 **郁翁**(いくおう・長井ながい、通称; 与治右衛門、別号; 伴幽軒)?-1733 江前期越後柏崎の本陣/薬種業、
俳人; 言水門、1703「郁翁伊勢詣柏崎」05「柏崎八景」編、1690言水「新撰都曲みやこぶり」4句入、
[去年こぞの夢窓に告げ来て梅白し](都曲; 上181/去年の待望んだ夢を叶えてくれた)

F1128 **郁賀**(いくが・野松庵) ? - ? 俳人: 梅人門、1807「花声集」「梅人句集」「花の声」編、
1809「摩尼屑」校訂

郁賀(初世いくが) → 梅人(ばいじん・平山、俳人) B 3 6 6 3
生薬園(いくくすりぞの) → 守部(もりべ・橘、国学者) 4 4 2 8
郁軒(いくけん・牧江) → 霞城(かじょう・牧江まさえ、儒者) L 1 5 9 8

L1100 **育子**(いくこ・藤原ふじわら、初名; 香子、関白忠通女) 1147-7327 母; 家女房(督殿源俊子; 受領の女)、
実父に徳大寺左大臣実能(忠通の養女)説あり、1162(応保元)入内/従三位、
女御; 飛香舎(藤壺)の局/63(応保2)立后; 二条天皇中宮、天皇の里内裏の押小路東洞殿住、
歌合・貝合を主催(天皇と撰閑家が後見)、
順仁親王(六条天皇)の養母、1165二条天皇没、後白河院が実権把握; 平清盛台頭、
1168六条讓位; 高倉天皇即位/育子は出家、高倉妃平徳子が中宮; 育子は皇后宮と改称、
1173(承安3)没、

F1129 **郁子**(いくこ・小田おだ、別名: 郁、紀州藩士小田数馬の妻)?-? 江戸中後期歌人; 本居大平門、
1839「藤垣内翁略年譜」編

J1155 **幾子**(いくこ・神田かんだ) ? - ? 江戸中後期の歌人、

幕臣神田弥右衛門正秀(西城焼間番頭)の妻、(1705夫正秀の城中月次拝賀の記事あり)、
歌人;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、久太郎正忠の母、
[うつせみの羽に置く露やしぐるらん声も涼しき杜の下蔭](大江戸倭歌;夏587/杜蟬)

- K1121 幾子(いくこ・串部くしべ、旧姓;重松)1768-1838 71 伊予今治の生、
伊予越智郡古谷の多伎神社神職串部家に嫁ぐ、歌;飛鳥井雅光門
- J1189 郁子(いくこ、号;郁李)1802 - 1890 89 安藝安藝郡の莊巖寺恵空の母、歌;香川景樹門
- J1177 幾子(いくこ・矢吹やぶき) ? - ? 江後期;美作勝田郡行延村里正矢吹経正(1827-1881)の妻、
歌人;1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入、夫経正[林太郎]は平賀元義門
- J1180 幾子(いくこ・秋枝あきえだ/旧姓;勝木)?-? 江後期;筑前鞍手郡の歌人;鈴木胤あきら(1764-1837)門
- K1108 幾子(いくこ・沼崎ぬまさき、)? - ? 江後期;伊予越智郡朝倉村多伎神社神主家に嫁ぐ、
誠則のぶりの母、歌人;飛鳥井雅光門、鴨重忠編「幾子誠則為子と歌集」55首入、
半井忠見(梧庵)編「ひなのてぶり」に3首入、
[行く舟もほのかに見えて伊予の海の波路霞める春ののどかさ](鄙のてぶり)
- 生子(いくこ) → 生子(せい・藤原、弘徽殿女御/歌人) B 2 4 7 9
いく子(いくこ・油谷) → 倭文字(しむ・油谷/弓屋/油屋ゆや、歌人) 2 1 2 5
- F1130 幾五郎(いくごろう・小田おだ、幼名;五郎八、藤八郎男)1754?-? 1821存 対馬藩通詞;幼少より朝鮮語、
12歳釜山草梁和館で学習/帰国後藩韓学司で修学、1780長崎勤番雇通詞/95大通詞/1821致仕、
1794「象胥紀聞」、「朝鮮詞書」、「草梁和集」、「通訳酬酢」、「北京路程記」著
- E1121 育齋(いくさい・富田とみだ、名;安実/字;慶寿、益実男)1706-94 89 陸前仙台藩儒医/楠流兵法家、
1758「一騎伝口決辨疑」、「論語解評」20巻/「志免与草」[隠居放言]著、省齋せいさいの兄
[育齋の通称/別号]通称;魁朔/三郎/三郎平、西村明観、別号;南丘/知非堂/酣叟
郁哉(いくさい・吉田) → 常与(じょうよ・歆之軒/吉田、華道/俳人) L 2 2 8 0
- 1106 軍王(いくさのおおきみ/こにきしのおおきみ)?-? 万葉一期?歌;一5・6、百済の軍君こにきし余豊璋[661帰国]説あり、
[山越ごしの風を時じみ寝る夜よ落ちず家なる妹をかけて偲ひつ]、
(万葉;6/5讃岐行幸時の山を見ての長歌の反歌)
- F1131 幾三郎(いくさぶろう・木村きむら、名;尚震、尚誼男)1806-55 50歳 広島新田藩(青山浅野家)家老、
広島藩郡奉行/参政;軍政担当、「広島水災記事」著
[幾三郎(;通称)の字] 字;子起
- 郁三郎(いくさぶろう・新見) → 正典(まさのり・新見しんみ/源、幕臣/漢学) G 4 0 3 3
郁三郎(いくさぶろう・木下) → 守約(もりなり・木下きのした、国学者) J 4 4 7 4
郁三郎(いくさぶろう・長尾) → 武雄(たけお・長尾ながお/平、商家/勤王) Y 2 6 6 9
幾三郎(いくさぶろう・生田) → 芳春(よしはる・歌川うたがわ/生田、絵師) G 4 7 1 5
幾三郎(いくさぶろう・丸山) → 眞篤(ますず・丸山まるやま、国学/歌人) S 4 0 8 0
幾三郎(いくさぶろう・村田) → 矩勝(のりかつ・村田むらた/源、幕臣/歌) G 3 5 7 0
幾治(いくじ・安東) → 間庵(かんあん・安東あんどう、藩儒/詩文) P 1 5 9 2
郁子園(いくしえん) → 尉信(やすのぶ・長島/小泉、農政家) C 4 5 5 7
郁子園(いくしえん・村田) → 春門(はるかど・村田/宮崎、国学/歌) 3 6 3 1
幾地内子(いくじのなしい) → 智恵内子(ちえのなしい、狂歌、元木網女) 2 8 0 2
幾秋(いくしゅう・平元) → 正信(まさのぶ・平元、詩/俳人) F 4 0 6 8
郁洲(いくしゅう・篠崎) → 三島(さんとう・篠崎/篠、商家/儒者) E 2 0 6 0
郁繡(いくしゅう;法諱) → 虎云(こうん;道号・郁繡;法諱、曹洞僧) L 1 9 6 8
郁春(いくしゅん・福智/福地/銭) → 土成(つちなり・大根おおね、絵師/狂歌) 2 9 9 3
毓春園(いくしゅんえん) → 桂里(けいり・有持ありもち、医者) G 1 8 7 8
- C1116 郁上(いくじょう) ? - ? 俳人、1715雲鈴「笈之若葉おいのわかば」入
育松庵(いくしょうあん) → 硯寿(けんじゅ・窓岡まどおか、真宗僧/歌) N 1 8 9 7
幾二郎(いくじろう・塚本) → 直興(なおおき・塚本つかもと/藤原/北条、神職/歌) N 3 2 8 8
幾次郎(いくじろう・加藤) → 米山(べいざん・加藤、藩士/儒者/教育) 2 7 4 4
幾次郎(いくじろう・伊勢屋) → 星池(せいち・伊勢屋、豪商/十八大通) J 2 4 1 8
幾次郎(いくじろう・狩野) → 宗朴(2代そうぼく・狩野かのう、茶人) K 2 5 8 8
幾次郎(いくじろう・落合) → 芳幾(よいく・落合/歌川うたがわ、絵師) C 4 7 1 8

- 郁介(いくすけ・小川) → 文哉(ふみや・小川おがわ、藩士/国学者) I 3 8 0 3
- D1135 生瀬(いくせ・月亭) ? - ? 嘶家・文治門、1848「風流俄選」、1846「嘶のはなし」著
- 育斉(いくせい・入江) → 友俊(ともとし・入江/住友、商家/家法書) P 3 1 9 5
- 郁蔵(いくぞう・宮地) → 維則(これのり・宮地、医者/本草家) O 1 9 7 1
- 郁蔵(いくぞう・神河) → 渭南(いなん・神河かみかわ、医者/弓術) I 1 1 1 2
- 郁蔵(いくぞう・脇山) → 退斎(たいさい・脇山、藩儒/文教政策) B 2 6 4 3
- F1132 郁大(いた・野沢のざわ、通称;伊久太)?-? 江後期松平康直(磐城棚倉藩主康英)の家臣、
1861遣欧使随行者:「遣欧使節航海日録」著
- 幾太(いた・高田) → 法古(のりひさ・高田たかだ、藩士/国学/歌) F 3 5 5 2
- 幾太(いた・布喜川) → 親英(ちかひで・布喜川ふきがわ/永井、庄屋/歌) D 2 8 5 3
- C1117 生田檢校(いたけんぎょう) 1656- 1715 60歳 平曲琵琶法師、生田流の祖、
箏曲:「思川」「砧」「小笹」著
- F1133 幾太郎(いたろう・桑原くわばら、名;信毅のぶたけ/字:毅卿、信茂男) 1800-61 62 水戸藩士/京勤務;
神武陵地調査、水戸藩郡奉行、斉昭の雪冤運動;禁錮刑/赦免;藩要職、長沼流兵学者、
「神武山陵考」著、
[幾太郎(;通称)の別通称/号] 別通称;治兵衛、号;照顔堂/照顔
- 郁太郎(いたろう・鷺津) → 毅堂(きどう・鷺津わしう、儒者) G 1 6 0 1
- 郁太郎(いたろう・沼田) → 竹溪(ちくけい・沼田ぬまた、儒者/私塾) C 2 8 8 8
- 昱太郎(いたろう・亀井) → 昭陽(しょうよう・亀井かめい、名;昱、南冥男) B 2 2 8 5
- 幾太郎(いたろう・朽木) → 綱泰(つなひろ・朽木くつき/源、幕臣/蔵書家) B 2 9 2 7
- 幾太郎(いたろう・矢部) → 典則(つねのり・矢部やべ、藩士/国学/歌) G 2 9 6 6
- 幾太郎(いたろう・山田) → 重興(しげおき・山田やまだ、商家/郷土/漢学) a 2 1 0 3
- 生田堂(いたどう) → 除風(じよふう・南瓜庵、俳人) C 2 2 9 4
- 井口庵(いぐちあん) → 二峰(にほう、常陸俳人) F 3 3 7 2
- 活都(いくと・大神) → 沢一(さわいち・大神おおが、鍼医) L 2 0 7 0
- 郁之丞(いくのじょう・滝川) → 南谷(なんこく・滝川たきがわ、幕臣/詩人) J 3 2 0 0
- 郁之丞(いくのじょう・中村) → 黒水(くろすい・中村なかむら、藩士/儒者) G 1 9 4 9
- 郁之丞(いくのじょう・山田) → 鞞臣(ゆきおみ・山田やまだ、国学者) H 4 6 4 3
- 幾之進(いくのしん・中村) → 梁山(りょうざん・中村/中邨なかむら、藩儒) H 4 9 7 3
- 幾之進(いくのしん・石原) → 信吾(しんご・那須/浜田、勤王派) O 2 2 2 8
- 幾之進(いくのしん・久保) → 久成(ひさなり・久保くぼ、藩士/私塾教育) J 3 7 3 3
- 幾之進(いくのしん・和田) → 昌孝(まさたか・和田わた、藩士/詩歌人) T 4 0 7 6
- 幾之助(いくのすけ・土井) → 聳牙(ごうが・土井どい、藩儒) E 1 9 9 0
- 幾之助(いくのすけ・大村) → 蘭台(らんだい・大村おおむら、藩主/俳人) C 4 8 9 0
- 幾之助(いくのすけ・小野) → 高潔(たかきよ・小野おの、幕臣/国学者) C 2 6 6 9
- 幾之允(いくのすけ・宮崎/上田) → 纘明(つぐあき・上田/宮崎、藩士/教育) 2 9 6 5
- 昱之允(いくのすけ・朝枝) → 文信(ふみのぶ・朝枝あさえだ/長多、藩士/歌) H 3 8 9 4
- 1173 生羽(いくは・園臣そののおみ) ? - ? 万葉中人物、二123題;三方沙彌みかたのさきと生羽女の歌
- 幾八(いくはち・多田/秩父屋) → 於保久旅人(おおくのたびと、旅館業/狂歌) B 1 4 7 1
- 生羽女(いくはのむすめ・園その) → 園臣生羽之女(そののおみいくはのむすめ、万葉歌人) E 2 5 1 5
- K1161 郁彦(いくひこ・福田ふくだ、旧姓;野山) 1832-1918 87 備中浅口郡の神職;羽黒神社社司、
神道・国学・歌;小野春発はるおき・岡直廬なおり門/歌;黒田清綱門、村社の長尾神社社掌、
1896「常磐の緑」著
- F1134 幾久(いくひさ・春廼家はるのや)?-? 幕末期江戸商人/嘶家/嘶本/狂歌;興笑連を率いて活躍、
1864「春色3題嘶」/65「梅屋集」著
- 幾姫(いくひめ・細川) → 軌子(のりこ・細川、清源院、歌人) 3 5 2 0
- 幾弘(いくひろ) → 幾弘(きこう・栗原、連歌) F 1 6 3 0
- D1136 郁文(いくぶん・鄭てい) ? - ? 享保期(1716-36)「瓊浦けいほ佳話」(長崎唐人通事用)著
- 1107 郁芳門院(いくほうもんいん・媞子ていし内親王、白河天皇第一皇女) 1076-96 早世 21 母:源頭房女賢子、
美貌、1078准三后/伊勢斎宮/84退下/六条院住;通称:六条院、/93院号宣下、仙洞歌壇の中心、

「六条院集」著/1093「郁芳門院根合」95「鳥羽殿前裁合」等歌合催、玉葉1990、
女房歌人;安藝/宣旨/大進など

[久我におはしましける比月のあかかりける夜 六条右大臣室いかにせんゆきもやられで、
あくがるる心のかぎりさそへ月影とよみたてまつる御返事に、
月影にさそはれぬべき君ならば心づくしにまたれざらまし]、
(玉葉;雑1990/六条右大臣室;源頭房室の隆子)

郁芳門院安芸(いくほうもんいんのあき) → 安藝(あき・郁芳門院、歌人) 1 0 4 0

郁芳門院宣旨(いくほうもんいんのせんじ) → 宣旨(せんじ・郁芳門院、歌人) F 2 4 7 1

- C1118 郁芳門院大進(いくほうもんいんのだいしん、定成女;醍醐流源or師尹流藤原)?-? 1128存;80余歳 平安期;
郁芳門院媞子内親王(六条院)家の女房、京極前関白家肥後(常陸)と姉妹、
1102「堀河院艶書合けそうふみあわせ」女方入、18実行家歌合参加、別通称;院大進いんのだいしん、
[あや筵緒をとるまでも恋ひずしてまだきに床を忘るべしやは](艶書合;6/国信へ返歌)、
(5贈歌;源中納言国信;逢う事やこよひこよひと通ふまに空忘れして月日経にけり)、
(万葉2538;独り寝と薦朽ちめやも綾むしろ緒になるまでに君をし待たむ)

幾馬(いくま・平井) → 収二郎(しゅうじろう・平井、藩士/尊攘) X 2 1 5 9

活松(いくまつ・丸山) → 眞篤(ますず・丸山まるやま、国学/歌人) S 4 0 8 0

- F1135 幾丸(いくまる・一交斎いっこうさい/松花楼、武田)?-?1873後没 絵師;歌川芳幾門、風俗画/開花絵、
1864「春色優源氏」画、「新板辻うら大津ゑぶし」画

澳満(いくまん・浅海) → 澳満(おきまろ・浅海あさみ、藩士/歌人) D 1 4 8 4

幾通(いくみち→ちかみち・稲葉) → 幾通(ちかみち・稲葉いなば、藩主/歌) B 2 8 8 7

- K1189 生光女(いくみつのおすめ・度会わたらい)?-? 平安鎌倉期の歌人/父生光は伊勢外宮神職(行光男)、
光倫・生房の姉妹、歌;1233刊[御裳濯集]2集入、
[うの花の咲くやみ山のゆふづくよこの下かげも残らざりけり](御裳濯集;夏189)

伊久米子(いくめこ) → 久米子(くめこ・土井とい薫梅、藩主妻/歌) D 1 7 7 6

幾夜庵(いくよあん/きやあん) → 斗醉(とすい・伊東、行脚俳人) O 3 1 2 5

幾夜庵(いくよあん/きやあん) → 和月(わげつ・牧野まきの、藩士/俳人) 5 3 1 9

郁李(いくり) → 郁子(いくこ、歌人) J 1 1 8 9

郁李園(いくりえん) → 正信(まさのぶ・水野、陪臣/国学者) F 4 0 8 2

為訓(いくん・風早/冷泉) → 為訓(ためさと・冷泉/藤原、廷臣/歌人) S 2 6 4 2

為郡(いくん・冷泉) → 為邦(ためくに・冷泉れいぜい、歌人) G 2 6 7 6

- C1119 意計(いけい) ? - ? 俳人、1644玄札・重頼らと一座

- F1136 委形(いけい) ? - ? 俳人、1688不卜「続の原」入;
[松が枝のやどり似合ぬ胡蝶哉](続の原)

- F1137 医圭(いけい・馬淵まぶち、名;桂)?-? 江中期近江の温泉研究家、
経験から撰津多田温泉の優秀さ主張;1780「多田温泉記」編;校訂駿斎(息子?)

- C1120 依兮(いけい・小林こばやし、名;基頭、基直[素柳]男)1746-180156 筑前飯塚の商家油屋7世、
俳人・蝶夢門、1789蝶夢「芭蕉門故人真蹟」序、1789「八葉集」著
[依兮(;号)の別号]別号;杉柿庵/睡台

怡溪(いけい;道号・宗悦) → 宗悦(そうえつ;法諱・怡溪;道号、臨濟僧/茶人) G 2 5 2 7

以敬(いけい・竹中) → 重門(しげかど・竹中/源、武将/歌・連歌) C 2 1 0 9

以敬(いけい・高橋) → 玉斎(ぎよくさい・高橋たかはし、藩士/儒者) O 1 6 9 5

以慶(以計いけい・土橋) → 宗静(そうじょう・土橋、商家/連歌/俳人) C 2 5 0 9

以慶(以計いけい・土橋) → 春林(しゅんりん・土橋、俳人/書家;宗静と同一説あり) M 2 1 0 3

葦溪(いけい;号) → 素瑛(そえい;法諱、僧/国学者) K 2 5 9 7

意敬(いけい・大江) → 宏隆(ひろたか・大江おおえ、神道家/国学) G 3 7 1 6

伊経(いけい・世尊寺) → 伊経(これつね・世尊寺、廷臣/歌/書家) E 1 9 3 5

維景(いけい・大場) → 玉泉(ぎよくせん・大場おおば、藩士/兵法) P 1 6 1 9

維経(いけい・藤田) → 維経(これつね・藤田ふじた、歌人) R 1 9 5 4

維敬(いけい・杉山) → 維敬(これたか・杉山すぎやま、本草家) O 1 9 4 3

維敬(いけい・中野) → 謙蔵(けんぞう・中野なかの、浦年寄/俳人) N 1 8 4 4

維卿 (いけい・芳川)	→	維堅(これか・芳川よしかわ、古銭鑑定家)	O 1 9 2 0
維馨 (いけい;道号・梵桂)	→	梵桂(ぼんけい;法諱・維馨、臨濟僧)	F 3 9 2 9
維馨 (いけい・揚あげ/上野あげの)	→	弘斎(こうさい・揚、藩士/国学)	I 1 9 9 5
維馨 (いけい・永田)	→	蘿道(らどう・永田ながた、俳人/琴)	B 4 8 4 9
維馨 (いけい・斎藤)	→	桃源(とうげん・斎藤、儒者/詩)	D 3 1 4 3
維馨 (いけい・鶴沼)	→	北涯(ほくがい・鶴沼うぬま、儒者/詩人)	C 3 9 9 6
惟馨 (維馨いけい・高野)	→	蘭亭(らんてい・高野、儒者/詩人)	4 8 0 9
惟馨 (いけい・帆足)	→	長秋(ながあき・帆足ほあし、神道/歌学)	D 3 2 1 0
惟馨 (いけい・阿蘇)	→	惟馨(これか・阿蘇あそ、神職/国学者)	O 1 9 1 6
惟馨 (いけい・岡野)	→	明德(めいとく・岡野・岡埜おかの、医者)	4 3 3 1
惟馨 (いけい・小山)	→	猷風(ゆうふう・小山おやま、春山男)	D 4 6 6 6
惟敬 (いけい・島津)	→	斉彬(なりあきら・島津しまう、藩主)	H 3 2 0 5
惟敬 (いけい・柴田)	→	鳩翁(きゅうおう・柴田しばた、心学者)	1 6 2 6
惟敬 (いけい・赤松)	→	小三郎(こさぶろう・赤松/芦田、兵学者)	M 1 9 5 5
惟継 (いけい・平)	→	惟継(これつぐ・平たいら、廷臣/歌人)	E 1 9 3 2
惟慶 (維慶いけい/これよし)	→	章夫(しょうふ・山本、本草家/写生画)	L 2 2 4 6
惟慶 (いけい・森脇)	→	惟良(これよし・森脇もりわき/筏、神道/歌)	R 1 9 2 2
為経 (いけい) すべて	→	為経(ためつね)	
為継 (いけい・藤原)	→	為継(ためつぐ・藤原ふじわら、廷臣/歌人)	H 2 6 0 1
為谿 (いけい・桑原)	→	空洞(くうどう・桑原くわばら、漢学/書家)	C 1 7 0 3
為谿 (いけい・川田)	→	芝嶠(しきやう・川田、藩儒/陽明・朱子学)	Q 2 1 2 2
為景 (いけい) すべて	→	為景(ためかげ)	
為璟 (いけい・上野)	→	為璟(ためあき・上野うえの、国学者)	V 2 6 8 0
依景 (いけい・よりかげ・松浦)	→	舜挙(しゆんきよ・松浦、絵師)	Z 2 1 3 6
彝卿 (いけい・深田)	→	慎斎(しんさい・深田/永原、藩儒)	O 2 2 3 8
彝卿 (いけい・庄原)	→	篁墩(こうどん・庄原しょうばら、儒者/詩)	K 1 9 8 4
頤卿 (いけい・井上)	→	静軒(せいけん・井上いづえ、藩儒)	I 2 4 0 2
以敬斎 (いけいさい)	→	長伯(ちやうはく・有賀、歌学)	2 8 2 5
以敬斎 (いけいさい)	→	彦文(ひこぶみ・道工どうく、長伯門歌人/紀行)	3 7 7 0

I1193 池雄 (いけお) 1805 - ? 安藝仁方の俳人;

[泉水や風をおもへは風かふく](短冊)

F1138 池臣 (いけおみ・宮本みやもと/本姓;平、毛呂もろ上野こうげ男) 1807-8882 宮本信濃の養子;神職、丹後岩滝の国学者;大江広海門、歌;香川景樹門、但馬朝来あさご郡竹田村の諏訪神社祠官、1863但馬生野の変に助力;敗北し一家離散、68西園寺公望より赦免;名字帯刀許可、丹後朝代社祠官、但馬出石社神職(主典)/再び諏訪社神職、千穎ちか(采女)の父、「但馬道志留辺」「比治真名井考」「大嘗祭黒白酒考」著、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[花散りてとふ人もなき山里は木々の若葉にしげる頃かな](大江戸倭歌;夏392)、[もろともに散るべき花を君のためしばし残しし桜井の里](短冊)、[池臣の通称] 采女うねめ/近江おみ/近女

池上阿闍梨 (いけがみのあじり) → 皇慶(こうげい;法諱、天台僧) I 1 9 4 3

池上律師 (いけがみのりし) → 頼尊(らいそん;法諱・静光房、真言僧) 4 8 8 0

1178 池田朝臣 (いけだのあそみ) ? - ? 万葉四期歌3840:嗤笑歌:餓鬼の歌/足継説・真枚説
[寺々の女餓鬼申さく大神おほみわの男餓鬼賜りてその子孕まむ]、
(大神朝臣奥守を嗤ふ歌/万葉集;十六3840)

参考 → 真枚(まひら・池田) K 4 0 0 6

→ 足継(たりつぐ・池田) S 2 6 9 8

→ 奥守(おきもり・大神) 1 4 3 3

池田広津娘子 (いけだのひろつおとめ) → 他田広津娘子(おさだのひろつおとめ、万葉歌人) 1 4 8 2

池殿 (いけどの) → 頼盛(よりもり・平たいら、武将/権大納言) J 4 7 8 5

- 1108 **池主** (いけぬし・大伴宿禰おおとものすくね) ?-? 757存 奈良期廷臣;738春宮坊少属/746越中掾;家持配下、749越前掾/753左京少進;帰京/式部少丞、757奈良麿変連座;投獄;以後不明、万葉四期歌人;短歌25首(八1590-)/長歌4首、詩1首;詩序、家持のと贈答歌多い、新勅撰362、[十月かみなつき時雨にあへる黄葉もみちばの吹かば散りなむ風のまにまに](万葉;八1590)、(天平十年[738]橘奈良麿の集宴歌;身の行く末の定めなさを詠む;19年後の予見か)
池大納言(いけのだいなごん) → 頼盛(よりのもり・平たいら、武将/権大納言) J 4 7 8 5
池のへ鷺見(いけのべのさざみ) → 淇楽(きらく・鷺見屋さざみや、洒落本/狂歌) H 1 6 6 2
池坊専栄(いけのぼうせんえい) → 専栄(せんえい・池坊) E 2 4 8 8
池の坊専順(いけのぼうせんじゅん) → 専順(せんじゅん・池の坊) 2 4 3 3
池の舎(いけのや) → 政友(まさとも・河村かわむら、国学者/歌人) P 4 0 0 7
- C1121 **池原女王** (いけはらのおおきみ) ? - ? 山前王やまくまのおおきみ[?-723]の女(初め母方姓;栗前連枝女)、780従五位
- 1180 **池辺王** (いけべのおおきみ、葛野王がどのおおきみ男、大友皇子孫) ?-? 奈良期廷臣;737内匠頭/従五上、淡海三船の父、万葉四期歌人;四623(宴席での誦歌)、[松の葉に月はゆつりぬもみち葉の過ぐれや君が逢はぬ夜の多き](男を待つ女の歌)、(万葉;623/ゆつるはウツルに接頭語イの付いたもの/もみち葉のは過ぐの枕詞)
- F1139 **池守** (いけもり・多治比/丹比真人たじひのみと、島男) ?-730 奈良期廷臣;708平城京長官/715大宰帥、718中納言/721大納言
池守(いけもり) → 鉄斎(てっさい、俳人) C 3 0 3 1
- 1181 **惟賢** (いけん/ゆいけん;法諱、別諱;昌景/慈源・諡号;普川国師) 1284-1378⁹⁵ 天台僧;恵鎮[円観]門、鎌倉宝戒寺で円頓戒主唱/1349重授戒灌頂を恵鎮より受/1356恵鎮没後;白河法勝寺住持、1364「菩薩円頓戒灌頂記」、「宗要重書」、歌;新千2174、新拾1521/1714・新統古1381/2020
- F1140 **為憲** (いけん・伊藤いとう、通称;惣兵衛、喜三右衛門男) 1767-? 1838存 羽後毛馬内儒者;山本北山門、江戸で旗本竹本氏家臣/竹本氏長崎奉行の際;公用人として長崎赴任、1836「鹿角縁起」著
- E1122 **韋軒** (いけん・秋月あきづき、名;胤永、丸山胤道男) 1824-1900⁷⁷ 会津藩士/昌平黌修学、1865蝦夷代官、藩主松平容保の側近;機密に参画、戊辰戦争参加;禁錮:のち太政官、詩文/書に通ず、「観光集」編/「応徴日札」著、
[韋軒の字/通称] 字;子錫、通称;悌次郎
以頭(いけん・有吉) → 蔵器(ぞうき・有吉ありよし、儒者/教育) 2 5 9 7
亥軒(いけん → がいけん・永山) → 亥軒(がいけん・永山、藩士/儒者) I 1 5 6 2
頤賢(いけん・号) → 湖心(こしん;道号・碩鼎;法諱、臨濟僧) M 1 9 8 2
頤軒(いけん・中江) → 藤樹(とうじゅ・中江、儒;陽明学) 3 1 1 6
頤堅(いけん・山田) → 治堅(はるかた・山田やまだ、儒/詩/紀行) G 3 6 1 5
惟賢(いけん/これかた・阿蘇) → 玄与(げんよ・阿蘇あそ/宇治、武将/歌人) D 1 8 2 3
惟賢(いけん/これかた・藤原) → 惟成(これしげ・これなり・藤原、廷臣/詩歌) 1 9 4 4
惟賢(いけん・佐々木) → 雄斎(ゆうさい・佐々木ささき、医者/歌人) B 4 6 7 5
惟賢(いけん・瀬尾) → 用拙斎(ようせつさい、書肆/儒者) B 4 7 3 3
惟兼(いけん・平) → 惟継(これつぐ・平たいら、廷臣/歌人) E 1 9 3 2
惟憲(いけん・石上) → 惟憲(これのり・石上いそのかみ、歌人) J 1 1 5 8
維堅(いけん・芳川) → 維堅(これかた・芳川よしかわ、古銭鑑定家) O 1 9 2 0
維頭(いけん・沢村) → 琴所(きんしょ・沢村/沢、儒者/兵学) E 1 6 1 4
維賢(いけん・瀬尾) → 用拙斎(ようせつさい・瀬尾せお、書肆/詩文) B 4 7 3 3
維賢(いけん・柳沢) → 維賢(これかた・柳沢やなぎさわ/鬼頭、藩士/書家) R 1 9 4 6
怡軒(いけん・梅津) → 政景(まさかげ・梅津/藤原、藩家老/日記) B 4 0 6 9
怡軒(いけん・梅津) → 利忠(としただ・梅津、政景孫/藩士/兵法) M 3 1 6 9
畏軒(いけん・樋口) → 東里(とうり・樋口ひぐち、医/儒者) I 3 1 0 9
為賢(いけん) すべて → 為賢(ためかた)
為兼(いけん・京極) → 為兼(ためかね・ためかぬ・京極/藤原/入江、歌人) 2 6 5 8
為憲(いけん・源) → 為憲(ためのり・源、廷臣/詩歌人) 2 6 6 9
為憲(いけん・真田) → 為憲(ためのり・真田さなだ、藩士/文筆家) S 2 6 6 9

- 為絢(いけん・藤原) → 狂言堂(きやうげんどう・近松、浄瑠璃/因会/雑俳) N 1 6 6 7
 為絢(いけん・小村) → 滋治(しげはる・小村こむら、藩士/国学者) O 2 1 4 3
 為顕(いけん・藤原) → 為顕(ためあき/ためあきら・藤原、廷臣/歌人) G 2 6 6 3
 為礮(いけん・座光寺) → 為礮(ためかた・座光寺ざこうじ、領主/歌人) X 2 6 2 8
- F1141 意元(いげん) ? - ? 俳人;蕉門、1698刊「続猿蓑」巻下1句入、
 [時々水にかちけり川やなぎ](続猿蓑;巻下/時には柳の枝が上流に)
- 1182 葦原(いげん・児島こじま/手塚てつか、小島四郎左衛門2男) 1837-62獄死26歳 下野宇都宮の称商の家、
 手塚家の養子/児島高德を慕い児島に改姓、儒;山本蕉逸門/のち藤田東湖・茅根寒緑門、
 江戸で武術;金子武四郎門/大橋訥庵門;憂国の志士となる/詩歌を嗜む、妻;操子みさおこ、
 1862坂下門変に連座;捕縛投獄;没、歌文「見聞集」、家集「児島草臣集」「児島強助一家集」、
 「孤囚日記」著、1868「歎涕和歌集」入「殉難草」入、
 [葦原(;号)の名/字/別号]名;庫之介/強介/強助、字;矯/成矯、
 別号;草臣いげみ/艸臣/葦原処士/寸鉄居士/草原列士/先憂慨人/鉄迂人
- 意元(いげん・田沼) → 意元(おきもと・田沼たぬま/源、歌人) D 1 4 7 4
 以言(いげん) → 以言(もちとき・大江・弓削、詩歌) 4 4 0 6
 為言(いげん) → 為言(ためのお・菅原、歌人) H 2 6 2 7
 為言(いげん・藤原) → 為言(ためとき・二条、為氏男、歌/連歌) S 2 6 5 6
 維言(いげん・これとき?・川口) → 竹人(ちくじん・川口/辻、藩士/俳人) D 2 8 2 4
 惟元(いげん・淵) → 岡山(こうざん・淵ふち/大神、儒者) G 1 9 3 3
 惟彦(いげん) → 貞純親王(さだずみしんのう、記録) I 2 0 3 2
 偉彦(いげん・松木) → 偉彦(くすひこ・松木まつき、神職/書画) E 1 7 5 1
 夷彦(いげん・大河原) → 亀文(きぶん・大河原おおがわら、商家/和漢学/戯作) G 1 6 2 1
 依古(いこ・岡野) → 依古(よりひさ・岡野おかの、藩家老/国学) M 4 7 0 5
- B1100 意語(いご・奥村おくむら/修姓;村)?-? 江中期伝記説話作者、浄土宗の説教僧か、
 阿弥陀如来の利益を説く説話集を編纂、占卜に通ず、
 1766「呪術神鬼」「三莊太夫盛衰記」/67「老翁談」69「八卦当物秘伝」「八卦当物之伝」著、
 1768「古今諸家人物誌」編、「古今珍家人物誌」「雅言小筌」著、
 [意語(;号)の別号]意/十意/十意語/五極軒/万釈庵ばんしやくあん/時積長
 夷吾(いご・福田/蒲生) → 君平(くんぺい・蒲生がもう、儒者/尊攘) C 1 7 0 0
- F1142 意校(いこう・萩原はぎわら、官蔵) 1767-182862 上州俳人:似鳩門、1792「俳諧其の日々」
- C1122 維光(いこう) ? - ? 羽前山形住の雑俳点者、
 1780楓呉「いなか曲ぶり紅ばたけ」入
- F1143 渭虹(渭江いこう・土肥どひ、名;実広) 1754-183481歳 羽後秋田藩士;境目方取次役、
 俳人;益子渭舟・吉川五明門、劍術;武蔵丸二刀流、
 「すいもの草」編、「なくさめき草」著
 [渭虹(渭江;号)の通称/別号]通称;藤[東]右衛門、別号;秋窓/清風堂
- 以孝(いこう・高木) → 春山(しゅんざん・高木たかぎ、本草家) K 2 1 8 6
 以孝(いこう・北島) → 内孝(うちり・北島きたじま、歌人/書家) E 1 2 6 5
 伊行(いこう・世尊寺/藤原) → 伊行(これゆき・世尊寺、廷臣/書家) E 1 9 5 6
 伊香(いこう・甘南備) → 伊香(いかご・甘南備真人、万葉歌人) 1 1 7 0
 伊綱(いこう)すべて → 伊綱(これつな)
 伊衡(いこう・藤原) → 伊衡(これひら・藤原ふじわら、廷臣/歌人) E 1 9 4 6
 伊光(いこう・広橋) → 伊光(これみつ・広橋/藤原、廷臣/日記) E 1 9 5 3
 依好(いこう・坂野) → 依好(よりよし・坂野さかの、商家/歌人) I 4 7 1 9
 渭江(いこう、俳人) → 麦天(ぼくてん・右江、渭北いほく、俳人) 3 6 1 1
 意光(いこう・裏松) → 意光(のりみつ・裏松うらまつ、廷臣/歌) F 3 5 8 9
 意行(いこう・田沼) → 意行(もとゆき・田沼、幕臣) E 4 4 5 8
 意公(いこう・小川) → 汶庵(文菴ぶんあん・小川、幕府医者) E 3 8 7 6
 怡広(いこう・永井) → 怡広(つねひろ・永井ながい、商家/国学) G 2 9 0 9
 惟香(いこう・大庭) → 惟香(これか・大庭おおば、国学/歌人) Q 1 9 5 5

惟高(いこう;道号) → 妙安(みょうあん;法諱・惟高、臨濟僧/詩) G 4 1 0 6
 惟亨(いこう・山田/浅井) → 南阜(なんこう・浅井あさい、医者/詩歌) I 3 2 9 4
 惟孝(いこう・田沼) → 乾山(けんざん・横田/本姓高津、儒者) E 1 8 8 6
 惟孝(いこう・藤江) → 梅軒(ばいけん・藤江ふじえ、藩儒者/詩文) B 3 6 0 9
 惟孝(いこう・小林) → 惟孝(これたか・小林/篠宮、和算家) O 1 9 4 4
 惟孝(いこう・秋山) → 惟孝(これたか・秋山あきやま、神職) Q 1 9 2 2
 惟孝(いこう・中村/源) → 十竹(じっちく・中村なかむら、藩士/書画) U 2 1 9 3
 惟孝(いこう/これたか・神) → 晋斎(しんさい・神じん、医者/儒者) O 2 2 5 3
 惟孝(いこう/これたか・中西) → 鷹山(ようざん・中西なかにし、医者/古医方) B 4 7 0 4
 惟孝(いこう・山田) → 惟孝(これたか・山田やまだ、薬舗/絵師/詩) R 1 9 4 8
 惟孝(いこう・岡野) → 惟孝(これたか・岡野おかの、檜物職/歌/俳) Q 1 9 5 9
 惟恒(いこう・高階/西田) → 惟恒(これつね・西田/高階、国学/歌人) O 1 9 5 4
 惟弘(いこう・成島) → 柳北(りゅうほく・成島なるしま、幕臣/儒者) F 4 9 6 7
 惟宏(いこう・今藤) → 惟宏(これひろ・今藤いまふじ、藩士/教育) O 1 9 8 0
 惟敷(いこう・浅田) → 棕園(そうえん・浅田あさだ、医者) G 2 5 3 6
 維光(いこう・大江) → 維光(これみつ・大江おおえ、廷臣/歌人) G 1 9 0 7
 維光(いこう/これみつ・西尾/岩垣) → 東園(とうえん・岩[巖]垣/源、儒者) B 3 1 4 9
 維孝(いこう/これたか・久我/中院) → 通維(みちこれ・中院/源/久我、廷臣/日記) B 4 1 4 8
 惟孝(いこう/これたか・山本) → 楽所(らくしょ・山本やまもと、藩儒) B 4 8 2 2
 維孝(いこう・広瀬) → 林外(りんがい・広瀬ひろせ、儒者/詩人) K 4 9 0 5
 為光(いこう) すべて → 為光(ためみつ)
 為広(いこう) すべて → 為広(ためひろ)
 為行(いこう) すべて → 為行(ためゆき)
 為綱(いこう) すべて → 為綱(ためつな)
 為康(いこう) すべて → 為康(ためやす)
 為孝(いこう・冷泉) → 為孝(ためたか・冷泉、歌人) G 2 6 9 4
 為幸(いこう・吉田) → 為幸(ためゆき・吉田よしだ、藩士/和算家) S 2 6 8 6
 為高(いこう・橘) → 為高(ためたか・橘たちばな、南北期歌人) 2 7 8 3
 為興(いこう・波多野) → 為興(ためおき・波多野はたの、神職/国学) Y 2 6 9 6
 為興(いこう・渡) → 為興(ためおき・渡わたり、歌人) 2 7 4 9
 為衡(いこう・二条) → 為衡(ためひら・二条/御子左/藤原、歌人) H 2 6 3 7
 葦行(いこう・斎藤) → 秋圃(あきうぼ・斎藤/葵/池上、絵師) I 2 1 2 7
 焯煌(いこう・野見) → 嶺南(れいなん・野見のみ、医者/郷土史家) 5 1 5 8
 威公(いこう;諡号) → 頼房(よりふさ・徳川/源/松平、初代水戸藩主) J 4 7 6 9
 威光院(いこういん;号) → 神識(じんしき;法諱、真宗大谷派僧) O 2 2 6 8
 威光院(威広院いこういん;号) → 靈曜(れいよう;法諱、真宗大谷派僧) 5 1 6 9
 威光院(いこういん) → 巖実(いんじつ;法諱・小笠原、真宗僧/歌) Q 1 9 4 2
 伊香王(いこうおう) → 伊香(いかご・甘南備真人、万葉歌人) 1 1 7 0
 伊蒿子(いこうし) → 懶斎(らんさい・藤井ふじい、藩医/儒者) 4 8 0 8
 伊小右衛門(いこえもん) → 武矩(たけのり・小山こやま、藩士/兵法/俳人) O 2 6 6 0
 为国(いこく・久野) → 为国(ためくに・久野くの、藩士/国学者) U 2 6 1 4
 威克(いこく・中田) → 威克(たけかつ・中田なかた、藩士/国学) Y 2 6 5 5
 生駒(いこま・日下) → 世傑(せいけつ・日下くさか/孔/森、農家/儒/詩) B 2 4 1 7
 生駒山人(いこまさんじん) → 世傑(せいけつ・日下、農家/詩人) B 2 4 1 7
 生駒堂(いこまどう) → 灯外(とうがい、俳人) B 3 1 9 8
 生駒之進(いこまのしん・末田) → 百千(ももち・末田すえだ、藩士/神職) K 4 4 1 4
 生駒僧都(いこまのそうず) → 良遍(りょうへん;法諱、法相僧/浄土教) J 4 9 3 7
 伊五郎(いごろう・那波/吉川) → 五明(ごめい・吉川、商家/俳人) D 1 9 9 3
 葦根(いこん・高須) → 葦根(あしね・高須たかす、商家/歌人) H 1 0 9 3

- K1122 **伊佐** (いさ・栗谷くりたに、) 1752-1819 68 伊勢度会郡の国学・歌人; 本居宣長門、栗谷当弘まさひろ(寿老大夫)の妻
- K1120 **いさ** (・北原きたはら、旧姓; 市岡) 1777-1856 80 信濃飯田の生、国学・歌人、伊那郡座光村の郷土北原信維のぶこれ(1758-1820)の妻、因信よりのぶ(1790-1862)の母
伊佐(維佐いさ・成瀬/大高坂) → 維佐子(いさこ・大高坂おたかさか、和漢学/女訓書) 1 1 8 4
伊左(いさ・大関) → 伊左女(いさよ・大関おおせき、歌人) J 1 1 6 4
いさ(・明石) → いさ子(いさこ・明石あかし/野村、歌人) J 1 1 7 9
- E1124 **頤齋** (いさい・深見ふかみ、名; 玄融、玄岱げんたい[天漪]男/本姓; 高) 1690-1769 80 江戸の書家、1715幕府に出仕、18精神障害で罷免/父の家に籠居; 書家の名声、家督は弟有隣(ゆうりん/ありちか)が継嗣、「陋室銘」「高氏印譜」「曲馬行并引」著、[頤齋(;)の字/通称/号]字; 双玉、通称; 久兵衛/久之丞/新右衛門
- E1125 **畏齋** (いさい・高山たかやま、名; 一之、久右衛門男) 1727-84 58 筑後の農業/儒; 留守希齋門、久留米藩儒官; 学問所開設に尽力、「五行始生考」「論語臣称謂論」著
[畏齋(;)の通称] 通称: 可三郎/金次郎、
- F1144 **頤齋** (いさい・児島こじま、名; 恭/字; 尚善) ?-? 江後期播州北条の医者・後藤良山門、郷里で開業; 郷土の医事啓蒙、
1759「さとし草」/82「保産道志類辺」/96「産科母子草」/1813「孝慈録」著
- F1145 **彝齋** (いさい・斎藤さいとう、名; 有隣/斌ひん) 1764-1821 58 下野儒者; 望月南堤門/のち江戸佐藤一齋門、下総関宿藩士、「彝齋詩文鈔」「小海録」、「彝齋先生詩鈔」著、「彝齋遺稿」、
[彝齋の字/通称] 字; 文徳、通称喜右衛門
- F1146 **畏齋** (いさい・宮崎みやざき/本姓; 紀、名; 成美/字; 子慎、成章男) 1772-? 1828 存 幕臣/儒; 岡田寒泉門、1794御書院番に列す/1827致仕、江戸小石川に学習館を開塾; 教授、1822「為学邇言」著、
[畏齋(;)の通称/別号] 通称; 平四郎/安之助、別号; 藁谷じょうこく
- E1126 **畏齋** (いさい・藤田ふじた、名; 重勝/通称; 源之丞[允]) 1781-1848 68 常陸土浦藩儒、手塚坦齋門、近習監察、江戸藩邸; 師と共に藩士子弟教育、
「冬至文会読筆記」「延平答問筆記」著、1837「読節要」編
- 1183 **意齋** (いさい・山田やまだ、通称; 圭蔵/定七) 1788-1846 59 大阪の書家/1811頃狂歌作者/35頃筆耕業、書肆代作者; 読本・浄瑠璃作者/娯楽的読物・通俗啓蒙書執筆、上田公長/楠里亭其楽と交流、1820「昔話茨の露」、32「生写朝顔話」、39「画口合えぐちあわせ種瓢」44「詠開穉七草」外著多数、
[意齋の別号] 山田案山子やまだのかかし/耶麻田加々子/案山子/野亭/好華堂野亭/得翁齋/山珪士信、屋号; 大和屋、法号; 寒空意齋禅定門
- D1137 **為齋** (いさい・葛飾かつしか、通称; 宗次、清水氏) 1821-80 60 江戸絵師: 北齋門/横浜住; 輸出向浮世絵、金水「朝夷巡島記」画、「新調風香集」「花鳥山水図式」「日蓮上人一代図会」画、「為齋画式」、
[為齋(;)の別号] 酔桜軒/酔桜楼
- 伊齋 (いさい・高/王) → 葛坡(かっぱ・高こう、漢学者) H 1 5 8 3
- 怡齋 (いさい) → 周良(しゅうりょう; 法諱・策彦; 道号、臨濟僧/詩) 2 1 5 0
- 怡齋 (いさい・石井) → 垂穂(たりほ・石井、藩士/儒/俳諧) N 2 6 5 0
- 怡齋 (いさい・熊野) → 正紹(まさつぐ・熊野くまの、漢学/地誌家) D 4 0 9 2
- 意齋 (いさい・御菌) → 常心(じょうしん・御菌みその、源、鍼医) K 2 2 0 3
- 意齋 (いさい・御菌) → 中渠(ちゅうきよ・御菌みその、鍼医) F 2 8 9 1
- 意齋 (いさい・勢多) → 章敦(のりあつ・勢多せた/中原、明法家) E 3 5 2 6
- 彙齋 (いさい) → 真酔(ますい・石橋庵、彫工/戯作) I 4 0 9 2
- 韋齋 (いさい・陸原) → 之淳(ゆきあつ・陸原くがはら、藩儒/詩人) E 4 6 2 4
- 葦齋 (いさい) → 正英(まさひで・玉木・橋、神道家) G 4 0 6 6
- 委齋 (いさい) → 正式(まさのり・池田、俳/歌人/狂歌) F 4 0 9 4
- 為齋 (いさい・宮地) → 春樹(はるき・宮地みやぢ、藩士/儒/国学) G 3 6 2 4
- 為齋 (いさい・芦原) → 蟹丸(かにまる・芦原あしはら、大阪狂歌) C 1 5 6 5
- 為齋 (いさい・二宮) → 守恒(もりつね・二宮にのみや、神職/国学) F 4 4 8 4
- 惟齋 (いさい・安並) → 雅景(まさかげ・安並やすなみ、藩士/国学/歌) B 4 0 7 2
- 漪齋 (いさい・岡島) → 竜湖(りゅうこ・岡島おかじま/谷田部/吉成、儒者) D 4 9 6 8

- 維濟(いさい・藤井) → 維濟(これなり・藤井/藤原、国学者) O 1 9 6 3
 鷗齋(いさい・杉田) → 玄白(げんぱく・杉田すぎた子鳳、医/蘭学) 1 8 2 9
 畏齋(いさい・横井) → 小楠(しょうなん・横井よこい、思想家) B 2 2 0 5
 畏齋(いさい・山内) → 規重(のりしげ・山内やまのうち、範家老/儒) E 3 5 6 7
 畏齋(いさい・白田) → 可久(よしひさ・白田やすだ/坂口、国学者) L 4 7 7 4
 夷齋(いさい) → 布席(ふせき・鴈来庵/伊達屋、商家/俳人) C 3 8 9 3
 萇齋(いさい→ていさい) → 関月(かんげつ・薜しとみ/柳原、絵師) D 1 5 5 8
- C1123 **以哉坊**(いさいぼう、安田やすだ) 1715-1780 66歳 美濃派俳人:獅子門5世、再和坊と争う、
 「鳳巾の晴」「夏と秋」「夏の山」「冬の隣」「百里鶯」著
- C1124 **伊左衛門**(いざえもん・岩井いわい) ?- ? 上方歌舞伎役者/作者:正徳-元文1712-38頃活動、
 3世岩井半四郎門/1712大坂嵐三十郎座で岩井源八名で出演/1719改名、1730頃作者、
 1732「新舞台鏝礎」33「苺萱卯花衣」「けいせい藤戸源氏」「初夢曾我二人枕」著、
 1735「豊曦永代蔵」36「安宅甚平葛山道」「花鬘勢曾我」37「子敦盛血汐袈裟」外著多数、
 [岩井伊左衛門(;号)の別号]初号:岩井源八/岩井源八郎/岩井伊助
- 伊左衛門(いざえもん・知久) → 則直(のりなお・知久ちく、旗本/領主/歌) J 3 5 0 7
 伊左衛門(いざえもん・知久) → 頼中(よりなか・知久6代、旗本/領主/歌) N 4 7 9 1
 伊左衛門(いざえもん・相楽) → 等躬(とうきゆう・相楽、俳人) C 3 1 6 4
 伊左衛門(いざえもん・出口) → 政信(まさのぶ・出口でぐち、兵学者) F 4 0 6 0
 伊左衛門(いざえもん・栗阪) → 守熙(もりひろ・栗阪あわさか、藩士/地誌) G 4 4 4 0
 伊左衛門(いざえもん・木村) → 清蔭(せいいん・木村きむら、商家/詩歌) H 2 4 4 0
 伊左衛門(いざえもん・河内/小笠原) → 貞宣(さだのぶ・小笠原/河内、幕臣) J 2 0 1 6
 伊左衛門(いざえもん・横山) → 正守(まさもり・横山よこやま、幕臣/歌) L 4 0 6 1
 伊左衛門(いざえもん・木村) → 魯石(ろせき・木村きむら、商家/俳人) 5 2 0 5
 伊左衛門(いざえもん・石川) → 流宣(るとのぶ・石川、画/浮世草子/俳) Q 3 1 1 9
 伊左衛門(いざえもん・小島屋) → 東吹(とうすい、俳人) F 3 1 7 6
 伊左衛門(いざえもん・鍋屋) → 春樹(はるき・森もり、商人/画/俳人) G 3 6 2 5
 伊左衛門(いざえもん・高橋) → 洞々(とうとう・高橋たかはし、農業/俳人) G 3 1 7 9
 伊左衛門(いざえもん・本井) → 子承(ししょう・本井もとい/井、医者) T 2 1 7 6
 伊左衛門(いざえもん・片岡) → 成斎(せいさい・片岡かたおか、家老/儒者) I 2 4 3 0
 伊左衛門(8代いざえもん・井筒屋) → 隆恵(たかよし・水沢みずさわ、商家/国学) Z 2 6 7 3
 伊左衛門(9代いざえもん・井筒屋) → 邦綱(くにつな・水沢みずさわ、商家/歌人) E 1 7 5 5
 伊左衛門(10代いざえもん・井筒屋) → 定毅(さだよし・水沢、商家/国学) P 2 0 5 3
 伊左衛門(いざえもん・高橋) → 以一(ゆきかず・いつ・高橋、商家/俳人) E 4 6 3 9
 伊左衛門(いざえもん・江碕) → 穂足(ほたり・江碕えさき、神職/歌人) G 3 9 1 6
 伊三右衛門(いざえもん・殿村/米屋) → 茂濟(しげまさ・殿村とのむら、米穀商/歌人) C 2 1 9 8
 猪左衛門(いざえもん・平塚) → 良重(よししげ・平塚ひらつか、古筆鑑定/歌) Q 4 7 4 5
 猪左衛門(いざえもん・木村) → 正樹(まさき・木村きむら、国学者) C 4 0 2 6
 為左衛門(いざえもん・末永) → 虚舟(きよしゆう・末永すえなが、藩士/地理) P 1 6 6 3
 尉左衛門(いざえもん・堀尾) → 直治(なおはる・堀尾ほりお、歌人) O 3 2 6 9
- F1147 **績**(いさお・倉田くらた、初名;朔太郎) 1827-1919 長寿 93 伊勢一志郡の儒者:久居藩士佐野金平門、
 軍学;高井作左衛門門/和歌山で修学/江戸で佐藤一斎門、和歌山で子弟教育、
 維新後神職;紀伊水門吹上神社・竈山神社の祠官、詩歌を嗜む/禅に通ず、
 1856「家里松島文会録」著、
 [績(;名)の字/通称/号]字;以成、通称;亀之助、号;不可得斎/何庵/袖岡/允斎/九十九軒
- K1131 **勲**(いさお・里見さとみ、) 1839 - 1882 44 陸奥気仙郡の儒医者、国学;鍋島誠門
 [勲(;名)の通称/号]通称;源之進、号;言霊舎ことだまのや(;師の号を嗣)
- K1116 **鯨夫**(いさお・木村きむら、信競のぶかつ男) 1841-83 43 伊予松山出淵町の商家;布屋/富豪、
 歌;父(香川景樹門歌人)門、国学;大国隆正門、伊予歌壇の興隆に貢献、
 汽船を購入;海運に尽力、「愛媛県御用新聞」経営に乗り出す;明治10[海南新聞]と改称、

晩年神職;東雲神社社司、

[鯨夫(;号)の初名/別号]名;庸よ、号;五射夫いさお/五草穂ごそうすい/愛宕庵/茶不老/不老宕

- 功(いさお・野口) → 比礼雄(ひれお・野口のぐち、歌人) F 3 7 4 5
功(いさお・小国) → 重友(しげとも・小国おぐに/鈴木、神職/国学) N 2 1 6 5
勲(いさお・赤松) → 蘭室(らんしつ・赤松あかまつ、藩儒者/詩) C 4 8 4 6
勲(いさお・小橋) → 橋陰(きつゐん・小橋こばし、儒者) L 1 6 4 0
勲(いさお・江村/清田) → 公績(こうせき・清田せいた、藩儒/詩人) F 1 9 2 2
勲(勇雄いさお・城) → 竹窓(ちくそう・城じょう、藩士/儒者) D 2 8 3 8
勲(いさお・片桐) → 栄久(ひでひさ・片桐かたぎり/源、国学者) J 3 7 0 4
早部使主三中之父(いさかべのおみみなかのちち) → 三中之父(みなかのちち・日下部)
伊差川親方(いさがわうえかた) → 秉哲(へいてつ・鄭てい/伊差川、史学者) 2 7 7 3
清子(いさぎよきこ) → 清子(せいし・命婦) B 2 4 7 7
清子命婦(いさぎよきこのみょうぶ) → 清子(せいし・命婦) B 2 4 7 7

C1125 意朔(いさく・伊勢村いせむら、名;之次/通称;九兵衛/別号;招鳩斎)?-? 江前期大坂立売堀の俳人、
俳諧:松永貞徳門/のち北村季吟門、1657「牛飼」71「難波草」入、1669百五十番発句合右方参、
1673「哥仙大坂俳諧師」76西鶴「俳諧師手鑑」81賀子「山海集」82春林「百人一句難波色紙」入、
1682如扶「三ヶ津さんかのつ」入、次良(俳人)の兄、
[行く年よ入り湯もあるにおとまりあれ](山海集;3、
謡曲「鉢木」;見苦しう候へども一夜は泊り給へや)

- 伊作(いさく・伊形) → 大朴(たいぼく・伊形いがた、儒者/詩) L 2 6 0 2
伊作(いさく・赤石) → 浄心(じょうしん・赤石あかいし、藩士/儒者) K 2 2 0 5
伊作(いさく・赤石) → 蒲池(ほち・赤石、浄心の養子/藩士/俳人) E 3 9 4 7
伊作(いさく・末広) → 石鼎(せきてい・末広すえひろ、俳人/篆刻家) K 2 4 4 1
巳作(いさく・酒井) → 元福(もととみ・酒井さかい、藩士/歌) I 4 4 7 5

1184 維佐子(いさこ・大高坂おおたかさか、成瀬いち[壺]、成瀬忠重女) 1660-99⁴⁰ 阿波生、江戸住;和漢学者、
松山藩士大高坂芝山妻、藩主の室に出仕;女訓書を著、
「うつしゑ」「唐錦女則」「続女則」「古教訓」著、
[維佐子の別字/号] 別字;伊佐/維佐女、号;喬松女

F1148 伊左子(いさこ・清風亭/白銀)?-? 江戸白銀の狂歌作者;女流判者、
1815「多満廼以左吾」著

F1149 續子(いさこ・中山なかやま、初名;美禰/愛子、愛親女) 1795-1875⁸¹ 1807東宮女房/17典侍/正三位、
1848嘉彰親王/能久親王の養母代、「中山續子日記」「中山續子消息」著、
[續子(;名)の女房名] 高松局たかまつのつぼね/宰相典侍さいしょうのなしいのすけ/典侍局すけのつぼね

J1179 いさ子(いさこ・明石あかし/旧姓;野村) 1800-70⁷¹ 筑前福岡藩士明石行敏の妻、
歌人;大隈言道門、夫と共に詠歌を嗜む

- 一三五亭五蘭(いさごていごらん) → 五蘭(ごらん・一亭、戯作者) N 1 9 8 8
亥三二(いさじ・宮本) → 愚翁(ぐおう・宮本みやもと、藩士/心学者) C 1 7 3 2

J1164 伊左女(いさじよ・大関おおせき)?-? 江後期;歌人、下野黒羽藩主家の人?、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[ふけゆけばいどどあはれも深草の露をよすがに虫も鳴くなり](大江戸倭歌;秋793)

維佐女(いさじよ・大高坂) → 維佐子(いさこ・大高坂おおたかさか、和漢学/女訓書) 1 1 8 4

伊佐之助(伊三之助いさのすけ・草間) → 直方(なおかた・草間くさま、商家/経済研究) 3 2 9 2

F1150 伊三郎(いさぶろう・中屋なかや[;屋号]、中なか氏) 1790-1860⁷¹ 京の生/従弟の中なか天游を頼り大阪住、
蘭学/銅版画を修得、「重訂解体新書」の図作成;上方銅板の基礎、
「蘭学展具」「曆象新書図」著、

[伊三郎(;通称)の名/字/号]名;亥、字;端、号;芝蘭堂/凹凸堂/凸凹堂

- 伊三郎(いさぶろう・梅沢) → 梅壽(ばいじゅ・梅沢うめざわ、書肆/俳人) B 3 6 4 4
伊三郎(いさぶろう・荻生) → 金谷(きんこく・荻生おぎゅう/物、儒者) D 1 6 9 9
伊三郎(いさぶろう・戸田) → 氏著(うじあき・戸田とだ、幕臣) C 1 2 3 1

伊三郎(いさぶろう・森/道体)→ 氏継(うじつぐ・森/道体どうたい、和算家) C 1 2 4 7
 伊三郎(いさぶろう・酒井) → 英寿(えいじゅ・景斎、酒井、絵師/戯作) C 1 3 8 9
 伊三郎(いさぶろう・林) → 鶴梁(かくりょう・林、幕臣/儒者) E 1 5 8 0
 伊三郎(いさぶろう・小橋) → 静学(せいがく・小橋こはし、儒者/医者) H 2 4 7 9
 伊三郎(いさぶろう・大久保)→ 漣々(初世れんれん・大久保、俳人) B 5 1 3 5
 伊三郎(いさぶろう・大久保)→ 漣々(2世れんれん・大久保、初世男/俳人) B 5 1 3 6
 伊三郎(いさぶろう・豊田) → 勝義(かつよし・豊田とよだ、算学者) O 1 5 0 3
 伊三郎(いさぶろう・萩野) → 鳩谷(きゅうこく・萩野/孔平くびら、藩士/儒) I 1 6 7 4
 伊三郎(いさぶろう・福田/蒲生)→ 君平(くんぺい・蒲生がもう、儒者/尊攘) C 1 7 0 0
 伊三郎(いさぶろう・広瀬) → 克斎(こくさい・広瀬ひろせ、藩士/儒者) M 1 9 1 7
 伊三郎(いさぶろう・神保) → 泰和(やすかず・神保じんぼ、和算/地誌家) B 4 5 1 1
 伊三郎(いさぶろう・宮坂) → 有位(ありかた・宮坂みやさか、酒造業/国学) L 1 0 5 9
 猪三郎(いさぶろう・中山/百村もむら)→ 一斎(いっさい・井筒いづつ、歌舞伎役/作者) C 1 1 7 9
 猪三郎(いさぶろう・松浦) → 舜拳(春拳しゅんきょ・松浦、絵師) Z 2 1 3 6
 猪三郎(伊三郎いさぶろう・長谷川)→ 菅緒(菅雄すげお・長谷川、医/国学/歌) B 2 3 6 2
 猪三郎(いさぶろう・阿閉) → 言足(のぶたり・阿閉あべ、藩士/国学/尊攘) H 3 5 0 4
 猪三郎(いさぶろう・川島) → 春満(はるみつ・川島かわしま、商家/国学) J 3 6 9 9
 為三郎(いさぶろう・鈴木) → 其一(きいつ・鈴木すずき、絵師) E 1 6 9 5
 偉三郎(いさぶろう・日吉) → 湯島(とうとう・日吉ひよし、儒者) G 3 1 7 4
 偉三郎(いさぶろう・小林) → 重匡(しげまさ・小林こばやし、国学/歌) O 2 1 4 1

F1151 勇(いさみ・近藤こんどう、名;昌宜まさよし、宮川久次男) 1834-68刑死 35歳 武州石原村の剣道家;
 近藤周助門/養子となる、養父門下の土方歳三・沖田総司と幕府新徴組に参加、
 京守護職下で新撰組を組織;隊長となる、鳥羽伏見戦で敗退東下;下総流山で捕縛、
 板橋庚申塚で処刑、「近藤昌宜剣道伝書」著、
 [勇(;通称)の別通称/変名] 別通称;島崎勝太、変名;大久保大和、法号;心勝院/貫天院

勇(伊佐美/五十狭美いさみ・藤本)→ 久葛(ひさつら・藤本/度会/小島、国学者) B 3 7 4 2
 勇(いさみ・見坊) → 景兼(かげかね・見坊けんぼう/蛭田、藩士/軍術) K 1 5 8 7
 伊佐美(勇いさみ・岳) → 梶司(すぎじ・岳おか/源、神職/国学/歌) I 2 3 2 3

F1152 勇(いさむ・女賀めが/目賀、通称;四郎左衛門、法名;釈誠寿) 1826-1908 83 陸中盛岡藩士、
 代々藩の故実家、1843「年中着服覚」「手鑑」著

F1153 勇(いさむ・小西こにし) ? - ? 江後期播磨竜野藩士、1856藩校敬楽館教官、
 「敬楽館積菜書留」著

勇(いさむ・小川) → 布淑(のぶとし・小川、歌人) C 3 5 3 4
 勇(いさむ・小川) → 清流(すがる・小川おがわ、藩士/国学) I 2 3 1 5
 勇(いさむ・兎山) → 紀成(のりしげ・兎山、幕臣/歌/紀行) E 3 5 6 8
 勇(いさむ・見坊) → 景兼(かげかね・見坊けんぼう、藩士/軍術) K 1 5 8 7
 勇(いさむ・佐藤/小松) → 愚山(ぐざん・小松こまつ、藩士/漢学) C 1 7 4 1
 勇(いさむ→いさみ・藤本) → 久葛(ひさつら・藤本/度会/小島、国学者) B 3 7 4 2
 勇(いさむ・阪本) → 弦山(げんざん・阪本、医者/経史/文学) J 1 8 2 8
 勇(いさむ・梅田) → 春鷹(はるたか・梅田うめだ、神職/歌人) J 3 6 7 9
 勇(いさむ・青山) → 雷巖(らいがん・青山あおやま、漢学者) 4 8 2 8
 勇(いさむ・宇都宮) → 孚(たかし・宇都宮うつのみや、国学/歌人) V 2 6 7 6

F1154 以三(いさん・西にし、通称;貞) ?-1698 筑後久留米の僧/のち医者/史家、西牟田住、
 1682「筑後地鑑」著、「南筑明覧」編

F1155 位産(いさん;法諱) 1587 - 1652 66歳 江戸の浄土僧:幡随意門/宗戒両脈を相承、
 江戸下谷に寿永寺を開創;般舟三昧の別道場とす、川越蓮馨寺住/鎌倉光明寺住、
 小石川伝通院住職/将軍家光の命で芝増上寺22世、「位産上人覚書」著、
 [位産(;法諱)の法号] 暁誉/還阿/天蓮社

い三(いさん・不破/多賀谷)→ 環中仙(かんちゅうせん・多賀谷、和算家) R 1 5 3 9

- 偉三(移三いさん・日吉) → 湯島(とうとう・日吉ひよし、儒者) G 3 1 7 4
 意賛(いさん・蒲生) → 精庵(せいあん・蒲生がもう、医/儒者) H 2 4 3 1
- 1185 為山(いざん・関せき、通称;永蔵)1804-7875歳 江後期江戸の左官職;幕府御用/俳人;梅室門、
 1828「あみだ笠」初入集、1833「あをむしろ」編/「今人五百題」「枯菊集」編、
 1847「近世俳諧十家類題集」の10人の1、
 [為山(;号)の別号] 千輅せんろ/涉壁しょうへき/月の本/梅の本/梅閑人/正風園
- C1126 伊山(いざん) ? - ? 武州武蔵野住;俳人、
 1748涼袋「いせのはなし」に百韻入
- F1156 威山(いざん、伊藤いとう、名;松/字;貞一)?-?1830-44没 江後期豊後の儒者、
 1838-40刊「隣文徴書」著
- F1157 畏山(いざん、宮地みやぢ、名;百馬/貞枝、土佐藩士貞幹の長男)1784-185067 儒;1811藩校教授館修学、
 1816家督嗣/土佐藩士;1840勘定奉行加役、軍備御用兼帯;大阪詰/43致仕、篠崎小竹と親交、
 詩;箕浦耕雨門;詩会参加、剣術;牛島隼太門/槍術;岩崎甚左衛門門、
 「畏山日録」「畏山漫録」著、
 [畏山(;号)の通称/別号] 通称;左市、別号;筠所いんしよ/嬉斎たいさい
- 移山(いざん・山脇) → 東洋(とうよう・山脇、医者) H 3 1 7 7
 意山(いざん・平野) → 喜房(よしふさ・平野ひらの、藩士/和算家) G 4 7 7 7
 為山(いざん・井上) → 子休(しきゅう・井上いのうえ、藩士/儒者) Q 2 1 1 2
 為山(いざん・松平) → 頼学(よりさと・松平まつだいら、藩主/詩歌) P 4 7 2 0
 為山軒(いざんけん・林) → 得閑斎(3世とつかんさい・砂長さちよう、書肆/狂歌) O 3 1 4 3
 猪三太(いざんた・麻野) → 林曹(りんそう・麻野あさの/笠原、儒者) K 4 9 6 3
 移山亭(いざんてい) → 樸翁(れきおう・小野おの、農業/歌人) 5 1 0 8
 移山亭(いざんてい) → 務(つとむ・小野、樸翁男/藩政参/歌人) 2 9 9 8
 為三堂(いざんどう) → 其一(きいつ・鈴木すずき、絵師) E 1 6 9 5
 意山和尚(いざんおしょう) → 若芝(じゃくし・河村かわむら、絵師/工芸) G 2 1 1 5
- C1127 惟子(惟氏いし、惟良氏の女or惟宗氏の女?)?-? 平安前期嵯峨朝809-23頃の女流詩人、
 嵯峨天皇の詩宴出詠(;巨瀬識人/有智子内親王らと)、経国集入
- E1105 威子(いし/たけこ・藤原ふじわら、藤壺中宮、藤原道長女、母;倫子)999-103638 1018入内、
 後一条天皇[1008-1036]の中宮、章子・馨子の母、歌;壺撫子合催?、
 1018(寛仁2). 10. 16威子立后の際道長が「この世をばわが世とぞ思ふ」を詠(小右記)、
 1036(長元9)4月天皇没;出家/9月に没、
 女房歌人に出羽弁・出雲ら、新古814(:没後人の夢にて)
- J1122 以子(苡子いし・藤原ふじわら、茨子、藤原実季女)1076-1103早世28 堀河天皇女御、鳥羽天皇の母、
 贈皇后宮/贈皇太后、公実きんざねの妹、
 歌;千載集575(硯箱に書置かれていた辞世の歌;没後に発見)、
 [胸にみつ思ひをだにも晴るかさで煙けりとならむ事ぞかなしき](千載;哀傷575)、
 (思ひのひは火を掛け煙の縁語/晴るかすは思いを晴らす/煙は茶毘の煙、
 皇后になれなかったことや鳥羽天皇の処遇など白河院の扱いへの不満集積;八代集抄)
- 1186 以之(いし・丹波たんば、名;幸胤、通称;浅野屋治右衛門)?-1759 尾張名古屋の医者、俳人;支考門、
 茶/琵琶に通ず、1717「務津能波那むつのはな」編、29芭蕉真蹟等を笠寺観音堂に埋め千鳥塚建立、
 [以之(;号)の別号] 千鳥庵/少以
- 懿子(いし・源or藤原) → 忠家母(ただいえのはは・藤原、女房/歌人) E 2 6 8 4
 懿之(いし・加藤) → 玄順(げんじゅん・加藤かとう、医者) J 1 8 7 8
 為子(いし・ためこ・藤原為家女) → 大納言典侍(だいなごんのすけ) B 2 6 9 8
 為子(いし・ためこ・藤原為教女) → 為子(ためこ・藤原、従二位) G 2 6 7 9
 為子(いし・ためこ・藤原為世女) → 為子(ためこ・藤原、宗良親王母) G 2 6 8 0
 為子(いし・沼崎) → 為子(ためこ・沼崎ぬまざき/田窪、歌人) W 2 6 3 1
 為子(いし・中西) → 為子(ためこ・中西なかにし、歌人) Y 2 6 5 7
 為巳(いし・座光寺) → 為巳(ためみ・座光寺ざこうじ/石尾、領主/歌人) X 2 6 2 6
 為之(いし) すべて → 為之(ためゆき)

- 為氏(い・二条) → 為氏(ためうじ・二条/御子左、廷臣/歌人) 2 6 5 6
 為嗣(い・五条) → 為嗣(ためつぐ・五条/藤原、廷臣/歌人) H 2 6 0 2
 伊嗣(い・鷹司) → 伊嗣(これつぐ・鷹司たかつかさ/藤原、廷臣/歌) E 1 9 3 1
 伊之(い/これゆき・西村) → 藐庵(みやくあん・西村、名主/書・茶・歌) F 4 1 9 0
 伊之(い/これゆき・高嶋) → 伊之(これゆき・高嶋たかしま、俳人) P 1 9 7 8
 依之(い・横山) → 蘭蝶(らんちよう・横山よこやま/津田、詩人) C 4 8 9 9
 意次(い・田沼) → 意次(おきつぐ・田沼、幕臣/老中) 1 4 7 1
 意時(い・坂場) → 与蔵(よぞう・坂場さかば、藩士/奉行) I 4 7 1 0
 伊治(い・小槻) → 伊治(これはる・小槻/大宮、廷臣/山口住) O 1 9 7 3
 惟治(い・阿蘇) → 惟治(これはる・阿蘇/宇治、神職/勤王) O 1 9 7 4
 惟治(い・石川) → 惟治(これはる・石川いしかわ、歌人) Q 1 9 0 6
 惟時(い・平松) → 惟時(これとき・平松ひらまつ、国学者) R 1 9 1 9
 惟時(い・桜井) → 惟時(これとき・桜井さくらい、歌人) Q 1 9 0 7
 維時(い・荒木) → 是水(ぜすい・荒木あらかき、書家) K 2 4 6 4
 為次(い・八島) → 為次(ためつぐ・八島やしま、藩士/剣術家) S 2 6 5 2
 為時(い) すべて → 為時(ためとき)
 石内(いしうち・佐藤) → 鎮定(しずさだ・佐藤さとう、国学者) O 2 1 5 6
- F1158 石川勾当(いしかわこうとう) ? - ? 京の地歌名手/組歌・手事物作曲
 ☆石川郎女(いしかわのいらつめ) ? - ? ……万葉集…… 最大限7名：一般的には4名説
 [4名説=①a, ②b~e 同一人, ③f, ④g]/[6名説=②をb・cとdとeに分ける]
- D1138 a 天智期・久米禪師より求婚され唱和、 万葉一期歌人・相聞贈答(97・98)
 D1139 b 天武期・大津皇子と贈答、 万葉二期歌人・相聞(108)/大津と密会占いで露見
 D1140 c 日並(草壁)皇子より相聞歌(字;大名児)、 万葉二期歌中人物・答歌はない
 D1141 d 大伴田主たぬしと贈答、 万葉二期歌人・相聞 126・128、
 美男子の田主に老婆に化け接近する計略が失敗:戯歌を贈る
 D1142 e 大伴宿奈麻呂と贈答(字:山田郎女)、 万葉二期歌人・相聞 129、大津皇子の宮の元侍女
 1109 f 大伴安麻呂の妻 ? -753存(長命) 万葉三期歌人、518・4439、461・667左注、
 別通称;石川内命婦ないみよおうぶ・石川命婦・佐保大伴大家おとし、諱:邑婆おおば、
 坂上郎女の母
 1187 g 藤原宿奈良麿の妻・離別 万葉四期歌人・4491夫への挽歌
 1188 石川賀係女郎(いしかわのかけのいらつめ)?-? 万葉三期歌人卷八1612:秋相聞、
 [神さぶと否いなにはあらず秋草の結びし紐を解かば悲しも](万葉;1612)
 1189 石川夫人(いしかわのぶにん) ? - ? 万葉一・二期歌人;万二154;天智天皇崩御挽歌、
 天智天皇の嬪ひんの一人か、
 [楽浪ささなみの大山守おほやまもりは誰がためか山に標しめ結ふ君もあらなくに](万葉;154)
 諸説あり → 太蔭娘(おおぬのいらつめ) B 1 4 0 6
 → 遠智娘(おちのいらつめ、造媛(みやつこひめ) B 1 4 0 9
 → 常陸娘(ひたちのおとめ) C 3 7 6 0
 → 姪娘(めいのいらつめ) 4 3 0 1
- 1190 石川大夫(いしかわのまえつきみ)? - ? 万葉二期歌人、卷三247(左注は君子か宮麻呂か不明)、
 足人説もある、
 [沖つ波辺波へなみ立つとも我が背子がみ船の泊まり波立ためやも]、
 (筑紫に向かう長田王への唱和歌;万葉247)
 → 君子(きみこ・石川朝臣) 6 2 8 2
 → 宮麻呂(みやまる) G 4 1 0 2
 → 足人(たるひと) H 2 6 7 9
- 1191 石川卿(いしかわのまえつきみ) ? - ? 万葉二・三期歌人、卷九1728、2説あり
 [慰めて今夜こよひは寝なむ明日よりは恋ひかも行ゆかむこゆ別れなば](万葉1728)
 → 年足(としたり) M 3 1 7 8
 → 宮麻呂(みやまる) G 4 1 0 2

石川命婦(いしかのみようぶ) → 石川郎女 f (内命婦) 1 1 0 9
 石川麻呂(いしかのまろ) → 麻呂(まろ・蘇我倉山田石川那のくらやまだいしかわ、廷臣) B 4 0 5 9
 惟式(いしき・小出こいで) → 東郊(とうこう・小出、儒者) D 3 1 7 8
 石五郎(いじごろう・由利) → 公正(きみまさ・由利ゆり/三岡、藩士/財政/政治) I 1 0 7 5
 石島(いしま・私部) → 石島(いしま・私部ささきべ、万葉歌人;防人) B 1 1 0 6
 石介(いしけ・伊沢) → 予(たのし・伊沢いざわ、儒詩/歌/教育) V 2 6 4 2
 伊静廼舎(いしずのや) → 邦教(くにのり・市川いちかわ/藤原、神職/歌) E 1 7 0 4
 石田王(いしだのおおきみ) → 石田王(いわたのおおきみ) B 1 1 9 9
 石田の里人(いしだのさとひと) → 春明(はるあきら・生川なるかわ、商/国/歌/俳) 3 6 2 9
 石太夫(いだゆう・桑原) → 弘雄(ひろお・桑原くわばら、神道家) F 3 7 5 8
 為質(いしつ・奥村) → 栄実(てるさね・奥村おくむら、藩士/和漢学) C 3 0 7 4
 為質(いしつ・長柄) → 春童(しゅんりゆう・長柄ながら、医者/狂歌) L 2 1 9 9
 為質(いしつ・山中) → 為質(ためただ・山中やまなか、藩士/歌人) 2 7 1 8
 為実(いじつ) すべて → 為実(ためさね)
 伊実(いじつ・世尊寺) → 伊実(これさね・世尊寺せそんじ、廷臣/歌人) O 1 9 3 5
 以実(いじつ・大江) → 有経(ありつね・大江おおえ、廷臣/歌人) J 1 0 0 3
 以実(いじつ/もちさね?・篠/志野) → 宗信(そうしん・志野/篠、香道志野流祖) I 2 5 0 2
 以実(いじつ・富田) → 省斎(せいさい・富田とみだ、藩士/書家) I 2 4 1 8
 慰日庵(いじつあん) → 好甫(こうほ・秋田あきた、俳人) L 1 9 1 7
 遺佚軒(いしつけん) → 茂睡(茂妥もすい・戸田/渡辺、歌人) 4 4 0 5
 石積(いしつみ → いわつみ・境部) → 石積(磐積いわつみ・境部/坂合部、廷臣) E 1 1 5 7

- L1101 **依子内親王**(いし・やすこないしんのう、文徳天皇皇女)?-913 母;紀名虎女の静子、惟喬親王の同母妹、859(貞観元)から18年間齋王;異母弟清和天皇讓位で退下、伊勢物語69段[狩の使]の伊勢齋宮のモデルで在原業平と密通したとされる;齋宮の歌;[君や来し我れや行きけん思ほえず夢かうつつか寝てか覚めてか](伊勢物語69段)、更に懐妊し師尚もろひさを出産;時の伊勢権守神祇伯高階峰緒は師尚を息子茂藩の養子とす、女王は高階師尚(823-880/右中将)の実母とされる[故事談・江次第/但し年齢が不合]、これが真実とされ高階氏は伊勢神宮に懼りありと伊勢神宮参詣が不許の家系とされる
 依子内親王(いしないしんのう) → 依子内親王(よこないしんのう宇多天皇皇女) I 4 7 6 1
 石之助(いしのすけ・青山) → 幸成(ゆきなり/ゆきしげ・青山/藤原、城主/歌) 4 6 2 3
 石橋庵眞酔(いしばしあんますい) → 眞酔(ますい・石橋庵、彫工/戯作) I 4 0 9 2
 石橋僧正(いしばしそうじょう) → 源愉(源瑜/源輸げんゆ、天台僧) M 1 8 5 4
 石原先生(いはらせんせい) → 剛斎(こうさい/ごうさい・野田のだ、儒者) I 1 9 8 6
 石原愚者(いはらのぐしゃ) → 蘭園(らんえん・増島/平/増、幕臣儒官) B 4 8 5 9
- D1144 **石部金吉**(いしべのかねよし) ? - ? 狂歌、1785南畝「後万載集」3首(24/200/643)入、[ひやゝかな風をまいらせゆと秋の封じ目ほどく文つき](後万載集;二200/初秋)
- F1159 **石松**(いしまつ) ? - ? 蕪村馴染みの妓うたいめ/俳;1782蕪村「花鳥篇」入、[雲と咲き雪と散りけり山桜](花鳥篇;45/花の雲・花の雪の常套語を利用)
- 石麻呂(いしまろ/いわまる) → 老(おゆ・吉田、万葉中人物;家持の歌) 1 4 4 0
- C1128 **石磨呂山人**(いしまろさんじん)? - ? 1784「通俗西遊記」後編三編翻訳
- C1129 **石村検校**(いしむらけんぎょう) ? - 1642 文禄(1592-96)頃平曲琵琶法師、三味線組歌作曲
- 石守(いしもり・三野) → 石守(いそもり・三野、万三期歌人) B 1 1 1 1
 蝟舎(いしや) → 一蝶(初世いちちよう・英はなぶさ、絵師) C 1 1 0 8
- D1145 **医者小路七影**(いしやのこうじさじかげ)?-? 狂歌作者、1785「徳和歌後万載集」1首入、[よしさらば命にかけてそろ盤の玉きはるともあはざらめやは](後万載;571/縁語;かけ・そのぼん・玉・あふ)
- 石山座主坊(いしやまさすのぼう) → 泉守(こうしゆ・ごうしゆ、真言僧/歌/連歌) B 1 9 2 7
 石山僧都(いしやまのそうず) → 眞紹(しんしやう;法諱、真言僧) O 2 2 8 5
 石山僧都(いしやまのそうず) → 覚俊(かくしゆん;法諱、真言僧) K 1 5 0 0
 石山大僧正(いしやまのだいそうじょう) → 深覚(しんかく;法諱、師輔男/真言僧) D 2 2 6 7

- I1180 石山月丸(いしやまのつきまる) ? - ? 狂歌、1787「狂歌才蔵集」入;521
 [目はかすみ足腰よはくなるみゝの垢ほども世に思ひ出ぞなき]
 石山内供(いしやまのないう) → 淳祐(しゅんゆう;法諱、真言僧) L 2 1 9 1
 以守(いしゆ・本保) → 以守(ゆきざね・本保ほんぼ、藩士/暦学者) E 4 6 4 9
 夷守(いしゆ・五十嵐) → 夷守(ひなもり・五十君いそぎみ/五十嵐いがらし、歌人) L 3 7 7 7
 為守(いしゆ・冷泉) → 為守(ためもり・冷泉、為家男/歌人) H 2 6 5 6
 為守(いしゆ・山川) → 為守(ためもり・山川やまかわ、歌人) U 2 6 8 5
 為主(いしゆ・渡辺) → 為主(ためぬし・渡辺わたなべ、商家/国学) 2 7 4 3
 維種(いしゆ・森田) → 維種(これたね・森田もりた、国学者) R 1 9 4 3
 伊寿(いじゆ・柳沢) → 伊寿(これとし・柳沢やなぎさわ、和算家) O 1 9 5 7
 維樹(いじゆ・武田) → 豊城(とよき・武田たけだ、藩士/歌人) T 3 1 5 2
 為壽(いじゆ・座光寺) → 為壽(ためひさ・座光寺ざこうじ/小笠原、領主/歌) X 2 6 2 9
 為寿(いじゆ・森) → 為壽(ためかず・森もり/袴田、国学者) 2 7 0 1
- 1192 維舟(いしゅう・松江まつえ、名;重頼げより) 1602-1680/79 京の撰糸せんじ商、連歌;里村昌琢門、
 西山宗因と知合う/俳人;松永貞徳門/貞門七俳仙の1、同門親重(立圃)と不和/師と離別、
 1633「犬子えのこ集」編、独自の俳風を開く;1638作法「毛吹草」著、60「懐子ふところ」編、
 1664「佐夜中山集」/1665維舟に改名、69「筑紫紀行」著/72「俳諧時勢粧はいかいまようすがた」編、
 1674「藤枝集」「大井川集」/76「武蔵野」編、78「独吟歌仙」著/79「名取川」編、
 「重頼独吟百首」「梅千世百首」「俳諧菊千世」「維舟随筆」著/外編著多数、
 鬼貫/言水らの師、近吉ちかよしの兄、
 [野に嬉し虫待宵の小行燈](藤枝集、待宵は満月前夜)、
 辞世[林檎もや菩提樹のだつまくむ清水]([だつま]は菩提達磨)
 [維舟(;号)の通称/別号]通称;大文字屋治右衛門、別号;江翁/腐俳子/乳父子
- J1107 夷集(いしゅう) ? - ? 岩代二本松の俳人;1696不角「矢の根鍛冶後集」入、
 [勾引かどわれて何の妹背ぞ無理結び](矢の根鍛冶後集)、
 (娘をかどわかされて今更無理矢理夫婦と認めろとはけしからんと怒る父親の立場)
- F1105 維舟(いしゅう) ? - ? 京の俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」入
- F1160 為拾(いしゅう) ? - ? 俳人;1772几董「其雪影」3句入、
 [山吹や序ついでに覗く隣あり](其雪影;220/論語;徳孤ならず必ず隣有り)
- F1161 維秀(いしゅう;法諱) ? - ? 江戸中期真言僧、泉州随意庵住、1797「奉賛十二光弁」著
- E1127 葦洲(いしゅう・梁田やなだ/本姓;扨村、名;邦恕、梁田雪航養子) 1816-76 淡路洲本儒者:篠崎小竹門、
 良斎/佐藤一斎/森田節斎門、明石藩士/家塾教授/藩校教頭、「葦洲遺稿」、
 [葦洲の字/通称] 字;仲容、通称;綱介/蔵九郎
- F1162 伊舟(いしゅう・竹沢、竹沢養溪養子)?-? 江後期桑名藩絵師、1811「平家物語画図」画
- F1163 維戢(いしゅう・佐久間) ? - ? 江末期肥前島原藩文筆家、
 1862「深溝記」「探古雑記」、「深溝村由緒伝記」「碧海誌」著
- 為舟(いしゅう・新納) → 忠元(ただもと・新納にいろ、武将/連歌) F 2 6 9 3
 為秀(いしゅう・冷泉) → 為秀(ためひで・冷泉れいぜい、廷臣/歌人) 2 6 7 3
 為秀(いしゅう・飯島) → 為秀(ためひで・飯島いじま、歌人) V 2 6 5 6
 為周(いしゅう/ためちか・進藤) → 千尋(ちひろ・進藤、坊官/国学/歌) F 2 8 2 6
 為周(いしゅう/ためちか・西村) → 次右衛門(じえもん・西村、家老/日記) P 2 1 6 7
 為秋(いしゅう・肥田) → 為秋(ためあき・肥田ひだ、医者/神職) Z 2 1 1 8
 維修(いしゅう・河合) → 東江(とうこう・河合、儒者/詩) D 3 1 7 9
 維周(いしゅう/これちか・恩田) → 蕙楼(けいろう・恩田おんだ、藩士/儒者) 1 8 9 7
 維周(いしゅう/これちか・佐藤) → 維周(これちか・佐藤、儒者) O 1 9 5 0
 惟修(惟脩いしゅう・杉山) → 熊台(ゆうだい・杉山すぎやま、藩士/儒者) D 4 6 3 7
 惟秋(いしゅう/これあき・竹原) → 惟秋(これあき・竹原、藩士/故実家) O 1 9 0 7
 惟秋(いしゅう・土屋) → 惟秋(これあき・土屋つちや、国学/歌人) R 1 9 0 3
 惟秀(いしゅう/これひで・北田/篠原) → 静安(せいあん・篠原/北田、医/儒者) H 2 4 2 0
 維緝(いしゅう・大江) → 荊山(けいざん・大江おおえ、儒者) F 1 8 7 5

- 伊周(いしゅう・藤原) → 伊周(これちか・藤原ふじわら、道長と政争) E 1 9 3 0
 以脩(いしゅう・加藤) → 東岡(とうこう・加藤かとう、書肆/歌人) D 3 1 8 6
 渭洲(いしゅう・鉄) → 復堂(ふくどう・鉄てつ、儒者/教育者) B 3 8 6 0
 葦洲(いしゅう・新納) → 久仰(ひさのり・新納にいろ、藩家老) B 3 7 7 7
 F1164 以重(いじゅう・渋谷しぶや) ? - ? 江前期俳人、1615「歳旦三つ物」(貞徳・日源と)
 為重(いじゅう・二条) → 為重(ためしげ・二条/御子左、廷臣/歌人) 2 6 6 0
 為柔(いじゅう・冷泉) → 為柔(ためとお・冷泉れいぜい/藤原、廷臣/国学) 2 7 2 6
 惟柔(いじゅう・頼) → 杏坪(きょうへい・頼らい、儒者/詩/史家) 1 6 3 8
 惟充(いじゅう・川関) → 惟充(これみつ・川関かわせき、戯作者) O 1 9 8 9
 已秋庵(いしゅうあん) → 精器(せいき・根本ねもと、鏝師/俳人) H 2 4 8 5
 倚松庵(いしゅうあん) → 専斎(せんさい・江村、医者/歌/連歌) 2 4 3 0
 伊十郎(いじゅうろう・高井) → 宣風(のりかぜ・高井/常盤井、国学/歌学) B 3 5 1 1
 伊十郎(いじゅうろう・高井) → 八穂(やっほ・高井/常盤井、宣風男/国学) D 4 5 7 9
 伊十郎(いじゅうろう・三宅) → 高翰(たかもと・三宅みやけ、商家/国学) Z 2 6 7 1
 猪十郎(いじゅうろう・大石) → 久敬(ひさたか・大石/古賀、藩士/農政) B 3 7 2 3
 猪十郎(いじゅうろう・柳生) → 久寿(ひさとし・柳生やぎゅう/菅原、幕臣/歌) I 3 7 2 7
 猪十郎(いじゅうろう・伊藤) → 光中(みつなか・伊藤いとう、藩士/国学者) E 4 1 1 3
 惟肅(いしゅう・裏松/交野) → 惟肅(これすみ・交野かたの/;平、廷臣) O 1 9 4 2
 C1130 以春(いしゅん;法名・姓;八丈はちじょう、名;弘永) 1625-7652 和泉堺の生/撰津天王寺村夕陽丘住、
 連歌;宗因/祖白/昌程門、俳人;重頼門、大阪堺俳壇重鎮、1645重頼「毛吹草」入、
 1654「平野権現千句」参加、61成安「埋草」入、「以春百韻」、1665「雪千句」入、
 1667「誹諧小相撲」入、「古今和歌集註」編、狂歌;1666行風「古今夷曲集」入、
 1673西鶴?「哥仙大坂俳諧師」76西鶴「古今誹諧師手鑑」78西鶴「物種集」入、
 [音頭おんどうの歌にて人を呼子鳥古今こきん一部の大事とぞ聞く](夷曲集;553、
 歌舞伎の小金こきんという若衆が小歌の音頭が上手なので詠む/呼子鳥;古今伝授三鳥の1)、
 [なむのかの流るゝ年やちよつほつ](哥仙;十七番左/年月は少しづつ去りゆく)、
 [以春の号/通称]号;夕陽庵/道寸どうすん、通称;奈良屋嘉[加]右衛門/天王寺道寸
 C1131 意春(いしゅん) ? - ? 俳人、1672重徳「俳諧塵塚」独吟入
 J1151 為春(いしゅん・法師、船井ふない為春ためはる) 1675-174874 陸奥(陸前)仙台の僧/実名を法名とする、
 歌人;武者小路家門、広通「霞関集」(1798再撰本)入、
 [夜もすがら萩をぎ吹く風に乱れけり枕の夢も露になびきて](霞関;秋389/秋枕夢)
 F1165 意春(いしゅん・古屋野こやの元隣、祐之[雲岫]男) 1756-1812 備中菅生儒;近藤篤山門、医;田中意順門、
 倉敷開業医;学舎香山山楼塾開設、篠崎三島と交遊、1810「万国一覽図説」著
 J1167 懿春(いしゅん・柳田やなぎだ) ? - ? 江後期;歌人、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [風さえて夜深くつるの声すなり刈り田の面に霜や置くらん](大江戸倭歌;冬1121)
 意春(いしゅん・山崎) → 普山(ふざん・山崎やまさき、医者/俳人) C 3 8 3 1
 為春(いしゅん・正木/三浦) → 為春(ためはる・三浦定環、藩士/戯作/連歌/俳人) 2 6 7 1
 為春(いしゅん・松岡) → 政之助(まさのすけ・周布すぶ、藩政改革) F 4 0 4 8
 為春(いしゅん・毛利) → 正周(まさかね・毛利もうり/吉井、藩士/華道) T 4 0 1 6
 為春(いしゅん・須田) → 為春(ためはる・須田すだ、幕臣/国学) X 2 6 6 5
 為俊(いしゅん・五条) → 為俊(ためとし・五条/菅原、廷臣/漢学) S 2 6 5 7
 為俊(いしゅん・渡辺) → 為俊(ためとし・渡辺わたなべ、商家/国学) 2 7 4 0
 惟春(いしゅん・佐藤) → 東斎(とうさい・佐藤、漢学者) E 3 1 2 6
 惟俊(いしゅん・これとし・高川) → 楽真(がくしん・高川たかがわ、藩士/詩/書) 1 5 1 0
 伊俊(いしゅん・白河) → 伊俊(これとし・白河/藤原、廷臣/歌人) E 1 9 3 6
 J1126 意洵(いじゅん;法諱) ? - ? 戦国期の僧(石山本願寺関係の僧)、歌人、
 1563(永禄6)「十五夜三首歌合(永禄歌合)」参加(;判者柳原資定)、
 [峯高みながむる月のしばしだに雲もかゝらぬ松風ぞ吹く](永禄歌合;

月前松風六番左)

以順(いじゆん;字)	→	日善(にちぜん;法諱、日蓮僧)	C 3 3 6 6
以順(いじゆん・向井)	→	元升(玄松げんしょう・向井、医者/本草)	C 1 8 2 2
意順(いじゆん・天野)	→	意順(もとのぶ・天野あまの、商家/歌人)	B 4 4 3 8
為淳(いじゆん・片桐)	→	春一(はるいち・片桐、藩士/軍学/国学)	F 3 6 9 8
為純(いじゆん・冷泉)	→	為純(ためずみ・冷泉、歌人)	2 6 6 2
為純(いじゆん;法号)	→	為善(ためよし・進藤しんどう、坊官/日記)	S 2 6 8 9
為純(いじゆん・日高)	→	為純(ためずみ・日高、藩士/歌人)	S 2 6 4 6
惟純(いじゆん・緒方)	→	槐窓(かいそう・緒方おがた、儒者)	H 1 5 1 7
依順(いじゆん;字)	→	義剛(ぎこう;法諱、真言僧)	F 1 6 3 4
維順(いじゆん・大江)	→	維順(これより・これゆき・大江、廷臣/歌人)	P 1 9 0 1
為春菴(いしゆんあん)	→	常夏(つねなつ・度会/久志本、医/国/歌)	C 2 9 8 7
以春庵(いしゆんあん)	→	倫良(ともよし・三善、国学/神道/詩歌)	Q 3 1 9 1
為春院(いしゆんいん)	→	松庵(すうあん・辻元つじもと、幕府医官)	F 2 3 2 0
維順女(いじゆんのむすめ・大江)	→	維順女(これよりのむすめ・大江おおえ、歌人)	P 1 9 0 2
以緒(いしよ・橘)	→	以緒(もちお・ゆきお・橘/薄/菅原、廷臣/詩)	B 4 4 3 3
以如(いじよ・伊東)	→	西帰(さいき・伊東いとう、藩士)	G 2 0 6 1
意舒(いじよ・信太)	→	意舒(もとのぶ・信太しだ/しのだ、藩士/砲術)	K 4 4 0 8
維叙(いじよ・黒坂)	→	維叙(これのぶ・黒坂くろさか、幕臣)	O 1 9 6 4

E1106 為松(いしよ) ? - ? 伊勢山田俳人:1633重頼「犬子集」664入、
[なめて見よ名もあぢさみの花の露](犬子集;664/味の名を持つ花)

F1166 倚松(いしよ/きしよ・三好みよし、名;治光、甚太良男)1699-177173 備後三原の俳人;野坡・吾竹門、
歌;宣阿門、1731紀行両吟「寄合ひ筆」(著;一楓との旅)、43「俳諧笠のねぞめ」著、
1763-70「吟草」著、1729兎城「門鳴子」入、
[鶯や股引はめて立ちながら](寄合ひ筆)、
[倚松の通称/別号]通称;助左衛門、屋号;三好屋、別号;風鶴山人、法号;歓喜斎浄心

倚松(いしよ・長崎)	→	正国(まさくに・長崎ながさき/橘、医/神職)	R 4 0 2 5
惟肖(いしよ;道号)	→	得巖(とくがん;法諱・惟肖、臨濟僧五山文学)	K 3 1 5 3
惟肖(いしよ・伊東)	→	麓岳(ごうがく・伊東いとう、藩儒/詩)	G 1 9 2 2
惟昌(いしよ高階)	→	惟昌(これまさ・高階たかしな、国学者)	E 1 9 5 0
惟章(いしよ・伊藤)	→	弘篤(こうか・伊藤いとう、藩士/儒者)	H 1 9 7 7
惟章(いしよ・瓦林/緒方)	→	春朔(しゆんさく・緒方/瓦林、医者/天文)	K 2 1 7 7
惟彰(いしよ・佐伯/田上/緒方)	→	洪庵(こうあん・緒方、蘭医/教育)	1 9 6 9
惟勝(維勝いしよ・緒方)	→	惟勝(維勝これかつ・緒方おがた、医者)	O 1 9 2 3
惟将(いしよ/これまさ・竹原)	→	惟秋(これあき・竹原、藩士/故実家)	O 1 9 0 7
維章(いしよ/これあき・篠崎)	→	東海(とうかい・篠崎、儒者/和学)	3 1 0 5
維章(いしよ/これあき・鴨田)	→	白翁(はくおう・鴨田かもた、儒者/詩)	C 3 6 7 4
維章(いしよ・佐久間)	→	維章(これあき・佐久間さくま、藩士/儒者)	O 1 9 0 6
維章(いしよ・荒井)	→	和水(わすい・荒井あらい、商家/心学者)	5 3 3 3
維韶(いしよ・小笠原)	→	維韶(これあき・小笠原おがさわら、藩士/歌)	Q 1 9 4 1
位照(いしよ・東郷)	→	藤五左衛門(とうごさえもん・東郷、兵法家)	E 3 1 1 6
依勝(いしよ・木下)	→	依勝(よしかつ・木下きのした、国学者)	M 4 7 3 5
依昌(いしよ・早川)	→	依昌(よりまさ・早川はやかわ、幕臣/国学者)	O 4 7 5 8
為章(いしよ) すべて	→	為章(ためあきorためあきらorためふみ)	
為章(いしよ・冷泉)	→	為章(ためふみ・冷泉、廷臣/歌人)	S 2 6 7 7
為祥(いしよ・座光寺)	→	南屏(なんべい・座光寺ざこうじ、儒/医者)	J 3 2 4 0
為将(いしよ・藤原)	→	為将(ためゆき・藤原、歌人)	H 2 6 6 4

F1167 意情(いじよ) ? - ? 俳人;1691北枝「卯辰集」2句入、
[隈もなく名もなき原の月見かな](卯辰集;三363)

- C1132 為杖(いじょう・斎藤さいとう) ? - ? 大阪天満の俳人; 雑俳点者、
1713笠付「鈍作付」著; 誹諧大黒柱所収、1714月尋「伊丹発句合」; 四季発句入、
[たつ日から梅こそ句へ竹の春](伊丹発句合; 秋/詠八朔紅梅; 八月朔日の祝)
維城(いじょう; 名) → 醍醐天皇(だいごてんのう、格式・歌集編纂) 2 6 0 3
維繩(いじょう・菅波/菅) → 自牧斎(じぼくさい・菅かん、儒者/詩文) V 2 1 7 6
惟常(いじょう・猿子) → 惟常(これつね・猿子まじこ、藩士/詩/園芸) O 1 9 5 5
惟城(いじょう・四熊) → 直方(なおかた・四熊しくま、医者/藩侍医) N 3 2 2 7
以成(いじょう; 道号・東規) → 東規(とうき; 法諱・以成; 道号、臨濟僧) C 3 1 4 7
以常(いじょう・雲井) → 正篤(まさあつ・雲井くもい、国学者) P 4 0 4 3
為仍(いじょう/ためなお・穂積) → 以貫(いかん/これつら・穂積ほづみ、儒者/芸談) 1 1 7 1
為常(いじょう・日高) → 為純(ためずみ・日高、藩士/歌人) S 2 6 4 6
為常(いじょう・渡辺) → 為常(ためつね・渡辺わたなべ、商家/俳人) 2 7 4 1
倚松庵(いしょうあん) → 専斎(せんさい・江村、医者/連歌) 2 4 3 0
為証庵(いしょうあん) → 三喜(みつよし・橋たちばな、神道家) F 4 1 1 7
惟肖和尚(いしょうおしょう) → 得岩(とくがん・惟肖、臨濟僧) K 3 1 5 3
倚松軒(いしょうけん) → 兼徳(けんとく・猪苗代、連歌師) C 1 8 8 5
依相子(いしょうし) → 宗旦(そうたん・池田、俳人) 2 5 1 5
懿章亭(いしょうてい) → 高般(たかかず・藤堂とうどう、詩人) L 2 6 7 1
惟肖堂(いしょうどう) → 丈愚(じょうぐ; 法諱、真宗大谷派僧) I 2 2 1 3
惟肖得岩(いしょうとくがん) → 得岩(とくがん; 法諱・惟肖、臨濟僧) K 3 1 5 3
威如斎(いじさい) → 橘園(きつえん・三宅、儒者/詩人) B 1 6 5 0
- F1168 以信(いしん; 法諱・大住院だいじゅういん: 号) 1605-96 92歳 京本能寺高俊院4世、華道: 池坊専好門/立花、
1652-65江戸で指導、専好没後池坊から追放; 江戸住、73「七十一瓶立花之図式」著、
1678「立花之図」「大住院立華砂之物図」著
- K1181 以信(いしん: 号) ? - ? 江前期; 大坂の町人/歌人;
1688浅井忠能ただのり[難波捨草]10余首入、月次会に参加、
[月次の会に滝紅葉をよみ侍る、
滝つせの落つる紅葉や紅に積りてふかき淵と成るらん](難波捨草; 669)
- F1169 以慎(意慎いしん・本内もとうち/本姓角田、字; 三折/三説/三悦) ?-1701 上野儒者/盛岡藩士/致仕、
1663鳥取藩儒、1684致仕/詩歌、鳥取で没、1652「寒山詩集抄」編、「寒山詩鈔」著、
[以慎の別号] 克己斎/己斎/意慎
- D1108 意潯(いしん) ? - ? 江前期備後三原俳人; 貞門系/1659梅盛「捨子集」入、
1664梅盛「落穂集」入/1679宗臣「詞林金玉集」入
- F1170 移心(いしん) ? - ? 江前期俳人; 1672元隣「諸国独吟集」上巻入
以心(いしん; 道号) → 崇伝(すうでん; 法諱・以心; 道号、臨濟僧/幕政参画) 2 3 0 5
以親(いしん・渡辺) → 以親(ゆきちか・渡辺わたなべ、和算/測量家) E 4 6 8 5
伊信(いしん・藤原) → 伊信(これのぶ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) E 1 9 4 0
伊信(いしん・白井) → 伊信(これのぶ・白井しらい、幕臣/歌人) R 1 9 7 5
伊信(いしん・白井) → 伊信(これのぶ・白井うすい、大庄屋/医/歌) Q 1 9 3 7
伊秦(いしん・滝本) → 柳蔭(りゅういん・滝本たきもと、歌人/儒者) C 4 9 7 6
惟心(いしん; 法号) → 近祐(ちかすけ・曾我/平、幕臣/書札) B 2 8 0 2
惟新(いしん) → 義弘(よしひろ・島津しまづ、武将/領主) G 4 7 5 5
惟神(いしん) → 巖戈(いかしほこ・常盤井ときわい、神主/国学) F 1 1 1 7
惟臣(いしん・緒方) → 元斎(げんさい・緒方おがた、医者/国学) J 1 8 0 4
惟信(いしん・藤原) → 惟信(これのぶ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) E 1 9 3 9
惟信(いしん・高橋) → 健蔵(けんぞう・高橋たかはし、書家) K 1 8 7 0
惟信(いしん・分部) → 惟信(これのぶ・分部わけべ、藩士/本草家) E 1 9 4 2
惟信(いしん・狩野) → 惟信(これのぶ・狩野かのう、幕府絵師) E 1 9 4 1
惟親(いしん) すべて → 惟親(これちか)
維新(いしん・高森) → 観好(かんこう・高森たかもり、蘭学者) Q 1 5 4 3

- 維新(いしん・堀田) → 六林(ろくりん・堀田、恒山、藩士/詩/俳人) B 5 2 1 8
 維新(いしん・蔵知) → 維新(これちか・蔵知くち/薄田/村瀬、藩士/歌人) Q 1 9 6 7
 維親(いしん・喜多) → 維親(継親これちか・喜多きた/飯田、国学) Q 1 9 6 3
 維深(惟深いしん・山宮) → 雪楼(せつろう・山宮やまみや/さんぐう、儒者) E 2 4 7 1
 夷臣(いしん・後藤) → 夷臣(ひなおみ・後藤ごとう、農家/国学者) E 3 7 2 7
 尉信(いしん・小泉/長島) → 尉信(やすのぶ・長島ながしま/小泉、農政家) C 4 5 5 7
 威臣(いしん・石井) → 豊洲(ほうしゅう・石井いしい、儒者/藩儒) B 3 9 4 7
 威臣(いしん・古林) → 正虎(まさとら・古林ふるばやし、医者/国学) S 4 0 3 9
 威信(いしん・社) → 貞丸(さだまる・社やしろ、神職/国学) P 2 0 6 4
 頤神(いしん;号) → 別宗(べっしゅう;道号・祖縁;法諱、臨濟僧) 2 7 9 8
 為信(いしん) すべて → 為信(ためのぶ)
 為親(いしん) すべて → 為親(ためちか)
 為真(いしん・藤原) → 為真(為実ためざね・藤原、廷臣/歌人) G 2 6 8 3
 為真(いしん;初道号) → 実巖(じつがん;道号・照海;法諱、曹洞僧) U 2 1 5 6
 為親(いしん・藤原) → 為親(ためちか・藤原、廷臣/歌人) S 2 6 4 8
 D1143 伊人(いじん・高詠斎) ? - ? 江中期江戸俳人;1754竹翁遺稿「誹諧童的」跋
 伊人(いじん・荒木田) → 伊人(これひと・荒木田あらかきだ、俳人) P 1 9 8 5
 以心庵(いしんあん・乙馬) → 範房(のりふさ・堤つみ、藩士/歌人) F 3 5 7 0
 以心庵(いしんあん;還俗号) → 良純親王(りょうじゅんしんのう、浄土僧/歌) I 4 9 0 3
 維新庵(いしんあん) → 彊斎(きょうさい・菅野すげの、医/儒者/詩) I 1 6 7 8
 意心斎(いしんさい) → 十口(じっこう、俳人) E 2 1 8 5
 巳人亭為丸(いじんていてためまる) → 定丸(さだまる・紀きの、幕臣/戯作/狂歌) C 2 0 4 4
 怡真堂(いしんどう) → 応瑞(おうずい・円山まるやま/源、絵師) B 1 4 3 3
 伊豆(いず・山田) → 以文(もちぶみ・山田/藤とう、神職/故実) B 4 4 6 3
 伊豆(いず・山田) → 有孝(ありたか・山田、以文男、故実家) F 1 0 3 8
 伊豆(いず・山田) → 武麿(たけまる・山田やまだ、神職) 2 7 1 6
 伊豆(いず・秋山) → 惟恭(これいよ・秋山あきやま、神職/詩歌) P 1 9 4 2
 伊豆(いず・小山) → 親頼(ちかより・小山こやま、神職/歌人) M 2 8 5 2
 伊豆(いず・宮崎) → 千別(ちわき・宮崎みやざき/草野、神職/国学) N 2 8 6 2
 C1134 意醉(いすい) ? - ? 京俳人、1690常数「万歳楽」入
 1193 韋吹(いすい・天井あまい、通称;与三郎)?-174480余歳 越前福井商人/俳人;支考門、福井3傑の1、
 1728「築藻橋」編/37「明の鳥」編
 [韋吹の別号] 有底窩/塵裡閑/即々斎/馬童子/馬童仙/馬仙人/馬老
 C1135 維水(いすい) ? - ? 羽前山形の俳人、
 1780楓呉「いなか曲ぶり紅ばたけ」入
 E1137 渭水(いすい・福田ふくだ/ふくた、祖父次兵衛の養嗣子) 1818-6649 肥前諫早の豪商の家/士分、
 儒/経書;牧百峰門、長崎で砲術・阿蘭陀船戦法修得、諫早郷校好古館の教諭、
 1866「渭水詩鈔」著、
 [渭水(;号)の名/字/通称/別号]名;恭/思恭/演益、字;俛夫、通称;七郎、別号;天香
 為遂(いすい・入江) → 為遂(ためなる・入江いりえ、廷臣/記録) S 2 6 6 2
 渭水(いすい・増田) → 立軒(りっけん・増田ますだ、儒者/著述) B 4 9 7 2
 揖水(いすい・脇坂) → 安宅(やすおき・脇坂、藩主/老中/歌) B 4 5 1 0
 葦水(いすい、葦水斎) → 為起(ためおき・大山/秦/松本、神職/国学) S 2 6 3 6
 意水庵(いすいあん) → 且藁(たんこう・杉田すぎた、菓子商/俳人) I 2 6 0 8
 為誰庵(いすいあん) → 由誓(ゆうせい・豊嶋、俳人) 4 6 1 7
 倚翠庵(いすいあん) → 松軒(しょうけん・伊藤いとう、歌人) R 2 2 3 4
 依水園(いすいえん・川村) → 竹坡(ちくは・川村、儒者/詩) D 2 8 7 0
 惟誰軒素水(いすいけんそすい) → 濁子(じよくし・中川なががわ、藩士/俳人) C 2 2 3 3
 C1136 倚翠楼主人(いすいろうしゅじん)?- ? 1705「肉蒲団」翻訳
 伊頭園(いずえん) → 忠行(ただつら・石井いしい、藩士/記録) C 2 6 3 5

- 伊豆円一(いずえんいち) → 円一(えんいち・伊豆、琵琶法師) B 1 3 7 1
- D1147 巖男(いづお・南部なんぶ、通称;仲助)?-? 土佐高知藩士/国学者;鹿持雅澄(1791-1858)門、
万葉研究・1813-23雅澄と「校本万葉集」編、維新後;宮内省に出仕
- F1171 巖男(いづお/よしお・広瀬ひろせ、水直男)1815-7460歳 出羽鶴岡の商人/糸屋主人;庄内藩御用達、
国学・歌;服部正樹・鈴木重胤門、上京;千種有功門、家業を弟に譲渡、国学研究に専念、
1862鶴岡に帰郷;門人に国学を教授、大山庄太夫の公武合体計画に参加;1866投獄/69赦免、
「上野山の記」「白髭神社考」「吹浦鎮守由来記」「真珠舎歌集」「書紀歌集」「日の御蔭」著、
[巖男(;名)の通称/号]通称;伊助/伊右衛門/伊兵衛/市郎、
号;水青/稚桜舎/真珠舎/銀河隠士/潜竜窟/因徑/水順/幽助、屋号;糸屋
- K1126 稜威雄(いずお・佐伯さえき、本姓;徳永)1824-65刑死42 周防佐波郡鈴屋村の八幡宮祠官、尊攘運動、
1863(文久3)長門萩藩八幡隊に入/1864(元治元)池田屋事件で深傷;捕縛/65刑死、
[稜威雄(;名)の別名/字/通称/変名]別名;祐善/靱彦、字;稜、通称;才助/志津摩、
変名;宮藤主水、徳永秀之ひでゆきの弟
- K1171 巖夫(いづお・宮地みやぢ、手島増魚男)1846-191873 土佐土佐郡小高坂の生、
土佐高知城内八幡宮神職の宮地家の養子、藩校致道館に修学、
国学者・神道家;江戸の平田隼胤・伊東祐命かけのぶ門、勤王活動;国事奔走、
維新後;教部省出仕、伊勢神宮権禰宜/枚岡神社少宮司/神宮教教導職、1889宮内省掌典、
雅楽部長・御歌所参候/1918宮内省式部官兼主席掌典、有職故実式典に精通、
「本朝神仙記伝」「祭天古俗説弁義」「日本国家学談」著、
[巖夫(;名)の別名/通称]別名;功/忠玄、通称;竹馬/太左衛門 道号;東嶽
巖雄(いづお・荻原) → 巖雄(よしお・荻原おざわら/日下部、歌人) M 4 7 0 7
巖櫃舎主人(いつかしのやしゅじん) → 政重(まさしげ・桜井さくらい、神道家) C 4 0 7 8
- F1172 伊助(いすけ・前原まえはら定房)1668- 1703切腹36 播磨赤穂藩金奉行、1701藩主刃傷;義盟参加、
江戸で変名し吉良家の動静を窺う、1702討入後;毛利綱元家預け、「赤城盟伝」著、
[伊助の変名/法号] 変名;米屋義兵衛/米屋五兵衛/小豆屋、法号;刃補天劍信士
- D1148 伊助(いすけ・中尾なかお、筆天斎)?-? 浮世草子作者・絵師、1734「御伽厚化粧」著画
- 伊輔(伊助いすけ・若竹) → 笛躬(2世ふえみ・若竹、浄瑠璃作者) B 3 8 2 2
伊助(伊輔いすけ・近松) → 東南(とうなん・近松ちかまつ、浄瑠璃作者) G 3 1 8 2
伊助(いすけ・おぼせや) → 通識(みちさと・三木みき、郷土史家) B 4 1 5 6
伊助(いすけ・鴻池屋) → 直方(なおかた・草間くさま、商家/経済研究) 3 2 9 2
伊助(いすけ・平山) → 斐(たすけ・平山、藩士/地誌) P 2 6 0 4
伊助(いすけ・播磨屋/穂積) → 与信(ともぶ・穂積ほづみ、材木商/和算) Q 3 1 1 7
伊助(いすけ・穂積) → 以貫(いかん/これつら・穂積、与信男/儒者/芸談) 1 1 7 1
伊助(いすけ・岡松) → 麩谷(おうこく・岡松おかまつ、儒者) B 1 4 2 8
伊助(いすけ・広瀬) → 巖男(いづお/よしお・広瀬、商家/国学者) F 1 1 7 1
伊助(いすけ・小池) → 透綱(ゆきつな・小池こいけ、和算家) E 4 6 9 1
伊助(いすけ・中村) → 牛荘(ぎゅうそう・中村、藩士/儒者) M 1 6 7 7
伊介(いすけ・安達) → 栄庵(えいあん・安達あだち、医者) C 1 3 4 8
胃介(いすけ・松井) → 康之(やすゆき・松井まつい/源、武将/連歌) D 4 5 3 5
懿助(いすけ・正宗) → 雅広(まさひろ・正宗まさむね、国学者/歌人) S 4 0 5 6
- 1194 伊須気余理比売(いすけよりひめ、大物主神の女)?-? (神話人物)記歌謡詠者;3首、神武天皇皇后
出石居(いずしきよ) → 広道(ひろみち・萩原、国学者) 3 7 2 8
- K1146 伊豆女(いずじよ・富樫とがし、富樫広蔭[1793-1873]女)1834-186734 伊勢桑名の歌人;父門
鬼島きしま広睦ひろちか(1836-1911)の姉
- 五十鈴(いずず・富家) → 松浦(しょうほ・富家ふけ/藤原、神職) L 2 2 6 3
五十鈴(いずず・笠原) → 集光(なりみつ・笠原かさばら、神職/国学) L 3 2 5 9
五十鈴(いずず・菊池) → 美振(よしふる・菊池きくち、神職/国学) M 4 7 4 5
五十鈴(いずず・鈴鹿) → 秀麿(ひでまる・鈴鹿わすずか/平佐、神職/歌) J 3 7 9 3
五十鈴麻呂(いずずまろ・永井) → 精古(せいこ/あきひさ/きよひさ・永井、神職/国学) B 2 4 3 4
- 1123 巖足(伊豆足いずたり・和田わだ、弓削ゆげ平八2男)1787-185973 肥後熊本藩士、和田団四郎の養嗣子;

1816家督嗣;2百石/御番方;1822事に連座;八代城に左遷/49冤罪;佐敷計石の番所詰;没、
 国学・歌:長瀬真幸門、槍術に長ず、「廿日草」「加羅陳百番擬歌合」著、
 没後「和田巖足集」「和田巖足集補遺」(宇野東風・弥富破摩雄編)、養子;喜太郎、
 [巖足(;名)の別名/通称/号]別名;千尋/泉樽、通称;震七しんしち/震七郎/真震まゆり/馬百合、
 号;釣竜翁、法号;至誠院

- 井筒屋(いづつや) → 由輔(初世ゆうすけ・金井、歌舞伎作者) 4 6 1 6
 伊豆亭(いずてい) → 参和(さんな・唐来とうらい、戯作者/狂歌) 2 0 5 4
 伊豆入道(いずにゅうどう) → 親康(ちかやす・藤原、廷臣/歌人) C 2 8 1 0
 伊豆阿闍梨(いずのあじり) → 仁寛(任寛にんかん;法諱、真言僧) G 3 3 2 5
 伊豆守(いずのかみ・斎藤) → 利綱(としつな・斎藤/土岐/藤原、武将/歌) M 3 1 8 8
 伊豆守(いずのかみ・松平) → 信綱(のぶつな・松平、藩主/老中、知恵伊豆) C 3 5 1 0
 伊豆守(いずのかみ・松平) → 信祝(のぶとき・松平まつだいら、藩主/歌人) K 3 5 0 3
 伊豆守(いずのかみ・松平) → 信明(のぶあきら・松平崇岳、藩主/詩歌) 3 5 8 7
 伊豆守(いずのかみ・山名) → 矩豊(のりとよ・山名やまな、幕臣寄合/歌) K 3 5 3 9
 伊豆守(いずのかみ・巨瀬) → 至信(ゆきのぶ・巨瀬こせ、旗本/藩士/幕臣/歌) G 4 6 8 2
 伊豆守(いずのかみ・秋田) → 俊季(としすえ・秋田あきた、藩主/歌) T 3 1 9 6
 伊豆守(いずのかみ・高井) → 真政(さねまさ・高井たかい/源、幕臣/歌) N 2 0 2 0
 伊豆守(いずのかみ・梶原) → 舍熊(家熊いへくま・梶原、神職) 1 1 3 4
 伊豆守(いずのかみ・坪内) → 保之(やすゆき・坪内つぼうち、幕臣/歌) E 4 5 8 8
 伊豆守(いずのかみ・藤木/賀茂) → 保行(やすつら・藤木ぶじき/賀茂、神職) C 4 5 1 2
 伊豆守(いずのかみ・木内) → 保旧(やすひさ・木内きうち、神職/国学) C 4 5 7 4
 伊豆守(いずのかみ・狩野) → 保村(やすむら・狩野かのう、神職/国学者) F 4 5 7 1
 伊豆守(いずのかみ・河津) → 祐邦(すけくに・河津かわず/藤原、幕臣/奉行) H 2 3 9 5
 伊豆守(いずのかみ・伊高) → 重永(しげなが・伊高いだか/高崎、神職/歌) N 2 1 2 9
 伊豆守(いずのかみ・景安) → 正朝(まさとも・景安かげやす/檜原、神職/国学) O 4 0 7 9
 伊豆守(いずのかみ・木口) → 訓重(のりしげ・木口きぐち/垣屋、国学/神職) I 3 5 0 7
 伊豆守(いずのかみ・紀) → 氏辰(うじたつ・紀きの、廷臣/和学者) E 1 2 6 4
 伊豆守(いずのかみ・中尾) → 金雄(かなお・中尾なかお/豊島、神職/国学) V 1 5 1 6
 伊豆三郎(いずのさぶろう・武田) → 信武(のぶたけ・武田、武将/歌/連歌) B 3 5 7 6
 伊豆掾(いずのじょう・竹田) → 出雲(3世いずも・竹田、浄瑠璃作者) B 1 1 0 1
 伊豆上人(いずのしょうにん) → 宥祥(ゆうしょう;法諱・妙浄、真言僧) C 4 6 4 5
 伊豆之介(いずのすけ・遠藤) → 日人(わつじん・遠藤/木村、藩士/俳人) 5 3 5 1
 伊豆能真屋(いずのまや) → 宣陽(のぶはる・高島たかしま/沢、代官/歌) I 3 5 9 4
 伊豆舎(いずのや) → 玄中(げんちゅう・松山/田中、医者) L 1 8 2 5
 巖之舎(いずのや) → 典清(のりきよ・木崎きさき、名主/国学) I 3 5 0 8

F1173 **巖丸**(いずまる・安武やすたけ、後藤内蔵之丞2男) 1818-7861 安武鎮憲の養子;筑後柳河藩士、
 儒学;牧園茅山門、国学;西原晁樹門、1845藩校伝習館寮頭/助教、蔵役/三ノ丸役/勘定役、
 藩主侍講を兼任、尊攘を主唱/王政復古に当り藩論統一に尽力、維新後;文武館教授
 歌;「柳河百家集」「退隠集」「和漢詠史集」著、

[巖丸(;)名)の別名/通称/号]別名;領/鎮元、通称;弥十郎、号;雁連舎/傲霜窟
 巖万呂(いずまる・神林) → 卯枝(しげえ・神林かんばやし/平、神職/歌) O 2 1 1 6

J1114 **いづみ**(和泉;組連) ? - ? 江戸神田の川柳の組連、
 取次;1772「川柳評万句合」入;
 取次例;[割り込みの上手片手で礼拝はいし](72万句合/前句;いやが上にも々々)、
 (ちょっとした隙間でも片手で拝み割込む)

J1184 **巖水**(いずみ・中山なかやま/本姓;宮川) 1764-183269 土佐高知藩士/国学;谷真潮まほ・服部栗斎門、
 江戸で山口剛斎門、高知藩納戸役/集録役歴任、歴史研究/歌人、諸国歴遊、
 「土佐国編年紀事略」「参考土佐軍記」「古事記伝ひるの瘡たつね」著、
 [巖水(;)号)の名/通称]名;秀金、通称;十平

K1158 **泉**(いずみ・樋口ひぐち、旧姓;岩佐) 1809-7466 近江彦根の和算家;京で小島濤山(1761-1831)門、

臨濟宗曇華院に出仕/歌人、

[泉(名)の別名/字/通称/号]別名;房愆ぼうけん/房宝、字;子善、通称;貞五郎/主水、
号;東湖

J1186 泉(いづみ・伊牟田いむた、名;直治)1817-9276 肥後合志郡田島村の田島菅原神社祠官、中講義
神道家/和漢学に通ず、1839細川藩主に招聘;神道の講演/諸藩主にも講演;尊攘の牽引、
1848(嘉永元)私塾清乃屋きよのやを開き子弟教育;門弟5百人;1851藩より金百疋を授与、
1855(安政2)藩主より毎年米5俵を給付/1884塾を閉じる

J1185 巖水(いづみ・伊野部いのべ、広門ひろかど2男)1836-190267 土佐土佐郡の国学者;鹿持雅澄・伊東祐命門、
高知藩陪臣;藩校致道館国学教授、宮内省御用掛

巖水(いづみ・中山) → 巖水(ごんすい・中山、藩士/国学/史学) E 1 9 7 3

和泉(いづみ・竹田、1762「奥州安達原」合作) → 出雲(いづも・3世竹田) B 1 1 0 1

和泉(いづみ・松井) → 東庵(とうあん・松井まつい、製墨業/詩人) 3 1 7 9

和泉(いづみ・進藤) → 重記(しげり・進藤/菅原、神職/地誌) S 2 1 0 6

和泉(いづみ・島津) → 久光(ひさみつ・島津、領主/藩政実権) C 3 7 0 1

和泉(いづみ・山脇) → 元貞(もとさだ・山脇、藩士/国学・歌人) C 4 4 4 8

和泉(いづみ・池田) → 政孝(まさたか・池田いけだ、藩国老、歌人) N 4 0 5 2

和泉(いづみ・宮内) → 嘉長(よしなが・宮内/清原/永井、神職/和漢学) F 4 7 3 1

和泉(いづみ・布施) → 定安(さだやす・布施ふせ、藩士/文筆家) K 2 0 0 3

和泉(いづみ・服部) → 正弘(まさひろ・服部、藩家老/砲術家) H 4 0 0 3

和泉(いづみ・鈴木) → 直道(なおみち・鈴木すずき/藤原、神職/歌) L 3 2 4 3

和泉(いづみ・菊池) → 正重(まさしげ・菊池きくち/藤原、神職/国学) P 4 0 2 2

和泉(いづみ・中川) → 守先(もりさき・中川なかがわ/荒木田、神職/国学) K 4 4 7 7

和泉(いづみ・真木) → 保臣(やすおみ・真木まき、神職/勤王家) B 4 5 0 9

和泉(いづみ・為貞) → 久綾(ひさあや・為貞ためさだ、神職/歌人) L 3 7 9 2

和泉(いづみ・太田) → 宗喬(むねたか・太田おた、神職/国学) D 4 2 6 9

和泉(いづみ・福島) → 末美(すえよし・福島ふくしま/谷田、神職) J 2 3 1 5

泉(いづみ・蘭溪亭、田中) → 蘭溪亭泉(らんけいていいづみ・田中泉、狂歌) B 4 8 9 1

泉冠者(いづみかんじゃ) → 忠衡(ただひら・和泉/藤原、平泉武将) Q 2 6 6 5

泉三郎(いづみさぶろう) → 忠衡(ただひら・和泉/藤原、平泉武将) Q 2 6 6 5

1111 和泉式部(いづみしきぶ・江ごう式部、大江雅致まさむね女)975?-? 1027存 母;平保衡女/和泉守橘道貞妻、
小式部(橘道貞女)の母/為尊ためたか・敦道あつみち親王と恋愛、道貞と離婚、
1009中宮彰子の女房、10丹後守藤原保昌と再婚、
歌人:家集「和泉式部集」、「和泉式部日記」著、中古36歌仙の1、
勅撰243首;拾遺(1342)後拾(68首13/25/35/48以下)金(556/620/644/658)詞花(16首)、
千載(21首)新古(26首)新勅(14首)続後撰(16首)続古(3首)続拾(6首)玉(34首)以下、
玄々集6首/続詞花集12首入(赤染衛門との贈答入)、
[あらざらんこの世の外の思ひ出にいまひとたびの逢ふこともがな](後拾遺;763)、
[和泉式部 道貞に忘られて程なく帥宮へまゐるとききて、赤染衛門、
うつろはでしばし信田の森を見よかへりもぞする葛のうら風(続詞花;恋630、
かへし(和泉式部)、
秋風はすごくふくとも葛の葉のうらみがほには見えじとぞ思ふ(続詞花;恋631)、
保昌にわすられて後 備中師かねふさ 世中をばいかが思ふとありければ、
人しれず物思ふことはならひにき花にわかれぬ春しなければ](玄々集;133)、
[和泉式部(女房名)の幼名/別称]幼名;御許丸、

別称;式部(初女房名)/いづみ/江式部、小式部(橘道貞女)の母

和泉太夫(初世いづみたゆう) → 丹波掾(たんばのじょう・桜井、和泉太夫、金平浄瑠璃) 2 6 9 6

泉の廬(いづみのいおり) → 保直(やすなお・百竹ももたけ、商家/紀行) C 4 5 3 5

泉殿御室(いづみどののおむろ) → 覚性法親王(かくしょうほつしんのう、歌人) 1 5 6 2

和泉阿闍梨(いづみのあじり) → 日良(にちりょう;法諱・信寿院、日蓮僧) D 3 3 6 4

和泉阿闍梨(いずみのあじやり)→	日法(にっぽう;法諱、日蓮僧/彫刻家)	F 3 3 5 3
和泉守(いずみのかみ・市川)→	憲輔(のりすけ・市川/藤原、連歌)	E 3 5 7 3
和泉守(いずみのかみ;通称)→	乗専(じょうせん;法諱、高橋盛永/真宗僧)	T 2 2 9 2
和泉守(いずみのかみ・入江)→	則栄(のりひで・入江いりえ、歌人)	F 3 5 5 6
和泉守(いずみのかみ・太田)→	牛一(ぎゅういち・太田、武士/軍記作者)	B 1 6 9 0
和泉守(いずみのかみ・松平)→	乗春(のりはる・松平まつだいら/源、藩主)	K 3 5 0 5
和泉守(いずみのかみ・河崎)→	秀憲(ひでのり・河崎かわさき、神職/俳諧)	D 3 7 6 1
和泉守(いずみのかみ・宮地)→	益躬(ますみ・宮地/藤原、神職/国学)	J 4 0 2 5
和泉守(いずみのかみ・水野)→	三春(みはる・水野みずの、神職/歌人)	E 4 1 5 3
和泉守(いずみのかみ・平)→	景敬(かげたか・平たいら、神職)	K 1 5 9 6
和泉守(いずみのかみ・吉井)→	良知(よしとも・吉井よし、神職/和学)	Q 4 7 0 2
和泉守(いずみのかみ・森田)→	重次(しげつぐ・森田もりた、兵法家)	R 2 1 5 0
和泉守(いずみのかみ・梶)→	重正(しげまさ・梶かじ、幕臣/国学者)	O 2 1 0 0
和泉守(いずみのかみ・水野)→	忠精(ただきよ・水野、藩主/老中/歌人)	F 2 6 0 3
和泉守(いずみのかみ・真木)→	保臣(やすおみ・真木まき、神職/勤王家)	B 4 5 0 9
和泉守(いずみのかみ・松平)→	乗全(のりやす/-たけ・松平、老中、詩歌)	G 3 5 0 7
和泉守(いずみのかみ・津軽)→	順承(ゆきつぐ・津軽つがる、藩主/歌・俳人)	G 4 6 7 1
和泉守(いずみのかみ・九鬼)→	隆国(たかくに・九鬼くき、藩主/歌)	U 2 6 2 8
和泉守(いずみのかみ・小野)→	光亨(みつよし・小野おの、神職/歌人)	I 4 1 2 6
和泉守(いずみのかみ・加藤)→	梁守(やなもり・加藤かとう/藤原、神職)	F 4 5 7 0
和泉守(いずみのかみ・岡本)→	俊嘉(俊義としよし・岡本おかもと、神職/歌)	T 3 1 9 2
和泉守(いずみのかみ・植木)→	貴直(たかなお・植木うえき、神職)	V 2 6 8 2
和泉守(いずみのかみ・玉木)→	幸直(ゆきなお・玉木たまき、神職/歌人)	H 4 6 0 0
和泉正(いずみのしょう・野沢)→	信元(のぶもと・野沢のざわ/藤原、神職/国学)	J 3 5 5 4
和泉掾(いずみのじょう・竹田)→	出雲(3世いずも・竹田、浄瑠璃作者)	B 1 1 0 1
和泉掾(いずみのじょう・京みやこ太夫)→	→一中(2世いっちゅう、浄瑠璃太夫)	C 1 1 9 6
泉大将(いずみのたいしょう)→	定国(さだくに・藤原ふじむら、大納言)	H 2 0 0 6
泉舎(いずみのや)→	久勝(ひさかつ・秋山あきやま、藩士/国学)	L 3 7 9 4
和泉房(いずみぼう)→	日法(にっぽう;法諱、日蓮僧/彫刻家)	F 3 3 5 3
和泉房(いずみぼう)→	日海(にっかい;法諱・蓮海房、日蓮僧)	D 3 3 7 6
和泉法橋(いずみほうきょう)→	覚海(かくかい;法諱・南勝房、真言僧)	J 1 5 6 3
和泉屋(いずみや)→	市兵衛(いちべえ・山中、江戸書肆)	E 1 1 5 2
和泉屋(いずみや)→	文輔(ぶんぼ・藤森ふじもり、紺屋/俳人)	G 3 8 4 3
和泉屋和助(いずみやわすけ)→	焉馬(えんば・烏亭、狂歌/浄/読本)	B 1 3 3 3

- 1197 **出雲**(いずも・前中宮さきのちゅうぐうの、藤原成親女)?-? 母:永道女、父藤原成親は遠理男/出雲守/従五下、平安中期歌人;後一条中宮威子[?-1036]家の女房、藤原資経(右馬権頭従五上)の妻、後拾遺集551、物語作者、1046/1055/1068?六条斎院祓子内親王家歌合参加;うち1055物語合「波越す磯の侍従」作、
[いかばかり君なげくらん数ならぬ身だにしぐれし秋のあはれを](後拾遺;哀傷551)、
(弘徽殿中宮姫子[1039没]家の女房伊賀少将への哀傷歌)
- 1196 **出雲**(いずも・前斎院さきのさいいんの)?- ? 平安後期;前斎院白河皇女令子内親王[1078-1144]家の女房、歌人;詞花集24、1086通宗朝臣女子達歌合みちむねあそんのむすめたちのうたあわせ(判者;通俊)参加、寂超「後葉ごよう集」1首(42)入/続詞花集入、
[九重このへにたつ白雲と見えつるは大内山の桜なりけり]、
(詞花集;一春24/後葉集42/大内山は仁和寺後背の山)
- 1195 **出雲**(いずも・いづも・皇嘉門院こうかもんいんの、藤原令明女)?-? 平安後期;女房歌人、(父の令明[合明よしあき、1074-1143]は藤原敦基男/文章博士/上総介/従四上)、崇徳皇后藤原聖子[1122-81]家女房、歌人;詞花集261、後葉集1首(410)入、
[夜をかさね霜とともにし起きぬればありしばかりの夢だにも見ず]、
(詞花;恋261/後葉;410、左衛門督藤原家成への返歌)

- 1198 **出雲**(初世いずも;通称・竹田たけだ、竹田近江[清房]男)?-1747 浄瑠璃竹本座元/作者、兄;2世近江、1705竹本義太夫・近松門左衛門と協力;「用明天王てんの職人鑑かがみ」上演、操浄瑠璃盛行の礎、近松の指導で浄瑠璃執筆;1734「蘆屋道満大内鑑」46「菅原伝授手習鑑」合作、1738「小栗判官車街道おぐりほうがんくるまかいどう」/40「今川本領猫魔館ねこまたやかた」;文耕堂と合作、[初世出雲の号]号:千前軒奚疑/千前(千々)/外記2世、法号;諦相院、2世出雲・3世近江の父
- 1112 **出雲**(2世いずも・竹田たけだ、清定、初世出雲男)1691-175666 浄瑠璃座元作者;父門、3世出雲の父、浄瑠璃全盛期、千柳/松洛らと合作;1739「ひらがな盛衰記」47「傾城枕軍談」合作、1747「義経千本櫻」48「仮名手本忠臣蔵」合作、49「双蝶蝶曲輪日記」51「役行者大峯桜」著、1756「崇徳院讃岐伝記」著外多数、[2世出雲の別通称/号]別通称;初世小出雲/親方出雲、号;千前軒/外記3世、法号;文明院
- B1101 **出雲**(3世いずも・竹田たけだ、清宜、清定[2世出雲]男)?-? 浄瑠璃座元作者、2世夭逝;3世小出雲襲名、浄瑠璃下降期;1767竹本座退転、57「姫小松子日の遊」59「日高川入相花王」合作、1760「太平記菊水之巻」61「由良湊千軒長者」68「よみ売三巴」傾城阿波の鳴門」著、[3世出雲の別通称/号]別通称;3世小出雲/文吉、号;和泉掾/因幡掾/伊豆掾
- F1174 **出雲**(いずも・磯部いそべ、名;正冬まさふゆ、正逸まさはや男)1790-183950 甲斐山梨郡国玉村の神職、代々玉諸神社(国玉明神)祠官、和学、歌に通ず、「府中八幡宮社記並神主家譜」著、[出雲(;通称)の別通称/号]別通称;安藝介、号;葵乃舎あいのや
- 出雲(いずも・徳川) → 光友(みつとも・徳川、尾張藩主/書画) E 4 1 0 5
 出雲(いずも・多賀) → 秀種(ひでたね・多賀/堀、武将/日記) D 3 7 1 6
 出雲(いずも・前田) → 貞里(さださと・前田、藩城代/文筆家) I 2 0 1 7
 出雲(いずも・村井) → 親長(ちなが・村井、藩士/儒者) B 2 8 4 1
 出雲(いずも・和久) → 半左衛門(はんざえもん・和久わく、藩士/書家) H 3 6 7 0
 出雲(いずも・田村) → 清年(きよとし・田村たむら、神職) P 1 6 9 7
 出雲(いずも・斎木) → 瑞枝(みずえ・斎木さいき/藤原、神職/歌) 4 1 9 1
 出雲(いずも・藤堂) → 高文(たかふみ・藤堂、藩国老/漢学者) D 2 6 6 9
 出雲(いずも・藤堂) → 高克(たかかつ・藤堂とうどう、藩家老/教育) Y 2 6 3 9
 出雲(いずも・鎌田) → 正純(まさずみ・鎌田かまた、藩士/日記) D 4 0 0 8
 出雲(いずも・平賀) → 義雅(よしまさ・平賀ひらが、藩士/和学) O 4 7 7 8
 出雲(いずも・井上) → 良筋(りょうせつ・藤井ふじい/井上、藩士) I 4 9 5 1
 出雲(いずも・磯山) → 久麿(ひさまる・磯山いそやま、神職/歌人) L 3 7 8 8
 出雲(いずも・井原) → 正孝(まさたか・井原いはら/橘、神職) N 4 0 3 7
 出雲(いずも・井面) → 守典(もりみち・井面いのも/荒木田、神職) J 4 4 1 7
 出雲(いずも・菊池) → 延春(のぶはる・菊池きくち、神職/歌人) I 3 5 1 7
 出雲(いずも・菊池) → 森親(もりちか・菊池きくち/藤原、国学/歌) J 4 4 8 8
 出雲(いずも・平田) → 常任(つねとう・平田ひらた、神職/国学) G 9 2 2
 出雲(いずも・小出) → 英風(ひでかぜ・小出こいで、藩士/歌人) J 3 7 5 1
 出雲(いずも・太田) → 稻主(いなぬし・太田おた/源、神職/国学) K 1 1 0 6
 出雲(いずも・藺田) → 守賀(もりよし・藺田そのだ/荒木田、神職) K 4 4 2 4
 出雲(いずも・奈良原) → 舎幸(いえゆき・奈良原ならはら、国学者) K 1 1 4 8
 出雲行者(いずもぎょうじゃ) → 蘭阪(らんぱん・三浦みうら/松田、医/本草) D 4 8 1 3
 出雲五郎左衛門尉(いずもごろうざえもんじょう) → 宣時(のぶとき・大佛おさらぎ/平忠時、武将/歌) C 3 5 2 6
- C1137 **出雲寺和泉掾**(初世いずもいずみのじょう、林はやし元真・松柏堂)?-1631 京の書肆;1615-24朝廷書物御用、漢学有職
- C1138 **出雲寺和泉掾**(2世いずもいずみのじょう、林はやし時元、松柏堂、白水)?-1704 幕府御書物師(御用書肆)、1657林和泉掾、武鑑・延喜式など出版
- F1175 **出雲寺和泉掾**(3世いずもいずみのじょう、林はやし一衣、松柏堂)?-? 大阪の書肆/雑俳;園花堂蝶々子門?、1716-36「富士の高根」編、1723「和哥みどり」編/23「田植笠」編;松本板、1756「両面かがみ」編;田原屋板
- 出雲路上人(いずもじのしょうにん) → 覚瑜(かくゆ;法諱、天台僧/念仏唱導) K 1 5 5 1

- 出雲寺入道 (いずもじのにゅうどう) → 親範(ちかのり・平、円智、廷臣/出家/歌) B 2 8 5 8
 出雲路法印 (いずもじのほういん) → 政春(しょうしゅん; 法諱、天台僧) J 2 2 6 3
 出雲僧都 (いずもそうず) → 榮然(えいねん・ようねん; 法諱、真言僧) D 1 3 2 8
 出雲のお国 (いずものおくに) → 阿国(おぐに・出雲、歌舞伎創始) 1 4 1 4
- 1199 出雲娘子 (いずものおとめ) ? - ? 万葉集中人物、429(-児)・430(-子)
 F1176 出雲守 (いずものかみ・満田みつた) ?- ? 江初期蒲生氏家臣、1621会津若松町奉行、
 「蒲生氏郷記」著
- 出雲守 (いずものかみ・朝山) → 師綱(もろつな・朝山、梵燈庵、幕臣/連歌) 4 4 3 4
 出雲守 (いずものかみ・満田) → 満田出雲守(みつた いずものかみ、奉行/伝記) D 4 1 7 0
 出雲守 (いずものかみ・中尾) → 宗茂(むねしげ・中尾なお、神道家) B 4 2 4 3
 出雲守 (いずものかみ・笠因) → 清雄(すがお・笠因かさより、神職/歌人) F 2 3 8 0
 出雲守 (いずものかみ・岡本) → 定賢(さだかた・岡本おかもと/松下、神職) O 2 0 1 9
 出雲守 (いずものかみ・金森) → 重頼(しげより・金森かなもり、藩主/茶/歌) O 2 1 0 7
 出雲守 (いずものかみ・関) → 行篤(ゆきひろ・関せき、幕臣/奉行/歌) G 4 6 7 0
 出雲守 (いずものかみ・柴田) → 勝明(かつあき・柴田しばた、幕臣/歌人) S 1 5 8 5
 出雲守 (いずものかみ・大沢) → 基躬(もとみ・大沢おおさわ、幕臣/高家) J 4 4 5 3
 出雲守 (いずものかみ・加藤) → 泰広(やすひろ・加藤かとう、藩主/歌人) F 4 5 6 8
 出雲守 (いずものかみ・出雲寺) → 興通(おきみち・出雲寺いずもじ、神職) D 1 4 8 5
 出雲守 (いずものかみ・片山) → 豊樹(とよき・片山かたやま、神職/国学) U 3 1 7 5
 出雲守 (いずものかみ・山崎) → 久城(ひさき・山崎やまさき、神職/国学) M 3 7 1 7
 出雲守 (いずものかみ・葛原) → 秀藤(ひでふじ・葛原くずはら、神職/国史) D 3 7 7 7
 出雲守 (いずものかみ・土方) → 雄興(かつおき・土方ひじかた、藩主/歌人) V 1 5 4 9
 出雲守 (いずものかみ・中川) → 長経(ながつね・中川なかがわ、廷臣/歌人) O 3 2 0 4
 出雲守 (いずものかみ・森) → 泰友(やすとも・森もり、神職/国学) G 4 5 8 9
 出雲掾 (いずものじょう・井上) → 一鼠(いっそ・角鹿斎、俳人) B 1 1 5 5
 出雲介 (いずものすけ・寺井) → 種清(たねきよ・寺井てらい、神職/歌人) R 2 6 7 7
- 1113 伊勢 (いせ、別号; 伊勢の御/伊勢の御息所、藤原継蔭女) 874?-939?66? 宇多天皇中宮温子の女房、
 宇多天皇の寵愛; 御息所、皇子出産; 夭逝/907温子女均子内親王に出仕、歌人; 36歌仙の1、
 910均子没; 均子の夫敦慶親王と恋: 中務を出産、時平・仲平・貞文らと交渉、
 歌; 寛平御時后宮/913亭子院歌合参加、913「亭子院歌合日記」著、家集「伊勢集」、雲葉8首入、
 勅撰集181首; 古今(22首31/43/61/68/138/459以下) 後撰(70首20/52/85以下) 拾遺(25首)、
 新古今(15首) 新勅(7首) 続後撰(6首) 続古今(8首) 玉葉(9首) 続千載(2首) 続後拾(3首) 以下、
 [難波渦みぢかき蘆のふしごとに[ふしの間も]逢はでこの世を過してよとや]、
 (伊勢集429[新古今1049])、
 参照 → 敦慶親王(あつよしんのう、宇多天皇皇子、歌人) B 1 0 4 7
- F1177 伊勢 (いせ; 通称・平野ひらの、伊勢守) ?-? 江戸末期仙台神職; 伊達家に出仕、「暦本」編
 伊勢 (いせ・高崎) → 親義(ちかよし・高崎、藩士/国学/歌) C 2 8 2 3
 伊勢 (いせ・諏訪/島津) → 甚六(じんろく・諏訪すわ/島津、藩家老) Q 2 2 2 3
 伊勢 (いせ・中島) → 信秋(のぶあき・中島なかじま、和学者) J 3 5 3 5
 伊勢 (いせ・鈴木) → 梁満(りやうまんろく・鈴木、神職/国学) D 4 5 9 2
 伊勢 (いせ・熊懷) → 行礼(ゆきのり・熊懷くまがい、神職/国学) G 4 6 7 9
 伊勢 (いせ・毛山) → 正庸(まさゆき・毛山けやま/松浦、神職/歌) P 4 0 5 6
- F1178 惟濟 (いせい・ゆいせい; 法諱) ? - ? 平安初期の僧; 法師、法印、歌人、後撰1376、
 [百年ももとせに八十年やそとせ添へて祈り来る玉のしるしを君見ざらめや] (後撰; 慶賀1376)、
 (年星ねんそう[密教の星祭]を行う女施主の数珠に祈願して歌を添えておくる)
- F1179 医生 (いせい・杏林庵きやうりんあん、姓名不詳) ?-? 江前期元禄1688-1704頃の医者、
 秘伝の眼科医書を匿名で公開出版: 1689「眼目明鑑」(中国医書「周郁眼目伝」の和訳)
- B1102 意誠 (いせい・もとのぶ・三宅みやけ、意愜男/本姓; 源) 1788-183750 京の官人; 1819右近将監/正六上、
 歌人; 香川景樹門、「千代の古道辨」著(知紀評)、画も嗜む、法号; 忝信院
- F1180 韋静 (いせい・天井あまい) ? - ? 福井俳人/韋吹の玄孫、1843「炭瓢集」編

1862「徳造書院記」著

以正(いせい・匹田)	→	以正(これまさ・匹田、神道)	G 1 9 0 5
以正(いせい・藤井)	→	以正(もちまさ・藤井、茶人)	B 4 4 6 7
以正(いせい・小野)	→	以正(もちまさ・小野、里正/和算家)	B 4 4 6 8
以正(いせい/ゆきまさ・鈴木/秋元/秋本)	→	澹園(たんえん・秋元/秋本/鈴木、儒者/詩文)	H 2 6 9 5
以正(いせい・難波)	→	周政(かねまさ・難波なんば、陪臣/歌人)	V 1 5 2 9
以成(いせい・倉田)	→	續(いさお・倉田、儒者)	F 1 1 4 7
以成(いせい・能美)	→	棋斎(きさい・能美のうみ、藩士/藩政参与)	K 1 6 4 4
以成(以政いせい・林)	→	以成(ゆきなり・林はやし、藩士)	F 4 6 1 5
以政(いせい・橘)	→	以政(もちまさ・橘たちばな、廷臣/記録)	B 4 4 6 4
以清(いせい・川辺)	→	信一(信弍しんいち・川辺、藩士/暦算家)	N 2 2 3 0
以盛(いせい・栗田口)	→	隆光(りゅうこう・栗田口あわたぐち、絵師)	D 4 9 7 2
伊清(いせい・遠山)	→	伊清(これきよ・遠山とおやま、幕臣/歌研究)	E 1 9 1 6
伊成(いせい・藤原)	→	伊成(これしげ・これなり・藤原、廷臣/歌人)	E 1 9 2 3
為正(いせい・藤原)	→	為正(ためまさ・藤原ふじわら、廷臣/歌人)	H 2 6 4 1
為正(いせい・池永)	→	為正(ためまさ・池永いけなが、歌人)	U 2 6 8 1
為誠(いせい・安藤)	→	為実(ためざね・安藤あんど、国学/歌人)	G 2 6 8 6
為誠(いせい・松尾)	→	為誠(ためまさ・松尾まつお、国学/歌人)	Z 2 6 5 4
為精(いせい/ためよし・片桐)	→	源栄(げんえい・片桐かたざり、歌人)	B 1 8 2 9
為清(いせい) すべて	→	為清(ためきよ)	
為世(いせい) すべて	→	為世(ためよ)	
為盛(いせい) すべて	→	為盛(ためもり)	
為政(いせい) すべて	→	為政(ためまさ)	
為成(いせい) すべて	→	為成(ためなり)	
意船(いせん・川上)	→	久辰(ひさとき・川上かわかみ、武将/地頭)	B 3 7 5 0
惟正(いせい・穂積)	→	惟正(これまさ・穂積ほづみ、医者/解剖)	O 1 9 8 3
惟正(いせい・安永)	→	惟正(これまさ・安永やすなが、和算家)	O 1 9 8 4
惟正(いせい/これまさ・十時)	→	惟保(これやす・十時とき/大神、藩士)	G 1 9 1 1
惟成(いせい・藤原)	→	惟成(これしげ・これなり・藤原ふじわら、廷臣/詩歌)	1 9 4 4
惟成(いせい・竹原)	→	惟成(これなり・竹原、藩士/故実家)	O 1 9 6 2
惟成(いせい・篠田)	→	惟成(これなり・篠田しのだ、藩士/歌人)	Q 1 9 9 0
惟政(いせい・高橋)	→	惟政(これまさ・高橋たかはし、庄屋/歌人)	Q 1 9 9 7
惟政(いせい・中村)	→	惟政(これまさ・中村なかむら、藩士/国学者)	R 1 9 0 9
惟清(いせい・頼)	→	亨翁(こうおう・頼、紺屋/歌人)	H 1 9 7 2
惟清(いせい/これきよ・中島)	→	広足(ひろたり・中島/越智、藩士/国学者)	3 7 2 1
惟清(いせい・谷口)	→	陶溪(とうけい・谷口、歌人)	D 3 1 1 9
惟清(いせい/これきよ・蜂屋)	→	茂橋(もきつ・蜂屋はちや/源、幕臣/随筆)	4 4 6 2
惟清(いせい・石黒)	→	惟清(これきよ・石黒いしくろ、幕臣)	O 1 9 2 7
惟清(いせい/これきよ・谷口)	→	陶溪(とうけい・谷口たにぐち、藩士/歌)	D 3 1 1 9
惟清(いせい・土屋)	→	惟清(これきよ・土屋つちや、国学者/歌)	R 1 9 0 4
惟精(いせい・田中/戸田)	→	藤蔭(ふじかげ・戸田とだ/田中、藩士/歌)	C 3 8 4 2
惟精(いせい・中島)	→	惟精(これきよ・中島なかじま、歌人)	
維清(いせい/これきよ・岡田)	→	糠人(ぬかんど・岡田、酒造家/俳人)	3 4 0 5
維清(いせい・藤由)	→	維清(これきよ・藤由ふじよし、国学者)	R 1 9 2 5
維晴(いせい・碓井)	→	維徳(これのり・碓井うすい、医者/歌人)	Q 1 9 3 9
維正((いせい・鈴木)	→	良知(りょうち・鈴木、儒/医者/本草家)	I 4 9 8 5
維正(いせい・藤田)	→	容斎(ようさい・藤田ふじた、儒/教育者/詩)	B 4 7 0 0
維政(いせい・隈部)	→	維政(これまさ・隈部くまべ、国学者)	Q 1 9 6 5
惟省(いせい・会田/野呂)	→	陶斎(とうさい・野呂のろ、儒者/教育)	E 3 1 2 4

- 威政(いせい・山本) → 寅齋(いんさい・山本やまと、儒者) I 1 1 5 6
 已成院(いせいん) → 隆達(りゅうたつ; 字・高三たかさぶ、商家/隆達節祖) 4 9 1 0
 頤生軒(いせいけん) → 増春(ぞうしゅん; 号、壬生、連歌/聯句) H 2 5 9 5
 以静堂(いせいどう) → 魯石(ろせき・文弘堂、俳人) B 5 2 9 9
 C1139 維石(いせき) ? - ? 俳人、1821撰集「俳諧雪とすみ」梅里と共編
 維石(いせき・渡辺) → 南岳(なんがく・渡辺わたなべ、絵師) I 3 2 7 7
 意碩(いせき・赤星) → 順則(よりのり・赤星あかぼし、医者/歌人) L 4 7 1 2
 井関神主(いせきのかんぬし) → 経久(つねひさ・賀茂かも、神職/歌人) D 2 9 3 5
 伊勢久(いせきゅう、伊勢屋久兵衛) → 邦則(くにのり・池村、染物業/国学) D 1 7 8 1
 F1182 いせ子(いせこ・小笠原おがさわら) 1745-? 1794存 豊前小倉藩士の妻、「幾佐良喜之日記」著
 J1108 いせ崎(いせざき; 組連) ? - ? 江戸麻布桜田町の雑俳の組連、
 取次; 1747「筑丈評万句合」入、
 取次例; [傾城の箏箏を錢のころぶ音] (万句合/前句; かるい事かな々々)、
 (座敷持ち高級遊女も箏箏は空で哀れな音)、
 桜田町にはのちに組連[かすみ]がある(1766頃)
 伊勢次郎(いせじろう・安部) → 石斎(せきさい・黒沢/安部/与村、藩儒) D 2 4 4 8
 伊勢蔵(いせぞう・福永) → 庸孝(つねたか・福永わふくなが/数藤、藩士) G 2 9 2 6
 伊勢太夫(いせだゆう・宮川) → 広激(ひろげき・宮川みやがわ、神職/国学) L 3 7 4 0
 伊勢太郎(いせたろう・隈部) → 維直(これなお・隈部くまべ、国学者) Q 1 9 5 4
 F1183 為拙(いせつ; 法諱) 1744 - 1830 87歳 曹洞僧; 三河田原藩主三宅家菩提寺の靈岩寺19世、
 詩文に長ず、1787(天明7)「太原集」編
 以雪庵(いせつあん) → 暮来(ぼらい・岡崎おかさき、俳人) E 3 9 7 9
 伊勢入道(いせにゅうどう) → 畔季(はんり・南部、藩主/俳人) I 3 6 6 0
 I1177 伊勢阿婆輔(いせのあばすけ) ? - ? 狂歌; 1787「才蔵集」2首入; 351/520
 [脇指わきざしも鞘におさまる御代なれば千代のためしにさせる竹光]
 伊勢大輔(いせのおおすけ) → 伊勢大輔(いせのたいふ、女房歌人) 1 1 1 4
 伊勢守(いせのかみ・江戸) → 助良(すけよし・江戸えど/平、武家/連歌) D 2 3 6 9
 伊勢守(いせのかみ・上泉) → 信綱(のぶつな・上泉かみいずみ、軍学者) C 3 5 0 9
 伊勢守(いせのかみ・新見) → 正興(まさおき・新見しんみ/源、幕臣外国/奉行) B 4 0 5 6
 伊勢守(いせのかみ・平野) → 伊勢(いせ・平野、神職) F 1 1 7 7
 伊勢守(いせのかみ・八剣) → 勝重(かつしげ・八剣やつるぎ、神職) N 1 5 4 1
 伊勢守(いせのかみ・吉松) → 年治(としはる・敷田/吉松/宮本、神職/国学) N 3 1 4 3
 伊勢守(いせのかみ・本多) → 助実(すけみね・本多ほんだ、藩主/歌) H 2 3 8 8
 伊勢守(いせのかみ・大久保) → 忠寛(ただひろ・大久保おおくぼ、一翁、幕臣) U 2 6 3 9
 伊勢守(いせのかみ・安倍) → 季尚(すえひさ・安倍あべ、楽人) B 2 3 4 0
 伊勢守(いせのかみ・為貞) → 櫟(いちい・為貞きためさだ、神職/歌人) J 1 1 7 8
 伊勢守(いせのかみ・淡川) → 康民(やすたみ・淡川あわかわ、官人/歌人) F 4 5 2 3
 伊勢守(いせのかみ・黒田) → 長清(ながきよ・黒田くろだ、藩主/詩歌) M 3 2 0 4
 伊勢守(いせのかみ・磯田) → 種正(種昌たねまさ・磯田いそだ/源、官人/歌) V 2 6 6 5
 伊勢守(いせのかみ・栗田) → 広治(ひろはり・栗田あわた、神職/国学/歌) M 3 7 0 5
 伊勢守(いせのかみ・船曳) → 大枝(おおえ・船曳ふなびき/宮崎、神職/歌) E 1 4 1 0
 伊勢守(いせのかみ・野口) → 重為(しげため・野口のぐち、神職) Z 2 1 6 4
 伊勢守(いせのかみ・生源寺) → 業雅(なりまさ・祝部ほうりべ/生源寺、神職/歌) I 3 2 1 9
 伊勢守(いせのかみ・東) → 相命(すけとし・東ひがし/秦、神職) J 2 3 0 3
 伊勢守(いせのかみ・薬師神) → 守清(もりきよ・薬師神やくしじん、神職/国学) L 4 4 7 6
 伊勢君(いせのみ) → 琳賢(りんけん、天台僧/歌人) K 4 9 1 5
 伊勢の御(いせのご) → 伊勢(いせ、歌人) 1 1 1 3
 伊勢正(いせのしょう・神崎/八剣) → 興寿(おきなご・八剣やつるぎ、神職) C 1 4 9 1
 伊勢介(いせのすけ・小槻) → 秀芳(ひでよし・小槻おつき、官人/衣紋術) I 3 7 6 9

- 伊勢亮(いせのすけ・宮沢) → 清房(きよぶさ・宮沢みやざわ、神職/国学) T 1 6 4 6
- 1114 伊勢大輔(いせのたいふ・おおすけ、神祇大副たいふ大中臣輔親すけちか女) 1008?-? 1060存 平安中後期女房、1007頃中宮彰子(上東門院)家女房、紫式部和泉式部らと親交、能宣孫/輔隆・輔経の姉妹、高階成順(なり)の(?-1040)の妻/康資王母やすすけおうのは・筑前乳母らの母、家集「伊勢大輔集」、1032「上東門院彰子菊合」49「内裏歌合」56「皇后宮寛子春秋歌合」参加、
 玄々集・後葉集・続詞花集・御裳濯集18首入、
 子;康資王の母・源兼俊の母・筑前乳母ら、晩年は出家し山里の住;子女に家風を伝える、勅撰52首;後拾遺(26首32/33/176以下)金葉(Ⅲ58)詞花(29/163)新古(7首)新勅(3首)以下、
 [いにしへの奈良の都の八重桜けふ九重に匂ひぬるかな](詞花29/御裳濯集119/玄々159、御裳濯の詞書;一条院御時奈良の都より桜を人の奉りて侍りけるを取りて参らせけるに、ただにてはいかが歌よめと仰せられければ)
- 夫 → 成順(なりより・なりのぶ・高階たかしな、乗蓮) I 3 2 4 2
- F1184 伊世中将(伊勢-いせのちゅうじょう、伊勢守藤原孝忠女)?-? 平安期女房/歌人、後拾遺1191、
 中宮彰子出家時に駆せた伊世中将や禎子内親王の中將乳母(栄花物語)との関係は不詳、
 [散る花もをしまばとまれ世の中は心のほかの物とやはきく](三界唯一心 後拾廿1191)
- 伊世女房(いせのによぼう) → 越前(えちぜん・嘉陽門院、歌人) 1 3 7 7
- 伊世の御息所(いせのみやすどころ) → 伊勢(いせ、藤原継蔭女、歌人) 1 1 1 3
- 伊世廼屋(いせのや) → 佩香園蘭丸(はいこうえんらんまる、清水長義、狂歌) B 3 6 2 1
- 伊世久(いせひさ) → 邦則(くにのり・池村いけむら、染物業/国学) E 1 7 0 1
- 伊世室山入道(いせむろやまのにゅうどう) → 良舜(りょうしゆん;法諱、歌僧) H 4 9 9 1
- 伊世屋(いせや) → 文下(ぶんか・額田、書肆/俳人) E 3 8 8 6
- 伊世屋(いせや) → 邦則(くにのり・池村いけむら、染物業/国学) E 1 7 0 1
- 伊世屋左平(いせやさへい) → 隣春(ちかはる・福島/藤原、商家/絵師) B 2 8 6 6
- 伊世屋七郎兵衛(いせやしちるべえ) → 大梅(だいまい・中西、俳人) K 2 6 9 5
- 伊世屋忠兵衛(いせやしちるべえ) → 忠兵衛(ちゅうべえ・西村/伊世屋、指峰堂釋笑、書肆) G 2 8 8 4
- B1103 以仙(いせん・山崎やまさき/のち高滝たかたき、名;安之/正之) 1605-? 泉州堺の俳人;令徳門[貞門]、大坂の江戸堀竹屋町住、1670以降宗因門;談林派、西鶴惟中と大阪俳壇を三分、「落花集」「犬桜」「難波千句」編、「瘤柳千句」「花見乗物」編、1679「ぬれがらす」一礼と共編、1680「大坂八百韻」共編、1673西鶴?「哥仙大坂俳諧師」81賀子「山海集」入、1682春林「百人一句難波色紙」82風黒「高名集」82如扶「三ヶ津さんかのつ」入、
 [杪あきの墅や紅くれなゝくる土竜うぐるもち](山海集;左7、土竜はもぐら、
 本歌;新勅;雅経/秋は今日くれなゝくる竜田川逝く瀬の浪も色変るらむ)、
 [替はり節や難波の哥も伊勢踊](三ヶ津/伊勢音頭の盆踊歌はのち全国に流行、
 筑波集;草の名も所によりてかはるなり/救済;難波の蘆は伊勢の浜荻)、
 [以仙の通称/別号] 通称;正左衛門、別号;益翁えきおう、梅風軒/見独子
- C1140 以専(いせん) ? - ? 和泉真光寺僧/俳人;
 1656梅盛「口真似草」57「鸚鵡集」入
- C1141 巳千(いせん) ? - ? 俳人、1693頃:幸佐「一番船」滑稽和漢入
- E1136 伊川(いせん・狩野かのう、名;栄信ながのぶ、惟信男) 1775-1828 江戸木挽町狩野家絵師;父門、水墨草画:1802法眼/16法印、「草華鳥図」「保元物語」「はなし図巻」「西丸百草御衝立」画、
 [伊川(;号)の通称/別号] 通称;栄二郎、別号;伊川院/玄賞齋
- D1149 維宣(いせん・宮地みやぢ) ? - ? 土佐の人、
 1868-9「歎涕たんてい和歌集」編(:志士と関係者の歌を収集)
- 以仙(いせん・今田) → 信好(のぶよし・今田いまだ、藩士/歌人) H 3 5 4 3
- 渭川(いせん) → 一有(いちゆう・斯波/岩井、俳人) B 1 1 2 6
- 伊川(いせん;号) → 桂悟(けいご;法諱・了庵、臨濟僧/遣明使) 1 8 4 9
- 伊川(いせん・矢島) → 伊浜(いひん・矢島やじま、藩士/儒者) E 1 1 3 8
- 伊川(怡川いせん・宇治) → 光寧(みつやす・宇治、歌人) I 4 1 1 5
- 葦川(いせん・木村) → 雅敬(雅孝まさたか・木村、藩士、医者/歌) D 4 0 2 5

- 為仙(いせん・飯島) → 為仙(ためのり・飯島、歌人) H 2 6 3 3
 為宣(いせん/ためのぶ) → 文器(ぶんき・小島こじま、藩士/俳人) E 3 8 9 5
 意専(いせん・窪田) → 猿雖(えんすい・窪田、俳人) B 1 3 1 4
 意専(いせん・吉田) → 南涯(なんがい・吉田よしだ、医者) I 3 2 6 6
 惟選(いせん・下村) → 政良(まさよし・下村しむら、暦算家) I 4 0 7 3
 惟宣(いせん;通称) → 竜門(りゅうもん;道号・承猷;法諱、臨濟僧) F 4 9 7 6
 維宣(いせん/これのぶ・西村) → 元春(げんしゅん・西村にしむら、藩医/鍼医) J 1 8 7 2
 維遷(いせん・南川) → 金溪(きんけい・南川みなみかわ、医/詩人) H 1 6 8 0
 維専(いせん・山本) → 楽艾(らくがい・山本やまもと、儒者;韻鏡学) B 4 8 0 8
 以専(いせん・疋田/匹田) → 千益(ちます・疋田、医/歌人/茶人) F 2 8 4 0
 彙撰(いせん・湯川) → 麴洞(げいどう・湯川ゆかわ、儒者) E 1 8 9 3
- 1128 惟然(いぜん・広瀬ひろせ、通称;源之丞、九兵衛男)?-1711;60余歳 美濃関の酒造家/俳人:1688芭蕉門、
 1694芭蕉病没まで随伴、1702風羅念仏を唱え播州行脚、俳諧の口語化、奇人と称された、
 丈草・鬼貫と交流、1694「藤の実」1702-3「二えふ[葉]集」編、「惟然坊句集」秋挙編、
 1701白雪「きれぎれ」02千山「花の雲」03月尋「とてしも」千山「当座はらひ」等に句入集、
 1705帰郷;弁慶庵隠棲;没、追善集;「みのの雫」「梅の紅」(ともに寒瓜編)、
 [梅の花赤いは赤いは赤いはな](去来抄)、「としの雲故郷に居ても物ぞ旅」(弁慶庵にて)
 [惟然(;号)の別号] 素牛/鳥落人/湖南人/梅花仏、風羅堂/弁慶庵
- 惟然(いぜん/これのり・菅原) → 惟岳(これおか・紀、歌人) E 1 9 1 3
 唯然(いぜん→ゆいねん) → 顕遠(けんおん;法諱・三陰みかげ、真宗僧/国学) N 1 8 9 3
 維善(いぜん・鹿子木) → 量平(りょうへい・鹿子木かのこぎ、庄屋/勸農家) J 4 9 3 5
 怡然(いぜん・伊藤) → 和允(かずみち・伊藤いとう/藤原、藩士/国学) T 1 5 5 5
 為全(いぜん・冷泉) → 為全(ためたけ・冷泉れいぜい、歌人) S 2 6 4 7
 為善(いぜん・源) → 為善(ためよし・源みなもと、廷臣/歌人) H 2 6 6 8
 為善(いぜん/ためよし) → 文器(ぶんき・小島こじま、藩士/俳人) E 3 8 9 5
 為善(いぜん・進藤) → 為善(ためよし・進藤しんどう、坊官/日記) S 2 6 8 9
 為善(いぜん・小田切/日高) → 為善(ためよし・日高/小田切、幕臣/渡米欧) S 2 6 9 0
 為善(いぜん・田中) → 為善(ためよし・田中たなか/桑原、藩士/国学) X 2 6 8 8
 為善(いぜん・瀬見) → 為善(ためよし・瀬見せみ、国学者) X 2 6 7 4
 伊川院(いせんいん・狩野) → 伊川(いせん・狩野、水墨絵師) E 1 1 3 6
 渭川院(いせんいん・竹内) → 玄洞(げんどう・竹内たけのうち、蘭方医) L 1 8 9 5
 意仙齋(いせんさい・狩野) → 伯円(はくえん・狩野かのう、絵師) C 3 6 6 5
 医仙堂(いせんどう) → 牛山(きゅうざん/ござん・香月かつき、医者/随筆) M 1 6 6 6
 為善堂(いぜんどう) → 均斎(きんさい・加藤かとう、暦算家) Q 1 6 9 7
- K1143 いそ(・知久ちく、旧姓;宮沢) 1812-1881 70 信濃飯田の生/伊那郡の歌人
 K1145 いそ(・筑紫つくし、) 1831 - 1905 75 筑前福岡の歌人;大隈言道門
 B1104 惟草(惟艸いそう・黒川くろかわ、名;元愷)?-1853 江戸神田岩井町の書家;持明院流筆道;墨梅、
 俳人;蓼松門、1834「いほひらき」「惟草庵新築記念句集」編、1836-51「俳諧人名録」編、
 1850(嘉永3)9月10-12日太田子徳の瀬田村の集いに参加;
 歌[川辺夕烟]詠(江口忠房「瀬戸之記」入)
 1851「芸園俳諧人名録」、「三笹連年籠初午稻荷社奉燈句合」編、「惟草庵宗匠判月並句会」、
 [惟草(;号)の字/通称/別号]字;芽茎、通称;米齋、別号;風也坊/惟草庵蓼岱
- I1194 為巢(いそう・碓井うすい) ? - ? 江後期安藝仁方の俳人;
 [さつと来て名のなき雨の若葉かな](短冊)
- 為相(いそう・冷泉) → 為相(ためすけ・冷泉れいぜい、廷臣/歌人) 2 6 6 1
 為相(いそう・江島) → 為相(ためすけ・江島えじま、藩士/歌人) V 2 6 8 9
 為宗(いそう・二条) → 為宗(ためむね・二条/御子左、為世男/歌) H 2 6 5 1
 猪三(いそう・御菌生) → 一歛(かずよし・御菌生みそのう、藩士/歌人) V 1 5 8 3
 惟草庵蓼岱(いそうあんりょうたい) → 惟草(いそう・黒川くろかわ、書家/俳人) B 1 1 0 4
 猪惣太(いそうた・菊池) → 武胤(たけたね・菊池きくち、庄屋/歌人) W 2 6 7 5

- 渭滄浪(いそうろう) → 源内(げんない・平賀ひらが、洋学/戯作) 1828
磯右衛門(いそえもん・今井) → 柳菫(りゅうそう・今井いまい、代官/俳人) F4903
磯右衛門(いそえもん・鈴木) → 半山(はんざん・鈴木すずき、儒者) H3679
磯右衛門(いそえもん・神保) → 臥雲(がうん・神保じんぼう、国学/歌) J1522
磯右衛門(いそえもん・今井) → 成忠(しげただ・今井いまい、代官/国学者) N2143
- J1182 磯夫(いそお・葦津あしづ/旧姓;大神おおが、) 1840-1902⁶³ 筑前福岡藩士、国学者、
愛宕通旭おたぎみちてるの謀反に連座;投獄/参議広沢真臣さねおみ暗殺の嫌疑で再投獄、
のち嫌疑はれて県会議員/農学校長/宮崎宮の宮司、
[磯夫(;名)の初名] 国彦
- 五十榎本(いそかしがもと→いつかしがもと) → 鶴城(たづき・佐々さつき、神職/国学) P2601
五十榎舎(いそかしのや) → 好謙(よしかた・吉成よしなり、神職/和漢学) C4771
五十榎麿(いそかしまろ) → 武文(たけふみ・白玖はく/しらく、神職/歌) V2615
五十鱒翁(いそきおう) → 正英(まさひで・玉木/橘、神道家) G4066
磯吉(いそきち・奥村) → 惇叙(あつのぶ・奥村おくむら、藩士/記録) E1074
磯吉(いそきち・歌川) → 国富(2世くにとみ・歌川うたがわ、絵師) C1797
五十鱒霊神(いそきれいしん) → 正英(まさひで・玉木/橘、神道家) G4066
- F1185 伊東(いそく;法諱) ? - ? 室町末期豊前宇佐郷の僧/播磨船越山麓住、軍学、
一時信長に出仕、「伊東法師物語」「三遠平均記」著
- F1186 夷則(いそく・遠藤えんどう) ? - ? 江後期;磐城相馬中村の出身、
天保弘化1830-48頃江戸で俳人、1848「松吟素集」著
- 維則(いそく・松尾) → 維則(これのり・松尾まつお、藩医) O1968
維則(いそく・西田) → 維則(これのり・西田、儒者/白話翻訳) O1969
維則(いそく・富田) → 維則(これのり・富田、医者) O1970
維則(いそく・宮地) → 維則(これのり・宮地、医者/本草家) O1971
維則(いそく・山田) → 維則(これのり・山田、儒者) O1972
維則(いそく・多田ただ) → 東溪(とうけい・多田、書/儒者) D3108
惟則(いそく・菅原) → 惟則(これのり・菅原、儒医) G1902
惟則(いそく・荻生) → 惟則(これのり・荻生、戯作者) G1903
惟則(いそく/これのり・垣内) → 己山(きざん・垣内かきうち、医/儒/詩) K1661
惟則(いそく・小池) → 曲江(きょくこう・小池こいけ、藩士/絵師) O1688
惟足(いそく・吉川) → 惟足(これたる/これたり・吉川よしかわ、神道家) 1948
為則(いそく) すべて → 為則(ためのり)
為則(為即いそく・田中) → 玉峰(ぎょくほう・田中たなか、書家/俳人) P1638
為足(いそく・大島) → 為足(ためたり・大島おおしま、藩士/歌人) W2615
為続(いそく・相良) → 為続(ためつぐ・相良さがら、武将/連歌) S2651
意足軒(いそくけん) → 三喜(三帰さんき・田代、医者;李朱医学) L2095
惟則子(いそくし) → 好賢(よしかた・木村きむら、神道/歌人) M4740
- K1119 いそ子(いそこ・菊地きくち、) ? - 1858 駿河府中の国学者/三浦為宝ためとみの妻
- K1157 磯子(いそこ・服部はっとり、本姓;安西) 1841-1915⁷⁵ 陸奥会津藩士の娘、藩主松平容保かたもりに出仕、
国学・歌;京の伊達千広門/のち東京で井上文雄・黒田清綱・渡忠秋門、歌人として活動、
「波々曾葉」著
- 磯子(いそこ・鈴木) → 栄寿(えいじゅ・鈴木、歌人) U1313
勤子内親王(いそこのみこ) → 勤子内親王(きんしなしいんのう、醍醐皇女、歌) E1612
五十五郎(いそごろう・小笠原) → 長好(ながよし・小笠原おがさわら、歌人) L3237
- F1187 勤(いそし・魚住うおずみ、別号;良之/真郷、春晶男) 1817-80⁶⁴ 熊本藩士、1836家督/47鉄砲頭、
兵制改革、国学;林桜園門、剣術/勤王派、維新後;阿蘇社禰宜、
「あまのしわざ」「山陵遙考」著、
[勤(;名)の通称] 源次兵衛/勝熊
- K1142 勤(いそし・谷たに、別号;忠純/通称;徳次郎) 1835-95⁶¹ 常陸水戸藩士;江戸詰、学;会沢正之門、
国学者/歌人、維新後;水戸の戸長/奈良大和おおやまと神社大宮司/宮内省文学御用掛/御歌掛

- 為(いそし・恩田) → 仰岳(ぎょうがく・恩田おんだ、藩士/漢学者) N 1 6 4 8
 五十五十輔(いそじいそすけ) → 五十輔(いそすけ・五十いそじ、歌舞伎作者) C 1 1 4 2
 磯七(いそしち・内海) → 貞倚(さだより・内海うつみ/高橋、名主) O 2 0 0 0
 いそしのや → 茲監(これみ・亀井かめい、勤斎、藩主/歌人) E 1 9 5 1
 いそしの舎(いそしのや) → 修平(のぶひら・羽生田はにゅうだ、国学/歌) D 3 5 0 7
 磯次郎(いそじろう・伊藤) → 殷興(たかおき・伊藤いとう、国学者) V 2 6 4 4
 五十槻(いそつき→いつき) → 賢樹(かたき・木暮こくれ、医者/国学者) M 1 5 9 2
 磯名(いそな・葉山) → 春菴(はるみの・葉山はやま、故実家/藩士) K 3 6 5 9
 磯の屋(いそこのや) → 春明(はるあきら・生川なるかわ、商/国/歌/俳) 3 6 2 9
- B1106 石島(いそしま・私部きさきべ) ? - ? 755防人、下総国葛飾郡かつしかのこおり、万葉廿4385
 [行ゆこ先に波なとゑらひ後しるへには子をと妻をと置きてとも来ぬ](万葉廿4385)
 (行く先に波よ荒れるな 後ろには子供や妻を残して来たのだ)
- J1161 磯女(いそじょ・高橋たかはし) ? - ? 江後期;歌人、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [飛ぶ鳥の影さへ見えずかき曇り比良の高嶺の夕立の空](大江戸倭歌;夏616/峰夕立)
- J1169 磯女(いそじょ・岩下いわした) ? - ? 江後期;歌人、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [降り積る雪になびきて枯蘆も一けしきある難波江の浦](大江戸倭歌;冬1297/浦雪)
- 磯次郎(いそじろう・神保) → 立雄(たつお・神保じんぼ、国学者) R 2 6 5 6
 磯次郎(いそじろう・殿村/米屋) → 茂濟(しげまさ・殿村とのむら、米穀商/歌人) C 2 1 9 8
 五十杵園(五十杉園いそすぎえん) → 忠胤(ただたね・石丸いしまる/藤原、神職/歌) V 2 6 6 1
- C1142 五十輔(いそすけ・五十いそじ) ? - ? 大阪歌舞伎作者:1774小川吉太郎座/76嵐七三郎座;
 奈河亀輔の二枚目作者、「和訓水滸伝」「伽羅先代萩」「南朝嫁入始」「呼子鳥班女逢義」著
 五十瀬の屋(いそせのや) → 春門(はるかど・三村、名主/画・狂歌) G 3 6 2 0
- C1143 一十竹(いそたけ/いそちく) ? - ? 江戸の富裕な町人/俳人:其角門、
 1697其角「末う若葉」入、「延命冠者・千々之丞」編、1702轍士「花見車」1句入、
 [ひつかりといなづまひとつうしろから](花見車;189)
- B1107 石足(いそたり・石川朝臣いしかわのあそみ/本姓;蘇我、安丸男)667-729⁶³ 奈良期廷臣;708河内守、
 717治部卿、720左大弁/721大宰大貳/729権参議/従三位、詩人;懐風藻40、
 年足としたり・豊成の父
- B1108 石足(いそたり・門部かどべ) ? - ? 万葉三期歌人845、568左注、
 730年旅人の梅花宴参加;筑前掾、
 [鶯の待ちかてにせし梅が花散らずありこそ思ふ子が為](万葉;845/梅花宴)
- B1109 磯足(いそたり・加藤かとう、敏光男/本姓藤原)1747-1809⁶³ 尾張中島郡起宿本陣の主人、
 儒;細井平洲門、国学者;田中道磨/本居宣長/本居春庭門、歌人、
 「時雨日記」「磯のより藻」「磯足集」/1805「磯足のものがたり」、「しのぶ草」「石戦録」、
 「土佐日記」「不肖僂倅記」「磊石句集」「三家類題抄」「加藤磯足書簡」著、
 本居大平「八十浦の玉」中巻;3首入、
 [梓弓春立ちしより朝にけに來鳴く鶯きけどあかぬかも](八十浦;468/鶯)
 [磯足(;名)の通称/号]通称;梅之助/要治郎/右衛門七/寿作、
 別号;河乃辺乃翁かわのべのおきな/五十足いそたり/石足いそたり/磊石らいせき、法号;貞西
- 五十槻(いそつき・古森) → 厚茂(あつしげ・古森こもり/秦/河崎、神職/歌) H 1 0 5 1
 五十恒(いそつね・細木) → 瑞枝(みずえ・細木ほそぎ、庄屋/農政/歌) 4 1 9 0
 五十連(いそつら・先光) → 清風(きよかぜ・先光さきみつ、神職/歌人) U 1 6 4 1
 磯堂(いそどう) → 大秀(おおひで・田中たなか、国学者) 1 4 0 6
 磯寅(いそとら・立花/黒田) → 増熊(ますくま・黒田/立花、藩家老/歌) I 4 0 9 7
- K1105 磯名(いそな・大塚おつか、旧姓;武田)1830-1911⁸² 周防岩国の国学・歌;熊谷千邦ちくに門
 [磯名(;名)の通称/号]通称;弥蔵/弥兵衛、号;泉翁
 磯波翁(いそなみおう・牧村/岡田) → 磐斎(ばんさい・岡田/牧村、神道家) H 3 6 6 8
 石上散人(いそのかみさんじん) → 宣長(のりなが・本居、国学者) 3 5 2 4

- 石上乙麻呂妻(いそのかみのおとまるのつま) → 乙麻呂妻(おとまるのつま) C 1 4 0 3
- B1110 石上卿(いそのかみのまへつきみ) ? - ? 万葉集;三287、万葉二〜三期歌人、
[ここに於て家やも何処いづく白雲のたなびく山を越えて来にけり]、
(万葉;287/志賀行幸の従駕歌;
702[大宝2]持統上皇御幸or717[養老元]9月元正天皇行幸)
三説あり
→ 麻呂(まろ) 4 0 3 4
→ 乙麻呂(おとまる) 1 4 2 2
→ 豊庭(とよむ) S 3 1 5 7
- 石上尚古(いそのかみひさふる) → 嵩振(たかふる・牧まき、藩士/歌人) N 2 6 1 6
- F1188 磯の子(いそのこ;通称・岩下いわした、号;翠柳)?-? 江戸品川新宿歌人・絵師、1860「秩父順礼の記」著、
娘岩下翠江齋[菊泉]も絵師
- F1189 磯之進(いそのしん;通称・白井しらい守静、字;徳方/号;赤城山人)?-? 江後期上州高崎藩士、
藩命で銚子漂着の清人を長崎に護送、1807「長崎紀行」、「長崎行役船中日記」著
- K1198 磯禪師(いそのぜんじ・磯野禪尼)?- ? 平安末期の白拍子、大和磯野or讃岐小磯の生、
京で舞妓;藤原通憲に男舞を修得(徒然草225段)、静御前(義経妾)の母;子に白拍子を教授、
多くの舞妓を抱え貴族の邸に派遣(貴嶺問答)、1185兄に攻められ源義経が都落ち;
翌年1186(文治2)磯禪師と静は鎌倉に護送/その宿舎で御家人達に舞を披露、
静の出産した男子を頼朝が殺害を命ず;子を離さない静から母が取上げ安達清常に渡す、
男子は由比ヶ浜に遺棄される、北条政子により母子は帰京;母子は大和磯野に住すという
五十之助(磯之助いそのすけ・久松) → 祐之(すけゆき・久松、幕臣/歌人) D 2 3 2 2
五十槻舎(いそのつきや → いつきのや) → 久胤(ひさたね・原、歌人) B 3 7 3 2
磯の舎(いそのや) → 安材(やすき・平松ひらまつ、商家/歌人) G 4 5 4 9
- D1150 五十八(いそはち・若杉わかすぎ) 1748-1805 58歳 西洋画家、長崎系
磯部(磯辺いそべ・相州そうしゅう) → 柏琳(はくりん・仙客亭、戯作者) E 3 6 1 2
五十秀恒(五十穂津稲いそほつね・細木) → 瑞枝(みづえ・細木ほそぎ、庄屋/農政/歌) 4 1 9 0
五十馬(いそま・落合) → 直言(なおのぶ・落合おちあい、国学/政変参画) L 3 2 5 6
磯前家(いそまえや) → 長柄(ながら・照井てるい/田村、医者/神職/国学) G 3 2 6 0
- 1115 磯丸(いそまる・糟谷かすや、糟谷新次郎男/本姓;伊良児いらご) 1764-1848 85 三河渥美郡伊良湖村の漁夫、
31歳の時父没/母も長い病で30歳過ぎまで読書できず/伊良湖神社日参し歌に魅了、
35歳にして歌道を志す/国学・歌;井本常蔭/芝山持豊/新見正路門、1814頃から諸国歴遊、
「無筆の歌詠み」と称され奔放純朴な歌が庶民に愛される、生涯で数万首を詠ず、
「草枕夢路の名残」「磯丸四十八歳の和歌」「磯丸郭公百首」、遺稿「磯の玉藻」著、
まじない歌が厄除に利用され、生家に厄除の磯丸霊神祠が建立;現在伊良湖社境内に存す、
[夏ころもきてもみよかしいらご崎すずしきなみのよるの月かげ](歌碑)
[磯丸の別名/通称]別名;貞良/磯磨、通称;新之丞/半之丞、法号;歌貞良道居士
五十丸(いそまる・東久世) → 通積(みちつむ・東久世ひがくぜ、廷臣/神道) K 4 1 2 3
- F1190 磯磨(いそまる・大枝おおえ) ? - ? 平安初期詩人、経国集入
磯廻舎(いそみや) → 貫斎(かんさい・伊東いとう、蘭医/幕府医) Q 1 5 6 9
- B1111 石守(いそもり・三野連みののむらじ)?- ? 万葉三期歌2首、730大伴旅人上京時の従者・3890/1644:梅歌
[我わが背子を我あが松原よ見渡せば海人娘子あまおとめども玉藻刈る見ゆ](万葉;十七3890)
- F1191 意尊(いそん、蔵人君) ? - ? 1126存 平安後期僧;法師、母も歌人(→意尊法師母)、
歌人;1116右近衛中将雅定歌合参加、金葉集初度本入(;金葉解12)、
袋草紙に鶏冠木かへでのきの逸話・金葉集に光清作や読人不知にされた逸話など入、
[玉札たまざきをかけし折にやかりがねに春帰りと契りそめけん]、
(金葉;橋本公夏本拾遺;12/詞書;雅家卿家歌合に帰雁をよめる/続詞花集;33)
- E1112 韃村(いそん・木下きのした業広なりひろ/字;子勤、衛門男) 1805-67 63 肥後菊池郡今村儒者;桑満伯順門、
学問優秀につき熊本藩士;中小姓/時習館助教、詩、「山窓閑話」「鶴鳴私記」「犀潭文」、
「犀潭先生文」「宕陰犀潭二家文鈔」「韃村木下先生文章」「韃村遺稿」「韃村拾遺」、
[韃村の通称/別号] 通称;宇太郎/眞太郎、別号;犀潭さいたん/澹翁、梅里ばいの兄

- 為邨(いそん・ためむら?・冷泉)→ 為邦(ためくに・冷泉いぜい、歌人) G 2 6 7 6
 為村(いそん・冷泉) → 為村(ためむら・冷泉、廷臣/歌人) 2 6 7 9
 為尊親王(いそんしんのう) → 為尊親王(ためたかしんのう、冷泉の皇子、歌) 2 6 6 3
- K1191 意尊法師母(いそんほうしのはは) ?- ? 平安後期;法師意尊(蔵人君)の母、
 歌人;1165成立[続詞花集]入、
 [あひかたらふ人の まぎるることどもありてなんえ参り来ぬ 忘れぬるとや思ふ、
 といへりければ、
 わすれずといふにつけてぞなかなかにとはぬ日数の積るとはしる](続詞花;恋646)
- J1148 意袋(いたい・長沢ながさわ) ? - ? 江戸前期上方の俳人、1678西鶴「物種集」入、
 [渡せる橋や伏見板橋](物種集/小刀の白きは霜の消え初めて、
 新古;冬620家持;鶴の渡せる橋に置く霜の白きを見れば夜ぞ更けにける)
- 章太(いたい・佐藤) → 貞寿(さだより・佐藤/宇多、藩士/詩歌) C 2 0 6 9
 維泰(いたい/これやす・戸塚)→ 静海(せいかい・戸塚、蘭医/幕府奥医) H 2 4 7 0
 為泰(いたい・冷泉) → 為泰(ためやす・冷泉、廷臣/歌人) H 2 6 6 2
- F1192 為大(いだい・別号;杉堂) ? - ? 江戸後期俳人;4世沾山門、1804「俳諧参語」百化と共編
 為大(いだい・奈良) → 養斎(ようさい・奈良なら/青山、藩士/儒者) 4 7 9 7
- K1156 致(いたす・秦はた、字;叔翁/号;蘭洲) 1818-70⁵³ 加賀金沢の商家?/国学者、
 [致(;名)の通称] 和泉屋兵右衛門
 伊丹屋新兵衛(いたみやしんべえ)→ 新兵衛(しんべえ・伊丹屋いたみや、書肆) P 2 2 8 0
 板屋一助(いたやのいちすけ) → 壹助(一助いちすけ・津田、随筆家) G 1 1 2 9
 板屋常恒(いたやのつねづね) → 常恒(つねづね・板屋/山村吉衛門、狂歌) C 2 9 5 4
 猪太夫(伊太夫いだゆう・熊沢/南条)→ 淡庵(澹庵たんあん・熊沢/南条、藩士/儒/俳人) 2 6 8 7
 猪太夫(伊大夫いだゆう・高島)→ 慶成(よしなり・高島たかばたけ、藩士/儒者) F 4 7 3 9
 伊大夫(いだゆう・田中) → 久次(きゅうじ・田中たなか、俳人) C 1 6 0 4
 伊太夫(いだゆう・高橋/鮎沢)→ 国維(くにつな・鮎沢あゆさわ、藩士) C 1 7 9 0
 伊太夫(いだゆう・野崎) → 雅伯(まさり・野崎のさき、藩士/郷土史) G 4 0 0 6
 伊太夫(いだゆう・野崎) → 雅明(まさあき・野崎、雅伯男/藩士/地誌) B 4 0 0 0
 伊太夫(いだゆう・太田) → 元之(もとゆき・太田おた、藩士/国学者) J 4 4 5 7
 亥太郎(いたろう・竜) → 国彝(くにつね・竜たつ、藩儒/歌人) E 1 7 3 1
 猪太郎(いたろう・奈良) → 孝斎(こうさい・奈良なら、儒者/詩人) I 1 9 9 7
 猪太郎(いたろう・高崎) → 五六(ごろく・高崎たかさき、藩士/政治家) Q 1 9 9 6
- D1151 至(いたる・源みなもと、定さだむ[815-863]男)?-? 平安期廷臣;右京大夫/従四上、
 挙こぞの父/順したごうの祖父、色好み:「伊勢物語」に逸話
- J1172 至(いたる・) ? - ? 江後期;歌人、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [降り積る雪にこのみのうもれつつあさりわびてや猿まらなくらん](大江戸倭;冬1351)
- 達(いたる・小野) → 招月(しょうげつ・小野おの、農業/詩文) M 2 1 2 4
 伊太郎(猪太郎いたろう・林)→ 鶴梁(かりょう・林、幕臣/儒者) E 1 5 8 0
 伊太郎(いたろう・米屋) → 茂清(しげきよ・殿村ともむら、商家/歌人) N 2 1 7 9
 伊太郎(いたろう・齋藤) → 多須久(たすく・齋藤さいとう、神職/国学) X 2 6 3 2
 伊太郎(いたろう・間野) → 慶明(よしあき・間野まの/小野、庄屋/歌) P 4 7 0 3
- E1169 意丹(いたん・長岡ながおか、字;誠甫) 1620-? 1696(元禄9/77歳)存 京の医者/歌人、
 歌;1722松堅[倭詞五十人一首]入、
 [ときしもあれ千世の契りも名にし負ふ此の長月に咲ける白菊]、
 (倭詞五十人一首;10/菊契多秋、長月に咲く長寿の象徴の菊)、
 [意丹(;号)の号]規矩堂/菊堂/鞠堂
- K1137 都(いち・田村たむら、通称;随翁) 1805-1845⁴¹ 加賀河北郡の国学者/金沢に住
 いち(壹・成瀬/大高坂)→ 維佐子(いさこ・大高坂おたかさか、和漢学/女訓書) 1 1 8 4
 一(いち/はじめ・赤沢) → 一堂(いちどう・赤沢あかさか、儒者/詩人) E 1 1 1 5
 一(いち・渡辺) → 一(かず・渡辺、藩士/和算家) C 1 5 1 4

- 一 (いち・今泉) → 恒丸(つねまる・今泉いまいずみ、俳人) D 2 9 8 0
一 (いち・田淵/小林) → 順堂(じゅんどう・小林こぼやし/田淵、医者) L 2 1 6 0
一 (いち・河本) → 正安(まさやす・河本/川本、医者詩文) I 4 0 1 4
一 (いち・伊尾喜/沢田) → 静修(せいしゅう・沢田/伊尾喜、藩儒) I 2 4 6 4
一 (いち・荒木) → 千洲(せんしゅう・荒木あらかき、鑑定家) M 2 4 4 6
一 (いち→はじめ・石川) → 貞幹(さだみき・石川いしかわ/源、尊攘) N 2 0 8 5
一 (いち・加島) → 一 (はじめ・加島かしま、国学者) J 3 6 8 7
一 (いち・片山) → 豊樹(とよき・片山かたやま、神職/国学) U 3 1 7 5
市 (いち・平野) → 市女(いちじよ/いちによ・平野ひらの、俳人) J 1 1 3 6
市 (いち・お市・服部) → 二見(ふみ・服部はっとり、歌人) I 3 8 6 3
壹 (いち・人見) → 卜幽軒(ぼくゆうけん・人見/小野/野、儒者) E 3 9 0 2
惟治 (いち・阿蘇) → 惟治(これはる・阿蘇/宇治、神職/勤王) O 1 9 7 4
為智 (いち→ためとも・池田) → 治道(はるみち・池田いけだ/源/松平、藩主) J 3 6 3 6
F1193 一阿 (いちあ・立川たつかわ、一掬庵/如意庵)?-? 江戸の俳人・3世蓼和門、1819「あたか」編、
「袖菓」「萩まつり」編
一阿 (いちあ・青山) → 知親(ともちか・青山、藩士/歌人) P 3 1 7 8
一握 (いちあく・斎藤) → 中立(ちゅうりつ・斎藤さいとう、商家/和算) G 2 8 9 5
一握堂 (いちあくどう) → 中立(ちゅうりつ・斎藤さいとう、商家/和算) G 2 8 9 5
一阿道人 (いちあどうじん; 法号) → 四溟(しめい・岡部おかべ、幕臣/漢学/詩) F 2 1 8 6
D1152 一安 (いちあん・中村なかむら) ?-? 俳人:1669季吟「百五十番俳諧発句合」参加
F1194 一安 (いちあん) ?-? 姫路?の俳人:1692才麿「椎の葉」1句入、
[文箱ふみばこやひらかぬ中うちは菴菊つぼみきく] (椎の葉;135/一度開くと久敷)
K1197 一安 (いちあん・中嶋なかじま) ?-? 江中期;歌人、伝不詳、
1722頃内海頭糺[倭譚五十人一首追加]入、
[春も今朝満ち来る潮のいやましに二ふたたびあまつ空はかすみて]、
(五十人一首追加;年の内に立春ありし元日/立春と元日の二度の霞)
F1195 一庵 (いちあん・高橋たかはし、名;環/群、字;仁輔) 1794-1838 45歳 陸前仙台の医家の生、儒学を志す、
儒:江戸で亀田鵬斎門、上総東金で子弟教育;10余年経史を講義、
「敬業堂詩文集」「撃蛇笏」「南総十記」「遊奥鈍吟」著、
[一庵(;号)の別号] 逸庵/太瘦生/復然堂逸士/敬業堂
一安 (いちあん・伴ばん) → 道雪(どうせつ・伴ばん、弓術家) G 3 1 0 5
一安 (いちあん・内藤) → 長就(ながなり・内藤ないとう、幕臣/和学) O 3 2 0 1
一安 (いちあん・井沢) → 榛軒(しんけん・井沢いざわ、蘭軒男/医者) O 2 2 1 5
一庵 (いちあん・一麟) → 一麟(いちりん;法諱・天祥、臨濟僧) B 1 1 3 0
一庵 (いちあん・板倉) → 塞馬(さいば・板倉いたくら、俳人) B 2 0 0 6
一庵 (いちあん・秋元) → 公英(きみひで・秋元あきもと、医者/詩歌文) T 1 6 3 8
一庵 (いちあん・小池) → 恭(たかし・小池こいけ、藩医/国学) W 2 6 9 6
一菴 (いちあん・) → 躬弦(みつる・安田、藩医/国学/歌人) F 4 1 2 8
一安斎 (いちあんさい) → 宗筋(そうせつ;法名・観世大夫7世/元忠) C 2 5 3 4
一安子 (いちあんし) → 亙休(ぎきゅう・中林なかばやし、俳人) 1 6 9 1
D1153 一意 (いちい・松木まつき) ?-? 伊賀上野俳人、1672宗房芭蕉「貝おほひ」入、
[鶯の玉子ぢやとおしやるほとゝぎす] (貝おほひ;十一番右/時鳥の託卵/小唄の台詞)
J1178 樞 (いちい・為貞きためさだ、名;兄久/通称;山城/伊勢守) 1824-94 71 美作久米郡の神職、弟久の兄、
久米郡倭文郷桑村の倭文しどり神社神主/倭文東村の貴布禰神社神官、
歌;平賀元義門、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入(弟の弟久と共に入集)
一以 (いちい;法諱) → 大道だいどう;道号・一以、天台/臨濟僧) K 2 6 8 1
一衣 (いちい・林) → 出雲寺和泉掾(3世いずみいづみのじよう、林はやし、書肆) F 1 1 7 5
一為 (いちい・安岡) → 花芳(かほう・安岡やすおか、真言僧/国学) W 1 5 0 6
一葦 (いちい・黒田) → 溥整(ひろなり・黒田/加藤、家老/連歌) G 3 7 7 5
一葦 (いちい・宇野) → 輔崇(すけたか・宇野うの、藩士/国学) I 2 3 1 1

- 一葦軒(いちいけん) → 可休(かきゅう・可賀田、鏡師/俳人) B 1 5 2 9
- B1114 櫟子(いちいこ/いちい・田部忌寸たなべのみき)?-? 渡来系・太宰府の役人、
万葉二期歌人493-5(:舎人吉年と相聞);
[493 置きて行かば妹恋ひむかも しきたへの黒髪敷きて長きこの夜を]
参考 → 吉年(きね・舎人、官女) B 1 6 6 4
- 一以斎(いちいさい;号) → 了尊(りょうそん;法諱、本願寺派僧/記録) I 4 9 7 4
- 一位様(いちいさま) → 治室(はるとみ・徳川、藩主/雅楽) G 3 6 6 0
- 一位様(いちいさま) → 寔子(ただこ・近衛このえ/島津、広大院/家齊室) U 2 6 3 6
- 一々斎(いちいちさい) → 治郷(はるさと・松平、藩主/茶道) G 3 6 3 8
- 一々堂(いちいちどう) → 重信(しげのぶ・川島かわしま、絵師) C 2 1 7 2
- 一位の局(いちいのつぼね) → 慶子(よしこ・中山なかやま、明治天皇生母/歌) N 4 7 2 9
- 一隠(いちいん) → 道雲(どううん・池永、書/篆刻) B 3 1 2 7
- 一胤(いちいん・塩田) → 一胤(かずたね・塩田しおだ、和算家) M 1 5 2 7
- 一印(いちいん・晁歆房) → 晁歆(ぎょうかん;法諱、修験僧) N 1 6 5 7
- I1183 一雨(いちう) ? - ? 安藝竹原の俳人;
1698風国「泊船集」/1702吾仲「柿表紙中」入
- F1196 一鳥(いちう・林はやし、名;忠久ただひさ、福田ふくだ正次男)1680-176889 岩代の医者;田中元東門、
一時師の代行;変名を使用、のち林と改姓、長崎で蘭方を修得、1730山名豊就に招聘;
大坂城内に流行の脚気を食餌治療;名声を得る、大阪住;書画/歌に通ず、
「客中集」「腫病辨」「腫病工案」著、
[一鳥(;号)の通称/別号/変名]通称;左膳、別号;鳥翁、一時変名;田中元清、法号;曹源院
- C1144 一雨(いちう・夏目なつめ、名;宗成)?-? 江中期江戸蔵前の札差業/俳人、
祇明(1748没)の弟、成美(1749生)の父
- F1197 一字(いちう・増田ますだ) ? - ? 江中期大坂上難波の音曲家、
1752「大成小謡和合楽」著、「琴曲糸のしほり」著
- F1198 一字(いちう、露柱庵) ? - ? 江戸中期越後新潟の僧、俳人・支考門、
1812「芋頭いもがしら」編
- 一雨(いちう;号) → 豪寛(ごうかん;法諱、天台僧/狂句) E 1 9 9 3
- 一雨庵(いちうあん) → 悟心(ごしん;道号・元明;法諱、黄檗僧) D 1 9 0 2
- 一雨院(いちういん) → 日潤(にちじゆん・雪川とうせん、日蓮僧) C 3 3 2 8
- 一雨院(いちういん) → 貫忠(かんちゆう;法諱・愛宕あたご/堀田、天台僧) T 1 5 4 3
- 一雨軒(いちうけん) → 頼筐(よりゆき・有馬ありま、藩主/和算家) J 4 7 9 3
- 一鳥軒(いちうけん) → 正村(せいそん・浅井、俳人) C 2 4 5 5
- 一雨堂(いちうどう) → 亮潤(りょうにん;法諱、天台僧/大僧正) J 4 9 1 8
- 一字道人(いちうどうじん) → 大庵(だいりゆう;法諱・光海;字、真言律僧) L 2 6 1 9
- K1182 一雲(いちうん;号・天見あまみ)?-? 江前期;上方の医者、歌人;
1688浅井忠能[難波捨草]入、
[名もしるしをだえの橋にいく春を結びそゆらん青柳の糸]、
(難波捨草;82/橋上柳/緒絶橋は陸奥大崎の歌枕)
- F1199 一雲(いちうん;通称・小田切おだぎり/初姓;長谷川はせがわ、名;石英)1630-170677 岩代会津の剣術家、
江戸で針谷夕雲門/無住心剣流を修得、江戸で道場を開く、
1686「天真独露」、「夕雲流剣術書」「剣法夕雲先生相伝」著、兄;長谷川玄養、
[一雲の号] 怒庵/空鈍
- G1100 一雲(いちうん・伊能いとう、名;由虎、由田男)1777-185478 江戸槍術家、一節切ひとよざり:一思庵門/名手、
牛込宝蔵院住、1805「糸竹古今集」、22「糸竹五色貝」著、「指田流一節切之伝」編、
[一雲(;号)の別号] 一雲斎/無孔笛翁
- 一雲(いちうん・堤) → 正敏(まさとし・堤つみ、儒者/禅学) E 4 0 5 5
- 一雲(いちうん;字) → 竜乗(りゅうじよう;法諱・一雲、真言僧) E 4 9 7 1
- 一雲軒(いちうんけん) → 芳泉(ほうせん・永良ながら/赤松、故実家) C 3 9 0 8
- 一雲斎(いちうんさい) → 国長(くになが・歌川うたがわ、絵師) D 1 7 0 3

- 一雲斎(いちうんさい) → 国久(2世くにひさ・歌川うたがわ、絵師) D 1 7 1 3
 一雲斎(いちうんさい) → 貞幸(さだゆき・歌川うたがわ、絵師) K 2 0 1 5
 一雲山人(いちうんさんじん) → 行業(ゆきなり・黒沢くろさわ、藩士/狂歌) G 4 6 8 0
 一慧(いちえ; 初法諱) → 永琢(ようたく; 法諱・盤珪、臨濟僧) B 4 7 4 4
- J1134 一永(いちえい・水野みずの) ? - ? 江前期上方の俳人、
 1673西鶴「生玉万句」第六相撲発句/女郎花脇句等入、
 [相撲場も神さび土の俵かな](生玉万句; 相撲発句/高津神社の9月10日秋祭神前相撲)
- J1142 一詠(いちえい・曲淵まがりぶち) ? - ? 江前期上方の俳人、
 1673西鶴「生玉万句」第七月発句入、
 [サシニ曰く然は一舂の月見酒](月発句/サシ; 謡曲クリとクセの間のシテの心中述懐)
- C1145 一栄(いちえい・高野たかの) ? - 1725 出羽大石田俳人、1685清風「稲莖」「おくれ双六」入、
 1689芭蕉を迎え自邸で歌仙興行; 「さみだれをあつめてすゞしもがみ川; 芭蕉」の脇句;
 [岸にほたるを繋ぐ舟杭ふなぐひ]・以下8句入
- G1101 一栄(いちえい・伊藤いとう) ? - ? 越後新潟の俳人: 1690言水「新撰都曲みやこぶり」入、
 [舟消えて鷗見付けし雪間かな](都曲; 232)
- G1102 一永(いちえい・盛もり/さかり、一葉軒) ?-? 俳人、1678信徳興行「三吟三百韻」(信徳・桃青・信章)所持;
 没後息子永我が筐底から発見; 「三人張」編
 一衛(いちえい・花垣/北原) → 一衛(かざえ・花垣はながき/北原、国学者) M 1 5 1 1
 一衛(いちえい・甲斐) → 隆義(たかよし・甲斐かい、和算家) N 2 6 7 8
 一英斎(いちえいさい・歌川) → 国景(くにかげ・歌川うたがわ、絵師) C 1 7 6 7
 一英斎(一栄斎いちえいさい・歌川) → 芳艶(初世よしつや・歌川/甲胡、絵師) E 4 7 7 5
 一瑛斎(いちえいさい・歌川) → 豊国(2世とよくに・歌川うたがわ、絵師) R 3 1 1 4
 一益(いちえき・平井) → 未両(みりょう・平井、藩士/俳人) 4 1 4 8
- D1154 市右衛門(いちえもん・中野なかの、道伴/市兵衛) ?-? 儒者; 玄昌[1555-1620]門、17c初: 京書肆の元祖、
 小左衛門の兄
- G1103 市右衛門(いちえもん・三浦みづら) 1607-1669 63歳 水戸藩士; 1622出仕; 松平頼重側近、
 1642高松移封に随従、奥向隠密方として変名し転居、64中寄合/足軽大将、
 1669「御三代様江御奉公仕候覚書」著、
 [市右衛門(通称)の変名] 押田三之丞/田中与一右衛門/田村庄兵衛
- G1104 市右衛門(いちえもん; 通称・奈良屋; 屋号) ?-? 江中期江戸日本橋町支配(代々市右衛門を名乗る)、
 1759「奈良屋書上」著
 一右衛門(いちえもん・花垣) → 一衛(かざえ・花垣はながき/北原、国学者) M 1 5 1 1
 一右衛門(いちえもん・前川) → 虚舟(きょしゅう・前川まえかわ、篆刻家) P 1 6 6 5
 市右衛門(いちえもん・浜) → 式之(しきし・浜はま、藩家臣/俳人) B 2 1 4 8
 市右衛門(いちえもん・塚谷屋) → 輪雪(りんせつ・杉山、商家/俳人) K 4 9 5 6
 市右衛門(いちえもん・長谷川) → 恒忠(つねただ・長谷川/橋、藩士/兵学) C 2 9 4 2
 市右衛門(いちえもん・柏原) → 幽静(ゆうせい・柏原/橋、藩士/剣術/詩歌) C 4 6 9 7
 市右衛門(いちえもん・関屋) → 政知(まさとも・関屋せきや、藩士/記録) E 4 0 6 8
 市右衛門(いちえもん・横井) → 立和(りゅうわ・横井よこい、藩士/俳人) F 4 9 9 1
 市右衛門(いちえもん・柴田) → 彦太郎(ひこたろう・菊屋、目薬商、歌人) 3 7 6 6
 市右衛門(いちえもん・富田) → 三郎兵衛(3世さぶろべえ・竹本、浄瑠璃・歌舞伎作者) D 2 0 8 9
 市右衛門(いちえもん・山口) → 素堂(初世そどう・山口、商家/俳人) 2 5 2 6
 市右衛門(いちえもん・鷹見) → 星臯(星岡せいこう・鷹見、藩士/儒/詩) B 2 4 4 5
 市右衛門(2代いちえもん・十一屋) → 重義(しげよし・羽間はさま、質商/歌人) T 2 1 1 1
 市右衛門(いちえもん・松坂屋) → 左達(さたつ・松坂屋、商家/豪商) I 2 0 5 3
 市右衛門(いちえもん・露木) → 府尺(ふしやく・露木つゆき、俳人) C 3 8 6 7
 市右衛門(いちえもん・小島) → 山陽(さんよう・芝の屋、狂歌) G 2 0 0 9
 市右衛門(いちえもん・中川) → 景山(けいざん・中川ながわ、藩士/詩歌) F 1 8 7 8
 市右衛門(いちえもん・石井) → 盛時(もりとき・石井いひ、幕臣、記録) F 4 4 9 1

市右衛門(いちえもん・吉田)→ 宗敏(むねとし・吉田よしだ、里正/紀行) B 4 2 8 5
 市右衛門(いちえもん・蛭子屋)→ 千楯(ちたて・城戸/大江、書肆/国学) 2 8 1 3
 市右衛門(いちえもん・加村屋)→ 古博(ひさひろ・清水しみず、国学/歌) L 3 7 9 7
 市右衛門(いちえもん・城戸)→ 千屯(ちむら・城戸/大江、千楯男/国学) F 2 8 4 6
 市右衛門(いちえもん・北田)→ 忠之丞(ちゅうのじょう・北田、藩士/農政) G 2 8 7 9
 市右衛門(いちえもん・栗田)→ 眞蒼(ますげ・ますが・栗田くりた、国学者) I 4 0 9 8
 市右衛門(いちえもん・松田)→ 信一(のぶかず・松田まつだ、国学者) K 3 5 0 1
 市右衛門(いちえもん・伊藤)→ 逸衛(はやえ・伊藤いとう、書家/歌人) J 3 6 6 5
 市右衛門(いちえもん・今村)→ 玉豊(たまとよ・今村いまむら、絵師/歌人) V 2 6 7 1
 市右衛門(いちえもん・塚本)→ 正穂(まさほ・塚本つかもと、宿駅/国学) Q 4 0 9 3
 市右衛門(いちえもん・小幡)→ 綱重(つなしげ・小幡おぼた、庄屋/国学) F 2 9 3 7
 市右衛門(いちえもん・大泉)→ 歌寿彦(かすひこ・大泉おおいずみ、藩士/歌人) T 1 5 9 0

G1105 老演(いちえん/いつえん; 法諱、俗名; 大中臣おおなかとみ正棟、大中臣智治麻呂男) 803-867 山城右京の生、
 廷臣; 弘仁810-824頃嵯峨天皇に出仕; 内舎人、835剃髮; 薬師寺戒明門/具足戒を受ける、
 真言密教; 東大寺真如親王門/河内に相応寺を創建/京鴨川西岸に感応寺創建、
 865(貞観7)藤原良房を加持; 治癒の功で権僧正・超昇寺座主に就任; 固辞するも許されず、
 権僧正法印大和尚位となる、「仁王経入疏」註、「仁王経序註」著、良舟・良楸の弟
 [老演(法諱)の通称/諡号]通称; 内舎人入道、諡号; 慈济

G1106 一畑(いちえん・宇野うの) ? - ? 江前期金沢の俳人、1676「菊酒」編(独吟百韻入)、
 [爰こそ初瀬申しにくひが花盛] (独吟百韻発句; 菊酒入)、
 1683友琴編「金沢五吟」連句の発句入(友琴・柳糸・正勝・一風と)

1177 一焉(いちえん) ? - ? 江前期若狭小浜俳人、前句付作者、
 1688「若狭千句」/89言水「前後園」入

一円(いちえん; 号) → 無住(むじゅう; 道号・道暁; 法諱、臨濟僧/沙石集) 4 2 0 5
 一円(いちえん) → 賢爾(けんに; 法諱・一円; 字、真言学匠) M 1 8 0 5
 一円(いちえん; 号) → 為明(ためあき・竹内たけうち/岩田、浄土僧/歌) Y 2 6 0 9
 一円院(いちえんいん) → 日脱(にちだつ; 法諱・空雅、日蓮僧) C 3 3 8 2
 一円斎(いちえんさい) → 季東(りとう・鈴木すずき、里長/俳人) C 4 9 2 9
 一円斎(いちえんさい) → 国丸(くにまる・歌川うたがわ、絵師) 1 7 9 3
 一円斎(いちえんさい) → 国曆(こくれき・初世くにまる・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 9 5
 一燕斎(いちえんさい) → 芳鳥女(よしとりじよ・歌川うたがわ、絵師) F 4 7 1 2
 一円窓(いちえんそう) → 柳居(りゅうきよ・佐久間、俳人) D 4 9 3 3
 一円堂(いちえんどう) → 為角(いかく・安井、俳人) C 1 1 1 4
 一円房(いちえんぼう・道暁(どうぎょう) → 無住(むじゅう・道暁) 4 2 0 4

G1108 一鷗(いちおう・今村いまむら、名; 節/字; 直方) ?-? 江中期享保1716-36頃安藝広島(安芸)の医者; 小児科、
 「痘疹濟世要録」著

K1159 一鷗(いちおう・平瀬ひらせ、名; 武明たけあき) ?-1741 薩摩鹿児島藩士、茶人/和学、
 息子3男; 西郷吉兵衛(西郷九兵衛の養子)、
 [一鷗(号)の通称]清左衛門/治右衛門

一鷗(いちおう・西) → 玄周(げんしゅう・西にし、藩士/医者) J 1 8 5 5
 一鷗(いちおう・小島) → 嘉木(よしき・小島こじま/水原、陪臣/歌人) M 4 7 7 3
 一漚(いちおう; 法号) → 正則(まさのり・太田おた、幕臣) G 4 0 0 1
 一王(いちおう・東南院) → 東南院一王(とうなんいんのいちおう、童/歌人) X 3 1 2 5
 一翁(いちおう) → 玄陳(げんちん・里村、連歌師/画) 1 8 2 6
 一翁(いちおう) → 玄心(げんしん・一翁、臨濟僧) C 1 8 3 3
 一翁(いちおう・大岡) → 春卜(しゅんぼく・大岡/藤原/狩野、絵師) K 2 1 4 9
 一翁(いちおう・慶徳) → 家義(いえよし・慶徳けいとく/秦、歌人) K 1 1 2 4
 一翁(いちおう) → 幸和(こうわ・江崎、医者/俳人) F 1 9 4 5
 一翁(いちおう・千) → 宗守(そうしゅう・千せん、武者小路流茶人) B 2 5 7 7
 一翁(いちおう・永井) → 星渚(せいしよ・永井/大江、漢学者) C 2 4 1 1

- 一翁(いちおう・六人部) → 是香(よしか・六人部むとべ、国学/神職/歌) 4 7 0 4
一翁(いちおう・志村) → 識行(のりゆき・志村むら、藩士/文筆) G 3 5 1 2
一翁(いちおう・吉田) → 澹軒(たんけん・吉田よしだ、藩家老/財政) T 2 6 3 7
一翁(いちおう・榊原) → 守典(もりのり・榊原さかきばら/上田、儒者) G 4 4 2 5
一翁(いちおう・大久保) → 忠寛(ただひろ・大久保おおくぼ、一翁、幕臣) U 2 6 3 9
一桜(いちおう) → 俊英(としひで・天野、医者) N 3 1 5 1
一桜(いちおう) → 種昌(たねまさ・高力こうりき、藩士/文筆家) S 2 6 0 4
一桜(いちおう) → 栄信(えいしん・小松こまつ、僧職/国学) U 1 3 0 8
一鶯(いちおう・鈴木) → 鶯湖(がこ・鈴木すずき、絵師) L 1 5 5 6
一鶯斎(いちおうさい) → 芳梅(よしうめ・歌川、絵師) C 4 7 2 3
一鶯斎(いちおうさい) → 国周(くにちか・豊原/荒川、絵師) B 1 7 5 5
一鷗斎(いちおうさい) → 虚白(きよはく・柴田しばた、俳人) Q 1 6 1 6
一桜斎(いちおうさい・歌川) → 国景(くにかげ・歌川うたがわ、絵師) C 1 7 6 7
一応斎(いちおうさい・歌川) → 国次(くにつぐ・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 9 1
一翁斎(いちおうさい・歌川) → 国満(初世くにみつ・歌川うたがわ、絵師) D 1 7 2 4
一鶯斎(いちおうさい・歌川) → 芳梅(よしうめ・歌川うたがわ、絵師) C 4 7 2 3
一翁斎(いちおうさい・伊丹) → 宗朝(宗長そうちょう・伊丹いたみ、茶人) I 2 5 4 8
一漚斎(いちおうさい) → 米牛(べいぎゅう・中瀬なかせ、俳人/教育) 2 7 2 0
一漚子(いちおうし・東海) → 円月(えんげつ・中巖ちゆげん) 1 3 9 4
一鷗子(いちおうし;号) → 大虫(だいちゅう;道号・宗岑;法諱、臨濟僧) K 2 6 6 3
一桜井(いちおうせい) → 亀文(きぶん・松平/櫻井、城主/俳人) B 1 6 7 4
一桜井(いちおうせい) → 忠宝(ただとみ・松平、亀文男、藩主/俳人) Q 2 6 1 1
一翁全心(いちおうぜんしん;法号) → 氏兼(うじかね・一色/源、廷臣/歌) 1 2 2 7
一応亭(いちおうてい) → 光章(みつあき・桜井さくらい/桃沢、国学・歌) H 4 1 6 8
一応亭染子(いちおうていそめこ) → 染子(せんし・そめこ・一応亭、河南散人、談義本作者) F 2 4 6 8
G1109 一音(いちおん・養菊堂) ? - ? 播磨三木の俳人;才磨門/瓢水と交友、
1716-36頃「うしろひも」編
B1115 一音(いちおん/いっとん、法師)? - ? 上州妙義山僧/諸国遍歴/越後住/義仲寺幻住庵住、
俳人;涼袋門、蕪村/暁台らと交流、撰集「秋しりがほ」著、1774一鼠「瓜の実」判詞、
1776「左比志遠理さびしおり」編/1763涼袋「古今俳諧明題集」22句入
[一音の別号] 柴杖さいじょう/喝祖/三毒、嚏居士はなびのこじ
一音(いちおん→いっとん;法諱) → 仏海(ぶつかい;道号・一音、曹洞僧) H 3 8 3 1
一音(いちおん;字) → 顕証(顕性けんしょう;法諱・一音、真言僧) J 1 8 8 7
一音院(いちおんいん) → 日暁(にちぎょう;法諱・淵海、日蓮僧) B 3 3 4 0
一音院(いちおんいん) → 忠家(ただいえ・九条くじょう、廷臣/歌人) E 2 6 8 3
一音院撰政(いちおんいんのせつしょう) → 忠家(ただいえ・九条、廷臣/歌人) E 2 6 8 3
C1146 一鵝(いちが) ? - ? 俳人、1714湖十「二にきれ」に其角追悼句文
I1192 一河(いちが) ? - ? 江戸後期19c中葉安藝阿賀の俳人、
[また跡に咲苔あり榎うめの花](短冊)
一雅(いちが;初法諱) → 堯円(ぎょうえん法諱、阿野、真言僧) N 1 6 3 1
一賀(いちが・井上) → 頼圀(よりくに・井上、国学者/歌人) I 4 7 6 0
一賀(いちが・志賀) → 光胤(みつたね・志賀しが/中村、国学/神道) J 4 1 2 4
D1155 一鶚(いちがく・長崎居士)? - ? 漢学、1705「通俗南北朝軍談」訳
G1110 一峨(いちが・根本ねもと彦兵衛)?-1826 江戸俳人;元夢門、1792「蕉翁百回追遠集」編、
1812「なにふくろ」編、13百二「反古さがし」跋、「鶴の百韻芭蕉翁評解」著
[一峨の別号] 路斎/竹堂、今日庵こんにちあん3世/一志庵、屋号;伊勢屋
I1182 一峨(いちが・沖おき) 1796 - 1861or1855 江戸狩野派絵師;諸派の華麗な手法取得、
鳥取藩御用絵師/藩主池田慶行と交友、「四季草花図」著
一外(いちがい・蜷木) → 八衛(はちえ・蜷木になぎ、里正/国学) K 3 6 5 3
G1111 一学(いちがく・市川いちがわ、名;廷/緹、鶴鳴男/本姓;源) 1778-1858 儒者;昌平黌で修学、

上野高崎藩儒、兵学、書、幕命で松前福山城築城参画、江戸下谷兵学塾開、「築城上書」著、
[一学(；通称)の字/号]字；孟瑤、号；達齋/梅顛ばいてん、法号；光武院、松筠(敏齋)・

G1112 一岳(いちがく・大久保おおくほ好述/字；公睢/通称秀太郎、一丘[1806-1859]男)?-? 1854-64頃絵師、
江戸木挽町住、「諸侯登堂之図」画

G1113 一学(いちがく・鎌田かまた、柳泓りゅうおう[1754-1821]男)?-? 江後期期京の心学者、大口知常と親交、
「雲洞答問筆記」著

一鶚(いちがく・中立) → 中立(仲立ちゅうりつ・一鶚、臨濟僧) G 2 8 9 4
一学(いちがく・中泉) → 祐信(すけのぶ・中泉なかいずみ、藩儒) C 2 3 0 4
一学(いちがく・藤田) → 貞固(さだかた・藤田ふじた、藩士/武術/茶) P 2 0 8 7
一学(いちがく・神原) → 覚嘉(あきよし・神原かんばら、和算家) E 1 0 0 7
一学(いちがく・松井) → 政豊(まさとよ・松井まつい、医者/歌人) E 4 0 8 5
一学(いちがく・竹内) → 式部(しきぶ、竹内たけのうち、垂加神道家) B 2 1 5 4
一学(いちがく・奥瀬) → 清筋(清閑きよひろ・奥瀬おくせ、藩士/儒者) Q 1 6 2 3
一学(いちがく・菊池) → 魯齋(ろさい・菊池きくち、藩儒/家塾) B 5 2 5 1
一学(いちがく・狩野) → 梅春(ばいしゅん・狩野かのう、絵師) B 3 6 5 2
一学(いちがく・足代) → 立溪(りつがい・足代あじろ/度会、儒者) B 4 9 6 7
一学(いちがく・榊原) → 香山(こうざん・榊原さかきばら、故実家) J 1 9 2 5
一学(いちがく・松平) → 頼寛(よりひろ・松平まつだいら、藩主/儒家) J 4 7 6 5
一学(いちがく・千坂) → 畿(みやこ・千坂ちさか/横山、幕臣/儒者) F 4 1 9 2
一学(いちがく・那古屋) → 良富(よしとみ・那古屋なごや、藩士/詩人) E 4 7 9 8
一学(いちがく・氷室) → 種長(たねなが・氷室ひむろ/紀、神職) R 2 6 9 0
一学(いちがく・鎌田) → 一窓(いつそう・鎌田かまた、心学者) D 1 1 7 8
一学(いちがく・北村) → 久備(ひさとも・北村/源、藩士/国学者) B 3 7 6 0
一学(いちがく・東) → 夢亭(むてい・東ひがし、儒医/詩文) 4 2 9 3
一学(いちがく・中村) → 水丸(みずまる・山月楼さんげつろう、狂歌) 4 1 9 4
一学(いちがく・奥) → 満雅(みつまさ・奥おく、藩士/砲術家) I 4 1 6 0
一学(いちがく・雛田) → 中清(なかきよ・雛田ひなだ、神職/国学/歌) L 3 2 1 6
一学(いちがく・横地) → 高重(たかしげ・横地よこち、神職/国学) 2 7 2 8
一学(いちがく・磯田) → 種正(種昌たねまさ・磯田いそだ/源、官人/歌) V 2 6 6 5
一学(いちがく・市川) → 邦教(くにのり・市川いちかわ/藤原、神職/歌) E 1 7 0 4
一学(いちがく・尾関) → 宣胤(のりたね・尾関おぜき/尾張、神職) H 3 5 6 2
一学(いちがく・円岡) → 成興(なりおき・円岡まるおか、藩士/国学) O 3 2 9 5
一学(いちがく・水上) → 雄風(おかせ・水上みなかみ、修験/国学/歌) E 1 4 1 5
一河齋(いちがさい・狂歌) → 与三兵衛(初世よそべえ・鈍痛) I 4 7 1 3
一月楼(いちがつろう/むつきろう) → 景樹(かげき・香川、歌人) 1 5 1 2

G1114 市川検校(いちかわけんぎょう)? - ?1697前没 音曲、長唄作曲「四季」「八重梅」「春日野」作
市河宮(いちかわのみや) → 慈助法親王(じじよほしんおう、天台座主/歌) E 2 1 1 7

D1146 一丸(いちがん)? - ? 江前期俳人；1691不角「二葉之松」入、
[夏のうちは唯ただ木像の釈迦を客](二葉之松；117/夏安居中は釈迦のみもてなす)

一貫(いちがん) すべて → 一貫(いっかん)
一喜(いちき→いちよし・真羽亭) → 真羽亭一喜(しんうていいちよし、浄瑠璃作者) D 2 2 4 8
一簣(いちき・久世) → 氏美(うじよし・久世/佐脇、藩士/儒/歌) C 1 2 8 4
一吉(いちきち・小野) → 一吉(くによし・小野おの、幕臣/旗本) D 1 7 9 1
一宮館(いちきゅうかん) → 友成(ともなり・向坂さきさか、歌人) V 3 1 3 6
一牛居士(いちぎゅうこじ) → 房明(ふさあき・菱田ひしだ、幕臣/儒者) I 3 8 6 7

G1115 一魚(いちぎょ・金井かない、千里軒) 1755-1840 86歳 上州俳人・似鳩門、「千里軒一魚日記」著

J1121 一行花(いちぎょうはな、食行身禄じきぎょうみらくの3女、本姓；伊藤) 1724-89 66 神道家；富士講の初代教主、
1733(8歳)父が富士山入定；父を継承、1737(14歳)頃武家に奉公、
1753(30歳)頃幕臣小笠原信安と結婚、1766花形浪江(のち伊藤参行さんぎょう)を弟子とす、

1775父の命日(7月17日)に参行を伴い女人禁制の富士登山;御室浅間に通夜、
のち参行により[花の咲く菩薩]とされ陰陽二人を具有する女性として崇拜される、
遺文「食行直伝の同行に相渡す書」「一行一言」、外に和讃・歌などあり、
[花(;名)の別号]此花(一行は行者名)

一玉斎(いちぎよくさい) → 国孝(くにたか・歌川うたがわ、絵師) C 1 7 8 3
一吟(いちぎん・漢部) → 笑々翁(しょうしょうおう・漢部、俳人) T 2 2 4 0

B1117 移竹(いちく・田河たがわ、来川/烟舟亭) 1710-60 51歳 俳人・竿秋門、京住、元禄古調の俳風、
「乙御前おとごせ」「舍利浜」「移竹発句集」編

怡竹(いちく・齋藤) → 元宝(もととみ・齋藤さいとう、藩士/国学者) K 4 4 0 5
為竹(いちく・岡本) → 一抱(いっぽう・岡本おかもと、医者/浄作) H 1 1 8 5
依竹(いちく・重浦) → 元暢(もとのぶ・重浦じげうら、医者/歌人) K 4 4 0 9

B1118 一具(いちぐ・高梨たかなし/安達、名;愚春、安達甚兵衛2男) 1781-1853 73 羽前北村山郡楯岡の浄土僧、
幼時;浄土宗本覚寺に得度/岩代専称寺に修学、1819福島大円寺住職;23法弟竜鞭に譲る、
江戸に住/俳諧;乙二門、俳諧に専念し名声を得る、由誓・大節(だいせう)・梅室と交流、
1821「茶すり小木」/25「九日集」編、29「にしとうち」著/30「松窓乙二発句集」編、
1835「松窓句集続編」50「あこめ垣」51「誹諧無門関」、「断橋思藻」「誹諧蕉門句撰」外編著多、
[一具の別号]夢南/十夢/断橋/一具庵不幻果/無庵/仏虫/無漏子/割剃男/鉄箒(てつそう)道人、
逆旅山人/抱愚老人/又陰/葛葉窠(かつようか)攢眉道者

J1194 一具(いちぐ;法諱、法名;性円和尚) 1797-1866 70 近江栗太郡の蓮台寺住職/権大僧正、歌人

渭竹庵(いちくあん) → 楚雀(そじゃく;号、商家/俳人) J 2 5 7 9
一具庵尋香(いちぐあんじんこう) → 尋香(じんこう・小川おがわ、一具門俳人) O 2 2 3 3
一具庵不幻果(いちぐあんふげんか) → 一具(いちぐ・高梨、浄土僧/俳人) B 1 1 1 8
一空(いちくう・須田) → 盛輔(もりすけ・須田すだ、幕臣/国学) K 4 4 1 2
一隅軒(いちぐけん) → 貞弘(さだひろ・明石、藩士/兵法家) J 2 0 5 5
一隅軒(いちぐけん) → 竹翁(ちくおう・西村、俳人) C 2 8 6 9
葦竹斎(いちくさい) → 宗柳(そうりゅう;号、下田屋/連歌作者) D 2 5 1 3
依竹斎(いちくさい・平沢) → 香山(こうざん・平沢ひらさわ、藩儒者) G 1 9 3 6
惟竹堂(いちくどう) → 愚仏(ぐぶつ・淤足斎おそくさい、書肆/狂詩) B 1 7 0 2
一九郎(いちくろう・大橋) → 秀実(ひでみ・大橋おおはし/橋、歌人) L 3 7 5 9
一九郎(いちくろう・深谷) → 寛美(ひろよし・深谷ふかたに、与力/歌人) K 3 7 8 1
市九郎(いちくろう・植松) → 有信(ありのぶ・植松うえまつ、版木師/国学) 1 0 3 2
一勲(いちくん・関屋) → 高英(たかひで・関屋せきや、藩士/軍学/国学) X 2 6 7 9
一下(いちげ・柴垣) → ト琴(ぼくきん・柴垣、俳人) D 3 9 0 1
一逕(いちてい;号) → 和溪(わけい;道号・宗順;法諱、臨濟僧) 5 3 1 8
一間(いちけん;道号) → 祖峰(そほう;法諱・一間、曹洞僧) K 2 5 3 8

C1147 一元(いちげん) ? - ? 江前期俳人・梅盛門、1663木玉千句参;倫員「木玉集」所収

一元(いちげん) → 杉風(さんぷう・杉山、俳人) 2 0 5 6
一元(いちげん・小沢/茂呂) → 何丸(なにまる・茂呂もろ、医/俳人) G 3 2 8 0
一元(いちげん・伊藤) → 冠峰(かんぼう・伊藤、詩文) H 1 5 7 3
一元(いちげん・富田) → 一元(かずもと・富田とみた、藩士/記録) M 1 5 5 2
一彦(いちげん・三上) → 一彦(かずひこ・三上みかみ、神職/歌人) V 1 5 8 2
一現(いちげん;字) → 靈瑞(れいずい;法諱・南竜;字、真言僧) 5 1 4 3
一源(いちげん・片山) → 童観(どうかん・片山かたやま、医/儒者) C 3 1 3 8
一幻菴(いちげんあん) → 白雲(はくうん、俳人) C 3 6 6 0
一源子(いちげんし・中嶋) → 随流(ずいりゅう;号・中嶋、俳人) 2 3 0 4
一言舎(いちげんしゃ) → 一啓(かずひろ・瀬在せあり、国学者) U 1 5 8 1
一絃仙窟(いちげんせんくつ) → 覚峰(かくほう;法諱、真言僧/国学) K 1 5 4 6

G1116 伊知子(いちこ・京極きょうごく/多賀たが、小浜藩主京極忠高女) ?-1660 若狭小浜の生、
1631讚岐丸亀藩士多賀たが宮内常良つねよしの妻/44息子高房出産の2ヶ月後に夫没、
1650「涙草」著(:亡夫追慕と一子の育児記録)、法号;寿昌院茂林宗繁大姉

→ 高房(たかふさ・京極、藩士/幕臣) N 2 6 1 2

- J1159 一郷(いちごう・中村なかむら) ? - ? 江後期; 歌人、幕臣?、
歌; 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[散り残る木陰やいづこ夏ごろも涼しき風に花の香ぞする](大江戸倭歌; 夏389/余花)
- J1162 一郷(いちごう・山本やまもと) ? - ? 江後期; 歌人、幕臣?、
歌; 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[夏知らぬ清水がもとにまとみしてまだ来ぬ秋の心をぞ汲む](大江戸倭歌; 夏654)
- G1117 市五郎(一五郎いちごろう; 通称・蓮田はすだ、名; 正実まさざね、宗道男) 1833-61斬罪29 水戸藩寺社方手代、
勤王派: 常陸静神社齋藤監物と行動; 1860桜田門外で負傷/脇坂邸に自首; 翌年死刑、
「桜田始末」「憂囚筆記」著、「蓮田市五郎遺書」
- E1135 市左衛門(いちざえもん・塚原つかはら)?-? 江前中期延宝-宝永1673-1711頃の浄瑠璃作家、
初世半太夫の流物の詞章を著
- G1118 市左衛門(いちざえもん・島谷しまや、九左衛門男)?-1691 肥前長崎の生/航海術; 父門、
1675幕命で小笠原探検、中尾庄兵衛らと小笠原諸島巡見、
「延宝無人島巡見記」「地方根原記」著
- G1119 市左衛門(いちざえもん・島谷しまや、定重)?-17141 航海術に長ず、1670「按針之法」著
一左衛門(いちざえもん・美濃部)→貞庸(さだのぶ・美濃部みのべ/青柳、幕臣) P 2 0 5 1
市左衛門(いちざえもん・橋本)→毎延(まいえん・橋本はしもと、俳人) 4 0 0 0
市左衛門(いちざえもん・大橋)→釣雪(ちようせつ・大橋、俳人) J 2 8 2 1
市左衛門(いちざえもん・都筑)→三友軒(さんゆうけん・都筑つづき、幕臣/俳人) M 2 0 8 1
市左衛門(いちざえもん・野田)→成方(しげかた・野田、鶺鴒、幕臣/俳/地誌) C 2 1 0 5
市左衛門(いちざえもん・斎藤)→幸雄(ゆきお・斎藤さいとう、名主/地誌) E 4 6 3 4
市左衛門(いちざえもん・斎藤)→幸孝(ゆきたか・斎藤、幸雄男/名主/地誌) E 4 6 6 3
市左衛門(いちざえもん・斎藤)→月岑(げっしん・斎藤、幸孝男/名主/随筆家) B 1 8 0 7
市左衛門(いちざえもん・角田)→青溪(せいけい・角田すみた/平、家老/漢学) B 2 4 1 2
市左衛門(いちざえもん・佐渡屋)→無求(むきゆう・佐渡屋市左衛門、俳人) D 4 2 3 3
市左衛門(いちざえもん・種田)→幸周(ゆきちか・種田たねだ、武術家; 槍術) E 4 6 8 7
市左衛門(いちざえもん・興野)→隆雄(たかお・興野おきの、造林業) L 2 6 6 1
市左衛門(いちざえもん・多ヶ谷)→舎興(いえおき・多ヶ谷たがや、藩士/国学) K 1 1 3 8
市左衛門(いちざえもん・下郷/千代倉)→常和(じょうわ・下郷しもさと、商家/俳人) C 2 2 2 0
市左衛門(いちざえもん・田辺)→喜理(よしただ・田辺たなべ、藩士/家臣録) E 4 7 2 8
市左衛門(いちざえもん・菊岡)→如幻(じよげん・菊岡さくおか、商家/郷土史家) M 2 2 3 0
市左衛門(いちざえもん・早川)→依昌(よまさ・早川はやかわ、幕臣/国学) O 4 7 5 8
市左衛門(いちざえもん・中井)→酔亭(すいてい・中井、心学者) E 2 3 8 6
市左衛門(いちざえもん・梅谷)→眞滋(まじげ・梅谷うめや、本陣/国学) O 4 0 0 2
市左衛門(いちざえもん・三橋)→正容(まさやす・三橋みつはし、国学) S 4 0 9 6
市三郎(いちさぶろう・神尾)→包鬮(かねたか・神尾かみお、幕臣/記録) O 1 5 5 7
市三郎(いちさぶろう・鈴木)→眞光(まみつ・直光なおみつ・鈴木すずき/源、幕臣/歌) L 4 0 6 6
市三郎(いちさぶろう・山県)→溥泉(ふせん・山県、藩士/儒者/詩) D 3 8 0 4
市三郎(いちさぶろう・茂木)→義知(よしとも・茂木もてき/大衡、藩士) F 4 7 0 1
市三郎(いちさぶろう・新庄)→直恒(なおつね・新庄しんじょう、幕臣/国学) N 3 2 4 3
市三郎(いちさぶろう・吉田)→宗敏(むねとし・吉田よしだ、里正/紀行) B 4 2 8 5
市三郎(いちさぶろう・野呂)→栗原(りつげん・野呂のろ、幕臣/詩人) B 4 9 7 8
市三郎(いちさぶろう・佐野)→正意(まさり・佐野さの、藩士/国学者) P 4 0 9 1
市三郎(いちさぶろう・大久保)→忠寛(ただひろ・大久保おおくぼ、一翁/幕臣) U 2 6 3 9
一三(いちさん・鶺鴒) →伝右衛門(でんえもん・鶺鴒、藩士/家譜編輯) D 3 0 1 5
- G1120 一山(いちざん) ? - ? 江戸俳人: 芭蕉門、1680「桃青門弟独吟廿歌仙」入
一山(いちざん→いっさん; 道号)→一寧(いちねい; 法諱・一山、臨濟僧) 1 1 1 6
一山(いちざん・玉竜亭) →市兵衛(いちべえ・徳野、講釈師) D 1 1 6 3
一山(いちざん・小室) →政方(まさかた・小室こむろ、藩士/歌人) P 4 0 6 4

- 一山検校(いちざんけんぎょう) → 一山検校(いちやまけんぎょう、三弦) G 1 1 4 6
一三子(いちさんし・半孤軒) → 省我(せいが・半孤軒、俳人) E 2 4 1 8
一三糸(いちさんし; 俳名) → 半二(2世はんじ・松島、歌伎作) 3 6 4 4
一治(いちじ・撰待) → 盛武(もりたけ・撰待せつたい、藩士/故実家) F 4 4 6 0
一字庵(初世いちじあん) → 菊舎尼(きくしゃに・田上/村田、俳人) 1 6 1 1
一字庵(2世いちじあん) → 桃葉(とうよう・村田むらた、庄屋/俳人) T 3 1 4 2
一事庵(いちじあん) → 公成(こうせい・河村/仁壁、俳人) B 1 9 5 0
一時閑人(いちじかんじん) → 五一(ごいち・達摩屋初世・岩本、書肆) E 1 9 8 2
無花果苑(いちじくえん) → 由之(よしゆき・山本、良寛弟/国学/歌) K 4 7 3 1
一時軒(いちじけん) → 惟中(いちちゅう・岡西、俳人) 1 1 1 9
一枝子(いちし・岡田) → 一枝子(かづえこ・岡田おかだ、真澄女/国学) U 1 5 0 2
G1121 一実(いちじつ) ? - ? 江戸中期撰津吹田の俳人、
1781「俳諧関の登飛羅」著
一実(いちじつ; 字) → 廓山(かくざん; 法諱・一実、浄土僧) J 1 5 9 0
一実(いちじつ→かづさね・白崎) → 正(ただし・白崎しろさき、一実/商家/歌人) X 2 6 5 7
一日庵(いちじつあん) → 江三(こうさん・村井むらい、俳人) J 1 9 1 1
一日庵(いちじつあん) → 亜元(阿元あげん、真宗僧/歌人) 1 0 9 1
一日庵(いちじつあん) → 晋和(しんわ・赤木、染織上絵業/俳人) Q 2 2 2 5
一日庵(いちじつあん) → 貞固(さだかた・藤田ふじた、藩士/武術/茶) P 2 0 8 7
一日庵反朱(いちじつあんはんしゆ) → 志友(しゆう・高市、書肆/地誌/俳人) G 2 1 7 1
一日亭(いちじつてい) → 種正(種昌たねまさ・磯田いそだ/源、官人/歌) V 2 6 6 5
G1122 一樹(いちじゆ・雄田おだ、別号; 丈夫庵)?-? 雑俳点者、1799「場附早算用」編、
1800「新とくさ」「題林集」編、1804「小柴垣」編/05「笠附小柴垣」編
G1123 一樹(いちじゆ・千松庵) ? - ? 江後期遠州流の華道家/插花宗匠、
1818「插花初学養種」、25「插花柳の緑」編、41「遠州流插花千歳松」編/41「初自岳草」著
一樹(いちじゆ、松下) → 北斗庵一樹(ほくとあんいちじゆ、狂歌) D 3 9 7 9
一樹(いちじゆ・赤尾) → 一樹(かづき・赤尾あかお・藤原、藩士/国学) T 1 5 3 5
一樹庵(いちじゆあん) → 道元(道玄どうげん・野本、茶人/養蚕) D 3 1 6 0
一樹庵(いちじゆあん) → 楚山(そざん・内藤/久村、俳人) J 2 5 7 6
一樹庵(いちじゆあん) → 痴漸(ちぜん・春海はるみ、茶人/商家) N 2 8 3 5
C1148 一重(いちじゆう; 号) ? - ? 俳人・1662元隣「身の楽千句」百韻入
一重(いちじゆう; 組連) → 一重(ひとえ; 組連、雑俳) I 3 7 1 3
一十軒(いちじゆうけん) → 貞佐(ていさ・水原/中川、俳人) 3 0 7 7
一十軒(いちじゆうけん) → 貞佐(ていさ・芥河あくたがわ、商家/狂歌) 3 0 7 8
一重山(いちじゆうさん) → 単山((たんざん・林はやし/武田、藩儒) I 2 6 2 0
一十竹(いちじゆうちく→いそたけ) → 一十竹(いそたけ/いそちく、俳人) C 1 1 4 3
市十郎(いちじゅうろう・大岡) → 忠相(ただすけ・大岡おおか、幕臣/日記) F 2 6 1 9
市十郎(いちじゅうろう・入間川/渋川) → 春水(しゅんすい・渋川/入間川、藩士/天文暦算家) L 2 1 1 6
市十郎(いちじゅうろう・山本) → 常朝(つねとも・山本やまもと、藩士/学者) C 2 9 7 2
市十郎(いちじゅうろう・杉浦) → 正職(まさもと・杉浦すぎうら、幕臣/琴曲) H 4 0 9 0
市十郎(いちじゅうろう・一ノ瀬) → 調実(ちようじつ・一ノ瀬、紙漉業/俳人) I 2 8 5 9
市十郎(いちじゅうろう・河野) → 通真(みちざね・河野こうの、幕臣) B 4 1 5 8
市十郎(いちじゅうろう・宮沢) → 宗恒(むねつね・宮沢みやざわ、国学者) E 4 2 2 9
市十郎(いちじゅうろう・山本) → 資胤(すけたね・山本やまもと、庄屋/国学) J 2 3 3 7
一樹園(いちじゆえん) → 一叟(いっそう・鈴木/飛鳥園4世、俳人) B 1 1 5 7
一樹園(いちじゆえん) → 弁覚(3世べんかく・宮下みやした、医者/歌) B 2 7 1 5
一樹園(いちじゆえん) → 貞升(初世さだます・歌川うたがわ、絵師) F 2 0 5 3
一樹斎(いちじゆさい) → 貞升(初世さだます・歌川うたがわ、絵師) F 2 0 5 3
一寿斎(いちじゆさい) → 国貞(2世くにさだ・歌川、4世豊国/絵師) B 1 7 5 0
一寿斎(いちじゆさい) → 国鶴(初世くにつる・歌川うたがわ、絵師) C 1 7 9 2

- 一寿斎(いちじゆさい) → 国政(初世くにまさ・歌川うたがわ、絵師) 1792
 一寿斎(いちじゆさい) → 芳員(よしかず・歌川うたがわ、絵師; 横浜絵) C4756
 一寿亭(いちじゆてい; 狂号) → 亀友(きゆう・八田はつた、俳人/狂歌) M1616
- C1149 一純(いちじゆん/かずすみ・寺尾てらお、字; 子徳、通称; 銛治せんじ)?-? 江中期大和高取藩士、漢詩人、
 1779「鐘秀亭詩集初編」、80「大和風雅」藤本敬と共編、
 [一純の号] 鐘秀亭/桃塙とうお先生
- G1124 一順(いちじゆん; 通称・勝沢かつざわ、名; 愿げん、号; 青牛/生柴翁) 1800-? 1868存 越前福井藩の侍医、
 詩文/歌; 橘曙覧門、1828「女屍解試略次」、「金匱方論存疑」著、詩歌:「初音草」著
 一純(いちじゆん/かずすみ・加藤) → 虞山(愚山ぐざん・加藤、藩士/地誌/歌) B1736
- J1136 市女(いちじよ/いちによ・平野ひらの、名; 市)?-? 江前期上方の女流俳人、
 1673西鶴「生玉万句」第四若竹発句入、
 [わかたけの千世もと祈る氏子哉](若竹発句、伊勢物語84段; 母の再会を望む歌を受け、
 子[業平]の歌; 世の中にさらぬ別れのなくもがな千代もと祈る人の子のため)
 一如(いちじよ) 僧名は → 一如(いちによ)
 一助(いちじよ・坪井) → 信道(しんどう/のぶみち・坪井つばい、蘭医) 2265
- G1125 一条(いちじょう、一条の君/内の蔵人一条の君、清和皇子貞平親王[?-913]の女)?-? 平安前期歌人、
 京極御息所(褒子ほうし)の女房/陽成院[868-949]女房、壱岐守某の妻、伊勢・俊子らと親交、
 勅撰2首; 後撰909・拾遺1062、
 [恋しくは影をだに見て慰めよわがうちとけてしのぶ顔なり]、
 (後撰; 恋909/「いとなん恋しき」と伊勢がよこした手紙に鬼の形を書いて贈る歌)、
 (普段からこんな鬼のような顔の私ですから忘れてください/親しい女友達への歌)、
 (伊勢からの返歌; [影見ればいとゞ心ぞ惑はるゝ近からぬ気けのうときなりけり])
- G1126 一定(いちじょう; 法諱・塔院律師) 880/884?-94768? 平安前期僧/三論僧; 聖宝門/東大寺東南院主、
 のち真言僧; 観賢門: 925伝法灌頂受/醍醐寺座主/945権律師/東寺二長者、「愛染王記」著
- B1119 一条(いちじょう・昭慶門院しょうけいもんいん、権大納言北畠師親女)?-? 鎌倉後期の女房歌人(; 一条局)、
 龜山天皇[1249-1305]皇女昭慶門院喜子に出仕/大覚寺統系歌人: 1297仙洞歌合、
 1302六月当座歌合/03嘉元仙洞百首/03後二条院歌合/04内裏十種歌合参加、
 続現葉集入/藤葉集(2首)入、
 勅撰21首; 新後撰(322/989)玉(429)続千(5首281/1045以下)続後拾(5首)新千(3首)以下、
 [たへてなほ過ぎけるものを小牡鹿さをしかの声聞かざりし秋の夕べは](新後撰; 秋322)、
 [山風吹くとしもなき夕暮もこのしたかげは猶ぞ涼しき](玉葉; 夏429)
- G1127 一条(いちじょう・延政門院えんせいもんいん)?-? 鎌倉後期; 女房歌人、
 延政門院(後嵯峨天皇[1220-72]皇女悦子内親王; 1332没)家に出仕、
 兼好[1283?-1352?]と交流(兼好家集入)、続千載1848、
 [心にもあらで住まるゝ山里をうき世厭ふと人や思はむ](続千載; 雑1848)
- B1122 一条(いちじょう・萬秋門院ばん[まん]しゅうもんいん)?-? 鎌倉後期の女房歌人/女房名; 一条、
 万秋門院瑣子きやくし[1268-1338/一条実経女/後二条天皇の妃]に出仕、
 歌人、新続古集2首1375・1558、
 [おのづから心にもあらぬたえまかとかはるを見てもなほ頼むかな](新続古; 恋1375)
 参照→瑣子(きやくし・万秋門)
- K1188 一条(いちじょう・式部卿親王家しきぶきょうのみこけ、)?-? 鎌倉後期; 女房歌人; 冷泉派歌人、
 式部卿久明親王(鎌倉幕府8代将軍/1276?-1328)家に出仕、
 歌; 為相撰?1310成立[柳風和歌抄]入、
 [梅が香はまくらにみちてうぐひすのこゑよりあくるまどのしののめ](柳風抄; 春10)
- B1120 一条(いちじょう・花園院はなぞのいん、院一条、女房名; 一条)?-? 南北期花園天皇の女房、京極派歌人、
 花園天皇(1297-1348)皇女の徽安門院寿子の侍女のひとりか?、
 1343院六首歌合/五十四番詩歌合/49光厳院三十六番歌合参過、
 勅撰; 風雅集(10首358/580/650/653/846/852/1170/1185/1627/1652)
 [雨はるる小田をだの早苗の山もとに雲おりかかる杉のむらだち](風雅集; 夏358)
- B1121 一条(いちじょう・徽安門院きあんもんいん、正親町公蔭女)?-? 母; 北条久時女の種子、南北期; 京極派歌人、

花園天皇皇女徽安門院寿子に出仕、のち光厳院の侍妾：義仁親王を出産（；対の御方）、1343院六首歌合/46貞和百首/50仙洞歌合/57延文百首に参加、家集「徽安門院一条集」、勅撰22首；風雅（13首；110/517/548以下）新千載（610/1293以下）新拾（4首）新続古（1首）、[昨日今日世はのどかにて降る雨に柳が枝ぞしだりまされる]（風雅集；春110）、[あま雲の八重かさなれる空なれや恋も恨もはれぬ心は]（新千；恋1293/延文百首372）

- 一条（いちじょう） → 公経（きんつね・西園寺、太政大臣/歌） E 1 6 3 5
 一条（いちじょう；号） → 実有（さねあり・藤原、公経男/清水谷家祖/歌人） C 2 0 8 7
 一丈（いちじょう；道号） → 玄長（元長げんちやう；法諱・一丈、曹洞僧） L 1 8 3 7
 一乘庵（いちじょうあん） → 湖十（7世こじゅう・深川、木髪3世/俳人） C 1 9 8 8
 一乘院（いちじょういん） → 日出（にっしゅつ；法諱・是生、日蓮僧） E 3 3 1 0
 一条院后（いちじょういんのきさい） → 彰子（しょうし・藤原、上東門院、一条天皇院中宮） 2 2 0 0
 一条院皇后宮（いちじょういんのこうごうぐう/-きさいのみや） → 定子（ていし・藤原） 3 0 0 4
 一乘院舎那（いちじょういんのしやな） → 舎那（しやな・一乘院、童/歌人） a 2 1 4 6
 一乘院大僧正（いちじょういんのだいそうじやう） → 覚実（かくじつ、法相僧/歌人） J 1 5 9 4
 一乘院宮（いちじょういんのみや） → 眞敬親王（しんけいしんのう、僧/画/日記） O 2 2 0 8
 一条右大臣（いちじょううだいじん） → 恒佐（つねすけ・藤原、歌人） C 2 9 2 7
 一条関白（いちじょうかんぱく） → 忠良（ただよし・一条、歌人） G 2 6 0 8
 一条関白家民部卿（いちじょうかんぱくけのみんぶきやう） →

民部卿（みんぶきやう・後一条関白家、女房/歌人） G 4 1 8 7

- 一条前左兵衛督（いちじょうさきさきさひやうえのかみ） → 実遠（さねとお・藤原、廷臣/歌人） D 2 0 2 5
 一条前太政大臣女（いちじょうさきさきのだいじやうだいじんのむすめ） → 実家女（さねいえのむすめ） C 2 0 9 0
 一条左大臣（いちじょうさだいじん） → 雅信（まさのぶ・源、催馬楽/歌） F 4 0 4 9
 一条左大臣室（いちじょうさだいじんのしつ） → 雅信室（まさのぶのしつ、歌） F 4 0 8 5
 一条摂政（いちじょうせつじやう） → 伊尹（こいまさ/これただ・藤原、摂政太政大臣/歌） 1 9 4 7
 一条禅閣（いちじょうぜんかく） → 兼良（かねよし・一条） 1 5 3 7
 一条太政大臣（いちじょうだいじやうだいじん） → 公経（きんつね・西園寺、太政大臣/歌） E 1 6 3 5
 一条太政大臣（いちじょうだいじやうだいじん） → 実家（さねいえ・一条/町/藤原、歌） C 2 0 8 9
 一条太政大臣女（いちじょうだいじやうだいじんのむすめ） → 実家女（さねいえのむすめ） C 2 0 9 0
 一条大納言（いちじょうだいなごん） → 為光（ためみつ・藤原、太政大臣） H 2 6 5 0
 一乘忠（いちじょうただし） → 仁忠（にんちゆう） G 3 3 6 7

B1123 一条天皇（いちじやうてんのう、名；懐仁やすひと、円融天皇第1皇子）980-1011³² 母；藤原兼家女詮子、984花山天皇東宮/在位986-1011；外祖父兼家が摂政、摂関政治最盛、1011三条天皇に譲位、詩歌管絃に通ず、「一条院御集」「一条天皇御記」著、詩；本朝麗藻・類聚句題抄入、勅撰8首；後拾（543/583）詞花（192）新古（779）続古（154/1116/1858）新千（765）、玄々集入、[野辺まで心に心ひとつは通へども我がみゆきとは知らずやあるらん]、

（後拾遺；哀傷543/長保二1000年十二月皇后定子之葬送の雪の夜；鳥辺野に土葬）、

[一条天皇の法号] 法諱；精進覚、法号；妙覚、

[一条天皇の子] 敦康親王・後一条天皇・後朱雀天皇ほか

- 一条天皇皇后宮（いちじやうてんのうのこうごうぐう） → 定子（ていし・藤原） 3 0 0 4
 市上人（いちじやうにん） → 空也（くうや/こうや、念仏浄土教/歌人） 1 7 3 9
 一条の今西行（いちじやうのいまさいぎやう） → 宣阿（せんあ・香川） 2 4 2 2
 一条右大臣（いちじやうのうだいじん） → 恒佐（つねすけ・藤原、右大臣/歌人） C 2 9 2 7

E1130 一丈帯武（いちじやうのおびたけ、本名；山下五郎）?-? 狂歌、江戸市ケ谷加賀屋敷住、1787才蔵集1首入；353、

[聖代になりゆく駒や中将某ちうしやうぎいきほひもよき麒麟鳳凰]（才蔵：353）、

（中将某は将棋の一種；12目92枚の駒使用；麒麟鳳凰獅子竜王などの名称/聖代の瑞兆）

- 一条の君（いちじやうのきみ） → 一条（いちじやう・貞平親王女） G 1 1 2 5
 一条局（いちじやうのつね） → 一条（いちじやう・昭慶門院しょうけいもんいん、女房歌人） B 1 1 1 9
 一条法印（いちじやうのほういん） → 定為（じやうい；法諱、真言僧/歌人） F 2 2 0 1
 一乘房（いちじやうぼう） → 仁覚（にんかく；法諱、天台座主） G 3 3 2 1

- 一乗房(いちじょうぼう) → 日出(にっしゅつ;法諱・一乗院、日蓮僧) E 3 3 1 0
一乗坊(いちじょうぼう) → 日信(にっしん;法諱、日蓮僧) E 3 3 3 7
一条法師(いちじょうほうし) → 定為(じょうい) L 2 1 0 0
市二郎(いちじろう・小沢) → 正容(まさやす・小沢、和算・暦算家) I 4 0 0 7
市次郎(いちじろう・小島) → 礼重(敬重よししげ・小島/児島、藩士) D 4 7 6 2
市次郎(いちじろう・押上) → 美香(よしか・押上おしあげ、役人/国学者) M 4 7 0 9
一塵軒(いちじんけん) → 政義(まさよし・一塵軒、俳人) I 4 0 4 7
G1128 一瑞(いちずい・森本もりもと、名;昌栄まさなが/昌倫、儀左衛門男)1705-8480 肥後熊本藩士/国学者
1727家督嗣;百五十石/八代城附/1751砂形稽古のため熊本へ召出され番方に入る、
1761軍学師役、1772物頭列/76鉄砲十挺頭、1781致仕/致仕後の号:一瑞、
先祖は加藤清正16将の1、右近大夫の父、1736「加藤家伝」72「肥後国志略」著、
藩内を巡歴;「古城考」「肥後国誌」「響野原古戦記」著、「豊後国三郡志」「森本雑歌集」著、
[一瑞(;後号)の通称/別号]通称;金吾/弥藤太/喜三右衛門/儀太夫、別号;可猿/可申/松浜
法号;凌雲院
一瑞(いちずい;道号・中曇) → 中曇(ちゅうどん;法諱・一瑞、臨濟僧) G 2 8 6 8
G1129 耆助(いちすけ・津田つだ)?- 1782 江中期若狭の文筆家、
1767「稚狭考」、「行余随筆」著、
[耆助の号] 鷗鷗坊画龍ろじょうがりゅう、板屋一助
市助(いちすけ・満岡) → 白里(はくり・満岡みつおか、儒者/詩文) E 3 6 0 4
市助(いちすけ・永島) → 道直(みちなお・永島ながしま、歌人) H 4 1 8 8
市助(いちすけ・長崎) → 忠蔵(ちゅうぞう・中西なかにし/長崎、出版) L 2 8 7 0
市助(いちすけ・安田) → 貞方(さだかた・安田やすだ、国学者/歌人) O 2 0 0 9
市祐(いちすけ・小林) → 佐倍(すけます・小林こばやし、藩士/文筆) H 2 3 1 2
市祐(いちすけ・口羽) → 通博(みちひろ・口羽くちは、藩士/国学者) I 4 1 9 6
市介(いちすけ・杉田) → 忠世(ただつぐ・杉田すぎた、藩士/国学/歌) X 2 6 7 0
一介(いちすけ・伊藤) → 篤吉(としよし・伊藤いとう、和算/航海術) O 3 1 2 1
一介(いちすけ・田中) → 則義(のりよし・田中たなか、藩士/歌人) I 3 5 8 8
一介(いちすけ・長谷川) → 大館(おおだち・中村なかむら/長谷川、神職/歌) E 1 4 0 3
一介(いちすけ・林) → 言文(ことぶみ・林はやし、商家/国学/歌) R 1 9 1 7
一助(いちすけ・坪井) → 信道(しんどう/のふみち・坪井つばい、蘭医) 2 2 6 5
一助(いちすけ・板屋) → 元紀(もとのり・津田つだ/板屋、商家/学者) K 4 4 5 2
一甫(一輔いちすけ/いっぽ・西原) → 公和(よしかず・西原、藩士/国学者) C 4 7 5 0
一蟬(いちぜん) → 破笠(はりゆう・小川、蒔絵象眼/俳人) F 3 6 8 4
一善(いちぜん・鈴木) → 鳴門(めいもん・鈴木すずき、藩の絵師) 4 3 4 2
市三(いちぞう・沢嵐) → 納老(とうろう・沢嵐さわあらし、歌舞伎作者) I 3 1 4 9
市蔵(いちぞう・竹原) → 惟成(これなり・竹原、藩士/故実家;歌) O 1 9 6 2
市蔵(いちぞう・竹原) → 惟重(これしげ・竹原たけはら、藩士/故実家) O 1 9 3 7
市蔵(いちぞう・福島) → 末済(すえなり・福島/度会、神職/漢学) F 2 3 5 4
市蔵(いちぞう・古久保) → 資愛(すけちか・古久保ふるくぼ、国学者) J 2 3 2 0
市蔵(いちぞう・坂東/井坂) → 松石(しょうせき・井坂いさか/井、商家/詩人) K 2 2 3 0
市蔵(いちぞう・吉沢) → 聴松(ちようしょう・吉沢としざわ、詩人) I 2 8 9 7
市蔵(一蔵いちぞう・大久保) → 利通(としみち・大久保、藩士/新政府樹立) R 3 1 7 8
市蔵(いちぞう・中田) → 平山(へいざん・中田、藩士/儒者/詩) 2 7 4 3
市蔵(いちぞう・難波) → 周政(かねまさ・難波なんば、陪臣/歌人) V 1 5 2 9
市蔵(いちぞう・宮沢) → 宗恒(むねつね・宮沢みやざわ、国学者) E 4 2 2 9
一蔵(いちぞう・井田) → 寒涯(かんがい・井田いだ、庄屋/俳人) Q 1 5 0 6
一蔵(いちぞう・坂尾) → 幽栖(ゆうせい・坂尾さかお、藩士/儒者) C 4 6 9 8
一造(いちぞう・今井/大国) → 隆正(たかまさ・大国/山本/野之口/今井、国学/歌) 2 6 1 7
一造(いちぞう・鏡) → 光照(みつてる・鏡かがみ、和算家) D 4 1 9 7
一粟居士(いちぞくこじ) → 寛(ひろし・生方うぶかた/源、書家) F 3 7 9 0

- 市太(いちた・柿並) → 正平(まさひら・柿並かきなみ、藩士/歌人) G 4 0 8 7
 一太夫(いちだゆう・加藤) → 虞山(愚山ぐざん・加藤、藩士/地誌/歌) B 1 7 3 6
 一太夫(市大夫いちだゆう・栗阪) → 守熙(もりひろ・栗阪あわさか、藩士/地誌) G 4 4 4 0
 市太夫(いちだゆう・大沢) → 惟貞(これさだ・大沢おおさわ、藩士/文筆家) O 1 9 3 2
 市太夫(いちだゆう・鈴木) → 重矩(しげのり・鈴木すずき、国学/歌人) Z 2 1 1 7
 市太夫(いちだゆう・伊福) → 章雄(あやお・伊福いふく、藩士/国学・歌) G 1 0 9 4
 市太夫(いちだゆう・堀口) → 松庵(しょうあん・堀口ほりぐち、地役人/書家) V 2 2 1 3
 市太夫(いちだゆう・三倉屋) → 定静(さだきよ・富山とみやま/辻、商家/国学) O 2 0 9 1
 市太夫(いちだゆう・三倉屋) → 定功(さだこと・富山とみやま/辻/島田、定静養子/商家/歌) O 2 0 9 2
 市太夫(いちだゆう・松田) → 発明(なりあき・松田まつだ、陪臣/尊攘) O 3 2 8 6
 市太夫(いちだゆう・山田) → 正秋(まさあき・山田やまだ/富山、商家/歌人) T 4 0 4 8
 市大夫(いちだゆう・鈴木) → 遂良(すいりょう・鈴木、藩士/兵学者) F 2 3 1 6
 市大夫(いちだゆう・百瀬) → 道一(みちかず・百瀬ももせ、歌人) K 4 1 7 8
- D1157 市太郎(いちたろう・初世鶴沢つるさわ)?-1786 浄瑠璃太夫:
 「書留」著(:のち1819義太夫執心録に入)
 市太郎(いちたろう・平沢) → 了延(りょうえん・古筆こひつ/7世、鑑定家) G 4 9 5 6
 市太郎(いちたろう・小川) → ゆき町(ゆきまち・恋川、春町2世/黄表紙) F 4 6 6 0
 市太郎(いちたろう・小林) → 英一(えいいち・静斎せいさい、絵師) B 1 3 9 0
 市太郎(いちたろう・遠藤) → 故厓(こがい・遠藤えんどう、俳人) L 1 9 8 5
 市太郎(いちたろう・斎藤) → 秋圃(あきう・斎藤しゅうほ・斎藤/葵/池上、絵師) I 2 1 2 7
 市太郎(いちたろう・堀口/尾高) → 高雅(たかまさ・尾高/堀口/小山、歌人) D 2 6 7 5
 市太郎(いちたろう・伊吹) → 正健(まさよし・伊吹いぶき、藩士/国典) I 4 0 7 5
 市太郎(いちたろう・弘) → 通光(みちみつ・弘ひろ、和洋算家/教育) C 4 1 6 4
 市太郎(いちたろう・門阪) → 誠愚(せいぐ・門阪かどさか、商家/国学/歌) F 2 4 7 8
 市太郎(いちたろう・浅井) → 政紀(まさのり・浅井あさい、藩士/歌人) N 4 0 1 0
 市太郎(一太郎いちたろう・間) → 元矩(もとりの・間はさま、国学/尊攘) K 4 4 9 5
 市太郎(いちたろう・山田) → 正秋(まさあき・山田やまだ/富山、商家/歌人) T 4 0 4 8
 一太郎(いちたろう・福田) → 明(あきら・福田ふくだ、数学者) E 1 0 2 4
 一太郎(いちたろう・桜井) → 石門(せきもん・桜井さくらい、藩儒/学制) D 2 4 8 7
 一太郎(市太郎いちたろう・木村) → 容斎(ようさい・木村きむら、儒者) B 4 7 0 1
 一太郎(いちたろう・小山) → 川蔭(かわかげ・小山おやま、藩士/国学/画/歌) S 1 5 8 4
 一太郎(いちたろう・小笠原) → 貞宣(さだのぶ・小笠原おがさわら、国学/歌/神職) O 2 0 0 3
 一太郎(いちたろう・清家) → 信恵(しんえ・清家せいけ、国学者/歌人) V 2 2 1 0
- G1130 一伝斎(いちでんさい・浅山あさやま、名;重晨[辰]、通称;内蔵助)?-? 江前期上州碓井の郷士?、
 or伊賀の人?、武術;国家弥右衛門門、浅山一伝流武術の祖、
 「浅山一伝流仕組目録」「大事相伝之巻」著
- B1124 一桐(いちどう・京屋きょうや、通称;権右衛門)?-? 伊賀上野の俳人;蕉門、京住、
 曠野/猿蓑/続猿蓑入、
 [あけぼのや鶯とまるはね釣瓶](曠野巻二)
- G1131 一道(いちどう) ? - ? 伊勢の俳人;蕉門、続猿蓑入、
 [はいるより先まがりてみる落葉哉](続猿蓑巻下;本柳坊宗比の庵を訪ねて)
- G1132 一洞(いちどう・杏きょう/村田、通称;輪心子、別号;橋軒)?-1701 肥前長崎の医者;南部草寿/西玄甫門、
 儒も修学、書;林道栄門/能書家、1680富山藩医、「杏林法帖」著
- G1133 一洞(いちどう) ? - ? 俳人;1691北枝「卯辰集」1句入;224、
 [家に来て袖よりにぐるほたる哉](卯辰集;巻二224)
- C1150 一銅(いちどう) ? - ? 江戸雑俳点者、1702「冠独歩行かんわりひとりあるき」入
- C1151 市洞(いちどう) ? - ? 浮世草子作者:1718「寛潤大臣気質」著
- D1158 一洞(いちどう、雪子洞、雪縁斎一好男、白縁斎梅好の兄)?-? 大阪の狂歌作者、
 1771梅好「狂歌浪花丸」5首
- J1195 一道(いちどう法諱) ? - 1821 信濃の浄土僧/歌人、のち山城宇治の平等院和尚

- E1115 **一堂**(いちどう・赤沢あかさわ、名;一/万)1796-1847⁵² 讃岐の生/京住/儒者・詩、1833「詩律」、「三称」著、
「四書集注講義」「鶏肋集」「盛於集」「竜威秘録」「芸園日録」「傷寒論甘露味」「訳小倉百首」著、
[一堂の字/通称/別号]字;太乙/太一、通称;太一郎/多一郎、別号;万庵
- J1168 **一道**(いちどう・松山まつやま) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[汲みすてし岩みの水も宵の間の寒さにけさは氷りそめけり](大江戸倭歌;冬1155)
- 一堂(いちどう・東条) → 一堂(いっどう・東条/逸見、儒者) B 1 1 2 5
 一堂(いちどう・木内) → 惺堂(せいどう・木内きうち、儒者/詩人) J 2 4 3 2
 一道(いちどう・上田) → 孤雪(こせつ・上田、儒者) M 1 9 8 9
 一道(いちどう・水野) → 南北(なんぼく・水野みずの、相法家) J 3 2 5 1
 一道(いちどう;字) → 日承(にちじょう;法諱・正受院、日蓮僧) C 3 3 4 4
 一道(いちどう;法名) → 靈順(れいじゅん;法諱、浄土僧) 5 1 3 8
 一道院(いちどういん) → 日理(にり;日璃にちり;法諱・善哲、日蓮僧) D 3 3 5 6
 一度齋(いちどさい) → 芳綱(よしつな・歌川/田辺、絵師) E 4 7 7 2
 一曇(いちどん;道号) → 聖瑞(しょうずい;法諱・一曇;道号、臨濟僧/文筆) T 2 2 6 8
 都名(いちな、浪の一) → 光崎檢校(みつざきけんぎょう、歌謡/三弦) D 4 1 4 2
 一内(いちない・松井) → 安雄(やすお・松井まつい、里正/和学) G 4 5 6 6
 市中庵(2世いちなかあん) → 如髮(じよはつ・関本、俳人) M 2 2 7 7
 市中庵(いちなかあん) → 梅従(ばいじゅう・後藤、薬種商/俳人) B 3 6 4 9
 市中散人(いちなかさんじん) → 祐佐(ゆうさ・伴ぼん、書肆/浮世草子) B 4 6 6 9
- G1134 **一男**(いちなん) ? - ? 俳人;1691北枝「卯辰集」1句入、
[茶碗ひとつ借りいだしたる清水かな](卯辰集;267)
- F1122 **一二**(いちに) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」2句入
[三重さんぢう釣る外そとの二重は螢蚊屋](二葉之松;282/蚊帳を三重;外側に螢を放つ風流)
- 一二(いちに・今掘) → 真中(まなか・今掘いまぼり、禅僧/歌人) N 4 0 8 1
 一二軒(いちにけん) → 陽川(ようせん・一二軒、俳人) B 4 7 3 6
 [正秀(;名)の幼名/通称/号]幼名;宗千代丸、通称;九兵衛、号;、
 一二齋(いちにさい・岩脇) → 正秀(まさひで・岩脇いわわき、藩士/軍学/歌) N 4 0 8 7
- E1150 **市二三**(いちにさん・高麗井こまい、別号;酔逸) ?-? 江戸中後期;江戸の戯作者、
1808(文化5)刊「珍説飛敵討とんだかたきうち」/1812刊「伊達娘常陸小杉」著
- C1152 **一二亭**(いちにてい) ? - ? 俳、1689露川「花虚木」入
 一二坊(いちにぼう・宍戸) → 乙二(おつに・宍戸しど、藩士/俳人) D 1 4 7 3
- J1196 **一入**(いちにゅう・) ? - ? 阿波徳島藩士/俳人;北村季吟(1624-1705)門
- C1153 **一入**(いちにゅう・横山) ? - ? 伊賀上野俳人、1672芭蕉「貝おほひ」入、
[みぞれ酒元来ぐわらい水ぢやとおぼしめせ](貝おほひ;廿五番右、
羹酒は水につけた蒸米や米麴を浮かべた酒/元来水ぢや;小唄の文句)
- J131 **一入子**(いちにゅうし・石倉いくら、名;重直/通称;三郎兵衛)1554-? 安桃期;紀伊藤代の武将、
大野十番頭の一つ;信長の石山本願寺攻めに活躍/1584小牧長久手戦に家康側に参戦、
のち秀吉方よりの厳しい詮議;1588熊野長島に逃れる;俳人(;貞徳門)として活動、
1656貞室「玉海集ぎょかいしゅう」13句入、西鶴「古今俳諧師手鑑」(1676刊)、
[としの緒やいく七廻り千代の春](玉海集)
- G1135 **一入子女**(いちにゅうしのむすめ・石倉いくら、名;長女ながめ) ?-? 武将石倉重直女/紀伊藤代の生、
のち1588熊野長島住の俳人;貞門、妹;春女、
没後;1684刊西鶴「俳諧女哥仙によかせん」入、
[ぶりぶりや神のちからの玉津嶋](女哥仙;13、
ぶりぶり;八角形正月用玩具/胴に祝の画・両側面に片木の玉を付け槌で打つ独楽)
- C1154 **一如**(いちにょ) ? - ? 美濃真言円明院院主、俳人、元隣と交友、
1662元隣「身楽みらく千句」/72「季吟十会集」入
- K1144 **一如**(いちにょ;法諱・津々良つら、旧姓;高森)1846-95⁴⁹ 肥後阿蘇郡坂梨の日蓮僧、
菊池郡の興福寺住職/八代郡の宗覚寺住職/同郡本成寺住職、歌人;長歌に通ず、
書画;土佐派風の絵、

[一如の号/法名]号;鞭草庵、法名;日普

- 一如(いちにょ;号) → 光海(こうかい;法諱、真宗東本願寺16世) H 1 9 8 4
一如(いちにょ;道号・孝順) → 孝順(こうじゅん;法諱・一如、曹洞僧) J 1 9 6 1
一如(いちにょ;号) → 寂源(じゃくげん;法諱・一如、社僧/書) V 2 1 9 4
一如(いちにょ・白石) → 又衛門(またえもん・白石、藩士/啓蒙書) J 4 0 3 5
一如(いちにょ・谷) → 文晁(ぶんちやう・谷たに、絵師) G 3 8 2 4
市女(いちにょ・平野) → 市女(いちじよ/いちにょ・平野ひらの、俳人) J 1 1 3 6
一如庵(いちにょあん) → 光映(こうえい;法諱・竹林坊、天台僧) H 1 9 5 7
一如院(いちにょいん) → 日重(にちじゅう;法諱・頼順、日蓮僧) C 3 3 1 6
一如軒(いちにょけん) → 旦海(たんかい;号、藩士/俳人) I 2 6 0 1
一如軒(いちにょけん) → 遊機(ゆうき・石浦堂、俳人) B 4 6 1 1
一如道人(いちにょどうじん) → 百非(ひやくひ、俗姓;田村、僧/俳人) E 3 7 7 7
一如坊(いちにょぼう) → 日澄(にっしょう・円明院、日蓮僧) F 3 3 1 6
一人(いちにん、五柳園) → 五柳園一人(ごりゅうえんいちにん、狂歌) N 1 9 9 7
一忍(いちにん・金田) → 智義(ともよし・金田かねた、国学者/地誌) Q 3 1 9 5

J1133 一任(いちにん・和田わだ) ? - ? 江前期;上方の俳人、

1673西鶴「生玉万句」第五白雨百韻発句等入、

[夕立や神啼殿のお行水](生玉万句;白雨発句/白雨;夕立/神啼殿;神鳴様)

- 一任(いちにん・米川) → 常伯(常白じょうはく・米川、商家/香道家) L 2 2 3 8
一忍軒(いちにんけん) → 基規(もとりの・持明院/藤原、廷臣/放鷹) D 4 4 7 9
一任斎(いちにんさい) → 恵瓊(えい;法諱・瑤甫、臨濟僧/外交) D 1 3 7 5
一任斎(いちにんさい) → 宗因(そういん・蜂屋はちや、香道家) G 2 5 0 1
一忍堂(いちにんどう) → 芦文(あしぶん・佐野さの、俳人) C 5 2 3 7

1116 一寧(いちねい;法諱・一山いっさん;道号、俗姓;胡) 1247-1317 中国元の台州臨海県の臨濟僧、
幼時;鴻福寺の無等慧融門;出家/律・天台修学、のち簡翁居敬・藏叟善珍・頑極行弥に参禅、
1299元成宗の国使として西澗子曇を伴い渡来;執権北条貞時より伊豆修善寺に幽閉;赦免、
1299建長寺入;93同寺を再興、臨濟禅を普及、円覚寺・浄智寺住持、1313京の南禅寺3世;没、
五山文学の祖;儒/詩文に長ず、雪村ら門弟多数、漢文学・朱子学・書道史に大きな足跡、
「一山国師語録」「五燈会元抄」著、

[一山一寧の号/諡号]号;妙慈弘濟大師、諡号;一山国師

I1184 一念(いちねい・松村まつむら) ? - ? 江前期安藝広島の貞門系俳人、

1674安静「如意宝珠」・79宗臣「詞林金玉集」入

- 一念堂(いちねんどう) → 三千風(みちかぜ・大淀、俳人) 4 1 0 3
一ノ(いちの・堀金) → 一ノ(いちべつ・堀金、俳人) J 1 1 3 8
一囊軒(いちのうげん) → 貞室(ていしつ・安原、俳人) 3 0 0 5
一囊軒(いちのうげん) → 貞恕(ていじよ・犬井[乾]、俳人;貞室門) 3 0 0 6
市正(いちのかみ・松平) → 直明(なおあき・松平まつだいら、藩主/和学) O 3 2 8 7
市之丞(いちのじよう・松井) → 晟時(あきとき・松井まつい、藩士/剣術) D 1 0 6 1
市之丞(いちのじよう・尾形) → 光琳(こうりん・尾形おがた、絵師) C 1 9 0 8
市之丞(いちのじよう・富沢) → 盛阜(もりおか・富沢とみざわ/木村、藩士/歌) K 4 4 7 1
市之丞(いちのじよう・高野) → 春華(しゅんか・高野、藩士/儒者/詩人) J 2 1 2 8
市之丞(いちのじよう・北原) → 台眠(たいみん・北原きたはら、俳人) L 2 6 0 7
市之丞(いちのじよう・荻原) → 義陳(よしのぶ・荻原おざわら、藩陪臣/歌人) M 4 7 0 6
市之丞(いちのじよう・蜂谷) → 光泰(みつやす・蜂谷はちや、藩士/歌人) K 4 1 0 8
市之丞(いちのじよう・河上) → 忠晶(ただあき・河上/川上、藩士/儒者) P 2 6 1 1
市之丞(いちのじよう・福住) → 伊貞(これさだ・福住ふくずみ、商家/歌人) R 1 9 2 0
市之丞(いちのじよう・島) → 富重(とみしげ・島しま、神職/国学) V 3 1 3 8
市之丞(いちのじよう・石居) → 元春(もとはる・石居いしい/菅原、藩士/歌) J 4 4 2 0

G1136 市之進(いちのしん;通称・田中たなか) ?-? 江中期;測量術;1715荒木村英門、
1715「規矩元法長験」受

- 市之進(いちのしん・伊藤、藩士) → 日寛(にちかん・堅樹院、日蓮僧) B 3 3 1 0
 市之進(いちのしん・堀田) → 千矛(ちぼこ・堀田ほつた、神職/国学者) N 2 8 4 5
 市之進(いちのしん・貝原) → 耻軒(ちげん・貝原かいばら、儒者/史学) E 2 8 0 5
 市之進(いちのしん・安東) → 省庵(せいあん・安東、藩儒) 2 4 0 2
 市之進(いちのしん・飯田) → 楽軒(がくけん・飯田いいた、藩士/儒者) J 1 5 7 6
 市之進(いちのしん・中山) → 黙斎(もくさい・中山/藤原、儒者/教育) 4 4 8 4
 市之進(一之進いちのしん・前田) → 東溪(とうけい・前田/一色、菊叢、藩儒) D 3 1 0 4
 市之進(いちのしん・金森) → 桂五(けいご・金森、藩士/俳/狂歌) 1 8 5 0
 市之進(いちのしん・原) → 伍軒(ごけん・原はら、藩士/儒者/幕臣) G 1 9 5 1
 市之進(いちのしん・野々村) → 忠実(ただまね・野々村、航海日記) P 2 6 5 3
 市之進(いちのしん・内藤) → 左兵衛(さへえ・内藤、藩士/奉行) L 2 0 5 5
 一之進(いちのしん・小泉/青山) → 延彝(のぶね・青山、儒者/詩文) C 3 5 1 7
 一之進(いちのしん・楠本) → 麓山(ごうざん・楠本くすもと、藩士/儒者) J 1 9 3 7
 一之助(いちのすけ・中村) → 嘉田(かでん・中村なかむら、儒者) O 1 5 1 1
 一ヶ介(いちのすけ・高橋) → 赤山(せきざん・高橋、藩士/柔術/俳人) K 2 4 0 9
 市之允(いちのすけ・生駒) → 等壽(とうじゅ・生駒いこま、絵師) E 3 1 8 5
 市之允(市之丞いちのすけ・後藤) → 利哉(としや・後藤、藩士/国学/歌) N 3 1 9 6
 市之允(いちのすけ・酒井) → 喜熙(よしひろ・酒井さかい、藩士/文筆家) G 4 7 6 6
 市之允(いちのすけ・山田) → 顕義(あきよし・山田やまだ、藩士/軍人/司法) I 1 0 6 9
 市之助(いちのすけ・丸山) → 保秀(やすひで・丸山まるやま、庄屋/歌人) C 4 5 7 8
 市之助(いちのすけ・桜井) → 武雄(たけお・桜井さくらい、藩士/国学者) X 2 6 1 9
 市聖(いちのひじり) → 空也(くうや/こうや、念仏浄土教/歌人) 1 7 3 9
 一宮(いちのみや) → 済深親王(さいじんしんのう; 法諱、大仏殿再建) G 2 0 8 1
 一宮紀伊(いちのみやのきい) → 祐子内親王家紀伊(ゆうしなしいんのうけきい) 4 6 0 3
 一宮小弁(いちのみやのこべん) → 小弁(こべん・祐子内親王家、歌/物語) D 1 9 7 4
 一宮駿河(いちのみやのするが) → 駿河(するが・祐子内親王家) D 2 3 5 9
 一宮坊(いちのみやぼう・雛田) → 中清(なかきよ・雛田ひなだ、神職/国学/歌) L 3 2 1 6
 一廻舎(いちのや) → 常信(つねのぶ・宮島みやじま/林、神職/国学) G 2 9 5 8
- G1137 一馬(いちば/いちま・貞松齋、米沢寛篤) 1764-1838 75 江戸華道家: 岸松齋一貞門; 浅草遠州流、
 独立し正風遠州流を創始、俳諧; 鶏口門/書; 松川染竜門、1799-1834「插花衣之香」編、
 1812「遠州流花生秘伝」25「衣の香」、「遠州流花伝書」、28「俳諧独稽古」著、
 [貞松齋一馬の別号] 米一馬よねいちば/六々野人/万物庵/溪竜/乾竜、楼川2世/木樨庵3世
- 一馬(いちば; 初号・加藤) → 野逸(やいつ・加藤かとう、幕臣/俳人) 4 5 0 0
 一馬(いちば) → 廬庵一馬(ろあんいちば・狂歌) 5 2 1 5
 一梅齋(いちばいさい・歌川) → 芳春(よしはる・歌川うたがわ/生田、絵師) G 4 7 1 5
 一馬園(いちばえん) → 錦江(きんこう・馬場、幕臣/俳諧/和算) D 1 6 9 7
- 1117 市原王(いちばらのおおきみ・安貴王あきのおおきみ男) ?-? 763存 志貴皇子の曾孫/743従五下/備中守/玄蕃頭、
 756正五下治部大輔/763造東大寺長官: 大仏造営に尽力、皇后宮職・金光明寺写経司出仕、
 類聚歌林伝来に関する、家持と親交/
 万葉四期歌人8首・412/662/988/1007/1042/1546/1551/4500(梅香歌)、1594左注、
 [梅の花香をかぐはしみ遠けども心もしのに君をしそ思ふ](万葉; 廿4500)
 (中臣清麻呂邸の宴の歌/邸の庭の梅を詠む)
- 一敏(いちびん・小河) → 一敏(かずとし・小河おごう、藩士/勤王/詩) C 1 5 2 3
- C1155 一武(いちぶ) ? - ? 泉州堺俳人、1656梅盛「口真似草」入
 式福(いちぶく・瀬名) → 貞雄(さだお・瀬名せな、幕臣/故実家) B 2 0 7 2
 一浮齋(いちぶさい) → 永我(えいが・盛、俳人) C 1 3 5 4
- D1159 一富士二鷹(いちふじにたか、藤田甚助、三尺庵) ?-? 1835頃存 江戸橋本町の狂歌作者; 山手連/四方連、
 「大木の生限」入/1785後万載・86吾妻曲狂歌文庫・87才蔵集入/「千里同風」「俳優風」入、
 [世のうさをのがれていらん観音の山のおくなるよし原の里]、

(吾妻曲/浅草観音の奥山の北に吉原)

- 一物(いちぶつ・有元) → 淵菴(えんりゅう・有元ありもと、医者/俳人) F 1 3 4 7
一払齋(いちふつさい) → 甘交(かんこう・芝/司馬しば、戯作者) D 1 5 6 3
一仏乘院(いちぶつじょういん) → 眞証(しんしょう; 法諱、真宗高田派僧) O 2 2 8 9
一不道人(いちぶどうじん) → 榮巖(えいがん; 法諱・天霊、真言僧) C 1 3 7 5
一文不知翁(いちぶんふちおう) → 成美(なりよし・清水しみず、国学/詩人) N 3 2 2 9
J1135 一瓶(いちへい) ? - ? 江前期上方の俳人、
1673西鶴「生玉万句」第六相撲脇句入、
[軽籠かゝて担ふ道芝の露](生玉万句; 相撲脇句、
発句一永; 相撲場も神さび土の俵かな)
市平(いちへい・月形) → 鷲窠(しょうか・月形つきがた、藩士/儒者) F 2 2 7 2
J1118 一米(いちまい・五大庵ごだいあん、姓; 佐藤、名; 常範、佐藤寛雄ひろお男) 1791-1859 69 上州の榛名神社社家、
昌平鬢で修学/和漢学・易学・書画・俳諧に通ず、遠州流華道を修得; 三雅流を創始、
[五大庵一米(; 号)の字/通称/別号]字; 元亮、通称; 五百枝いおえ、別号; 杉堂さんどう
K1170 市兵衛(いちべゑ・溝口みぞぐち、旧姓; 堀田) ?-1665 江戸の幕臣; 御書院番、和学者、
[市兵衛(; 通称)の名/別通称]別名; 一重/重方いげかた、別通称; 伝四郎
D1160 市兵衛(いちべゑ・初代吉文字屋さちもんじや、姓; 鳥飼、号; 浄雲、定栄堂) ?-? 大坂の書肆、1688から営業
D1161 市兵衛(いちべゑ・2代吉文字屋、定栄、春名智伯男) 1693-1758 66 大坂の書肆、西鶴の版權を所持、
1729「女訓文章真砂浜」著
G1139 市兵衛(いちべゑ; 通称・今村いまむら、名; 英生/英成、市左衛門男) 1671-1736 66 長崎の阿蘭陀通事;
父門、1707大通詞/08シドッチの通弁/江戸で白石との対談の通弁、29馬術師ケイズルに同行、
蘭書翻訳; 1729「阿蘭陀馬書」「阿蘭陀本草」「馬療書」訳、「阿蘭陀馬術書」「和蘭問答」著
D1162 市兵衛(いちべゑ・3代吉文字屋さちもんじや、姓; 鳥飼、名; 昭、2代目の男) 1721-93 73 大坂の書肆、
「東国名勝記」、1770読本「近代百物語」、「歌道人物記」、1808「改正月令博物筌」著
[3代吉文字屋市兵衛の号]号; 酔雅/洞齋、
E1151 市兵衛(いちべゑ・武村たけむら) ?- ? 江前期17c京の書肆、神道・闇齋門、儒医書を出版
E1152 市兵衛(いちべゑ・山中やまなか、屋号; 和泉屋/甘泉堂) ?-? 江後期(天明期)江戸芝神明三島町の書肆、
山東京伝筆の合巻を刊行、「早引文寿節用集大成」編
E1153 市兵衛(いちべゑ・須原屋すはらや、姓; 北畠、申椒堂) ?-1811 江戸の書肆、解体新書を刊行、
1792林子平に連座
D1163 市兵衛(いちべゑ・徳野とくの、玉竜亭一山) ?-? 江後期講釈師、1875「軍談業名面帳」に大坂第一
市兵衛(いちべゑ・大原) → 武清(たけきよ・大原、儒者/実録作者) E 2 6 3 4
市兵衛(いちべゑ・安藤) → 有益(ゆうえき・安藤あんどう、藩士/和算家) 4 6 6 9
市兵衛(いちべゑ・鯉屋) → 杉風(さぶらう・杉山、商家/俳人) 2 0 5 6
市兵衛(いちべゑ・高野) → 百里(ひゃくり・高野、魚問屋/俳人) E 3 7 8 3
市兵衛(いちべゑ・雛屋/紅粉屋) → 立圃(りゅうほ・野々口、細工師/俳人) 4 9 1 3
市兵衛(いちべゑ・北村) → 茂則(しげのり・北村きたむら、和算家) S 2 1 0 5
市兵衛(いちべゑ・大字屋) → 似閑(自閑じかん・今井、商家/国学者) 2 1 0 6
市兵衛(いちべゑ・貝増) → 卓袋(たくたい・貝増かいます、商家/俳人) E 2 6 2 6
市兵衛(いちべゑ・中野) → 市右衛門(いちえもん・中野道伴、儒/書肆) D 1 1 5 4
市兵衛(いちべゑ・小川) → 愛道(よしみち・小川おがわ、和算家) H 4 7 4 0
市兵衛(いちべゑ・住吉屋) → 泉明(せんめい・佐々木、商家/俳人) N 2 4 7 7
市兵衛(いちべゑ・釣燈屋) → 仙呂(せんろ・竹村、俳人) G 2 4 8 6
市兵衛(いちべゑ・勝木) → 枕山(ちんざん・勝木、国学/書家/俳) K 2 8 7 3
市兵衛(いちべゑ・村田) → 元成(初世もとなり・加保茶、狂歌) D 4 4 6 4
市兵衛(いちべゑ・村田) → 南瓜宗園(なんかそうえん、2世元成/狂歌) I 3 2 5 8
市兵衛(いちべゑ・本荘) → 維芳(いほう・本城/本荘、漢学/白話) D 1 1 9 6
市兵衛(いちべゑ・上野) → 海門(かいもん・上野うえの、儒者; 古文辞) J 1 5 0 9
市兵衛(いちべゑ・鈴木) → 寛藤(ひろふじ・鈴木すずき、幕臣/国学者) K 3 7 0 0
市兵衛(いちべゑ・宮本) → 正武(まさたけ・宮本みやもと、藩士/和算家) D 4 0 4 0

- 市兵衛(いちべゑ・奈良屋)→ 竿秋(かんしゅう・橋本/松木、俳人) D 1 5 9 1
 市兵衛(いちべゑ・関せき/白子屋)→ 清長(きよなが・鳥居とりい、絵師) 1 6 5 0
 市兵衛(いちべゑ・相木) → 紫溟(しめい・相木あいき、藩士/儒・詩人) V 2 1 8 2
 市兵衛(いちべゑ・長嶺) → 将存(まさあり・長嶺ながみね、国学者/歌人) B 4 0 2 2
 市兵衛(いちべゑ・野口) → 道直(みちなお・野口のぐち、商家/国学者) C 4 1 0 7
 市兵衛(いちべゑ・村田/大文字屋)→ 春馬(初世しゅんば・三亭、戯作者/狂歌) 2 1 6 5
 市兵衛(いちべゑ・宇高) → 信任(のぶとう・宇高うだか、藩士/歌人) H 3 5 4 7
 市兵衛(いちべゑ・須田) → 盛輔(もりすけ・須田すだ、幕臣/国学) K 4 4 1 2
 市兵衛(いちべゑ・沖) → 清別(きよわけ・沖おき/大野/三上/和氣、藩士/歌) T 1 6 8 0
 市兵衛(いちべゑ・垣本) → 忠顕(ただあき・垣本かきもと、藩士/国学) W 2 6 4 3
 市兵衛(一兵衛いちべゑ・窪田)→ 信久(のぶひさ・窪田くぼた/間/園田、国学) I 3 5 2 8
 市兵衛(いちべゑ・七里) → 蕃民(しばたみ・七里しちり、国学者) O 2 1 7 6
- J1138 一ノ(いちべつ・堀金ほりかね) ? - ? 江前期上方の俳人、堀金金公の親族か?、
 1673西鶴「生玉万句」第三花第三句入、
 [棹に成る雁かりの尾上の長閑のどかにて](花第三句/棹;脇句の船に付く、
 脇句一步;月の舩こぐ春の名山)
 一蓬庵夢翁(いちほうあんむおう)→ 了伴(りょうばん・古筆こひつ9世/平沢、鑑定家) J 4 9 3 0
 一棒庵(いちぼうあん) → 由林(ゆりん・山田やまだ、俳人) E 4 6 1 1
 一ぼゝ斎愚にちか(いちぼうさいぐにちか、狂歌)→ 国周(くにちか・豊原、絵師) B 1 7 5 5
 一抱子(いちほうし・小泉) → 安定(やすさだ・小泉こいずみ、藩士/歌人) B 4 5 3 8
 一棒子(いちぼうし) → 由林(ゆりん・山田やまだ、俳人) E 4 6 1 1
 一呆廬(いちぼうろ) → 樗良(ちよら・三浦、俳人) 2 8 3 1
- C1156 一卜(いちぼく) ? - ? 俳人、1692遠舟「八重一重」独吟入
 G1140 一幕(いちまく) ? - ? 姫路?の俳人、1692才麿「椎の葉」1句入、
 [其の紅葉もみち時代蒔絵か冬の山](椎の葉;158/冬山に残る紅葉は古い時代の蒔絵)
 市正(いちまさ・小林) → 重年(しげとし・小林こばやし/藤原、神職/国学) O 2 1 4 0
- D1164 市松(いちまつ・初世佐野川、出方甚之助)1722-62 伏見の武士の子/出方甚蔵の養子;京歌舞伎役者、
 1733都万太夫座子役/36若衆方/1741江戸中村座出演;「高野心中」の糸之介役;
 紺と白の石畳模様の衣裳から市松模様が流行/1754若女形に転向;62江戸女形最高位、
 [市松の俳名/屋号] 俳名;盛府せいふ、屋号;新万屋/芳屋、
 市松(いちまつ・二世佐野川;1767襲名)→ 愛蔵(あいぞう・坂東) C 1 0 4 6
 市松(いちまつ・三世佐野川;1784襲名)→ 糸太郎(いとたろう・中村、写楽錦絵のモデル) B 1 7 7 3
 市松(いちまつ・市野) → 東谷(とうこく・市野いちの、商家/儒者) E 3 1 0 8
 市松(いちまつ・成田) → 元長(もとなが・成田なりた、村役/国学) K 4 4 8 8
 一沫(いちまつ・いつまつ・海) → 海一沫(かいいつまつ、浄瑠璃作者) I 1 5 3 6
- G1141 一丸(いちまる・十方舎/橘園)?- ? 江後期安藝広島島の戯作者、
 1850「異国噺」-51「宮島土産」著
 E1131 一麿(一丸いちまる・石橋、屋号;上総屋、雀庵男)?-? 江戸吉原上総屋の主人、俳人;局庵逸志門、
 1744「華尋集」編、54「たがため」著、吉原俄の発起人、
 [一麿の別号] 宗義観/雀々堂、夢中散人寝言先生?
 「辰巳之園」(1770)の夢中散人と同一?→ 寝言先生(ねごとせんせい) 3 4 5 8
- G1142 市万呂(いちまる・3世桑揚庵、池田)?-? 浅草の狂歌作者:2世桑楊庵(干則)門、
 1828「摭葉大成」著
 一万翁(いちまんおう) → 羅江(らこう・中嶋なかじま/源、俳人) B 4 8 3 2
 一万井(いちまんせい) → 素粒(そりゅう・黒部くろべ、俳人) K 2 5 5 4
 一万鳥車(いちまんちやうしゃ)→ 羅江(らこう・中嶋なかじま/源、俳人) B 4 8 3 2
 一万堂(いちまんどう) → 環山(かんざん・竹内、俳人) I 1 5 2 4
 一万堂朝市始丸(いちまんどうあさいちあじめまる)→ 元緒(もとお・長沢ながさわ/井上、商家/歌) K 4 4 8 6
 一味(いちみ・関) → 仙籟(せんらい・関せき、藩儒) N 2 4 2 2
 一味庵(いちみあん) → 眞弓(まゆみ・森本もりもと、商家/国学/歌) P 4 0 3 5

- 一妙院(いちみょういん) → 日堯(にちぎょう;法諱・孝弁、日蓮僧) B 3 3 3 8
一妙院(いちみょういん) → 日導(にちどう;法諱・智溪、日蓮僧) C 3 3 9 9
一妙開程芳(いちみょうかいていほう;隱号) → 国芳(くによし・歌川、絵師) B 1 7 0 1
- J1146 一夢(いちむ・正木まさき) ? - ? 江前期上方の俳人;1678西鶴「物種集」入、
[次馬つぎうまの沓音くつおと高し鞠小川](物種集/次馬;継馬;宿継の伝馬、
前句;宇津の山辺に暮かゝる公家、謡曲「遊行柳」;暮に数ある沓の音)
- D1165 一夢(いちむ・空色軒) ? - ? 遊里研究、1688「諸国色里案内」序
- C1107 一夢(初世いちむ・石川いしかわ、名;平助、後号;一口、通称;会津屋佐兵衛)1804-54/51 江戸牛込塗物師、
1842講釈師;世話愁嘆場が得意、「佐倉義民伝」、52合巻「恵雨墨田川葉櫻」「東山櫻荘子」著
- G1143 一夢(2世いちむ、2世一口、文流)?-? 講釈師;初世門
- D1166 一夢(3世いちむ、七百両の金五郎)1804-1900?97歳? 講釈師;3世焚出し喜三郎門
- 一夢(いちむ・平沢) → 香山(こうざん・平沢ひらさわ、藩儒者) G 1 9 3 6
一無(いちむ) → 丈左(じょうさ、俳人) M 2 1 7 8
一無(いちむ・神野) → 菊叢(きくそう・神野じんの、儒/詩歌) I 1 6 4 7
一夢庵(いちむあん) → 夜白(やはく・長谷川はせがわ、商家/俳人) D 4 5 9 6
一無軒(いちむけん) → 道冶(どうや、医者/地誌) H 3 1 5 6
一夢斎(いちむさい) → 直家(なおいえ・稲富/大江、砲術家) 3 2 6 9
一夢斎(いちむさい) → 方静(ほうせい・市川いらかわ、藩士/和算) C 3 9 0 1
一無堂(いちむどう) → 志道軒(しどうけん、講釈師) F 2 1 2 7
一夢道人指漏漁者(いちむどうじんしろうぎょしゃ) → 元良(げんりょう・平野、医者) N 1 8 0 7
- G1144 一鳴(いちめい・鈴木すずき、名;汪/重元、通称主馬)?-1818 秋田藩士/儒者;金岳陽/精里/北山門、
1817秋田藩校明德館文学/弓術惣流助教、「戦国策百一集」/1816「如不及斎別号録」編、
[一鳴の別号] 北溟釣客/万頃
- 一明(いちめい/かざあき・戸原) → 雨橋(うきはし;通称・戸原とばら、医/儒/尊王) C 1 2 0 9
一明(いちめい・葛西/佐藤) → 一清(かずきよ・佐藤/葛西かさい、和算家) M 1 5 1 8
一無(いちむ・丈左房) → 丈左(じょうさ・岸きし、俳人) S 2 2 2 6
一無庵(いちむあん) → 丈左(じょうさ・岸きし、俳人) S 2 2 2 6
一猛斎(いちもうさい) → 芳虎(よしとら・歌川うたがわ/永島、絵師) F 4 7 1 1
一黙香(いちもくこう) → 湖十(2世こじゅう、村瀬/深川、俳人) C 1 9 8 3
一黙子(いちもくし) → 宗園(そうえん;法諱・春屋;道号、臨濟僧) G 2 5 3 1
- G1145 市守(いちもり・秀能井ひでのい/藤屋、本姓;藤原)?-? 寛永-承応1624-55頃大和春日社の禰宜、
兄時守と梵舜ぼんしゅんを訪問、1655「春日社記抄」「春日年中行事聞書抄」著、
[市守の通称] 主膳/主膳正
- 一文字白根(いちもんじしらね) → 白根(しらね・一文字、武士/狂歌作者) D 2 2 1 8
一文舎銭丸(いちもんしゃぜにまる) → 銭丸(ぜにまる・一文舎いちもんしゃ、狂歌) L 2 4 4 0
- J1128 医茶(いちや/えいちや) ? - ? 江中期俳人、
1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;貞因[貞柳貞峨の父]25回忌・貞峨13回忌追善集)入、
[袖笠や石碑の陰の村しぐれ](しぐれの碑)
- G1146 一山檢校(いちやまけんぎょう) ? - ? 三弦;柳川流/光崎檢校(1821登官)師
- G1147 一雄(いちゆう;法諱・号;侍従、了尊男)?-? 江前期;紀伊真宗本願寺派僧/性応寺8世、
1624「真宗正依典籍集」編
- C1157 一有(いちゆう) ? - ? 江前期;永養寺僧/俳人・西武門、
1657「沙金袋」入
- J1137 一友(いちゆう・岡野おかの) ? - ? 江前期撰津伊丹の俳人、
1673西鶴「生玉万句」第二桜貝発句入/1678西鶴「物種集」入、
[九この枝えや八重の塩ふく櫻貝](桜貝発句/九の枝;九重)
- C1158 一友(いちゆう・竹田たけだ) ? - ? 江前期伊勢津の俳人、1672「貝おほひ」入、
[消え残る雪間や諸足もろあしふんごんだ](貝おほひ;五番右)
- B1126 一有(いちゆう・斯波しば/岩井いかわ、別号;渭川/松風軒、園女の夫)?-1705? 伊勢山田の医者、
俳諧;望一門、雑俳判者、1685「あけ鴉」編、1691江水「元禄百人一句」入、

1692妻園女と大阪住、1694芭蕉を自邸に招く、1705(宝永2)秋に没か?
[琵琶を袋す楼上の月](あけ鴉;三吟[暮眠堂・一有・雷枝]の脇句、
前句[暮秋の松自然と涙こぼれけり]暮眠堂らうみんどう)
[帯おび古しいまだ旅なる衣更ころもがへ](百人一句;96)、

参考 → 園女(そのめ・秦、医/俳人) 2527

- G1148 一有(いちゆう)・桜山さくらやま、別号;不二庵)1645-1728⁸⁴ 遠州流茶人;一斎門、肥後細川家の茶頭、
「桜山不二庵聞書」著
- G1149 一友(いちゆう) ? - ? 備後福山の俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
- G1150 一雄(いちゆう) ? - ? 大坂噺会員;1810浪花一九「画ばなし当時梅」入
- G1151 一由(いちゆう)・窓月齋そうげつさい、姓;小高/修姓;鷹)?-1860 華道:貞月齋一叟門、正風遠州流插花、
1826「月の友」41「月のさかえ」著、44「插花衣之香」編/「插花月のさかえ附録」著
- G1152 一雄(いちゆう)・鮎川あゆかわ、名;元恒、通称伝八、元房男)1813-69⁵⁷ 丸亀藩士/雑賀頭;火薬製造、
儒;父門、四条派画を修得、未生流生花;生々庵春甫門、1851/60「一帆青」画、
[一雄の別号] 篤行斎
- 一雄(いちゆう)・伊集院) → 元巢(げんそう)・伊集院いじゅういん、武将) K1875
- 一雄(いちゆう)・渡辺) → 吉光(よしみつ)・渡辺わたなべ、武将) H4751
- 一雄(いちゆう)・恵藤) → 一雄(かずお)・恵藤えとう、国学者/歌) C1516
- 一雄(いちゆう)・俳名) → 久助(きゅうすけ)・初世福森、歌伎作) 1627
- 一雄(いちゆう)・長尾) → 景範(かげのり)・長尾ながお、軍学/詩文) L1517
- 一雄(いちゆう)・扇屋) → 一雄(かずお)・扇屋おうぎや、噺本作者) F1519
- 一雄(いちゆう)・池口) → 杏圃(きょうほ)・池口いけぐち、藩士/儒者) O1651
- 一由(いちゆう)・喜田) → 折年(のりとし)・喜田きた、大工/庄屋/国学) I3515
- 一幽(いちゆう) → 宗因(そういん)・西山/西、俳人/連歌) 2503
- J1125 惟忠(いちゆう)・道号・守勤しゅごん;法諱)?-1447 摂津の曹洞僧;竺仙得仙門/法嗣、
1430能登総持寺輪住71世/のち摂津護国寺・丹波慈眼寺・下野宇都宮桂林寺住持、
丹波に大寧寺開創;没、1415「護国竺仙僊和尚行録」編、「大寧寺置文」著
- 1119 惟中(いちゆう)・松永まつなが[松長]/岡西[岳西]おかにし、名:勝/旦)1639-1711⁷³ 因幡鳥取の生、
のち備前岡山に住、1678大坂道修町の西に移住、幼少より書に親しむ、
歌;資慶門・書;尊証法親王門、俳諧;宗因門;談林派、詩;南源和尚門/連歌;昌益門、
儒学も修学、談林俳諧の論客として貞門側を批判、荘子の寓言を以て「俳諧寓言論」を主唱、
自己宣伝・術学的言辞で談林内部でも反感を買う、
1675「俳諧蒙求」79「近来俳諧風体抄」80「続無名抄」、「俳諧三部抄」「太郎五百韻」著、
歳旦詩集「戊辰試毫」、「一時随筆」、「あまこのすさび」「続無名抄」著、
1682春林「俳諧百人一句難波色紙」82風黒「高名集」入、
雑俳;1696良弘「俳諧高天鶯たかまのうぐいす」点入
[底なしや玉にもぬけるあられ酒](俳諧三部抄;あられ酒は糯米麴をうかべた酒)、
(参考;浅緑糸よりかけて白露を玉にもぬける春の柳か 古今集 遍和)、
[虚を實にし実を虚にし是なるを非とし非なりを是とする荘子が寓言
これのみにかぎらず全く俳諧の俳諧たるなり](俳諧蒙求)、
[惟中の別号] 玄旦・一時軒・草庵ノ一瓢子・竹馬童子・一崩道人・間々翁・飯袋子はんたいす・
北水浪士
- D1167 以忠(いちゆう)・奈古屋なごや、字:大慶/大夏、匡直男)1702-81⁸⁰ 萩藩士;1719家督/34歳元検使役、
1738未定方検使暫役/儒者;山県周南門・連歌/茶事、「検使録」著、
[以忠(;名)の通称/号] 松菊/与七/九郎右衛門、号;大原たいげん
- 以忠(いちゆう)・岡部) → 以忠(以礼ゆきただ)・岡部、藩士/執政) E4676
- 以忠(いちゆう)・小笠原) → 以忠(これただ)・小笠原おがさわら/源、国学) Q1940
- 伊忠(いちゆう)・藤原) → 伊忠(これただ)・藤原ふじわら、廷臣/歌人) O1946
- 依仲(いちゆう)・安藤) → 陽洲(ようしゅう)・安藤/高畑、藩儒) B4710
- 維中(惟中いちゆう)・藤田) → 維中(惟中これなか)・藤田、国学/歌人) O1958
- 惟忠(いちゆう)・道号) → 通恕(つうじよ)・法諱・惟忠:道号、臨濟僧) 2939

- 惟忠(いちゆう) → 守勤(しゅこん・惟忠、曹洞僧) Y 2 1 7 6
 惟忠(維忠いちゆう→これただ・窪井)→ 鶴汀(かくてい・窪井、藩士/儒者) H 1 5 3 4
 惟忠(いちゆう/これただ・中西)→ 深斎(しんさい・中西、医者/傷寒論研究) O 2 2 4 2
 惟忠(いちゆう・並河) → 惟忠(これただ・並河なみかわ、地誌家) O 1 9 4 7
 惟忠(いちゆう・佐伯) → 惟忠(これただ・佐伯さえき、藩士/国学者) Q 1 9 8 7
 惟仲(いちゆう/これなか・高階)→ 雅仲(まさなか・高階たかしな、廷臣/記録) F 4 0 0 7
 惟冲(いちゆう・小西) → 澹斎(たんさい・小西、藩士/儒者/地誌) I 2 6 1 8
 為忠(いちゆう) すべて → 為忠(ためただ)
 為仲(いちゆう) すべて → 為仲(ためなか)
 意仲(いちゆう・和久田) → 叔虎(よしとら・和久田わくだ、藩士/儒/医) F 4 7 1 0
 威仲(いちゆう・柴田) → 義董(ぎとう・柴田しばた、絵師) G 1 6 0 2
 一幽軒(いちゆうけん) → 守遊(しゅゆう・辻/前田、役人/詩歌) 2 1 8 1
 一遊軒(いちゆうけん) → 等裁(とうざい・洞哉/等哉とうさい・神戸、俳人) E 3 1 1 8
 一遊斎(いちゆうさい、絵師)→ 重政(2世しげまさ・北尾、北川美丸よしまる) S 2 1 6 5
 一勇斎(いちゆうさい) → 国芳(くによし・歌川、絵師) B 1 7 0 1
 一雄斎(いちゆうさい) → 国貞(くにさだ・歌川、絵師) 1 7 2 9
 一雄斎(いちゆうさい) → 国輝(くにてる・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 9 8
 一雄斎(いちゆうさい) → 国綱(くにつな・歌川、2世国輝/絵師) B 1 7 5 6
 一幽斎(一遊斎いちゆうさい)→ 広重(ひろしげ・歌川/安藤、幕臣/絵師) G 3 7 0 2
 一幽斎(いちゆうさい・歌川)→ 広重(2世ひろしげ・歌川/安藤、絵師) G 3 7 0 4
 倚柱子(いちゆうし) → 紀逸(きいつ・慶、俳人) 1 6 0 1
 一有の妻(いちゆうのつま・斯波)→ 園女(そのめ、眼科医/俳人) 2 5 2 7
 一雄房(いちゆうぼう) → 寸昌(すんしょう・柿崎かきざき、俳人) H 2 3 3 0
 以緒(いちよ・橘) → 以緒(もちお・ゆきお・橘/薄/菅原、廷臣/詩) B 4 4 3 3
 C1160 一要(いちよう) ? - ? 俳人;1690常数「万歳楽」歌仙入
 I1126 一葉(いちよう) ? - ? 江前期上州松井田の俳人;1691不角「二葉之松」入、
 [一房ふとぶさの華はなかぎまはす囚獄ひとやにて](二葉之松;198/前句;唯しばらくを千日の栄)
 G1153 一陽(いちよう・関せき安静、別号;一陽斎)?-?1730存 常陸中染村儒者/講説業、1730「理気篇俗談」著
 G1154 一葉(いちよう・春秋軒) ? - ? 江中期上方華道/江戸住、遠州流花道の祖、
 「插花正伝記」著、門弟;春草庵一枝/本松斎一得ら
 C1161 一葉(いちよう・生田いくた) ? - ? 江中期俳人/雑俳:灘連集筆所会所、
 1747雑俳撰集「兎の目」編;集筆(灘連林水・五仙・竹比ら願主の須磨寺外10寺社奉納句)
 G1155 一葉(いちよう・千菊園、伊藤恒徳/通称;直吉)?-? 江後期仙台狂歌作者;千柳亭一葉門/柳連判者、
 1828「狂歌鼎足集」編、「狂歌新撰六々画像集」編/「瑠璃の壺」著、
 [千菊園一葉の別号] 初号:柳鞆林千条りゅうたりんせんじょう、翠千条
 G1156 為蝶(いちよう・井本いもと、名;徳義、通称長次郎、美濃野村藩奉行井本精行男)1749-182072 美濃俳人、
 茶・華道に通ず、1789「十かへりの花」著、93「鷹の石ぶみ」(;兄免孔めんこうらと共編)
 K1155 銀杏(いちよう・畠中はたなか)1843-192886 摂津兵庫の歌人;拝郷蓮茵・藤井祐貞門
 一葉(いちよう;号) → 尊通(そんつう;法諱、天台園城寺学僧) E 2 5 9 9
 一葉(いちよう・楊柳軒、俳名)→ 成亮(せいりょう・野田、修験者/俳人) D 2 4 1 6
 一葉(いちよう・安藤) → 為実(ためざね・安藤、国学/歌人) G 2 6 8 6
 一葉(いちよう・千柳亭) → 唐麿(からまる・千柳亭/錦織、綾彦、狂歌) F 1 5 9 6
 一要(いちよう;字) → 日量(にちりょう;法諱・本寿院、日蓮僧) D 3 3 6 6
 一要(いちよう・木原) → 正直(まさなお・木原きはら、庄屋/儒者) P 4 0 1 4
 一陽(いちよう・金) → 易右衛門(いえもん・金こん、藩士/養蚕) F 1 1 0 4
 一陽(いちよう・石野/佐々木)→ 一陽(かずあき・佐々木、幕臣/歌) M 1 5 0 3
 一陽(いちよう・芝;画号) → 義正(よしまさ・雨宮あめのみや/源、国学者) L 4 7 2 9
 一庸(いちよう・久野/平井)→ 其両(きりょう・久野/平井、藩士/俳人) H 1 6 6 9
 伊長(いちよう) すべて → 伊長(これなが)
 以長(いちよう・高辻) → 以長(もちなが・高辻/菅原、廷臣/漢学) B 4 4 5 3

夷長 (いちよう・前田)	→ 純陽(じゅんよう・前田/菅原/菅、藩医/詩)	L 2 1 9 7
維長 (いちよう・源)	→ 維長(これなが・源、廷臣/歌)	O 1 9 5 9
維長 (いちよう・堤)	→ 維長(つななが・堤、江戸期廷臣)	B 2 9 1 6
維張 (いちよう・武田)	→ 千穎(ちかひ・武田たけだ/三好、藩士/歌)	M 2 8 8 1
惟長 (いちよう・市瀬)	→ 惟長(これなが・市瀬いちせ、和算家)	O 1 9 6 1
惟朝 (いちよう・梅園)	→ 惟朝(これとも・梅園、国学者)	F 1 9 9 8
惟澄 (いちよう・阿蘇)	→ 惟澄(これすみ・阿蘇あそ、神職/南朝軍)	O 1 9 4 1
惟聴 (いちよう・;法名)	→ 隆基(たかもと・油小路あぶらのこうじ/藤原/広橋、廷臣)	V 2 6 2 7
為長 (いちよう) すべて	→ 為長(ためなが)	
偉長 (いちよう・小宮山)	→ 桂軒(けいけん・小宮山こみやま、儒者/詩)	E 1 8 6 5
慰蝶 (いちよう・西村)	→ 時弘(ときひろ・西村にしむら、家老/国学)	W 3 1 0 2
懿長 (いちよう・吉田)	→ 懿長(よしなが・吉田よしだ、国学/歌人)	Q 4 7 0 7
一陽庵 (いちようあん)	→ 雪旦(せつたん・長谷川/後藤、絵師)	E 2 4 5 4
一葉庵 (3世いちようあん)	→ 滄波(そうは・一葉庵3世、俳人)	I 2 5 6 7
一葉庵 (いちようあん)	→ 藍水(らんすい・神沢かざわ、俳人)	C 4 8 7 6
一葉庵 (いちようあん)	→ 千秋(ちあき・山原まはら、俳人/国学)	N 2 8 7 2
一陽軒 (いちようけん)	→ 英得(えいとく・一陽軒、絵師)	D 1 3 2 5
一葉軒 (いちようけん)	→ 一永(いちえい・盛もり/さかり、俳人)	G 1 1 0 2
為蝶軒 (いちようけん)	→ 正長(まさなが・鈴木すずき、藩家老/農政)	F 4 0 3 2
一陽斎 (いちようさい)	→ 梅溪(ばいけい・李り、漢学者)	B 3 6 0 0
一陽斎 (いちようさい)	→ 一陽(いちよう・関せき安安静、儒者)	G 1 1 5 3
一陽斎 (いちようさい)	→ 永納(えいのう・狩野、絵師)	1 3 4 4
一陽斎 (いちようさい)	→ 豊国(初世とよくに・歌川、絵師)	3 1 6 4
一陽斎 (いちようさい)	→ 豊国(2世とよくに・歌川うたがわ、絵師)	R 3 1 1 4
一陽斎 (いちようさい)	→ 国貞(初世くにさだ・歌川、絵師)	1 7 2 9
一陽斎 (いちようさい)	→ 国貞(2世くにさだ・歌川、4世豊国/絵師)	B 1 7 5 0
一陽斎 (いちようさい)	→ 国綱(2世くにつな・歌川、2世国輝/絵師)	B 1 7 5 6
一陽斎 (いちようさい)	→ 国信(初世くにのぶ・歌川、絵師/草双紙)	B 1 7 5 8
一陽斎 (いちようさい)	→ 国久(2世くにひさ・歌川うたがわ、絵師)	D 1 7 1 3
一楊斎 (いちようさい)	→ 国直(初世くになお・歌川、絵師)	1 7 7 9
一楊斎 (いちようさい)	→ 正信(まさのぶ・菱川、絵師)	F 4 0 8 1
一葉斎 (いちようさい)	→ 芳貞(よしさだ・歌川うたがわ、旅籠屋/絵師)	D 4 7 3 8
一要斎 (いちようさい)	→ 芳重(よししげ・歌川うたがわ、絵師)	D 4 7 6 6
一養斎 (いちようさい)	→ 芳滝(よしたき・歌川うたがわ/中井、絵師)	E 4 7 1 5
一曜斎 (いちようさい)	→ 国郷(くにさと・歌川うたがわ、絵師)	C 1 7 7 4
一耀斎 (いちようさい)	→ 芳玉(よしたま・歌川うたがわ/清水、絵師)	E 4 7 4 1

C1162 一葉子 (いちようし・竹立軒、本名;竹内三信) ?-? 伊勢松坂の俳人・定清門、
1659如之「伊勢正直集」入/63定清「尾蠅集」入/76西鶴「古今俳諧師手鑑」入、
[出でかぬるや尻のおもたき子もち月](手鑑/小望月;8月14日待宵月/子持母に掛る)

一鷹舎 (いちようしゃ)	→ 瓢水(ひょうすい・滝、俳人)	F 3 7 2 7
一葉舎 (いちようしゃ)	→ 仙鳧(せんぷ・一葉舎、俳人)	G 2 4 5 2
一陽井 (いちようせい)	→ 素外(そがい・谷たに/池田、商家/俳人)	D 2 5 4 0
一陽井 (いちようせい)	→ 重政(初世しげまさ・北尾きたお/中村、絵師)	2 1 1 5
一陽窓 (いちようそう・谷)	→ 素塵(そじん・谷、たみ、俳人)	J 2 5 9 6
一養亭 (いちようてい)	→ 芳滝(よしたき・歌川うたがわ/中井、絵師)	E 4 7 1 5
一陽堂 (いちようどう)	→ 和汐(わせき・北村きたむら、俳人)	5 3 3 7
銀杏の株 (いちようのかぶ)	→ 治堅(はるかた・白井うすい/森、医/歌人)	G 3 6 1 6
銀杏の下 (いちようのした)	→ 治堅(はるかた・白井うすい/森、医/歌人)	G 3 6 1 6
銀杏満門 (いちようみつかど)	→ 銀杏満門(ちちのみのみつかど、幕臣/狂歌)	E 2 8 7 5

G1157 伊陟 (いちよく/これただ・源みなもと、兼明かねあきら親王男/醍醐天皇孫) 938-995 58 平安前期廷臣;977参議/

989 権中納言/右衛門督/正三位、歌;960(天徳4)内裏歌合参加、母;伊勢守源衆望女、
息女;陟子(ただこ・源/中宮彰子の女房の宣旨/宮の宣旨・皇太后宮宣旨・大宮宣旨)

以直(いちよく・都筑) → 三友軒(さんゆうけん・都筑つづき、幕臣/俳人) M 2 0 8 1

以直(いちよく・陶山) → 訥庵(とつあん・陶山すやま、藩士/農政) O 3 1 4 0

以直(いちよく・富岡) → 以直(もちなお・富岡とみおか、商家/心学者) B 4 4 5 1

以直(いちよく・栗山) → 孝庵(こうあん・栗山、医者/解剖) H 1 9 2 2

以直(いちよく・荒井/渡辺) → 柳斎(りゅうさい・渡辺/荒井、藩士/儒者) E 4 9 0 2

以直(いちよく・矢田部/谷田部) → 以直(もちなお・矢田部やたべ、歌人) I 4 4 8 8

以直(いちよく・白崎) → 正(ただし・白崎しろさき、一実/商家/歌人) X 2 6 5 7

以直(いちよく・三上) → 超順(ちょうじゅん;法諱、三上/住職/隊長) M 2 8 9 2

依直(いちよく・館川) → 衡平(やすひら・館川たちかわ/小島、国学/尊攘) G 4 5 2 3

惟直(いちよく・曲江) → 梅齋(ばいひん・曲江いりえ/まがりえ、儒/詩歌) B 3 6 9 7

惟直(いちよく/これなお・市浦) → 毅齋(きさい・市浦いちうら、藩士/儒者) I 1 6 5 1

惟直(いちよく/これなお・黒沢) → 雪堂(せつどう・黒沢くろさわ、儒者) L 2 4 3 0

惟直(維直いちよく/これなお・三縄) → 桂林(けいりん・三縄みなわ/修姓;縄じょう、儒/詩) E 1 8 9 4

惟直(維直いちよく/これなお・広沢) → 文齋(ぶんさい・広沢ひろさわ、儒者) F 3 8 3 0

惟直(いちよく・立石) → 惟直(これなお・立石たていし、藩士/国学) R 1 9 0 0

維直(いちよく・大島) → 贅川(しせん・大島、儒者/藩儒) U 2 1 1 5

維直(いちよく・隈部) → 維直(これなお・隈部くまべ、国学者) Q 1 9 5 4

一余軒(いちよけん) → 遅望(ちぼう・辻、笹屋、俳人) F 2 8 3 6

一喜(いちよし・真羽亭) → 真羽亭一喜(しんうていいちよし、浄瑠璃作者) D 2 2 4 8

一來(いちらい) → 十万堂二世(じゅうまんどう) I 2 1 3 0

G1168 一頼(いちらい・吉田よしだ) ? - ? 撰津住人/狂歌;1666行風「古今夷曲集」1首入;258、
[鷹の鈴からりともいふ音聞かば鷺の身の毛もよだつなるらん](夷曲;冬258/足首の鈴)
一籟居(いちらいきよ) → 琴堂(きんどう・加部かべ、名主/俳人) R 1 6 4 8

G1158 一楽(いちらく・加藤かとう) ? - ? 1682存 「放鷹記」「鷹脉秘書」著

K1184 一楽(いちらく;法諱) ? - ? 江前期;上方の沙弥/歌人、
1670下河辺長流[林葉累塵集]入、

[年いたく老いて、

月花をめのさやかにて見し世のみわがおもひ出に残る老かな](林葉累塵;雑1155)

B1127 一楽(いちらく、別号;一楽子/浪速散人/八十翁) 1678-? 浄瑠璃研究者、
1756「豊竹故事」57「外題年鑑」著

岡本蘭齋と同一? → 蘭齋(らんさい・岡本1678-1762) C 4 8 1 4

一楽(いちらく・松田) → 秀任(ひでとう・松田まつだ、兵法家) D 3 7 2 8

一楽(いちらく・関) → 載甫(さいほ・関、儒者) F 2 0 0 1

一楽(いちらく・奥村) → 尚寛(なおのぶ/なおひろ・奥村おくむら、藩年寄/歌) C 3 2 0 2

一楽(いちらく・木村) → 黙老(もくろう・木村きむら、藩家老/芸能) B 4 4 1 4

一楽園(いちらくえん) → 規綱(のりつな・渡辺、家老/茶/陶芸) F 3 5 0 9

一楽翁(いちらくおう・関) → 載甫(さいほ・関、儒者) F 2 0 0 1

一楽軒(いちらくけん) → 栄治(ひではる・伊藤いとう、国学/歌人) D 3 7 7 0

一楽齋(いちらくさい) → 秀任(ひでとう・松田まつだ、兵法家) D 3 7 2 8

一楽齋(いちらくさい) → 陶里(桃里とうり・渡辺、俳人) I 3 1 1 3

一楽齋(いちらくさい) → 国清(初世くにきよ、歌川、幕臣/絵師/流罪) C 1 7 7 2

一楽齋(いちらくさい) → 鉄舟(てっしゅう・山岡、幕臣/武道家) C 3 0 4 3

B1128 一楽子(いちらくし・岡本おかもと)? - ? 浄瑠璃、

1785「中山観音夢物語」著(;一楽子九華「八尾地藏通夜物語」の続編)

一楽子(いちらくし) → 一楽(いちらく、浪速散人;1678-?、浄瑠璃) B 1 1 2 7

一楽子(いちらくし・林九華) → 義内(ぎない・林、浪華散人;1716-76) B 1 6 9 2

一楽亭栄水(いちらくていえいすい、絵師) → 一九(初世いっく・十返舎、戯作) 1 1 2 0

一蘭齋(いちらんさい) → 国綱(初世くにつな・歌川うたがわ、絵師) C 1 7 9 1

- 一利(いちり・黒田) → 一利(かずとし・黒田くろだ、藩士/歌人) M 1 5 3 0
 一利(いちり/かずとし・庄村) → 貞甫(ていほ・庄村しょうむら、商家/墳墓集録) B 3 0 6 6
 一履(いちり・一色/向山) → 黄村(こうそん・向山むこうやま/一色、幕臣/詩人) G 1 9 6 6
 一里庵(いちりあん) → 元室(げんしつ・村、俳人) J 1 8 4 2
- C1163 一竜(いちりゅう・多々良たたら、別号;南宗庵/南宗軒/宗安)?-? 江前期軍記作者、
 祖先;大内氏記録所出仕、
 1677「後太平記」編著(1617一吹の定稿/70井上家正の校訂跋文)、「雲州軍話」「残太平記」編、
 一吹と同一説あり → 一吹(いっすい・多々良/滝川吹毛、「後太平記評判」著) C 1 1 8 5
- G1159 一竜(いちりゅう) ? - ? 近江大津膳所の商人(茶店助六を営む)、
 俳人;蕉門、1689「あら野」入、
 [五月雨に柳きはまる汀かな](あら野;巻三/増水で柳の根元も危険)
- G1160 一流(いちりゅう・千葉ちば、得実斎)?-? 江中期筑前の華道家;東山流を創始、
 1767-71「抛入花簿」、「抛入花簿三編」「抛入秘伝花鏡」「東山流番山策起源」著
- 一柳(いちりゅう・須藤) → 昌勝(まさかつ・須藤/首藤すどう、兵法家) C 4 0 0 5
 一柳(いちりゅう・伊地知) → 正治(まさはる・伊地知いちぢ、藩士/兵学) G 4 0 4 5
 一笠庵(いちりゅうあん) → 陶丘(すえたか・川端かわばた、藩士/俳人) I 2 3 3 0
 一柳軒(いちりゅうけん) → 荷兮(かげい・山本、俳人) 1 5 1 0
 一柳軒(いちりゅうけん) → 寸木(すんぼく・木村、酒造業/俳人) D 2 3 6 3
 一柳軒(いちりゅうけん) → 仙山(せんざん・平岩/平巖/平、儒/詩人) F 2 4 4 6
 一柳軒(いちりゅうけん) → 不ト(ふとく・岡村おかむら、俳人) D 3 8 7 2
 一柳斎(いちりゅうさい・歌川) → 豊広(とよひろ・歌川/岡島、絵師) R 3 1 5 3
 一柳斎(いちりゅうさい・歌川) → 国孝(くにたか・歌川うたがわ、絵師) C 1 7 8 3
 一柳斎(いちりゅうさい・喜多) → 武清(ぶせい・喜多きた、絵師) C 3 8 8 9
 一竜斎(いちりゅうさい・歌川) → 豊春(とよはる・歌川、絵師/歌川派祖) R 3 1 4 8
 一竜斎(いちりゅうさい・歌川) → 国虎(くにとら・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 6 3
 一竜斎(いちりゅうさい・歌川) → 国盛(くにもり・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 6 7
 一竜斎(いちりゅうさい・歌川) → 豊国(とよくに・歌川うたがわ、絵師) R 3 1 1 4
 一竜斎(いちりゅうさい・歌川) → 芳豊(よしとよ・歌川うたがわ、絵師) F 4 7 0 9
 一立斎(いちりゅうさい・歌川) → 広重(ひろしげ・歌川/安藤、幕臣/絵師) G 3 7 0 2
 一立斎(いちりゅうさい・歌川) → 広重(2世ひろしげ・歌川/安藤、絵師) G 3 7 0 4
 一立斎(いちりゅうさい・歌川) → 広重(3世ひろしげ・歌川/安藤、絵師) G 3 7 0 5
 一立斎文車(いちりゅうさいぶんしゃ) → 文車(ぶんしゃ・一立斎、講釈師) F 3 8 6 8
 一柳子(いちりゅうし・須藤) → 昌時(まさとき・須藤、藩士/兵法家) E 4 0 3 4
- I1173 一粒万倍(いちりゅうまんばい) ? - ? 江戸狂歌;1787「才蔵集」2首入:30/287
 [まだ春の寒さにとけぬはなの先梅さへ雪の頬かぶりして](才蔵集;30/残雪)
- E1159 一漁(いちりゅう・初世いちりゅう/いつりゅう・鶴海[鶴見]つるみ)?-1735 江中期江戸の俳人;其角門、
 湖十と共に江戸座其角座の中心、1716風葉「江戸筏」独吟歌仙入、
 [紫陽花あぢさゐの乾きかねたる妬みかな](江戸筏;第十二歌仙発句)
 [初世一漁(;号)の通称/別号]通称;嘉平治、別号;釣月堂/松窓
- E1160 一漁(2世いちりゅう/いつりゅう・鶴海つるみ、松窓)?-1768? 江中期江戸俳人:一漁座点者、
- B1129 一漁(3世いちりゅう/いつりゅう・鶴海つるみ、松窓、須田すだ長隠ちよういん、2世養子)?-? 俳人;一漁門、
 1754竹翁「俳諧童の的」点句入/1774「江戸近在所名集」、山田長隠の師
- G1161 一漁(4世いちりゅう/いつりゅう・鶴海つるみ、松窓、3世養子)?-? 江中後期江戸俳人、
 1778俳諧作法書「俳諧礎はいかいそ」、1779「鶴の脛」、1837「良夜集」著
 一了軒夫丸(いちりゅうけんそれまる) → 夫丸(それまる・一了軒、狂歌作者) 2 5 7 5
- B1130 一麟(いちりん;法諱・天祥;道号、号;一庵/也足子、九条道教男) 1329-1407? 京の臨濟僧;
 建仁寺東海門/雪村・竜山門、建仁寺67世/南禅寺57世、
 語録;1407「龍涎集」、「仏祖暦年図」「蔵叟箋」著
- G1162 一林(いちりん) ? - ? 京の俳人;1702轍士「花見車」入、
 [水無月や夕べ夕べに生きかへり](花見車;139/死ぬほどの暑さ)

- J1123 一麟(いちりん;道号・能仁のうにん;法諱、法号;麒山一麟)1750-85^{36歳} 周防の臨濟宗普賢寺の沙弥;
駿河松陰寺の遂翁元盧門、学僧;駿河で私塾楽山亭を開く;門弟多数、山梨稲川の師、
稲川に「淳化閣帖」を譲渡、詩人、赤松滄洲(1721-1801)父子と交流、
富士登山を好む;「登芙蓉」外詩賦多数、稲川「思旧漫録」記事入、
[高岫寸雲天下雨 陰崖片雲日東寒](;登芙蓉)
一麟斎(いちりんさい・歌川)→ 芳庸(よしかど・歌川うたがわ、商家/絵師) C 4 7 9 4
一麟堂(いちりんどう) → 仙塙(せんう・細木ほそき/さいき/源、商家/狂歌) L 2 4 6 7
- B1131 一礼(いちれい・柏かした/柏谷かしたに・初姓;中村なかむら、別号;志計しげい/柏雨軒)?-? 江戸の俳人:宗因門、
大阪転住、1673西鶴「生玉万句」入/75談林十百韻入、1679「ぬれ鳥」益友と共編、
1680「投盃なげさかずき」編、1680「大坂八百韻」4吟百韻(益翁/正猛/均朋と)入、
1681賀子「山海集」入、1682春林「俳諧百人一句難波色紙」/1702轍士「花見車」入、
1707「高田集」編、
[武士の子や正行まさつら作る雪あつめ](花見車;50/忠義孝行の武将楠正行の像を作る)
- C1164 一蠡(いちらい) ? - ? 大阪俳人、1691賀子「蓮実」/92困水「くやみ草」入、
[我が宿の野菊を今日の詠ながめ哉](蓮実;重陽345)
市令(いちらい・西川) → 永年(ながとし・西川にしかわ、医者) O 3 2 2 2
一礼斎(いちれいさい) → 国信(初世くにのぶ・歌川、絵師/草双紙) B 1 7 5 8
一礼斎(いちれいさい) → 芳信(よしのぶ・歌川うたがわ、絵師) F 4 7 7 3
一麗斎(いちれいさい・歌川)→ 国盛(2世くにもり・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 6 7
一蓮社向誉(いちれんしゃこうよ)→ 関通(かんつう;法諱・無礙、浄土僧) R 1 5 4 3
一蓮社立誉(いちれんしゃりつよ)→ 貞極(ていごく;法諱、浄土僧/道場開設) 3 0 7 5
一蓮精舎(いちれんしやうじゃ)→ 快存(かいぞん、其阿、時宗遊行上人50世) I 1 5 9 1
一練窓(いちれんそう) → 素丸(初世そまる・長谷川馬光、俳人) 2 5 2 9
一練窓(いちれんそう) → 素丸(2世そまる・溝口/吉田、幕臣/俳人) E 2 5 3 6
- E1142 一露(いちろう・南森) ? - ? 大和郡山雨森俳人、1689言水「前後園」90順水「破暁集」入、
1690言水「新撰都曲みやこぶり」4句入;[木菟の耳ふる花の吹雪かな]
- C1165 一路(いちろう) ? - ? 俳人:1709言水「京拾遺」言水らと三吟入
- B1132 一鷲(いちろう・京屋[;屋号]・通称;重助)?-1730 伊賀上野の商人/俳人・蕉門、
1698「続猿蓑」2句入/有磯海・枯尾花に入、
[はれやかに置床おきどこなほす花の春](続猿;巻下/置床は仮の床の間/少年時の句)
- G1163 一路(いちろう・鈴木すずき、白雲戸、権兵衛男)?-1759 志摩鳥羽の生/肥前唐津に移住/浄土僧、
大村長安寺住職、俳人;春波門、「轟滝集」著
一路(いちろう・榎本) → 清蔭(きよかげ・榎本えのもと、藩士/国学) T 1 6 6 3
一廬(いちろう・望洋園) → 謙蔵(けんぞう・中野なかの、浦年寄/俳人) N 1 8 4 4
一露(いちろう・是心軒) → 是心軒(初世ぜしんけん、能勢、華道家) K 2 4 6 2
一露(いちろう) → 守理親王(しゅりしんのう、門跡/歌) Z 2 1 1 2
一魯(いちろう・高梨) → 紅葉(こうよう・高梨たかなし/高、儒者/詩) L 1 9 4 9
一露庵(いちろうあん) → 湛水(たんすい・小淵おぶち、医者/俳人) I 2 6 9 3
一炉庵(いちろうあん) → 風香(ふうこう・田中たなか、藩士/俳人) 3 8 5 9
- G1164 一桜(いちろう・大和屋作右衛門、別号;千里岱せんりたい)?-? 江戸俳人、1834「朧夜集」編/34「両吟集」、
1836「文音録二編」編
- K1174 一郎(いちろう・山崎やまさき、久陰[八峰やつお]男)1846-76³¹ 遠江佐野郡の神職の家の生、
国学;草鹿砥宣隆のぶたか門、戊辰戦争;父と弟の豊と遠州報国隊に参加;新政府に随う、
維新後;招魂社社司、のち兵部省/海軍省に出仕、
[一郎(;名)の別名/通称]別名;久継、通称;富丸
一老(いちろう;号) → 守理親王(しゅりしんのう、仁和寺門跡) Z 2 1 1 2
一老(いちろう) → 丘山(きゅうざん・岳亭、絵師/戯作) C 1 6 0 3
一郎(いちろう・横山) → 儂人(たんじん/せんじん・横山、儒者) I 2 6 4 0
一郎(いちろう・間宮) → 升芳(のりよし・間宮、国学/歌) G 3 5 3 0
一郎(いちろう・間宮) → 永好(ながよし・間宮まみや、藩士/国学者) G 3 2 4 7

一郎(いちろう・富田) → 織部(おりべ・富田とみた、勤王家) C 1 4 0 0
 一郎(いちろう・玉井) → 海嶠(かいきょう・玉井たまい、医者/儒詩) I 1 5 5 4
 一郎(いちろう・南部) → 利謹(としのり・南部なんぶ、有職故実) N 3 1 3 2
 一郎(いちろう・神谷) → 蘿父(羅父らふ・神谷、俳人/書) B 4 8 5 0
 一郎(いちろう・片山/相馬) → 九方(きゅうほう・相馬/片山、儒者/詩) I 1 6 7 7
 一郎(いちろう・竜) → 世華(つぐあき・せいか・竜たつ、藩儒/歌人) F 2 9 9 9
 一郎(いちろう・本庄) → 星川(せいせん・本庄/本荘ほんじょう、藩儒) C 2 4 4 7
 一郎(いちろう・河村) → 殷根(滋根しげね/のぶね・河村、国学者) C 2 1 6 6
 一郎(いちろう・渋谷) → 棕逸(そういつ・渋谷しぶや、医者/詩文) F 2 5 9 9
 一郎(市郎いちろう・波多) → 完(またし・波多はた/秦/金原、国学者) J 4 0 4 3
 一郎(いちろう・北川/香川) → 琴橋(きんきょう・香川かがわ、儒者) Q 1 6 8 0
 一郎(いちろう・岡) → 熊臣(くまおみ・岡おか、神職/国学) 1 7 2 4
 一郎(いちろう・有馬) → 養成(よしなり・有馬ありま、藩士/和漢学) F 4 7 4 1
 一郎(いちろう・柳田/森寺) → 美郷(よしさと・森寺もりでら/柳田、歌人) D 4 7 4 6
 一郎(いちろう・百々) → 俊範(しゅんぱん・百々どど、医者) L 2 1 7 7
 一郎(いちろう・立野) → 寛(ひろし・立野たての、藩士/儒者) F 3 7 9 2
 一郎(いちろう・丸川) → 松隠(しょういん・丸川まるかわ、藩儒) F 2 2 1 9
 一郎(いちろう・藤野) → 長春(ながはる・藤野ふじの、書・篆刻家) F 3 2 3 9
 一郎(いちろう・鍋島) → 誠(まこと・鍋島なべしま/松平/龍造寺、国学) Q 4 0 0 3
 一郎(いちろう・梅村) → 眞守(まもり・梅村うめむら/坂本/金子/小林/平、勤王家) O 4 0 0 1
 一郎(いちろう・山本) → 速雄(はやお・山本やまもと/亀井、藩士/官吏) K 3 6 9 4
 一郎(いちろう・松山) → 高吉(たかよし・松山まつやま、国学/牧師) Z 2 6 6 4
 市郎(いちろう・新井) → 滄洲(そうしゅう・新井/佐久間、藩儒/詩) B 2 5 8 1
 市郎(いちろう・広瀬) → 巖男(いざお/よしお・広瀬、商家/国学者) F 1 1 7 1
 市郎(いちろう・飯田) → 惟徳(これのり・飯田いいた、歌人) E 1 9 7 3
 市郎(一郎いちろう・仙田) → 正敏(まさとし・仙田せんだ、藩士/勤王派) E 4 0 5 1

B1133 市郎右衛門(いちろうえもん・西村にしむら、名;久重)?-1696 京の出版書肆、浮世草子作者;
 1685「宗祇諸国物語」86「好色三代男」87「御伽比丘尼」著、俳人;1682「俳諧関相撲」著、
 [市郎右衛門(通称)の号]号;未達みたつ/嘯松子/城坤散人じょうこんさんじん/茅屋子ぼうおくし

D1168 市郎右衛門(いちろうえもん・山形屋やまがたや)?-? 江前期元禄期;1688から江戸地本問屋
 市郎右衛門(いちろうえもん・森脇) → 春方(はるかた・森脇、武将/記録) G 3 6 1 4
 市郎右衛門(いちろうえもん・檜村/檜林) → 長教(ながのり・檜村、軍記作者) F 3 2 2 7
 市郎右衛門(いちろうえもん・沖野) → 南溟(なんめい・沖野おきの、儒者/詩) J 3 2 5 4
 市郎右衛門(いちろうえもん・鷹見) → 星臯(星岡せいこう・鷹見、藩士/儒/詩) B 2 4 4 5
 市郎右衛門(いちろうえもん・小寺) → 遵路(ゆきみち・小寺こでら、藩士/儒者) F 4 6 6 7
 市郎右衛門(いちろうえもん・大塚) → 嘉樹(よしき・大塚おおつか蒼梧、故実家) D 4 7 0 3
 市郎右衛門(いちろうえもん・藤屋) → 露川(ろせん・沢さわ、商家/俳人) 5 2 0 7
 市郎右衛門(いちろうえもん・米屋/坂野) → 致知(むねとも・坂野さかの、商家/歌人) B 4 2 8 9
 市郎右衛門(いちろうえもん・露木) → 府尺(ふしゃく・露木つゆき、俳人) C 3 8 6 7
 市郎右衛門(いちろうえもん・稲葉) → 英好(ひでたか・稲葉いなば、国学者) I 3 7 5 2
 市郎右衛門(いちろうえもん・俣野) → 景明(かげあき・俣野またの、藩士/蘭学) K 1 5 6 8
 市郎右衛門(いちろうえもん・綿屋) → 後川(ごせん・小寺/和田、酒造業/俳人) B 1 9 5 7
 市郎右衛門(いちろうえもん・岡村) → 不卜(ふぼく・岡村おかむら、俳人) D 3 8 7 2
 市郎右衛門(いちろうえもん・後藤) → 直満(なおみつ・後藤ごとう、商家/国学/歌) M 3 2 1 4
 市郎右衛門(いちろうえもん・中井/斧屋) → 酔亭(すいてい・中井、心学者) E 2 3 8 6
 市郎右衛門(いちろうえもん・坂野) → 敏知(としとも・坂野さかの、商家/歌) V 3 1 3 3
 市郎右衛門(いちろうえもん・鶴岡) → 冬蔭(ふゆかげ・鶴岡つるおか、本陣/国学) I 3 8 5 1
 市郎右衛門(いちろうえもん・福田) → 眞直(まさなお・福田ふくだ、旅籠経営/国学) S 4 0 2 5
 市郎右衛門(いちろうえもん・宇野) → 輔崇(すけたか・宇野うの、藩士/国学) I 2 3 1 1
 市郎右衛門(いちろうえもん・小島) → 敏言(としこと・小島こじま/村松、藩士/国学;) V 3 1 1 5

- 市郎右衛門 (いちろうえもん・藤井) → 道治(みちはる・藤井ふじい、国学者) K 4 1 3 2
 市郎右衛門 (いちろうえもん・佃) → 久徴(ひさもと・佃つくだ/源/黒田、歌人) K 3 7 1 9
 市郎右衛門 (いちろうえもん・室) → 方義(まさよし・室むろ、国学/勤王/政治家) T 4 0 1 4
 一郎右衛門 (いちろうえもん・山県/村瀬) → 昌樹(まさき・野沢/村瀬/山県、与力/詩歌) C 4 0 2 2
 一郎右衛門 (いちろうえもん・大塚) → 嘉樹(よしき・大塚おおつか蒼梧、故実家) D 4 7 0 3
 一郎右衛門 (いちろうえもん・深谷) → 公幹(きんもと・深谷、藩士/歌) R 1 6 9 1
 一郎右衛門 (いちろうえもん・松下) → 北斗庵一樹(ほくとあんいちじゅ、狂歌) D 3 9 7 9
 一郎右衛門 (いちろうえもん・服部) → 保紹(やすつぐ・服部はつとり、幕臣) C 4 5 0 6
 一郎右衛門 (いちろうえもん・野田) → 春岳(はるおか・野田のだ/山部、郷土/国学) K 3 6 5 5
 一郎右衛門 (いちろうえもん・乗松) → 長虎(ながとら・乗松のりまつ/源、藩士/歌) O 3 2 3 2
 一郎右衛門 (いちろうえもん・安藤) → 眞鉄(まがね・安藤あんど、藩士/国学/神道) N 4 0 2 7
 一郎右衛門 (いちろうえもん・宇多) → 重堅(しげかた・宇多うだ、藩士/歌人) N 2 1 4 6
- G1165 市郎左衛門 (いちろうざえもん・宇夫方うぶかた) ?-? 江前期元禄1688-1704頃;遠野藩南部家家臣、
 「八戸家伝記」(;息子広隆[ひろたか1688-1768]と共著)
 市郎左衛門 (いちろうざえもん・武衛) → 義樹(よしき・武衛ぶえい/斯波、砲術家) D 4 7 0 2
 市郎左衛門 (いちろうざえもん・世並屋) → 古江(ここう・寺田、俳人) M 1 9 4 0
 市郎左衛門 (いちろうざえもん・荒巻) → 助然(じよねん/じよぜん・荒巻、俳人) C 2 2 8 8
 市郎左衛門 (いちろうざえもん・湯浅) → 得之(とくし・湯浅ゆあさ、和算家) K 3 1 8 1
 市郎左衛門 (いちろうざえもん・乳井) → 貢(みつぎ・乳井にゅうい/鈴木、藩士/財政) D 4 1 2 6
 市郎左衛門 (いちろうざえもん・西野) → 前知(さきとも・西野にし、商家/歌) P 2 0 0 5
 市郎左衛門 (いちろうざえもん・間人) → 近直(ちなお・間人はしうど、回漕業/歌) N 2 8 2 9
 市郎左衛門 (いちろうざえもん・間人) → 近正(ちかまさ・間人、近直男/歌人) N 2 8 3 0
 市郎左衛門 (いちろうざえもん・原田) → 年実(としざね・原田はらだ、国学者) W 3 1 1 6
 市郎左衛門 (いちろうざえもん・山田) → 貞順(さだまさ・山田やまだ、藩士/国学/神職) P 2 0 7 1
 一郎左衛門 (いちろうざえもん・山田) → 清安(きよやす・山田、藩士/国学者) D 1 6 6 9
 一郎左衛門 (いちろうざえもん・奥田) → 勾堆(こうたい・奥田、藩士、詩文) K 1 9 4 7
 一郎左衛門 (いちろうざえもん・榎本) → 清蔭(きよかげ・榎本えのもと、藩士/国学) T 1 6 6 3
 一郎左衛門 (いちろうざえもん・高野) → 貞一(さだかず・高野たかの/新貝、藩士/歌) Q 2 0 8 4
- G1166 市郎治 (いちろうじ・玉井たまい、市郎治男) 1752-1818 67 信州川中島の養蚕家/松代藩の蚕業に貢献、
 1813「養蚕輯要」著
 逸郎次 (いちろうじ・中島) → 宣光(のぶみつ・中島なかじま、大庄屋/歌人) J 3 5 3 6
 市郎助 (いちろうすけ・渡辺) → 琴台(きんたい・渡辺わたなべ、儒者/詩人) J 1 6 0 6
- C1166 市郎太夫 (いちろうだゆう・井上いづえ) ?-? 大阪浄瑠璃太夫:播磨掾門、
 「源氏十五段」「五大力ぼさつ」著
 一郎太夫 (いちろうだゆう・勝木) → 枕山(ちんざん・勝木、国学/書家/俳) K 2 8 7 3
 一郎太夫 (いちろうだゆう・原田) → 蘇堂(そどう・原田はらだ、藩儒者) K 2 5 2 2
 市郎太夫 (いちろうだゆう・大立目) → 克明(よしあき・大立目おおだつめ、儒者) B 4 7 9 9
 市郎太夫 (いちろうだゆう・奥田) → 橋園(きつえん・奥田おくだ、儒者) L 1 6 4 1
 市郎太夫 (いちろうだゆう・山本) → 質庸(ただつね・山本やまもと/中臣/;杉本、国学) 2 7 2 1
 市郎八 (いちろうはち) → 五竹坊(ごちくぼう・田中、医者/俳人) D 1 9 2 6
- C1167 一六 (いちろく・半井なからい、名;文郁/別号;立卜) ?-? 京の生/大阪で医者/俳人:季吟門、
 1669百五十番俳諧発句合参加、顕成「手繰舟」入、1671亙休「難波草」190句入、
 1673西鶴?「哥仙大坂俳諧師」76西鶴「古今俳諧手鑑」入、
 [すそしてやはや河原毛かはらげの駒迎へ](哥仙;十六番右/すそしてや;馬の脚を湯で洗う、
 河原毛;薄茶色の毛/駒迎;平安期8月16日より諸国の献上馬を宮中に迎える儀式)
 一六 (いちろく・真下) → 安正(やすまさ・真下ましも、薬商/国学/歌) G 4 5 6 1
 一六兵衛 (いちろくべえ・堀) → 蒙窩(もうか・堀ほり/菅原、藩儒/文筆家) 4 4 4 7
 一郎平 (いちろべい・檜原) → 久臣(ひさおみ・檜原ならはら、国学者) K 3 7 4 9
 市郎平 (いちろべい・春屋) → 浄信(じょうしん・春屋はるのや、地誌家) K 2 2 0 7
- G1167 市郎兵衛 (いちろべえ・富永とみなが) ?-? 江前期阿蘭陀通詞/江戸番・長崎年番大通詞、

1677通詞起請文違反;切指追放、1669「葉草之名並和文扣」著

J1117 **市郎兵衛** (いちろべゑ・表紙屋ひょうしや、姓;本庄?)?-? 江前期江戸浅草の書肆;江戸・高野山の絵図刊行、11680「江戸方角安見図鑑」編

E1154 **市郎兵衛** (いちろべゑ・村田むらた・松江・松会まつゑ) ?-? 江前期17c幕府御用の江戸書肆

G1138 **市郎兵衛** (いちろべゑ・梅村うめむら/天王寺屋、姓;葛西、水玉堂) ?-? 江中期享保1716-36頃京の書肆、五条橋詰に店舗、1718「御前菓子秘伝抄」編/27「万国節用福字通便」、「寺子讀書千字文」著

K1172 **市郎兵衛** (いちろべゑ・室田むろた、名;重遠しげとお) 1828-98 71 筑後久留米藩士/国学者

一郎兵衛 (いちろべゑ・藤田) → 友閑(幽閑ゆうかん・藤田、書家) B 4 6 0 7

一郎兵衛 (いちろべゑ・黒須) → 教久(のりひさ・黒須くろす、藩士/歌人) I 3 5 3 3

市郎兵衛 (いちろべゑ・井上) → 播磨掾(はりまのじょう・井上、浄瑠璃太夫) 3 6 2 8

市郎兵衛 (いちろべゑ・松会) → 三四郎(さんしろう・松会まつゑ、書肆) F 2 0 9 2

市郎兵衛 (いちろべゑ・藤岡) → 茂之(しげゆき・藤岡ふじおか、和算家) D 2 1 2 5

市郎兵衛 (いちろべゑ・生駒) → 等壽(とうじゆ・生駒いこま、絵師) E 3 1 8 5

市郎兵衛 (一良瓶いちろべゑ・近松/柳) → 七五助(3世しめすけ・奈河、歌舞伎作者) F 2 1 8 9

市郎兵衛 (いちろべゑ・中島) → 松堂(しょうどう・中島/中嶋、書画/日記) L 2 2 2 1

市郎兵衛 (いちろべゑ・丹) → 就道(なりみち・丹たん、国学者) I 3 2 2 3

市郎兵衛 (いちろべゑ・鈴木) → 寛藤(ひろふじ・鈴木すずき、幕臣/国学者) K 3 7 0 0

市郎兵衛 (いちろべゑ・根ヶ原) → 小圃(しょうほ・根ヶ原、栗柿庵/俳人) L 2 2 6 1

市郎兵衛 (いちろべゑ・神保) → 忠利(ただとし・神保じんぼ、兵学者) Q 2 6 0 9

市郎兵衛 (いちろべゑ・鈴木) → 安寛(やすひろ・鈴木すずき、歌人/歌学) C 4 5 8 7

市郎兵衛 (いちろべゑ・相良) → 当政(あつまさ・相良さがら、藩士/国学者) H 1 0 6 8

市郎兵衛 (いちろべゑ・五十嵐) → 久貞(ひささだ・五十嵐いがらし/守本/恵川、神学) M 3 7 0 6

市郎兵衛 (いちろべゑ・青木) → 存久(ながひさ・青木あおき、歌人) K 3 2 7 3

市郎兵衛 (いちろべゑ・大久保) → 信弘(のぶひろ・大久保おおくぼ/源、藩士/歌) G 3 5 6 7

市郎兵衛 (いちろべゑ・木綿屋) → 盛征(もりゆき・中島なかじま、商家/歌人) K 4 4 7 8

市郎兵衛 (いちろべゑ・長和) → 千尋(ちひろ・長和ながわ/高橋、国学者) N 2 8 2 3

市郎兵衛 (いちろべゑ・丸山) → 閑山(かんざん・丸山まるやま、藩士/絵師) V 1 5 8 1

市郎兵衛 (いちろべゑ・矢野) → 高鞆(たかとも・矢野やの、庄屋/国学/歌) 2 7 0 4

市郎兵衛 (いちろべゑ・山本) → 質庸(ただつね・山本やまもと/中臣/;杉本、国学) 2 7 2 1

市郎兵衛 (いちろべゑ・黒谷) → 時敏(ときとし・黒谷くろたに、藩士/国学) V 3 1 1 1

一和 (いちわ・片桐) → 源一(げんいち・片桐かたぎり、歌人) H 1 8 7 0

一碗亭 (いちわんでい) → 玄武坊(げんぶぼう・神谷かみや/水野、俳人) C 1 8 9 9

為鎮 (いちな・中岡) → 慎太郎(しんたろう・中岡、勤王派/討幕) 2 2 5 9

E1134 **市人** (いちんど・朝早あさはやの、島屋与兵衛) ?-? 狂歌、日本橋小田原町住、1787才蔵集入;

[ながき日を一日ふりし行列にくたびれもせぬ春雨のあし]

1118 **市人** (いちんど・浅草あさくさの、姓;大垣おおがき、名;久雄ひさお) 1755-1820 66 江戸浅草の質商;伊勢屋、

国学・歌;本居宣長門/狂歌;大田南畝門、伯楽連、壺側を主宰、

養嗣子;福繁門ふくしげかど(;弟万歳逢義の男)、

1798「男踏歌」/99「東遊」(北斎画)/「みやこのてぶり」編、1809「古今狂歌集」編、才蔵集入、

[常張じやうはりの鏡が池のあつ氷うつしてみたき傾城のうそ]、

(吾妻曲狂歌文庫;鏡が池は隅田川辺の橋場にある)

[浅草市人(;号)の通称/別号]通称;伊勢屋久右衛門、

別号;壺々陳人/都響園/巴人亭/浅草庵(初世)市人、墨用廬、

D1169 **市人** (いちんど・月六斎、本名不祥) ?-? 滑稽本作者、1828?「副編ぞくへん:ひざくり毛」著

G1169 **いつ** (・松浦まつうら、松浦関牛妻) ?-?寛政1789-1801頃没 江戸俳人:蓼太系、

天明(1781-89)頃「秋団扇」編

G1170 **逸** (いつ・後藤ごとう、与七郎女) 1814-1888 75歳 羽後の歌人:希文門、夫と死別、「伊津女歌集」著

G1171 **聿** (いつ・木村きむら、秀賢男) 1824-63 40歳 水戸藩士/吟味役、

大老井伊直弼を襲撃;四国へ逃亡、坂下門外で老中安藤信正襲撃計画;失敗/逃亡、

帰藩し謹慎、「木村聿日記」著、

[聿の別名] 秀徳/俊秀/秀俊、字;季徳、通称;権次郎/権之助、変名;里見孝助

- 逸(いつ・野田) → 笛浦(てきは・野田、藩家老/儒者) 3 0 1 0
- 逸(いつ・田中) → 桐江(とうこう・田中/田、儒者/詩人) D 3 1 7 2
- 逸(いつ・林) → 宗二(そうじ・林りん・饅頭屋、商家/和漢学) 2 5 0 9
- 逸(いつ・岡田/小磯) → 鶴鳴妻(かくめいのつま・岡田、文筆家) K 1 5 5 0
- 逸(いつ・井上) → 蘭沢(らんたく・井上いのうえ、藩士/儒者) C 4 8 9 4
- 逸(いつ・菅沼) → 破鏡尼(はきょうに、歌/箏/俳人) C 3 6 4 7
- 逸(いつ・羽倉/荷田) → 蒼生子(たみこ・荷田かた、国学/歌人) G 2 6 5 8
- 逸(いつ・芳川) → 波山(はざん・芳川よしかわ、儒/詩人) E 3 6 3 2
- 逸(いつ・山本) → 晴海(はるみ・山本、砲術家) G 3 6 9 1
- 逸(いつ・椎名) → 秋村(秋邨しゅうそん・椎名、里正/詩人) X 2 1 9 7
- 逸(いつ・峯) → 貉丘(かくきゅう・峯みね、医者) J 1 5 6 6
- 逸(いつ・尾台) → 榕堂(ようどう・尾台おだい/小杉、医者) B 4 7 5 1
- 逸(いつ・清水) → 頑翁(がんおう・清水しみず、篆刻家) D 1 5 4 8
- 逸(いつ・河野) → 杏村(きょうそん・河野、儒者/詩文) I 1 6 8 0
- 逸(いつ・藤田) → 丹岳(たんがく・藤田ふじた、医者/儒者) T 2 6 2 6
- 伊津(いつ) → 伊津女(いつじょ、歌人) J 1 1 7 0
- いつ(逸・三浦) → 遊子(ゆうこ・松平/三浦、側室/歌人) B 4 6 5 4

E1128 **聿庵**(いつあん・頼らい、名;元協もとただ/承緒、山陽男) 1801-5656 家学;儒学修学/書家、詩、
 安藝広島藩校教授、江戸詰侍読、母;御園道英女の淳子、
 [聿庵(;号)の通称/別号]通称;余一/都具雄とくお、別号;春嶂/孤飛山人

- 頼家系図 → 春水(しゅんすい・頼らい) 2 1 6 0
- 逸庵(いつあん・森田) → 千庵(せんあん・森田もりた、医者) L 2 4 5 5
- 逸庵(いつあん・高橋) → 一庵(いちあん・高橋、儒者/詩文) F 1 1 9 5
- 惟通(いつう;道号) → 圭儒(けいじゆ;法諱・惟通、曹洞僧) F 1 8 9 3
- 惟通(いつう・久我) → 惟通(これみち・久我が、右大臣/日記) O 1 9 8 6
- 惟通(いつう・守屋) → 惟通(これみち・守屋もりや/石原、蘭医/種痘) R 1 9 4 2
- 為通(いつう、藤原) → 為通(ためみち、藤原ふじわら、廷臣/歌人) H 2 6 4 6
- 伊通(いつう) すべて → 伊通(これみち)
- 維通(いつう) すべて → 維通(これみち)
- 逸雲(いつうん・木下) → 相宰(すけただ・木下きのした、医/絵師/歌) I 2 3 3 4
- 逸衛(いつえい・伊藤) → 逸衛(はやえ・伊藤いとう、書家/歌人) J 3 6 6 5

B1134 **逸淵**(いつえん・児玉こたま・久米くめ) 1790-1861 72歳 武蔵児玉郡八幡の旧家久米家の俳人;
 川村碩布門、1828師より春秋庵を譲られ5世を継嗣、上州高崎に出て開庵;俳諧を業とす、
 瓢箪や椿を愛す、1838(天保9)門弟富処西馬に文台を譲渡;江戸木挽町住/可布庵を開庵、
 一茶と交流/1841斎藤南々「蟬塚集」序/1845「としなみ集」編;のち二~六編、
 1852一茶「おらが春」序、1855(安政2)武蔵本庄に隠退、戸谷双鳥と交流、
 1858(安政5)郷里児玉の八幡神社に芭蕉句碑建立;句集「すみれ塚集」編、
 晩年は児玉に帰り没、「碩布三回忌集」編、追善集;一周忌集「椿塚集」、
 三回忌追善「かりかね集」(行庵酒雄編)/7回忌追善「逸淵発句集」(;1867息久米信則編)、
 [ゆく春や大河ながるる町の中]、

[逸淵(;号)の名/通称/別号]名;清一郎、通称;清右衛門、
 別号;可布/可布庵/似我老人/椿老/椿老人/瓢顛/瓢隠居/春秋庵5世

- 壺演(いつえん;法諱) → 壺演(いちえん/いつえん;法諱、廷臣/真言僧) G 1 1 0 5

K1118 **逸翁**(いつおう・亀藤きとう、?) - 1867 伊予松山藩士;書翰役、歌人;海野遊翁門、
 [逸翁(;号)の名/通称/別号]名;万年かづとし、通称;善兵衛、号;泥寿庵/泥亀庵/東郊

- 逸翁(いつおう・越智) → 正勝(まさかつ・越智おち/山下/津田/久保、神職) C 4 0 1 0
- 逸翁(いつおう・榊原) → 守典(もりり・榊原さかきばら/上田、儒者) G 4 4 2 5
- 逸翁(いつおう・佐伯) → 貞中(さだなか・佐伯、酒造業/俳・歌人) J 2 0 0 3
- 逸翁(いつおう・丹下) → 光精(みつきよ・丹下たんげ、歌人) I 4 1 5 8

- 逸翁(いつおう・志賀) → 延駒(のぶもと・志賀しが、藩士/国学/歌) I 3 5 6 7
- G1172 一火(いっか;号・泊とまり、本姓;藤原)?-? 安桃期天正1573-92頃の筑前砲術家;一火流の祖、種子島で修行、江戸大阪で伝授、「一火流鉄砲書」著
- I1196 一箇(いっか) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入
[口慈しめず為に干しえぬ蚕あまの髪](二葉之松;470/生活のため髪を乾かすひまもない)
- 一可(いっか・青方) → 運善(ゆきよし・青方あおかた、家老/記録) 4 6 2 8
- 一下(いっか・柴垣) → 卜琴(ぼくきん・柴垣しばがき、俳人) D 3 9 0 1
- 五日庵(いつかあん) → 蕉夢(しょうむ・五日庵、俳人) L 2 2 7 1
- 五日庵(いつかあん) → 俊(たかし・千々和ちぢわ、医者/国学/歌) Y 2 6 2 0
- 一夏庵(いつかあん) → 竹烟(ちくえん・坂上、俳人) C 2 8 6 1
- 一榎庵(いつかあん) → 沖面(おきつら・一榎庵、村上、狂歌) C 1 4 8 9
- 一榎庵(いつかあん) → 麦藁笛也(むぎわらのふえなり、狂歌作者) 4 2 4 4
- G1173 一海(いっかい;法諱・尊勝房;字、少輔阿闍梨、源朝俊男)1116-7964 華嚴僧;維摩法華最勝三会講師、のち1147真言僧;醍醐三宝院定海門/47元海門;松橋の奥義、醍醐寺無量寿院2世;松橋流を開創、「雑秘鈔」著、「厚双紙」「秘密要集」編
- E1143 一海(いっかい・太田) ? - ? 京の俳人、1690言水「新撰都曲」2句入;
[海道の人改むる柳かな](新撰都曲)
- C1168 一海(いっかい) ? - ? 時宗僧;遊行52代、一遍上人を研究、1763「一遍上人語録」著
- 一海(いっかい) → 愛種(ちかたね・中園なかぞの/大蔵、国学者) B 2 8 1 8
- 一快(いっかい・久野/平井) → 其両(きりょう・久野/平井、藩士/俳人) H 1 6 6 9
- 一介(いっかい・高志/高) → 泉溟(せんめい・高志たかし/修姓;高、儒者) G 2 4 6 5
- 一介(いっかい・伊藤) → 篤吉(とよし・伊藤いとう、和算/航海術) O 3 1 2 1
- 一介(いっかい・村山) → 芝塙(しゅう・村山むらやま、藩士/儒者) B 2 1 2 3
- 一魁斎(いっかいさい・月岡) → 芳年(よしとし・月岡/歌川、吉岡、絵師) E 4 7 9 6
- 一開斎好信(いっかいさいよしのぶ) → 重信(初世しげのぶ・柳川/鈴木、絵師) C 2 1 7 4
- G1174 一覚(いっかく) ? - ? 1492存 時宗僧;京一条道場僧、1475以降宗祇らと連歌、1489一覚是観等百韻、新菟2句入
- C1169 一鶴(一鶴いっかく・衣笠きぬがさ)?-? 江前期上方の俳人・談林派、1678西鶴「物種集」79西鶴「飛梅千句」/79西国「見花数寄けんかざき」入、[月は晴れて岑に別るゝ土埃つらぼり](飛梅千句第五青梅、前句;古道具市夢の浮きはし、新古今;38定家;春の夜の夢の浮橋とだえして峰に別るる横雲の空)
- G1175 逸客(いっかく・黄化こうか、黄化狂士)?-? 江後期尾張名古屋の戯作者、1827「通俗繡像妹背之門松」、「八載姫一期物語」著
上田仲敏と同一? → 仲敏(なかとし・上田[1809-63]、藩士/国学) E 3 2 7 6
- 逸角(いっかく・中川) → 典義(のりよし・中川、家老/日記・記録) G 3 5 2 8
- 一角(いっかく・田/田中) → 止邱(しきゅう・田中/田、儒者) B 2 1 5 8
- 壺瓜軒(いっかけん、一瓜子いっかし) → 等躬(とうきゅう・相良、俳人) C 3 1 6 4
- 一河斎(いっかさい;狂名) → 与三兵衛(初世よそべえ・鈍通、歌舞伎作者) I 4 7 1 3
- 巖櫃本(巖櫃下いっかしがもと) → 重胤(しげたね・鈴木/穂積/源、国学/歌) 2 1 1 2
- 巖櫃舎(いっかしのや) → 政重(まさしげ・桜井さくらい、藩士/神職) C 4 0 7 8
- 一花亭(いっかてい) → 守由(しゅうゆう、狂歌) J 2 1 0 5
- 一華堂(いっかどう) → 乘阿(じょうあ、時宗僧/和学/歌学) K 2 1 8 7
- 一華堂(いっかどう) → 切臨(せつりん、乘阿門/時宗僧/和学) E 2 4 6 9
- 一花堂(いっかどう) → 山水(さんすい、河内屋清七/俄芸) F 2 0 9 4
- 一荷堂(いっかどう) → 半水(はんすい・一荷堂、歌謡) I 3 6 1 3
- G1176 一閑(いっかん;号・衣笠きぬがさ、字;宗葛)?-? 江前期泉州堺の地誌家、1684「堺鑑」著
- G1177 一貫(いっかん;号・米田よねだ) 1730?-? 1791存 江戸の町医者;中沢道二門、心学者、日本橋慎行舎都講、町奉行から褒賞、1786「教訓徳種蒔」著

- G1178 **一貫**(いっかん/かずつら・青木あおき、伊予宇和島藩主伊達村年3男) 1733-8654 青木一新かずよし養嗣子、
撰津麻田藩主;1770養父隠居により襲封、養父の女を室とす、従五下甲斐守、
1778大番頭/84致仕、「御領下郷村帳」著、一貞の父、
[一貫(;)名]の別名/通称/法号]初名;村銘むらかた/一載かずとし、通称;伊織、法号;養源院
- G1179 **一幹**(いっかん;号・休可亭)?- 1789 豊後杵築藩士?/俳人;蝶夢門、1778「雪の味」編、
追善集;「一幹老人句集」青容編
- G1180 **一貫**(いっかん;通称・大野おの、字;忠夫/別通称;又兵衛) 1754-181663 因幡鳥取藩士、
武術家;大口流弓/匹田流槍/円明流劍、故実家;武器考証、
1790「弓馬之故実」94「帯甲通愚評」1809「弓式辨」、「一貫伝射則」、「一貫伝射術温故之卷」、
「懸問録」、「懐劍大意」、「火旻録」、「射則」著、
[一貫(;)通称]の号]号;権室きんしつ
- G1181 **一閑**(いっかん・蘆沢あしざわ、名;元昇) 1784-185976歳 常陸水戸藩士;徳川斉修に約30年出仕、
1840致仕、1815「待間小録」、「綴葉雑記」著、「文苑授簡」編、
[一閑(;)号]の字/通称/別号]字;佳卿、通称;総兵衛、別号;一閑斎/元斎
- G1182 **一貫**(いっかん・片山かたやま、一貞男)?-? 1867存 代々米沢藩儒、儒;古賀謹堂門、藩校興讓館提学、
「従征日記」、1859「笑嘯追征日記」著
- 一韓(いっかん・智翹) → 知翹(ちこう・一韓、五山僧/詩) E 2 8 1 0
 一閑(いっかん・道閑) → 長親(ながちか・松平、武将/連歌) E 3 2 2 5
 一閑(いっかん・田中) → 宗得(むねのり・田中たなか、神道家) C 4 2 2 0
 一閑(いっかん・茂木) → 義知(よしとも・茂木もてき/大衡、藩士) F 4 7 0 1
 一閑(いっかん・武野/大黒庵) → 紹鷗(しょうおう・武野/武田、商家/茶人) F 2 2 5 8
 一閑(いっかん・戸部) → 一慙斎(いっかんさい・戸部とべ、僧/史家) G 1 1 8 3
 一歛(いっかん・御菌生) → 一歛(かずよし・御菌生みそのう、藩士/歌人) V 1 5 8 3
 一貫(いっかん・中江) → 岷山(びんざん/みんざん・中江、儒者) 3 7 3 4
 一貫(いっかん・黒田) → 一貫(かずつら・黒田、家老/儒者) M 1 5 2 9
 一貫(いっかん・都沢) → 徹(とおる・都沢みやこざわ、藩士/儒者) I 3 1 8 0
 一貫(いっかん・寺崎) → 蛸洲(れいしゅう・寺崎/三木/木、儒/詩) 5 1 3 7
 一貫(いっかん・鈴木) → 宗観(そうかん・鈴木すずき、眼科医) G 2 5 7 2
 一貫(いっかん・松尾) → 安信(やすのぶ・松尾まつお、和算家/測量) C 4 5 6 0
 一貫(いっかん・久山) → 好雄(よしお・久山ひさやま、医者/歌人) L 4 7 0 6
 一貫(いっかん・朝枝) → 一貫(かずつら・朝枝あさえだ、藩士/歌人) T 1 5 3 9
 一貫(いっかん・中山) → 水枝(みずえ・中山なかやま、藩士/国学/歌) J 4 1 9 3
 一貫(いっかん・高橋) → 善慶(ぜんけい・高橋たかはし、商家/歌人) O 2 4 0 5
 一貫(いっかん・陶山) → 一貫(かずつら・陶山すえやま、医者/歌人) U 1 5 7 9
 一貫(いっかん・鈴木) → 房政(ふさまさ・鈴木すずき、国学/歌人) I 3 8 3 7
 一貫(いっかん・錦小路) → 頼徳(よりのり・錦小路にしきのこうじ/丹波/唐橋、廷臣/尊攘) O 4 7 3 9
 逸岩(逸巖/逸岳いっがん;道号) → 文瑛(ぶんえい;法諱・逸岩、黄檗僧) E 3 8 8 1
 一竿翁(いっかんおう) → 信夫(しんぶ・四時庵、俳人) P 2 2 6 8
 一貫彦(いっかんげん → かつらひこ・杉山) → 宜袁(よしなが・杉山すざやま、家老/郷土史) F 4 7 3 0
 一串居士(いっかんこじ) → 生々(せいせい・上田/檜林、儒/医者) J 2 4 0 0
- B1135 **一竿斎**(いっかんさい・釈子眞)?- ? 江戸前期の僧;古典研究、1673「首書源氏物語」著
- G1183 **一慙斎**(いっかんさい・戸部とべ、名;清直/正直、忠直男) 1645-170763 羽後雄勝郡横堀村の出身、
諸国遊歴後;1689陸前仙台で黄檗僧;万寿寺の月耕道稔門;出家、和漢の歴史に通ず、
一時水戸の光圀に招聘される、1698「奥羽永慶軍記おうえいけいぐんき」「院内銀山記」著、
「一慙斎覚書」著、「東国見聞記」著、「一慙遺書」、
[一慙斎(;)号]の通称/別号]通称;権三郎/清左衛門、別号;一閑、
法号;信翁中興元痴一慙居士
- G1184 **一貫斎**(いっかんさい・国友くにとも、名;重恭/能当よしまさ) 1778-184063 近江坂田郡国友村の幕府鉄砲鍛冶、
年寄脇となる、蘭学/鉄砲技術革新;1816オランダ銃に倣い空気銃を製造、
天体望遠鏡・懐中筆などを発明、1819「気砲記」/35「日月星業試留」著、

1836「テレスコツフ遠目鏡製作覚」、「黒点観測巻物」著、国学；平田篤胤門、
天狗小僧寅吉とらきちから話を聞く（篤胤「仙境異聞」入）、辻宗範（茶道家）の甥、
[一貫斎（；号）の通称/別号]通称；藤一/藤兵衛、別号；眠竜/一貫斎眠竜

G1185 **一貫斎**（いっかんさい・朝日あさひ、集義/字；秀直、寧一男）1783-1834⁵² 母；長久保赤水女、常陸修験の家、
儒者；小沼直方門、常陸平藩士となる、

「いぎりすの歌」「授経図録」「書紀辯志」、「朝日中文語録」著、
[一貫斎（；号）の通称/別号]通称；直次郎、別号；中文

- 一貫斎（いっかんさい・内山）→ 良隆（よしとか・内山、儒者詩人） E 4 7 1 1
一貫斎（いっかんさい・大久保）→ 南香（なんこう・大久保おおくぼ、俳人） I 3 2 9 5
一貫斎（いっかんさい・賀川）→ 文煥（ぶんかん・賀川かがわ/源、産科医） E 3 8 9 3
一貫斎（いっかんさい・森）→ 景鎮（かげちか・森もり、藩士/剣術家） L 1 5 0 1
一貫斎（いっかんさい・内山）→ 良隆（よしとか・内山うちやま、藩士/儒・兵学） E 4 7 1 1
一貫斎（いっかんさい・杉山）→ 宜袁（よしなが・杉山すぎやま、家老/郷土史） F 4 7 3 0
一貫斎（いっかんさい・天津）→ 眞（まこと・天津あまつ、国学/神道） N 4 0 1 9
一閑斎（いっかんさい・松原）→ 慶輔（けいほ・松原まつばら、医者） G 1 8 6 1
一閑斎（いっかんさい・都）→ 紫文斎（しぶんさい・宇治、2世千種庵/一中節/狂歌） F 2 1 6 0
一閑散人（いっかんさんじん）→ 一蝶（いちぢょう・英はなぶさ、絵師） C 1 1 0 8
一閑子（いっかんし・松平）→ 治郷（はるさと・松平、藩主/茶道） G 3 6 3 8
一貫舎（いっかんしゃ）→ 逸人（いつじん・加藤かとう、商家/俳人） B 1 1 5 1
一閑人（いっかんじん）→ 鷺洲（るしゅう・魯洲ろしゅう・長野ちよりの、俳人） B 5 2 6 4
一閑叟（いっかんそう・田中）→ 宗得（むねのり・田中たなか、神道家） C 4 2 2 0
一閑亭（いっかんでい）→ 沖面（おきつら・一榎庵、狂歌） C 1 4 8 9

G1186 **一貫堂**（いっかんどう・伊庭いば、名；静一/通称；金兵衛）1786-1869⁸⁴ 上総東根蔵儒者・鈴木養斎門、
稲葉黙斎を信奉、「答大疑録」「一陰一陽説」「一貫堂学談」「伊庭学談」「道既通説」著

- 一貫堂（いっかんどう・磐瀬）→ 玄策（げんさく・磐瀬いわせ、医者） J 1 8 1 3
一貫堂鈍斎（いっかんどうどんさい）→ 若水（じゃくすい・随朝ずいちょう/阿野、和算/漢学） G 2 1 2 7
一貫二麦居士（いっかんにばくこじ）→ 老泉（らうせん・松沢まつざわ、書肆/典籍研究） 5 2 3 5
一貫雄長庵主（いっかんゆうちやうあんしゅ）→ 眉長（びちやう・糸川いとかわ、国学者） I 3 7 5 1

B1136 **一輝**（いっき/かづてる・堀田ほった、）1629-1705⁷⁷ 幕臣旗本；館城の守衛、定火消/御持筒頭、
百人組頭/御留守居役；従五下/河内守/5500石行、和学者/歌人、

一継かづつ[信長・秀吉・家康に出仕/従五下若狭守]の子孫、
歌；家集「無名歌集（無名御歌書）」（300余首）著、1691了然尼撰[若むらさき]入、
1700中院通茂古希祝賀歌会参加/1701田村家深川別業和歌参加（田村建頭の子孫）、
山本春正しゅんしょう編[正木のかつら]14首入（共編者の岡本宗好・清水宗川と親交）、
一平・通右・女（老中本多正永正室）の父、
[置く露も千種ながらにみだれゆく阿太だの大野の月かげはをし]（[正木のかつら]入）、
[末遠き浦の苫屋の秋風に煙けり吹きませなびく夕霧]（田村家深川別業和歌/遠村夕霧）、
[一輝（；名）の初名/通称]初名；一氏、通称；梅松丸/五郎左衛門/河内守、法号；頼消

G1187 **一亀**（いっき） ? - ? 京の俳人；1690言水「新撰都曲」入；
[室町は夕顔も見ず五条迄]

K1150 **五十槻**（いっき・永井ながい、名；精浦）1836-1922⁸⁷ 阿波板野郡の神職/永井精古あきひさの孫、
大麻比古神社祠官（神主）、忌部神社主典/桧愛宕神社社掌、1922（大正11）没

K1160 **齋**（いっき・広岡ひろおか、通称；謙介）1845-76³² 肥後熊本藩士、国学；林有通門

- 齋（いっき・羽倉）→ 春満（あずままる・荷田かた/羽倉、国学/歌） 1 0 1 8
伊都伎（いっき・衣関）→ 順庵（じゅんあん・衣関きぬどめ、医者；眼科） M 2 1 1 2
一器（いっき・久米）→ 通賢（みちかた・久米、藩士/暦算/測量） B 4 1 3 5
一貴（いっき・曾我部）→ 正積（まさかず・曾我部そがべ、国学/歌人） Q 4 0 4 2
一簣（いっき・久世）→ 氏美（うじよし・久世/佐脇、藩士/儒/歌） C 1 2 8 4
五十槻（いっき・木暮）→ 賢樹（かたき・木暮こぐれ、医者/国学者） M 1 5 9 2

- 五十槻(いっき・森) → 貞温(さだはる・森もり、神職/国学) N 2 0 2 6
五十槻(いっき・渡辺) → 顕孝(あきたか・渡辺わたなべ、神職/国学) I 1 0 8 2
一気(いっき) → 行成(こうせい・藤原) 1 9 1 3
一其(いっき) → 吉兵衛(きちべゑ・二朱判にしゅばん、幫間/大尽舞) F 1 6 8 3
一記(いっき・喜多川) → 孟敦(たけあつ・喜多川/福田/松原、和算家) O 2 6 2 5
逸記(いっき・大島) → 芙蓉(ふよう・高こう/大島、篆刻家) E 3 8 4 7
一亀園(いっきあん) → 池天(ちてん・桜山さくらやま、俳人) E 2 8 8 2
五木庵(初世いっきあん) → 五木(ごぼく・平野/島津、俳人) N 1 9 6 6
五木庵(2世いっきあん) → 潮水(ちようすい・島津、俳人) J 2 8 1 1
G1188 一菊(いっきく・島野しまの) ? - ? 加賀金沢俳人; 希因門、1741「さくら反古」編、
[一菊の別号] 采縁斎/蓑笠人/露紅亭/桂下房
C1170 一菊(いっきく) ? - ? 加賀の法師、1806金蘭集刊(万子の書留を写)
一掬庵(いっきくあん) → 一阿(いちあ・立川、俳人) F 1 1 9 3
巖島御室(いっきしまのおむろ) → 任助親王(にんじよしんのう、真言御室僧) G 3 3 5 2
齋宮太夫(伊都喜太夫いっただゆう・富本) → 延寿(えんじゆ・富本とみもと、浄瑠璃太夫) C 1 3 3 7
齋宮太夫(2世いっただゆう・富本) → 延寿太夫(初世えんじゆだゆう・清元、清元節祖) B 1 3 0 5
逸吉(いっきち・市川) → 兼恭(かねたか/かねのり・市川、医者/洋学) O 1 5 5 9
一橘斎(いっきつさい・歌川) → 芳春(よしはる・歌川うたがわ/生田、絵師) G 4 7 1 5
齋助(いっきのすけ・笠因) → 直麿(なおまる・笠因かさより、神職/国学) K 3 2 1 7
五十槻園(五十槻園いっきのその) → 久老(ひさおゆ・荒木田/度会、神職/国学) 3 7 0 5
五十槻園(2世いっきのその) → 久守(ひさもり・荒木田、久老男/神職/国学) C 3 7 0 7
槻園(いっきのその) → 茂樹(しげき・高山たかやま、神職/国学) Z 2 1 3 1
五十槻舎(いっきのや) → 久胤(ひさたね・原、歌人) B 3 7 3 2
巖之舎(いっきのや) → 直孝(なおたか・定村さだむら/渡辺、神職/歌) K 3 2 9 1
齋廼舎(いっきのや) → 則庸(のりつね・齋藤さいとう、神職/国学者) I 3 5 5 9
一気行成(いっきのゆきなり) → 行成(ゆきなり・一気、望汰欄、狂歌) F 4 6 1 6
一噓道人(いっきやくどうじん) → 荷塘(かとう; 号・遠山とおやま、僧/漢学) C 1 5 5 9
一休(いっきゆう; 道号) → 宗純(そうじゆん; 法諱・一休; 道号、臨濟僧) 2 5 1 1
逸休(いっきゆう・井上) → 桐斎(とうさい・井上、里正/儒者/詩歌) E 3 1 2 9
一丘斎(いっきゆうさい) → 九華(きゅうか・池田いけだ、医者/絵師) M 1 6 3 6
一及斎(いっきゆうさい) → 次傍(つぎかた・正木まさき、藩老/歌人) G 2 9 3 6
C1172 一九仙人(いっきゆうせんじん) ? - ? 大阪の滑稽本作者、1806「膝摺木ひざすりぎ」
一鳩林(いっきゆうりん) → 午寂(ごじゃく・人見ひとみ、幕臣/俳人) C 1 9 8 0
一気行成(いっきゆきなり) → 行成(ゆきなり・一気、望汰欄、狂歌) F 4 6 1 6
G1189 逸漁(いっぎよ・辻村つじむら、別号; 一斗庵) ?-? 伊勢の俳人、1789「歳旦」編、「陽春曲」編、
1776樗良「月の夜」入、
[我が師あり竹に並べる冬の梅](月の夜; 116/雪にしなう竹・寒に咲く梅は人生の師)
B1138 一饗(いっきよう・上人) ? - ? 南北期僧、歌人、新後拾遺集(1446)
[いつを夢いつをうつつの程ぞとも見さだめがたきあだし世の中](新後拾十七雑; 1446)
C1171 一興(いっきよう) ? - ? 尾張住の俳人; 1666一雪「洗濯物」入
G1190 一橋(いっきよう) ? - ? 出羽の俳人; 蕉門、1689「あら野」入、
[手のとゞくほどはをらるゝ桜哉](あら野; 卷二仲春)
一匡(いっきよう・中村) → 一匡(かざまさ・中村、国学者) M 1 5 4 9
一恭(いっきよう・白崎) → 誠(まこと・白崎しろさき、商家/国学) Q 4 0 2 3
一興(いっこう・猪子) → 一興(かずおき・猪子いのこ、幕臣/国学) T 1 5 5 7
一興(いっきよう → かずおき・齋藤) → 九腕(きゅうえん・齋藤、藩士/儒者) I 1 6 7 5
一興(いっきよう・小野) → 一興(かずおき・小野おの/源、幕臣/歌) T 1 5 2 5
一興(いっきよう・黒田) → 一興(かずおき・黒田くろだ、藩大老/詩歌) U 1 5 5 8
一興(いっきよう・村) → 一興(かずおき・村むら、藩士/国学者) V 1 5 8 9
一鏡(いっきよう・松平) → 四山(しざん・松平まつだいら、藩主/俳人) D 2 1 7 9

- 一郷(いっきょう・中村) → 一郷(いちごう・中村なかむら、歌人) J 1 1 5 9
 一郷(いっきょう・山本) → 一郷(いちごう・山本やまもと、歌人) J 1 1 6 2
 一曲子(いっきやくし) → 近之(きんし、土岐とき、俳人) H 1 6 9 1
- D1171 一九(いっく・浪華なむ) ? - ? 江後期大阪提灯屋/噺家:絵咄提唱/雑俳点
 1808「玉尽一九噺」10「画ばなし当時梅」(;桃田三笑画)/10「画咄百の笑」49「浪華土産」著
- 1120 一九(初世いっく・十返[偏・遍・扁]舎、重田貞一、重田鞭助男) 1765-1831 駿府生/早く江戸・大阪住、
 1789大阪浄瑠璃作者/挿絵:栄之門/93江戸住/94蔦重の食客、95戯作・黄/洒/滑稽本作者、
 1802膝栗毛で地位確立/狂歌;三陀羅法師門/1812-21信州各地4度の旅、神田紺屋町で没、
 1789浄「木下蔭狭間合戦」合作/1800狂歌「夷曲東日記」/1801絵本「色講釈」/
 1802-22滑稽「東海道中膝栗毛」、1809/10滑「江之島土産」/24-27人情「朧月夜」外著多数、
 [一九の別号] 近松余七(浄瑠璃名)、桃猿舎犬雉/道楽山人/酔斎、
 一楽亭栄水(画号)/遠唐沖人とおからのおきんど(狂歌名)、法号;心月院
- B1137 一九(2世いっく・十返舎じっぺんしゃ、姓;糸井いとい、名;武)?-?1836失踪 上州黒河の生/江戸に住、
 狂歌;南畝門、戯作;春水/初世一九門、画;蹄齋北馬門、1833一九を襲名/36筆禍;失踪、
 尾張に逃亡、1830人情本「仇競今様櫛あだくらべいまようぐし」、31-36「続々膝栗毛」著、
 「奥州一覽道中膝栗毛」「御贄美少年始」「無可誌噺」「教草いろは短歌」外著多数、
 [2世十返舎一九の別号] 十字亭三九/登仙笑苦人/東船笑楚満人/花輪堂/赤城子、
 2世吾妻男一丁/紀山人/滝の糸丈/春興/梅園
 一九(3世いっく・十返舎じっぺんしゃ[自称2世])→春馬(初世しゅんば・三亭、戯作者/狂歌) 2 1 6 5
- G1191 一空(いっくう;法諱・法号;光誉こうよ/明蓮社光誉)?-1654 上総浄土僧;無絃門、河越元福寺開、
 横沼西福寺・江戸芝智福寺を開く、「浄土伝略」/「当麻曼陀羅白記挾鈔」著
- G1192 一空(いっくう) ? - ? 大阪の俳人:1689仙化「江鮭子あめご」入;
 [そよそよと風に吹るゝ月見かな]
- 巖島源弥(いっくしまげんや) → 鳳朗(ほうろう・田川たがわ/永井、俳人) 3 9 5 8
 一訓(いっくん・安藤) → 一訓(かずのり・安藤あんどう、歌人/吹奏) T 1 5 4 8
 一勲(いっくん・関屋) → 高英(たかひで・関屋せきや、藩士/軍学/国学) X 2 6 7 9
- B1139 一慶(いっけい;法諱・雲章うんしょう;道号、左大臣一条経嗣男/本姓藤原) 1386-1463 78 臨濟僧(;6歳)、
 東福寺で修業/岐陽方秀門/1441東福寺172世、「理気性情」「一性五例儒図」著、詩人;
 1448(文安5)賢良[畠山匠作亭詩歌](詩)参加、58義政命の[瀟湘八景]の「漁村夕照」作、
 [荻葉荻花秋一窠 暁風吹月影婆娑 門前車馬塵如海 野水寒塘興転多]、
 (匠作亭詩歌:15/荻叢荻花/対するは権大僧都堯孝の歌)、
 [雲章一慶の号/諡号] 号;宝清老人/宝渚庵/流芳、諡号;雲章弘宗禪師、一条兼良の兄
- G1193 一景(いっけい;法諱) ? - ? 1500頃63歳存 戦国期;三河額田郡の僧、
 1501「伊呂波拾遺」「拾葉集」著
- G1194 一溪(いっけい・曲直瀬まなせ、名;正盛/正慶、堀部左門親眞男) 1507-94 88 京の僧/医者:田代三喜門、
 日本医学中興の祖、学舎啓迪けいてき院開設;後進の指導/「一溪全書」、「雲陣夜話」、
 「道三養生書」「医学要語集」「切紙総目録」「正心集」「全九集」「寿福七珍」外著多数、
 [一溪(:字)の号]道三(初世)/等皓とうこう/雖知苦斎[翠竹斎]/盍静翁こうせいおう寧固/、
 啓迪庵けいてきあん/亨(享)徳院こうとくいん
- G1195 一溪(いっけい・狩野かのう、重郷[一翁]男/本姓;藤原) 1599-1662 64 絵師:狩野光信門、將軍家絵師、
 1623中国画論「後素集」訳、「丹青若木集」著、
 [一溪(:号)の名/通称/別号]名;重良、通称;内膳、別号;一谿斎
- G1196 一敬(いっけい、並河なみかわ) ? - ? 江前期医者;眼科、
 1646「並河眼科書」、「眼療伝家方」著
- J1149 一景(いっけい・秦はた) ? - ? 江前期伊予の俳人、
 1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、
 [不相口ぶあひくちや是これ花の口風の口](手鑑/不相口;仲の悪い相手;花と風)
- G1197 一壺(いっけい・二瓢庵) ? - ? 越前の俳人;1774美角「ゑぼし桶」1句入、
 [雨過て暁のむし聞きそむる](ゑぼし桶;84/秋の長雨の終わり;秋の深まり)

- G1198 一憩(一憬いっけい、別号;臥安廬/大鵬)?-? 越中真宗本願寺派僧、石見温泉津ゆのつ西楽寺住職、1795学林で阿弥陀経講義/三業惑乱時は智洞側、「阿弥陀経餐声録」著
- C1173 一蕙(いっけい) ? - ? 俳人、1798道彦「むてき」入
- C1174 一溪(いっけい) ? - ? 江後期寛政1789-1801頃の俄師; 1790「戌年俄」選、「虚実柳巷方言」入
- G1199 一慶(いっけい・若林) ? - ? 江後期江戸本銀町書家:和漢筆学、1795「長雄詩歌集」書
- H1100 一溪(いっけい・渡辺、名;則綱/通称;忠兵衛) 1780-? 1850存 幕臣勘定方/歌人:北村季文門、1849「向南集」編
- H1101 一珪(いっけい・英はなぶさ、名;信重、英一川養子)?-1843;90歳位 江戸神田絵師;初世高嵩谷すうこく門、英家を再興(4世)、1818「北窓翁遺文」編、[英一珪の別号] 嵩卿/有松庵/友松庵ゆうしょうあん
- H1102 一兮(いっけい・入間田いるまだ、通称;綾之亮あやのすけ) 1831-6838歳 陸前船岡の俳人;五梅庵舎用門、1867「続月夜塚集」著、[一兮の別号] 守中庵/梅垣ばいえん
- H1103 一惠(いっけい・翫月庵がんげつあん)?-? 江末期徳島の菓種商/華道;奈良屋竹之助門、遠州流插花の名手、1855「插花百媚」著
- 一蕙(いっけい・浮田) → 可為(よしため・宇喜多/浮田うきた/藤原・豊臣、絵師) L 4 7 7 1
- 一啓(いっけい・瀬在) → 一啓(かずひろ・瀬在せあり、国学者) U 1 5 8 1
- 一慶(いっけい) → 黄年(おうねん・二夜庵、山伏/俳人) C 1 4 6 1
- 一逕(いっけい;号) → 和溪(わけい;道号・宗順;法諱、臨濟僧) 5 3 1 8
- 一卿(いっけい・井上) → 桜塘(おうとう・井上いのうえ、儒者/詩) C 1 4 6 0
- 一圭(いっけい・遠山) → 荷塘(かとう;号・遠山とおやま、僧/漢学) C 1 5 5 9
- 一継(いっけい・堀田/本田) → 一継(かずつぐ・堀田ほった/本田/本多、武将/旗本) V 1 5 6 4
- 一溪(いっけい・狩野) → 良信(よしのぶ・狩野かのう、絵師) F 4 7 5 7
- 一谿(いっけい・広瀬) → 保庵(ほあん・広瀬/岡、医者) 3 9 0 5
- 一溪庵(いっけいあん) → 鬼武(おにたけ・感和亭、戯作者) 1 4 2 3
- 一惠斎(一蕙斎いっけいさい) → 芳幾(よしいく・落合/歌川、絵師) C 4 7 1 8
- 一谿斎(いっけいさい) → 一溪(いっけい・狩野かのう、絵師) G 1 1 9 5
- 一慶斎(いっけいさい) → 芳信(よしのぶ・歌川うたがわ、絵師) F 4 7 7 3
- 一桂堂(いっけいどう) → 正頼(まさより・久野くの、藩士/歌人) I 4 0 8 5
- D1172 一見(いっけん・永崎/長崎ながさき) 1640-9051歳 肥後熊本の髯技きゆうぎ(漆塗)業、俳人;維舟門/1658梅盛「鸚鵡集」入、狂歌;1666「職人一首」詠、「長崎一見狂歌集」著、「後撰夷曲集」「銀葉夷歌集」入、1785南畝「後万載集」に故人として6首入(;横道黒塗師名)、[ひのほととのひごの火川のひうち石ひびにひとふたひらふひとびと](徳和歌後万載)[一見(;号)の通称/別号/法名/狂号]通称;仁兵衛/仁助/仁介、別号;三楽、法名;道必、狂号;横道黒塗師よこみちのくろぬし
- 「肩入奉公」の三楽と同一? → 三楽(さんらく) E 2 0 7 7
- H1104 一顕(いっけん) ? - ? 越前府中の俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
- H1105 一見(いっけん・佐藤さとう) ? - ? 江後期武蔵の本草家・1786前薩摩旅行、1786「新伝秘書」編
- 一見(いっけん・永崎) → 一見(いっけん・永崎/長崎/横道黒塗師、俳/狂歌) D 1 1 7 2
- 一見(いっけん・熊谷) → 一澄(かすみ・熊谷くまがい、藩士/歌人) U 1 5 5 3
- 一間(いっけん/いちけん;道号) → 祖峰(そほう;法諱・一間、曹洞僧) K 2 5 3 8
- 一軒(いっけん・藤川) → 文三郎(ぶんざぶろう・藤川、歌舞伎作者) F 3 8 3 7
- 一兼(一謙いっけん・本庄) → 星川(せいせん・本庄/本荘ほんじょう、藩儒) C 2 4 4 7
- 逸玄(いっげん・五島) → 赤水(せきすい・五島ごとう、医者/儒者) K 2 4 2 5
- 乙元子(いっげんし/亡元子?) → 良保(りょうほ・片桐、俳人) J 4 9 4 2
- I1185 一故(いっこ) ? - ? 安藝竹原の俳人;支考門/1699支考「西華集」入、1705支考「懐日記」「三日歌仙」/06支考「東山万句」涼兔「潮とろみ」17露川「西国曲」入、[国ぶりや弓手も馬手も青嵐](「西国曲」)

- E1161 一壺(いっく・守月堂) ? - 1729 京の俳人;鞭石門、1729隆志「俳諧草結」入、
[乗物の秘仏を拝む桜哉](俳諧草結;247/乗物の秘仏は深窓の女性たち)
- D1173 一狐(いっく・鐘下亭) ? - ? 洒落本、1830-40「雨夜嘶」著
逸子(いっく・岡田/小磯)→ 鶴鳴妻(かくめいのつま・岡田、文筆家) K 1 5 5 0
一呼(いっく;字) → 冨鑑(ふいかん;法諱・一呼、浄土僧) F 1 8 3 9
- C1177 一幸(いっく・岡) ? - ? 播磨姫路の俳人;梅盛門、1658梅盛「鸚鵡集」入、
1668梅盛「細少石」/夢丸69「狂遊集」入、66一雪「阿波千句」参加、
狂歌;1666「古今夷曲集」5首入、
[百姓の稲こなすとてする臼のおと聞く時ぞ秋はかしまし](夷曲集;秋220、
 糶摺り臼でこなす [脱穀する]音はやかましい、
 本歌;奥山に紅葉踏み分け鳴く鹿の声聞く時ぞ秋はかなしき;猿丸大夫)
- H1106 一好(いっく) ? - ? 俳人;1691北枝「卯辰集」入;
[蚊に覚めて馬屋の音もあはれ也]
- J1129 一口(いっく) ? - ? 江中期俳人;1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、
[髪の香のゆかしき葵かつら哉](伊丹発句;夏)
- H1107 一江(いっく・和田むだ、名;正邵/邵、省斎男) 1719-85 67 備前岡山藩儒;家学/1739家督嗣:学校奉行、
「備陽国志」;父と編纂参加、「秋風館記」「大学衍義考義」著
[一江(;号)の通称/別号]通称;鉄之丞、別号;泌舎主人/衡汝舎人
- H1108 一浩(いっく・堀越ほりこし) ? - ? 江中期上方歌舞伎作者;壕越二三治門、
1743大阪姉川座「式三番扇車」創作協力/56-57京沢村国太郎座で活動、
1757「大伴黒主百夜車」「けいせい千根の滝」「浪花染祭礼雛形」著
- B1141 一紅(いっく・羽鳥はとり、石井治兵衛女/羽鳥勘右衛門[麦舟]の妻) 1724-95 72 上州仁田の俳人;
綾足門、夫勘右衛門は高崎絹問屋主人、綾足[涼袋]妻の紫苑や加賀千代女らと親交、
1758「あやにしき」83「浅間嶽砂降記」85「孝子小伝」著
- C1175 一好(いっく・雪縁斎せつえんさい、白縁斎梅好の父) ?-? 狂歌・由縁斎貞柳門:高弟、
1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;貞因25回忌・貞峨[紀海音]13回忌追善集)入、
1771梅好「狂歌浪花丸」入、1775「西方六字丸」編1802「虎の巻」編、
[口切の茶に言問はん一むかし](しぐれの碑/10月4日貞峨の命日/十月は新茶の口切り)
- C1176 一口(いっく・花洛庵からくあん) ?- ? 川柳作者;1791「誹風柳多留二四篇」編、
1804「誹風柳多留三十篇」編/序、八重垣組連催主、
[いゝ男はだかだで弓をとりおさめ](柳多留14)
- H1109 逸香(いっく) ? - ? 江戸後期豊後別府の俳人、1864「松花集」編
一口(初世いっく・石川)→ 一夢(初世いちむ・石川、講釈師/合巻) C 1 1 0 7
一口(2世いっく) → 一夢(2世いちむ、文流、講釈師) G 1 1 4 3
一好(いっく・花井) → 一好(かぜよし・花井はない、蘭学/崑山を密告) M 1 5 5 8
一幸(いっく、俳名) → 新四郎(しんしろう・3世姉川、歌舞伎役者) E 2 2 6 8
一行(いっく・北城) → 諒斎(りょうさい・北城/北条、医者/種痘) H 4 9 6 7
一高(いっく、俳名) → 吉左衛門(きちざえもん・金子、歌舞伎役・作者) B 1 6 4 5
一光(いっく・日巖) → 日巖(日岩にちがん・一光、臨濟僧) B 3 3 1 6
一孝(いっく・富田) → 一孝(かざたか・富田、藩士/日記) M 1 5 2 6
一考(いっく・中島) → 一考(かざたか・中島なかじま、国学者) V 1 5 1 7
一浩(いっく・堀越) → 一浩(かざひろ・堀越ほりこし、歌舞伎作者) F 1 5 2 3
一向(いっく・不二川) → 山人(さんばち・藤川/土佐屋、歌舞伎作者) E 2 0 6 6
一興(いっく・村) → 一興(かざおき・村むら、藩士/国学者) V 1 5 8 9
一翁(いっく→いっく・是心軒)→ 是心軒(4世ぜしんけん・一翁、医者/華道家) K 2 4 6 3
一光斎(いっくさい・歌川)→ 芳直(よしなお・歌川うたがわ、絵師) F 4 7 2 0
一光斎(一好斎いっくさい)→ 芳盛(初世よしもり・歌川/三木、絵師) H 4 7 7 2
一交斎幾丸(いっくさいいくまる)→ 幾丸(いくまる・一交斎、絵師) F 1 1 3 5
一鑄士(いっくし・安陪) → 頼任(よりとう・安陪/安倍あべ、藩士/剣術家) J 4 7 1 1
一向舎(いっくしゃ、千葉)→ 陳芬館読兼(ちんぶんかんよみかね、狂歌/挿絵) K 2 8 9 6

- 一向上人(いっこうじょうにん) → 礼智阿(らいちあ・時宗僧/2代上人) 4 8 8 2
 一口仙(いっこうせん) → 再賀(さいが・守、俳人) 2 0 6 7
 一哭舎八雲(いっくしゃやくも) → 成胤(なりただ・本多ほんだ、陪臣/歌人) 0 3 2 7 3
- C1193 一根(いっこん) ? - ? 江前期撰津住人/狂歌;1666行風「古今夷曲集」入
 [我れ着ても久しく破やれぬ帷子は姫がよみをやおほくいれけん](夷曲集;夏150、
 私の単衣は織姫[職工]がよみ[縦糸の数]を多く入れたので破れない、
 本歌;我見ても久しくなりぬ住吉の岸の姫松幾代経ぬらむ;伊勢物語117段)
- H1110 一蓑(いっさ;入道号、伊藤いとう/本姓;藤原、通称;源右衛門)?-? 豊後大友氏家臣高橋家の武将、
 1651「高橋記」編
- C1178 一砂(いっさ・久目くじめ/久目)1636-? 1705存 讃岐観音寺の俳人;舎羅門、1705「有明浜」編
- H1111 一差(一左いっさ) ? - ? 京の俳人;夜半亭月並会仲間、
 1783維駒「五車反古ごしやほうぐ」入、
 [盆二日過て出来たる灯笼哉](五車反古;340/盂蘭盆会の送火の今日やと間に合った)
- 1121 一茶(いっさ・小林こばやし、名;信之のぶゆき、弥五兵衛男)1763-1827⁶⁵ 信州柏原の農家/3歳;生母に死別、
 継母と不和;1777(15歳)江戸に出て渡り奉公の生活、1782頃俳人;竹阿門/葛飾派、
 1792九州行脚;6年間、師竹阿の二六庵にらくあん継嗣;宗匠として一家成さず;知友を頼り流寓、
 成美・道彦・一瓢戸と交流、亡父の遺産をめぐる継母・義弟との長い抗争;1813決着;帰郷、
 晩年は遺産と俳諧宗匠収入でゆとりがあり結婚;3男1女を得たが夭折/1827火災で家焼失、
 焼残りの土蔵で中風発作;没、句風;社会の底辺に生きる惨苦を実感込め俗語・方言で表現、
 句数は2万句、句日記(寛政/享和/文政句帖・七番/八番/九番日記)、1801「父の終焉日記」、
 「我春集」「おらが春」著、「一茶発句集」没後刊、
 [目出度さもちう位もおらが春](おらが春)、
 [是がまあつひの栖すみかか雪五尺](七番日記)、
 [一茶(;号)の通称/別号]通称;弥太郎、
 別号;圀橋いきょう/雲外/菊明/阿道/亞道あどう、二六庵2世/俳諧寺はいかい
- H1112 一左(いっさ・近藤こんどう、瓢仙居)?-? 飛騨高山の俳人;楚諾門、水音社を主導、
 1790「多根飛佐古」著
 一蓑(いっさ・猪瀬) → 尚賢(なおかつ・猪瀬いのせ、書家/歌/俳人) 3 2 9 9
- H1113 一斎(いっさい・佐々部ささべ)1575- ? 1655存 武家/毛利家家臣、関ヶ原覚書:「一斎留書」著
- E1117 一斎(いっさい・谷たに/瀬良、名;松、谷時中男)1625-95⁷¹ 土佐儒/南学;父門/兼山・三省門、藩の右筆、
 1663家老野中兼山失脚により致仕、京で瀬良一斎と称す、江戸で幕閣土井利勝の顧問、
 「封事」著、門人;大高坂芝山/荘田琳庵/江木三寿など、
 [一斎の字/別号] 字;宜貞/巳千、 別号;懲室子
 参照 南学の系譜 → 梅軒(ばいけん・南村) B 3 6 0 6
- B1142 一斎(いっさい・沢田さわだ、名;重淵/文拱)1701-82⁸² 京の書肆風月堂主人;風月堂中興、
 儒者;若林強斎門、白話翻訳、日本古典の写本、西山拙斎らと交流、「連城壁」訳、
 「小説粹言」「侠妓可淑伝」「近思録師説」「敬斎箴師説」「東海奇談」著、
 1772-3日記「風月庄左衛門日曆」著、
 [一斎の通称/別号] 通称;風月庄左衛門(5世?)風月堂(5世?)、 別号;奚疑斎
- H1114 逸斎(いっさい・井上いのうえ、通称;左太夫、治兵衛男)1718-81⁶⁴ 加賀大聖寺藩士/御用所役・右筆職、
 御勘略奉行/奥御用人/1778致仕、古学;春台門/書家、1771「前田家系譜」「大聖寺藩系譜」
- D1174 一斎(いっさい・富森とみのもり)? - ? 江中期;語学研究者;音韻学、
 1769「韻鏡藤氏伝」編(;文雄「磨光韻鏡」説批判);のち泰山(大喜多)蔚げりより非難される、
 礪波今道の韻学の師
- H1115 逸斎(いっさい・高倉たかくら、名;胤明、谷田部胤寿2男)1750-1831⁸² 父は常陸水戸白銀町の彫刻家、
 高倉孝惟の養嗣子;水戸藩士、1805進仕/郡方与力/19致仕、1786「水府寺社便覧」編、
 「探旧考証」/1789-1819「続探旧考証」1790「水府地理温故録」1820「水戸法令」著、外編著多、
 [逸斎(;号)の字/通称/別号]/字;逸夫、通称;宇一衛門/甚次平、
 別号;清静堂/蘭発園/蘭発堂/一瓢/眺水
- H1116 一載(いっさい・豊田とよだ、通称;四郎兵衛)?-1811 大阪心学者;手島堵庵門、中山甫門の恭寛舎都講、

1795刊「泉州堺吉兵衛行状聞書」著

- 1122 **一斎**(いっさい・佐藤さとう、名;坦たん、岩村藩家老信由男)1772-1859⁸⁸ 美濃岩村藩士、1790藩主近侍、儒:林簡順・述斎門、1800静山の招聘で平戸藩校教授/1805林家塾頭/41昌平黌儒官、一斎点創、1813「言志録」28「言志後録」49「言志晩録」、「近思録説」「愛日楼全集」、「一斎雅言」「一斎居士藁」「心得録」「大学一家私言」「佐藤一斎日記」「陟岵日録」外著多数、[一斎の字/通称/別号]字;大道、通称;幾久蔵/捨蔵、別号;愛日楼/老吾軒、法号;惟一院
- C1179 **一斎**(いっさい・井筒いづつ、屋号;井筒屋)1774-1834⁶¹ 大阪歌舞伎役者/作者:2世文七門、浜芝居座元、百村友九郎の弟、1829大芝居作者;旧作補綴/読本脚色、27「色競恋の柵」28「玉牛宝蔵入」著、[井筒一斎の別号]初号;中山猪三郎、百村もむら猪三郎/2世百村友九郎(1815)/2世泉川循蔵、井筒翁字/一斎堂/一才堂/井井堂/銀井堂/井筒おぢ、俳名;臥猪/井井
- E1118 **一斎**(いっさい・藺田そのだ、名;守彝、守諸もりつら男/本姓;荒木田)1785-1851⁶⁷ 伊勢宇治の神職、母は宇治年寄磯部隼人親門女;三津代子、禰宜、儒、医者/儒;詩/経史、西国遍歴;津藩家老藤堂家賓の師、「四書要領」「詩学題林」「課塾詩題」「一斎詩集」著、「一斎雑著」著、1834「子規亭詩」36「鶏肋余抄」48「聴雪窩詩」著、守良もりよしは双子の兄、[一斎(;号)の字/通称]字;君乗くんべい、通称;宜客/右近、
参考 父 → 守諸(もりつら・藺田、神職/国学/歌) F 4 4 8 6
兄 → 守良(もりよし・藺田、神職/故実) G 4 4 8 8
- H1117 **逸斎**(いっさい・栗田あわた、名;朗あきら/通称;安兵衛、伝右衛門男)1790-1843⁵⁴ 上野桐生の絹買継商、詩・海庵庵翠屏吟社門、大窪詩仏/菊池五山と交流、1814「逸斎百絶」著
- E1119 **逸斎**(いっさい・千葉ちば、名;要)1792-1848⁵⁷ 陸中一関藩儒、儒;関元竜/冢田大峯門、1822藩校教成館教授/大学頭、「逸斎文鈔」「逸斎文稿」「雑録」著・「逸斎先生遺稿」[逸斎(;号)の字/通称]字;子簡、通称;潜蔵
- H1118 **一斎**(いっさい・手塚てつか/日原ひはら、名;可久よしひさ、日原以道[手塚坦斎]男)?-1852 常陸土浦藩士、儒者・幼時より父門;闇斎学を修学、1779藩主土屋英直の世子寛直の側子供として出仕、奥詰近習見習/馬廻/目付役/執次中小姓支配/用人/側用人;禄3百石、江戸藩邸で子弟教育、1836(天保7)藤森弘庵登用をめぐり藩学内紛;その責により免職/隠居;手塚一斎と称す、「中庸講義筆記」著、[一斎(;号)の通称]通称;徐/小源太、隠居後の称;手塚一斎
- H1119 **逸斎**(いっさい・小河おがわ、名;政常/通称;与十郎)1827-1900^{74歳} 常陸水戸藩士/1848進仕、詩人、1863「西上行記」著、[逸斎(;号)の別号] 蕉雨堂/致遠堂
- H1120 **逸斎**(いっさい・馬場ばば、名;成/通称貞四郎/別号;紫園)?-? 江後期江戸儒者/紀州藩江戸藩邸授読、撃剣/槍術に熟達、書を能くす、「紫園奇賞」著
- H1121 **一哉**(いっさい・安部あべ、別号;無可不可)?-? 江戸末期、陸前仙台の俳人、「俳諧雑集」著
- | | | | |
|------------------|---|-------------------------|-----------|
| 一哉(いっさい・渋川) | → | 正陽(まさてる・渋川/川口、幕臣) | E 4 0 2 4 |
| 一斎(いっさい;出家号) | → | 親具(ちかとも・水無瀬/堀川/高倉、廷臣) | B 2 8 3 2 |
| 一斎(いっさい・松下) | → | 葵岡(きこう・松下/葛山、幕臣/儒者) | I 1 6 6 2 |
| 一斎(いっさい・筑紫) | → | 従門(よりかど・筑紫/藤原、幕臣/神道) | I 4 7 5 3 |
| 一斎(いっさい・高) | → | 充国(みつくに・高こう、医者) | D 4 1 3 3 |
| 一斎(いっさい・村士) | → | 玉水(ぎよくすい・村士すぐり、儒者/兵学) | I 1 6 8 5 |
| 一斎(いっさい・平元) | → | 謹斎(きんさい・平元ひらもと、藩士/儒/軍事) | J 1 6 0 0 |
| 一斎(いっさい・小出) | → | 風松(ふうしょう・小出こいで、俳人) | 3 8 8 0 |
| 一載(いっさい→かずとし・青木) | → | 一貫(いっかん/かずら・青木、藩主) | G 1 1 7 8 |
| 逸斎(いっさい・呉/五十嵐) | → | 竹紗(ちくさ・五十嵐/修姓;呉、絵師) | D 2 8 0 2 |
| 逸斎(いっさい・福田) | → | 馬了(ばりょう・福田、俳人) | F 3 6 9 1 |
| 逸斎(いっさい・水野) | → | 忠敬(ただり・水野みずの、幕臣/本草) | Q 2 6 4 5 |
| 逸斎(いっさい・野村) | → | 貞処(ていしょ・野村のむら、和算家) | B 3 0 1 6 |
| 逸斎(いっさい・小野) | → | 好純(よしずみ・小野おの/安福、国学/歌学) | D 4 7 8 4 |
| 佚斎樗山(いっさいちよざん) | → | 樗山(ちよざん・佚斎いっさい、藩士/談義本) | K 2 8 3 8 |
| 一才堂(いっさいどう) | → | 一斎(いっさい・井筒、歌伎役/作者) | C 1 1 7 9 |

- K1168 **一策**(いっさく;通称・松尾まお、名;為嗣ためつぐ、藤平[為蔭/1808-66]男)?-? 筑前鞍手郡八尋村の庄屋、
江後期の国学者/歌人;父;(伊藤常足門)門
一作(いっさく・牧まき) → 東海(とうかい・牧、儒者/歌人) B 3 1 9 1
一作(いっさく・神代) → 名臣(なきおみ・神代かみしろ、医/国学者) D 1 0 3 0
一作(いっさく・具足屋) → 正明(まさあき・尾崎/源、国学/狂歌) B 4 0 0 7
一作(一三九いっさく・沢田) → 静修(せいしゅう・沢田/伊尾喜、藩儒) I 2 4 6 4
一作(いっさく・大島) → 為員(ためさだ・大島おおしま/平、藩士/歌) W 2 6 1 3
一作(いっさく・菊池) → 信近(のぶちか・菊池さくち/大塚、国学者) I 3 5 1 8
一作(いっさく・里見) → 義亮(よしすけ・里見さとみ/石城、国学者) N 4 7 2 2
一作(いっさく・山下) → 清臣(きよおみ・山下やました、国学者/歌人) V 1 6 5 3
一作(いっさく・竹内) → 啓(ひらく・竹内たけうち/小川、医者/尊王) K 3 7 1 7
逸作(いっさく・山本) → 資胤(すけたね・山本やまと、庄屋/国学) J 2 3 3 7
一撮(いっさつ・別所) → 良修(よしなが・別所べっしょ、藩士/歌人) O 4 7 9 7
一撮園(いっさつえん) → 士前(しぜん・永井ながい、庄屋/俳人) U 2 1 1 8
- H1122 **一傘**(いっさん) ? - ? 俳人;1691北枝「卯辰集」入;
[花も見ず止長しちやうにかゝる碁打哉](卯辰集;130、
止長;逃げる相手の石をあと一手まで追詰める状態/追詰められ花見の余裕無し)
淡々と同一か? → 淡々(たんたん・松木/曲淵、渭北、俳人) 2 6 9 4
一傘(いっさん) → 淡々(たんたん・松木/曲淵、渭北、俳人) 2 6 9 4
一山(いっさん・一寧、一山国師) → 一寧(いちねい;法諱・一山、臨濟僧) 1 1 1 6
- D1175 **逸山**(いっざん;道号・祖仁そにん;法諱、俗姓加陽) 1655-1734⁸⁰ 備中加陽郡宮内村の臨濟僧;
1665讃岐玄要寺の義海門;出家、1673和歌山禅林寺の虎林門/83盤珪永琢に随従、
法兄の節外祖貞門;嗣法、1703江戸天祥寺住持/05伊予如宝寺住持/19伊予新谷妙覚寺開山、
1725伊予景光寺開山/27(享保12)京妙心寺住持/禅師号を受、
1730「盤珪禅師語録」「盤珪禅師法語」「盤珪和尚行業略記」編(盤珪禅師は盤珪永琢よたく)、
[逸山の号] 眞性浄明禅師
佚山(いっざん;道号・黙隠) → 黙隠(もくいん;法諱・佚山、曹洞僧) 4 4 6 7
- E1162 **一絲**(いっし;道号・文守ぶんしゅ/もんじゅ;法諱、岩倉具堯男) 1608-46³⁹ 京の臨濟僧、
初め1626律僧賢俊門、のち堺の臨濟宗南宗寺の沢庵門、のち雲居希膺きよう門、
さらに愚堂東寔とうしよく門、1639近江永源寺住持、桐江庵住/法常寺の開山、
「大梅山夜話」著(後水尾上皇に奉)、「桐江集」「山居集」編、「十首詩歌」「一絲詩歌」著、
「一絲和尚法語」、「定慧明光仏頂国師語録」外著多数、狂歌「古今夷曲集」入、
[手をのべてゆるりと寝るか布袋どの袋の中になにもなければ](夷曲集;釈教1031、
眠れる布袋の画賛)、
[一絲文守の号] 桐江/耕閑/閑夢、諡号;定慧明光仏頂国師
- B1144 **一之**(いっし・かずゆき・沢口さわぐち、通称;三郎左衛門、号;宗隠)?-? 江戸前期大阪和算家;橋本正数門、
関孝和門?;関備中守に出仕;後藤角兵衛と称したか?、1670「古今算法記」
- B1145 **一之**(いっし) ? - ? 和泉堺の俳人;梅盛門、1668「細少石」入
- J1140 **一志**(いっし・山下やました) ? - ? 江前期上方の俳人、
1673西鶴「生玉万句」第四茄子脇句/第二椿発句等入、
[夕祓ゆふはらへとて祭客人](茄子脇/夕祓;六月晦日の夕刻の大祓、
発句風角;お神楽の数は鈴なり茄子哉)
[奉る花は生玉椿かな](椿発句)
- E1144 **一之**(いっし) ? - ? 安藝広島俳人、1691江水「元禄百人一句」目録入
- E1145 **一至**(いっし・田中たなか) ? - ? 京の俳人、1691江水「元禄百人一句」目録入
- I1197 **一子**(いっし) ? - ? 俳人;1691不角「二葉之松」入、
[時頼は笠に恥ぢける世の寛ゆるさ](二葉之松;28/前句;福々ふくぶくしくも笑い聞ゆる、
北条時頼は諸国遍歴し世情を探る/笑いの一方で忠義の士の貧窮を知り治世を恥る)
- J1145 **一止**(いっし・平野ひらの) ? - ? 江前期上方の俳人/1678西鶴「物種集」入、
[土器かはらけに宇智の郡の魚までも](物種集/前句;年徳棚としとくだなややしる定めつ、

- 年徳棚;正月その歳神を迎る棚;恵方棚/大和宇智郡阿陀村より吉野川の魚を贅に捧る)
- I1198 一止(いっし) ? - ? 俳人;1691不角「二葉之松」2句入、
1703不角「広原海枕のうみ」入、上記平野一止と同一?、
[子の夜泣きいはゞ比翼の鳴子なるこにて](広原海/前句;又寝入りばな起されに覺けり)
- I1199 一枝(いっし) ? - ? 京の俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」入、
[儒と仏に嘗めてみる酢も元は水](万国燕;364/画題「酢吸の三聖人」
(三聖[孔子・釈迦・老子]が嘗める酢も元は水;本来人間共有の本姓)
- B1143 逸志(いっし・木村きむら・笠家かさや、通称;源左衛門)1675-174773 江戸浅草の俳人;才麿門、点者、
1718才尾さいび「椎本先生語類」に師の語録を提供、1718「俳諧秘説抄」26「移遷美弥賢いせみやげ」編、
1726貞佐「代々蚕よかいこ」入、28「紫の糸」/44「寿蔵集」編、
「友燕」「春のまこと」「俳諧都乃梅」編著、
[逸志(;号)の別号] 一志/曲庵/棘庵/局庵/半局庵/笠庵/致局庵/素竹軒/雪堂/玄哲/宗梅
- C1180 一志(いっし) ? - ? 江中期江戸の雑俳点者、1767丸窓「豆鉄炮」入
- H1123 一之(いっし・須田すだ、名;恕俊)1747-1829(1733-1815説)82(83) 信州伊那no医者/俳人:吾芳門、
1801江戸の士朗門、江戸住、1774美角「ゑぼし桶」入/1800「梅香炉」編、
追善「花七草」正璋編、
[初雪と見る間に雨の夜明哉](ゑぼし桶;67/気温の変化を視覚で捉える)、
[一之の別号] 山水舎、羅浮窓
- J1157 逸史(いっし・西にし・) ? - ? 長門長府藩士、俳諧・書画に長ず、
藩史研究;「藩中略譜」「御当家御家人前帳」編、
[逸史(;号)の名/通称/別号]名;国香、通称;源四郎、別号;竹苞斎/鷺橋
- H1124 一枝(いっし・風月楼) ? - ? 江戸洒落本;1804「彫青きざとがめ」「傾城買杓子規」著
- H1125 一止(いっし・宮下みやした、通称;伊兵衛/別号;3世瓠形庵)1792-186978 陸前仙台の俳人、
1844「さはひこめ」45「さちき集」60「むつのゆかり」65「はなむくけ」、「はなもよひ」編、
- H1126 一枝(いっし・春草庵) ? - ? 江後期華道:春秋軒一葉門、下町遠州流の祖、
1835「生花図解」著
- J1173 一枝(いっし・) ? - ? 江後期歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、伊東奚疑けいぎ(号;一枝/仙台藩士/1795-1859)と同一?、
[なかなかにいひ寄らぬこそ猿まらなれ山のかひなき此身と思へば](大江戸倭;恋1591)
- J1174 一之(いっし・) ? - ? 江後期歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[今ははやけぶりも絶えて日の本の国のしづめといはふ富士のね](大江戸倭;雑1670)
- B1146 一之(いっし・白井しらい、名;政規、有明庵、政周[一之]男;父と同号)1820-8465 信州中野酒造業、
俳人;一茶門、1852一茶自筆稿「おらが春」初出板、「梅香炉」編、「一茶遺稿集」編、
1853「一茶翁俳諧文集」編
- 一之(いっし・高山) → 畏斎(いさい・高山たかやま、儒者) E 1 1 2 5
一之(いっし・常見) → 浩斎(こうさい・常見つねみ、藩士/儒者;1746-1835) I 1 9 8 9
一之(いっし・伊藤) → 一之(かずゆき・伊藤いとう、歌人) W 1 5 2 6
一之(いっし・堀田) → 一之(かずゆき・堀田ほった、幕臣/和学者) V 1 5 6 5
一止(いっし) → 白玉(はくぎやく・風水軒、正親町公通、廷臣/神道/狂歌) 3 6 0 8
一止(いっし・津村) → 旨武(むねたけ・津村つむら、国学/歌人) B 4 2 5 5
一止(いっし・山名) → 豊樹(とよき・山名やまな、藩士/神職/国学) T 3 1 3 5
一志(いっし・杉原) → 重武(しげたけ・杉原すぎはら/藤田、藩士/歌) Z 2 1 0 2
一志(いっし・堀内) → 正忠(まさただ・堀内ほりうち、名主/和漢学) S 4 0 4 5
一枝(いっし・栗崎) → 履斎(りさい・栗崎くりさき、儒者) B 4 9 0 6
一枝(いっし・伊東) → 奚疑(けいぎ・伊東いとう、藩士/儒/易学) F 1 8 4 2
一指(いっし・松本) → 定好(さだよし・松本まつもと、槍術家) K 2 0 2 1
一指(いっし・武川亭) → 永理(永鯉えいり・武川・礪川亭、絵師) C 1 3 0 7
一指(いっし・小笠原) → 長保(ながやす・小笠原、幕臣/日記) G 3 2 1 9
- H1127 逸二(いっし・二宮にのみや、蘭方医二宮敬作男)?-1862 伊予宇和島藩士/洋学、対馬のロシア軍艦探索、

1857「洋外戦具式」訳

- 一志庵(いっしあん) → 一峨(いちが・根本ねもと、俳人) G 1 1 1 0
 一枝庵(いっしあん) → 緑野(りよくや・萩原はぎわら、儒/講説/詩) J 4 9 8 2
 一思庵不学(いっしあんふがく) → 潤亭(じゅんてい・神谷かみや、医/音曲家) L 2 1 5 2
 一枝窩(いっしか) → 佶厚(信厚のぶあつ・柘植つげ、藩士・国学) J 3 5 1 5
 一式(いっしき・山内) → 隄雲(ていうん・山内、蘭医) 3 0 3 3
 逸士喜完(いっしきかん) → 月尋(げつじん・藤岡ふじおか、俳/歌/浮世草子) B 1 8 0 8
 一止軒(いっしけん) → 都の錦(みやこのにしき・宍戸与一、浮世草子) 4 1 3 9
 一之軒(いっしけん) → 松風庵(しょうふうあん、軍記読) B 2 2 3 8
 一枝軒(いっしけん) → 宣阿(せんあ・香川/平、藩士/歌人) 2 4 2 2
 一枝軒(いっしけん) → 尚房(なおふさ・野村、宣阿門歌人) 3 2 0 3
 一志軒(いっしけん) → 宗普(そうふ・今井いまい、華道;生花古流) I 2 5 8 0
 一止窓(いっしそう) → ト胤(ぼくいん・児玉こだま、神職/俳人) C 3 9 8 9
- B1147 一室(いっしつ・梅井とがのい) 1722-1791 70歳 京油小路通六角下ルの書肆2代目、
 歌;初め烏丸光胤門;破門、武者小路実岳・日野資枝門、門弟に歌道を教授、
 澄月/小沢蘆庵/伴蒿蹊らと交流、備中吉備津社祠藤井高久・高尚たかなおの師、
 「詞のあきくさ」「蘆のとまや」著、1736「竹溪遺稿」編/70「てには網引綱」81「蜘蛛のすがき」著
 [一室(;号)の名/通称]名;道敏/秀信、通称;藤兵衛
- 一執(いっしつ・香西) → 一執(かざたね・香西かさい、藩士/国学者) U 1 5 1 3
 一枝堂(いっしどう) → 了阿(りょうあ・村田むらた、和漢学/書) G 4 9 0 1
 一枝堂(いっしどう・山内) → 香雪(こうせつ・山内やまうち、藩士/書家) K 1 9 1 6
- H1128 一酌(いっしやく、酒屋太右衛門)?-? 伊賀の俳人;1698「続猿蓑」入、
 [寐がへりに鹿おどろかす鳴子哉](続猿蓑;巻下鹿/夜番に寝込んで鹿威しの紐を引く)
 一勺井(いっしやくせい) → 桂五(桂吾けいご・金森、藩士/俳/狂歌) 1 8 5 0
- J1150 一守(いっしゆ・柏井) ?-? 江前期和泉堺の俳人、1676西鶴「俳諧師手鑑」入、
 [芋よ芋よどの子もち月あすの月](手鑑/八月十四日の夜月を見て/
 どの子持ちと小望月を掛る/明日は芋名月)
- H1129 一炷(いっしゆ/いっしょ・初音楼)?-? 江後期合巻作者:十返舎一九門、
 1810「御覧恋曲者」11「人武士弓引方」著
 一守(いっしゆ・一宮) → 栄樹(さかき・一宮いちのみや、神職) N 2 0 8 8
- C1181 一舟(いっしゅう) ?-? 連歌、1561「飯盛千句」入
- H1130 一洲(いっしゅう・別号;竹窓)?-? 江戸中期俳人;一漁門、1780「俳諧鶴い初編」著
- H1131 一舟(いっしゅう・三浦みづら、名;義類/義方、通称;文左衛門) 1790-1860 71 岩代二本松藩郡代、
 詩/園芸に通ず、「本朝詠史百絶」「支那詠史二百首」著
- H1132 聿修(いっしゅう・撰待せつたい、通称;兵助/別号;毎日庵)?-1845 陸中盛岡俳人・能書家、
 1829「俳諧釣干葉」、「毎日庵句集」著
- 一州(いっしゅう;道号・正伊) → 正伊(しょうい;法諱・一州;道号、曹洞僧) G 2 2 7 1
 一州(いっしゅう・春柳庵) → 春柳庵一州(しゅんりゅうあんいっしゅう、華道) M 2 1 0 1
 一周(いっしゅう・加藤) → 一周(かづかね・加藤、歌人) M 1 5 1 6
 一秀(いっしゅう・松岡) → 稲坡(とうは・松岡、藩士/俳/詩/書) G 3 1 9 0
 一秀(いっしゅう・大村) → 一秀(かずひで・大村おおむら、和算家) M 1 5 4 4
 一秋(いっしゅう) → 証政(あきまさ・渡辺、地誌家) D 1 0 8 6
 一娥(いっしゅう・内藤) → 盛業(せいぎよう・内藤ないとう、藩士/俳人) H 2 4 9 4
 逸洲(いっしゅう・安田) → 貞方(さだかた・安田やすだ、国学者/歌人) O 2 0 0 9
 一舟軒(いっしゅうけん) → 冬康(ふゆやす・安宅あたぎ/三好、武将/連歌) E 3 8 4 4
 一秀斎(いっしゅうさい) → 芳勝(よしかつ・歌川うたがわ/石渡、絵師) C 4 7 8 9
 一舟子(いっしゅうし・渡頭) → 庭鐘(ていしょう・都賀、医/儒/読本) B 3 0 2 0
 一叔(いっしゆく・堀田) → 梅園(ばいえん・堀田、商人/国学/歌) 3 6 6 3
 一珠斎(いっしゅうさい) → 国員(くにかず・歌川うたがわ、絵師) C 1 7 6 9

- 一株林(いっしゅりん) → 風草(ふうそう・林はやし、商家/俳人) 3 8 8 8
- C1182 一春(いっしゅん) ? - ? 大阪の俳人/宗匠、1718波天「万石船」入
- 一春(いっしゅん・黒田) → 一春(かずはる・黒田くろだ、藩士/歌人) M 1 5 3 9
- 一炷(いっしょ・初音楼) → 一炷(いっしょ・初音楼、合巻作者) H 1 1 2 9
- J1170 伊津女(いっじょ) ? - ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[年月に思ひつもれる新枕うきわかれせんはじめなりけり]、
(大江戸倭歌;恋1437、始逢恋)
- K1125 逸女(いっじょ・後藤ごとう、後藤与七郎長女) 1814-83⁷⁰ 母;遠藤兵三郎女のハル、
出羽雄勝郡萩袋村野村の農家、歌人、蒔絵;井上武兵衛門/川連塗を修得、歌の勉強、
1829(16歳)結婚;虎吉(のち与七郎)の母/夫早世、歌;秋田藩士大山隼人門、歌名上る、
[野村の逸女]と称される/久保田藩主佐竹義厚よひろにより湯沢本陣に招待され詠歌、
義厚室松操院とお付の綾瀬の局に寵愛せられ久保田城や江戸藩邸に出入り、
国学;大山好古門/歌;吉川忠行・村井政直(竹廼舎)・荒川秀高(政直父)・西善寺の釈蓮阿門、
江戸藩邸で北村季文門、佐野屋民子と交流、
1848(嘉永元)頃父の病で帰郷/父没後;母・息子・孫卯一郎・直二郎の5人暮し;
農業・病母の看病・家事・後進の指導・歌作に奮闘、生涯に約3千首の詠、
門弟;横堀の小山田いよ子・湯沢の松井玉子・川連の桶渡おのえ/外多数、
歌集;「一夜二十首詠藻」「西とし詠藻」著、「伊都女歌集」「逸女歌文集」「逸女真筆集」あり、
[うらむべき山の端もなし若竹のつまにかくるむさし野の月](春月入平地/本陣の詠)
[雨露の恵みかけてよ老ぬれどまだ言の葉の道の若草](西とし詠藻)
[老いにける身のうきふしは忘られて愛づる千とせの庭の岩竹](歌碑)
- B1148 一笑(いっしょう・若山わかやま) ? - ? 尾張津島の俳人;貞門俳人、1644友次「阿波手集」入・
1673友意「旅衣集」入、のち蕉門に転ず、1689「曠野」5句入、1699東鷲「小弓俳諧集」入、
1701寄木「枕かけ」入、
[鶯にちひさき藪も捨てられじ](あら野;巻二初春)、
若山東半[?-1674]と同一説あり
- B1150 一品(いっしょう・芳賀はが、名;治貞) 1643-1707⁶⁵ 京の医者、俳諧;独学/のち令徳門?;崑山の印を受、
談林矢数;13500句、1683江戸住;芭蕉・其角と交流、1686蕉門の風瀑の伊勢度会帰省に同行、
京の母見舞/江戸に戻るが孤立;雑俳点者/自派中心に上方風前句付を江戸に流行させる、
絵画に長ず;菱川風画:「西鶴画像」、1680「四衆懸隔」81「万水入海」82「あやしき」、
1687「丁卯集」92「千句前集」96「一塵重山ちようざん集」1703「八衆懸隔」、前句付集「高低集」、
「俳諧蔓付贅つるいば」俳諧「如何いかん」「一品俳書」著、句は1666行風「古今夷曲集」1首入、
1667樗良「我庵」85風瀑「一楼賦」89「あら野」等入、
[一夜漏る時雨に骨を絞る哉](一楼賦;冬/蕉庵に蓑を借りて、
骨を絞るような悲痛な気持、
芭蕉「茅舎ノ感/芭蕉野分して盥に雨を聞夜哉」[武蔵曲]に呼応して作る)、
[かざり木にならで年ふる柏哉](あら野;二歳旦/正月飾にならない柏は伐られず長寿)、
[一品(;号)の通称/別号]通称;順益/玄益、別号;冥霊堂めいれいどう/崑山翁/応言室
- B1149 一笑(いっしょう・小杉こすぎ、名;味頼、通称;茶屋新七) 1653-1688^{36歳} 金沢片町の茶屋経営、
俳人;梅盛門/のち蕉門;1689芭蕉細道の「塚も動け」の句、ノ松べっしょうの弟
「時勢粧」「孤松」「いつを」/「曠野」(4句)/「卯辰集」入、追善「西の雲」(;兄のノ松編)、
[元日は明けすましたるかすみ哉](あら野;巻二歳旦)
兄; → ノ松(べっしょう・小杉、俳人) 2 7 9 9
- 1176 一嘯(いっしょう) ? - ? 俳人・晩山門、1690「本式百韻」入
- H1133 一笑(いっしょう) ? - ? 俳人;1692遠舟「八重一重」独吟入
- H1134 一掌(いっしょう・荒井あらい、通称三郎兵衛) 1726-1804⁷⁹ 茶人・志村三栄門/茶道三斎流、
禪;白隠門、江戸麹町に閑市庵を結ぶ、「名物釜記」著、
[一掌の別号] 古帆/一青/宗音、閑市庵
- C1183 一肖(いっしょう・津民/小森、名;光明) 1793-1858^{66歳} 日向延岡の俳人:駝岳[木仙]/屋烏門、

八千房はちばう4世襲名、1823「木の下」28「枯野集」、32「よひ醒」「はななづな」編
[一肖の別号] 淡叟/駝岳(師の号を襲名)/三帰堂、八千坊はちばう4世

H1135 一嘯(初世いっしょう・所縁亭しよえんてい、鈴木すずき)?-? 江後期陸前仙台の遠州流華道家、
1850「花筐はながたみ」著

H1136 一嘯(2世いっしょう・所縁亭、鈴木すずき、名;親敬、別号;露玉、初世男)?-? 江後期仙台の遠州流華道家、
1863「後の花筐はながたみ」著、仙台藩士鈴木親敬ちか(史家/歌人)の子孫?

一笑(いっしょう;道号) → 禅慶(ぜんけい;法諱・一笑、臨濟僧) F 2 4 2 5
一笑(いっしょう・鈍仏庵) → 幽眠(ゆうみん・三国みくに、尊攘/詩歌) D 4 6 8 2
一笑(いっしょう・橋田) → 春湖(しゅんこ・橋田きつた、俳人) J 2 1 5 9
一笑(いっしょう・金井) → 由輔(初世ゆうすけ・金井、歌舞伎作者) 4 6 1 6
一章(いっしょう・目黒/小島) → 舍用(しゃよう・小島/目黒、俳人) G 2 1 5 4
一嘯(いっしょう・円山) → 応挙(おうきよ・円山/藤原・源、絵師) 1 4 4 6
一照(いっしょう・早川/矢野) → 一貞(かずさだ・矢野やの、藩士/地誌) M 1 5 2 3
一松(いっしょう・南部) → 利謹(としのり・南部なんぶ、有職故実/歌) N 3 1 3 2
一勝(いっしょう・森本) → 百丸(ひやくまる・森本、俳人) 3 7 1 2
一勝(いっしょう・松井) → 素輪(そりん・松井まつい、俳人) E 2 5 5 4
逸勝(いっしょう・森) → 厚給(あつとも・森もり、医者/国学/歌) I 1 0 5 5
一笑庵(いっしょうあん) → 右麦(ゆうばく・桑原くわばら、俳人) D 4 6 5 8
一生観(いっしょうかん) → 白翁(白鷗はくおう・平沢ひらさわ、卜占家) C 3 6 7 6
一松軒(いっしょうけん) → 湖外(こがい、俳人) G 1 9 7 4
一松軒三石(いっしょうけんさんせき) → 源八(げんぱち・菅原、村役/救民/俳人) M 1 8 1 5
一笑斎(いっしょうさい) → 房種(ふさたね・歌川うたがわ/村井、絵師) C 3 8 1 3
一掌斎(いっしょうさい) → 芳玉(よしたま・歌川うたがわ/清水、絵師) E 4 7 4 1
一松斎(いっしょうさい) → 芳宗(初世よしむね・歌川/林/鹿島、絵師) H 4 7 6 2
一松舎(いっしょうしゃ) → 保村(やすむら・狩野かのう、神職/国学者) F 4 5 7 1
一松井(いっしょうせい) → 臯畝(こうぼ・宮脇みやわき、俳人) L 1 9 1 8
一笑禅師(いっしょうぜんじ) → 禅慶(ぜんけい、一笑、臨濟僧) F 2 4 2 5
一松堂(いっしょうどう) → 行権(ゆきのり・藤井ふじい、国学・歌人) H 4 6 2 0

D1176 一升夢輔(いっしょうゆめすけ)?-? 狂歌作者、徳和歌後万載集3首入;214/374/728、
[七夕のいと口きらぬむつ言にくだかけ鳥のくりかへしなく](後万載;214)、

(七夕の糸;織女星に五色の糸を捧げ願事をする;糸口に懸る)

一枝楼(いっしろう) → 秋陽(しゅうよう・吉村/小田、儒者/詩人) E 2 1 1 2

C1184 一信(いっしん)?-? 俳人、1672元隣「諸国独吟集」独吟入

H1137 一真(いっしん・片山かたやま、童観どうかん男)?-? 1760存 米沢藩儒;1723家督/学問所管理/60致仕、
1741「当家葬祭の記」著、観光かんこうの父

一心(いっしん・鍋島) → 茂延(しげのぶ・鍋島、家老/歌人) R 2 1 9 8
一心(いっしん;法号) → 重信(しげのぶ・吉田よしだ、弓術家) R 2 1 9 3
一心(いっしん・得蓮社) → 浄嚴(じょうごん;法諱、浄土僧) I 2 2 9 2
一信(いっしん・三輪) → 丈印(じょういん・三輪みわ、商家/歌人) V 2 2 2 8
一信(いっしん・逸見) → 一信(かずのぶ・逸見へんみ、絵師) M 1 5 3 7
一信(いっしん/かずのぶ・猪子) → 一興(かずおき・猪子いのこ、幕臣/国学) T 1 5 5 7
一信(いっしん・徳永) → 一信(かずのぶ・徳永とくなが、国学者) V 1 5 1 2
一信(いっしん・早川) → 一信(かずのぶ・早川はやかわ、藩士/国学) V 1 5 4 1
一真(いっしん・山内) → 流濟(りゅうさい・山内やまうち、武芸者/日蓮僧) D 4 9 9 9
一真(いっしん・田口) → 兼亮(かねすけ・吉田よしだ/藤原、浪士;討入) W 1 5 1 4
一辰(いっしん・島野) → 一辰(かずとき・島野しまの、歌人) W 1 5 2 7
逸心(いっしん) → 顕明(けんみょう;法諱、真宗大谷派僧) M 1 8 4 4

H1138 逸人(いっじん・浪速梅林)?-? 俳人;1679惟中「近来俳諧風体抄」跋文

B1151 逸人(いっじん・加藤かとう、幼名;司馬太郎/名;肅、俗称;油屋太助) 1774-1829自殺56 尾張枇杷島富商、
俳諧;白虎・道彦門、国学;鈴木木根あきら門、俳席・俳書に驕奢、晩年狂乱し自殺、

1813「叩齋集」「雨華」「上元集」「水月集」「梅花集」「梅樹軒月並集」「鶯囀梅」「桃桜」編、
 1814「銀河」「虫の声」「文音親友録」「文章觀友録」編/15「花御史」編、
 [逸人(；号)の字/屋号/別号]屋号；大星大田屋、字；俊方/政郷/敬子、
 別号；足彦/思永堂/白竜/学痴/梅樹軒/桜叟/北石斎/一貫舎/芙蓉楼/隣坡、
 鷗声亭/芦華園/顔厚/芦湾/長流/醉月庵/聴松逸人

逸人(いつじん・亭亭亭、堂堂堂主人「四鳴蟬」著)→ 庭鐘(ていしょう・都賀、儒/読本) B 3 0 2 0

逸人(いつじん・木村) → 世祭(つぐあき・木村きむら、医者/国学) F 2 9 5 9

一心院(一心院) → 冬通(ふゆみち・鷹司/藤原、廷臣/歌人) E 3 8 4 0

一眞院(一心院) → 日治(にちじ；法諱・巨舜、日蓮僧) C 3 3 0 5

C1186 一眞斎(いっしんさい・大場おおば景淑かげよし、景命男) 1803-7169 母；稲葉通義女、江戸の生；常陸水戸藩士、
 1831(天保2)家督嗣/藩主徳川斉昭に出仕；藩政改革に参加、大番頭/1844大寄合頭、
 1863執政/主膳正、勤王家、1844(弘化元)斉昭隠居に伴い失脚し幽閉；
 1855(安政2)斉昭が復帰により家老に就任、斉昭没後は徳川慶篤に出仕、
 水戸藩内の政争収拾に尽力；東禅寺襲撃事件の責で家老解任、復職；慶篤に随従し上洛、
 京の守衛に当る/慶喜の將軍就任に伴い直臣(幕臣)となる；二条城留守居役/従五位下、
 歌人/武術；射術、「大場一眞斎詠草」著、

[一眞斎(；号)の通称/別号]通称；熊之助/弥右衛門/主膳正、別号；風軒

一心斎(いっしんさい・池田)→ 治政(はるまさ・池田いけだ、藩主/日記) G 3 6 8 6

一心斎(いっしんさい・篠原)→ 慶英(よしひで・篠原しのはら、武芸者/書画) G 4 7 4 1

一心軒(いっしんけん) → 岸紫(がし・長谷、俳人) D 1 5 8 3

一信亭(いっしんてい) → 鶯斎(おうさい・梅の本、絵師) C 1 4 4 2

C1185 一吹(いっすい・多々良たたら/滝川たきがわ、吹毛)?-? 軍記作者

1617「後太平記」の定稿を書く(42卷)[1677多々良一竜が編纂]、

1681「後太平記評判」著(1679自跋)、

一竜と同一説? → 一竜(いちりゅう・多々良、「後太平記」著) C 1 1 6 3

C1187 一水(いっすい・木村きむら) ?-? 陸前仙台の俳人、

1684三千風のため俳諧興行(行脚集)

E1146 一水(いっすい・亀田かめだ) ?-? 加賀金沢の俳人、1689言水「前後園」入、

1690「新撰都曲」2句入、92助叟「俳諧新始」入、

[雷(らい)止みて榎(えん)あさがほいきる籬(さかき)まがきかな](新撰都曲；上227)、

1692不角「千代見草」入集の一水と同人か

H1139 一翠(いっすい) ?-? 京の俳人；1690言水「新撰都曲」4句入、

[苗代(なえしろ)やはまりて醒(さ)めし僧(そう)の酔(よ)ひ](都曲；上13)

E1147 一醉(いっすい、別号；老山子)?-? 越後新潟の俳人；梅盛門、

1690言水「新撰都曲」4句入、1991似船「勢多長橋」入、

[水(みづ)すみて形(かたち)知らるゝ蜺(なまこ)じみかな](都曲；下193)

一水(一醉いっすい・吉田)→ 友次(ゆうじ・吉田、俳人) C 4 6 1 7

一水(いっすい・坪屋) → 方乎(ほうこ・坪屋、俳人) F 3 9 6 5

一水(いっすい・岡本) → 五休(ごきゅう・芦明庵、俳人) M 1 9 0 7

一水(いっすい・青方) → 運善(ゆきよし・青方あおかた、家老/記録) 4 6 2 8

一水(いっすい・三田村) → 蘭谷(らんこく・三田村みたむら/藤原、儒/詩人) C 4 8 0 9

一水(いっすい・堀) → 直義(なおよし・堀ほり、歌人) K 3 2 3 0

一水(いっすい・岡屋) → 武敏(たけとし・岡おか、商家/国学) W 2 6 2 5

一翠(いっすい・英、絵師) → 額輔(がくすけ・絵馬屋えまや、狂歌) E 1 5 7 4

一翠(いっすい・宮川) → 道達(どうたつ・宮川、和学/漢学/歌人) G 3 1 3 5

一睡(いっすい・加藤) → 正修(まさのぶ・加藤かとう、藩士) F 4 0 7 1

一炊庵(いっすいあん) → 紹廉(しょうれん・小野、俳人/茶人) C 2 2 0 5

一炊庵(2世いっすいあん) → 万翁(まんおう・木田/鉄屋、紹廉門俳人) K 4 0 4 0

一炊庵(いっすいあん) → 泊帆(はくはん・宮田、18ct末俳人) D 3 6 8 1

一炊庵(いっすいあん) → 南陽(なんよう・宮田、19ct初俳人) 3 2 4 7

- 一水庵(いっすいあん) → 我柳(がりゅう・矢田やだ、俳人) P 1 5 7 1
一水軒(いっすいけん) → 重氏(しげうじ・吉田/葛巻、弓術家) Q 2 1 6 3
一翠軒(いっすいけん) → 竹叟(ちくそう・永良ながら/赤松、故実家/歌) D 2 8 3 3
一翠子(いっすいし) → 道達(どうたつ・宮川、詩歌) G 3 1 3 5
一睡亭海棠(いっすいていかいどう) → 海棠(かいどう・一睡亭、狂歌) I 1 5 9 7
一崇(いっすう・小河) → 一敏(かずとし・小河おごう、藩士/勤王/詩) C 1 5 2 3
一寸一葉(いっすんいちよう) → 三陀羅法師(さんだらほうし、狂歌) E 2 0 5 4
一寸茆簷処(いっすんぼうえんしょ) → 武(たけし・樋口ひぐち、藩士/儒/砲術) O 2 6 3 9
五瀬(いつせ・喜多) → 維親(継親これちか・喜多きた/飯田、国学) Q 1 9 6 3
B1152 一清(いっせい・無夢むむ) ? - 1368 南北朝期;僧、詩文・語録を著す(「名僧行録」収)
E1107 一正(いっせい・柏井かしわい、通称;庄三)?-? 和泉堺の俳人、1633重頼「犬子えのこ集」48句入、
1667重以「百人一句」入/1676西鶴「古今誹諧師手鑑」入、
[忌む事はけふきかざるの年始かな](犬子集;春31/新年に不吉は避る/ざると申を掛る)
E1108 一成(いっせい) ? - ? 因幡の住人;俳人、1633重頼「犬子集」116入、
[困かごふだる小松もけふは子の日ぬび哉](犬子集;116/子日に根延びを掛る)
1673西鶴「生玉万句」第五團脇句入?;[其時禰宜も帷子ひとつ]
H1140 一井(いっせい) ? - ? 名古屋俳人・蕉門、1687「熱田三歌仙」;師を迎え7吟半歌仙
H1141 一井(いっせい) ? - ? 俳人;1691北枝「卯辰集」1句入、
[空蟬や石の花表とりぬを鳴き捨てし](卯辰集;二240/空蟬はここでは蟬/花表は鳥居)
名古屋の一井と同一? → 一井(いっせい、名古屋俳人) H 1 1 4 0
H1142 一井(いっせい・細谷ほそや庄九郎、別号;円山隣)?-? 江戸俳人、1768暁台「秋の日」4句入
H1143 一青(いっせい、常盤下) ? - 1801 美濃俳人・五竹坊門、1769「紅葉集」
I1190 一声(いっせい) ? - ? 備後俳人、1794柳莊「水薦刈みすずかり」入
B1153 一声(いっせい・丹頂斎) ? - ? 俳人、1834雑俳撰集「歌羅衣」編
D1177 一声(いっせい・桜川) ? - ? 茶番・慈悲成門、1833「初昔茶番出花」(名弘め書)
H1144 一清(いっせい・伊東[藤]、別号;任只斎、通称;銭屋喜兵衛、而后男)?-? 名古屋益屋町の味噌醤油商、
俳人;父而后じこう[1785-1865]門、1850「柿若葉集」/54「春のひかり」編
逸勢(いっせい・橘) → 逸勢(はやなり・橘、廷臣/書;三筆) 3 6 2 6
一正(いっせい・藤田) → 幽谷(ゆうこく・藤田ふじた、彰考館総裁) 4 6 0 1
一誠(いっせい・前原) → 梅窓(ばいそう・前原、尊攘派) B 3 6 7 6
一誠(いっせい・黒田) → 一誠(かずのぶ・黒田くろだ、藩士/歌人) M 1 5 3 6
一誠(いっせい・千手) → 廉斎(れんさい・千手せんじゅ/三浦、藩儒) B 5 1 0 7
一誠(いっせい・白崎) → 永(ながし・白崎しろさき/鐙谷、商家/歌人) N 3 2 3 7
一成(いっせい・加藤/黒田) → 一成(かざなり・黒田くろだ、武将/藩士) M 1 5 3 4
一成(いっせい・野尻) → 流憩(りゅうけい・野尻のじり、藩儒/教育) D 4 9 4 4
一成(いっせい・吉田) → 正直(まさなお・吉田/正村、神道家) F 4 0 0 2
一醉(いっせい) → 友次(ゆうじ・吉田、俳人) C 4 6 1 7
一斉(いっせい・奥村) → 栄登(てるのり・奥村、医/儒詩) C 3 0 8 6
一青(いっせい・荒井) → 一掌(いっしょう・荒井あらい、茶人) H 1 1 3 4
一清(いっせい・細川) → 晴元(はるもと・細川、武将/連歌) H 3 6 0 0
一清(いっせい・櫛橋) → 岫雲(しゅううん・櫛橋くしはし、連歌作者) W 2 1 6 4
一清(いっせい・宮重) → 信義(のぶよし・宮重、幕臣/儒/国学) D 3 5 8 6
一清(いっせい・駒井) → 白水(はくすい・駒井こまい、儒者) D 3 6 4 3
一清(いっせい・松原) → 鶴峰(かくほう・松原まつばら、儒者/詩人) H 1 5 3 8
一清(いっせい・葛西/佐藤) → 一清(かざきよ・佐藤/葛西、和算家) M 1 5 1 8
一清(いっせい・井坂) → 一清(かざきよ・井坂いさか、書家) M 1 5 1 9
一清(いっせい・有吉) → 文英(ふみひで・有吉ありよし、医者/歌) H 3 8 9 6
一静(いっせい・村上) → 吉子(きっこ・村上むらかみ、国学/詩歌) B 1 6 5 1
一静(いっせい・千手) → 廉斎(れんさい・千手せんじゅ/三浦、藩儒) B 5 1 0 7
一政(いっせい・遠江守/古今夷曲集) → 遠州(えんしゅう・小堀こぼり、政一まさかず/藩主/茶道) 1 3 0 1

- 一政(いっせい・浅井/今木)→ 一政(かづまさ・浅井あさい/今木、藩士) M 1 5 4 8
 一政(いっせい・葛飾) → 北寿(ほくじゅ・葛飾かつしか、絵師) D 3 9 3 7
 一整(いっせい・黒田) → 溥整(ひろなり・黒田/加藤、家老/連歌) G 3 7 7 5
 一清庵(いっせいあん) → 羽長(うちょう・清水しみず、名;円) D 1 2 1 5
 一声庵(いっせいあん) → 明阿(みょうあ;法諱、僧/歌人) K 4 1 6 1
 壺声庵(いっせいあん) → 和国(わこく・壺声庵、商家/川柳作者) 5 3 7 7
 一晴軒(いっせいけん) → 頼篋(よりゆき・有馬ありま、藩主/和算家) J 4 7 9 3
 一誠斎(いっせいさい・真田)→ 幸貫(ゆきつら・真田/松平、藩主/詩歌) 4 6 2 1
 一声斎(いっせいさい・歌川)→ 芳鶴(初世よしつる・歌川うたがわ、絵師) E 4 7 7 8
 一勢斎(いっせいさい・歌川)→ 芳勝(よしかつ・歌川うたがわ/石渡、絵師) C 4 7 8 9
 一盛斎(いっせいさい・歌川)→ 芳直(よしなお・歌川うたがわ、絵師) F 4 7 2 0
 C1188 一声子(いっせいし) ? - ? 浮世草子作者、1703「新平家物語(粕都平家)」著
 一声舎(いっせいしゃ) → 野坡(やば・志太/斎藤、俳人) 4 5 1 2
 一清亭(いっせいてい) → 美静(びせい・福羽ふくば、藩士/国学) C 3 7 4 2
 J1147 一石(いっせ・味田) ? - ? 江前期上方の俳人、1678西鶴「物種集」入、
 [夕ゆふべ詠む春のあたひや小判かし](物種集/前句;日に日に増しに咲く花の陰、
 小判かし;金貸/一日一倍増しの利息ととる)
 一積(いっせき・渡辺) → 一(かず・渡辺、藩士/和算家) C 1 5 1 4
 一積(いっせき・片山) → 観光(かんこう・片山かたやま、儒者) Q 1 5 4 2
 H1145 一石子(いっせきし・孟巻舎)? - ? 江中期京俳人、1735撰集「棹姫上戸さおひめじょうご」編;知石序
 一石房(いっせきぼう) → 珠来(しゅらい・洪こう/沼しょう、俳人) J 2 1 0 7
 B1154 一雪(いっせつ/かずゆき・棕梨むくなし/成田/藤原、成田幸温男)1631-1708?78 京生れ(本籍安藝棕梨村)、
 俳人;貞徳門/のち西武・梅盛門/江戸住/一時阿波住/1681-84大阪住、1660「歌林鋸屑集」、
 1663「茶杓竹」;貞室批判、66「洗濯物/洗濯碓きぬた」「阿波千句」/72「晴小袖」76「言之羽織」編、
 浮世草子/実録物作;1684「古今犬著聞集」/96「日本武士鑑」/1704随筆「続著聞集」著、
 「新著聞集」著(1704自序/のち神谷養勇軒正業が1749編刊)、1682風黒「高名集」入
 [謡い初めや酒宴中橋春の今日けふ](高名集;謡曲「盛久」;酒宴半ばの春の興、
 中橋;江戸日本橋南四丁目の京橋と日本橋の真ん中にある土橋/付近の酒屋で宴会)、
 [一雪の通称/別号]通称;三郎兵衛、別号;柳風庵/牛露軒、富士丸/隠山
 変名;三楽(「肩入奉公」著)説あり?→三楽(さんらく、肥後俳人) E 2 0 7 7
 C1189 一仙(いっせん・小西) ? - ? 江前期尾張俳人、1664友次「阿波手集」入
 H1146 一泉(いっせん) ? - ? 江前期伊予の俳人・1689「曠野」2句入、
 [何日いくかとも見さだめがたや宵の月](あら野;五日/月齢の月鑑賞を並べたもの、
 三日は芭蕉;何事の見立てにも似ず三みかの月/どんな表現をも超え美しい)
 H1147 一泉(いっせん) ? - ? 江前期俳人;1691北枝「卯辰集」1句入、
 [曙あけぼのやはづむ清水の中汲まん](卯辰集;二264)
 H1148 一扇(いっせん・四方田よもだ)? - ? 江中期京の俳人・1772几董「其雪影」1句入、
 [苦は花に残して梅のすはえ哉](其雪影;巻尾224)
 J1120 一泉(いっせん) ? - ? 江後期遠江浜松の川柳作者;
 「柳多留一二二--一二五篇」(4世川柳編)入;
 [螻螂はおんぶ仕やうの手つき也](柳多留;一二五)
 H1149 一洗(いっせん・金沢かなざわ、近江徳三郎男)?-? 歌舞伎作者;奈河七五助/近松治助/金沢竜玉門、
 1811-32頃上方で活動、1815「江戸仕入侠安売」30「けいせい雪月花」31「曉鳥祇園調」、
 [金沢一洗の別号] 奈河ながわ恒助/近松恒助/近升経助/金沢経助
 H1150 一泉(いっせん・玉虹楼) ? - ? 江戸本所妓楼主人、戯作:1820「生鯖船」23「工夫痴会話」著
 H1151 一僊(いっせん・岩本いわもと、通称;茂兵衛/別号;占春園)1819-6850 上野桐生の絵師・渡辺華山門、
 母の茂登子は華山の妹、「お角桜遊記絵巻」画
 一線(いっせん;法諱・万回)→ 万回(ばんかい;道号・一線、曹洞僧) H 3 6 3 2
 一先(一洗いっせん;俳名)→ 歌右衛門(うたえもん・初世中村、歌舞伎役者) 1 2 6 3
 一洗(いっせん・奈河/歌右衛門の俳名)→ 篤助(初世とくすけ・奈河ながわ、歌舞伎作者) 3 1 4 0

一仙(いっせん) → 大必(たいひつ・橘中庵/梶山、俳人/画) T 2 6 7 4
 一仙(いっせん・小沢) → 雅楽之助(うたのすけ・小沢、宮大工/勤王) D 1 2 0 3
 一川(いっせん・児島) → 員九(いんく・児島こじま、俳人) D 1 1 2 1
 一川(いっせん・歌川) → 芳員(よしかず・歌川うたがわ、絵師; 横浜絵) C 4 7 5 6
 一扇(いっせん) → 二扇(にせん、一晶門俳人) G 3 3 9 9
 一扇(いっせん・靱山) → 清兵衛(せいべえ・靱山もみやま、農業/教育) J 2 4 5 8
 一泉(いっせん・矢田) → 葛原勾当(くずはらこうどう、生田流箏曲) C 1 7 4 4
 一泉(いっせん・大藤) → 恂郷(のぶさと・大藤おおふじ、藩士/歌人) H 3 5 7 4
 一川斎(いっせんさい・歌川) → 芳員(よしかず・歌川うたがわ、絵師; 横浜絵) C 4 7 5 6
 一搏四郎(いっせんしろう) → 青人(あおんど・上島うえじま、俳人) 1 0 5 4
 一洗堂(いっせんどう) → 篤助(初世とくすけ・奈河、歌舞伎作者) 3 1 4 0

C1191 一素(いっそ) ? - ? 漢詩、1685一有「あけ鴉」和漢歌仙入

J1130 一楚(いっそ) ? - ? 江前期俳人、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、
 [霧の日は猿や水はむ男女河みなのがは](丁卯集/四時筑波; 秋)

B1155 一鼠(いっそ・角鹿斎かろくさい、井上出雲掾) 1730-82⁵³ 越前敦賀の生/大阪で製墨業; 南久宝寺町住、
 俳人; 涼袋門、のち蘆陰舎に属す、蕪村と交流、不石ふせきの父、1759「新涼夜話」74「瓜の実」編
 1775「十三興」編/77「一鼠独吟俳諧集」、作法書「おくの近道」著、「芭蕉附句注解抄」編、
 几董; 1772「其雪影」/73「明鳥」4句/76「続明鳥」6句入/77江涯「仮日記」83維駒「五車反古」入、
 [帆をはるとまでは見えしかおぼろ月](明鳥; 212/春の朧月)

一素(いっそ・沓掛) → 仲子(なかに・沓掛くかけ/内村、歌人) D 3 2 6 2

H1152 一草(いっそう) ? - ? 俳人; 1691北枝「卯辰集」1句入、
 [川舟の跡に鳴き来るつばめ哉](卯辰集; 一96)

D1178 一窓(いっそう・鎌田かまた、菱屋五郎兵衛男) 1721-1804⁸⁴歳 紀州有田郡湯浅の商家; 家業零落、
 上京し医を修学; 医を業とす、心学者; 齋藤全門門、庶民の日常生活を題材の道話集を著、
 「売ト先生糠俵ぬかだわら」1780「眠覚絵姿」「絵本雨やどり」、1781「和州和田邑孝女茂代伝」著、
 1786「雨のはれ間」87「目のあたり」著、養子; 柳泓りゅうこう、
 [一窓(; 字)の名/通称/号]名; 知、通称; 勝蔵/一学、号; ト翁/虚白斎/ト先生

H1153 一桑(いっそう・岡野おかの、別号; 春達) ?-? 尾張名古屋の医者/俳人; 暁台門、
 1768暁台「秋の日」6句入

B1158 一草(いっそう・時雨房・子日庵3世・鳧庵ふあん) ?-1816-20?⁸⁵⁻⁸⁹? 陸中南部黒沢尻出身の俳人;
 兵庫江川町住; 仏仙門/明石の俳人と蛸壺吟社を結ぶ、1793「潮来集」/99「青さし集」編、
 1799「須磨明石」/1800「あき風」「くるまふね」「松葉文台」「初懐昏」/05「蘆間小屋」編、
 1806「このあき集」編、「たこつほ」「月のふね」編、外編著多数、
 [夜桜や翌あすある人は帰るべく]

B1156 一叟(いっそう・並木なみき、通称; 七郎右衛門) 1734-1801⁶⁸ 下総香取郡御所台村の俳人: 広岡宗瑞門、
 その師中川宗瑞の飛鳥園を継嗣、
 1767「先手後手」(; 風陽と共編)、80「白兔句集」著、86「一叟歳旦集」編
 [夕立や雨にあめうつ石の上](杉家句碑)

[一叟(; 号)の別号] 飛鳥園2世・寂阿・芝蘭・麦蒔舎・兔什・素寂・空居・阿洲・芦風坊・辨阿
飛鳥園の系統

杉山杉風→中川宗瑞(飛鳥園)→広岡宗瑞2世→飛鳥園2世(並木一叟寂阿)

→飛鳥園3世(天随貞翁)→飛鳥園4世(再生坊天堂一叟)→飛鳥園5世(天老坊貞哉)

C1192 一巢(いっそう・三上みかみ半二郎、妻: 波多野りえ) ?-? 武蔵所沢豪商[角三上]/俳人: 蓼太門、
 1783甘谷「むさしの三歌仙」入

妻も俳人 → りえ(里恵/里衛りえ・三上/波多野) 4 9 3 7

H1154 一叟(いっそう・鈴木すずき、別号; 飛鳥園3世/天随貞翁) ?-1817 下総の俳人、並木一叟門、飛鳥園継嗣、
 1801「飛鳥集」「寂阿追善集」「南無坊寂阿句集」編、「すみれ塚集」著、
 上総芝山観音教寺に芭蕉句碑建立、
 [春の雪昨日は雨の降りにけり](杉家句碑)

- B1157 一叟(いっそう・鈴木すずき・飛鳥園4世)1777-1857 81歳 上総武射郡吹入村の俳人、初号;素丈、飛鳥園4世を継嗣;天堂一叟を名乗る、「芭蕉桃青翁御正伝記」「七部十寸鏡」著、「猿蓑解」「続猿蓑解」「春日解」「ひさご解」著、1818「花筐」「雪の仏」編、[明月や月ともいはず一しきり](杉家句碑;再生坊天堂)、[一叟/飛鳥園4世(;号)の通称/別号]通称;直右衛門/道右衛門、別号;素丈(;初号)/素東/天堂/一樹園/五道斎徳人/無為坊/再生坊/三妙庵
- H1155 一叟(いっそう・貞月斎ていげつさい初世、佐藤/修姓;藤)?-1830 江戸華道家;貞松斎一馬門/正風遠州流、「遠州流插花出書住之江」著
- C1190 一叟(いっそう・飛鳥園5世、天老坊/貞哉ていさい)?-? 俳人;4世飛鳥園一叟再生坊天堂門、[空の事はぬ日はなし子規ほととぎす](杉家句碑)
- | | | | |
|----------------|---|-------------------------|-----------|
| 一叟(いっそう・鷹、俳号) | → | 乾什(けんじゅう・岩本、俳人) | C 1 8 0 7 |
| 一叟(いっそう・広岡/菅) | → | 宗瑞(2世そうずい・広岡/菅、藩士/俳人) | I 2 5 1 2 |
| 一叟(いっそう・青柳) | → | 惟雄(ただお・青柳あおやぎ、藩士) | V 2 6 0 6 |
| 一巢(いっそう・馬場) | → | 守信(もりのぶ・馬場ばば、藩士/国学/歌) | K 4 4 9 4 |
| 一操(いっそう・秋保) | → | 政右衛門(まさえもん・秋保あきは、軍学者) | B 4 0 3 6 |
| 一艸(いっそう・二宮) | → | 五礼(ごれい・二宮、眼科医/俳人) | O 1 9 1 2 |
| 一蒼(いっそう・中村) | → | 三近子(さんきんし・中村/平、儒者/教訓書) | F 2 0 7 7 |
| 一窓(いっそう・多賀谷) | → | 酔雪(すいせつ・多賀谷たがや、幕臣/絵師) | E 2 3 7 7 |
| 逸叟(いっそう・陳) | → | 元賛(げんいん/げんびん・陳、儒者/製陶/拳) | B 1 8 2 7 |
| 逸叟(いっそう;号・諦順) | → | 諦順(たいじゆん;法諱・逸叟、天台僧) | K 2 6 2 8 |
| 逸蔵(いっそう・五島) | → | 赤水(せきすい・五島ごとう、医者/儒者) | K 2 4 2 5 |
| 逸蔵(いっそう・久野) | → | 為国(ためくに・久野くの、藩士/国学者) | U 2 6 1 4 |
| 一草庵(いっそうあん・藤尾) | → | 東鳳(とうほう・藤尾、書家) | H 3 1 1 6 |
| 一巢庵(いっそうあん) | → | 冬映(2世とうえい、俳人) | B 3 1 3 0 |
| 一桑庵(いっそうあん) | → | 野月(やげつ・鹿山、俳人) | 4 5 5 5 |
| 一叢軒(いっそうけん) | → | 露宿(ろしゆく・河久かわひさ、戯作者) | B 5 2 7 7 |
| 一双舎(いっそうしゃ) | → | 稻坂(とうは・松岡、藩士/俳人) | G 3 1 9 0 |
| 一草舎(いっそうしゃ) | → | 晚鈴(ばんれい・原田、俳人) | H 3 6 1 7 |
| 一草亭(いっそうてい) | → | 百馬(ひやくば・立川たてかわ、落語家) | E 3 7 7 4 |
- D1179 逸咀英(いっそうえい) ? - ? 狂歌作者;堺丁連、1785後万載2首;84/116、[さく花を何にたとへん飛鳥山きのふの雲はけふ雪と降る](後万載;84)、[昨日の花の雲は今日花吹雪/本歌2首;世の中を何に喩へん朝開き漕ぎ往にし船の跡なきがごと[万葉351;沙弥満誓]、世の中は何か常なるあすか河きのふの淵ぞ今日は瀬になる[古今933;読人不知]]
- | | | | |
|----------------|---|--------------------------|-----------|
| 一足(いっそう・鈴木) | → | 桃野(とうや・鈴木すずき、幕臣/儒者) | H 3 1 5 1 |
| 一足庵(いっそうあん) | → | 阮甫(げんぼ・箕作みつくり、蘭学者/幕臣) | D 1 8 0 3 |
| 一村(いっそん;俳号・平沢) | → | 了佐(りょうさ・古筆こひつ、鑑定家祖/俳/連歌) | H 4 9 5 6 |
| 一村(いっそん・吉田) | → | 宣秋(のぶあき・吉田よしだ、商家/歌人) | K 3 5 3 5 |
| 一損(いっそん・本庄) | → | 適所(てきしよ・本庄/本荘ほんじょう、儒者) | B 3 0 9 9 |
| 一蟬(いっさい・英) | → | 国貞(初世くにさだ・歌川、3世豊国/絵師) | 1 7 2 9 |
| 佚泰子(いったいし) | → | 高尚(たかひさ・小野おの、幕臣/国学者) | D 2 6 5 6 |
| 佚泰子(いったいし) | → | 高潔(たかきよ・小野、幕臣/国学者) | C 2 6 6 9 |
- E1120 一宅(いったく・照井てるい、名;全都たかくに、全秀たかひで男)1819-81 63 陸中盛岡藩士、儒;中島与斎・古沢温斎門、藩校作人館助教/藩主侍読、維新後;県の少参事;致仕、教育に専念/1871三戸に転居;日新社を興す;子弟教育、「論語解」著;中国章炳麟に激賞、「湯武論」「礼楽論」「孟子説」「莊子説」「莊子解」「一宅詠草」著、田中館たなかだて愛橋あいきつ(物理学者)の師、[一宅(;号)の通称/別号]通称;小作、別号;蠶螂斎とうろうさい
- | | | | |
|---------------|---|--------------------|-----------|
| 逸太郎(いったろう・高島) | → | 清平(きよひら・高島たかしま、藩士) | U 1 6 6 3 |
|---------------|---|--------------------|-----------|
- H1156 一啖(いったん) ? - ? 伊賀の俳人;蕉門、1691「猿蓑」入、

[青柳のしだれや鯉の住みどころ](猿蓑;卷四春)

- 一端齋(いったんさい) → 景久(かげひさ・諸岡もろおか、武芸者) L 1 5 2 6
- J1141 一知(いちち) ? - ? 江前期上方の俳人、
1673西鶴「生玉万句」第五祭発句入、
[月々にさかんなりといへり神祭](祭発句)
- 一知(いちち・村井) → 素大(そだい・村井むらい、地主/俳人) K 2 5 0 3
- 一知(いちち・浦江) → 一知(かずとも・浦江うらえ/木村、神職/歌) T 1 5 8 0
- 一致院(いちちいん) → 教平(のりひら・鷹司たかつかき、廷臣/詩歌) F 3 5 5 9
- J1143 一竹(いちちく・池田いけだ) ? - ? 江前期上方の俳人；
1673西鶴「生玉万句」第七新酒第三句入、
[あわせ砥の山路の月やへりぬらん](新酒第三句/あわせ砥；黄砥；研磨最後の仕上用)
脇句忠友；前鋸まへかんなまゝ藤のうら枯れ；前鋸；樽桶を造るに用いる槍がんなの一種)
- J1100 一竹(いちちく) ? - ? 江前期俳人；1691不角「二葉之松」入、
[げぢげぢよ殿の若衆わかしの髪ねぶり](二葉之松；247/
前句；心浮き立つ颯々サザサザの声/ざざんざははやし言葉、
げぢげぢが髪を嘗めると毛が抜ける；殿の寵を受け宴ではしゃぐ若衆への嫉妬)
池田一竹と同一？
- C1194 逸竹齋(いっちくさい・逸竹居士) ? - ? 評論家、1691「三好軍記評判」、「平家物語評判瑕類」著
- H1157 逸竹齋達竹(いっちくさいたっちく) ? - ? 読本作者；馬琴門、
1808馬琴「巷談坡隄庵」論評付言
実は馬琴の変名か？ → 馬琴(ばきん・曲亭きょくてい、読本作者) 3 6 0 7
- C1195 一忠(いちちゅう) ? - ? 南北期田楽本座の名手、観阿の師、
1349棧敷崩れの勧進田楽に出演していた；太平記入
- H1158 一宙(いちちゅう；道号・東黙とうもく；法諱、稲葉利綱男) 1552-1621 70 臨濟僧；妙心寺雑華院を開創、
香花院蟠桃院を開創、「一宙法語」「古聯句集叢」著
- 1124 一中(初世いちちゅう・都太夫、法諱；惠俊) 1650-1724 75 上方浄瑠璃一中節の祖、
もと京の真宗本願寺派明福寺住職周閑門；法諱惠俊/師没後僧職を継嗣；還俗、
1670(21歳)須賀千朴を名乗り音曲の道に入；都越後掾(都万太夫)門/都太夫一中を名乗る、
「辰巳の四季」作
- C1196 一中(二世いちちゅう・京みやこ太夫、和泉掾、初世男) ? - ? 上方浄瑠璃一中節の太夫
- C1197 一中(五世いちちゅう・都太夫、姓；千葉) 1760-1822 63 江戸の浄瑠璃太夫；一中節の中興の祖、
もと吉原男芸者(名；都嘉六)、のち河東節三絃方山彦新次郎と提携；初名；吾妻路宮古太夫、
一中節を江戸風音曲に再興、都太夫一中5世を襲名、
「松の羽衣」「吉原八景」作/1820「都羽二重拍子扇」編
- H1159 一中(いちちゅう・稲隣舎) ? - ? 信州川中島の俳人、
1854・61「別世界」天翁[1810-95]と共編
- 一中(いちちゅう；字・貞準) → 貞準(ていじゅん；法諱・一中、浄土西山派僧) B 3 0 1 4
- 一中(いちちゅう・東) → 正英(まさひで・東あずま、槍術家) G 4 0 6 8
- 一忠(いちちゅう・服部) → 一忠(かずただ・服部はつとり、武将) M 1 5 2 5
- 一忠(いちちゅう・福田) → 宗禎(そうてい・福田ふくだ、蘭医者) I 2 5 5 2
- 一宙(いちちゅう・曾我部) → 正興(まさおき・曾我部そがべ、国学/歌人) Q 4 0 4 1
- 逸仲(いちちゅう・鷺見) → 東柯(とうか・鷺見すみ、儒者/教育者) B 3 1 7 0
- 一樗庵(いちちゅうあん) → 梅尺(ばいしゃく・挾橋亭、俳人) B 3 6 4 2
- B1159 一朝(いちちゅう・豊島とよしま) ? - ? 江戸俳人；宗因門、1675「談林十百韻」参加、
[髪ゆひや鶏啼て櫛の露](談林十百韻)
- C1108 一蝶(初世いちちゅう・英はなぶさ、本名；多賀たが安雄/信香、医者多賀白庵男) 1652-1724 73 京の生、
母；花房家?の妙寿(；法名)、父に随い江戸下向/画；狩野安信門/画号；狩野信香、
岩佐又兵衛・菱川師宣の画風習得、俳諧・書法を通じ独自の画風を確立/画号；多賀朝湖、
俳人芭蕉・其角・嵐雪・書家佐々木玄竜・元山・金工横谷宗珉・紀伊国屋文左衛門と交流、

1699幕府の忌憚に触れ三宅島配流、改名；英一蝶/1709赦免、信勝(2世英一蝶)の父、配流中の画は島一蝶名で珍重される、英派の祖；門弟一舟・一水に画法伝授、「四季日待図巻」「短夜の早歌」「吉原風俗図巻」「一蝶衆画苑」「朝清水記」「雨の恩」画、「群蝶画英」「英一蝶筆鏡」「大和耕作図」「大和人形図」「十二月風俗図」「英林画鏡」画外多数、[英一蝶の字/通称/別号]字；君受、通称；次右衛門/助之進/助之丞/和央/和応、別号；朝湖/狩野信香/牛麿/牛丸/霞樵/宝蕉/閑雲/蕉雪/六巢/暁雲[堂]/夕蓼/潤雪/間叟、翠蓑翁/隣濤庵/旧斗堂/旧草堂/狩林斎/北念翁/羲皇上人/一閑散人/萍雲逸民、虚白山人/虚白上人/狂雲堂/蝟舎/一蜂閑人/松庵など、法号；英受院

- H1160 **一蝶**(2世いっちょう・英はなぶさ、多賀たが信勝、初世一蝶男)?-? 京絵師；父門/英派
- B1160 **一鳥**(いっちょう・浅田あさだ、本名；森野長三郎)?-? 1756存 江戸中期京の浄瑠璃作者；大坂豊竹座付、1741-67頃42編の合作・増補、「播州皿屋敷」「道成寺蛇鱗」「玉藻前曦袂」「一谷嫩軍記」著外多数、浅田可啓と同一? → 可啓(かけい・浅田、竹本座付) E 1 5 9 1
- C1198 **一兆**(いっちょう) ? - ? 俳人；蓼太門、1783甘谷「むさしの三歌仙」入
- C1199 **一調**(いっちょう) ? - ? 雑俳、1702松淵・喜至編「冠独歩行かんむりひとりあるき」入
- D1180 **一蝶**(いっちょう・為永ためなが)? - ? 江中期；歌舞伎作者；千蝶門/故実、1762「歌舞伎事始」八文字屋刊
- H1161 **一釣**(いっちょう・山本やまもと、名；久明、別号；晚翠居)?-? 江戸末期俳人、1841「手曳能万津」編
- 一澄(いっちょう・熊谷) → 一澄(かすみ・熊谷くまがい、藩士/歌人) U 1 5 5 3
- 一奮(いっちょう) → 是心軒(4世せしんけん、華道) K 2 4 6 3
- 一翫(一翫いっちょう・是心軒) → 是心軒(4世・一翫いっちょう、医者/華道家) K 2 4 6 3
- 一蝟(いっちょう；号) → 円遵(えんじゆん；法諱、真宗高田派僧) E 1 3 9 3
- 一調(いっちょう；名) → 叶翁(きょうおう・坂井、俳人) G 1 6 5 9
- 一跳(いっちょう・宮部) → 源兵衛(げんべえ・宮部みやべ、藩士/俳人) M 1 8 1 9
- 一蝶(いっちょう；俳名) → 来助(初せらいすけ・中山、2世中山新九郎/歌舞伎役者) 4 8 7 0
- 一釣翁(いっちょうおう) → 鳳鳴閣思文(ほうめいかくしぶん、天台僧/狂歌) C 3 9 5 8
- H1162 **一蝶斎**(2世いっちょうさい・柳川やながわ、初世一蝶斎男)?-? 江末期江戸手品師；1852襲名、1862「手妻早稽古」著
- 一眺舎(いっちょうしゃ) → 素英(そえい・酒井さかい、俳人) J 2 5 3 1
- 一直(いっちよく) → 一直(かすなお・阿部、俳人) S 1 5 7 6
- 一直(いっちよく・松田) → 一直(かすなお・松田まつだ、神道/歌人) V 1 5 7 5
- 一陳翁(いっちゃんおう) → 守景(もりかげ・久隅くすみ、絵師) F 4 4 2 4
- 一椿斎(いっちゃんさい) → 芳輝(よしてる・田中、絵師) E 4 7 8 1
- H1163 **一通**(いっつう・坂本屋、通称；太郎右衛門；後号；三雅)?-? 肥後熊本の商人、俳人；熊本来遊の朱拙・野坡と連句、1704「寺の笛」(野坡らと連句興行)
- D1181 **一通**(いっつう・文亭) ? - ? 狂歌作者；宿屋飯盛(石川雅望まさもち)門、1808「職人尽狂歌合」編・跋
- 一通(いっつう・河野) → 禎造(ていぞう・河野こうの、藩士/医者) B 3 0 3 8
- 一通子(いっつうし・神田) → 玄泉(玄仙げんせん・神田、医者/本草学) K 1 8 6 1
- 井筒翁字(いづつおぢ) → 一斎(いっさい・井筒/百村、歌伎役/作者) C 1 1 7 9
- 五辻斎院(いっつじのさいいん) → 頌子内親王(しょうしないしんのう、鳥羽天皇皇女) S 2 2 8 2
- 井筒徳兵衛(いづつとくべえ) → 四郎(しろう・三升屋みすや、歌舞伎作者) N 2 2 0 4
- 五辻宮(いっつじのみや) → 静仁法親王(じょうにんほっしんのう、天台僧/歌) B 2 2 1 3
- I1174 **井筒水呑**(いづつのみずのみ) ? - ? 甲府の狂歌作者；1787「才蔵集」入；[錦する秋は物かは春の野は草のはつかに萌えぎ天鷲絨ひろうど](才蔵集；春87)
- I1181 **井筒本住**(いづつのもとずみ) ? - ? 狂歌；1787「才蔵集」入；583、[もつれたる話を聞くも物うしと耳たぶあらふ滝の白糸](才蔵集；雑583、古代堯の隠者巢父そうふ・許由の絵を見て詠む)
- 井筒屋丈輔(いづつやじょうすけ) → 丈輔(丈助じょうすけ・並木、浄瑠璃・歌舞伎作者) T 2 2 7 4
- 井筒屋宗俊(いづつやそうしゆん) → 宗俊(そうしゆん、井筒屋、俳人) B 2 5 9 5

いづつ屋新左衛門(いづつやしんざえもん)→徳圃(とくほ、揚屋主人/俳人) L 3 1 3 6
井筒屋八郎右衛門(5代目いづつやはちろうえもん)→成美(せいび・夏日、札差/俳) 2 4 1 2

- H1164 一鼎(いってい・石田いしだ、名;宣之、実之男)1629-93 肥前佐賀藩士/藩主に近侍、
1662藩主の不興を買い松浦郡代に配流、1677隠居/儒者;山本常朝門、
葉隠論語の鼻祖/詩文、「武士道用鑑抄」、「梅山詩集」著、
[一鼎(;号)の通称/別号]通称:神左衛門/安左衛門、別号;下田処子
- J1101 一鼎(いってい) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」2句入、
[雪に減へる気味鶯の音ねに愈いて](二葉之松;44/前句;華待ち鳥がほに見ゆる草庵、
冬に気力減退/春鶯の声で挽回/さらに桜で・・・)
- E1109 一定(いってい) ? - ? 和泉堺の俳人、1633重頼「犬子えの集」入18・78、
[米よね俵を吉方えはは亥子いぬの間かな](犬子集;18/今年の吉方神は亥と子[稻]の間)
- D1100 一定(いってい・原田、別号;水庵)?-? 筑前頓野の生/博多で医者/俳人、去来と親交、
1705「夏の月」編(:去来を追悼)
- H1165 一貞(いってい・高田たかた/服部はっとり、通称;伝兵衛)?-? 江前期寛文1661-73頃の俳人、大阪の生、
江戸に住/俳人;一雪門、1663「貞徳俳諧記」編、1672重徳「俳諧塵塚」六吟入
1673西鶴「生玉万句」第六権発句入、
[三盃や唯是槿花きんか一時の酔](権発句;和漢朗詠集;槿花一日自為榮/武蔵の一貞名)
- H1166 一梯(いってい・馬場はば、氏信/通称;源右衛門/別号;雲山)1657-1727/71 土佐藩士/1679用人格、
1685致仕/浪人、上京;儒;浅見綱斎門/持明院流書;持明院基時門/秘奥を極め天覧に供す、
浅野家出仕を願うが本国の不許により帰国/書道教育;1711留守居組に抜擢、
「居業偶筆」「隸書法要」「和翰艸稿」、1723「倭風消息」書
- H1167 一貞(いってい・岸松齋がんしょうさい、姓;高森たかもり)?-? 江中期遠州流華道;古実庵一葉門/插花師匠、
「遠州流花伝書」「插花岸之松」著、「正風插花墨江巻」編
- D1182 一貞(いってい・平たいら) ? - ? 江後期;墳墓研究、1826「宇茂礼木の花」著
- H1168 一堤(いってい・貞月齋ていげつさい2世/別号;鷹一堤)?-1865 江戸の華道家;貞月齋一叟・貞松齋一馬門、
1826「月の友」、44「插花月廼湊」編
- | | | |
|-----------------|------------------------|-----------|
| 乙艇(一艇いってい;道号)→ | 元津(げんしん;法諱・乙艇、黄檗僧) | K 1 8 1 8 |
| 一汀(いってい・香川)→ | 家継(いえつぐ・香川かがわ、武将/連歌) | K 1 1 1 0 |
| 一貞(いってい・小田)→ | 東壑(とうえい・小田、医者) | B 3 1 3 3 |
| 一貞(いってい・米川)→ | 操軒(そうけん・米川よねかわ、儒者) | B 2 5 2 3 |
| 一貞(いってい・赤井)→ | 一貞(かずさだ・赤井、歌人) | M 1 5 2 1 |
| 一貞(いってい・宮寺)→ | 一貞(かずさだ・宮寺みやでら、幕臣/和算家) | M 1 5 2 2 |
| 一貞(いってい・早川/矢野)→ | 一貞(かずさだ・矢野やの、藩士/地誌) | M 1 5 2 3 |
| 一貞(いってい・中村/沼尻)→ | 墨僊(ぼくせん・沼尻ぬまじり、天文家) | D 3 9 6 2 |
| 一貞(いってい・十河)→ | 一貞(かずさだ・十河そごう、藩士/国学/歌) | U 1 5 8 5 |
| 一貞(いってい・安井)→ | 一貞(かずさだ・安井やすい、国学者) | W 1 5 0 3 |
| 一定(いってい→いちじょう)→ | 一定(いちじょう・塔院律師、真言僧) | G 1 1 2 6 |
| 一定(いってい・吉田)→ | 正直(まさなお・吉田/正村、神道家) | F 4 0 0 2 |
| 一程(いってい・田村)→ | 顕始(あきはる・田村たむら、旗本/歌) | H 1 0 8 8 |
| 一亭五蘭(いっていごらん)→ | 五蘭(ごらん・一亭、戯作者) | N 1 9 8 8 |
- B1161 一貞尼(いっていに;法名、俗姓;村野むらの/旧姓;小沢、名;直・もと子)?-1837 母;白羊/兄;飯厨はんあ、
相模赤羽村の俳人;母兄と共に、大和高取藩主植村家長室の静心院に出仕、
村野家に嫁ぐ;のち仏門に入、歌人・加藤千蔭門、村田多勢子と交流、晩年は詠歌に専念、
1835(天保6)「はなのなごり」著
- D1102 一刁(いってき・内山うちやま、吟嘯軒)?-? 江前期播磨姫路の俳人;梅盛門、
1658梅盛「鸚鵡集」入/63「鼻笛」入;編纂参加?、63梅盛「早梅集」入;序、
1663梅盛「落穂集」36句入;跋文執筆、76幸田正舎編?「下主智恵げすのちえ」(夏部の巻頭句)
- E1163 一的(いってき) ? - ? 江前期俳人、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、
1691不角「二葉之松」5句/1711「花畠」入、

- [忠孝の心の井戸を掘りぬきて](二葉之松;326/前句;林よりもる家は奥深か)
 J1102 一滴(いってき・柏谷) ? - ? 江前期京の俳人、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、
 1691不角「二葉之松」入、
 [水海みづうみの月を盗むか藻塩草](二葉之松;365/前句;天地てんちは錆びのなき鏡なり)
 一滴(いってき;号) → 大岫(だいしゅう;道号・宗般;法諱、臨濟僧) K 2 6 2 2
 一滴軒(いってきけん) → 蹟室(けんしつ;道号・等誠;法諱、臨濟僧) J 1 8 4 1
 一適齋(いってきさい) → 長徳(ながのり・高月たかつき、商家/歌人) N 3 2 7 4
 一滴仙(いってきせん) → 再賀(2世さいが・芝/小倉、俳人) G 2 0 5 7
- B1162 一鉄(いってつ・三輪みわ/岡瀬おかせ、通称;藤五郎)?-? 江戸談林俳人;宗因門、1676言水「江戸新道」入、
 1675松意「談林十百韻」/78幽山「江戸八百韻」参加、79言水「江戸蛇之鮒」入、
 1702轍士「花見車」/18在色「俳諧解脱抄」入、三輪丈印(桑名の回船問屋/歌人)の一族、
 [夏瘦に蘿の細道もなかりけり](江戸八百韻)
 一点(いってん・奈河) → 七五三助(3世しめすけ・奈河、歌舞伎作者) F 2 1 8 9
 一天齋(いってんさい) → 芳政(よしまさ・歌川うたがわ/三浦、絵師) H 4 7 1 5
 一斗庵(いっとうあん) → 逸漁(いつぎよ・辻村、俳人) G 1 1 8 9
- K1179 一凍(いっとう;法諱;一凍法師)?-? 江前期;大坂の浄土宗十萬寺僧、歌人、
 浅井忠能[難波捨草]に30余首入集、
 [朝日影花に移りて御吉野のかすむ空より匂ふ春風]([難波捨草]春48)
- H1169 一棟(いっとう) ? - ? 江前期元禄1688-1704頃阿波の俳人、律友と交流、
 1692「太胡廬可佐」著
- H1170 一桃(いっとう) ? - ? 江前期俳人;1688(元禄元)不ト「続の原」4句入、
 [秋はたゞ動かぬ海の日ぐれ哉](続の原;69)
- J1103 一東(いっとう) ? - ? 江前期俳人、1691不角「二葉之松」入、
 [百年の齢よひを薬うけ合はず](二葉之松;376/薬で長寿は保証なし;恋して遊ぼう、
 前句;恋して遊べよしや閑思君わざくれ/閑思君は自暴自棄の心)
- J1104 一嶋(いっとう) ? - ? 江前期俳人、1691不角「二葉之松」入、
 [はく置いて素人づきを願ふ弥陀](二葉之松;228/前句;一生我につかはれて居る、
 金箔の阿弥陀で信者を集める;所詮僧侶も我欲に囚われる)
- H1171 一東(いっとう) ? - ? 伊賀の俳人;1698「続猿蓑」入
 [独りいて留守ものすごし稲の殿](続猿蓑;少年の頃の作/稲の殿は稲妻)
- I1187 一藤(いっとう) ? - ? 備後鞆俳人;1716露川燕説「西国曲」入
 [取りかはす扇子に哥の別れかな]('西国曲')
- H1172 一桃(いっとう・木内きうち、名;正好、別号;応夢庵/其日庵) 1767-1838 72歳 信州佐久の酒造業、
 俳人;1826「三とせ紀行」著
 一桐(いっとう) → 一桐(いちとう・京屋、俳人) B 1 1 2 4
 一桃(いっとう) → 国周(くにちか・豊原、荒川/大島、絵師) B 1 7 5 5
 一東(いっとう) → 弁吉(べんきち・中村屋、仕掛細工) B 2 7 1 7
 一凍(いっとう;道号) → 紹滴(しやうてき;法諱・一凍;道号、臨濟僧) L 2 2 0 3
 一到(いっとう・信蓮社) → 靈玄(れいげん;法諱、浄土僧) 5 1 2 2
 一棹(いっとう) → 石門(せきもん・桜井さくらい、藩儒/学制) D 2 4 8 7
 一透(いっとう・関) → 盛胤(もりたね・関せき、薬種業/史家) F 4 4 6 5
 一燈(いっとう・千) → 宗室(5世そうしつ・千せん、裏千家8世茶人) H 2 5 6 7
 一濤(いっとう) → 霞ト(かほく、島、俳人) P 1 5 4 0
- B1125 一堂(いっとう/いちどう・東条とうじょう、名;弘、自得男/本姓;逸見) 1778-1858 81 上総儒者;皆川淇園門、
 古註研究、江戸で開塾、「一堂詩文集」「狂簡集」、「四書知言」「繫辞答問」外著多数、
 清河八郎の師、
 [一堂(;号)の字/通称/別号]字;子毅、通称;文蔵、別号;瑤谷問人、法号;知言院
 逸堂(いっとう) → 堯恕法親王(ぎやうじよほつしんのう・門跡、詩人) C 1 6 6 5
 逸堂(いっとう;道号) → 察応(さつおう;法諱・逸堂、曹洞僧) K 2 0 4 9
 逸堂(いっとう・奥平) → 昌服(まさもと・奥平おくだいら/源、藩主/歌) L 4 0 9 5

- 乙堂(いっとう;道号) → 喚丑(かんちゆう;法諱・乙堂、曹洞僧) R 1 5 3 5
 馱堂(いっとう) → 高朗(たかあき・梶村/柁村、儒者) L 2 6 4 8
 一灯軒(いっとうけん) → 益友(えきゆう・武村、俳人) 1 3 5 7
 一灯広照禅師(いっとうこうしやうぜんじ) → 大雅(たいが・崑匡(たんきやう)、臨濟僧) J 2 6 3 8
 一燈齋(一登齋/一東齋いっとうさい) → 芳綱(よしな・歌川/田辺、絵師) E 4 7 7 2
 一統子(いっとうし) → 宗鳳(初世そうほう・青木あおき、茶人) I 2 5 8 8
 一桃亭(いっとうてい) → 良寿(よしひさ・及川おいかわ、医者/国学) G 4 7 3 3
 一蠹翁(いっとうおう) → 宗徳(そうとく・山崎/多紀、幕府/鍼医) I 2 5 5 9
 D1103 一徳(いっとく) ? - ? 俳人:1707風雲子(不角?)「つげのまくら」百韻入
 B1116 一得(いっとく・本松齋ほんしやうさい)?-? 江後期江戸の華道家:春秋軒一葉門、
 浅草遠州流の祖
 一徳(いっとく・佐々木) → 素堂(3世そどう・佐々木ささき、俳人) K 2 5 1 7
 一徳(いっとく・斎藤) → 監物(けんもつ・斎藤さいとう、神官/勤王家) M 1 8 5 0
 一徳(いっとく・山口) → 剛齋(こうさい/ごうさい・山口、藩儒者) B 1 9 1 5
 一徳(いっとく・道生軒) → 重巨(しげなお・舎人とねり、藩士/本草/華道) R 2 1 7 8
 一徳(いっとく・井上) → 一徳(かずのり・井上いのうえ、藩士/歌人) T 1 5 5 0
 一徳(いっとく・葛西) → 一徳(かずのり・葛西かさい、陪臣/国学) U 1 5 1 5
 一徳(いっとく・上田) → 一徳(かずのり・上田うえだ、藩士/国学) T 1 5 7 5
 H1173 一徳齋(いっとくさい・奈良なら、名;文蔵/右門) 1754-1846 93歳 上州勢多郡時沢の医者、書;角田無幻門、
 1825「当時諸家人名録」、「赤城詣」「産泰詣」著、
 [一徳齋(;号)の別号] 光竜/峻沢
 一徳齋(いっとくさい・山口) → 剛齋(こうさい/ごうさい・山口、藩儒者) B 1 9 1 5
 一徳齋(いっとくさい・和泉屋) → 三孝(さんこう・徳亭とくてい、狂歌/戯作) E 2 0 3 1
 一得齋(いっとくさい) → 忠以(ただかね・酒井、藩主/歌/俳) F 2 6 0 8
 一得齋(いっとくさい・岡本) → 一抱(いっぼう・岡本おかもと、医者/浄瑠璃作者) H 1 1 8 5
 一得齋(いっとくさい) → 其成(きせい・菊舎きくや、田中保教、書肆/俳人) B 1 6 3 7
 一徳子(一恵子いっとし・石田) → 玄圭(げんけい・石田いしだ、医/和算/暦学) I 1 8 5 4
 乙兔齋(いっとうさい) → 嵐窓(らんそう・円城寺えんじやうじ、藩軍学師範/俳人) C 4 8 8 7
 一咄齋(いっとうさい) → 宗周(そうしゅう・小村こむら、連歌師/書) H 2 5 7 4
 一音(いっとん) → 一音(いちおん、嚏居士はなびのこじ、俳人) B 1 1 1 5
 一音(いっとん;法諱) → 仏海(ぶつかい;道号・一音、曹洞僧) H 3 8 3 1
 J1124 逸然(いつねん;道号・性融しやうゆう;法諱、本姓;李) 1601?-1668 68? 明の浙江省杭州の生、北宋画絵師、
 1641商業のため渡来/44長崎興福寺の黙子如定に参禅;45師没のため長崎興福寺を住持、
 1652無心性覚の懇願により隠元を招請(;4次);1654隠元渡来;黄檗宗発展に尽力、
 以後書画に[請法東伝]の印を捺、1656澄一道亮に興福寺住持を譲渡;幻寄山東盧庵に退隠、
 1657「隠元語録」「五灯厳統」(費隠通容撰)を板行、
 画僧として長崎漢画(唐絵)の祖と称される;河村若芝・渡辺秀石の師、
 「巖上観音菩薩像」「白衣観世音菩薩観瀑図」「布袋図」など仏画・神仙図多数、
 [逸然性融の号] 浪雲庵主/烟霞比丘/煙霞道人
 逸農(いつのう・山田) → 雪柯(せつか・松田、神職/儒/書家) K 2 4 7 7
 逸之進(いつのしん・森) → 厚給(あつとも・森もり、医者/国学/歌) I 1 0 5 5
 逸之助(いつのすけ・武井) → 守正(もりまさ・武井たけい、和漢学/政治) K 4 4 4 8
 厳之眞屋(いつのまや) → 正胤(まさたね・竹尾/源、神職) D 4 0 6 3
 稜威舎のあるじ(いつのやのあるじ) → 正令(まさのり・戸沢、藩主/歌人) G 4 0 2 4
 D1104 一波(いっば) ? - ? 九州の蕉門俳人1701朱拙「放鳥はなちどり集」入
 一伯(いっばく;法名) → 忠直(ただなお・松平、藩主/連歌) Q 2 6 2 1
 一白(いっぱく・中江) → 藤樹(とうじゆ・中江なかえ、儒者;陽明学) 3 1 1 6
 一八(いっぱち・九返舎) → 春馬(しゅんば・三亭さんてい、書肆/戯作) 2 1 6 5
 H1174 一髮(いっぱつ) ? - ? 美濃岐阜の俳人;蕉門、1689「曠野」18句入、
 [蚊帳かや臭き寐覚めうつゝや時鳥](あら野;巻一杜宇ほととぎす二十句の中10句目)

- H1175 一伴(いっばん) ? - ? 伊勢俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
 E1123 一帆(いっばん) ? - ? 俳人;1691不角「若みどり」入、
 [奥様の爪紅つまに残る下女が股](若みどり/前句;移り香こぼす袖のほころび)
 (爪紅は爪に塗った紅/夫と下女との関係に嫉妬する奥様の暴力の跡)
 一繁(いっばん/かずしげ・金森)→ 桂五(桂吾けいご・金森、藩士/俳/狂歌) 1 8 5 0
- J1139 一飛(いっぴ) ? - ? 江前期上方の俳人、
 1673西鶴「生玉万句」卯花第三句/第一神の春発句等入、
 [一万句貴賤群衆せんくんじゆや神の春](神の春発句/貴賤群衆;九千句に言い掛る)
- J1105 一飛(いっぴ) ? - ? 上州吉井の俳人;
 1691不角「二葉之松」入、
 [思ひしれ若竹桶の輪にならず](二葉之松;124/人も性格それぞれに可能不可能がある)
 生玉万句の一飛と同一?
- 逸彦(いつひこ・池田/伊藤)→ 両村(りょうそん・伊藤/池田、里正/儒者) I 4 9 7 5
 一筆庵可候(いっぴつあんかこう)→ 可候(かこう・一筆庵、溪斎英泉、絵師/戯作) 1 5 1 3
 一筆庵主人(いっぴつあんしゅじん)→ 可候(かこう・一筆庵/溪斎英泉) 1 5 1 3
 一筆学士可一(いっぴつがくしかいつ)→ 英寿(えいじゅ・景斎、可候門絵師/戯作) C 1 3 8 9
 一筆斎(いっぴつさい、一筆庵)→ 英寿(えいじゅ・景斎、可候門絵師/戯作) C 1 3 8 9
 一筆斎文笑(いっぴつさいぶんしょう)→ 光(ひかる・頭つむり、絵師/狂歌師) 3 7 0 1
 一筆斎文調(いっぴつさいぶんちよう)→ 文調(ぶんちよう・一筆斎、絵師) G 3 8 2 3
 逸筆道閑(いっぴつどうかん)→ 鷗沙(鷗砂おうしゃ/おうさ・伊村・長谷川、俳人/書家) 1 4 4 8
- I1178 一筆山水(いっぴつのおんすい) ? - ? 狂歌;1787「才蔵集」入、
 [かきたてて人に見せなん灯火ともしびの焼けつくばかり物思とは](才蔵;寄燈恋)
 一筆坊(逸筆坊いっぴつぼう)→ 鷗沙(鷗砂おうしゃ/おうさ・伊村・長谷川、俳人/書家) 1 4 4 8
 逸姫(いつひめ・本多)→ 登与子(とよこ・本多ほんだ/永井、藩主の妻/歌人) T 3 1 2 6
- B1163 一瓢(いっぴょう・川原かわはら、法諱;日桓にっかん、彦兵衛男) 1770-1840 日蓮僧;伊豆の日厚門、
 1804頃江戸谷中の日蓮宗本行寺住職/17伊豆三島妙法華寺41世/34大本山妙顕寺貫首、
 俳人;成美に誘引による・一茶と親友、一茶のパトロンの存在、句風;飄逸洒脱、
 俗語・方言をを駆使し軽妙自在な作風、1811「物見塚記」16「俳諧西歌仙」編、
 自筆句帖「玉山人ぎよくさんじん家集」「俳三昧」、「温和台記」「西歌仙」著、
 [花盛り神も仏もあちら向け](玉山人家集/仏に仕える身ながら花に心奪われる自分)、
 [世の中は斯くの通りと鳴く蛙]、
 [一瓢の字/別号]字;桓雅かんが、別号;如々/玉山人/知足坊/雲耕庵/橘中きつちゅう居/右之房、
 僧名;境修院日桓上人
- H1176 一瓢(いっぴょう・塙はなわ、名;勝文、字;子質/子賢、通称;長次郎) 1773-1852 儒者;立原翠軒門、
 1796水戸彰考館入/1851総裁代役、「群書摘要」著、「一瓢遺稿」
- D1183 一萍(いっぴょう・松原まつばら) ? - ? 江中期俳人;石中庵石蘭門、師の追善集を刊行
 一萍(いっぴょう・石中庵)→ 石蘭(せきらん・石中庵、俳人) H 2 4 9 5
 一瓢(いっぴょう)→ 逸斎(いっさい・高倉、藩士/考証) H 1 1 1 5
 一瓢(いっぴょう・永田)→ 寿稔(じゆねん・永田ながた、篆刻家) 2 1 7 7
 一瓢(いっぴょう・竹葉亭)→ 竹葉舎金瓶(ちくようしゃきんべい、戯作者) D 2 8 8 3
 一瓢庵(いっぴょうあん)→ 肥前掾(ひぜんのかみ・豊竹、浄瑠璃太夫/座本) C 3 7 5 2
 一瓢庵(いっぴょうあん)→ 頼学(よりさと・松平まつだいら、藩主/詩歌) P 4 7 2 0
 一瓢庵(いっぴょうあん)→ 鬼卵(きらん・栗杖亭りつじょうてい、戯作者) D 1 6 7 1
 一瓢庵(いっぴょうあん)→ 閑里(かんり・一瓢庵、幕臣/華道家) R 1 5 7 8
 一瓢翁(いっぴょうおう)→ 直貞(なおさだ・服部、兵法家) B 3 2 1 7
 一瓢軒(いっぴょうけん)→ 大三(だいぞう・大倉、歌人) B 2 6 8 2
 一瓢斎(いっぴょうさい)→ 応周(まさちか・福井、書家) D 4 0 7 9
 一瓢斎(いっぴょうさい)→ 房種(ふさたね・歌川うたがわ/村井、絵師) C 3 8 1 3
 一瓢子(いっぴょうし)→ 惟中(いちゅう・岡西、俳人) 1 1 1 9
 一瓢百歌居士(いっぴょうひゃつかごじ)→ 義質(よしただ・後藤ごとう、医者/歌) M 4 7 8 8

- H1177 一咲(いっぶ) ? - ? 甲府俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
D1105 一斧(いっぶ) ? - ? 加賀俳人・關更門、小松住、樗良と交友、
1784「樗良発句集」/86「樗良文章集」、76樗良「月の夜」入
一孚(いっぶ・菊池) → 大瓠(たいこ・菊池/菊地、藩士/儒者) B 2 6 3 4
逸夫(いっぶ・谷田部/高倉) → 逸斎(いっさい・高倉、藩士/考証) H 1 1 1 5
- H1178 逸風(いっふう・堀江ほりえ、名;頼方/頼直よりなお) 1612-93 江前期;近江坂田郡大鹿の国学者/書家、
初め上代様の書/のち書風考案し一家を成す、讃岐丸亀藩京留守司、致仕後諸国遊歴、
晩年京住/安藝に没、「堀江逸風筆朗詠切」書、
[逸風の通称/別号]通称;九郎左衛門/治部斎、別号;透言/道繆軒どうびゅうけん/幽庵瓮ゆうあんおう
- B1164 一風(いっふう・中なか) ? - ? 江戸前期俳人、山城木津の出身、
1677「木津乗合船」編、80「福原鬢鏡びんかがみ」博宥と共編、
1683友琴編「金沢五吟」連句の発句入(友琴・柳糸・正勝・一烟と)
- H1179 一風(いっふう) ? - ? 大阪の俳人;1691賀子「蓮実」1句入、
[沖に目のとゞくほど飛ぶ鷗かな](蓮実)
- H1180 一風(いっふう) ? - ? 俳人;1691北枝「卯辰集」入、
[稻妻の形なりは芭蕉ばせをの広葉哉](卯辰集;三328)、
名古屋俳人浜島一風と同一? → 一風(いっふう・浜島) H 1 1 8 1
- H1181 一風(いっふう・浜島) ? - ? 名古屋俳人;1698「炭俵」1句入、
[せきれいの尾は見付けざる柳哉](炭俵;上/柳)
- 1125 一風(いっふう・西沢にしざわ義教/通称九左衛門、貞陳男) 1665-1731 大阪書肆、浮世草子・浄瑠璃作者、
1698「新色五卷書」、1700「御前義経記」1726「北条時頼記」27「今昔操年代記」、「和歌録」編
[恋は情の友時雨](新色五卷書)
[一風の別号] 与志/集楽軒/朝義、屋号;正本屋、一鳳軒いっほうけんの曾祖父
一風(いっふう・内藤) → 丈草(じょうそう・内藤など、藩士/俳人) 2 2 2 5
一風(いっふう・大凹/大窪おおくぼ) → 潤亭(じゅんてい・神谷かみや、医/音曲家) L 2 1 5 2
一風斎(いっふうさい・夷曲庵) → 貞風(さだかぜ・橘たちばな、狂歌作者) B 2 0 7 6
一風子(いっふうし・梅遊軒) → 種寛(しゅかん・朝江/浅江、俳人) K 2 1 5 7
一封亭(いっふうてい) → 朶雲(だうん・一封亭、俳人/狂歌) C 2 6 4 4
- D1184 一平(いっぺい・久津見) ? - ? 江前期金沢俳人、1681撰集「加賀染」長之と共編/跋
一平(いっぺい・佐治) → 一平(かずひら・佐治さじ、和算家) M 1 5 4 5
一平(いっぺい・三浦) → 千春(ちはる・三浦みづら、藩士/国学) F 2 8 2 1
一平(いっぺい・堀田) → 一平(かずひら・堀田ほった、幕臣/歌人) V 1 5 6 3
一平(いっぺい・鈴木) → 雅之(まさゆき・鈴木/穂積、国学/歌人) I 4 0 3 8
一平(いっぺい・渡辺) → 如水(じすい・渡辺わたなべ、藩儒) M 2 2 6 1
一平(いっぺい・上村) → 信近(のぶちか・上村うえむら、国学/歌人) H 3 5 4 8
一平(いっぺい・古賀) → 定雄(さだお・古賀こが、藩士/国学者) O 2 0 4 3
逸平(いつへい・河野) → 杏村(きょうそん・河野、儒者/詩文) I 1 6 8 0
逸平(いつへい・今尾) → 清香(きよか・今尾いまお/奥河内、歌/書) O 1 6 6 7
逸平(いつへい・国重/佐々木) → 竜原(りゅうげん・佐々木/国重、藩儒員) D 4 9 6 6
逸平(いつへい・竹村) → 通央(みちなか・竹村/成田、藩士/故実) C 4 1 0 8
一平次(逸平次いっぺいじ・沼田) → 美備(びび・沼田ぬまた、馬術家) E 3 7 3 6
逸兵衛(いっべえ・志賀) → 延胸(のぶもと・志賀しが、藩士/国学/歌) I 3 5 6 7
- B1165 一片(いっぺん・南鐐堂) ? - ? 洒落本、1775「寸南破良意」著
D1106 一扁(いっぺん) 1830 - 1844 伊勢住俳人・狂句、「浜荻」撰
一遍(いっぺん;法号) → 智真(ちしん;法諱、俗姓河野、時宗開祖) 2 8 1 2
一扁斎(いっぺんさい・松田) → 義雄(よしお・松田まつだ、藩士/詩歌) P 4 7 1 4
一遍上人(いっぺんしょうにん) → 智真(ちしん;法諱、俗姓河野、時宗開祖) 2 8 1 2
一編舎十九(いっぺんしゃじゅうく) → 十九(じゅうく・一編舎、蒲原、藩士/戯作者) E 2 1 8 1
一遍房(いっぺんぼう) → 智真(ちしん;法諱、俗姓河野、時宗開祖) 2 8 1 2

- 逸甫(いっほ・鈴木) → 迪吉(みちよし・鈴木すずき、国学/歌人) J 4 1 3 8
- D1185 一圃(いっぼ) ? - ? 大阪浄久寺僧/狂歌;狂歌;1666行風「古今夷曲集」10首入、
1672行風「後撰夷曲集」39首入、
[めでたいに酒くむ人のにこにこと笑ふ家には利をゑびす講](古今夷曲集;五/賀)
(鯛を肴に夷講を祝う家には利得がやってくる)
- J1132 一步(いっほ・広瀬ひろせ) ? - ? 江前期大阪の俳人、
1673西鶴「生玉万句」;第五青山舛発句/第七渡鳥脇句等入、
[青山杣あをざんせう目を驚かす有様なり](生玉万句青山舛[青山椒]発句)
- E1148 一步(いっほ・千村ちむら) ? - ? 美濃府中俳人・梅盛門、
1691江水「元禄百人一句」目録入
- H1182 一步(いっぼ) ? - ? 信濃松本の俳人、
1691江水「元禄百人一句」目録入
- 一步(いっほ・浦野) → 光護(みつり・浦野/柳井、藩士/農政) E 4 1 4 6
- 一甫(いっほ・湯川) → 東軒(とうけん・湯川/湯河、儒者/詩) D 3 1 3 3
- 一甫(いっほ・和田) → 東潮(とうちよう・和田、俳人) G 3 1 4 4
- 一甫(いっほ・西原) → 公和(よしがず・西原、国学) C 4 7 5 0
- 一甫(いっほ/いちすけ・西原) → 公和(よしかず・西原、藩士/国学者) C 4 7 5 0
- 一甫(いっほ・下田) → 芳沢(ほうたく・下田しもだ/藤原、儒者) C 3 9 2 4
- 一甫(いっほ・未生斎) → 未生斎一甫(みしょうさいいっほ、華道) 4 1 8 7
- 一甫(いっぼ) → 礫川(れきせん、川柳作者) 5 1 0 8
- 一甫(いっほ・村井) → 量今(かづり・村井、幕臣/典籍編集) F 1 5 2 2
- 一甫(いっほ・蘆沢) → 下田翁(かでおう・蘆沢あしざわ、藩士/儒) O 1 5 1 2
- 一輔(いっほ・岩瀬) → 六斎(ろくさい・岩瀬いわせ、撚糸業/狂歌) 5 2 8 2
- 一圃(いっぼ) → 五兵衛(ごへい・桐屋きりや、茶屋/俄興行) N 1 9 5 9
- 一保(いっほ・吉田) → 一保(いっほう・吉田、講釈師) B 1 1 6 7
- 一保(いっほ・鈴木) → 一保(かづやす・鈴木すずき、藩士/和漢学) M 1 5 5 5
- H1183 一峰(いっほう;道号・通玄;法諱、号;巢雲子、古志こし義信男)?-?1378存 出雲臨濟;天桂門/入元僧、
京の普門寺17世/出雲の安国寺住持、「海滴集」著
- D1107 一方(いっほう) ? - ? 俳人、1679高政「誹諧中庸姿つねのすがた」独吟歌仙入、
[三位小坊桜は暴花に顛れけり](中庸姿;独吟歌仙発句)
- B1166 一蜂(いっほう・河曲かわむ、別号;葛仙翁/壺蜜軒/田泉舎)1641-1725 伊勢山田俳人;玄礼/調和門、
江戸神田住/晩年帰郷、
1697桃隣「陸奥衛むつちどり」/1702轍士「花見車」1句入、11「歳旦一蜂引付」編、
[旅籠さぞ花の上踏む蜷じみ汁](花見車;84/西行[象潟;花の上こぐ]の振/水を踏み取る)
- H1185 一抱(いっほう・岡本おかもと;母の実家姓、名;伊恒、福井藩士杉森信義男)?-1716 近松門左衛門の弟、
福井の生/京医者;味岡三伯門/平井自安門;養子、1688頃平井家辞去/1694法橋、
医書を国字註解、1688「回春指南」編/97「医案和解」/98「和語本草綱目」「広益本草大成」、
「医学活法大全」「衆方規矩指南」「妙薬集大全」外著多数、浄瑠璃作者:1691「北条時頼記」、
[一抱の通称/別号]通称:為竹いちく、別号;一抱子/一得斎/撰生堂/守一翁、別名;平井要安
- H1184 一法(いっほう;法諱・他阿・俗姓青木)1664-1725 時宗僧;樹端門、山県光明寺住職/時宗49代遊行、
1712-21諸国遊行教化、1708「一遍別願和讃新註」、「器朴論要解」「出家授戒略章」著
- H1186 一峰(いっほう・磯) ? - ? 1688-1711頃姫路藩主本多忠国の家臣、
本多家越後村上に転封/越後随行者;「越路紀行」著
- H1187 一蜂(初世いっほう・英はなぶさ、名;信庸/通称;彦助)1691-1760 江戸絵師;初世英一蝶門、
1730「父の恩」/51「画集図彙」/52「画本図編」/58「英筆百画」「両兎林」/「衆英画鑑」、
[一蜂の別号] 一峰/一烽/一嶂/春窓翁
- H1188 一蜂(2世いっほう・英) ? - ? 江戸絵師;父初世英一蜂門
- I1189 一芳(いっほう) ? - ? 備後尾道俳人;1727木而「藪の井」入
- H1189 一方(いっほう・北川、別号;西角庵/鵲翁じやくおう/出家号;行雲ぎょううん)?-? 江中期京の俳人・西角門、
1748「鳥の宿」編

- D1186 **一芳**(いっぽう・多田ただ、箕踞庵ききよあん)?-? 江前期読本/実録物作者、
1754「和州非人敵討実録」、1770「敵討浮田物語」73「渡辺秘鑑」1801「敵討綴之錦」著
- B1167 **一保**(一方いっぽう・吉田)? - 1779? 大阪講釈師; 寺子屋で軍談/大坂講談中興の祖、
1770「和漢軍書要覧」著
- H1190 **一保**(2代目いっぽう・吉田)? - ? 大阪講釈師; 1802「浪華なまり」軍書講談に名あり
- H1191 **一鳳**(いっぽう・松原まつばら、名; 元長、別号; 立正/立仙) 1763-1845 代々岡山藩医; 1789家督、
1839近習医者格、西洋医学修得、「集成西医方」著
- H1192 **一方**(いっぽう/かづまさ・篠野ささの、盛堅男) 1798-1864 67 代々備前の医者、藩老池田伊賀家臣; 父継嗣、
可児才蔵の後裔、医業の傍ら狂詩/狂歌を詠ず、儒詩; 頼山陽門; 尊王思想を抱く、
藤本鉄石・物外・山田方谷・上田及淵と交流、1尺7寸の鬚を蓄え関白一条家から鬚袋賜る、
1834(天保5)「篠野盛貞行状」/58(安政5)「鐘近百首」著、
[一方(;名)の字/通称/号]字; 元鳳、通称; 春泉/竜泉、
号; 楮里/君翼/秦山/孤山/立吞鈍人/竹林医士/小士医下新昼夜耳元金近入道、
鐘近入道/木枕廻意大尽半白腮鬚長、法号; 濠南軒長鬚一方居士
- H1193 **一鳳**(いっぽう・森もり敬之、字; 子交/子孝、通称文平、森徹山の養子) 1798-1871 74 大阪絵師;
養父徹山門、山水/人物/花鳥画、熊本藩主細川家に出仕、
内裏御涼所障壁画「山松図」、「はなのしつく」画
- I1191 **一鳳**(いっぽう・二ノ宮にのみや、通称; 太郎八) 1799-1881 83 安藝広島 of 俳人; 和切門?、
1841和切「養花集」入、[初午や麦ふまさじと掛行燈](「養花集」)
- H1194 **一方**(いっぽう・岡本おかもと、名; 頼、棚橋七兵衛男) 1810-76 67 岡本九右衛門の養子/高知藩士、
儒者; 塩谷宕陰/安井息軒門、高知藩校教授、詩; 日根野鏡水門、「一方詩稿」著、
[一方の通称/別号] 通称; 頼兵衛/頼平、別号; 水一方/待雲
- 一方(いっぽう・安藤) → 眞鉄(まがね・安藤あんどう、藩士/国学/神道) N 4 0 2 7
- 一法(いっぽう; 字) → 随流(ずいりゅう・ずいる; 法諱・一法、浄土僧) F 2 3 1 4
- 一芳(いっぽう・桜井) → 霽松(せいしょう・桜井さくらい、儒者) I 2 4 7 9
- 一芳(いっぽう・添田) → 一芳(かづよし・添田そえだ、里正/国学者) U 1 5 8 6
- 一翫(いっぽう→いっちよう・是心軒) → 是心軒(4世・一翫、医者/華道家) K 2 4 6 3
- 一鳳(いっぽう・正本屋) → 一鳳軒(いっぽうけん・西沢、歌伎作者) 1 1 2 6
- 一鳳(いっぽう・宇留野) → 玄順(げんじゅん・宇留野うるの、文筆家) J 1 8 8 2
- 一峰(一峯いっぽう・池永) → 道雲(どううん・池永、書/篆刻) B 3 1 2 7
- 一峰(いっぽう・草鹿) → 泰仲(たいちゅう・草鹿くさか、藩士/医/詩) K 2 6 6 2
- 一峯(いっぽう・大高坂) → 芝山(しざん・大高坂、藩儒/南学) D 2 1 7 1
- 一峯(いっぽう・長谷川) → 昭道(あきみち・長谷川、藩士/勤王派) D 1 0 9 6
- 一豊(いっぽう・松永) → 花遁(かんとん・松永まつなが、商家/詩人) O 1 5 2 3
- 逸峰(いっぽう・内山) → 逸峰(はやみね・内山うちやま、歌人/紀行) F 3 6 7 5
- 一方庵(いっぽうあん) → 五明(ごめい・吉川、商家/俳人) D 1 9 9 3
- 一方庵(いっぽうあん) → 春愛(はるちか・平瀬ひらせ、国学/歌/実業) K 3 6 7 1
- 一法庵(いっぽうあん) → 宗幽(そうゆう・片桐かたぎり、幕臣/茶人) J 2 5 0 3
- 一法庵(いっぽうあん) → 意然(いねん; 法諱、僧/歌人) J 1 1 8 8
- 一法院(いっぽういん) → 頼雄(よりかつ・松平まつだいら、藩主/歌人) Q 4 7 1 6
- 一峰閑人(いっぽうかんじん) → 一蝶(初世いっちよう・英はなぶさ、絵師) C 1 1 0 8
- 1126 **一鳳軒**(いっぽうけん・西沢、名; 利助・理助) 1801-52 一風曾孫、書肆/貸本; 正本屋、戯作/狂歌/俳諧、
1830頃歌舞伎作者; 3世歌右衛門7世団十郎の脚本/演劇考証随筆、1831「暁鳥祇園調」、
1838「花魁荅八総はなのあにつほみのやつふさ」/38「島原染七種模様」/42「紅楓いろは文庫」、
1850「皇都午睡」譚柄瑠璃葬かたりぐさりのあさがお、51「脚色余録」、「伝奇作書」外著多数、
[一鳳軒の通称] 正本屋しょうほんや利助(略; 本利ほんり)/正本屋九郎右衛門・九左衛門
[一鳳軒の号] 一鳳/李叟/狂言綺語堂/世代軒、俳号; 秋声庵蒼々/蒼々/滄々
- C1133 **一鳳齋**(いっぽうさい) ?- ? 江戸芝三島町の狂歌作者; 1787「才蔵集」入、
[下戸なればけふのことばの花角力はなまうこまたとつてもかちんとぞ思ふ]、

(才蔵集;75/人々花の歌よむと聞き詠み遣す/ことばの花角力は歌合、かちんは餅、
小股取るは角力の卑劣な手/下戸なので何としても勝って餅を取りたい)
後萬載集の夷曲庵一風齋と同一か?

一風齋(いっふうさい・夷曲庵いきよくあん)→貞風(さだかぜ・橘たちばな、狂歌芝連) B 2 0 7 6

- 一鳳齋(いっほうさい) → 国安(くにやす・歌川、絵師) B 1 7 0 0
 一鳳齋(いっほうさい) → 国明(初世くにあき・歌川、絵師) B 1 7 4 6
 一鳳齋(いっほうさい) → 国安(初世くにやす・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 0 0
 一鳳齋(いっほうさい) → 国安(2世くにやす・歌川うたがわ、絵師) D 1 7 3 2
 一鵬齋(いっほうさい) → 芳藤(よしふじ・歌川うたがわ/西村、絵師) G 4 7 7 8
 一豊齋(いっほうさい) → 国兼(くにかね・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 4 9
 一峯齋(いっほうさい) → 馬円(ばえん・一峯齋、絵師) C 3 6 4 1
 一朋齋(いっほうさい) → 芳藤(よしふじ・歌川/西村、絵師) G 4 7 7 8
 一峰齋(いっほうさい) → 景松(かげまつ・歌川、絵師) F 1 5 0 0
 一峰齋(一法齋いっほうさい) → 国英(くにひで・歌川うたがわ、絵師) D 1 7 1 4
 一峰齋(いっほうさい) → 芳春(よしはる・歌川うたがわ/生田、絵師) G 4 7 1 5
 一宝齋(いっほうさい) → 国盛(2世くにもり・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 6 7
 一宝齋(いっほうさい) → 芳房(よしふさ・歌川うたがわ、絵師) G 4 7 7 6
 一抱子(いっぼうし・岡本) → 一抱(いっぼう・岡本、医者/浄瑠璃作者) H 1 1 8 5
 一抱子(いっぼうし・岸崎) → 時照(時照ときてる・岸崎、藩士/税制) J 3 1 4 1
 一豊舎(いっほうしゃ) → 孔章(よしあき・山田やまだ/山、古銭学者) B 4 7 9 8
 一蓬舎(いっほうしゃ) → 義方(よしかた・植田/高須、商家/歌・俳) C 4 7 6 9
 一封亭(いっほうてい) → 朶雲(だうん・一封亭、俳/狂歌) C 2 6 4 4
 一方堂(いっほうどう) → 玄寧(げんねい・角倉すみくら、商/幕府代官) M 1 8 1 0
 一崩道人(いっほうどうじん) → 惟中(いちちゅう・岡西、俳人) 1 1 1 9

H1195 一步齋(いっぼさい・野崎のざき)?- ? 江後期加賀の心学者/子弟教育、
1797「心学早まなび」/99「克己道得鈔」

- 一步齋(いっぼさい・浦野) → 光護(みつり・浦野/柳井、藩士/農政) E 4 1 4 6
 一畝子(いっぼし;号) → 宗胃(そいう;法諱・清庵;道号、臨濟僧) 2 5 5 0
 一步人(いっぼじん) → 風之(ふうし・額田ぬかた、書肆/俳人) 3 8 7 5
 一本亭(いっぼんてい) → 芙蓉花(ふようか・松濤、狂歌/俳人) E 3 8 5 3
 一本亭(いっぼんてい) → 魚鱗(ぎよりん・植田、狂歌) Q 1 6 4 2
 一本堂(いっぼんどう) → 修庵(しゅうあん・香川、医;古医方) G 2 1 7 8
 一本鎗主(いっぼんやりぬし) → 一本鎗主(ひとものやりぬし、武士/狂歌) H 3 7 9 1

K1177 巖正(いさまき・横田よこた、旧姓;上野) 1790-1846 57 肥後熊本藩士、国学・歌;長瀬真幸門、万葉重視、
1838(天保9)「月百拾番歌合」(中島広足判)参加(主催?);参加者は熊本藩関係者;
参加者;巖正・安田貞方(貞路)・木原藤園(楯臣)・岩部(岩崎)春蔭・臼杵秋房(亭助)、
[巖正(;名)の通称/号]通称;勘左衛門、号;川別/西寂

- 巖丸(いづまる・安武) → 巖丸(いづまる・安武、儒者/歌人) F 1 1 7 3
 五観(いつみ・内田) → 五観(ごかん・いつみ・内田、和算/天文) F 1 9 5 2
 巖水(いづみ・中山) → 巖水(ごんすい・中山、国学者) E 1 9 7 3

H1196 逸民(いつみん・飛田とびた、名;武明/勝) 1777-1861 85歳 常陸の儒者;大田錦城/藤田幽谷門、
1804水戸彰考館入、「逸民集抄」「職官吏志」「養老説」「孝経釈義」著、
[逸民(;号)の字/通称]字;子虚/子健、通称;勝太郎

- 逸民(いつみん・秋元) → 安民(やすたみ・秋元/藤原、藩士/国学) B 4 5 9 5
 逸民(いつみん・池尻) → 善慶(よしちか・池尻いけじり/武田、藩士) L 4 7 5 0
 逸民(いつみん・国方) → 文啓(ふみひろ・国方くにかた、国学者) I 3 8 1 7
 逸民(いつみん・原) → 良樹(よしき・原はら、国学者/歌人) O 4 7 6 5

D1188 いつも早秋(いつもはやあき)?- ? 狂歌作者、徳和歌後萬載集2首入;551/645、
[くどいても人の心やうし車恋の重荷をつけつまはしつ](後萬載;551)、
(憂しと牛車/荷を付けと付回す;応じない相手を追い回す/謡曲;恋の重荷)、

逸楽窩(いつらくか)	→	千蔭(ちかげ・加藤/橘、国学/歌人)	2 8 0 3
一漁(いつりょう)	→	一漁(いちりょう・初世鶴海つるみ、俳人)	E 1 1 5 9
一漁(2世いつりょう)	→	一漁(いちりょう・2世鶴海、俳人)	E 1 1 6 0
一漁(3世いつりょう)	→	一漁(いちりょう・3世鶴海、俳人)	B 1 1 2 9
一漁(4世いつりょう)	→	一漁(いちりょう・4世鶴海、俳人)	G 1 1 6 1
逸林(いつりん・井上)	→	桐斎(とうさい・井上、国学)	E 3 1 2 9
逸林(いつりん・渡辺)	→	昌運(まさかず・渡辺わたなべ、医者/歌人)	B 4 0 8 0
逸老(いつろう・相馬)	→	九方(きゅうほう・相馬/片山、儒者/詩)	I 1 6 7 7
逸郎(いつろう・中根)	→	香亭(こうてい/きょうてい・中根、幕臣/史家)	F 1 9 3 1
逸郎(いつろう・稲村)	→	山海(さんかい・稲村いなむら、俳人)	L 2 0 9 0
逸郎(いつろう・正宗)	→	直保(なおやす・正宗まさむね、国学/狂歌)	O 3 2 7 8
稜威別(いつわけ)	→	幸忠(ゆきただ・山中やまなか、歌人)	E 4 6 7 7

H1197 **以貞**(いいてい; 字・中村なかむら、名; 正夫/通称; 忠七) 1729-66 38歳 岩代福島の人/秋田に没、
「国朝嫩譚」「信達府志」「菜蕪園遺稿」著

D1189 **維禎**(いいてい・宮田みやた) ? - ? 江中期美濃の詩人、1778玄圃「玉振集」入

以貞(いいてい・薄田/橘)	→	以貞(もちさだ・薄田すすきだ/橘/常磐木、神道/兵法)	B 4 4 3 9
以貞(いいてい・古賀)	→	兵蔵(ひょうぞう・古賀こが、心学者)	F 3 7 3 2
以貞(いいてい・杉野)	→	翠兄(すいけい・杉野すぎの、俳人)	2 3 4 4
頤亭(いいてい・大塚)	→	孝緯(たかやす・大塚おつか、儒者)	C 2 6 8 4
衣貞(いいてい・佐枝)	→	尹重(これしげ・佐枝/佐岐さえだ、兵法家)	E 1 9 2 4
伊貞(いいてい・深江)	→	伊貞(これさだ・深江、俳人/狂歌)	E 1 9 0 9
伊貞(いいてい・福住)	→	伊貞(これさだ・福住ふくずみ、商家/歌人)	R 1 9 2 0
倚貞(いいてい・有沢)	→	倚貞(よりさだ・有沢ありさわ、藩士/日記)	K 4 7 1 4
維貞(いいてい・松田)	→	道斎(どうさい・松田、医者/儒)	E 3 1 3 9
維貞(いいてい/これさだ・岡田)	→	文誰(ぶんすい・岡田おかだ、俳人)	F 3 8 8 4
維貞(いいてい・碓井)	→	維貞(これさだ・碓井うすい、医者/国学)	Q 1 9 3 8
維禎(いいてい・菊池/関口)	→	衡岳(こうがく・菊池、藩儒/詩人)	1 9 8 5
維禎(いいてい・上林/畑)	→	柳泰(りゅうたい・畑/上林、儒/医者/詩)	F 4 9 1 1
維禎(いいてい・宮田)	→	嘯台(しょうだい・宮田/田、酒造業/詩人)	K 2 2 7 2
惟禎(いいてい・中村)	→	緑泉(りよくせん・中村/中、酒造業/詩人)	J 4 9 7 9
維禎(いいてい→これさだ・伊藤)	→	仁斎(じんさい・伊藤いとう、儒者; 古義学)	2 2 2 3
惟貞(いいてい) すべて	→	惟貞(これさだ)	
為定(いいてい) すべて	→	為定(ためさだ)	
為貞(いいてい) すべて	→	為貞(ためさだ)	
為呈(いいてい・潮田)	→	藻苅(もがり・潮田うしおだ、藩士/国学)	J 4 4 3 6
為鼎(いいてい; 法諱)	→	九峰(きゅうほう; 道号・為鼎、曹洞僧)	M 1 6 9 2
以酏生(いいていせい)	→	史郎(ふみお・水原みずはら、国学者/歌人)	I 3 8 7 4
為適(いいてき・五条/菅)	→	為適(ためあつ・五条/菅原、廷臣/詩人)	G 2 6 6 6
惟徹(いいてつ; 道号)	→	月潭(げったん; 号・道澄、黄檗僧)	H 1 8 2 2

E1110 **井手尼**(井提尼いでのあま、橘たちばな、名; 清子、大納言橘好古女) ?-? 平安中期典侍、三条天皇乳母、
藤原道隆の妾/道隆没後その男道頼(山井大納言)の室、好親(父道隆)・大納言の君の母、
出家後; 橘氏創建井手寺に住、栄華物語入(山の井尼)、歌; 後拾遺1019、
[いにしへはつらく聞えし鳥の声ねのうれしきさへぞ物はかなしき](後拾; 雑1019、
栄花物語玉の台入、法成寺で入道道長の念仏行の頃夜明前に逢おうと近くに宿る時、
鶏の声を聞き詠/昔は後朝の別を告る声はつらかったが今嬉しく思う; それが悲しい)、
[井手尼の別称] 橘典侍たちばなのすけ/橘三位たちばなのさんみ/山の井の尼(; 栄花)/井手少将入道

D1187 **井出川貫**(いでのかわつら) ? - ? 狂歌; 1787「才蔵集」入;

[歌人うたびとのことのはつきのかげごとは桂男の噂なりけり]

井手少将入道(いでのしょうしょうのにゅうどう)	→	井手尼(いでのあま・平安歌人)	E 1 1 1 0
堰手之舎(いでのや)	→	道成(みちなり・森田もりた/湯口、大庄屋/歌)	K 4 1 8 2

- H1198 **出羽** (いでは、齋院出羽さいいんのいでは)?-? 平安期六条齋院祿子はい内親王家女房/歌人、1048鷹司殿倫子百番歌合参・1050-78六条齋院祿子内親王家歌合15回参加、玉葉集16、[雪まぜにむらむら見えし若草のなべて翠になりけるかな](玉葉;16/祿子歌合) 出羽弁いではのべんと同一説あり
- B1168 **出羽辨** (いではのべん、平たいらの季信女)996/1007?-? 1055存 平安中期女房;生年に2説ある、初め上東門院彰子女房、1028頃その妹の後一条院中宮威子に出仕、1036(長元9)威子没後;その皇女一品宮章子内親王に出仕、さらに六条齋院祿子内親王に出仕、歌人;1033鷹司倫子七十賀屏風歌詠、1035関白左大臣頼通歌合参加/1048(永承3)以降六条齋院主催の多数の歌合に出詠、1055六条齋院物語合に参加「あらば逢ふ夜のと嘆く壬生卿」作、家集「出羽弁集」、栄花物語巻31-37は出羽弁の歌日記的なものを資料;成立事情に深い関係がある、藤原範永・経衡・源経信・隆国・相模・加賀左衛門ら多くの歌人と交流、美作みまさかの母、勅撰;16首;後拾遺(5首;130/557/593/1099/1101)金葉(473)詞花(124/325)新勅(1215)、玉葉(1055/2329/2364)続後拾(1100)新千(1145)新拾(899)新続古(1685)、金Ⅲ419/467、玄々集/後葉集(591)入、父出羽守季信没後に源隆国と贈答歌(後拾557)、[ふるさとの花のものいふ世なりせばいかに昔のことを問はまし](後拾;130、京一条北の世尊寺の桃の花を詠む/桃は三千年みよのもの)、[しもぶるも苦しかりけり数ならぬ人は涙のなからましかば](玄々集;163)、
参照 → 隆国(たかくに・源みなもと、宇治大納言) 2 6 0 8
以天(伊天いてん;道号) → 宗清(そうせい;法諱・以天、臨濟僧) I 2 5 1 7
畏天(いてん・松尾) → 雪庵(せつあん・松尾まつお、藩医/詩人) K 2 4 6 6
惟典(いてん・阿蘇) → 惟典(これすけ・阿蘇あそ/宇治、神職/歌) E 1 9 2 5
惟典(いてん/これり・今井) → 紐蘭(ちゆうらん・今井、藩奉行/俳仙) G 2 8 9 2
- H1199 **意伝** (いでん) ? - ? 江戸初期浄土宗増上寺僧、1642日蓮僧日啓と法論:「品川問答」
以伝(いでん・能勢) → 頼則(よりのり・能勢のせ/源、武将/連歌) J 4 7 4 4
意伝(いでん;号) → 瑞鳳(ずいほう;法諱、真言僧/悉曇学者) F 2 3 0 2
意伝(以伝いでん・斎藤) → 如備子(にょらいし、斎藤親盛/仮名草子作者) G 3 3 2 3
- K1127 **糸** (いと・座光寺さうじ/旧姓;花房)?-1820 信濃伊那郡山吹領主の座光寺為巳ためみの前妻、歌人;片桐源栄門
- I1100 **いと** (・中村なかむら/旧姓;北沢)?-? 16-7歳頃に宮仕?、江戸の畳方御用達商の中村弥大夫[弥蔵/宗錫/碧海]の妻、1825伊勢詣、「伊勢まうてのにつき」著
- J1156 **いと** (・井伊い、屋号;中垣外、新井甚兵衛如水女)?-1837 信濃伊那郡菅野村の歌人、信濃飯田大横町の井伊吉兵衛の妻、国学・歌;飯田の岩崎長世(1807-79)門、同門の松井美澄みはる・桜井光章・桜井盈叙みつる・奥村邦香・林訪・野原正基・井村守泰もりたか・井原周祐かねすけ・鎮西清宣きよのぶと交流、蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、[きのふまで咲きにけりともしら露の色なるみれば萩の花づま](大江戸倭;秋727/萩)[埋火のおきにこがるるわが恋はみるめもなくてとしぞへにける](同;恋1602)[いと(;名)の法号] 誓譽妙願信女
- k1111 **以登** (いと・梯かけはし、) 1820 - 1886 67 筑後久留米の梯方教まさのりと結婚、国学/歌人
- J1187 **伊登** (いと・猪木いのき、別名;富子、猪木義行の長女)1842-99 58 備中浅口郡の歌人;近藤芳樹・小野春発門、川上郡下原村渡邊正方3男の士郎正廉まさやすを婿養子に迎え分家、夫は乙島村の里正を務め村の教育・産業振興に尽力;同じく近藤芳樹・小野春発門 礼太郎・弟彦・正(坂田桂作妻)・金兄(中村俊清妻)の母
糸一郎(いといちろう・益井) → 忠恕(なおすけ・益井ますい、藩校国学教授) O 3 2 7 8
以藤(いとう・疋田) → 以藤(もちふじ・藤原/疋田ひきた、廷臣/歌) M 4 4 1 5
為藤(いとう・二条) → 為藤(ためふじ・二条/御子左、歌人) 2 6 7 5
為冬(いとう・二条) → 為冬(ためふゆ・二条/藤原、廷臣/歌人) 2 6 7 6

- 惟灯(いとう・佐伯) → 貞中(さだなか・佐伯、酒造業/俳・歌人) J 2 0 0 3
- E1116 畏堂(いとう・小林こばやし、名;至静/字;徳方)?-1866 信濃松代藩儒者;佐藤一斎/梁川星巖門、
城下に私塾畏堂を開設、1832「畏堂詠史百絶」、「畏堂詩文集」著、
[畏堂の通称/別号] 通称;重介/柔介、別号;刻舟漁人
- I1101 貽堂(いとう・安孫子あびに、名;億/字;君宜)?-? 江戸後期越後水原の質商;紙/蠟燭の販売、
詩;菊池五山門/江戸で画;谷文晁門、「貽堂吟稿」著
- 畏堂(いとう・篠崎) → 小竹(しょうちく・篠崎/篠、儒者/詩人) 2 2 9 2
- 以道(いとう・日原ひはら) → 坦齋(たんさい・手塚てつか、藩士/儒者) T 2 6 5 0
- 為道(いとう・二条) → 為道(為通ためみち、二条/御子左、廷臣/歌) 2 6 7 7
- 惟同(いとう・馬淵) → 惟同(これとも・馬淵まぶち、藩医) R 1 9 3 0
- 維堂(いとう・寺井) → 養拙(ようせつ・寺井てらい、書家) B 4 7 3 0
- 頤堂(いとう・福原) → 元圃(もとたけ・福原/佐世/毛利、家老/歌) C 4 4 8 8
- 彝堂(いとう・楫取) → 素彦(もとひこ・楫取/松島/小田村、藩士) D 4 4 9 5
- 伊藤五(いとうご) → 相嘉(すけよし・茜部あかなべ/藤原/伊藤/藤井、藩士/国学) D 2 3 7 5
- 移嶋散人酔楽斎(いとうさんじんすらくさい) → 正英(まさひで・三島、実録小説作者) G 4 0 7 1
- 伊藤治(いとうじ・清水) → 政英(まさひで・清水しみず、和算家) G 4 0 7 8
- 衣竇道人(いとうどうじん) → 桂州(けいしゅう;道号・道倫、臨濟僧) 1 8 6 5
- 井戸王(いどうおう) → 井戸王(いへのおおさみ) 1 1 7 5
- I1102 維徳(いとう/これのり?・大江おおえ)?-? 儒者/詩人;1774大江玄圃「友詩ゆうし」校訂
- D1190 意徳(いとう・田中たなか) ?-? 田中意鑑説;肥後細川家臣or備前池田家臣、
祖母きくの大坂落城時の回想談を聴聞:1678以後「おきく物語」著
(きくは1615大坂落城時20歳位/備前に83歳で没)
- B1169 惟得(いとう/これのり/ただのり・羽倉はくら/本姓;荷田、別名;惟徳これとこ、藤井茂善男)1765-1827 63 京の生、
実父は常陸土浦藩士、羽倉[荷田]御風のりかぜの養嗣子、国学/歌;加藤千蔭・村田春梅門、
京の豊後岡藩鬻由学館の教授/書を嗜む、藩命で公文書を書す、1802「狭布考」著、
1807「人の歌を私に品定めするをいなむ辞」、「百題鄙詠」「菊着綿考」「大江朝臣考」著、
[惟得(;名)の字/通称] 字;子馨、通称;梁助/東之進
- I1103 彝徳(いとう・秋山あきやま、通称;源左衛門)?-? 江戸後期常陸の和算家、1830「算法点竄初学抄」校
- 彝徳(いとう・吉村) → 蘭洲(らんしゅう・吉村よしむら、絵師/解剖図) C 4 8 5 9
- 威徳(いとう・藤原) → 忠通(ただみち・藤原、撰関/歌人/書) 2 6 3 3
- 威徳(いとう・日置) → 正次(まさつぐ・日置へき、弓術家) D 4 0 8 4
- 惟徳(いとう・勝島) → 惟徳(これのり・勝島かつしま、儒者) O 1 9 6 6
- 惟徳(いとう・神) → 履堂(りどう・神じん、漢学者) C 4 9 3 3
- 惟徳(いとう・飯田) → 惟徳(これのり・飯田いいだ、歌人) E 1 9 7 3
- 惟徳(いとう・小樽) → 惟徳(これのり・小樽こぐれ、国学/歌) Q 1 9 6 9
- 維徳(いとう/これのり・堀江) → 典膳(てんぜん・堀江、藩政/植林事業) D 3 0 9 7
- 維徳/惟徳(いとう/これのり・石川) → 子温(しおん、石川、藩士/和算家) P 2 1 7 4
- 維徳(いとう・碓井) → 維徳(これのり・碓井うすい、医者/歌人) Q 1 9 3 9
- 維徳(いとう・波多野) → 維徳(これのり・波多野はたの、神職/国学) R 1 9 1 2
- 以得(為得/意得いとう・葛山) → 為篤(ためあつ・葛山かつらやま/坂、藩士/地誌) S 2 6 3 1
- 以徳(いとう・伊東) → 見龍(けんりゅう・伊東いとう、藩医者) M 1 8 8 1
- 以徳(いとう/もちのり・荏戸) → 政以(まさもち・荏戸のぞき、藩士/実学) H 4 0 8 2
- 以徳(いとう・村岡) → 景福(かげとみ・村岡むらおか、商家/歌人) V 1 5 9 1
- 以徳(いとう・高島) → 章貞(あきさだ・高島たかしま、医者/歌人) G 1 0 6 5
- 以徳(いとう・竹内) → 以徳(もちのり・竹内たけうち、藩士/国学) K 4 4 4 4
- 為徳(いとう・五条) → 為徳(ためえ・五条/菅原、廷臣/漢学) S 2 6 3 2
- 為徳(いとう・三善) → 為徳(ためり・三善みよし、南北期歌人) H 2 6 3 2
- 為徳(いとう・藤尾) → 為徳(ためり・藤尾ふじお、代官家臣/歌) U 2 6 1 3
- 為篤(以得いとう・葛山/坂) → 為篤(ためあつ・葛山くずやま・かざらやま、藩士/地誌) S 2 6 3 1
- 意徳斎(いとうさい・日置) → 正次(まさつぐ・日置へき、弓術家) D 4 0 8 4

- 威徳寺僧正(いとくじのそうじょう)→ 実任(じつにん:法諱、真言僧) V 2 1 0 2
- J1197 糸子(いとこ・今田いまだ) ? - ? 弘化1840-48頃没 備前岡山藩士今田知貞(1780-1840)と結婚、
晩年;藩主池田家に出仕/歌人;菅沼斐雄門
- K1140 糸子(いとこ・竹中たけなか) 1803-1883 81 撰津兵庫の歌人;黒沢翁満おきまろ門
- K1135 いと子(いとこ・住友すみとも、旧姓;浅田) 1834-1906 73 大坂の国学者/歌人;糟谷足穂たりほ門、
国学・歌;中村良顕よしあき門
- D1109 以登州而名隣撰(いとしゅうてなりんせん) ?-? 洒落本・1780「色里名所鑑」著
いと女(いとじょ) → いと(・井伊い、歌人) J 1 1 5 6
- B1171 伊豆内親王(伊登/伊都-いとないしんのう、兼子/桂、桓武天皇皇女) ?-861 母;藤原平子(乙叡女阿)、
平城天皇皇子阿保親王の妃/在原業平の母、無品/833山階寺に生母の遺産奉納;願文、
晩年長岡京に住、歌人、古今900、
[老いぬればさらぬ別れもありと言へばいよいよ見まくほしき君哉](古今;雑900、
伊勢物語84段/業平の許へとみの事とて長岡より贈る歌、
業平の返歌;世の中にさらぬ別れのなくのがな千世もとなげく人の子のため)
- 井戸王(いどのおおきみ) → 井戸王(いへのおおきみ、万葉歌人) 1 1 7 5
- 惟敦(いとん・阿蘇) → 惟敦(これあつ・阿蘇/宇治、神職/国学) O 1 9 1 1
- 為敦(いとん・八条) → 為敦(ためあつ・八条/藤原/法性寺、歌) G 2 6 6 5
- 以鈍(いどん・稲葉) → 貞通(さだみち・稲葉いなば、武将/藩主/歌) C 2 0 4 7
- D1110 稲直(いなお・足立あだち) 1799 - 1821 早世 23歳 飛騨高山の農民、国学;1810田中大秀門、京住、
書;巨瀬健冬門、「さくる囊」「狭衣綾にしき」「鞆羅遠陀集」、1819「紫式部日記解」著、
[稲直(;名)の通称/号] 通称;清助/清介/吉太郎/孫三郎、号;印納
- I1104 稲雄(いなお・北原きたはら、因信よりのぶ2男) 1825-81 57 母;木曾子、1849(嘉永2/25歳)家督継嗣;
信州伊那郡座光寺村の名主(庄屋)、国学・歌;岩崎長世門/歌;福住清風門、歌人、
国学;1859平田篤胤の没後門/勤王家、篤胤学浸透のため気吹舎出版を推進、
1860(万延元)篤胤「弘仁歴運記考」を刊行出資、62篤胤「古史伝」の上木運動に参画;
長世が指導し松尾多勢子・弟今村真幸まさき(信敬/豊三郎)らが参加の大事業を完成、
1863(文久3)京の足利鼻首事件後;長世が嫌疑受け飯田を去る、
以後;稲雄が伊那・東濃国学の中心となる、
1864(元治元)水戸浪士らの天狗党の乱には弟信敬と飯田を守るように工作、
維新後;伊那県に出仕、晩年は松本開産社の社長として郷土の殖産興業に尽力、
「水内神社考」、歌集「雪の信濃路」「鎗廻舎歌集」著、息子の信綱・阿智之助は衆議院議員、
[稲雄(;名)の別名/通称/号] 幼名;照吉、別名;信質、通称;林右衛門/森右衛門、
号;八束穂やつかほ/鎗の舎かぶらのや
- J1163 稲雄(いなお・西田にしだ) ? - ? 江後期;歌人、
1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
[東路のはまなの橋の月見つと都の人についてか語らむ](現存百人一首;75)
- 稲垣秋吉(いながきあきよし) → 千種庵(4世ちぐさあん、春告/商家/狂歌師) D 2 8 0 4
- 稲掛庵(いながけあん) → 蘆城(ろじょう・井上いとうえ、医者/俳人) B 5 2 8 5
- 田舎珍夫(いなかちんぶ) → 順(したごう・高本/原田、医/儒/国学) E 2 1 5 0
- 田舎坊(いなかぼう) → 左右児(双児そうじ・村上むらかみ、俳人) B 2 5 6 9
- 田舎老人多田翁(いなかろうじんだのじい) → 多田翁(ただのじい・田舎老人、丹波屋、書肆/戯作) 2 6 3 0
- I1105 稲置(稲木いなき/えゆき・堀川ほりかわ) 1760-? 尾張愛知郡中野村の生/薬種問屋の手代、
1781医者となる、国学:道麿門/1788本居宣長門、海量と親交、「合七説」著、
[稲置(;名)の字/通称] 字;三徹、通称;伊藤綾介/藤斐他とうのひだ
- K1175 稲城(いなき・山田やまだ) 1843-1922 80 陸奥津軽郡の岩木山神社の禰宜、歌人、
神道・歌学;長利おさり仲聴なかあきら門、
[稲城(;名)の通称] 多門/信濃
- 稲城(いなき・河村) → 内郷(うちさと・河村かわむら、郷土/国学) D 1 2 0 7
- 稲秋(いなき・長島) → 琴成(琴也ことなり・稲垣いながき、神職/歌) Q 1 9 3 4
- B1172 稲寸丁女(いなきおとめ) ? - ? 万葉中人物(創作)、十六3791竹取翁歌

- 稲木女(いなぎよ・鈴木) → 垢染衣紋(あかしのえもん、狂歌作者) C 1 0 2 1
 稲吉(いなきち・青山) → 景通(かげみち・青山あおやま、藩士/神道家) T 1 5 3 4
- 1174 稲公(稲君いなぎみ・大伴宿禰)?-? 大伴旅人の庶弟/廷臣;右兵衛助、
 このとき730年勅により大宰府に旅人の病を見舞う、のち衛門大尉/741因幡守、兵部大輔、
 鎮裏右京使/上総守/757(天平宝字元)従四下大和守/758三輪山の藤の瑞字を奏上(続紀)、
 万葉集四期1549;題詞/1553(:衛門大尉)、
 [しぐれの雨間まなくし降れば三笠山木末こぬあまねく色付きにけり](万葉;1553、
 1554家持の返歌)
- 稲子(いなこ・松平/伊達) → 宗利妻(むねとしのつま・伊達だて、藩主妻/歌) E 4 2 3 9
 蠡麻呂(いなごまろ・脚長、滑稽本) → 尚忠(ひさただ・山田、国学者) B 3 7 3 1
 伊那三才女(いなさんさいじよ・伊那三女);信州伊那出身の同時代の3人の優れた女性歌人
 → 亀(かめ・桃沢、歌人) P 1 5 4 4
 → さん(上原、歌人) L 2 0 7 2
 → 清(さよ・河野、歌人) L 2 0 6 0
- 三人は依田梅山の同門の歌人、
 三人が伊那本郷の西岸寺門前の桜を賞で興じた逸話(1829堀内元鎧「信濃奇談」入)
 本郷の亀と清が桜見物中に七久保のさんより贈歌;その後3人で集い宴を催す、
 さんの贈歌;色も香も盛りと聞きし花にまたこと葉の花の色も添ふらん
 清の返歌;吹く風に散らば惜しけん桜花かや来て見ませ咲きの盛りを
 亀の返歌;もろ共に見てぞ嬉しきこの寺の花のむしろに来よまどみせん
- 稲左衛門(いなざえもん・下田/浅井) → 奉政(ともまさ・浅井、国学) Q 3 1 5 4
- D1101 稲敷(いなしき・阿曇あずみ[連むらじ;姓])?-? 大和期廷臣;672(天武元)筑紫に派遣され天智崩御を告、
 681(天武10年)帝紀及上古諸事の記定に参加(12名の1)
 参考 → 帝紀及上古諸事の記定者(ていきおよびじょうこしよのきていしや)
- B1173 稲布(いなしき・いなふ・荒氏こうし:荒木・荒井など?)?-? 廷臣;大宰府主神(神司かむつかさ/正七下相当)、
 万葉三期歌832(:730年旅人の梅花宴に参加)、
 [梅の花折りてかざせる諸人もろひとは今日の間あひだは楽しくあるべし](万葉;832/神司)
- 伊奈介(いなすけ・座光寺) → 為巳(ためひ・座光寺ごうじ/石尾、領主/歌人) X 2 6 2 6
 稲蔵(いなぞう・橋本) → 稲彦(いなひこ・橋本、国学者) D 1 1 9 2
- B1174 稲足(いなたり・土師はにし) ?-? 奈良期廷臣;遣新羅使人、万葉四期・十五3660、
 [神かむさぶる荒津の崎に寄する波間まなくや妹に恋ひ渡りなむ](万葉;3660)
- K1163 稲足(いなたり・堀田ほつた) 1788- 1848 61 尾張海東郡の国学者;本居春庭・富樫広蔭門
 [稲足(;名)の通称]滝江/左太夫
- 稲太郎(いなたろう・小俣) → 景德(かげり・小俣おまた、幕臣/歌人) T 1 5 8 7
- I1106 稲之衛門(稲之右衛門いなえもん・田丸たまる、名;直允、山国やまくに共綿男) 1805-65 処刑 51 水戸藩士、
 田丸直諒養子、1842家督嗣;馬廻組/繩奉行/63町奉行、尊攘思想;天狗党の総帥;
 1864筑波に挙兵、西上の途中加賀藩に降伏;1865敦賀で武田耕雲斎・藤田小四郎らと斬罪、
 「筑波於呂志」/1864「水藩四士より一橋中納言江歎願書」著
- K1106 稲主(いなぬし・太田おおた/本姓;源、年磨男) 1840-1924 85 母;岡田氏信女、上野新田郡岩松村神職、
 国学;平田鉄胤門、1864(元治元)金井之恭らの義挙に参加;同志は捕縛;氏子の支援で赦免、
 戊辰戦争に新田政府軍に属し利根郡戸倉口で会津軍と戦う、
 1872岩松村郷社八幡宮の神主;父を継嗣/1920群馬県初の奏任官待遇の神職、子弟教育、
 「新田郡史」「新田古城蹟」「祝詞集」著、
 [稲主(;名)の初名/通称]初名;恒資つねすけ、通称;森太郎/出雲
- 伊那之助(いなすけ・座光寺) → 為壽(ためひさ・座光寺ごうじ/小笠原、領主/歌) X 2 6 2 9
 稲舎(いなのか) → 足穂(たるほ・日下田くさかだ、歌人) T 2 6 0 6
 稲舎(いなのか・二流) → 二流(じりゅう・鶴亭、俳人) Q 2 2 4 1
 いなの舎(いなのか) → 当行(まさゆき・児玉こだま、神職/国学) P 4 0 6 7
- B1175 因幡(いなば、因幡守基世王女)?-? 平安前期歌人、桓武天皇の曾孫、
 基世王もとよ(仲野親王男)は889(仁和5)因幡守となる、古今808、

[あひ見ぬも憂きもわが身のから衣思ひしらずも解くるひも哉](古今;恋808、
衣の紐が解けるのは逢える前兆とされる)

- I1107 因幡(いなば) ? - ? 平安前期;女房/歌人、
956坊城右大臣殿(師輔前裁)歌合参加、
[いろいろの花見ることによりぎりす君千代までと鳴く声ぞする]
(坊城右大臣歌合;きりぎりす右19)
基世王女の因幡と同一? → 因幡(いなば、因幡守基世王女/歌人) B 1 1 7 5
- I1108 因幡(いなば) ? - ? 平後期歌人、1178頭昭判廿二番歌合参
[道たえて野もせとあれし庭の面に秋のあはれは尋ねきにけり]、
(廿二番歌合;閑庭秋来・七番右14/野も狭せ;野原一面のように)
- D1191 因幡(いなば・竹田たけだ) ? - ? 浄瑠璃作者、1766「本朝廿四孝」半二と著
- K1114 稲葉(いなば・門田かどた、姓;寺井)1777-1830⁵⁴ 江戸霊岸島の歌人・国学;斎藤彦鷹門、
狂歌;霊岸島に転居した宿屋飯盛門/判者となる、才蔵集入の高崎の門田伊奈波と同一?、
[門田稲葉(;狂号)の通称/号]通称;庄兵衛、号;年々斎/葛垣内(ふじかいど?)
- 因幡(いなば・衣笠) → 景延(かげのぶ・衣笠きぬがさ、武将/藩士/歌) U 1 5 5 1
因幡(いなば・喜早) → 清在(きよあり・喜早きそ、神職) N 1 6 0 6
因幡(いなば・喜早) → 清主(きよぬし・喜早きそ、神職) Q 1 6 0 8
因幡(いなば・竹内) → 正温(まさあつ・竹内たけうち、神職/国学) B 4 0 1 9
因幡(いなば・奥村) → 蒙斎(もうか・奥村おくむら、藩士/儒家) 4 4 4 6
因幡(いなば・喜早) → 定中(さだなか・喜早きそ/度会、神職/記録) J 2 0 0 4
因幡(いなば・樋口) → 英哲(ひでのり・樋口ひぐち、神職/国学) K 3 7 7 4
因幡(いなば・堀家) → 常定(つねさだ・堀家ほりけ、神職/国学) G 2 9 3 3
因幡(いなば・堀家) → 常房(つねふさ・堀家、常定男/神職/国学) G 2 9 3 2
因幡(いなば・中条) → 備資(まさすけ・中条ちゆうじょう、藩史編纂) C 4 0 9 4
因幡(いなば・釜屋) → 小徹(しょうてつ/こてつ・釜屋かまや/古森、国学/画) U 2 2 7 6
因幡(いなば・幸田) → 光潤(みつひろ・幸田こうだ/度会、神職/国学) J 4 1 0 8
稲羽(いなば/因幡守) → 永平(ながひら・神谷かみや、国学者) F 3 2 5 2
稲葉(いなば・新居) → 正道(まさみち・新居にい、神職/国学者) H 4 0 5 9
伊奈波(いなば・門田) → 門田伊奈波(かどたのいなば、狂歌作者) R 1 5 9 6
因幡堂主人(いなばどうしゅじん) → 晃演(こうえん;法諱、真言僧/歌) H 1 9 6 8
因幡殿(いなばどの) → 禅祐(ぜんゆう;法諱、社僧/連歌) N 2 4 1 7
因幡入道(いなばにゅうどう) → 随心(ずいしん・山本、連歌研究者) 2 3 7 2
因幡守(いなばのかみ・桂) → 岌円(きげんきゆうえん・桂、武将/記録) M 1 6 3 1
因幡守(いなばのかみ・川上) → 久国(ひさくに・川上かわかみ、藩家老/儒者) B 3 7 0 0
因幡守(いなばのかみ・因州公) → 長治(ながはる・浅野、藩主/紀行) F 3 2 3 6
因幡守(いなばのかみ・新居) → 正道(まさみち・新居にい、神職/国学者) H 4 0 5 9
因幡守(いなばのかみ・杉浦) → 菅満(すがまる・杉浦さざうら、国満男/神職) L 2 3 0 9
因幡守(いなばのかみ・石谷) → 穆清(あつきよ・石谷いしがや、幕臣/奉行) G 1 0 6 2
因幡守(いなばのかみ・久貝) → 正典(まさのり・久貝くがい、幕臣/歌人) G 4 0 2 3
因幡守(いなばのかみ・諏訪) → 忠誠(ただまさ・諏訪すわ、藩主/神職/歌) U 2 6 9 1
因幡守(いなばのかみ・池田) → 斉稷(なりとし・池田いけだ、藩主/歌人) K 3 2 3 5
因幡守(いなばのかみ・松平) → 輝高(てるたか・松平まつだいら/大河内/源、藩主/老中/歌) E 3 0 8 6
因幡守(いなばのかみ・山口) → 忠栄(ただよし・山口やなぐち/大中臣、神職/国学) 2 7 1 0
因幡守(いなばのかみ・戸田) → 忠寛(ただとお・戸田とだ、藩主/京所司代) Y 2 6 3 5
因幡守(いなばのかみ・青山) → 忠朝(ただとも・青山あおやま、藩主) V 2 6 0 8
因幡守入道(いなばのかみにゅうどう) → 定阿(じょうあ、時宗僧) G 2 2 5 1
- B1176 因幡国郡司等(いなばのこくぐんしら) ?- ? 万葉四期中人物、4516家持歌題
因幡掾(いなばのじょう・竹田) → 出雲(3世いずも・竹田、浄瑠璃作者) B 1 1 0 1
- K1192 因幡内侍(いなばのないし、因幡守藤原惟綱女) ?-? 平安期;堀河天皇(1079-1107)掌侍(内侍)、従五下、
1107(嘉承2)素服を賜う/天皇崩御後;中宮篤子内親王家女房となる;讃岐典侍日記入、

出仕前に源頭房(1037-94)の妻/源雅兼(1079?-1143)の母、歌人;清輔[続詞花集]入、
[かたるなよ夢ばかりなる逢ふ事を思ひあはする人もこそあれ](続詞花;恋595)

- I1109 因幡乳母(いなばのめのと/侍従中納言乳母、橘行頼女)?-? 1049後冷泉「永承四年内裏歌合」右清書
B1177 因幡八上采女(いなばのやかみのうねめ)?-? 因幡出身/安貴王と恋/不敬罪で本国退去;
万葉中人物;卷四535紀女郎「怨恨歌」左注
- D1192 稲彦(稲毘古いなひこ・橋本はしもと/本姓;源)1781-1809早世29歳 安藝広島の商家、
国学者;小篠敏門/1798本居宣長門、1800帰郷;山陽と親交、大阪で講述、
1801「万葉梯」02「古言囊」04「難字気良賀華」07「紫文製錦」、「古学階梯」著、
「新撰和訓部類初編」「古今仮字遣」「万葉訓例」「万葉集説」著
歌;本居大平「八十浦の玉」中巻;長歌を含む7首入、
[ますらをといはれむ人は大君のへにこそ死なめかにもかくにも](八十浦;549/勇士)
[稲彦(;名)の通称/号]通称:保次郎/稲蔵/中台、号;琴廼舎
- K1104 稲彦(いなひこ・大沢おおさわ/旧姓;松尾、)1817-8468 信濃伊那郡伴野村松尾淳斎の弟、
伴野村小園の大沢曾八郎の養子/伴野村の庄屋を継嗣、維新後;戸長、歌人/俳人、
歌;福住清風門、原信好・片桐致知・松尾多勢子と交流/多勢子紹介で石川依平門、
[稲彦(;名)の通称/号]通称;古金吾/彦輔、号;梧風/槻人/槻園、章忠あきたの父
稲姫(いなひめ・松平/伊達)→ 宗利妻(むねとしのつま・伊達だて、藩主妻/歌) E 4 2 3 9
稲布(いなふ・荒氏) → 稲布(いなしき・荒氏、万葉歌人) 1 1 4 6
- I1110 稲穂(いなほ、蘭秀堂/笹屋、嘉右衛門)?-? 書肆版元、江戸噺会連衆/1772噺本「楽牽頭がくたい」編、
1773「楽牽頭後篇座笑産ざしようみやげ」/「座笑産後篇近日貫きぬき」編刊
稲丸(いなまる) → 稲丸(いなまる・坂上、俳人) B 1 1 8 1
- B1178 稲麻呂(いなまろ・丈部はせつかべ)?-? 755防人、駿河国、万葉廿4346、
[父母ちちははが頭かしらかき撫で幸さくあれて言ひし言葉けとばぜ忘れかねつる](万;4346)
- B1170 稲麿(いなまろ・末田すえだ、初名;芳麿よしまろ)1752-180352歳 安藝佐伯郡の生/広島で薬種商;井筒屋、
国学者;1790本居宣長門、広島国学の草分、「芳麿書簡」著、息子道麿は藩校修道館皇学教授、
[稲麿(;名)の通称/屋号]通称;忠八郎、屋号;井筒屋
- B1112 稲麿(いなまろ・西田にしだ、初名;芝昌しげまさ/通称;平蔵)1784-186885 伊勢桑名郡の庄屋、
国学者;本居春庭・富樫広蔭門
- D1193 稲麿(いなまろ・信田しのだ) ? - ? 国学者・歌人、「桂園難歌撰」著(;桂園遺稿入)
- D1170 稲麿(いなまろ・西尾にしお)1805- 185753 信濃松本の水車業、国学;菅沼斐雄門、亜元門、
歌;香川景樹門、菅沼斐雄の学僕、幕府御歌所入、
[稲麿(;名)の初名/通称/号]初名;政氏、通称;桑治郎、号;松廼屋
- I1111 稲麿(いなまろ・蚕桑園さんそうえん)?-? 江後期甲斐八代養蚕家、1829「蚕養手引草」著
稲丸(いなまる) → 稲丸(いなまる・坂上、俳人) B 1 1 8 1
稲丸(いなまる) → 稲丸(いなまる・津軽、俳人) B 1 1 8 2
稲村(いなむら) → 刈穂稲村(かりほのいなむら、狂歌) R 1 5 9 9
稲室の舎(いなむろのや) → 重年(しげとし・小国/鈴木/清原、神職/国学) 2 1 1 4
- D1194 稲目(いなめ・蘇我そが) ? - 570 飛鳥期廷臣/宣化/欽明朝の大臣;仏教受容・
物部尾輿と対立、仏像を安置し向原寺を創建
- K1154 稲守(いなもり・野村のむら、秋足[1819-1902]の長男)1845-191369 尾張名古屋藩士;名古屋日置町住、
国学;植松茂岳門、のち東照宮祠官、藩の医者野間隆賢(昌蔵)と交流、
[稲守(;名)の通称]万太郎/秋助
- B1179 以南(いなん・山本やまと/橘たちばな、名;泰雄、新木与五右衛門富竹男)1736-95入水60歳 越後の神職;
越後三島郡与板の大庄屋の生、1755出雲崎の名主山本(橘屋)新左衛門の養嗣子、
1764家督継嗣;神職/幕府代官所名主を務める、俳諧;北溟門/のち堯台門、妻;秀子、
次男由之に家督譲渡;勤王活動に奔走;幕府の忌諱に触れる;京の桂川に入水、
良寛・由之・香(泰信)の父、「天真録」著、追悼句集「天真仏」(;俳友丈雲編)、
庭掃けば涼しきつちのにはほひ哉]、
[以南(;号)の別号/通称]別号;如翠、通称;新左衛門/左門/次郎左衛門/伊織、屋号;橘屋
- B1105 渭南(いなん・片岡かたおか、通称;万四郎/四方助よものすけ)?-? 羽後秋田の俳人;渭虹門、

1820「花の枝折」、21「秋田人名録」著(桑月庵和京板)、

[渭南(;)号)の別号] 楓斎/睦月庵/虫二房4世

I1112 **渭南**(いなん・神河かみかわ、名;郁蔵/豹、字;子蔚、述次郎男)1801-6464 阿波医者:辻大路/八木異所門、詩/書/琴曲/弓に通ず;徳島藩の弓手、「渭南遺稿」、兄の斗南は詩人/妻の佐野は歌人

[渭南の通称/別号] 通称;廉介、別号;挈瓶けつぺい

I1113 **圯南**(いなん・武富たけとみ、名;定保/字;元謨げんぼ、安貞男)1808-7568 佐賀藩儒;父門/中村嘉田門、1847藩校弘道館教授、和漢学/書画/音楽、「圯南書画識」、「密菴詩文集」「密菴文類略抄」著、

[圯南の通称/別号] 通称;文之助、別号;密菴/碧梧楼へきごろう/歙翁あいおう

以南(いなん・武知) → 方獲(まさかり・武知たけち、藩儒/詩歌人) P 4 0 1 6

慰日庵(いぢあん) → 好甫(こうほ・秋田あきた、俳人) L 1 9 1 7

為入(いひゅう・竹内) → 幽山(ゆうざん・高野、俳人) B 4 6 8 9

I1114 **伊任**(いじん・秋田あきた・安倍、通称;雄二郎/号;雄山)?? 江戸後期和算家、「秋田流算術教訓抄」著、1824「算法便覧」校、40「安算生育論初篇」、「円中諸角通術」「神壁算法卷之上解義二」著

為任(いじん) すべて → 為任(ためとう)

I1115 **いぬ**(・松葉まつば、通称;いぬ女、法号;松雪、松葉小兵衛女)1678-90夭逝13 伊勢度会の商家出身、歌人;権大納言清水谷実業さねなり門、「松雪和歌集」著

犬阿弥(いぬあみ) → 犬王(いぬおう) 1 1 2 7

犬市(いぬいち・松田) → 聴松(ちようしゅう・松田まつだ、俳人) N 2 8 5 4

D1111 **犬打童**(いぬうちわらわ、本名不祥)??-? 1847(弘化4)評論「花はしら」:八犬伝評

1127 **犬王**(いぬおう・道阿弥/犬阿弥)??-1413(応永20) 近江猿楽、1408後小松天皇の北山天覧

B1180 **犬上王**(いぬかみのおおきみ、宮内卿)??-709 702(大宝2)持統天皇大喪時:作殯宮司、詩;懐風藻入;21

犬吉(いぬきち・前田) → 道通(どうつう・前田、医者/家塾) G 3 1 5 5

犬居士(いぬこじ) → 鬼貫(おにつら・上島うえじま、俳人) 1 4 2 4

いぬ女(いぬじょ) → いぬ(・松葉まつば、歌人) I 1 1 1 5

D1112 **犬荘子**(いぬそうし) ?-? 江中期洒落本作者、1778「胡蝶の夢」著

犬千代(いぬちよ・前田) → 利家(としいえ・前田まえた、武将) M 3 1 0 7

犬長者(いぬちやうじゃ) → 湖十(7世こじゅう・深川、木髪3世/俳人) C 1 9 8 8

犬松(いぬまつ・石尾) → 氏信(うじのぶ・石尾いしお/藤原、幕臣) E 1 2 5 1

犬丸太夫(いぬまるだゆう・小沢) → 郷助(ごうすけ・小沢おざわ、儒/兵学者) K 1 9 0 3

犬若(いぬわか・真山) → 俊重(とししげ・真山まやま、藩士/記録) M 3 1 5 8

稲足(いねあし・土師) → 稲足(いなたり・土師はにし、万葉歌人・遣新羅使人) B 1 1 7 4

以寧(いねい・小槻) → 以寧(しげやす・小槻おつき、廷臣/記録) S 2 1 9 8

以寧(いねい・広瀬) → 蒙斎(もうさい・広瀬、儒者/藩政参与) 4 4 5 3

為寧(いねい・渡辺) → 為寧(ためやす・渡辺わたなべ、商家/国学) 2 7 4 2

維寧(いねい・伊藤) → 維寧(これやす・伊藤いとう/藤原、家臣/歌) P 1 9 8 9

維寧(いねい・大江) → 維寧(これやす・大江、儒者) O 1 9 9 4

維寧(いねい/これやす?・福尾/中西) → 淡淵(たんえん・中西/秋元/元、儒者) H 2 6 9 3

稲置(稲木いねおき → いなき・堀川) → 稲置(稲木いなき・堀川、医/国学) I 1 1 0 5

稲子(いねこ・松平/伊達) → 宗利妻(むねとしのつま・伊達だて、藩主妻/歌) E 4 2 3 9

稲実(いねざね・宮沢) → 敬宗(たかむね・宮沢みやざわ、国学者/歌) Z 2 6 8 3

稲太郎(いねたろう・小俣) → 景德(かげのり・小俣おまた、幕臣/歌人) T 1 5 8 7

I1116 **稲坊**(いねぼう・神田かんだ、本名;福田屋茂七)??-? 江戸深川の戯作者・狂歌、爺武斎門、1787「津宇那門成」著

B1181 **稲丸**(いねまる/いなまる・阪上さかがみ)1654-173683歳 摂津池田の酒造業、

俳人;1696松堅(貞門)より俳諧伝授、1696(元禄9)「呉服絹」編(;)井筒屋庄兵衛版)、

[秋津洲あきつしまのかためよ月と呉服絹くれはぎぬ](呉服絹)、

[稲丸(;)号)の通称]通称;太郎右衛門頼屋/十五郎/弥右衛門、

海棠(かいどう・?-1706)は後号か? → 海棠(かいどう・坂上、俳人) E 1 5 4 3

B1182 **稲丸**(いねまる・井上いとうえ、名;義般、通称;津軽稲丸)1770-180839 陸奥津軽の僧;光詮寺住、

江戸で俳諧;二夜庵貞正門、撰津池田の石明寺住;瓜坊うりぼうと親交、丹波長樂寺で没、
「牡丹花集」編、追善集「石蒜露せきさんろ」

J1188	意然 (いねん;法諱、号;一法庵) 1773-1855 83	尾張愛知郡牛尾荒井村の西来寺住職、歌人
	伊年(いねん・俵屋)	→ 宗達(そうだつ・俵屋たわらや、絵師) C 2 5 4 4
	以年(いねん・)	→ 以年(もちとし・、歌人) J 4 4 0 2
	惟念堂(惟然堂いねんどう)	→ 念々(ねんねん・岡沼、俳人) 3 4 6 7
	為能(いのう・冷泉)	→ 為純(ためずみ・冷泉、歌人) 2 6 6 2
	維能(いのう・王)	→ 治本(じほん・王おう、清人/詩文) Z 2 1 7 8
	井上播磨掾(いのうえはりまのじょう)	→ 播磨掾(はりまのじょう) 3 6 2 8
	伊野右衛門(いのえもん・山崎)	→ 道忠(みちただ・山崎やまさき、国学/歌人) K 4 1 8 9
	猪野右衛門(いのえもん・橋本)	→ 真幸(まさき・橋本はしもと、藩士/国学者) R 4 0 7 4
	猪吉(いのきち・加藤太一)	→ 如禅道人(によぜんどうじん、浄土僧/書画) G 3 3 0 5
	猪之吉(いのきち・箕浦)	→ 元章(もとあき・箕浦みのうら、藩士/日記) C 4 4 0 1
	亥吉(いのきち・山田)	→ 梅村(ばいそん・山田やまだ、儒者/詩人) B 3 6 7 7
	亥之吉(いのきち・島倉)	→ 凌海(りょうかい・司馬しば/島倉、蘭医/語学) G 4 9 8 2
	伊之吉(いのきち・三上)	→ 季寛(すえひろ・三上みかみ/源、幕臣/記録) F 2 3 6 0
	伊之吉(いのきち・羽太)	→ 政方(まさみち・羽太はた/藤原、旗本/歌) M 4 0 1 1
	猪隈閔白(猪熊-いのくまかんぱく)	→ 家実(いえざね・近衛、日記) C 1 1 1 0
	猪隈殿(猪熊-いのくまどの)	→ 家実(いえざね・近衛、日記) C 1 1 1 0
	猪隈一位入道(いのくまのいちいにゅうどう)	→ 兼教(かねのり・近衛、廷臣/歌人) C 1 5 9 7
	猪熊僧正(いのくまのそうじょう)	→ 良聖(りょうしょう;法諱、天台僧正/歌人) I 4 9 1 0
	猪隈中納言(いのくまのちゅうなごん)	→ 雅頼(まさより・源みなもと、廷臣/歌人) I 4 0 7 9
	猪作(いのさく・山田)	→ 盛実(もりざね・山田やまだ、神職/歌人) L 4 4 8 1
	亥四郎(いのしろう・興津)	→ 清覧(きよみ・興津おきつ、幕臣/国学者) T 1 6 8 5
	伊之助(初世いのすけ・式守)	→ 蝸牛(かぎゅう・式守、相撲行司) J 1 5 3 3
	伊之助(いのすけ・杉山)	→ 肥前掾(ひぜんのじょう・江戸、浄瑠璃太夫) C 3 7 5 1
	伊之助(いのすけ・西山)	→ 宗春(そうしゅん・西山、宗因男/連歌作者) B 2 5 9 6
	伊之助(いのすけ・小池)	→ 桃洞(とうどう・小池こいけ、藩士/儒/暦算) G 3 1 7 5
	伊之助(いのすけ・勝田)	→ 竹翁(ちくおう・勝田かつた、幕府御用絵師) C 2 8 6 7
	伊之助(いのすけ・村林)	→ 柳庵(りゅうあん・村林むらばやし、医者/国学) M 4 9 2 9
	伊之助(いのすけ・小田村)	→ 素彦(もとひこ・楫取/松島/小田村、藩士) D 4 4 9 5
	伊之介(いのすけ・渡辺)	→ 武(たけし・渡辺わたなべ、藩士/記録) O 2 6 3 7
	伊之輔(いのすけ・小出)	→ 大助(だいすけ・小出こいで、幕臣) K 2 6 4 3
	井之助(いのすけ・松屋)	→ 安澄(やすずみ・平野ひらの、絵師) B 4 5 7 7
	瀞之助(いのすけ・山本瀞之助)	→ 明清(あききよ・山本、国学/歌) 1 0 6 3
	輝之助(いのすけ・林)	→ 復斎(ふくさい・林はやし、幕臣/儒者) B 3 8 5 4
	為之助(いのすけ・庄司)	→ 唵風(おんふう・庄司しょうじ、俳人) R 1 6 1 4
	為之助(いのすけ・岡田)	→ 栗園(りつえん・岡田おかだ、藩儒) B 4 9 5 7
	為之助(いのすけ・遠藤)	→ 安門(やすかど・遠藤えんどう、藩士/弓/歌) F 4 5 4 7
	惟之允(いのすけ・木宮)	→ 躬行(みゆき・木宮きみや、国学者/歌) I 4 1 8 3
	猪助(いのすけ・水野)	→ 丹解(たんげ・水野みずの、藩士/軍学者) T 2 6 3 1
	猪助(いのすけ・柴田)	→ 善仲(よしなか・柴田しばた、藩士、国学者) N 4 7 3 5
	猪助(いのすけ・柴田)	→ 善伸(よしのぶ・柴田しばた、藩士/測量術) F 4 7 6 8
	猪之助(いのすけ・津田)	→ 政本(まさもと・津田つた、藩家老) H 4 0 9 4
	猪之助(いのすけ・平尾)	→ 元義(もとよし・平賀、平尾/興津/犬丸、地誌/歌人) 4 4 2 4
	猪之助(いのすけ・鋤柄)	→ 助之(すけゆき・鋤柄すきがら、歌人) H 2 3 2 5
	猪之助(いのすけ・高橋)	→ 由一(ゆいち・高橋たかはし、藩士/絵師) 4 6 4 3
	猪之助(いのすけ・御菌生)	→ 一歛(かずよし・御菌生みそのう、藩士/歌人) V 1 5 8 3
	猪之介(猪之助いのすけ・御粥)	→ 安本(やすもと・御粥おかゆ、和算家) D 4 5 2 7

- 猪之介(いのすけ・雀部) → 高信(たかのぶ・雀部ささべ、藩士/国学/歌) X 2 6 4 0
 亥之助(いのすけ・立見/倉田) → 幽谷(ゆうこく・倉田/立見、儒者) B 4 6 6 4
 亥之助(いのすけ・石尾) → 洋方(ひろかた・石尾いしお/荒木、藩士/歌) L 3 7 1 8
 亥之助(いのすけ・島倉) → 凌海(りょうかい・司馬しば/島倉、蘭医/語学) G 4 9 8 2
 亥蔵(いのぞう・梅津) → 忠平(ただひら・梅津うめづ/藤原、国学者) Q 2 6 6 6
 猪太郎(いのたろう) → 孝斎(こうさい・奈良、詩人/日記) I 1 9 9 7
 猪太郎(いのたろう・高崎) → 五六(ごろく・高崎たかさき、藩士/政治家) Q 1 9 9 6
- 1175 井戸王(いのへのおおきみ/いどのおおきみ)?-? 万葉一期の歌人・1首(19)、男女不詳、
 万葉19の歌は額田王の近江下向歌(三輪山の長・反歌)に追和した歌、
 「井戸主いのへのあるじ」と読む説:戸主は女性、女性とすると額田王付の女官か?、
 [綜麻形へそがたの林の前さきのさ野榛のりの衣きぬに付くなす目に付く我が背](万葉;一19、
 綜麻は績うんだ麻を円く巻いた物/綜麻形は近江の地名?or三輪山の別称?、
 我が背は遷都を指揮する天智天皇を指すか?)
- 井面館(いのもかん) → 守訓(もりり・井面いのも/荒木田、神職/国学/歌) G 4 4 2 4
 猪之弥(いのや・金沢) → 重良(しげよし・金沢かなざわ、村役/国学/歌) O 2 1 0 6
- B1183 以菴(いは:名・和田わだ、号;観阿居士、正信男) 1612-? 1693存 江戸の歌人;中院通村・岩倉具起門、
 1658頃仏門;芝増上寺の貴屋・遵養門、歌集「群玉集」/「観阿居士独吟集」「観阿居士文」著
 以波(いは・北村) → 以波(いわ・北村きたむら、孝甫女/歌人) K 1 1 9 6
 依梅(いばい・土方) → 義苗(よしなね・土方ひじかた/木下、藩主/財政再建) O 4 7 7 3
- I1117 意伯(いはく:通称・石井い、名;彰信、号;臥陰軒/回陽子) 1674-1733 60 仙台藩主伊達吉村侍医、
 1715「医学千文」、16「医学千文考証」著
- D1195 夷柏(いはく・三好みよし、名;桑麻一、別号;八朔坊) 1766-1814 49 阿波富岡の俳人;
 大阪の五竹庵木仙[駝岳]門、1809「とりたすき」編、「筑紫琴」「筑紫琴後集」著
 夷柏(いはく・絹原/竹下) → 駝岳(たがく・竹下/絹原、俳人) C 2 6 7 0
 意伯(いはく・津軽) → 健寿(たけとし・津軽つがる、幕医) O 2 6 5 2
 為璞(いはく・五条) → 為俊(ためとし・五条/菅原、廷臣/漢学) S 2 6 5 7
 懿伯(いはく・久永) → 松陵(しょうりょう・久永ひさなが、藩士/儒者) B 2 2 9 8
 衣帛堂(いはくどう) → 正明(まさあき・桑本くわもと、藩士/和算家) B 4 0 1 1
 維蕃親王(いばしんのう/いばのみこ) → 敦慶親王(あつよしんのう、歌人) B 1 0 4 7
- E1155 伊八(初世いはち・北沢きたざわ/須原屋すはらや) 1733-1804 72 須原屋系江戸池之端書肆;代々伊八を襲名、
 蘭学書刊行、1783菅江・赤良編「万載狂歌集」刊;異常な成功収め書肆須原屋が続編を望む、
 1785(天明5)赤良編「徳和歌後万載集」(;伊八の依頼で四方赤良が編纂)刊、
 [万ざいは我が家の大夫殿はらつつみうつとく和哥の集](後万載集)
- E1156 伊八(2世いはち・北沢きたざわ/須原屋) 1773-1834 62 須原屋系江戸書肆、初世の店焼失/浅草茅町移転、
 蘭書刊行、1809「商売往来刊誤」著、「青藜閣蔵板目録」編、
 [須原屋の別屋号] 青藜閣せいれいかく/慶元堂/文淵堂
 伊八(いはち・伊勢屋) → 国丸(くにまる・歌川うたがわ、絵師) 1 7 9 3
 伊八(猪八いはち・中村) → 習斎(しゅうさい・中村なかむら、儒者/詩歌) H 2 1 4 1
 伊八(いはち・谷口) → 重里(しげさと・谷口たにくち、歌人) Z 2 1 4 1
 伊八(いはち・林) → 言智(こととも・林はやし、商家/歌人) R 1 9 1 6
 意八(いはち・千葉/近松) → 千葉軒(せんようけん・近松、浄瑠璃・歌舞伎作者) G 2 4 7 3
 猪八(伊八いはち・嵐/伊沢) → 文七(ぶんしち・中山、歌舞伎役者) F 3 8 6 3
- I1118 伊八郎(いはちろう・戸倉とくら・のち坪内つばうち)?-? 幕末期長門の洋学者:高島秋帆門、
 砲・兵・築城の研究、1862招聘され加賀藩校壮猶館洋学教師、維新後;藩学校鉤深館教授、
 ;測量・器械運用を教授、関口開の師、「航海必読」校/「航海啓微」校、
 [伊八郎(;通称)の別通称] 豊之進/祐之進/祐
 伊八郎(いはちろう・幸若) → 直包(ちよくほう・幸若こうわか、舞曲大夫) K 2 8 3 3
 伊庭の小天狗(いばのこてんぐ) → 八郎(はちろう・伊庭いば、幕臣/剣術) F 3 6 0 2
 いばのみこ(醍醐御時菊合入) → 敦慶親王(あつよしんのう、初名;維蕃いば) B 1 0 4 7
 いはの舎(いわのや) → 常久(つねひさ・殿村/大神、国学歌人) D 2 9 3 9

- E1114 **以范**(以範いはん・松田まつだ) ? - ? 歌人; 烏丸資慶門、
1700茂睡[鳥の迹]・03了寿「新歌さざれ石」入、
[来る秋を夜半のね覚のわが袖に結びとめたる露ぞしらす]([鳥の迹]秋283)
惟範(いはん・平) → 惟範(これり・平、廷臣/詩人) G 1 9 0 1
維範(いはん; 法諱) → 維範(ゆいはん; 法諱・南院阿闍梨、真言僧) 4 6 4 4
為範(いはん・五条) → 為範(ためり・五条/菅原、廷臣/漢学) S 2 6 6 5
為範(いはん・中川) → 為範(ためり・中川、藩士/茶人) S 2 6 6 6
- I1119 **為璠**(いばん; 法諱・器之き; 道号) 1404-6865歳 大隅の曹洞宗僧; 惟肖・竹居門、長門竜文寺2世、
「器之和尚天遊集」「器之為璠和禪師語録外集」「器之為璠和禪師行卷」著
貽範先生(いばんせんせい; 諡号) → 贅庵(しゅうあん・中井なかい、心学者) 2 1 4 0
惟斐(いひ・大西) → 惟斐(これあや・大西おおにし、歌人/茶道) Q 1 9 5 4
為弥(いび・中村) → 時万(ときかず・中村なかむら、幕臣/和算) J 3 1 0 0
為美(いび・小川) → 為美(ためよし・小川おがわ、煎茶人/歌人) V 2 6 9 7
意美(いび・平尾) → 意美(のりよし・平尾ひらお、藩士/和学) J 3 5 8 4
惟美(いび・奥村) → 惟美(これよし・奥村/本姓; 源、国学者) P 1 9 0 0
揖斐雄(いびお) → 元義(もとよし・平賀、平尾/興津/犬丸、地誌/歌人) 4 4 2 4
伊姫(いひめ・植村/伊達) → 貞(さだ・於貞・植村うゑむら、藩主室/歌) N 2 0 9 6
- E1138 **伊浜**(いひん・矢島やじま、名; 焯辰たいしん、字; 宗焯そうたい、株申男) 1796-184954 小倉藩士/儒; 石川彦岳門、
1822家督嗣、1840藩校思永館学頭、学制整備、史学/典故、
「古文孝経註」著、「伊浜先生遺稿」、
[伊浜の通称/別号]通称; 四郎右衛門、別号; 伊川/大学堂
伊浜(いひん・江沢) → 講修(ときなが・江沢、国学/詩歌) J 3 1 6 0
渭浜庵(初世いひんあん) → 素丸(2世そまる・溝口、絢堂、俳人) E 2 5 3 6
渭浜庵(2世いひんあん) → 蛙水(2世あすい・柴田、俳人) E 1 0 4 5
渭浜庵(3世いひんあん) → 素雄(そゆう・応日庵、俳人) K 2 5 5 0
夷浜釣叟(いひんちようそう) → 忠彦(ただひこ・飯田/里見、史家) F 2 6 6 7
惟夫(いふ・西田) → 惟明(これあき・西田、藩士/医者) O 1 9 1 0
惟富(いふ/これとみ・尾形) → 光琳(こうりん・尾形おがた、絵師) C 1 9 0 8
- I1120 **違風**(いふう) ? - ? 越中富山の俳人; 1691北枝「卯辰集」2句入;
[雨をだに雫にしなす茂り哉](卯辰集; 187/夏の深い茂り)
以風(いふう) → 敬順(けいじゆん; 法諱、真宗僧/茶/紀行) D 1 8 4 9
伊吹堂(いぶきどう) → 昌之(まさゆき・年梅ねんばい、接骨医/国学) R 4 0 4 6
伊吹乃屋(いぶきのや・気吹舎) → 篤胤(あつたね・平田、国学) 1 0 2 2
伊吹舎(いぶきのや) → 鍊胤(鉄胤かねたね・平田、篤胤門) C 1 5 7 6
伊吹舎(いぶきのや・角田) → 忠行(ただゆき・角田つのだ、神職/国学) G 2 6 0 1
伊福(いふく) → 献臣(たておみ・宮川みやがわ、藩士/歌人) R 2 6 7 1
夷福庵(いふくあん) → 西馬(さいば・楽亭らくてい、書肆/戯作者) H 2 0 0 3
夷福亭宮守(いふくていみやもり) → 西馬(さいば・楽亭らくてい、書肆/戯作者) H 2 0 0 3
夷福山人(いふくさんじん) → 西馬(さいば・楽亭らくてい、書肆/戯作者) H 2 0 0 3
為仏子(いぶつし・宇喜多) → 可為(よしため・宇喜多/藤原・豊臣、絵師) L 4 7 7 1
- D1113 **為文**(いぶん) ? - ? 京の俳人、1687吉水「京日記」・「新三百韻」入、
1689言水「俳諧前後園」90順水「俳諧破暁集」「遠眼鏡」入、1690言水「新撰都曲」4句入、
[湾せせらぎに北斗うごかす田螺かな](都曲; 277/水に映る北斗星の影・揺らすのは田螺か)
以文(いぶん・山田/藤とう) → 以文(もちぶみ・山田、神職/故実) B 4 4 6 3
以文(いぶん・池原) → 雲山(うんざん・池原いけはら、医者/詩人) D 1 2 7 4
以文(いぶん・竹永) → 百合坊(ひやくごうぼう・竹永/武長、俳人) E 3 7 4 7
以文(いぶん・小野) → 蘭山(らんざん・小野おの、医者/本草家) C 4 8 3 0
以文(いぶん・小橋) → 香水(こうすい・小橋こばし、藩士/儒/尊攘) J 1 9 9 7
以文(いぶん・広瀬) → 克斎(くさい・広瀬ひろせ、藩士/儒者) M 1 9 1 7

- 以文(いぶん・村山) → 維益(こゑます・村山むらやま/村上、医者) O 1 9 8 5
 維文(いぶん・緒方) → 黙堂(もくどう・緒方おがた、儒者) B 4 4 0 2
 維文(いぶん・高山) → 維文(こゑふみ・高山たかやま、医者/国学) P 1 9 9 0
 偉文(いぶん・飯室) → 天目(てんもく・飯室いむろ、儒者) E 3 0 3 9
 懿文(いぶん・工藤) → 艶文(えんぶん・工藤どう、儒者) F 1 3 3 4
 以文堂(いぶんどう) → 梅秀樹(うめひでき;通称、狂歌) D 1 2 4 1
- I1121 **伊平**(いへい・秋津/穰津あきつ)?- ? 江中期宝暦1751-64頃上方の歌舞伎作者、
 1758「四天王力くらべ」「傾城住吉巻」/59「銀閣寺新始」「奈良都大仏供養」著
- I1122 **為平**(いへい・石原いしはら、小右衛門通平男) 1717-88 72歳 代々筑後久留米藩米穀販売の御用商家、
 さらに藩米廻漕販売を委託;1765永世蔵米2百俵を下賜され御目見浪人格となる、
 詩歌を嗜む/俳諧;垂井秋虎門/さらに浦川富天の来訪時に入門、
 1777「紀行六千里」53「浪華曙」、「六玉河日記」「石原家記」著、
 [為平(;通称)の幼名/別通称/号]幼名;喜太郎、別通称;小兵衛、号;指帆/夏霜浜
- I1123 **伊平**(維平いへい・岡野おかの、号;蓬室/浅草庵5世) 1825-86 62 江戸の商家/国学;井上文雄ふみお門、
 狂歌作者;浅草庵継承、1873「開花新聞」歌国文編集、「冠辞集覧」編
- 伊平(いへい・鷹司) → 伊平(これひら・鷹司、顕恵、廷臣/歌人) E 1 9 4 7
 伊平(いへい・南) → 恵山(けいざん・南みなみ、儒者) F 1 8 7 0
 伊平(いへい・北村) → 篤所(とくしょ・北村きたむら、儒者) K 3 1 9 3
 伊平(いへい・岡/高橋) → 易治(やすはる・高橋/岡、藩士/手記) C 4 5 6 9
 伊平(いへい・高島) → 米護(よねもり・高島たかぼたけ、商家/国学) N 4 7 7 3
 惟平(いへい・岡田) → 惟平(これひら・岡田おかだ、国学/歌人) Q 1 9 5 8
 倚平(いへい・橋) → 倚平(よりひら・橋たちばな、廷臣/詩歌人) J 4 7 5 9
 為平(いへい・瀬戸/麻田) → 久住(ひさずみ・麻田/瀬戸、藩士/歌人) B 3 7 1 9
 依平(いへい・石川) → 依平(よりひら・石川いしかわ、国学/歌人) 4 7 3 5
 伊兵次(いへいじ・高市) → 志友(しゆう・高市たけち、書肆/地誌/俳人) G 2 1 7 1
 伊平次(いへいじ・近江屋) → 柳賀(りゅうが・近江屋、札差/十八大通) K 4 9 8 9
 伊平次(いへいじ・田中) → 年胤(としたね・田中たなか、商家/国学者) V 3 1 4 9
 伊平太(いへいた・西原) → 正也(まさなり・西原にしはら、国学/歌人) R 4 0 3 8
 猪平太(いへいた・朝倉) → 景員(かげかず・朝倉あさくら、藩士/国学) T 1 5 4 0
- E1133 **伊兵衛**(3世いへえ・伊藤いとう、別通称;植木屋三之丞)?-? 1695存 元禄1688-1704頃の植木屋、
 江戸染井の植木屋の3世、自作の絵入園芸植物解説の図説書を著作;
 1692「錦繡枕」「躑躅阜月名寄集」/95「花壇地錦抄」6巻著
- B1185 **伊兵衛**(4世いへえ・伊藤いとう、名;政武、伊兵衛3世男) 1676-1757 82 江戸染井の植木屋4世、珍木栽培、
 1699「草花絵前集」1719「広盆地錦抄」33「地錦抄」「長生花林抄」56「増補地錦抄」8巻、
 「新歌仙紅葉集」「もみぢつくし」「牡丹凡例」著、
- I1124 **伊兵衛**(いへえ・松代まつしろ、坂井森右衛門2男) 1808-86 79 蝦夷箱館の生/金沢屋伊兵衛の養嗣子、
 蝦夷箱館の町代/名主/頭取/町年寄/上納金取扱方を歴任、安政1854-60頃私塾開設;
 心学者西川晩翠を招聘;蝦夷地教育に貢献、幕府の開拓趣旨を奉じ大野村を開墾、
 維新後箱館の自治・開拓の功労者として[松代]の苗字を許可され表彰される、
 1862「医学所兼病院廉分帳」著
- 伊兵衛(猪兵衛いへえ・桑山) → 元稠(もとしげ・桑山、幕臣/日記) C 4 4 6 1
 伊兵衛(いへえ・帯屋、伊兵次) → 志友(しゆう・高市、書肆/俳人) G 2 1 7 1
 伊兵衛(いへえ・伊藤[1671-1733]) → 食行身禄(じきぎょうみろく、商家/神道行者) M 2 1 4 1
 伊兵衛(いへえ・小谷) → 廉泉(れんせん・小谷こだに、藩儒) B 5 1 2 4
 伊兵衛(いへえ・松屋) → 庭雨(ていう、潤樹亭、狂歌/紀行文) 3 0 3 2
 伊兵衛(いへえ・中江) → 晩籟(ばんらい・中江なかえ、商人/俳人) I 3 6 5 8
 伊兵衛(いへえ・宮下) → 一止(いっし・宮下、俳人) H 1 1 2 5
 伊兵衛(いへえ・宮野) → 尹賢(いんけん・宮野みやの、儒者) I 1 1 5 0
 伊兵衛(いへえ・伊藤) → 参行(さんぎょう・伊藤いとう、富士講行者) M 2 0 0 5
 伊兵衛(いへえ・石橋庵) → 眞酔(ますい・石橋庵いしばしあん、国学/戯作) I 4 0 9 2

伊兵衛(いへえ・山本)	→	格安(ただやす・山本、国学/和算家)	R 2 6 0 6
伊兵衛(いへえ・早川)	→	正紀(まさとし・早川/和田、幕臣/教育)	E 4 0 4 7
伊兵衛(いへえ・高林)	→	方朗(みちあきら・高林たかばやし、神職/歌人)	B 4 1 1 1
伊兵衛(いへえ・沢田)	→	員矩(かずのり・沢田さわだ、地誌家)	M 1 5 3 8
伊兵衛(いへえ・沢屋)	→	康工(こうこう・尾崎おさき、沢屋/俳人)	B 1 9 0 5
伊兵衛(いへえ・梅沢)	→	梅壽(ばいじゅ・梅沢うめざわ、書肆/俳人)	B 3 6 4 4
伊兵衛(いへえ・三田)	→	葆光(かねみつ・三田さんだ、幕臣/歌人)	O 1 5 9 8
伊兵衛(いへえ・黒沢)	→	道富(みちとみ・黒沢くろさわ、藩士/国学)	J 4 1 0 3
伊兵衛(いへえ・牧田)	→	橋夢(きょうむ・牧田、俳人)	O 1 6 5 8
伊兵衛(いへえ・富沢/深沢)	→	竹外(ちくがい・深沢、幕臣/俳人)	C 2 8 7 6
伊兵衛(いへえ・桜川/吉原)	→	玉珂(ぎよくか・吉原よしわら、俳人)	O 1 6 8 2
伊兵衛(いへえ・村井)	→	由清(よしきよ・村井むらい、心学者)	D 4 7 1 9
伊兵衛(いへえ・阪元)	→	生字(せいう・阪元さかもと/種子田、儒者)	H 2 4 4 1
伊兵衛(いへえ・石野)	→	唯房(ただふさ・石野いしの、幕臣/国学)	V 2 6 6 0
伊兵衛(いへえ・上垣)	→	守国(もりくに・上垣かみがき、庄屋/養蚕業)	F 4 4 3 8
伊兵衛(いへえ・昆布屋)	→	求林(きゅうりん・村井、商家/和算家)	M 1 6 9 9
伊兵衛(いへえ・林)	→	亀瑞(きずい・林はやし、国学者)	L 1 6 0 0
伊兵衛(いへえ・広瀬)	→	巖男(いざお/よしお・広瀬、商家/国学者)	F 1 1 7 1
伊兵衛(いへえ・安斎)	→	希言(まれこと・安斎あんざい、町年寄/歌)	N 4 0 2 6
伊兵衛(いへえ・安斎)	→	保美(やすよし・安斎、希言男/名主/歌)	F 4 5 2 4
伊兵衛(いへえ・八百屋)	→	随雲軒(ずいうんけん、俳人)	E 2 3 0 9
伊兵衛(いへえ・高橋)	→	易治(やすはる・高橋/岡、藩士/手記)	C 4 5 6 9
伊兵衛(いへえ・高島)	→	宣陽(のぶはる・高島たかしま/沢、代官/歌)	I 3 5 9 4
伊兵衛(いへえ・高林)	→	豊鷹(とよたか・高林たかばやし、国学/歌人)	V 3 1 6 6
伊兵衛(いへえ・鍋屋)	→	米積(よねかず・高島たかばたけ、商家/国学)	N 4 7 7 3
伊兵衛(いへえ・佐々)	→	長興(ながおき・佐々ささ、幕臣/国学)	M 3 2 1 7
伊兵衛(いへえ・白井)	→	盛栄(もりひで・白井しらい、酒造家/歌人)	K 4 4 1 0
猪兵衛(いへえ・桑田)	→	抱臍(ほうさい・含笑舎がんしょうしゃ、狂歌)	3 9 8 2
猪兵衛(いへえ・桑山)	→	貞寄(さだより・桑山、幕臣/記録)	K 2 0 3 8
以輔(いほ・もちすけ?・榎内)	→	文友(ふみとも・榎内かしうち、医者)	D 3 8 9 4
惟保(いほ・十時)	→	惟保(これやす・十時とき/大神、藩士)	G 1 9 1 1
夷甫(いほ・森)	→	縦堂(しょうどう・森もり、儒者)	R 2 2 6 3

I1125 維宝(いほう;法諱・文啓ぶんけい;字、俗姓;群or松浦)1687-174761 阿波松村の真言僧;宥雄門、高野山に入;蓮金院哲真門/事相教相を修学、蓮金院住持、「成就院別行鈔受記」、「文鏡秘府論箋」著

D1196 維芳(惟芳いほう・本城/本荘ほんじょう;字;子誠/士誠)?-? 江中期京油小路夷川上ル町の漢学者、白話に通ず、1767「一日百詠」著/97馮夢竜「通俗平妖伝」訳、[維芳(惟芳;名)の通称/号]通称;宗兵衛/市兵衛、号;衡嶽

以葆(いほう・小倉)	→	実櫛(さねあき・小倉おぐら/林、幕臣/歌)	K 2 0 6 9
彝鳳(いほう)	→	康長(やすなが・石井、御伽草子)	C 4 5 3 8
惟宝(いほう;法諱)	→	蓮体(れんたい;字、真言僧/説話集)	B 5 1 2 6
惟邦(いほう・山形/貴田)	→	惟邦(これくに・貴田さだ、藩士/兵法)	O 1 9 2 8
為邦(いほう)	すべて	→	為邦(ためくに)
為方(いほう・中御門)	→	為方(ためかた・中御門なかがみかど、廷臣/歌)	G 2 6 7 2
為宝(いほう・三浦)	→	為宝(ためとみ・三浦みづら/内田/菊地、国学)	W 2 6 7 2
為宝(いほう→ためとみ・関根)	→	趙斎(ちようさい・関根せきね、書家/歌人)	I 2 8 3 9
為邦(いほう・小林)	→	為邦(ためくに・小林こばやし、藩医/歌人)	X 2 6 0 2
為豊(いほう/ためとよ・清水)	→	謙山(けんざん・清水しみず、医者/心学)	J 1 8 2 2
為豊(いほう)	すべて	→	為豊(ためとよ)

- 為房(いぼう) すべて → 為房(ためふさ)
- 惟房(いぼう・万里小路) → 藤房(ふじふさ・万里小路、廷臣/詩) C 3 8 6 4
- 惟房(いぼう・万里小路) → 惟房(これふさ・万里小路までのこうじ、廷臣/日記) E 1 9 4 9
- 惟房(いぼう・今村/笠間) → 奥庵(おうあん・笠間かさま、藩士/儒者) C 1 4 2 9
- 維楸(いぼう・武田) → 豊城(とよき・武田たけだ、藩士/歌人) T 3 1 5 2
- 伊房(いぼう・藤原) → 伊房(これふさ・藤原・世尊寺、書家/歌) E 1 9 4 8
- 伊房(いぼう・井手) → 伊房(これふさ・井手いで、藩士/歌人) Q 1 9 2 7
- 伊望(いぼう・平) → 伊望(これもち・平たいら、廷臣/歌人) O 1 9 9 1
- 為豊園(いほうえん) → 耕雨(こうう・大主おおぬし、神職/俳人) H 1 9 4 0
- 異芳軒(いほうけん) → 玉鳳(ぎよほう・永井/奥田、郷土史/俳) P 1 6 3 6
- 渭北(いほく・松木) → 淡々(たんたん・松木/曲淵、俳人) 2 6 9 4
- 渭北(いほく・右江) → 麦天(ばくてん、俳人) 3 6 1 1
- J1106 **イ木**(いぼく) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入、
[拝すると拝を受くると大違ひ](二葉之松;292/前句;申してゆけば神も身の中)
- 惟木(いぼく・綾部) → 綱斎(けいさい・綾部あやべ、儒者/詩歌) E 1 8 6 6
- K1153 **以保子**(いほこ・西野にしの、旧姓;吉松) 1799-1841⁴³ 土佐高知の国学・歌人;楠瀬大枝門、
[以保子(;名)の号]麟寿院
- 衣舗先生(いほせんせい) → 謙斎(けんさい・加藤かとう、医者/詩文) B 1 8 8 2
- B1186 **伊保麻呂**(いほまろ・姓不詳)?- ? 万葉三・四期歌人;卷九1735、
[我が豊三重の川原の磯の裏にかくしもがも(このままでいたい)と鳴くかはづかも](万・九1735)
- B1188 **今あこ**(いまあこ・亭子院今あこ)?-? 平安前期宇多上皇亭子院出仕の童女/歌人、後撰集1140、
[今]は新しい方の/若い方のの意、[あこ]はかわいい児の意、
[昔より鞍馬の山といひけるはわがごと人も夜や越えけん](後撰十六雑;1140)
- B1187 **今雄**(いまお・坂上さかのうえ) ? - ? 平安前期詩人、815渤海使入朝時領官として応接、
判官高英善と録事积仁貞に詩を贈;文華秀麗35
- 今大岡(いまおおおか) → 五竜(ごりゅう・玉乃たまの/枝えだ/桂かつら、儒者) N 1 9 9 6
- 今かくれが(いまかくれが) → 秋香(あきか・中村なかむら、幕臣/歌人) I 1 0 1 3
- 今迦葉(いまかよう) → 源信(げんしん;法諱、天台僧/歌人) 1 8 2 2
- 1129 **今城**(いまき・大原真人/今城王、父;穂積王?/母大伴女郎いらつめ[坂上郎女?])?-? 廷臣;748兵部少丞、
755上総大掾、治部少輔/左少弁/上野守、764従五上、仲麻呂に連座?:無位/771復帰/駿河守、
新羅使を詰問、万葉四期歌人9首(八1604・廿4442-4507のうち8首)、
家持と親交;万葉集の資料提供、高田女王からの恋歌あり(万葉;四537-542)、
[秋されば春日の山の黄葉見る奈良の都の荒るらく惜しも](万;八秋雑1604)
参考 → 高田女王(たかたのおおきみ、高安女王/歌) 2 6 1 1
- E1139 **今木**(いまき、藤原ふじわら伊衡これひら[876-938]女、少将御息所)?-? 平中期醍醐天皇帝の更衣/歌、
後撰集2首(761・1011)、
[世とともになげき樵こり積む身にしあればなぞ山守のあるかひもなき](後撰;761)、
(お守りの護符を置き忘れて帰った男が心変りしたので送り返す歌;
投木[火に投込む木]と歎き・山の主[山守]とお守りを掛る)
- 新漢斉文(いまきのあやのさも) → 斉文(さも・新漢、伎楽) F 2 0 6 8
- 今城王(いまきのおおきみ) → 今城(いまき・大原真人、万葉歌人) 1 1 2 9
- 今西行(いまさいぎょう) → 似雲(じうん;法諱、真宗僧/歌人) 2 1 0 1
- 今式部(いましきぶ) → 亀子(かめこ・安藤あんどう/山田、歌人) D 1 5 2 7
- D1114 **今滋**(いましげ・井手いで/本姓;橘、橘曙覧あけみ長男) 1845-1911⁶⁷歳 越前福井藩士、
国学者;平田鉄胤門、南宮官司、歌人;1878「志濃夫廼舎歌集」(曙覧集)編
[今滋(;名)の通称/号]通称;佳太郎、号;稼軒/楓軒
- 今积迦(いまじやか) → 円空(えんくう;法諱、修験僧/仏師) E 1 3 5 9
- 今积迦(いまじやか) → 等空(とうくう;法諱・本瑞;字、真言僧) C 3 1 9 2
- 今四郎(いましろう・後藤) → 眞守(まもり・後藤/枚岡、国学者/神職) K 4 0 1 3
- J1115 **います**(;組連) ? - ? 江戸浅草の川柳の組連、

取次;1775・80「川柳評万句合」入;

取次例;[けだもの屋大和ことばに書いて置き](75万句合/ならび社こそすれ々々)、

(けだもの屋は獣の肉屋、[ももんじ屋]とも;麴町の山奥屋・平河町甲州屋が有名)、

(看板は太行灯の正面が牡丹で左右に紅葉の赤絵/そして「紅葉踏み分け鳴く鹿の」の歌)

今介(いますけ・鈴木/鈴広)→ 重栄(しげひで・鈴木、飛脚業/和算家) S 2 1 4 1

今大師(いまだいし) → 等空(とうくう;法諱・本瑞;字、真言僧) C 3 1 9 2

D1197 **今田部屋住**(いまだへやずみ、田村屋半次郎)?-? 江戸本所の狂歌作者、1785蔦唐丸催「百鬼夜狂」参加、
「俳優風わざおざり」/1786宿屋飯盛「吾妻曲狂歌文庫」/87「才蔵集」入;

[よもすがら壁もひとえのから衣隣の砧つちもうちぬく](才蔵集)

B1189 **今継**(いまつぐ・坂上/阪上さかのうえ)?-? 平安前期の漢学者/詩人、824紀伝博士、
「日本後記」編纂参加、詩;凌雲/文華秀麗入

今津里人(いまつりびと) → 雀庵(じゃくあん・加藤/田中/加田、俳/随筆) G 2 1 0 5

今出川(いまでがわ) → 公経(きんつね・西園寺、太政大臣/歌) E 1 6 3 5

今出川(いまでがわ) → 公相(きんすけ・西園寺、太政大臣/歌) E 1 6 1 8

今出河院(いまでがわいん) → 嬉子(きし・西園寺、龜山天皇后) K 1 6 7 8

今出河院近衛(いまでがわいんのこのえ)→ 近衛(このえ・今出河院、女房歌人) D 1 9 4 9

今出河院権中納言(いまでがわいんのごんちゅうなごん)→ 権中納言(ごんちゅうなごん・今出河院、歌人) E 1 9 7 6

今出河前右大臣(いまでがわさきのうだいじん:風/新千/新拾/新続古)→ 公顕(きんあき・今出川) D 1 6 7 5

今出川殿(いまでがわどの) → 義規(よしみ・足利/源、武将) H 4 7 2 6

今出河入道前右大臣(いまでがわにゆうどうさきのうだいじん:風/新拾)→ 兼季(かねすえ・今出川) C 1 5 7 7

今出川入道前左大臣(いまでがわにゆうどうさきのさだいじん)→ 公直(きんなお・今出川、廷臣/歌) E 1 6 4 5

今出川前内大臣(いまでがわのさきのないだいじん)→ 実衡(さねひら・西園寺/藤原、内大臣/歌) D 2 0 5 2

D1198 **今出赤蒂**(いまでのあかべた、今出赤下手)?-? 狂歌作者;芝連、徳和歌後万載集1首;213、
[まれ人をこよひはどうぞほし合の空だのめなる天の川たけ](後万載;213)、
(青楼七夕/川竹は流され易く遊女の身)

今也(いまなり・待名斎) → 待名斎今也(まちなさいいまなり・黄表紙作者) J 4 0 6 3

今業平(いまなりひら) → 孫七郎(まごしちろう・杉/植木、藩士/日記) 4 0 7 2

今津里人(いまのつりびと) → 雀庵(じゃくあん・加藤/田中/加田、俳/随筆) G 2 1 0 5

I1127 **いまはた**(姓名不詳) ? - ? 平安前期三条左大臣頼忠(924-989)家女房/
歌;977三条左大臣殿前裁歌合せんざいうたあわせ参加

[水底にうつれる月をかつ見つつそらに心をやるにやあるらむ](頼忠前裁合91)

今福来留(いまふきたる) → 来留(きたる・今福、今福屋勇助、書肆/狂歌) F 1 6 7 7

今文弥(いまぶんや・岡本) → 文彌(2世ぶんや・岡本、浄瑠璃太夫) G 3 8 5 3

今奉部与曾布(いままつりべのよそぶ)→ 与曾布(よそぶ・今奉部、防人歌人) I 4 7 1 4

E1111 **今道**(いまみち・布留ふる) ? - 898 平安前期廷臣;大和石上神宮社家の出身;

861内蔵少属さかん、882従五下/898三河介、歌人;石上寺の僧正遍昭に引立てられる、
古今227・870・946、

[をみなへし憂しと見つゝぞゆきすぐる男山をとこやまにし立てりと思へば](古今227、
奈良の僧正遍昭の許へ行く時男山の女郎花を見て詠む/憂しは嫌で苦々しい意)

I1128 **今道**(いまみち・礪波となみ/辻つじ)?-1819 江中期越中高岡の漆工;礪波屋/高岡漆器の祖、
1764-81頃上京/国学;建部綾足・加藤宇万伎門、音韻;富森一斎門/悉曇学研究、
漢詩も嗜む、上田秋成と交遊;宣長との論争に参加、1777「喉音用字考」/「今道集」著、
歌;本居大平「八十浦の玉」上巻末、

[秋の野の露分け衣袖ぬれてたが折り来つる女郎花ぞも](八十浦;297/秋成邸にて)、

[今道(;号)の通称/別号]通称;礪波屋伊右衛門、別号;丹楓たんぼう/荒虫あらむし

D1199 **今村寄楽斎**(いまむらきらくさい)?- ? 狂歌作者、1785南畝「徳和歌後万載集」1首入;631、
[名にしおはゞかしてくれかし小金原末になすのゝ果てはみえねど]

(下総のくに小金原を過ぐるとて;後万載632)

今守屋(いまもりや) → 寛(ひろし・中川ながわ/光石、神職/歌人) L 3 7 8 5

今様翁(いまようおう) → 千別(ちびき・白石/小野、幕臣/歌人) K 2 8 5 3

- 為満 (いまん・冷泉) → 為満 (ためみつ・冷泉、廷臣/歌人) 2 6 7 8
 I1129 忌寸 (いみき・志賀しが) ? - ? 江中期神道家; 白川資門門、
 1769「大黒神笑姿神弁惑抄」著
 忌寸 (いみき・秦) → 為起 (ためおき・大山/秦/松本、神職/国学) S 2 6 3 6
 井水 (いみず→せいすい) → 井水 (せいすい、俳人) E 2 4 6 6
 I1130 維明 (いみょう; 法諱、道号; 羽山うざん) ?-?1804-18頃没 京臨濟宗相国寺光源院僧/画人; 梅・鶏の絵、
 1783維駒これこま「五車反古」几董の句の詞書入
 衣妙舎 (いみょうしゃ) → 真垣 (まかき・岡庭おかにわ、国学者) 4 0 4 5
 惟民 (いみん/これたみ・尾形) → 洞簫 (どうしょう・尾形おがた、儒者) F 3 1 4 8
 維民 (いみん・新渡戸) → 維民 (これたみ・新渡戸にとべ、藩士/兵学) O 1 9 4 8
 為民 (いみん・高島) → 昌軒 (しょうけん・高島たかしま、藩士/医者) I 2 2 5 2
 B1190 忌部首 (いむべのおびと) ? - ? 万葉歌・卷十六3832戯笑歌、子首・黒麿説がある、
 → 子首 (こおびと・忌部首、万2/3期) F 1 9 4 7
 → 黒麻呂 (くろまる・忌部首、万4期) 1 7 1 4
 飯室入道 (いむろにゅうどう) → 義懐 (よしちか/よしかね・藤原、中納言/歌) E 4 7 4 5
 I1131 渭明 (いめい) ? - ? 狂歌; 1782橘洲「若葉集」上巻32首入
 以明 (いめい・増田) → 以明 (もちあき・増田ますだ、藩士/詩歌) L 4 4 3 4
 伊明 (いめい・井手) → 伊明 (これあき・井手いで/山内、藩士/歌人) Q 1 9 2 8
 意明 (いめい) → 素明 (そめい/そみょう、武将/歌人) E 2 5 3 8
 為明 (いめい) すべて → 為明 (ためあき/ためあきら)
 為名 (いめい) すべて → 為名 (ためな)
 惟命 (いめい→これなが・中江) → 藤樹 (とうじゅ・中江、儒; 陽明学) 3 1 1 6
 惟明 (いめい→これあき・山本) → 基庸 (もとつね・山本やまもと、藩士/書家) D 4 4 1 7
 惟明 (いめい→これあき・三井) → 梅巖 (ばいがん・三井みつゐ、書家/絵師) 3 6 9 5
 惟明 (いめい→これあき・辛島) → 古淵 (こえん・辛島からしま、藩士/儒者) L 1 9 7 5
 惟明 (いめい→これあき・藤井) → 暮庵 (ぼあん・藤井ふじい、大庄屋/詩人) 3 9 0 7
 惟明 (いめい・亀井/檜林) → 惟明 (これあき・檜林/亀井、藩士/地誌) O 1 9 0 8
 惟明 (いめい・西田) → 惟明 (これあき・西田、藩士/医者) O 1 9 1 0
 惟明 (いめい・安西) → 惟明 (これあき・安西あんざい、国学/歌人) Q 1 9 2 6
 惟明 (いめい・品水) → 惟明 (これあき・品水しながわ、藩医/歌人) Q 1 9 8 9
 惟明 (いめい・佐伯) → 惟明 (これあき・佐伯さえき、神職/国学) Q 1 9 8 6
 維明 (いめい・中木) → 維明 (これあき・中木、養蚕家/蚕種商) O 1 9 0 9
 維名 (いめい・河合) → 鹿門 (ろくもん・河合かわい、儒者/詩) B 5 2 1 3
 威明 (いめい・横池) → 春斎 (しゅんさい・横池/横地、藩士/兵学) J 2 1 6 9
 蔚明 (いめい/うづめい・丸山) → 蔚明 (もちあき・丸山、藩士/文運興隆) B 4 4 2 7
 葦名大道 (いめいのだいどう) → 主計 (かづえ・佐瀬させ/させ、藩家老/狂歌) M 1 5 0 9
 井面館 (いめんかん) → 守訓 (もりり・井面いのも/荒木田、神職/国学/歌) G 4 4 2 4
 為茂 (いも・藤谷) → 為茂 (ためもち・藤谷ふじがやつ/藤原、廷臣) S 2 6 8 3
 為茂 (いも・八木) → 為茂 (ためしげ・八木やぎ、藩士/和学) 2 7 0 3
 維茂 (いも・平) → 維茂 (これもち・平たいら、武将) O 1 9 9 2
 為猛 (いもう・古川) → 為猛 (ためたけ・古川ふるかわ、神職/日記) H 2 6 4 9
 惟黙 (いもく; 法諱) → 雷洲 (らいしゅう; 道号・惟黙、曹洞僧) 4 8 5 6
 D1115 妹子 (いもこ・小野、唐名蘇因高) ?-612? 推古期官人、607-8遣隋使2度、隋書・日本書紀入
 I1132 芋助 (いもすけ・発田ほった、畑之土真人芋介) ?-? 江中期戯作者、
 1793「紺丹手織縞」「十二神楽稚軽業」
 初世北尾重政の匿名か? → 重政 (初世しげまさ・北尾、絵師) 2 1 1 5
 D1116 芋輔 (いもすけ) ? - ? 江戸雑俳点者、狂詩、1838一声「歌羅衣」入、
 1839安穴[棕隠]「天保佳話」狂詩入
 伊門 (いもん・高橋) → 敏 (さとし・高橋たかはし、村長/教育者) Q 2 0 8 7
 為門 (いもん・渡辺) → 為門 (ためかど・渡辺わたなべ、商家/国学) 2 7 3 7

- 為役(いやく・稲井) → 為役(ためゆき・稲井いなし、医者/歌人) 2 7 6 5
 弥常(いやくね・金子) → 宜胤(よしたね・金子かねこ、国学者) M 4 7 2 5
- I1175 井梁貫成(いやなつらなり) ? - ? 信州更科狂歌;1787「才藏集」入;
 [初茄子価貴ければ 夢の間にくふて空しくなすものを高く売るのは不時な銭取り]
 礼彦(いやくひこ・富田) → 筋斎(せつさい・富田、役人/国学/詩歌) L 2 4 0 3
 弥仁(いやくひと) → 後光厳天皇(ごこうごんてんのう、北朝/歌人) C 1 9 5 3
- I1195 弥益(いやす・宮道みやじ) ? - ? 山城山科郡司、女むすめが藤原高藤妻となり廷臣、
 漏刻頭/主計頭/越後介/伊予権介、醍醐天皇母胤子の祖父、今昔22高藤説話入
- I1133 為有(いゆう/ためあり) ? - ? 山城嵯峨農業/俳人;去来門?、1692「己が光」「雪齋」入、
 1694炭俵/98続猿蓑入/1702轍士「花見車」入、1705玄察編去来追善「誰身の秋」巻頭句入
 [団栗の落ちて飛びけり石仏](続猿蓑:巻下木実)
- 為雄(いゆう・二条) → 為雄(ためお・二条/藤原、廷臣/歌人) S 2 6 3 3
 為雄(いゆう・進藤) → 為雄(ためお・進藤しんどう、坊官/地誌) S 2 6 3 5
 為雄(いゆう・土屋) → 為雄(ためかた・土屋、藩士/歌人) G 2 6 6 8
 惟右(いゆう・森脇) → 軍蔵(ぐんぞう・森脇もりわき、神道家/歌) B 1 7 1 3
 惟雄(いゆう・青柳) → 惟雄(ただお・青柳あおやぎ、藩士) V 2 6 0 6
 維熊(惟熊いゆう/これくま・水山/生駒/土師) → 熊文(くまぶん・生駒/土師はじ、国学) D 1 7 4 3
- B1191 伊予(いよ、藤原秀能女?重名女?信康妻?)?-? 1313存 花園天皇に出仕女房、歌人;玉葉1985、
 [秋の露も月のためとや契りおくとともに光をみがきかはして](玉葉;十四雑1985)
- 伊予(いよ・椎名) → 許人(きよひと・椎名、鑄物師/俳人) D 1 6 2 4
 伊予(いよ・藤井) → 昌幸(まさゆき・藤井ふじい/原、神職) I 4 0 2 8
 伊予(いよ・井伊) → 伊予姫(いよひめ・井伊い、藩主室/歌人) J 1 1 8 3
 伊予(いよ・鈴木) → 梁満(りやうまん・呂やなまる・鈴木、神職/国学) D 4 5 9 2
 伊予(いよ・岩井) → 宅道(たくみち・岩井いわい、神職/皇学) F 4 5 3 5
 伊予(いよ・河野) → 好美(よしみ・河野こうの、神職/国学者) M 4 7 9 0
 伊予(いよ・宮崎) → 吉偕(よしとも・宮崎みやざき、神職/国学) P 4 7 4 0
 伊予(いよ・宮崎) → 吉輔(よしすけ・宮崎、吉偕男/神職/国学) P 4 7 3 9
 伊予(いよ・篠田) → 美知足(みちたり・篠田しのだ、神職/国学) J 4 1 2 7
 伊予(いよ・伊達) → 以世子(いよこ・伊達だて、水沢郷主妻、歌) K 1 1 3 9
- I1134 維揚(いゆう・谷たに、名;遵) 1723-84 62歳 常陸の儒者;徳田錦江門、1752水戸彰考館吏員、
 「維揚詩集」「維揚筆記」/1766「皇朝史略」、鬼谷きくこの父、
 [維揚(;号)の字/通称]字;義父/義夫/義甫、通称;佐之衛門
- I1135 渭陽(いゆう・谷口たにぐち、名;精一/字;允中まさなか/通称;大造、藍田の長男) 1842-62 21 肥前の儒者、
 詩文に長ず、「渭陽詩文集」著
- 以養(いゆう・西村) → 謹節(のりとき・西村にしむら、茶商/歌人) J 3 5 5 1
 葦葉(いゆう・大和の僧) → 空船(くうせん、俳人) C 1 7 1 3
 維陽(いゆう・岡部/賀茂) → 眞淵(まぶち・賀茂/岡部、国学者/歌) 4 0 3 1
 惟庸(いゆう・竹内) → 惟庸(これつね・竹内たけのうち/源、廷臣/歌) F 1 9 9 6
 惟繇(いゆう・黒田) → 正足(まさたり・黒田/源、藩士/詩歌) D 4 0 6 8
 威庸(いゆう・太田) → 万里(ばんり・太田おた、採茶庵4世俳人) I 3 6 6 3
 為用(いゆう・武藤) → 濫賢(うんけん;法諱・楽阿;号、僧/歌人) B 1 2 1 1
 為庸(いゆう・五条) → 為庸(ためお・五条/菅原、廷臣/漢学) H 2 6 2 5
 萇楊斎(いようさい→ていようさい) → 関月(かんげつ・薈しとみ/柳原、絵師) D 1 5 5 8
 猪代吉(いよきち・徳見) → 茂四郎(もしろう・徳見とくみ、宿老) B 4 4 2 5
 以翼(いよく・加藤) → 以翼(よすけ・加藤かとう/松井、国学/歌) M 4 7 1 3
- K1139 以世子(いよこ・伊達だて、名;伊予) 1804-85 82 陸奥胆沢郡の水沢郷主の妻、歌人、
 水沢伊達家は1835郷学立生館開設など文化を奨励;蘭学の高野長英など学者多数輩出
- K1151 伊与子(いよこ・半井なからい、旧姓;鈴木) 1822-82 61 伊予今治の歌人/半井梧庵(忠見)の後妻
- K1102 いよ子(いよこ・小山田おやまだ、) 1840-1926 87 出羽(羽後)雄勝郡横堀の歌人;後藤逸女門

- K1136 **伊与子** (伊與子いよこ・田中たなか、旧姓;深尾) 1851-1905⁵⁵ 国学・歌人、
土佐藩士田中光顕(1843-1939/明治の政治家)の妻、新興宗教阿吽鉢羅婆あむはらばの信者
- イヨ子(いよこ・池田) → 鑑子(かんこ・池田いけだ/戸田、藩主室/歌) T 1 5 6 2
射代子(いよこ・志村) → 笥花尼(きょうかに、志村しむら、歌人) N 1 6 4 9
伊予七(いよしち・河野) → 好也(こうや・梅廼舎うめのみや、晝業/狂歌) L 1 9 3 5
伊予聖人(いよせいじん) → 篤山(とくざん・近藤、儒者) K 3 1 7 7
伊与田(いよだ・佐善) → 月溪(げつけい・佐善さぜん、藩士/儒医) N 1 8 7 8
伊予入道(いよにゅうどう) → 為任(ためとう・藤原ふじわら、廷臣/歌人) H 2 6 0 9
伊予入道(いよにゅうどう) → 頼義(よりよし・源みなもと、武将/歌/連歌) K 4 7 0 2
伊予入道(いよにゅうどう) → 尚氏(ひさうじ・大館おおだち/源、武将/故実) E 3 7 4 2
伊予入道(いよにゅうどう) → 直氏(なおうじ・土岐とき、武将/幕臣/歌) 3 2 7 1
伊予阿闍梨(いよあじやり) → 日代(にちだい;法諱、日蓮僧) C 3 3 7 6
伊予阿闍梨(いよあじやり) → 日頂(にっちょう;法諱、伊予房、日蓮僧) F 3 3 1 1
伊予守(いよのかみ・松田) → 直兄(なおえ・松田、神職/国学) 3 2 7 3
伊予守(いよのかみ・吉永) → 直雄(なおたけ・吉永、歌人) B 3 2 5 3
伊予守(いよのかみ・京極) → 高亶(たかあつ・京極/稻垣、幕臣/歌) U 2 6 0 9
伊予守(いよのかみ・井関) → 充長(あつなが・井関いぜき、神職/国学) E 1 0 9 2
伊予守(いよのかみ・岩城) → 隆恕(たかのり/たかひろ・岩城いわき、藩主/歌) D 2 6 4 6
伊予守(いよのかみ・池田) → 宗政(むねまさ・池田、藩主/日記) C 4 2 4 8
伊予守(いよのかみ・阿部) → 正右(まさすけ・阿部あべ、藩主/老中) M 4 0 9 4
伊予守(いよのかみ・阿部) → 正寧(まさやす・阿部あべ、藩主/歌) L 4 0 9 6
伊予守(いよのかみ・三枝) → 守繁(もりしげ・三枝さいくさ、幕臣/国学) K 4 4 0 2
伊予守(いよのかみ・橋本) → 忠久(ただひさ・橋本、神職/歌人) Q 2 6 5 6
伊予守(いよのかみ・日野) → 資施(すけもち・日野ひの/畠山、旗本高家) H 2 3 9 1
伊予守(いよのかみ・稲葉) → 雍通(てるみち・稲葉いなば、藩主/歌人) C 3 0 9 5
伊予守(いよのかみ・長谷) → 景福(かげとみ・長谷ながたに、歌人) T 1 5 0 2
伊予守(いよのかみ・千鳥) → 祐道(すけみち・千鳥ちどり/中臣、神職/歌) I 2 3 8 1
伊予守(いよのかみ・河野) → 通理(みちまさ・河野こうの、神職/国学) J 4 1 1 2
- B1192 **伊予三位** (伊与三位いよのさんみ・名;兼子けんし、讃岐守藤原顕綱女) 1050-1133⁸⁴ 平安後期歌人;
堀川天皇の乳母、伊予守藤原敦家の室/敦兼の母、讃岐典侍さぬきのすけ(長子)の姉、
1104(長治元)俊忠家歌合参加、1107(嘉承2)出家、
晩年;藤原俊成に顕綱・弁乳母の口伝を授与、千載851、
[恋ひわびてあはれとばかりうち歎くことよりほかの慰めぞなき](千載;恋851、
俊忠中将家歌合に/恋の切なさにはただ歎息のみ)、
[伊与三位(;通称)の別通称]讃岐三位/藤三位
伊予之介(伊予之助いよのすけ・茅根) → 寒緑(かんりよく・茅根ちのね、藩士/儒者) R 1 5 8 2
- J1119 **伊予中納言** (いよのちゅうなごん)?- ? 平安中期女房歌人、一条院后彰子[988-1074]に出仕、
1032上東門院菊合参加(伊勢大輔・小弁・弁乳母らと)、
[むらさきのにほひことなる菊の花初霜よりやわきて置きけん](上東門院菊合;一番右2)
伊予局(いよのつぼね) → 盈子(えいし・小槻、女房/日記) C 1 3 8 2
猪与八(いよのはち・伊庭) → 可笑(かしょう・伊庭いば、黄表紙作者) 1 5 1 7
猪与八郎(いよはちろう・中村) → 習斎(しゅうさい・中村なかむら、儒者/詩歌) H 2 1 4 1
- J1183 **伊予姫** (いよひめ・井伊い、井伊直存女) 1739-1793⁵⁵ 彦根藩主井伊直幸なおひで(1729-1789)の室、
歌人;江戸で活動、1789夫没/梅暁院と号す(法号)
弥姫(いよひめ・島津) → 斉興室(なりおきのしつ・島津しまづ/池田、周子/和漢学/歌) H 3 2 1 2
伊予坊(いよぼう) → 日代(にちだい;法諱、日蓮僧) C 3 3 7 6
伊予房(いよぼう) → 日頂(にっちょう;法諱、日蓮僧) F 3 3 1 1
伊予法橋(いよほつきょう) → 泰本(たいほん;法諱、天台宗坊官/連歌) L 2 6 0 3
伊予屋良佐(いよやしすけ) → 二洲(じしゅう・尾藤、儒者/詩) 2 1 2 1
- D1117 **以来** (いらい、尾陽城南、本名不祥)?-? 地口・南花房門、1759「ちり落とし」編

- 為頼(いらい) すべて → 為頼(ためり)
- 以来庵(いらいあん) → 路圭(ろけい・博多屋、商家/俳人) B 5 2 2 8
- D1118 意楽(いらく・辻尾つお、通称; 太郎右衛門/別号; 江林)?-? 大阪淡路町の俳人: 宗因門、
1666「阿波千句」入、1675「大阪独吟集」百韻入、1681賀子「山海集」入(; 江林名)、
「国華万葉記」・「西鶴大矢数」の執筆、
[刈りてよ草武蔵野の月御覧ずるに](山海集; 右28、
謡曲「海士」; あの水底の月を御覧ずるに みるめ茂りて障りとなれば刈りのけよ
との御詠なり)
- 意楽(いらく・藤田) → 安勝(やすかつ・藤田ふじた、藩士) B 4 5 1 6
- 意楽(いらく・藤田) → 安処(やすずみ・藤田ふじた、藩士) B 4 5 8 0
- 為楽庵(いらくあん) → 雪川(せつせん・松平、治郷の弟/俳人) E 2 4 4 8
- 以楽子(いらくし) → 見隆(けんりゅう・藤井ふじい、医者) M 1 8 8 0
- 依羅娘子(いらじょうし) → 依羅娘子(よさみのおとめ、人麻呂の妻/歌) 4 7 0 1
- B1193 猗蘭(いらん・本多ほんだ、本姓; 藤原/修姓; 膝とう、忠恒2男) 1691-1757 67 河内西代藩主・1704襲封、
1万石/従五下伊予守、1707將軍綱吉の小姓/奏者番/字屋奉行/1725若年寄; 幕府財政再建、
1732伊賀神戸藩主に移封; 45神戸城築城許可; 5千石加増/1750家督を5男忠永に譲渡、
儒/詩: 荻生徂徠門; 高弟、書画/音曲/茶道に通ず、康桓・忠永・康政の父、
1733「猗蘭台集」35「猗蘭子」、「猗蘭集」「猗蘭文集」「猗蘭台集」「猗蘭燕稿」「遊嵐山記」、
「古言録」「詠百首和歌」「遊九華山記」「古言録」「西記」「西台会集詩稿」「遊墨水記」著、
[猗蘭(; 号)の幼名/名/字/通称/別号/本姓] 幼名: 恒弥、名: 忠良(初名)/忠梁/忠統ただむね、
字: 大乾、通称: 駒之助、別号: 不言斎/冬日庵/白蓮子/雪山/宗範/西台藤侯/拙翁、
法号: 長徳院
- I1136 漪嵐(いらん・月形つきがた、名; 弘、鷗窠しょうか男) 1798-1862 65 筑前福岡藩士/儒; 古賀精里門、
1819家督嗣; 百石、馬廻組に列す/1823赤間駅茶屋奉行/50病気で致仕/以後子弟教育、
尊王/海防の重要性主唱; 藩論の転換を試みる; 1861(文久元)幽閉; 62蟄居中に没、
「辺防策」著/「漪嵐遺稿」、洗蔵(格庵)の父、
[漪嵐(; 号)の字/通称] 字: 伯重、通称: 駒太郎/三太郎/深蔵、法号: 本清院
- 為理(いり・冷泉) → 為理(ためたか・冷泉、廷臣/歌人) G 2 6 9 7
- 為理(いり・法性寺ほっしょうじ) → 為理(ためり・法性寺/藤原、廷臣/歌) H 2 6 3 1
- 為理(いり・荒木) → 為理(ためまさ・荒木あらかき/山岸、国学/歌) V 2 6 2 9
- I1137 入居(いりい・橘、奈良麻呂男)?-800 奈良期廷臣; 783叙爵/遠江守/799左京大夫、
右中弁/右兵衛佐/播磨守、「刪定令」著、
諸兄もろえの孫、嶋田麻呂・清友きよとも兄弟、逸勢はやなりの父
- 入江羽林定宗(いりえうりんさだむね) → 定宗(さだむね・源、早歌作曲者) M 2 0 9 6
- 入江少将入道(いりえしょうしょうにゅうどう) → 定宗(さだむね・源、早歌作曲者) M 2 0 9 6
- 入江宮(いりえのみや) → 承覚法親王(しょうかくほうしんのう、天台門跡/歌人) F 2 2 8 8
- 以立(いりつ・清池) → 以立(いりゅう・清池、医/漢学) B 1 1 9 4
- 入船扇蔵(いりふねせんぞう) → 扇橋(2世せんきょう・船遊亭、落語家) F 2 4 1 4
- 入船米蔵(初世いりふねよねぞう) → 扇橋(4世せんきょう・船遊亭、落語家) F 2 4 1 5
- I1176 入谷松陰(いりやのまつかげ) ? - ? 狂歌; 1787「才蔵集」入; 290/597
[入谷村山荘 日も西に入谷の村の鐘きけば雲の上野の山のちかさよ]
- B1194 以立(いりゅう; 字・清池きよち/せいち、本姓源、号; 肖柏亭/弄花軒/釣雪) 1663-1729 67 摂津池田の医者、
儒/漢学: 松下見林門/歌; 宮川松堅門、詩; 桐江の呉江社同人、1699「詩聯大成以呂波韻」、
1705「通俗列国志」(春秋列国志伝訳)、「通俗周武王軍談」/1703「通俗呉越軍談」著
1722松堅[倭譚五十人一首]入、1729(享保14)没、
[くやくも入りけん恋の山深み斧の柄えならぬ身をくたすらむ]、
(倭譚五十人一首; 33/寄樵夫恋/斧の柄; 爛柯の故事)
- B1195 移柳(いりゅう) ? - ? 俳人・西馬さいば(1808-58)の養嗣子、
「西馬発句集」編
- 為隆(いりゅう・藤原) → 為隆(ためたか・藤原ふじわら、廷臣/日記) G 2 6 9 3

- 意隆(いりゅう・白石) → 又衛門(またえもん・白石、藩士/啓蒙書) J 4 0 3 5
 惟隆(いりゅう・太田) → 惟隆(これたか・太田おた、幕府医者/歌) Q 1 9 1 3
 維竜(惟竜いりゅう→これたつ)→ 鶴山(かくざん・畑はた/修姓; 銭、医者/儒) J 1 5 9 1
 以竜庵(いりゅうあん) → 宗瑞(2世そうずい・広岡/菅、藩士/俳人) I 2 5 1 2
 以量(いりょう・橋) → 以量(もちかず・橋たはな/薄、廷臣/記録) E 4 4 9 2
 伊良(いりょう→これよし) → 荘丹(そうたん・高柳/鈴木、医者/俳人) C 2 5 4 8
 伊亮(いりょう/これすけ・尾形)→ 光琳(こうりん・尾形おがた、絵師) C 1 9 0 8
 維良(いりょう)すべて → 維良(これよし)
 惟良(いりょう・森) → 泐石(ろくせき・森もり、篆刻家) 5 2 9 5
 惟良(いりょう・森脇) → 惟良(これよし・森脇もりわき/筏、神道/歌) R 1 9 2 2
 惟亮(いりょう・南山/畑) → 柳啓(柳敬りゅうけい・畑はた/南山、医者) D 4 9 5 4
 惟梁(いりょう; 初道号) → 齊雲(さいうん; 道号・道棟; 法諱、黄檗僧) N 2 0 1 9
 為良(いりょう・渡辺) → 為良(ためよし・渡辺わたなべ、商家/歌/俳) 2 7 4 4
 為量(いりょう・法性寺) → 為量(ためかず・法性寺ほっしょうじ、廷臣/歌) G 2 6 7 0
 為量(いりょう・大中臣) → 為量(ためかず・大中臣おなかとみ、歌人) G 2 6 7 1
- I1138 **以倫**(いりん; 法諱・無等むどう; 道号) ?-? 室町中期臨濟宗建仁寺派僧; 竜山徳見(1284-1358)門、
 摂津広厳寺住持、五山文学; 中国古典に通ず、「無等以倫遺稿」
- I1139 **為霖**(いりん; 字・甘雨; 法諱、号; 下留老人、俗姓; 荒木) 1786-1872 87歳 出雲鱒淵の農家/禅僧、
 1798松江清光寺大雄門/1805尾張曹洞僧の仏海慈舟門/43越前の永建寺住持; 僧堂建立、
 1857尾張竜台院開、「対客茶話」、「ますほのすゝき」、「為霖老人語録」著
- 意林(いりん・満田) → 懶斎(らんさい・満田みつた、藩士/儒者) F 1 9 8 6
 医林(いりん・林) → 敬斎(けいさい・林はやし、医/儒/俳人) F 1 8 6 2
 以隣(いりん・中神) → 琴溪(きんけい・中神ながみ、医者) Q 1 6 8 2
 彝倫(いりん・杉谷) → 彝倫(つねのり・杉谷、国学者) E 2 9 8 1
 彝倫(いりん・芳野) → 南山(なんざん・芳野よし、医者/詩) J 3 2 1 0
 惟隣(いりん・山手/門田) → 樸斎(朴斎ぼくさい・門田もんでん/山手、儒者/詩) D 3 9 1 6
 維隣(いりん・川田) → 田福(でんぶく・川田、呉服商/俳人) E 3 0 1 8
- 1130 **意林庵**(いりんあん・朝山あさやま、名; 守愚、僧名; 素心、久綱男) 1589-1664 76 京の儒者; 李文長門、
 細川忠利に仕、仮名草子: 「清水きよみず物語」著(「閑散余録」説)、「意林庵遺稿」
 [道理なる法度は立つ物にて候ふ 無理なる法度は立たぬ物にて候ふ](清水物語)
- E1167 **沃**(いりゅう・源みなもと、唱男、嵯峨流源氏) ?-? 平安期廷臣; 河内守、歌人、
 977頼忠前栽歌合参加(; 左衛門佐)、
 [ちぢの秋の花のかげうつす水のおもにたえず流れてきみのみぞみむ]
- E1168 **入鹿**(いりか・蘇我そが、鞍作、蝦夷男) ?-645 誅殺 皇極天皇時代の権臣、国政を掌握、
 山背大兄やましるのおおえ王を殺害、中大兄皇子・中臣鎌足らに誅される
- 入香(いりか・福住) → 松年(まつとし・福住ふくずみ、商家/歌人) S 4 0 2 4
 入間川殿(いりまがわどの) → 基氏(もとむじ・足利/源、武将/歌人) C 4 4 1 5
 色主(いろぬし・塩屋) → 艶二(えんじ・塩屋、戯作、狂歌) 1 3 9 8
 いろは堂月雄(いろはどうげつゆう) → 眞澄(ますみ・朝日あさひ、神職/俳人) M 4 0 1 4
- I1140 **色本屋九郎介**(いりもとやくろすけ; 仮託) ?-? 江前期; 風俗重宝記編、
 1693「茶屋諸分ちややしよわけ調方記」(; 妻の木香屋もっこうやらんと共編); 共に本屋の匿名
- 惟礼(いれい・岩神) → 仲和(なかがず・岩神いわがみ、俳人) D 3 2 3 7
 惟礼(いれい・安川) → 柳溪(りゅうけい・安川やすかわ、儒/詩人) D 4 9 5 9
 以礼(いれい・衣笠) → 明親(あきちか・衣笠きぬがさ、藩医/詩歌) D 1 0 5 1
 以礼(いれい・広瀬) → 克斎(こくさい・広瀬ひろせ、藩士/儒者) M 1 9 1 7
 以礼(いれい・篠原) → 徴余(徴余ちようよ・篠原、陽明学/書) K 2 8 0 4
 以礼(いれい・岡部) → 以忠(以礼ゆきただ・岡部、藩士/執政) E 4 6 7 6
 以礼(いれい・今中) → 親教(ちかのり・今中いまなか、秦、藩士/国学) M 2 8 1 1
 為礼(いれい・渡辺) → 蘭翠(らんすい・渡辺貞庵、医者) C 4 8 7 4

- 惟翻(いれき・児島) → 宗説(そうせつ・児島こじま、藩の医者) I 2 5 2 2
威烈(いれつ;法諱) → 憲燼(けんどう;道号・威烈、臨濟僧) L 1 8 7 0
- J1181 色樹(いろき・秋山あきやま、号;夏山/後名;嘯楽麿えらまろ) ?-? 江中期;寛保1741-44頃の京廷臣;官人、
国学者;故実精通、60歳過ぎて山城鳥羽住/70歳過ぎて大坂住、
1741(寛保元)「夏山雑談」5巻著(小野高尚筆録)、
秋山色樹は小野高尚かその父の武格の戯名説あり
- J1113 いろは(;組連) ? - ? 江戸下谷の川柳の組連/取次、
取次;1770「川柳評万句合」入;
取次例;[義盛は栗津が原でふるひ付き](前句;ねらひ社こそすれ々々)、
(和田義盛は巴に惚込んだ/義盛に生捕られた俗説あり)
いろは堂月雄(いろはどうげつゆう)→ 眞澄(ますみ・朝日あさひ、神職/神道家) N 4 0 1 4
いろは坊一二(いろはぼういちに)→ 風五(楓呉ふうご・小林、商家/俳人) 3 8 5 7
囲炉亭薫斎(いろりていくんさい)→ 鐘成(かねなり・暁あかつき、商家/戯作/絵師) C 1 5 9 3
- K1183 岩(いわ・西河にしがわ、) ? - ? 江前期;京の歌人、西河嘉長(医者・歌人)の妻?、
1682河瀬菅雄[麓の塵]2首入、同集の[西河氏女の澤]の母か?
[あたらしく作りたる家にて庭松といへる心を、
千とせ経む宿にはつきぬことぶきにしらべそへたる庭の松風](麓の塵;雑678)
- K1196 以波(いわ・北村きたむら、孝甫女) ?- ? 母;楚濃その、江中期;歌人、
1722以後;内海頭糺[倭譚五十人一首追加]入、
[庭にもせの梢につもる白雪を春待つほどの花とながめむ](追加/庭雪/13歳)
以和(いわ・村田) → 以和(もちかず・村田むらた長庵、歌人) M 4 4 1 8
惟和(いわ・阿部) → 惟和(これかず・阿部あべ、医者) O 1 9 1 7
惟和(維和いわ・安藤/畑) → 柳安(りゅうあん・畑はた/安藤、医者/教育) C 4 9 6 5
為和(いわ・冷泉/今川) → 為和(ためかず・冷泉[上冷泉]、廷臣/歌人) 2 6 5 7
斎垣内(いわいのかきつ) → 直廬(なおり・岡おか、神職/国学/歌人) O 3 2 0 8
祝田霽南(いわいだせいなん) → 鉄兜(てつとう・河野、医/儒/詩歌) C 3 0 5 7
岩右衛門(いわえもん・永田) → 実苞(さねもと・永田ながた、神職) O 2 0 9 8
- K1178 巖(いわお・渡辺わたなべ、号;芹溪きんけい) 1822-1904 73 越後頸城郡の今町八幡神社神主、和漢学者、
「渡辺芹溪詩文」著
- K1166 磐夫(いわお・前川まえかわ/本姓;藤原、) 1827-1906 80 淡路三原郡阿万村の亀岡八幡神社社司、
国学;本居内遠・平田鍬胤門、
[磐夫(;)名)の初名/通称/号]初名;直正、通称;直麿/主税/石見守、号;榊舎/榊園
- K1141 巖雄(いわお・武田たけだ、) 1833- 1893 61 筑後久留米藩士、神道・国学;船曳磐主(鉄門)門、
地誌;矢野一貞門、妻;せい、1864-65頃藩の国事方周旋役;京で活動、
維新後;三瀧みづま郡青木村に家塾[泡来舎]開設/1872(明治5)学制発布に小学校創設、
高良神社禰宜、1885(明治18)篠山神社祠官
[巖雄(;)名)の通称/号]通称;介石かいせき、号;東山/泡来散人
- J1176 巖(いわお・中川なかがわ、名;志慶/通称;近江) 1835-? 美作英多郡林野郷荒木田村の林野神社神主、
歌人;平賀元義門
- K1128 巖(いわお・齋木さいき/本姓;藤原、瑞枝みづえ男) 1835-99 65 石見邑智郡の国学・歌人;父門、
国学・歌;天津孟雄たけお(遠江)・高子たかこ大士おこと(常盤)門、
隠岐水若酢神社主典/馬場八幡宮宮司(父を嗣)、
[巖(;)名)の別名/通称/号]別名;重駿/正尚、通称;但馬、号;雄斎/巖山/榊廬舎
- K1132 巖(いわお・白井しらい/本姓;原、) 1841-85 45 信濃伊那郡の国学者・歌人;坂井居平やすひら・平田鍬胤門、
上野妙義神社祠官/権大講義、「上野国甘楽郡白雲山妙義神社之図」著
[巖(;)名)の別名/通称/号]別名;義治、通称;松太郎/右近、号;白巖/暉谷きこく/松嵐しゅうらん、
法名;竜賢
- K1130 岩雄(いわお・榊さかき、) 1843-1911 69 遠江磐田郡中泉町の鹿苑神社祠官、
国学・歌;大場重光・小国重友門、遠州報国隊支援、維新後;大講義

- J1193 **巖**(いわお・泉いづみ、市島熊太郎3男)1844-1902⁵⁹ 越後蒲原郡の泉久寛ひさひろの養子、歌人、
[巖(名)の初名/通称]初名;市島俊三、通称;巖吉
- K1117 **巖**(いわお・久米くめ、号;時舎ときや、淡斎男)1866-1938⁷³ 伊予松山の生、国学・歌;師岡昌胤門、
伊予新居浜の高津八幡神社社司、父淡斎没後「淡斎遺稿」編纂、「時舎家集」著
- 岩尾(いわお・広瀬) → 春信(はるのぶ・広瀬/勝部、神職) J 3 6 2 8
 巖(いわお・渡辺) → 南岳(なんがく・渡辺わたなべ、絵師) I 3 2 7 7
 巖(いわお・小林) → 筋堂(せつどう・小林こばやし、儒者) L 2 4 3 3
 巖(いわお・南部) → 宗寿(そうじゅ・南部なんぶ、医者/儒者) H 2 5 7 2
 巖(いわお・内海) → 昭応(てるのり・内海うつみ、神職/国学) F 3 0 0 4
 巖の鄙麻呂(いわおのひなまる) → 綱雄(つなお・岩崎、里正/国学者) B 2 9 0 4
- D1119 **磐鹿六藪命**(いわかむつかりのみこと)?-? 高橋氏の祖、789高橋氏文に物語入
- J1160 **岩城**(いわき;女房名) ?-? 江後期;歌人、蜂屋光世家に出仕?
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [思ひ寝の夢路にかよふ一声はさめて跡なき山ほととぎす](大江戸倭歌;夏456)
- 岩城之住(いわきじゅう/いわきこれすみ) → 風虎(ふうこ・内藤義泰、藩主/俳) 3 8 5 5
 岩吉(いわきち・横瀬) → 貞征(さだゆき・横瀬よせ/松平、旗本高家) N 2 0 3 9
 岩吉(いわきち・橋爪) → 盛治(もりはる・矢田部やたべ/橋爪、神職/用水路建設) L 4 4 7 4
 巖吉(いわきち・市島) → 巖(いわお・泉いづみ/市島、歌人) J 1 1 9 3
 巖君(石君いほぎみ・藤原) → 頼宗(よりむね・藤原、堀河右大臣/歌人) J 4 7 8 1
 岩蔵(いわくら・藤原) → 顕俊(あきとし・藤原、廷臣/記録) D 1 0 6 3
 岩倉上人(いわくらしょうにん) → 良胤(りょういん;法諱・大円、真言僧) G 4 9 2 3
 岩蔵の藤の坊(いわくらのふじのぼう) → 堯恵(ぎょうえ;法諱、天台僧/歌人) 1 6 3 2
- B1196 **岩蔵姫君**(いわくらのひめぎみ・守子内親王?)?-? 鎌倉後期歌人、続千載1965、続現葉・藤葉集入集、
 1330(元徳2)[北野宝前和歌]参加、守子内親王と同一説あり;藤葉集では別人扱い、
 [忘れぬその思ひ出もなきものを何ゆゑ忍ぶむかしなるらん](続千載集;十八1965)
 [つれなさの初音もいまはききそめて待つにかひある郭公かな](北野宝前和歌;9)
 [いかがせん待つとせしまにねられねば夢をたのみよなよなもうし]、
 (藤葉;恋555岩蔵姫君名)
 ☆守子内親王 → 守子内親王(しゅしないんのう、源彦仁王女) I 2 1 6 8
 岩蔵宮(いわくらのみや) → 昭平親王(しょうへいしんのう、天台僧/歌) B 2 2 4 4
- K1100 **岩子**(いわこ・江幡えはた/旧姓:小屋、)1812-84⁷³ 出羽大館の江幡通寛(晩香)の妻/家学を受け歌人、
 通静みちきよ・通理みちまさの母
- E1132 **岩越**(いわこし・遊女) ?-? 江戸吉原京町一丁目岡本楼の遊女、狂歌:南畝門、
 1787「才蔵集」1首:241、
 [初はつよりも花の笑顔にあきたらぬ詠ながめぞ深き月のうら客](才蔵集:241/十三夜、
 花[桜]より月の眺めが趣き深い/初会より二回目[うら]の客の方が情は深い)
- 岩五郎(いわごろう・中川) → 経雅(つねまさ・中川/荒木田、神職/歌) D 2 9 7 0
 岩五郎(いわごろう・池田) → 治道(はるみち・池田いけだ/源/松平、藩主) J 3 6 3 6
 岩五郎(いわごろう・早川) → 忠顕(ただあき・早川はやかわ/源、藩士/国学) Z 2 6 0 1
 岩五郎(いわごろう・俣野) → 景明(かげあき・俣野またの、藩士/蘭学) K 1 5 6 8
 岩五郎(いわごろう・岩谷) → 文淵(ぶんえん・岩谷いわや、医者/詩文) E 3 8 8 4
 岩五郎(いわごろう・柴田) → 勝明(かつあき・柴田しばた、幕臣/歌人) S 1 5 8 5
- B1197 **石前**(いわさき・檜前舎人ひのくまのとねり)?-? 武蔵那珂郡上丁;755防人/万葉集中防人・廿4413左注:
 妻;大伴部真足女またりめの歌(4413)、
 妻 → 真足女(またりめ・大伴部、万葉4413歌人) J 4 0 5 9
 岩三郎(いわさぶろう・蔵知) → 維新(これちか・蔵知くらち/薄田/村瀬、藩士/歌人) Q 1 9 6 7
 岩三郎(いわさぶろう・富山) → 定豪(さだかつ・富山とみやま、商家/歌人) O 2 0 8 9
- I1141 **巖治**(岩次いわじ・工藤くどう、通称;勝弥)?-? 幕末期陸奥津軽藩士/勘定人、1862勝海舟の塾入門、
 洋学者/藩洋式帆船安濟丸造船主管、1862「彼理日本紀行」訳
- K1103 **磐代**(いわしろ・大江おえ、藩家老の家臣岩室宗賢の女)1744-1812⁶⁹ 母;鉄問屋の娘のおりん、

伯耆倉吉の生/1753(9歳)浪人し町医者となった父と上京/櫛笥家の養女:橘姓を名乗る、大江留子の名で籌宮成子内親王の侍女/成子内親王が閑院宮典仁親王に嫁ぎ女房となる、閑院宮典仁親王の寵愛を受け側室;3人の皇子を出産、長男師仁親王が即位;光格天皇、天皇の生母となる、典仁親王没後に出家;蓮上院/次男聖護院門跡盈仁入道親王と生活、没後に贈従一位、父岩室宗賢は盈仁入道親王家臣となり法橋、

[磐代(;名)の初名/号]初名;阿鶴おつ、号;蓮正院

岩次郎(いわじろう・鈴木) → 白藤(はくとう・鈴木すずき、幕臣/詩) D 3 6 6 6

岩次郎(いわじろう・石川) → 忠房(ただふさ・石川/伊丹、幕臣/記録) F 2 6 7 7

岩次郎(いわじろう・能勢) → 賢高(かたたか・能勢のせ、歌人) S 1 5 9 6

岩次郎(いわじろう・安部) → 健臣(たけおみ・安部あべ、藩士/国学) U 2 6 9 9

岩次郎(いわじろう・富山) → 貞平(さだひら・富山とみやま、商家/国学者) O 2 0 9 0

岩二郎(いわじろう・三宅) → 濟美(みちよし・三宅みやけ、幕臣/詩文) C 4 1 8 6

磐二郎(いわじろう・中村) → 守手(もりて・中村/永井、神職/国学/歌) F 4 4 8 7

B1198 石竹(伊波太気いわたけ・秦忌寸)?-? 奈良期廷臣;764従五下/76播磨守、万葉集中人物、大伴家持を迎え宴会/歌はない

I1142 岩三郎(いわさぶろう・神谷かみや)?-? 江後期儒者;地誌家、1830「江戸古絵図考」:間宮士信ことぶ・三島政行・松崎純庸と共撰;江戸図書目提要附録に入

岩三郎(いわさぶろう・水原) → 宗梁(むねはら・水原みずはら、神職/歌) C 4 2 2 5

岩三郎(いわさぶろう・三井) → 高蔭(たかかげ・三井みつゐ、商家/国学) C 2 6 5 9

岩蔵(いわぞう・安田) → 春常(しゅんじょう・勝川かつかわ/安田、絵師) L 2 1 0 7

岩蔵(いわぞう・中村) → 峯梅(せんばい・中村なかむら、俳人) N 2 4 5 2

伊和三(いわぞう・中田) → 憲信(のりのおぶ・中田なかつ、神職/国学/司法) F 3 5 4 1

B1199 石田王(いわたのおおきみ) ?-? 万葉集中人物、万葉集三420-3題、425左注

岩太郎(いわたろう・小島) → 成斎(せいさい・小島こじま、藩士/書家) B 2 4 6 0

岩太郎(いわたろう・石井) → 長寿(ながひさ・石井いし、村役/歌人) L 3 2 1 3

岩太郎(いわたろう・松尾) → 元珍(もとよし・松尾まつお、酒造業/歌人) L 4 4 3 6

岩千代(いわちよ・新庄) → 直親(なおちか・新庄しんじょう、幕臣/国学) N 3 2 4 2

E1157 石積(磐積いわつみ・境部/坂合部さかべ、姓;連/のち宿禰)?-? 685存 大和期廷臣;663遣唐使随行人学生、665守大石と遣唐使/667筑紫都督府帰還、672-682.3「新字(にいな)」一部44巻編(訓釈字典?)

岩手ノ猿方(いわてのさるかた) → 義近(よしちか・猿橋さるはし、書家/狂歌) E 4 7 5 0

磐手[盤手]老人(いわてろうじん) → 信古(のぶふる/のぶひさ・今井、神職/国学) D 3 5 2 3

D1120 岩童(いわどう) ?-? 15Ct近江猿楽太夫・犬王門

B1184 磐主(いわぬし・船曳ふなびき、名;大季/鉄門かなと/環、大枝男) 1824or28-95 73or68 筑後大石の神職、母;礼幾子れきこ、大滋おおしげ(早世)の弟、儒;池尻葛覃門、歌学;中島広足門、国学;橘守部門、久留米藩校明善堂の皇典科の新設に尽力;その講師、家塾で教育、維新後;安芸巖島社・筑前香椎宮・筑後高良社の宮司歴任、真木和泉・大江眞郷らの師、地誌「久留米旧管内誌」「筑後准風土記」の編輯、1857「筑後国官社私考」/歌「花庵和歌集」著、[磐主(;号)の通称/別号]通称;鉄之助/大式、

別号;石主/若草舎/蓬壺/楫山人/花の舎/花庵/大米子

I1143 磐根(いわね・阿部・阿閉・阿幣あべ) 1792-1855 64 陸奥岩代信夫郡の国学者;本居大平/平田篤胤門、瀬上宿検断を務める、1841「阿部磐根疑問」、「絡石家集」著、[磐根の通称/号]通称;源七/群助、号;絡石廼家つたのや/蔦の屋/常磐

J1153 岩根(いわね・渋谷しづたに) ?-? 江後期;紀伊日高郡南部の国学者;本居大平門、歌;大平撰「八十浦の玉」下巻入、[岩がねを石のたくみがうつよりも逢ふことかたき恋もするかも](八十浦;858恋)

K1134 磐根(いわね・新保しんぼう/にいほ、) 1823-53 31 越後蒲原郡の国学者;鈴木重胤門、林甕雄門正与まさともが家督嗣、

[磐根(;名)の初名/通称/号]初名;吉直、通称;吉太/源吉、号;待秋/雪荘/大鳴

K1115 磐根(いわね・木宮きみや、躬行みゆき男) 1832-1899 68 越後長岡の戸長、国学/歌;父門、

[磐根(;名)の通称] 静一郎

- J1175 **磐根**(いわね・安部井あべい/本姓;源、藩士又之丞男)1832-1916⁸⁵ 陸奥二本松藩士、
戊辰戦で奥羽諸藩の衆議所詰/二本松城陥落時に父自刃、若松県に出仕;辞任、
板垣退助らの自由民権運動に呼応;一政社を結成/1878福島県会議員;義長、
1890第1回衆議院議員/大成会→憲政本党、大日本協会を結成;内地雑居反対論を主唱、
[磐根(;名)の初名/通称/号]初名;良成、通称;清介/惣右衛門、号;梅叟/真清水乃舎
- K1129 **磐根**(いわね・齋藤さいとう、)1838-1904⁶⁷ 信濃伊那郡上郷村の国学者/歌;平田鉄胤門、
上郷村村長、
[磐根(;名)の初名/通称/号]初名;重衷、通称;保輔、号;秋山
- K1101 **石根**(いわね・榎倉えのくら)1841-1912⁷² 伊勢度会郡の神職;箕曲中松原神社祠官、
外宮権禰宜/国学・歌;御巫みかんなぎ清直門、
[石根(;名)の通称/号]通称;主税ちから、号;愛軒/華隱
- 岩根(いわね・小幡) → 氏常(うじつね・小幡おぼた、藩士/国学) E 1 2 5 7
磐根(いわね・日比野/水谷) → 民彦(たみひこ・水谷、商家/国学) S 2 6 2 8
磐根翁(いわねのおきな) → 常逢(つねあい・深沢ふかざわ、神職) B 2 9 4 4
岩之丞(いわのじょう・徳川) → 義行(よしゆき・松平/徳川、藩主/和漢学) H 4 7 8 8
岩之丞(いわのじょう/いわのすけ・狛) → 諸成(もろしげ・狛こま/野田、楽人/国学) H 4 4 2 9
岩之丞(いわのじょう・山中) → 時風(ときかぜ・山中やまなか、庄屋/俳人) J 3 1 0 1
- I1144 **磐之助**(いわのすけ・広井ひろい、別通称;熊太郎、大六の長男)1840-66^{27歳} 土佐小高坂村の土佐藩士、
居合術;三宮市蔵門、1855非業の死を遂げた父の仇を探し諸国を旅、
坂本竜馬・勝海舟の助力で1862仇の棚橋三郎を討つ、土佐藩士籍に復帰;病没、「復讐録」著
- 岩之助(いわのすけ・上坂/齋藤) → 九腕(きゅうえん・齋藤、藩士/儒者) I 1 6 7 5
岩之助(いわのすけ・和田/早川) → 正紀(まさとし・早川/和田、幕臣/教育) E 4 0 4 7
岩之助(いわのすけ・堀田/花房) → 職朝(もともと・花房/堀田、幕臣) D 4 4 3 4
岩之助(いわのすけ・後藤) → 芝山(しざん・後藤ごとう、藩儒/詩人) 2 1 2 0
岩之助(いわのすけ・市川) → 兼恭(かねたか/かねのり・市川、医者/洋学) O 1 5 5 9
岩之助(いわのすけ・宮重) → 本因坊丈策(ほんいんぼうじょうさく、棋士) E 3 9 9 7
岩之助(いわのすけ・毛利) → 高泰(たかやす・毛利もうり、藩主/歌) U 2 6 2 3
岩之介(いわのすけ・近藤) → 安堅(やすかた・近藤こんどう、国学/歌人) F 4 5 9 2
- 1131 **磐姫皇后**(いわのひめ・記;石之日売命/紀;磐之媛命)?-347[仁徳35] 仁徳天皇正妃、
記紀歌謡詠:嫉妬心が強い記事/
履中・反正・允恭天皇の母、万葉二5首85-9、
[ありつつも君をば待たむうちなびく我が黒髪に霜の置くまでに](万葉;87)
- I1145 **岩坊**(いわのぼう;号・仁恵にんけい;法諱)?-1387 近江石山寺岩坊の真言僧、
連歌作者;1385「石山百韻」連衆(脇句以下11句入;静嘉本以外は石山座主坊)
[さゝなみ寒き夜こそ更けぬれ](表八句脇句/発句は良基;月に山風ぞしぐるゝ鳩の海)
石山座主坊泉守と同一? → 泉守(いずみもり・ごうしゅ、真言僧/歌/連歌) B 1 9 2 7
- いはの舎(いわのや) → 常久(つねひさ・殿村/大神、国学/本草) D 2 9 3 9
磐之屋(いわのや・丸山) → 作楽(さくら・丸山、国学/歌人) F 2 0 1 3
岩橋近江(いわはしおうみ) → 元彦(もとひこ・春原はるはら、歌人) D 4 4 9 4
岩彦(いわひこ・片山) → 豊樹(とよき・片山かたやま、神職/国学) U 3 1 7 5
岩船検校(いわふねけんぎょう) → 城泉(じょうせん、高橋たかはし、平曲家) K 2 2 4 9
岩松(いわまつ・浅野) → 長晟(ながあきら・浅野あさの、藩主) K 3 2 7 9
岩松(いわまつ・浅野) → 宗恒(むねつね・浅野あさの、藩主/歌) B 4 2 6 9
岩松(いわまつ・三分一所/渡辺/長江) → 景明(かげあき・三分一所さんぶいっしょ、儒者) K 1 5 6 6
岩松(いわまつ・遠藤) → 常友(つねとも・遠藤、藩主/歌人) C 2 9 7 0
岩松(いわまつ・井上) → 永俊(ながとし・井上いのうえ、商家/歌人) L 3 2 0 3
岩丸(いわまる・松前) → 景広(かげひろ・松前まつまえ、藩士/藩政) L 1 5 2 9
岩丸(いわまる・錦小路) → 頼徳(よりのり・錦小路にしきのこうじ/丹波/唐橋、廷臣/尊攘) O 4 7 3 9
岩丸(いわまる・武者小路) → 公隆(きんなが・武者小路むしやのこうじ/藤原/三条西、廷臣/歌) V 1 6 4 4

- 磐丸(いわまる・岸大路) → 持之(もちゆき・岸大路・岸/橘、国学者) B 4 4 7 8
石麻呂(いわまる) → 老(おゆ・吉田、万葉中人物;家持の歌) 1 4 4 0
- K1112 石見(いわみ・笠因かきより、旧姓;深井、名;石水) ?-? 文久1861-64頃没 伊勢津の生、
伊勢松坂の笠因清雄すがお(祇園社社司/歌人)の妻、歌人、
- 石見(いわみ・寺西) → 秀賢(ひでかた・寺西てらにし、藩家老) C 3 7 9 4
石見(いわみ・吉田) → 利尚(としなお・吉田、歌人) N 3 1 1 2
石見(いわみ・鎌原) → 桐山(とうざん・鎌原かんばら、藩士/儒者) E 3 1 6 2
石見(いわみ・亀岡) → 宗山(そうざん・亀岡かめおか、幕臣/記録) C 2 5 7 3
石見(いわみ・森) → 省斎(せいさい・森もり、神職/儒者) G 2 4 9 0
石見(いわみ・藤島) → 宗順(むねのぶ・藤島、神職/歌人) C 4 2 1 4
石見(いわみ・太郎館) → 季賢(すえかた・太郎館たろうだち/荒木田、神職/国学) F 2 3 3 9
石見(いわみ・佐竹) → 義村(よしむら・佐竹さたけ/小場、藩所預/国学) N 4 7 1 2
石見(いわみ・河本) → 宣易(のぶやす・河本かわもと、神職/国学) I 3 5 0 5
石見(いわみ・野山) → 清名(きよな・野山のやま、神職/歌人) T 1 6 3 6
石見(いわみ・明石) → 重富(しげとみ・明石あかし、神職/記録) N 2 1 1 6
石見(いわみ・井上) → 長秋(ながあき・井上のうえ/藤原、神職/判事) L 3 2 0 4
石見(いわみ・山中) → 為質(ためただ・山中やまなか、藩士/歌人) 2 7 1 8
石見(いわみ・伊達) → 斉義(なりよし・伊達だて/田村、藩主) N 3 2 7 0
石見(いわみ・岡崎) → 五百世(いおよ・岡崎おかざき/南部、神職/国学) K 1 1 0 7
石見(いわみ・山崎) → 久陰(ひさかげ・山崎やまざき/弓削、神職) M 3 7 1 6
石見(いわみ・渡辺) → 眞菅(ますが・渡辺わたなべ、神職/歌人) T 4 0 8 1
岩見(いわみ・千々和) → 重福(しげよし・千々和ちぢわ、神職/国学) Z 2 1 4 2
石見守(いわみのかみ・佐世) → 宗孚(そうふ・佐世させ、武将/連歌) I 2 5 7 8
石見守(いわみのかみ・寺田) → 無禅(むぜん・寺田てらだ、書家/儒) 4 2 7 9
石見守(いわみのかみ) → 信章(のぶり・荷田かた/羽倉、国学) C 3 5 7 4
石見守(いわみのかみ・飯田) → 興秀(おきひで・飯田、弓馬故実家) C 1 4 9 6
石見守(いわみのかみ・高橋) → 清義(すがよし・高橋たかはし、国学/神学) F 2 3 9 0
石見守(いわみのかみ・水島) → 清充(きよみつ・水島みずしま、神職) Q 1 6 3 5
石見守(いわみのかみ・伊奈) → 建彦(たけひこ・伊奈いな、神職/国学) O 2 6 6 5
石見守(いわみのかみ・佐竹) → 重威(しげのり・佐竹さたけ/中原、書博士/歌) O 2 1 5 3
石見守(いわみのかみ・堀) → 親賢(ちかかた・堀ほり、藩主/古典/俳諧) N 2 8 4 6
石見守(いわみのかみ・堀) → 親義(ちかかた・堀ほり、藩主/日記) B 2 8 6 4
石見守(いわみのかみ・前川) → 磐夫(いわお・前川/藤原、神職/国学) K 1 1 6 6
石見守(いわみのかみ・河村) → 季興(すえおき・河村かわむら、諸大夫/尊攘) I 2 3 3 1
石見守(いわみのかみ・樹下) → 茂国(しげくに・樹下じゅげ、神職/国学) O 2 1 8 3
石見正(いわみのしょう・八剣) → 勝興(かつおき・八剣やつるぎ、神職/国学) W 1 5 0 0
石見掾(いわみのじょう・蜂谷) → 宗清(そうせい;通称・蜂谷はちや、香道家) I 2 5 1 8
- K1113 磐村(いわむら・片野かたの、) 1828 - 189265 出羽(羽後)横手の秋田藩士、国学;平田鉄胤門、
中教院講師/権大講義、
[磐村(;名)の初名/通称/号]初名;重高、通称;重助/治兵/治平、号;東山/宕陰とういん
- 岩本隠士(いわもとのいんし) → 日進(にっしん;法諱、知足院、日蓮僧) E 3 3 5 0
- J1116 寅(いん・東とう、別名;俊次、号;長月、東洋男) ?-? 江後期京の絵師:四条円山派、「狂歌市土産」画
- 寅(いん・桃井) → 桃庵(とうあん・桃井もい、医者) 3 1 8 1
寅(いん・東条) → 英庵(えいあん・東条、洋学/兵学者) C 1 3 5 1
寅(いん・平尾/米谷) → 金城(きんじょう・米谷こめたに、商家/漢学) R 1 6 1 8
寅(いん・谷口) → 蕪村(ぶそん・与謝/谷口/謝、俳/絵師) 3 8 1 1
寅(いん・大熊) → 秦川(しんせん・大熊おおくま、眼科医/詩人) P 2 2 1 3
因(いん・荻洲) → 親卿(しんけい;号・荻洲おぎす、儒者) O 2 2 0 1
頼(いん・中村) → 岩州(がんしゅう・中村なかむら、儒者) Q 1 5 9 8
允(いん・城) → 鞠洲(きくしゅう・城じょう、医者) K 1 6 1 0

- 允(いん・皆川) → 篁斎(こうさい・皆川みながわ、儒者) B 1 9 1 6
 允(いん・堀江) → 惺斎(せいさい・堀江ほりえ、儒者/藩儒) I 2 4 2 2
 允(いん・鷹見) → 星臯(星岡せいこう・鷹見、藩士/儒/詩) B 2 4 4 5
 允(いん・大矢) → 尚斎(2世しょうさい・大矢おおや、医者) I 2 2 9 9
 尹(いん・石塚) → 汶上(ぶんじょう・石塚、医者) F 3 8 7 8
 勻(いん;一字名) → 忠栄(ただひで・九条くじょう/藤原、関白) Q 2 6 5 8
 筠(いん・佐藤) → 竹塙(ちくお/ちくう・佐藤、儒者) C 2 8 6 2
 筠(いん・小島) → 大梅(だいまい・小島/児島、詩/俳人) C 2 6 0 9
 筠(いん・沈) → 浪仙(ろうせん・沈ちん/しん、清の詩人) 5 2 3 6
 殷(いん・小倉) → 竹苞(ちくほう・小倉おくら、儒者) D 2 8 7 8
 贇(いん・岡田) → 阜谷(ふこく・岡田おかた、漢学者) B 3 8 9 0
 院(いん) 金葉集 → 白河天皇 D 2 2 1 3
 千載集 → 後白河天皇 1 9 5 6
 新後撰・玉葉 → 伏見天皇 3 8 0 8
 続千載・続後拾遺 → 後伏見天皇 D 1 9 6 8
 風雅 → 花園天皇 3 6 2 2
 新千載・新拾遺 → 崇光天皇(すこうてんのう) D 2 3 2 9
 藤葉集 → 光厳天皇(こうごんてんのう) B 1 9 0 9
 寅阿(いんあ・加藤) → 行虎(みちたけ・加藤/柴田、医者/歌人) B 4 1 7 4
 寅闇(いんあん;号) → 常庵(じょうあん;道号・竜崇;法諱、臨濟僧/詩文) G 2 2 6 6
 隱意軒(いんいけん) → 昌桂(しょうけい・里村;南、幕府連歌師) G 2 2 3 1
 胤員(いんいん/たねかず・西坊) → 千影(せんえい・西坊にしほう、坊官/俳人) E 2 4 8 9
 員胤(いんいん/かざたね?・磯野) → 渙斎(かんさい・磯野いその、藩士/儒者) Q 1 5 5 3
 允胤(いんいん・高木) → 允胤(みつたね・高木たかぎ、和算家) D 4 1 8 3
 因蔭(いんいん・安藤) → 因蔭(よしかげ・安藤あんど/河村、国学) L 4 7 3 3
 隱々子(いんいんし) → 正運(消雲しょううん;法諱、真宗学林派学僧) H 2 2 0 3
 胤栄(いんえい・宝蔵院) → 宝蔵院胤栄(ほうぞういんいんえい、法相学僧/武芸者) C 3 9 1 7
 胤栄(いんえい・千葉/白井) → 雅胤(まさたね・白井/平/千葉、伯家神道) D 4 0 5 7
 胤英(いんえい・千葉) → 胤英(たねふさ・千葉ちば、藩士/和算家) S 2 6 0 2
 胤英(いんえい・千葉原) → 胤英(たねひで・千葉原ちばはら、農業/歌人) Y 2 6 2 2
 印英(いんえい;字) → 日鏡(にちきょう;法諱・善学院、日蓮僧) B 3 3 2 5
 允益(いんえき・荘田) → 豊城(ほうじょう・荘田しょうだ、藩士/儒者) B 3 9 7 6
 K1193 印円(いんえん;法名、藤原盛房男?)?-? 鎌倉南北期;権律師/のち僧正?/資親・覚胤の兄弟?、
 歌人;1334(建武元)[度会朝棟亭八月十五夜歌会]参加、
 [見る人の情もそらにしらるるはおきみの里の秋の夜の月](朝棟亭歌会;82)、
 [いとど我が袂に露の置添へてうきこそまさされ秋の夕暮](同;84)
 隱花(いんか・山鹿) → 素行(そこう・山鹿やまが、儒/軍学者) 2 5 2 2
 蔭夏(いんか・柘植) → 蔭夏(かげなつ・柘植つげ、歌人) V 1 5 0 9
 蝻可(いんか・竹村) → 悔斎(かいさい・竹村たけむら、藩士/儒者) E 1 5 3 8
 E1113 印雅(いんが;法諱) ? - ? 鎌倉期石清水八幡護国寺僧/歌・顯昭門、1200若宮歌合入、
 1209(承元3)「明恵上人歌集;遣心集」入(八幡宮別当幸清ぎょうしょう邸に明恵を迎え閑談)、
 [めぐり逢はむのちの世までの形見かな鳥もいまはの山の端の月]、
 (明恵歌集:2/中納言公名)
 C1100 胤海(いんかい・薬樹院僧正、施薬院宗伯男/花山院定好養子) 1613-8977 天台僧;1624出家;天海門、
 寛永寺凌雲院3世/大僧正/歌人、「念仏悉地記」「元三大師縁起」「慈恵慈眼両大師伝記」著、
 歌・中院通茂門、「胤海百首和歌」「和歌集」「胤海僧正老後述懐百首」著
 [ことうらの月にもこらで明石がたここをとまりとせぬ秋もなし](茂睡[鳥の迹]雑565)
 員外(いんががい) → 大宰員外(ださいのいんががい、万葉歌) E 2 6 5 6
 因角(いんかく) → 淡々(たんたん・松木、俳人) 2 6 9 4
 因角(いんかく) → 麦天(ばくてん・右江、渭北、淡々門俳人) 3 6 1 1

- I1146 **因果居士** (いんがこじ) 1528 - ? 1612存 華嚴僧、1579安土宗論判者の1、「安土問答」著
因果居士 (いんがこじ) → 棕隠(そういん・中島なかじま、漢学/詩人) 2 5 0 4
引割御膳 (いんかつごぜん) → 引割御膳(ひきわりごぜん、狂歌作者) H 3 7 9 5
隱巖 (いんがん; 道号) → 衍真尼(えんしんに・黄檗尼僧) F 1 3 0 8
蔭基 (いんき・藤原) → 蔭基(かげもと・藤原ふじわら、廷臣/歌人) G 1 5 7 6
胤毅 (いんき・布施) → 胤毅(たねたけ・布施ふせ、幕臣/典故) R 2 6 8 4
- C1101 **胤及** (いんきゅう; 号・岡本おかもと、通称; 仁意) 1615-7662歳 備前片上の医者、俳人; 貞徳・のち季吟門、宗因にも師事、1659「鮑屑かんなくず集」編(中国地方最初の俳書)、「角柱」編、1672「千句」編、1677「両吟集」編、重徳「続独吟集」・維舟「筑紫紀行」入、1673西鶴「生玉万句」神楽発句入、「追善釈教百韻」(惟中詠)、
[其の時の別雷わけいかづちは神楽哉](生玉万句; 大十神楽千句発句/雷鳴を神楽に見立てる)
- I1147 **隱求** (いんきゅう・永井ながい、名; 行達/誠之) 1689-174052歳 江戸の儒者; 佐藤直方門、1732「忠災考」「永井先生小学六芸筆記」、「山下筆記追考」著
[隱求の通称/別号]通称; 三右衛門、別号; 淳庵/豊島処士
員九 (いんきゅう) → 員九(いんく・児島、俳人) D 1 1 2 1
尹久 (いんきゅう・富永) → 尹久(ただひさ・富永とみなが、神職/歌人) Y 2 6 4 2
胤久 (いんきゅう・大須加) → 胤久(たねひさ・大須加おおすか、武士/俳人) T 2 6 9 9
胤久 (いんきゅう・谷田部) → 胤久(たねひさ・谷田部やたべ、国学者) 2 7 0 7
筠居 (いんきよ・喜多村) → 筠庭(いんてい・喜多村、儒者/随筆) C 1 1 0 6
飲居 (いんきよ) → 東北斎飲居(とうほくさいいんきよ、狂歌) C 3 0 5 6
殷教 (いんきょう・小河南) → 殷教(ただり・小河南こごうち、藩士/国学) W 2 6 9 9
胤恭 (いんきょう・千葉原) → 胤恭(たねやす・千葉原ちばら、医者/神職) Y 2 6 2 3
- C1102 **允恭天皇** (いんぎょうてんのう、仁徳天皇皇子) 373?-453? 母; 磐之媛命、5c前半在位、味檀岡で盟神探湯により諸氏の氏姓を糺す、宋書倭の5王「済」?、日本書紀歌謡詠: 皇后忍坂大中姫の妹の弟姫(衣通姫)に相聞、続古1162、
[允恭天皇の名号] 雄朝津間稚子宿禰尊おあさづまわくこのすくねのみこと
印金堂 (いんきんどう) → 公軌(こうき/きんりのり・打它うだ/うつだ、歌人) E 1 9 9 4
- D1121 **員九** (いんく・児島こじま、名; 胤矩、別号; 青房あおふさ/一川いっせん) ?-? 江中期享保1716-36頃大阪の俳人、俳諧: 来川・才麿門、1716「俳諧通俗志」、21「厚顔記」「員九雑談集」著、1732松島行脚; 「奥の小日記」著
員矩 (いんく・沢田) → 員矩(かずのり・沢田さわだ、地誌家) M 1 5 3 8
- I1148 **尹具** (いんぐ) ? - ? 京の俳人; 1691江水「元禄百人一句」目録入
- D1122 **因空** (いんくう・豪愉) ? - ? 藤家流朗詠;
1265心空より「朗詠要抄」を受け1309普一に伝授
隱家 (いんげ) → 茂睡(茂妥もすい・戸田/渡辺、歌人) 4 4 0 5
- D1123 **員継** (いんけい/かずつぐ?・中江なかえ土佐守) ?-? 近江の武将/連歌、
1516「十花じっか千句」興行願主(: 月村斎宗碩の草庵にて寺井賢仲[宗巧]百箇日追善)
隱溪 (いんけい; 道号・智脱; 法諱) → 智脱(ちだつ; 法諱、臨濟僧) E 2 8 7 1
胤卿 (いんけい・浅野) → 梅堂(ばいどう・浅野、幕臣/和学) B 3 6 9 2
允卿 (いんけい・亀井/檜村) → 惟明(これあき・檜村/亀井、藩士/地誌) O 1 9 0 8
寅卿 (いんけい・百々) → 俊亮(しゅんりょう・百々どど/越智、医者) M 2 1 0 9
因徑 (いんけい) → 巖男(いずお/よしお・広瀬、商家/国学者) F 1 1 7 1
- I1149 **胤憲** (いんけん; 法諱) ? - ? 僧; 法師、連歌作者、菟玖波1句入; 1352、
[山見えぬ浪の上より夜は明けて](菟玖; 1352/前句; 浦の遠きは松の一むら)
- I1150 **尹賢** (いんけん/こねかた; 名・宮野みやの) 1682-175877 羽後秋田郡綴子村の農家(豪農)の生、1707上京/儒者; 15伊藤東涯門、30(享保15)郷里の綴子神社に内館塾を開設; 漢学講義、久保田藩の門人多数、稀観本蔵書(のち内館文庫に所蔵)、美田多数を所有、1739建部綾足が逗留・療養、門人; 武内烈光・同英泉ら、「神道常世草」「春秋胡氏伝序事考」「中庸章句助講」「神宮秘伝問答」「風犬顛犬病記」著、
[尹賢(名)の通称/号]通称; 伊兵衛(代々の称)/与兵衛

号;敏齋/時敏齋/時好齋/浪穂翁ろうすいおう

- I1151 **筠軒**(いんげん・大須賀おおすが、名;履、平藩士神林復所男)1841-1912**72歳** 磐城平藩士、
1859昌平覺修学;安積良齋門/平藩校佑賢堂の頭取、68大須賀家の養子;開塾、乙字の父、
1866「救荒私議」、「筠軒詩稿」「集古一班」著、
[筠軒の字/通称/別号]字;子泰、通称;次郎、号;鷗渚おうしよ
尹賢(いんげん・細川) → 尹賢(ただかた・細川、武将/歌) F 2 6 9 1
因憲(いんげん;法名) → 久時(ひさとき・北条/赤橋/平、幕臣/歌) B 3 7 4 8
- C1104 **院源**(いんげん;法号・西方院僧正、陸奥守平たいら基平男)951-1028**78** 天台宗叡山僧;良源/覚慶門、
法性寺・崇福寺・元慶寺別当、一条院・三条院・道長等出家の戒師/1020天台座主、
歌;新拾遺1515、
[西へ行く月に心のすみぬれば憂き世の中は寝られざりけり](新拾:1515)
- I1152 **印玄**(いんげん;法諱・文妙上人/尊寿院少輔法印、仁和寺主承禪男)1278-1346**69** 京天台仁和寺僧、
仁和寺尊寿院学匠、1301禪助に密灌を受/1303法印、
1329-44「印玄法印記」、「伝受記」「伝用抄」著、「仏像図」画
- C1103 **隠元**(いんげん;道号・隆琦りゅうき;法諱、本名;林りん曾曷そへい、林徳龍男)1592-1673**82** 福州福清横槩僧、
日本横槩宗の祖、明の横槩山万福寺で出家;光雲門/臨濟正宗運動、
1654長崎興福寺逸然の招聘により渡来、將軍家綱より山城宇治の地を受け万福寺開創、
明文化の一大拠点とす、「隠元和尚語録」「隠元禪師語録」、「松隠集」「松隠二集」「雲濤集」著、
「雲濤続集」「普照国師法語」著、
[隠元の諡]大光普照国師/仏慈彦鑑国師/径山首出国師/覚性円明国師/真空大師/華光大四師
- D1124 **因元**(いんげん) ? - ? 加賀の俳人、1668梅盛「細少石」「山下水」入
印元(いんげん;法諱・古先) → 古先(こせん;道号・印元、臨濟僧) M 1 9 9 2
因彦(いんげん・松木) → 因彦(よりひこ・松木まつき、神職/和学) P 4 7 1 1
隠頭府君(いんげんふくん:号) → 幸勝(ゆきかつ・吉見/菅原/源、神道家) E 4 6 4 0
- D1125 **印孝**(いんこう) ? - ?1484**存** 日蓮僧/京本圀寺住、連歌作者;宗祇門?、
1470「河越千句」参加、
1496頃近江野洲郡永原にて永原重泰興行「永原千句ながはらせんく」参加(;宗祇兼載らと)、
[春の空はたゞ佛おもかげの月夜哉](永原千句;第三発句)
- I1153 **蚓候**(いんこう・溝岳散人こうがくさんじん)?-? 江中期江戸の談義本作者/画、吉原住、
1758「無物ものはなし論」著画
- I1154 **胤康**(いんこう;号、俗姓;篠崎)1821-1866**or67獄死46** 武州赤塚村曹洞僧;大隣天休門/
1834日向延岡慈眼寺住/61慈眼寺住持/儒・軍学;勤王討幕を鼓吹:1862捕縛/京で投獄、
「井田大意」「遁甲真機」「帝道民礎」「世代改革論」著、[胤康の別号]彭康/定康
尹香(いんこう・橋爪) → 尹香(これか・橋爪はしづめ、歌人) R 1 9 1 3
因高(いんこう・蘇) → 妹子(いもこ・小野、遣隋使) D 1 1 1 5
印光(いんこう;道号) → 道明(どうみょう;法諱・印光、曹洞僧) S 3 1 5 8
飲光(いんこう・おんこう) → 慈雲(じゆん・飲光おんこう、真言僧) 2 1 0 2
允孝(いんこう・増田) → 岳陽(がくよう・増田、藩士/儒者) H 1 5 4 0
蔭香(いんこう・日野) → 鼎哉(ていさい・日野ひの、医者/種痘) 3 0 8 6
殷興(いんこう・伊藤) → 殷興(たかおき・伊藤いとう、国学者) V 2 6 4 4
殷興(いんこう・小野) → 殷興(たかおき・小野おの、藩士/国学者) V 2 6 9 9
胤綱(いんこう・宮井) → 胤綱(たねつな・宮井みやい、藩士/国学者) Z 2 6 8 0
胤剛(いんこう・新妻) → 双嶽(そうがく・新妻にいつま、医者/詩人) G 2 5 6 3
隠江翁(隠口翁いんこうおう → こもりくのおきな) → 方塾(みちいへ・柳瀬やなせ、商家/歌人) B 4 1 1 8
引考堂(いんこうどう) → 錦江(きんこう・馬場、幕臣/俳諧/和算) D 1 6 9 7
隠孝霊社(いんこうれいしゃ) → 惜我(せきが・中野/平、兵法・神道家) J 2 4 9 8
隠岡老人(いんこうろうじん) → 坡仄(はそく・野間のみ、俳人) E 3 6 7 7
殷根(いんこん・河村) → 殷根(滋根しげね/のぶね・河村、国学者) C 2 1 6 6
引佐(いんさ・大倉) → 飛良(ひりょう・大倉おおくら、俳人) F 3 7 4 4
- I1155 **寅載**(いんさい;法諱・信智しんち;字)1650-1721**72歳** 磐城相馬浄土僧;寛底門、芝増上寺修業;蔵司職、

伊勢梅香寺住職、神仏一致説主唱、「浄土十念章」、1705「面上傍人弁」19「蓮華寺縁起」著

- I1156 **寅齋** (いんさい・山本やまもと敬志/威政)?-? 江中期江戸神田お玉が池の儒者; 観齋門流、1771「哥字尽」著
- I1157 **筠齋** (いんさい・牟田口むだぐち、名; 通清みちきよ、高木英慶男) 1782-1855 74 佐賀藩儒/牟田口通贊の養子、1813藩校弘道館教諭/御側頭/年寄役/54致仕、「筠齋遺稿」、
[筠齋の通称] 藤右衛門
- 允齋 (いんさい・倉田) → 續 (いさお・倉田、儒者) F 1 1 4 7
印齋 (いんさい・佐方) → 之昌 (ゆきまさ・佐方さかた/藤原、歌人/連歌) B 4 6 1 9
印齋 (いんさい・古田) → 重然 (しげなり・古田織部、武将/茶人) 2 1 1 1
印齋 (いんさい・渡辺) → 吉光 (よしみつ・渡辺わたなべ、武将) H 4 7 5 1
印西 ((いんさい)) → 重氏 (しげうじ・吉田/葛巻、弓術家) Q 2 1 6 3
筠齋 (いんさい・皆川) → 淇園 (きえん・皆川みながわ、儒者) 1 6 0 4
筠齋 (いんさい・市原) → 政寛 (まさひろ・市原いちはら、絵師) H 4 0 0 0
因齋 (いんさい・伊勢) → 貞常 (さだつね・伊勢/平、故実家) I 2 0 6 3
因齋 (いんさい・植田) → 玄筋 (げんせつ・植田、儒者/垂加神道) E 1 8 3 1
寅齋 (いんさい・村田) → 全次 (またつぐ・たけつぐ・村田むらた、神道家) T 4 0 1 2
胤材 (いんざい・大蔵) → 胤材 (種材たねき・大蔵おおくら、廷臣/歌人) G 2 6 4 9
- L1102 **寅山** (いんざん・林はやし、) ? - ? 江後期文化(1804-18)頃の絵師; 大坂で活動、
「尾道浦絵おのみちうらえ屏風」画(六曲一双)・絵馬[樊噲はんかい]画(尾道の浄土寺奉納絵馬)
- 印山 (いんざん; 号) → 随慧 (ずいゑ; 法諱、真宗大谷派僧) E 2 3 1 1
隠山 (いんざん) → 素行 (そこう・山鹿やまが、儒/軍学者) 2 5 2 2
隠山 (いんざん) → 一雪 (いつせつ・棕梨、俳人) B 1 1 5 4
隠山 (いんざん; 道号) → 惟琰 (いゑん; 法諱・隠山、臨濟僧) F 1 1 0 8
隠山 (いんざん) → 孝徴 (たかあきら・佐藤さとう、藩の神学師) X 2 6 2 2
隠山 (いんざん・佐野) → 正意 (まさり・佐野さの、藩士/国学者) P 4 0 9 1
陰山 (いんざん) → 日耕 (にっこう; 法諱・恭寿院、日蓮僧) D 3 3 8 8
殷山 (いんざん; 道号) → 旭昌 (あさくしょう; 法諱・殷山、曹洞僧) P 1 6 0 8
蔭山 (いんざん) → 直矩 (なおり・松平、藩主/日記/歌) C 3 2 0 5
隠山翁 (いんざんおう) → 孝徴 (たかあきら・佐藤さとう、藩の神学師) X 2 6 2 2
蔭山入道 (いんざんにゅうどう) → 実阿 (じつあ・沙弥、早歌名手) E 2 1 7 2
- I1158 **胤子** (いんし・藤原ふじわら、宇多天皇女御、高藤[838-900]女)?-? 平安前期歌人、母; 宮道弥益いやす女、醍醐天皇の母、
「寛平御時后宮[中宮]歌合」催?: 光孝皇后班子女王催の寛平御時后宮歌合との重出多い、今昔物語二十二高藤説話入
- I1159 **惜子** (いんし・洞院とういん/本姓; 藤原、玄輝げんき門院、洞院実雄女) 1246-1329 84 後深草天皇の妃、伏見天皇の母、従三位藤蔵子、1288(正応元)准三宮; 院号受、91出家; 尼、女房に; 右京大夫、徒然草33段に新内裏の[櫛形の穴]の指摘の話入
- 因子 (いんし・新勅撰歌人) → 民部卿典侍 (みんぶきょうのすけ・後堀河院) G 4 1 9 1
隠之 (いんし; 道号) → 道顕 (どうけん; 法諱・隠之、曹洞僧) D 3 1 5 6
飲子 (いんし・三津) → 三津飲子 (みついんし・浄瑠璃作者) D 4 1 0 9
允資 (いんし・玉上) → 允資 (ちかすけ・玉上、歌人) B 2 8 0 5
- I1160 **印持** (いんぢ; 法諱、俗姓; 土肥、彫淳男)?-1870 母; 僧鎔女、印定の弟、
越中新川郡奥田中村の真宗本願寺派勝善寺住職、宗学; 柔遠門/1829夏安居副講師、1838司教/43再び夏安居副講師/49勧学、1829「唯識論述記講録」51「浄土文類聚鈔辛亥記」、1860「易行品聞記」、「易行品講録」「文類聚鈔随聞」「大乘法苑義林章耳食」著、
- 尹時 (いんぢ・藤原) → 尹時 (まさとき・藤原、廷臣/歌人) U 4 0 2 6
胤寿 (いんぢゆ・谷田部) → 彦六 (ひろく・谷田部やたべ、彫工) 3 7 7 8
印寿 (いんぢゆ・伊藤) → 宗看 (3世そうかん・伊藤いとう、将棋士) G 2 5 6 8
印寿 (いんぢゆ・大橋) → 宗桂 (9代そうけい・大橋おおはし、将棋士) G 2 5 9 7

- 引袖(いんしゅう・上杉/長沢) → 蘆雪(ろせつ・長沢ながさわ、絵師) C 5 2 0 1
 允執(いんしゅう;道号) → 元中(げんちゅう;法諱・允執、黄檗僧) L 1 8 2 2
 員周(いんしゅう・勝井) → 五八郎(ごはちろう・勝井かつい、藩士/佐幕派) N 1 9 4 8
 胤秀(いんしゅう・千葉) → 胤秀(たねひで・千葉ちば、和算家) G 2 6 4 2
 胤充(いんじゅう・千葉原) → 胤充(たねみつ・千葉原ちばら/萩原、本陣/歌) Y 2 6 2 1
 員従(いんじゅう・萩原) → 員従(かぜより・萩原はざわら/卜部、神道家) V 1 5 3 9
 尹重(いんじゅう・佐枝) → 尹重(これしげ・佐枝/佐岐さえた、兵法家) E 1 9 2 4
 印充(いんじゅう;道号) → 紹要(じょうよう;法諱・印充、臨濟僧) L 2 2 8 3
 因州戸部二千石行時(いんしゅうとべにせんごくのゆきとき、早歌作曲) → 行時(ゆきとき・二階堂) G 4 6 1 7
 I1161 因淑(いんしゅく・服部はっとり、初号;因徹、多助男) 1761-1842⁸² 美濃の農家/江戸で棋士、
 碁:井上因碩門、1819七段/御城碁、門弟立徹(幻庵因碩)を養子、
 1801「温故知新碁録」09「変範」24「置碁自在」著
 胤瞬(いんしゅん・宝蔵院) → 宝蔵院胤瞬(ほうぞういんいんしゅん、法相僧/槍術家) C 3 9 1 8
 尹淳(いんじゅん・羽生) → 尹淳(これあつ・羽生はにゅう、商家/歌人) R 1 9 1 4
 員純(いんじゅん→かずすみ・磯野) → 渙斎(かんさい・磯野いその、藩士/儒者) Q 1 5 5 3
 因順(いんじゅん;字) → 学天(がくてん;法諱・因順、浄土僧) K 1 5 2 6
 筠所(いんしょ・宮地) → 畏山(いざん、宮地みやじ、藩士/武術/詩) F 1 1 5 7
 C1105 印性(いんじょう;法号・大夫僧正/芝僧正、藤原長輔男) 1132-1207⁷⁶ 真言僧;任覚門、
 仁和寺真乗院住、1172権律師/1200法印/06権僧正・東寺一長者、歌;千載543・594、
 [東路あづまちも年も末にや成りぬらん雪降りにけり白河の関](千載;羈旅543/羈中歳暮)
 允昌(允霽いんしやう・野沢) → 凡兆(ぼんちやう・野沢のざわ、医/俳人) 3 9 7 3
 允升(いんしやう・柴野) → 碧海(へきかい・柴野しばの/柴、儒者/詩文) 2 7 8 7
 員昌(いんしやう・尾崎) → 員昌(かづまさ・尾崎、和算家) M 1 5 5 0
 員純(いんじゅん/かずすみ?・磯野) → 渙斎(かんさい・磯野いその、藩士/儒者) Q 1 5 5 3
 尹祥(いんしやう・森) → 尹祥(まさよし・森/源、幕臣/書家) I 4 0 5 8
 尹勝(いんしやう・上坂かみさか) → 尹勝(ただかつ・上坂、著屋めどきや/書肆) P 2 6 3 9
 尹章(いんしやう・吉村) → 光甫(みつとし/みつよし・吉村、国学者/画) E 4 1 0 2
 因章(いんしやう・磯田) → 健斎(けんさい・磯田いそだ、儒者/書) I 1 8 9 3
 因性(いんしやう;法名) → 実基(さねもと・徳大寺/藤原、太政大臣/歌) D 2 0 6 9
 胤昌(いんしやう・牧) → 胤昌(たねまさ・牧まさ、藩士/儒・歌人) Z 2 6 4 8
 胤将(いんしやう・遠藤) → 胤将(たねのぶ・遠藤えんどう、藩主/歌人) G 2 6 3 9
 寅嘯(いんしやう;法諱) → 北巖(ほくがん;道号・寅嘯、曹洞僧) F 3 9 8 7
 J1198 因静(いんじやう;法諱・姓;東渡) 1725-91⁶⁷ 三河吉田の悟真寺36世、漢詩人/歌人、加藤広正の師
 I1162 印定(いんじやう;号;鮮溪、俗姓;土肥、彫淳男/印持の兄) 1777-1851⁷⁵ 母;僧鎔の女、越中真宗僧、
 本願寺派柔遠門/1821学林看護/31勸学/往生論註研究、「改悔文開演」、「選択集聴記」著
 員仍(いんじやう・柏原) → 瓦全(がぜん・柏原、商人/俳人) C 1 5 2 8
 I1163 員信(いんしん) ? - ? 連歌、1558「花千句」参加;宗養・紹巴らと
 因信(いんしん・北原) → 因信(よりのぶ・北原きたはら、名主/歌人) J 4 7 4 1
 因信(いんしん・宮沢) → 因信(よりのぶ・宮沢みやざわ/島地、藩士/国学) P 4 7 4 2
 胤臣(いんしん・津金) → 胤臣(たねおみ・津金つがね、藩士/新田開発) G 2 6 3 5
 胤信(いんしん・堀城) → 胤信(たねのぶ・堀城ほりしろ、文筆家) R 2 6 9 2
 胤親(いんしん・上田) → 胤親(たねちか・上田うえだ、国学/歌人) V 2 6 7 9
 胤親(いんしん・松本) → 胤親(たねちか・松本まつもと、幕臣/洋学者) R 2 6 8 7
 胤親(いんしん・高樋) → 胤親(たねちか・高樋たかひ/平、武家/歌人) U 2 6 4 3
 允信(いんしん・遠藤) → 允信(さねのぶ・遠藤えんどう、藩士/官司) L 2 0 2 1
 飲人(いんじん・生駒) → 信億(のぶのり・生駒いこま、歌人) H 3 5 2 5
 蔭尋(いんじん・上木) → 蔭尋(かげたず・上木うわぎ/源、商家/国学) T 1 5 8 1
 淫水亭開好(いんすいていかいこう) → 種清(たねきよ・柳水亭、戯作;合卷) G 2 6 3 6
 淫水亭玉廼門(いんすいていたまのもの) → 種清(たねきよ・柳水亭、戯作;合卷) G 2 6 3 6
 I1164 因是(いんぜ・葛西かさい/初姓;新山、名;質まこと/字;休文/通称健蔵) 1764-1823⁶⁰ 摂津大阪生/江戸住、

儒者：旭山・述齋門；1792不行跡で離門、老莊研究/1805葛西に改姓、村田春海と親交、
1803「雨夜閑話」22「莊子神解」、「蝦夷風土記」、「漂海始末」、「因是道人詩集」著

- I1165 尹盛(いんせい) ? - ? 室町期歌人；1474道灌「武州江戸歌合」心敬と参加
[うちさやぎ夕だち雲もはや船はおくれてぞ行く沖つ塩かぜ](武州江戸歌合冒頭)
- D1126 員盛(いんせい) ? - ? 連歌、1516員繼興行宗碩庵「十花千句」参加
- I1166 印政(いんせい) ? - ? 室町期連歌；1518宗長「東山千句」参
- I1167 因静(いんせい；法諱・東渡とうと；号、称；獅子吼) 1725-9167 芝増上寺の浄土僧、
1776三河吉田悟眞寺36世、詩文、1759「江島大草子」/60「芳野の道の記」/62「東渡夜話」著、
1764朝鮮使と唱和；「東渡筆談」著
- I1168 允成(いんせい) ? - ? 神職；小比叡社祝はふり、歌人；
1200(正治2)石清水若宮歌合参加；左方、
[風は花はなはわれをや誘ふらむ思はぬけふの志賀の山越](若宮歌合；桜廿六番左51)
- 允正(いんせい・惟宗) → 允正(ただまさ・惟宗/令宗これむね、明法家) F 2 6 8 2
- 允成(いんせい/ただしげ・稲垣/渋江) → 道陸(どうりく・渋江/稲垣、医者) I 3 1 1 9
- 允成(いんせい・満岡) → 白里(はくり・満岡みつおか、儒者/詩文) E 3 6 0 4
- 印西(いんせい) → 重氏(しげうじ・吉田/葛巻、弓術家) Q 2 1 6 3
- 因静(いんせい；法諱) → 因静(いんじょう；法諱・釈、詩人) J 1 1 9 8
- 胤征(いんせい・横川) → 胤征(たねゆき・横川よこかわ、和算家) S 2 6 1 3
- 殷政(いんせい・市岡) → 殷政(しげまさ・市岡いちおか/源/北原、本陣/勤王) N 2 1 3 9
- 胤晴(いんせい・千葉) → 胤晴(たねはる・千葉ちば、天文家) R 2 6 9 6
- 蔭正(いんせい・兼清) → 蔭正(かげまさ・兼清かねきよ、国学者) L 1 5 3 2
- 因誠(いんせい・赤星) → 因徹(いんてつ・赤星、棋士) B 1 1 5 9
- 陰静軒(いんせいけん) → 長主(ながぬし・中田なかた、商家/国学) O 3 2 0 7
- 1179 因碩(3世いんせき・井上いのうえ、旧姓；山崎やまさき、名；千松) 1649-9749歳 石見の生/本因坊道策の弟、
棋士；本因坊道悦門、1673井上家相続/74因碩を襲名、「角口石立」著、
[3世因碩の別号] 別号；道砂/休山、法号；日眞
- B1113 因碩(4世いんせき・井上いのうえ、旧姓；桑原、別号；道節) 1646-171974 美濃大垣生/棋士；本因坊道策門、
井上家相続；本因坊道知の後見/1708名人/11碁所就任、「石配通図精修」編、「竹間問奇」、
「竹敲問奇」、「要津定規」「碁経専要集」編、1706「伝心録」編/13「発陽論」編
- D1156 因碩(11世いんせき・井上いのうえ、旧姓；橋本、服部因淑の養子) 1798-185962 棋士；1824因碩襲名、
博識；兵法に通ず、1819「奕図」44「囲碁終解録」、52「囲碁妙伝」編、
「囲碁専業井上因碩上書」著、
[11世因碩の別号] 因徹/立徹/安節/幻庵
- 因節(いんせつ・井上) → 友碩(ゆうせき・井上いのうえ/高橋、棋士；碁) D 4 6 0 3
- 印雪軒素心子(いんせつけんそんし、俳人) → 春澄(はるすみ・青木) G 3 6 4 7
- D1127 胤仙(いんせん・古市ふるいち) ? - ? 大和の人/連歌、1452?「初瀬千句」連衆；教具催
- 印禅居(いんぜんきよ) → 寸斎(すんさい・曾根そね、藩士/篆刻) H 2 3 2 9
- I1169 因宗(いんそう・保坂ほさか、通称；与市右衛門)?-? 江前期下野都賀郡の測量家；磁石使用、
1687「磁石算根元記」著
- 因宗(いんそう・白木) → 蘭溪(らんけい・白木しらき、藩儒) B 4 8 8 4
- 箕窓(いんそう→うんそう) → 迷庵(めいあん・市野、儒者) 4 3 0 0
- 隠則(いんそく・松本) → 明友(あきとも・松本まつとも/源、藩士/歌) I 1 0 4 8
- I1170 院尊(いんそん；法号、名；公因、字；聖行房)?-? 平安後期1046-65頃叡山天台僧・台密院尊流の祖、
「聖行決」「理護摩口決」著
- I1171 印苔(いんたい) ? - ? 俳人；1698「続猿蓑」入、
[あつき日や扇をかざす手のほそり](続猿蓑；巻下盛夏/手まで夏痩せで細る)
- 因大(いんだい・田中) → 因大(よりひろ・田中たなか/藤原、藩士/歌) N 4 7 6 5
- 院大納言典侍(いんだいなごんのすけ) → 大納言典侍(だいなごんのすけ) B 2 6 9 8
- 院大納言典侍(いんだいなごんのすけ) → 為子(ためこ・藤原/為世女) G 2 6 8 0
- 允沢(いんたく・田中) → 麗山(れいざん・田中たなか/源、漢学者) 5 1 3 0

- 隱宅童土(いんたくりゅうど) → 松軒(しょうけん・伊藤いとう、歌人) R 2 2 3 4
 J1171 尹達(いんたつ・入江いりえ、名;ただたつ?/ただみち?)?-? 江戸後期;歌人、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [山深み雲の上より流れきて岩ねに落つる滝の白糸](大江戸倭歌;雑1687/滝)
 印達(いんたつ;法諱/僧) → 隆達(りゅうたつ;字・高三たかさぶ、商家/隆達節祖) 4 9 1 0
 胤致(いんち・布施ふせ) → 山手白人(やまてのしろひと、布施胤致たねよし、幕臣/国学/狂歌) E 4 5 1 4
 隱竹斎(いんちくさい) → 道瑞(どうずい・有岡、人角、茶人/俳人) F 3 1 8 5
 印癡道人(いんちどうじん) → 縑州(けんしゅう・阿部あべ、篆刻家) J 1 8 5 2
 隱茶老人(いんちやろうじん) → 鯤斎(こんさい・磯辺いそべ、儒者/易/茶) P 1 9 2 0
 允中(いんちゅう・山高/末長/首藤) → 允中(允仲まさなか・首藤すどう、故実) F 4 0 1 1
 允中(いんちゅう/まさなか・谷口) → 滑陽(いよう・谷口たにくち、儒者/詩人) I 1 1 3 5
 允中(いんちゅう/まさなか・中川) → 黄庵(こうあん・中川なががわ、儒者/詩) H 1 9 2 8
 允仲(いんちゅう・祝部) → 允仲(まさなか・祝部はふりべ、神職/歌) F 4 0 0 6
 允仲(いんちゅう/まさなか・土肥) → 霞洲(かしゅう・土肥どひ、儒者) C 1 5 1 0
 員中(いんちゅう・郡山) → 遜志(やすし・郡山こおりやま、藩士/記録) B 4 5 6 0
 尹長(いんちやう/ただなが・垣塚) → 東臯(とうこう・垣塚かきつか、藩士/職制) D 3 1 8 9
 胤忠(いんちゅう・遠藤) → 胤忠(たねただ・遠藤えんどう、藩主/歌人) R 2 6 8 5
 員著(いんちや・西郷) → 員著(かざあき・西郷さいごう、藩士/歌人) U 1 5 7 2
 員直(いんちよく・西山) → 員直(かざなお・西山にしやま、藩士/神職) V 1 5 3 3
 寅直(いんちよく・土屋) → 寅直(とらなお・土屋つちや、藩主) R 3 1 7 7
 C1106 筠庭(いんてい・喜多村きたむら、信節のぶよ/節信ときのみぶ) 1783-1856 74 江戸国学者・博学;民間風俗考証家、
 町年寄、与清・京伝らと交流、随筆作者:1817「瓦礫雑考」39「画証録」43「筠庭雑考」著、
 「萩原随筆」「かなくづ」「聞のまにまに」「筆のまにまに」「文政街談」「物語辨疑」著、
 川柳;30「嬉遊笑覧」著
 [筠庭(;号)の通称/別号]通称;彦助/彦兵衛、別号;筠居/静斎/静舎/静園/北翁
 筠亭(いんてい・林) → 櫛宇(ていう・林、儒官/詩人) 3 0 3 1
 胤定(いんてい・広橋) → 胤定(たねさだ・広橋、廷臣/記録/歌) R 2 6 7 8
 胤貞(いんてい・津金) → 胤貞(たねさだ・津金つがね、藩士/窯業発展) R 2 6 7 9
 胤禎(いんてい/たねさだ・杉野) → 紫山(しざん・加治かじ/杉野、儒者/兵法家) D 2 1 7 8
 B1159 因徹(いんてつ・赤星あかほし因誠) 1810-1835 早世 26 肥後菊池の棋士、江戸で井上11世幻庵因碩門、
 七段、1835老中邸で本因坊丈和と「吐血の一局」に敗れる、間もなく病死、「玄覽」著
 因徹(いんてつ・服部) → 因淑(いんしゆく・服部はつとり、棋士) I 1 1 6 1
 因徹(いんてつ・橋本) → 因碩(11世いんせき・井上、棋士) D 1 1 5 6
 胤統(いんとう・遠藤) → 胤統(たねのり・遠藤えんどう、藩主/幕政参画) U 2 6 3 8
 胤道(いんどう・千葉) → 胤道(たねみち・千葉ちば、和算家) S 2 6 0 9
 筠堂(いんどう・須田) → 肅(しゆく・須田すだ、藩医/歌人) O 2 1 9 8
 E1129 允禿(いんとく) ? - ? 俳人;1730「まごの掌」編;西川祐信画
 E1164 尹督(いんとく・小川、万古庵) ? - ? 江戸俳人・百州門、乾什座尹督側点者、
 1754竹翁「誹諧童の的」点句入
 陰徳(いんとく・板垣) → 宗儻(宗胆そうたん・板垣/中村/源、国学者) C 2 5 4 7
 陰徳尼(いんとくに) → 蓮月(れんげつ;法名、大田垣、歌人) B 5 1 0 4
 胤敦(いんとん・原) → 胤敦(たねあつ・原はら、蝦夷開拓/地誌) Z 2 6 1 1
 D1128 印南(いんなん・犬塚いぬづか、名;遜、純則男) 1750-1813 64 播磨姫路儒者・昌平黌に修学、
 江戸で藩士に講義、1794「昌平志」、「燕窩喃語えんかのうご」「李王園集」「守成外史」著、
 「印南先生焚余遺稿」、
 [印南(;号)の字/通称]字;晁濟/退翁/子雲、通称;唯助
 E1141 因入(いんにゅう・堀部ほりべ) ? - ? 美濃大垣の棋士・4世因碩門、
 1706「伝心録」友碩と共編
 允任(いんにん/まさただ・松浦) → 霞沼(かしょう・松浦まつうら/修姓松、儒者) F 1 5 1 2

- 院一条 (いんのいちじょう) → 一条 (いちじょう・花園院、女房歌人) B 1 1 2 0
- E1158 允能 (いんのう:号、三位) ? - ? 室町後期医者、法眼、称光天皇の病治療、
1431足利義教の疾治療、1431「瑠璃壺」著
- 印納 (いんのう・足立) → 稲直 (いなお・足立あだち、国学/書) D 1 1 1 0
- E1140 院少納言典侍 (いんのしょうなごんのすけ・後深草院)?-? 13ct中期鎌倉期女官;歌人
- 院典侍 (いんのすけ) → 忠家母 (ただいえのはは・藤原、懿子、女房/歌人) E 2 6 8 4
- 院大進 (いんのだいしん) → 郁芳門院大進 (いくほうもんいんのだいしん、女房/歌人)
- 院中納言典侍 (いんのちゅうなごんのすけ) → 中納言典侍 (ちゅうなごんのすけ・伏見院) G 2 8 7 4
- 院中務内侍 (いんのなかつかさのななし) → 中務内侍 (なかつかさのななし・伏見院) E 3 2 3 5
- 院二位局 (いんのいにのつばね) → 朝子 (ちようし・藤原) I 2 8 4 9
- 院兵衛督 (いんのひょうえのかみ、花園院内侍) → 遠子 (えんし・高階、歌人) 1 3 9 6
- 院別当 (いんのべつとう;風雅集) → 別当 (べつとう・花園院はなぞのいん) B 2 7 0 4
- 院別当 (いんのべつとう) → 皇嘉門院別当 (こうかもんいんのべつとう) 1 9 8 9
- 院弁内侍 (いんのべんのななし) → 弁内侍 (べんのななし、後深草院女房) 2 7 0 6
- 院冷泉 (いんのれいぜい) → 冷泉 (れいぜい・花園院典侍、歌人) 5 1 4 5
- 引馬 (いんば・横山) → 隆誨 (たかこと・横山よこやま、藩士/記録) L 2 6 8 6
- 隠幡 (いんぱ) → 素行 (そこう・山鹿やまが、儒/軍学者) 2 5 2 2
- 允白 (いんぱく・松村) → 月溪 (げつけい・松村、絵師/俳人) B 1 8 0 4
- E1149 印否 (いんび・笹井ささい) ? - ? 近江水口の俳人、
1690言水「新撰都曲みよこぶり」2句入、
[名月を問はれて山の高さかな](都曲363/月光を背にした山の高さの印象を答える)
- 員美 (いんび・熊岡) → 員美 (かずよし・熊岡くまおか/竹内、藩士/国学) U 1 5 5 2
- 胤凭 (いんひょう・浪合) → 胤凭 (たねより・浪合なみあい、里正/国学) Y 2 6 7 5
- 院兵衛督 (いんひょうえのかみ、花園院兵衛督) → 遠子 (えんし・高階、歌人) 1 3 9 6
- 殷阜 (いんぷ→たかおか・古屋) → 太郎兵衛 (たろべえ・古屋、商家/読書家) T 2 6 7 5
- 殷富 (いんぷ・古屋) → 魯山 (ろざん・古家ふるや、太郎兵衛男、詩人) B 5 2 6 0
- 允父 (いんぷ・丹羽) → 仙庵 (せんあん・丹羽にわ/浅野、医者) L 2 4 4 9
- 允富 (いんぷ・丹羽) → 太華 (たいか・丹羽にわ、儒者/詩/篆刻) J 2 6 3 7
- 允孚 (いんぷ・田中) → 適所 (てきしよ・田中たなか、医者/儒者) B 3 0 9 7
- 胤富 (いんぷ・平田) → 胤富 (たねとみ・平田ひらた、藩士/随筆) R 2 6 8 6
- 胤富 (いんぷ・遠藤) → 胤富 (たねとみ・遠藤たえんどう/松平、藩主) V 2 6 9 5
- 允武 (いんぷ・小田島) → 允武 (まさたけ・小田島おだじま、書肆/国学) O 4 0 1 2
- 胤風 (いんぷう・宝蔵院) → 宝蔵院胤風 (ほうぞういんいんぷう、法相僧/槍術家) C 3 9 1 9
- 1110 殷富門院 (いんぷもんいん・亮子内親王、後白河天皇皇女) 1147-1216 70 齋院/齋宮、1192落飾
歌人の女房多数;尾張・大輔・新中納言など
- 殷富門院尾張 (いんぷもんいんのおわり) → 尾張 (おわり・殷富門院) B 1 4 9 9
- 殷富門院新中納言 (いんぷもんいんのしんちゅうなごん) → 新中納言 (しんちゅうなごん) 2 2 6 2
- C1109 殷富門院大輔 (いんぷもんいんのだいふ、前齋宮大輔、藤原信成女) 1131-1200前 亮子内親王家女房、
父信成は殷富門院亮子や式子内親王の従兄弟、歌;歌林苑派、1170住吉/72広田/78別雷社参、
1186・95経房歌合参、87「百首歌」、1192殷富門院落飾時出家、多作のため千首大輔の異名、
家集「殷富門院大輔集」、当時小侍従こじじゅうと並ぶ女流歌人、千載下63首、
続詞花集2首入・檜葉集入(1185[元暦2]の大和での歌あり)/雲葉集入、
[見せばやな雄島のあまの袖だにもぬれにぞぬれし色はかはらず](千載886)
[元暦二年五月奈良の人々殷富門院大輔に誘はれて、
同じ人の墓に罷りて卒塔婆建替へけるに 大輔はやがて太子のみ墓さまに詣でけるが、]
かのたかやすの方ながめやりてうちやすむほどに、実叡法師がもとより、
むかしをばこひつつともにかへりきぬたれかはけふをまたしのぶべき(檜葉;928実叡)、
かへし、
げにたれかけふをしのばむむれみつつのべの草葉の露のみにして(檜葉;929大輔)
- G1107 允文 (いんぶん;名・草場/旧姓;柳田、字;季英、草場居敬の養子) 1715-53 39 長門藩士/書家;居敬門、

草場居敬の妹と結婚、1738家督嗣/47大組、赤間・上関で朝鮮通信使と筆談、
1749江戸に赴く、京で客死、「長門戊辰問槎」著、

[允文(；名)の通称/号] 通称；要人/平蔵、号；仲山ちゅうざん

允文(いんぶん・長) → 梅外(ばいがい・長/長谷、詩人/尊攘派) 3 6 8 4
因平(いんぺい・丸山) → 良玄(よしはる・丸山まるやま、和算家) G 4 7 1 0
院平(いんぺい・久保寺) → 正福(まさとみ・久保寺、幕臣/和算家) E 4 0 5 8
胤平(いんぺい) すべて → 胤平(たねひら)
忌部首(いんべのおびと) → 忌部首(いむべのおびと) B 1 1 9 0

E1170 筠圃(いんぼ・宮崎みやざき/修姓；宮、名；淳/奇、古崖こがい男) 1717-7458 尾張烏ヶ地新田の生、
父母と京住/儒；伊藤東涯/蘭嶋門、経学/史学に精通、詩・書画；墨竹を能くす、
「経説」「読画談」「筠圃詩文集」「筠圃備考録」著、「行恭先生集」、
[筠圃(；号)の字/通称/別号] 字；子常/士常、通称；常之進、別号；四課処/尚友堂、
諡号；行恭先生

隠甫(いんぼ・三宅) → 帯刀(たてわき・三宅みやけ、国学者) G 2 6 2 9
胤保(いんぼ) すべて → 胤保(たねやす)
尹房(いんぼう・二条) → 尹房(ただふさ・二条にじょう、関白/日記) F 2 6 7 5
尹房(いんぼう・大半) → 尹房(これふさ・大半おおなか、神職/国学) Q 1 9 5 3
胤房(いんぼう・池尻) → 胤房(たねふさ・池尻いけがみ/いけじり、歌) V 2 6 5 8
允芳(いんぼう；道号) → 慧菊(えぎく；法諱・允芳、臨濟僧) 1 3 5 5
允澎(いんぼう；法諱) → 東洋(とうよう；道号・允澎、臨濟僧/明からの帰途客死) H 3 1 7 0
尹豊(いんぼう・勸修寺) → 尹豊(ただとよ・勸修寺、廷臣/書/歌) Q 2 6 1 8
飲鳳泉(いんぼうせん) → 乗完(のりさだ・松平、藩主/老中/儒) E 3 5 5 5
胤満(いんまん・根本) → 胤満(たねまる・根本/神服/平、国学者) G 2 6 4 8
因明王(いんみょうおう) → 玄昭(げんしょう；法諱、天台僧) J 1 8 9 1

I1186 因民(いんみん) ? - ? 安藝廿日市の蕉門系俳人；
1705支考「三日歌仙」入、1706支考「東山万句」凉兔「潮とろみ」入、
2731里紅(廬元坊)「藤の首途」入/74蝶夢「類題発句集」入

尹明(いんめい・藤原) → 尹明(まさあき・藤原、蔵人/歌) 4 0 8 7
允明(いんめい・味木) → 立軒(りっけん・味木あじき、兵法/儒者) B 4 9 6 9
允明(いんめい・戸崎/崎) → 淡園(たんえん・戸崎/崎/源、家老/漢学) H 2 6 9 4
允明(いんめい・今枝) → 栄濟(えいさい・今枝いまえだ、本草家) C 1 3 7 6
允明(いんめい・土田/平山) → 斐(たすけ・平山/土田、藩士/地誌) P 2 6 0 4
員明(いんめい・富田) → 員明(かずあき・富田とみた、歌人) W 1 5 2 1
胤明(いんめい/たねあき・谷田部/高倉) → 逸斎(いつさい・高倉、藩士/考証) H 1 1 1 5
飲明居士(いんめいこじ) → 保光(やすみつ・柳沢/源、藩主/諸芸) D 4 5 1 6
員輸(いんゆ・檜崎) → 員輸(かずもと・檜崎ならさき、歌人) V 1 5 2 7

D1129 印融(いんゆう；法諱、字；頼乘) 1435-151985 室町期武蔵久保村真言僧；高野山修業、1460賢継門、
武蔵三会寺に檀林設；関東密教再興、詩文・書、「文筆問答鈔」「安養鈔」「口伝鈔」外著多数

尹雄(いんゆう・竹中) → 尹雄(たのお・竹中、藩士/歌人) P 2 6 2 6
尹猷(いんゆう・古山) → 尹猷(ただのり・古山ふるやま、藩士/和漢学) Z 2 6 3 8
陰陽堂(いんようどう/おんみょうどう) → 慶増(けいぞう；法諱、天台僧) G 1 8 3 2
淫乱斎(いんらんさい；隠号) → 可侯(かこう・一筆庵、溪斎英泉、絵師/戯作) 1 5 1 3

E1171 尹里(いんり・岡部おかべ、名；忠成、松雨男) ?-1761 岩代伊達郡藤田の俳人、
1763「時雨集」、「尹里紀行」著、
[尹里(；号)の通称/別号] 通称；治助/次郎兵衛、別号；鼓閑亭

J1199 蔭里(いんり；法諱、名；敬岸) 1837-7842 紀伊田辺の浄行寺10世住職、国学/歌；熊代繁里いげさと門
員利(いんり) → 員利(かずとし、歌人) W 1 5 2 3

J1127 飲龍(いんりゅう・徳田とくだ、名；弘/字；文若) ?-? 駿河の医者、山梨稲川「思旧漫録」記事入、
漢方医；吉益東洞(1702-73)門/詩；安清河門、駿河古医方の祖、長剣を帯び詩を吟ず

尹隆(いんりゅう・勸修寺) → 尹隆(ただか・勸修寺かじゅうじ、廷臣) B 2 6 8 9
 允亮(いんりょう・惟宗・令宗) → 允亮(ただすけ・惟宗これむね/令宗よしむね、明法家) F 2 6 1 6
 寅亮(いんりょう/とらすけ・木下) → 菊潭(きくたん・木下きのした、藩士/儒者) F 1 6 2 1
 寅亮(いんりょう/とらすけ・藤堂) → 光寛(みつひろ・藤堂/多羅尾、家老/詩歌) E 4 1 7 0
 寅亮(いんりょう・富永/田中) → 寅亮(とらすけ・田中たなか、藩士/尊王派) R 3 1 7 6
 蔭涼園(いんりょうえん) → 虚白(きよはく、松堂恵喬、臨濟僧/俳人) D 1 6 5 0

I1172 隠倫(いんりん・山元/山本やまもと)?-? 江戸後期常陸の国学者/考古の学に通ず、
 「尚古年表」編

隠鱗庵(いんりんあん) → 魯玉(ろぎよく・桜井さくらい、俳人) 5 2 7 3
 允礼(いんれい・野上) → 国幹(くにもと・野上のがみ、神職/詩歌) D 1 7 2 5
 蔭路(いんろ・牧) → 蔭路(かげみち・牧まさ、国学/歌) V 1 5 6 8
 胤禄(いんろく・谷口/久田) → 胤禄(たねさち・谷口/久田、故実家) R 2 6 8 0
 胤和(いんわ→たねかず・遠藤) → 胤将(たねのぶ・遠藤えんどう、藩主/歌人) G 2 6 3 9